

筑西市

塔ノ内南遺跡

つば明野北部工業団地(拡張②)造成
整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

上巻

令和4年3月

公益財団法人茨城県開発公社
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第462集

ちく せい
筑 西 市

とう の うち みなみ
塔ノ内南遺跡

つくば明野北部工業団地(拡張②)造成
整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

上 卷

令和4年3月

公益財団法人茨城県開発公社
公益財団法人茨城県教育財団



塔ノ内南遺跡出土遺物

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、公益財団法人茨城県開発公社によるつくば明野北部工業団地（拡張②）造成整備事業に伴って実施した、塔ノ内南遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、古墳時代から奈良時代の堅穴建物跡を100棟以上確認し、さらに、鎌倉・室町時代の方形区画堀の内側から掘立柱建物跡や井戸跡など中世館跡に伴う遺構を確認しました。調査の結果、古墳時代から奈良時代にかけて継続していた集落跡や、鎌倉・室町時代の館跡の一端が明らかになりました。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります公益財団法人茨城県開発公社に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、筑西市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和4年3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 柴原 宏 一

例 言

- 1 本書は、公益財団法人茨城県開発公社の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成31（令和元）年度に発掘調査を実施した、茨城県筑西市内淀字富士山（現 猫島字溜井西原）613番地1ほか^{1）}に所在する塔ノ内南遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成31年4月1日～令和元年10月31日
整理 令和3年4月1日～令和4年3月31日
- 3 発掘調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 櫻井 完介
首席調査員 齋藤 貴雅
調査員 根本 佑 令和元年8月1日～10月31日
調査員 倉橋 裕真 令和元年8月1日～10月31日
調査員 見越 広幸
嘱託調査員 仙波 亨 令和元年8月1日～10月31日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長小林和彦のもと、以下の者が担当した。
首席調査員 齋藤 貴雅
調査員 根本 佑
嘱託調査員 野田 良直 令和3年4月1日～5月31日
- 5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。
首席調査員 齋藤 貴雅 第1章、第3章第1節、3節4(1)～5(5)、第4節
調査員 根本 佑 第2章、第3章第2・3節2(1)～3(3)、6、第4節
嘱託調査員 野田 良直 第3章第3節1(1)・(2)
- 6 塔ノ内南遺跡の第2・5・35・67・102号竪穴建物跡、第27・37号土坑から出土した鉄製品7点の保存処理については、埋蔵文化財の保存処理いしかわに委託した。また、本書の作成にあたり、古墳時代の遺物については、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター調査課長津野仁氏にご指導いただいた。
- 7 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 31,480 \text{ m}$ 、 $Y = + 18,040 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1a1) とした。なお、この原点は、世界測地系 (測地成果 2011) による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…j、西から東へ 1、2、3、…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1 区」のように呼称した。

- 2 実測図、遺構・遺物一覧等で使用した記号は次のとおりである。

遺 構 HT - 方形竪穴遺構 P - ビット PG - ビット群 SA - 柱穴 SB - 掘立柱建物跡
SD - 堀跡・溝跡 SE - 井戸跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑

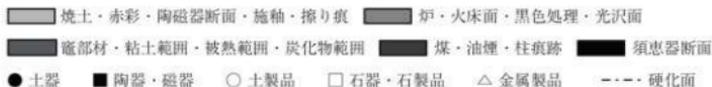
土層解説 ローム・ロームブロック 粘土・粘土ブロック 粘・粘性 締・締まり K - 攪乱
含有量 A - 多量 B - 中量 C - 少量 D - 微量 ○' - 極めて
粘性・締まり A - 強い B - 普通 C - 弱い ○' - 極めて
サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 300 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



焼土・赤彩・陶磁器断面・施軸・捺り痕 炉・火床面・黒色処理・光沢面
竪部材・粘土範囲・被熱範囲・炭化物範囲 煤・油煙・柱痕跡 須恵器断面
● 土器 ■ 陶器・磁器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 - - - 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸 (径) 方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した (例 N - 10° - E)。

- 7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは目次の後に表で示した。

目 次

-上 卷-

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
塔ノ内南遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の概要	10
第2節 基本層序	10
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
(1) 堅穴建物跡	11
(2) 土 坑	15
2 古墳時代の遺構と遺物	23
(1) 堅穴建物跡	23
(2) 掘立柱建物跡	235
(3) 土 坑	240
(4) 井戸跡	269
3 奈良時代の遺構と遺物	294
(1) 堅穴建物跡	294
(2) 土 坑	313
(3) 井戸跡	313

-下 卷-

4 鎌倉・室町時代の遺構と遺物	315
(1) 掘立柱建物跡	315
(2) 方形堅穴遺構	326
(3) 井戸跡	329
(4) 堀跡・溝跡	350
(5) 柱穴列	371
(6) 火葬施設	377
(7) ビット群	382
5 時期不明の遺構と遺物	391
(1) 堅穴建物跡	391
(2) 円形周溝状遺構	406
(3) 土 坑	407
(4) 溝 跡	476
(5) ビット群	476
6 遺構外出土遺物	481
第4節 総 括	486
写真図版	PL 1 ~ PL106
抄 録	
付 図	

插图目次

第1图	塔ノ内南道路周辺遺跡分布図	7	第63图	第19号竖穴建物跡出土遺物実測図1)	65
第2图	塔ノ内南道路調査区設定図	9	第64图	第19号竖穴建物跡出土遺物実測図2)	66
第3图	基本土層図	11	第65图	第20号竖穴建物跡実測図	67
第4图	第110号竖穴建物跡実測図	12	第66图	第20号竖穴建物跡出土遺物実測図	68
第5图	第110号竖穴建物跡出土遺物実測図1)	13	第67图	第21号竖穴建物跡実測図1)	69
第6图	第110号竖穴建物跡出土遺物実測図2)	14	第68图	第21号竖穴建物跡実測図2)	70
第7图	第28号土坑・出土遺物実測図	15	第69图	第21号竖穴建物跡出土遺物実測図1)	70
第8图	第139号土坑実測図	15	第70图	第21号竖穴建物跡出土遺物実測図2)	71
第9图	第139号土坑出土遺物実測図	16	第71图	第22号竖穴建物跡実測図	72
第10图	第163号土坑実測図	17	第72图	第22号竖穴建物跡出土遺物実測図	73
第11图	第163号土坑出土遺物実測図	17	第73图	第23号竖穴建物跡実測図	74
第12图	第180号土坑実測図	17	第74图	第23号竖穴建物跡出土遺物実測図	75
第13图	第180号土坑出土遺物実測図	18	第75图	第24号竖穴建物跡実測図	76
第14图	第183号土坑・出土遺物実測図	18	第76图	第24号竖穴建物跡出土遺物実測図	77
第15图	第251号土坑実測図	19	第77图	第25号竖穴建物跡・出土遺物実測図	78
第16图	第251号土坑出土遺物実測図	19	第78图	第25号竖穴建物跡出土遺物実測図	79
第17图	第512号土坑・出土遺物実測図	20	第79图	第27号竖穴建物跡・出土遺物実測図	80
第18图	第513号土坑・出土遺物実測図	20	第80图	第27号竖穴建物跡出土遺物実測図	81
第19图	その他の縄文時代土坑実測図1)	21	第81图	第28号竖穴建物跡・出土遺物実測図	82
第20图	その他の縄文時代土坑実測図2)	22	第82图	第29号竖穴建物跡実測図	83
第21图	第1A号竖穴建物跡実測図	23	第83图	第30号竖穴建物跡実測図	84
第22图	第1A号竖穴建物跡・出土遺物実測図	24	第84图	第30号竖穴建物跡出土遺物実測図	85
第23图	第1A号竖穴建物跡出土遺物実測図	25	第85图	第32号竖穴建物跡実測図	85
第24图	第1B号竖穴建物跡実測図	26	第86图	第33号竖穴建物跡・出土遺物実測図	87
第25图	第1B号竖穴建物跡・出土遺物実測図	27	第87图	第34号竖穴建物跡実測図	89
第26图	第2号竖穴建物跡実測図	28	第88图	第34号竖穴建物跡出土遺物実測図	90
第27图	第2号竖穴建物跡・出土遺物実測図	29	第89图	第35号竖穴建物跡実測図	91
第28图	第2号竖穴建物跡出土遺物実測図	30	第90图	第35号竖穴建物跡・出土遺物実測図	92
第29图	第3号竖穴建物跡実測図	31	第91图	第37号竖穴建物跡実測図	94
第30图	第3号竖穴建物跡出土遺物実測図	32	第92图	第37号竖穴建物跡出土遺物実測図	95
第31图	第4号竖穴建物跡実測図	33	第93图	第38号竖穴建物跡実測図	96
第32图	第4号竖穴建物跡出土遺物実測図	34	第94图	第38号竖穴建物跡出土遺物実測図	97
第33图	第5号竖穴建物跡実測図	35	第95图	第39号竖穴建物跡・出土遺物実測図	98
第34图	第5号竖穴建物跡出土遺物実測図	36	第96图	第40号竖穴建物跡実測図	99
第35图	第6号竖穴建物跡実測図	36	第97图	第40号竖穴建物跡出土遺物実測図1)	100
第36图	第6号竖穴建物跡出土遺物実測図1)	37	第98图	第40号竖穴建物跡出土遺物実測図2)	101
第37图	第6号竖穴建物跡出土遺物実測図2)	38	第99图	第45号竖穴建物跡実測図	102
第38图	第7号竖穴建物跡実測図	39	第100图	第45号竖穴建物跡出土遺物実測図1)	103
第39图	第7号竖穴建物跡出土遺物実測図	40	第101图	第45号竖穴建物跡出土遺物実測図2)	104
第40图	第8号竖穴建物跡実測図	41	第102图	第47号竖穴建物跡実測図	105
第41图	第8号竖穴建物跡出土遺物実測図	42	第103图	第47号竖穴建物跡出土遺物実測図	106
第42图	第9号竖穴建物跡実測図	44	第104图	第48号竖穴建物跡実測図	107
第43图	第9号竖穴建物跡出土遺物実測図	45	第105图	第48号竖穴建物跡出土遺物実測図	108
第44图	第10号竖穴建物跡実測図	46	第106图	第49号竖穴建物跡実測図	109
第45图	第10号竖穴建物跡出土遺物実測図1)	47	第107图	第49号竖穴建物跡・出土遺物実測図	110
第46图	第10号竖穴建物跡出土遺物実測図2)	48	第108图	第50号竖穴建物跡・出土遺物実測図	111
第47图	第11号竖穴建物跡実測図	50	第109图	第51号竖穴建物跡実測図	112
第48图	第11号竖穴建物跡・出土遺物実測図	51	第110图	第51号竖穴建物跡出土遺物実測図	113
第49图	第11号竖穴建物跡出土遺物実測図	52	第111图	第52号竖穴建物跡・出土遺物実測図	114
第50图	第12号竖穴建物跡・出土遺物実測図	53	第112图	第53号竖穴建物跡実測図	115
第51图	第13号竖穴建物跡実測図	54	第113图	第53号竖穴建物跡出土遺物実測図	116
第52图	第13号竖穴建物跡出土遺物実測図1)	55	第114图	第54号竖穴建物跡実測図	117
第53图	第13号竖穴建物跡出土遺物実測図2)	56	第115图	第54号竖穴建物跡出土遺物実測図	118
第54图	第14号竖穴建物跡実測図	57	第116图	第55号竖穴建物跡・出土遺物実測図	119
第55图	第14号竖穴建物跡出土遺物実測図	58	第117图	第56号竖穴建物跡実測図	120
第56图	第16号竖穴建物跡実測図	58	第118图	第56号竖穴建物跡出土遺物実測図	121
第57图	第16号竖穴建物跡出土遺物実測図	59	第119图	第57号竖穴建物跡実測図	122
第58图	第17号竖穴建物跡実測図	60	第120图	第57号竖穴建物跡出土遺物実測図	123
第59图	第17号竖穴建物跡出土遺物実測図	61	第121图	第58号竖穴建物跡・出土遺物実測図	124
第60图	第18号竖穴建物跡・出土遺物実測図	62	第122图	第58号竖穴建物跡出土遺物実測図	125
第61图	第18号竖穴建物跡出土遺物実測図	63	第123图	第59号竖穴建物跡・出土遺物実測図	126
第62图	第19号竖穴建物跡実測図	64	第124图	第60号竖穴建物跡・出土遺物実測図	127

第 125 图	第 62 号竖穴建物跡実測図	128	第 190 图	第 100 号竖穴建物跡出土遺物実測図	197
第 126 图	第 62 号竖穴建物跡出土遺物実測図	129	第 191 图	第 101 号竖穴建物跡実測図	198
第 127 图	第 63 号竖穴建物跡実測図	129	第 192 图	第 101 号竖穴建物跡出土遺物実測図	199
第 128 图	第 63 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	130	第 193 图	第 102 号竖穴建物跡実測図	200
第 129 图	第 64 号竖穴建物跡実測図	131	第 194 图	第 102 号竖穴建物跡出土遺物実測図	201
第 130 图	第 65 号竖穴建物跡実測図	132	第 195 图	第 107 号竖穴建物跡実測図	202
第 131 图	第 66 号竖穴建物跡実測図	133	第 196 图	第 107 号竖穴建物跡出土遺物実測図	203
第 132 图	第 66 号竖穴建物跡出土遺物実測図	134	第 197 图	第 109 号竖穴建物跡実測図	204
第 133 图	第 67 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	135	第 198 图	第 109 号竖穴建物跡出土遺物実測図 1)	205
第 134 图	第 67 号竖穴建物跡出土遺物実測図	136	第 199 图	第 109 号竖穴建物跡出土遺物実測図 2)	206
第 135 图	第 68 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	137	第 200 图	第 111 号竖穴建物跡実測図	208
第 136 图	第 69 号竖穴建物跡実測図	138	第 201 图	第 111 号竖穴建物跡出土遺物実測図	209
第 137 图	第 69 号竖穴建物跡出土遺物実測図 1)	139	第 202 图	第 113 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	210
第 138 图	第 69 号竖穴建物跡出土遺物実測図 2)	140	第 203 图	第 114 号竖穴建物跡実測図	211
第 139 图	第 70 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	142	第 204 图	第 114 号竖穴建物跡出土遺物実測図 1)	212
第 140 图	第 70 号竖穴建物跡出土遺物実測図	143	第 205 图	第 114 号竖穴建物跡出土遺物実測図 2)	213
第 141 图	第 71 号竖穴建物跡実測図	145	第 206 图	第 115 号竖穴建物跡実測図	214
第 142 图	第 71 号竖穴建物跡出土遺物実測図	146	第 207 图	第 115 号竖穴建物跡出土遺物実測図 1)	215
第 143 图	第 72 号竖穴建物跡実測図	146	第 208 图	第 115 号竖穴建物跡出土遺物実測図 2)	216
第 144 图	第 72 号竖穴建物跡掘方、出土遺物実測図	147	第 209 图	第 115 号竖穴建物跡出土遺物実測図 3)	217
第 145 图	第 73 号竖穴建物跡実測図	148	第 210 图	第 116 号竖穴建物跡実測図	218
第 146 图	第 73 号竖穴建物跡出土遺物実測図	149	第 211 图	第 116 号竖穴建物跡出土遺物実測図	219
第 147 图	第 74 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	150	第 212 图	第 118 号竖穴建物跡、掘方実測図	220
第 148 图	第 75 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	151	第 213 图	第 119 号竖穴建物跡実測図	221
第 149 图	第 77 号竖穴建物跡実測図	152	第 214 图	第 119 号竖穴建物跡出土遺物実測図 1)	222
第 150 图	第 77 号竖穴建物跡出土遺物実測図	153	第 215 图	第 119 号竖穴建物跡出土遺物実測図 2)	223
第 151 图	第 78 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	154	第 216 图	第 121 号竖穴建物跡実測図	224
第 152 图	第 78 号竖穴建物跡出土遺物実測図	155	第 217 图	第 122 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	225
第 153 图	第 79 号竖穴建物跡実測図	156	第 218 图	第 131 号竖穴建物跡実測図	226
第 154 图	第 80 号竖穴建物跡実測図	157	第 219 图	第 131 号竖穴建物跡出土遺物実測図	227
第 155 图	第 80 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	158	第 220 图	第 132 号竖穴建物跡実測図	228
第 156 图	第 80 号竖穴建物跡出土遺物実測図	159	第 221 图	第 132 号竖穴建物跡出土遺物実測図	229
第 157 图	第 81 号竖穴建物跡実測図	160	第 222 图	第 133 号竖穴建物跡実測図	230
第 158 图	第 81 号竖穴建物跡出土遺物実測図	161	第 223 图	第 133 号竖穴建物跡出土遺物実測図	231
第 159 图	第 82 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	162	第 224 图	第 134 号竖穴建物跡実測図	231
第 160 图	第 84 号竖穴建物跡実測図	163	第 225 图	第 1 号掘立柱建物跡実測図	235
第 161 图	第 84 号竖穴建物跡出土遺物実測図	164	第 226 图	第 1 号掘立柱建物跡出土遺物実測図	236
第 162 图	第 85 号竖穴建物跡実測図	165	第 227 图	第 2 号掘立柱建物跡実測図	236
第 163 图	第 85 号竖穴建物跡出土遺物実測図 1)	166	第 228 图	第 2 号掘立柱建物跡、出土遺物実測図	237
第 164 图	第 85 号竖穴建物跡出土遺物実測図 2)	167	第 229 图	第 7 号掘立柱建物跡実測図	238
第 165 图	第 86 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	169	第 230 图	第 7 号掘立柱建物跡、出土遺物実測図	239
第 166 图	第 86 号竖穴建物跡出土遺物実測図	170	第 231 图	第 1 号土坑、出土遺物実測図	240
第 167 图	第 87 号竖穴建物跡実測図	171	第 232 图	第 6 号土坑、出土遺物実測図	241
第 168 图	第 87 号竖穴建物跡出土遺物実測図	172	第 233 图	第 38 号土坑、出土遺物実測図	241
第 169 图	第 88 号竖穴建物跡実測図	173	第 234 图	第 44 号土坑、出土遺物実測図	242
第 170 图	第 90 号竖穴建物跡実測図	175	第 235 图	第 110 号土坑、出土遺物実測図	243
第 171 图	第 90 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	176	第 236 图	第 115 号土坑実測図	244
第 172 图	第 90 号竖穴建物跡出土遺物実測図 1)	177	第 237 图	第 115 号土坑出土遺物実測図	245
第 173 图	第 90 号竖穴建物跡出土遺物実測図 2)	178	第 238 图	第 134 号土坑、出土遺物実測図	246
第 174 图	第 91 号竖穴建物跡実測図	180	第 239 图	第 153 号土坑、出土遺物実測図	247
第 175 图	第 91 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	181	第 240 图	第 157 号土坑、出土遺物実測図	248
第 176 图	第 93 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	182	第 241 图	第 161 号土坑、出土遺物実測図	249
第 177 图	第 94 号竖穴建物跡実測図	183	第 242 图	第 162 号土坑、出土遺物実測図	249
第 178 图	第 94 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	184	第 243 图	第 167 号土坑、出土遺物実測図	250
第 179 图	第 95 号竖穴建物跡実測図	185	第 244 图	第 175 号土坑、出土遺物実測図	251
第 180 图	第 95 号竖穴建物跡出土遺物実測図	186	第 245 图	第 209 号土坑、出土遺物実測図	252
第 181 图	第 96 号竖穴建物跡実測図	188	第 246 图	第 214 号土坑実測図	252
第 182 图	第 96 号竖穴建物跡出土遺物実測図 1)	189	第 247 图	第 219 号土坑、出土遺物実測図	253
第 183 图	第 96 号竖穴建物跡出土遺物実測図 2)	190	第 248 图	第 230 号土坑、出土遺物実測図	254
第 184 图	第 96 号竖穴建物跡出土遺物実測図 3)	191	第 249 图	第 223 号土坑、出土遺物実測図	254
第 185 图	第 97 号竖穴建物跡、出土遺物実測図	193	第 250 图	第 282 号土坑、出土遺物実測図	255
第 186 图	第 98 号竖穴建物跡実測図 1)	194	第 251 图	第 285 号土坑、出土遺物実測図	256
第 187 图	第 98 号竖穴建物跡実測図 2)	195	第 252 图	第 350 号土坑、出土遺物実測図	256
第 188 图	第 98 号竖穴建物跡出土遺物実測図	195	第 253 图	第 350 号土坑出土遺物実測図	257
第 189 图	第 100 号竖穴建物跡実測図	196	第 254 图	第 365 号土坑、出土遺物実測図	258

第255図	第444号土坑・出土遺物実測図	258
第256図	第475号土坑・出土遺物実測図	259
第257図	第477号土坑・出土遺物実測図	259
第258図	第483号土坑・出土遺物実測図	260
第259図	第487号土坑・出土遺物実測図	261
第260図	第489号土坑・出土遺物実測図	261
第261図	第516・517・518号土坑実測図	262
第262図	第516号土坑出土遺物実測図	262
第263図	第519号土坑・出土遺物実測図	264
第264図	第520号土坑・出土遺物実測図	265
第265図	第521号土坑・出土遺物実測図	266
第266図	第521号土坑出土遺物実測図	267
第267図	第35号井戸跡実測図	269
第268図	第35号井戸跡出土遺物実測図(1)	270
第269図	第35号井戸跡出土遺物実測図(2)	271
第270図	第36号井戸跡・出土遺物実測図	272
第271図	第36号井戸跡出土遺物実測図	273
第272図	第37号井戸跡・出土遺物実測図	274
第273図	第38号井戸跡実測図	275
第274図	第39号井戸跡・出土遺物実測図	275
第275図	第40号井戸跡実測図	276
第276図	第40号井戸跡出土遺物実測図	277
第277図	第41号井戸跡実測図	278
第278図	第41号井戸跡出土遺物実測図	279
第279図	第42号井戸跡・出土遺物実測図	280
第280図	第42号井戸跡出土遺物実測図	281
第281図	第43号井戸跡・出土遺物実測図	282
第282図	第44号井戸跡実測図	283
第283図	第44号井戸跡出土遺物実測図	284
第284図	第45号井戸跡実測図	285

第285図	第45号井戸跡出土遺物実測図	286
第286図	第46号井戸跡・出土遺物実測図	287
第287図	第46号井戸跡出土遺物実測図	288
第288図	第47号井戸跡実測図	289
第289図	第48号井戸跡実測図	289
第290図	第49号井戸跡実測図	290
第291図	第49号井戸跡出土遺物実測図	291
第292図	第50号井戸跡実測図	291
第293図	第50号井戸跡出土遺物実測図	292
第294図	第51号井戸跡・出土遺物実測図	293
第295図	第15A号竪穴建物跡実測図	294
第296図	第15A号竪穴建物跡出土遺物実測図	295
第297図	第15B号竪穴建物跡実測図	296
第298図	第26号竪穴建物跡実測図	297
第299図	第26号竪穴建物跡出土遺物実測図	298
第300図	第31号竪穴建物跡実測図	299
第301図	第31号竪穴建物跡出土遺物実測図	300
第302図	第36号竪穴建物跡実測図	301
第303図	第36号竪穴建物跡出土遺物実測図	302
第304図	第46号竪穴建物跡実測図	303
第305図	第46号竪穴建物跡出土遺物実測図	304
第306図	第61号竪穴建物跡実測図	305
第307図	第61号竪穴建物跡出土遺物実測図	306
第308図	第112号竪穴建物跡実測図	307
第309図	第112号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	308
第310図	第112号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)	309
第311図	第128号竪穴建物跡実測図	311
第312図	第128号竪穴建物跡出土遺物実測図	312
第313図	第501号土坑・出土遺物実測図	313
第314図	第52号井戸跡・出土遺物実測図	314

挿表目次

第1表	塔ノ内南道跡周辺道跡一覧	8
第2表	第110号ピット一覧(深さ)	11
第3表	第110号竪穴建物跡出土遺物一覧(第5・6図)	14
第4表	第28号土坑出土遺物一覧(第7図)	15
第5表	第139号土坑出土遺物一覧(第9図)	16
第6表	第163号土坑出土遺物一覧(第11図)	17
第7表	第180号土坑出土遺物一覧(第13図)	18
第8表	第183号土坑出土遺物一覧(第14図)	18
第9表	第251号土坑出土遺物一覧(第16図)	19
第10表	第512号土坑出土遺物一覧(第17図)	20
第11表	第513号土坑出土遺物一覧(第18図)	21
第12表	縄文時代土坑一覧	22
第13表	第1A号竪穴建物跡出土遺物一覧(第22・23図)	25
第14表	第1B号竪穴建物跡出土遺物一覧(第25図)	27
第15表	第2号竪穴建物跡出土遺物一覧(第27・28図)	30
第16表	第3号竪穴建物跡出土遺物一覧(第30図)	32
第17表	第4号竪穴建物跡出土遺物一覧(第32図)	34
第18表	第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(第34図)	36
第19表	第6号竪穴建物跡出土遺物一覧(第36・37図)	38
第20表	第7号竪穴建物跡出土遺物一覧(第39図)	40
第21表	第8号竪穴建物跡出土遺物一覧(第41図)	42
第22表	第9号竪穴建物跡出土遺物一覧(第43図)	46
第23表	第10号竪穴建物跡出土遺物一覧(第45・46図)	49

第24表	第11号竪穴建物跡出土遺物一覧(第48・49図)	52
第25表	第12号竪穴建物跡出土遺物一覧(第50図)	53
第26表	第13号竪穴建物跡出土遺物一覧(第52・53図)	56
第27表	第14号竪穴建物跡出土遺物一覧(第55図)	58
第28表	第16号竪穴建物跡出土遺物一覧(第57図)	59
第29表	第17号竪穴建物跡出土遺物一覧(第59図)	61
第30表	第18号竪穴建物跡出土遺物一覧(第60・61図)	63
第31表	第19号竪穴建物跡出土遺物一覧(第63・64図)	66
第32表	第20号竪穴建物跡出土遺物一覧(第66図)	68
第33表	第21号竪穴建物跡出土遺物一覧(第69・70図)	71
第34表	第22号竪穴建物跡出土遺物一覧(第72図)	73
第35表	第23号竪穴建物跡出土遺物一覧(第74図)	76
第36表	第24号竪穴建物跡出土遺物一覧(第76図)	77
第37表	第25号竪穴建物跡出土遺物一覧(第77・78図)	79
第38表	第27号竪穴建物跡出土遺物一覧(第79・80図)	81
第39表	第28号竪穴建物跡出土遺物一覧(第81図)	82
第40表	第30号竪穴建物跡出土遺物一覧(第84図)	85
第41表	第33号竪穴建物跡出土遺物一覧(第86図)	88
第42表	第34号竪穴建物跡出土遺物一覧(第88図)	90
第43表	第35号竪穴建物跡出土遺物一覧(第90図)	93
第44表	第37号竪穴建物跡出土遺物一覧(第92図)	95
第45表	第38号竪穴建物跡出土遺物一覧(第94図)	97

第46表	第39号竖穴建物跡出土遺物一覽(第95図)···99	第95表	第107号竖穴建物跡出土遺物一覽(第196図)···203
第47表	第40号竖穴建物跡出土遺物一覽(第97·98図)···101	第96表	第109号竖穴建物跡出土遺物一覽(第198-199図)···207
第48表	第45号竖穴建物跡出土遺物一覽(第100·101図)···104	第97表	第111号竖穴建物跡出土遺物一覽(第201図)···209
第49表	第47号竖穴建物跡出土遺物一覽(第103図)···106	第98表	第113号竖穴建物跡出土遺物一覽(第202図)···210
第50表	第48号竖穴建物跡出土遺物一覽(第105図)···108	第99表	第114号竖穴建物跡出土遺物一覽(第204-205図)···213
第51表	第49号竖穴建物跡出土遺物一覽(第107図)···110	第100表	第115号竖穴建物跡出土遺物一覽(第207-209図)···217
第52表	第50号竖穴建物跡出土遺物一覽(第108図)···111	第101表	第116号竖穴建物跡出土遺物一覽(第211図)···219
第53表	第51号竖穴建物跡出土遺物一覽(第110図)···113	第102表	第119号竖穴建物跡出土遺物一覽(第214-215図)···223
第54表	第52号竖穴建物跡出土遺物一覽(第111図)···115	第103表	第122号竖穴建物跡出土遺物一覽(第217図)···225
第55表	第53号竖穴建物跡出土遺物一覽(第113図)···117	第104表	第131号竖穴建物跡出土遺物一覽(第219図)···227
第56表	第54号竖穴建物跡出土遺物一覽(第115図)···118	第105表	第132号竖穴建物跡出土遺物一覽(第221図)···229
第57表	第55号竖穴建物跡出土遺物一覽(第116図)···120	第106表	第133号竖穴建物跡出土遺物一覽(第223図)···231
第58表	第56号竖穴建物跡出土遺物一覽(第118図)···122	第107表	古墳時代竖穴建物跡一覽···232
第59表	第57号竖穴建物跡出土遺物一覽(第120図)···123	第108表	第1号掘立柱建物跡出土遺物一覽(第226図)···236
第60表	第58号竖穴建物跡出土遺物一覽(第121·122図)···125	第109表	第2号掘立柱建物跡出土遺物一覽(第228図)···237
第61表	第59号竖穴建物跡出土遺物一覽(第123図)···126	第110表	第7号掘立柱建物跡出土遺物一覽(第230図)···240
第62表	第60号竖穴建物跡出土遺物一覽(第124図)···128	第111表	古墳時代掘立柱建物跡一覽···240
第63表	第62号竖穴建物跡出土遺物一覽(第126図)···129	第112表	第1号土坑出土遺物一覽(第231図)···240
第64表	第63号竖穴建物跡出土遺物一覽(第128図)···131	第113表	第6号土坑出土遺物一覽(第232図)···241
第65表	第66号竖穴建物跡出土遺物一覽(第132図)···134	第114表	第38号土坑出土遺物一覽(第233図)···242
第66表	第67号竖穴建物跡出土遺物一覽(第133·134図)···136	第115表	第44号土坑出土遺物一覽(第234図)···242
第67表	第68号竖穴建物跡出土遺物一覽(第135図)···137	第116表	第110号土坑出土遺物一覽(第235図)···243
第68表	第69号竖穴建物跡出土遺物一覽(第137·138図)···141	第117表	第115号土坑出土遺物一覽(第237図)···246
第69表	第70号竖穴建物跡出土遺物一覽(第139·140図)···144	第118表	第134号土坑出土遺物一覽(第238図)···246
第70表	第71号竖穴建物跡出土遺物一覽(第142図)···146	第119表	第153号土坑出土遺物一覽(第239図)···247
第71表	第72号竖穴建物跡出土遺物一覽(第144図)···148	第120表	第157号土坑出土遺物一覽(第240図)···248
第72表	第73号竖穴建物跡出土遺物一覽(第146図)···149	第121表	第161号土坑出土遺物一覽(第241図)···249
第73表	第74号竖穴建物跡出土遺物一覽(第147図)···151	第122表	第162号土坑出土遺物一覽(第242図)···250
第74表	第75号竖穴建物跡出土遺物一覽(第148図)···152	第123表	第167号土坑出土遺物一覽(第243図)···251
第75表	第77号竖穴建物跡出土遺物一覽(第150図)···153	第124表	第175号土坑出土遺物一覽(第244図)···251
第76表	第78号竖穴建物跡出土遺物一覽(第151·152図)···155	第125表	第209号土坑出土遺物一覽(第245図)···252
第77表	第80号竖穴建物跡出土遺物一覽(第155·156図)···159	第126表	第219号土坑出土遺物一覽(第247図)···253
第78表	第81号竖穴建物跡出土遺物一覽(第158図)···161	第127表	第220号土坑出土遺物一覽(第248図)···254
第79表	第82号竖穴建物跡出土遺物一覽(第159図)···162	第128表	第223号土坑出土遺物一覽(第249図)···255
第80表	第84号竖穴建物跡出土遺物一覽(第161図)···164	第129表	第282号土坑出土遺物一覽(第250図)···255
第81表	第85号竖穴建物跡出土遺物一覽(第163·164図)···167	第130表	第285号土坑出土遺物一覽(第251図)···256
第82表	第86号竖穴建物跡出土遺物一覽(第165·166図)···170	第131表	第350号土坑出土遺物一覽(第252·253図)···257
第83表	第87号竖穴建物跡出土遺物一覽(第168図)···172	第132表	第365号土坑出土遺物一覽(第254図)···258
第84表	第90号竖穴建物跡出土遺物一覽(第171-173図)···178	第133表	第444号土坑出土遺物一覽(第255図)···258
第85表	第91号竖穴建物跡出土遺物一覽(第175図)···182	第134表	第475号土坑出土遺物一覽(第256図)···259
第86表	第93号竖穴建物跡出土遺物一覽(第176図)···183	第135表	第477号土坑出土遺物一覽(第257図)···260
第87表	第94号竖穴建物跡出土遺物一覽(第178図)···184	第136表	第483号土坑出土遺物一覽(第258図)···260
第88表	第95号竖穴建物跡出土遺物一覽(第180図)···186	第137表	第487号土坑出土遺物一覽(第259図)···261
第89表	第96号竖穴建物跡出土遺物一覽(第182-184図)···192	第138表	第489号土坑出土遺物一覽(第260図)···262
第90表	第97号竖穴建物跡出土遺物一覽(第185図)···194	第139表	第516号土坑出土遺物一覽(第262図)···263
第91表	第98号竖穴建物跡出土遺物一覽(第188図)···196	第140表	第519号土坑出土遺物一覽(第263図)···264
第92表	第100号竖穴建物跡出土遺物一覽(第190図)···197	第141表	第520号土坑出土遺物一覽(第264図)···265
第93表	第101号竖穴建物跡出土遺物一覽(第192図)···200	第142表	第521号土坑出土遺物一覽(第265·266図)···267
第94表	第102号竖穴建物跡出土遺物一覽(第194図)···201		

第143表	古墳時代土坑一覽……………	258
第144表	第35号井戸跡出土遺物一覽(第268・269図)……………	271
第145表	第36号井戸跡出土遺物一覽(第270・271図)……………	273
第146表	第37号井戸跡出土遺物一覽(第272図)……………	274
第147表	第39号井戸跡出土遺物一覽(第274図)……………	276
第148表	第40号井戸跡出土遺物一覽(第276図)……………	278
第149表	第41号井戸跡出土遺物一覽(第278図)……………	279
第150表	第42号井戸跡出土遺物一覽(第279・280図)……………	281
第151表	第43号井戸跡出土遺物一覽(第281図)……………	283
第152表	第44号井戸跡出土遺物一覽(第283図)……………	285
第153表	第45号井戸跡出土遺物一覽(第285図)……………	286
第154表	第46号井戸跡出土遺物一覽(第286・287図)……………	288
第155表	第49号井戸跡出土遺物一覽(第291図)……………	291
第156表	第50号井戸跡出土遺物一覽(第293図)……………	292
第157表	第51号井戸跡出土遺物一覽(第294図)……………	293
第158表	古墳時代井戸跡一覽……………	293

第159表	第15A号壑穴建物跡出土遺物一覽(第296図)……………	295
第160表	第26号壑穴建物跡出土遺物一覽(第299図)……………	299
第161表	第31号壑穴建物跡出土遺物一覽(第301図)……………	301
第162表	第36号壑穴建物跡出土遺物一覽(第303図)……………	302
第163表	第46号壑穴建物跡出土遺物一覽(第305図)……………	305
第164表	第61号壑穴建物跡出土遺物一覽(第307図)……………	306
第165表	第112号壑穴建物跡出土遺物一覽(第309・310図)……………	310
第166表	第128号壑穴建物跡出土遺物一覽(第312図)……………	311
第167表	奈良時代壑穴建物跡一覽……………	312
第168表	第501号土坑出土遺物一覽(第313図)……………	313
第169表	第52号井戸跡出土遺物一覽(第314図)……………	314

塔ノ内南道跡遺構名変更表

旧番号	新番号
SX 1～7	SE35～41
SX 9～15	SE42～48
SX 8	SK511
SK11	SE49
SK152	SE50
SK454	SE51
SI 3P 2	SE52
SK60	SE53
SK93	SE54
TP 1・2	SK512・513
SI 80P 1・4	SK514・515
SI 80P 5・2・3	SK516・517・518
SI 106	SK519
SI 120	SK520
SI 136	SK521
SI 108	SK522
SI 117	SK523
SI 123	SK524
SI 124	SK525
SI 127	SK526
HT 1	SK527
SI 90	HT 1
SI 138	SK528
SD18の一部	SD24
PG 7P9～14・19～23	SA 8P 1～11
PG 2	SI11 P 1～P 12
PG 7P15～18	PG 7P 9～P12
PG 3P 1～17	PG 5P246～262
PG 6P 1～31	PG 2P405～435
SB 1 P10 (一部)	SK529
SB 1 P11	SK530
SB 1 P12	SK531
SB 1 P13	SK532
第2A号火葬施設	第2号火葬施設
第2B号火葬施設	第7号火葬施設
第3A号火葬施設	第3号火葬施設
第3B号火葬施設	第8号火葬施設
SA 2 P 8	SK533
SA 3・4	SB13
第3C号火葬施設(一部)	SK534
SI 92	SK535
SI 130	第1号円形周溝状遺構
PG 2 P270	欠番
PG 2 P65	欠番

塔ノ内南遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

塔ノ内南遺跡は、筑西市の東部に位置し、観音川右岸の標高約30mの微高地に立地しています。

つくば明野北部工業団地(拡張②)造成整備事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、公益財団法人茨城県教育財団が平成31(令和元)年度に13,500㎡について発掘調査を行いました。



調査の内容

今回の調査では、縄文時代の^{たてあな}堅穴建物跡1棟、^{どこう}土坑18基、古墳時代の堅穴建物跡102棟、^{ほったてほらたて}掘立柱建物跡3棟、^{いど}土坑34基、^{いど}井戸跡17基、奈良時代の堅穴建物跡8棟、鎌倉・室町時代の掘立柱建物跡10棟、^{ほうけいたてあな}方形堅穴遺構3棟、^{いど}井戸跡36基、^{ほりあと}堀跡5条、^{みやあと}溝跡15条、^{かそうしせつ}火葬施設8基、^{もけつれつ}柱穴列6条などを確認しました。主な遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶器、磁器、土製品、石器・石製品、金属製品などです。



調査区遠景(北西から)



第9号竪穴建物跡（古墳時代）



第90号竪穴建物跡（古墳時代）



第36号井戸跡（古墳時代）



第8号掘立柱建物跡（鎌倉・室町時代）

調査の成果

微高地になっている台地上からは、100棟を超える古墳時代後期（約1,400年前）の竪穴建物跡を確認しました。様相の異なる土器が数多く出土しているのが特徴で、栃木県から埼玉県に多くみられる赤みがかった粘土を使って作られた土師器が多数出土しました。また、周囲に溝が廻り中央部を深く掘り込んだ井戸跡を十数基確認しました。類似した井戸跡が栃木県南部の遺跡からも確認されています。当遺跡は、鬼怒川水系の支流に近く、水運によって他地域の文物が持ち込まれたものと思われます。

また、鎌倉・室町時代の二重に囲われた方形区画の堀を確認しました。南部の堀に土橋が付設されており、出入口部と考えられます。方形区画の堀の内側から確認された掘立柱建物跡や井戸跡、堀跡などからは、陶器の甕や磁器の碗、土師質土器の内耳鍋などが出土しており、館の役割を果たしたものと考えられます。これらの遺構や遺物などから中世館跡の一端が明らかになりました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成30年7月11日、公益財団法人茨城県開発公社理事長は、茨城県教育委員会教育長あてに、つくば明野北部工業団地（拡張②）地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成30年8月23日に現地踏査を、11月7、8、13～15、28日及び平成31年1月18日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成31年1月29日、茨城県教育委員会教育長は、公益財団法人茨城県開発公社理事長あてに、事業地内に塔ノ内南遺跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成31年3月1日、公益財団法人茨城県開発公社理事長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成31年3月1日、茨城県教育委員会教育長は、公益財団法人茨城県開発公社理事長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成31年3月1日、公益財団法人茨城県開発公社理事長は、茨城県教育委員会教育長あてに、つくば明野北部工業団地（拡張②）造成整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成31年3月1日、茨城県教育委員会教育長は、公益財団法人茨城県開発公社理事長あてに、塔ノ内南遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として、公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、公益財団法人茨城県開発公社理事長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成31年4月1日から令和元年10月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

塔ノ内南遺跡の調査は、平成31年4月1日から令和元年10月31日までの7か月間実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程		期間						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
調査表	準備 土構 準除 確	●	●	●				
遺構	調査			●	●	●	●	●
遺物 注写	洗真 浄整 記理		●	●	●	●	●	●
撤	取							●

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

塔ノ内南道跡は、茨城県筑西市内淀字富士山（現 鷺島字溜井西原）613番地1ほかに所在している。

筑西市は、茨城県西部、筑波山の西側に位置している。市の西側に鬼怒川、中央部に小貝川、東側に桜川が流れ、市域の西側から中央にかけて鬼怒川と小貝川によって形成された沖積低地が南北に広がり、東側は桜川によって形成された沖積低地と筑波山西麓に隣接する洪積台地が続いている。洪積台地は標高30～40mほどで、緩やかに起伏している。市域を南流する鬼怒川と小貝川、桜川によって洪積台地を半島状や舌状に分断し、小河川が小貝川と桜川に注ぎ込む過程でできた樹枝状の偏狭な沖積低地と微高地が組み合わさって形成されている。

当地を形成している地質は、第三紀層の凝灰した砂礫層の上に、青灰色から灰色を呈する粘土及びシルト層の常総粘土層、洪積世の火山灰堆積である関東ローム層、現在の生活面も含んだ黒色土を主体とした沖積世の堆積層で構成されている¹⁾。これらの地層はいずれもほぼ水平に連続して堆積している。

当道跡は、市の東部に位置し、桜川支流の観音川と大川に挟まれた南北約15km、東西約4kmの細長く舌状に伸びる微高地上に立地している。標高は30mで、西側が沖積低地に接しており、低地との比高差は1～2mである。沖積低地は、主に水田に利用されている。調査前の現況は、山林であった。

第2節 歴史的環境

当道跡の周辺では、道跡の分布調査や発掘調査によって、多くの道跡が確認できている。

旧石器時代の道跡は少なく、当道跡近辺では、桜川支流の観音川や大川流域の低台地上に立地している。赤町（中根）十三塚道跡²⁾ (26) や中妻（倉持）道跡³⁾ が知られており、ともにナイフ形石器や尖頭器などが出土している。

縄文時代早期から前期にかけても、道跡数は少なく、小規模である。早期では燃糸文を施した井草式土器が採集された中妻（倉持）道跡、条痕文を施した茅山式土器が出土した向台道跡 (17)、竹垣前道跡が、前期では連続爪形文を施した浮島式土器が確認できた岡山道跡 (36) などが知られている。中期になると道跡数は増加し、人骨が埋蔵の中から出土した中妻（倉持）道跡のほか天神道跡 (14)、宮山道跡 (19)、山王堂道跡 (33)、久保山道跡 (39)、宮北道跡 (38) などが知られている。後期には、宮山道跡や中妻（倉持）道跡、山王堂道跡などのように中期から時期を跨いで存続する大規模な道跡と、鍋山東原道跡⁴⁾ (59)、台山道跡 (48) などのように、比較的小規模な道跡が知られており、地域ごとに母村・子村の関係が成立していた可能性がある。後期以降、道跡数は減少に転じ、晩期から弥生中期に至るまで遺構を伴った道跡は、現時点では確認できていない。このほか、少数ながらも陥し穴を確認し、狩場の可能性がある菰冠北道跡⁵⁾ (52) や炭焼戸東道跡⁶⁾ (53) が分布している。

弥生時代は、後期の駒込道跡、宮山道跡、山王堂道跡、鶴田石葉山道跡、鷺島道跡、宮前道跡 (37) などが知られているほか、赤町（中根）十三塚道跡では堅穴建物跡3棟、館野道跡⁷⁾ (28) では堅穴建物跡5棟を確認しているが、分布状況は希薄である。

古墳時代の当該地は、新治国に属していたと考えられている⁹¹。古墳の分布は桜川左岸域に多くみられ、常陸三山に数えられる筑波山・足尾山・加波山の西麓下では、2基の粘土部から甲冑や鉄剣、鉄鏃、鉄鉢、鉄斧が出土した中期の北椎尾天神塚古墳をはじめ、元寺家古墳群、仙原塚古墳、北原古墳、大脚古墳などの多くの古墳や古墳群があり、狐塚古墳や青柳古墳群、長辺寺山古墳、山ノ入古墳群などが所在する岩瀬盆地まで連なっている。これらのことから桜川上流に位置する岩瀬盆地で成立した古墳文化が、交通の要衝である桜川沿いに拡大したと考えられている⁹²。桜川右岸では、観音川に挟まれた独立した台地上に、中期の前方後円墳である宮山観音古墳をはじめ、後期の宮山古墳群〈15〉や駒込古墳群が集中して築かれている。この周辺には集落跡とされる宮後釜井遺跡や原山遺跡、天神遺跡、駒込遺跡、宮山遺跡などが所在し、古墳の被葬者を中心として当該地一帯を開拓した複数の集団の存在が考えられる。また、当遺跡が所在する観音川右岸、観音川と大川に挟まれた微高地にも、3基の方形周溝墓の調査がされた中妻（倉持）遺跡や菅玉、紡錘車などを伴った前期から中期の堅穴建物跡16棟と中期から後期の群集墳のうち6基を確認した鍋山東原遺跡、中期の堅穴建物跡1棟を確認した赤町（中根）十三塚遺跡、後期の堅穴建物跡2棟を確認した館野遺跡、断絶を挟みつつ前期から後期の堅穴建物跡31棟を確認した中根遺跡¹⁰⁰（57）など、多数の古墳や集落が点在している。

律令体制に入ると地方制度は「評制」となり、新治国は新治評と改まり、白雉4（653）年には新治評と白壁評に分割され、当該地は後者に属した。大宝元（701）年の大宝律令の制定によって「郡制」となり白壁郡となり、延暦4（785）年には光仁天皇の諱と同じであった「白壁」を敬避して、真壁郡に改称された。『和名抄』によれば、真壁郡は神代、真壁、長貫、伴部、大苑、大村、伊讀の七郷から構成されており、当該地は長貫郷に属していたと考えられている¹⁰¹。奈良・平安時代の遺跡は、寺院跡とされている遺跡の分布に特徴がみられる。桜川右岸の台地には、谷貝庵寺タイプの瓦と新治庵寺出土の軒丸瓦と同范の瓦が出土している谷貝庵寺、谷貝庵寺タイプと源法寺タイプの瓦が出土している源法寺庵寺が所在している。また、桜川左岸の茨城三山の西麓下では、日月庵寺、山尾権現山庵寺が所在し、源法寺庵寺タイプの瓦が出土している。日月庵寺については、源法寺庵寺に伴う瓦窯跡の可能性もあり、山尾権現山庵寺においては中門・金堂・講堂・塔跡の礎石が確認されている。白壁・真壁郡衙の所在については現時点では不明であるが、これらの寺院跡とされる遺跡と古代道と推定される小栗道との位置関係などから、谷貝庵寺や真壁地区の字古城付近に推定されている。

集落跡は、古墳時代から継続する遺跡が多いが、新設された集落もみられる。前述の宮山観音古墳周辺では独立台地の先端部に矢尻遺跡〈21〉、押尾古屋敷遺跡〈22〉、坪内遺跡〈23〉が、海老ヶ島地区近辺では炭焼戸東遺跡、炭焼戸西遺跡〈58〉が分布している。押尾古屋敷遺跡では8世紀後半の土師器や須恵器が採集されていることや、寺内や寺内寺の地名から寺院跡の可能性が報じられている¹⁰²。また、炭焼戸東遺跡では平安時代の堅穴建物跡9棟、掘立柱建物跡6棟などが調査され、「院」「寺」と記された墨書土器が出土しており、寺院の存在が想定されている¹⁰³。中根遺跡では平安時代の堅穴建物跡25棟、掘立柱建物跡5棟などが確認され、則天文字を墨書した土器が出土しており注目される。宮後東原遺跡〈12〉では、奈良・平安時代の堅穴建物跡32棟、掘立柱建物跡16棟などが確認されたほか、平安時代の井戸跡からは、饗宴や祀りに使われたと考えられる多量の土器が出土した¹⁰⁴。また、館野遺跡においては奈良・平安時代の堅穴建物跡29棟、掘立柱建物跡11棟などが調査されており、低地に面した微高地に立地することから班田農民の集落跡と考えられている¹⁰⁵。

10世紀代になると班田制にかかわって、荘園開発が進んだと考えられている。当遺跡から南方5kmほどの石田地区には、平持門の伯父にあたる平国香の居館があったという伝承に加え¹⁰⁶、この時期以降から鎌倉時代にかけての県西地区一帯における荘園開発や立荘には、常陸平氏一族が深く関わっており¹⁰⁷、常陸平氏にとつ

では重要な所領となっていた。

鎌倉時代から戦国時代になると当地は、常陸平氏の血脈で下妻氏の分流である真壁氏の所領（真壁荘）となった。国指定史跡である真壁城跡は真壁氏の居城跡で、周辺の要所には谷貝峯城跡〈2〉、市村家城跡〈4〉、椎尾城跡が配されており、家臣の藤田氏や市村氏、椎尾氏が治めたこととされている。

一方、下妻氏は常陸平氏（大掾氏）の惣領多気義幹と八田知家との対立に関与して没落し、海老ヶ島付近を含む所領は、下野守護職である小山氏に与えられた。その後、小山氏一族である結城氏に所領の一部が継承され、海老ヶ島城跡¹⁰⁾〈5〉には結城氏家臣の海老原氏が入城し、戦国時代には小田氏や佐竹氏との抗争の場となっている。海老ヶ島城跡の北側に位置する炭焼戸東遺跡では、掘立柱建物跡 32 棟をはじめとした遺構群が調査され、15～16 世紀代の土師質土器や国産陶器が出土していることから、海老ヶ島城との関連が考えられている¹⁹⁾。こうした城館跡の分布などから、真壁氏と結城氏の所領は、概ね観音川を境界としていたと考えられる。豊臣政権下、常陸国が佐竹氏によってほぼ統一されていくなか、真壁氏は佐竹氏の旗下に組み込まれた。関ヶ原の合戦後の徳川政権時には、佐竹氏は秋田へ転封となり、真壁氏は佐竹氏に従って、出羽国角館へ移っていた。

※本章は既刊の茨城県教育財団文化財調査報告書第 412 集ほかを参照し、加筆修正した。文中の（ ）内の番号は、第 1 図及び第 1 表の当該番号と同じである。

註

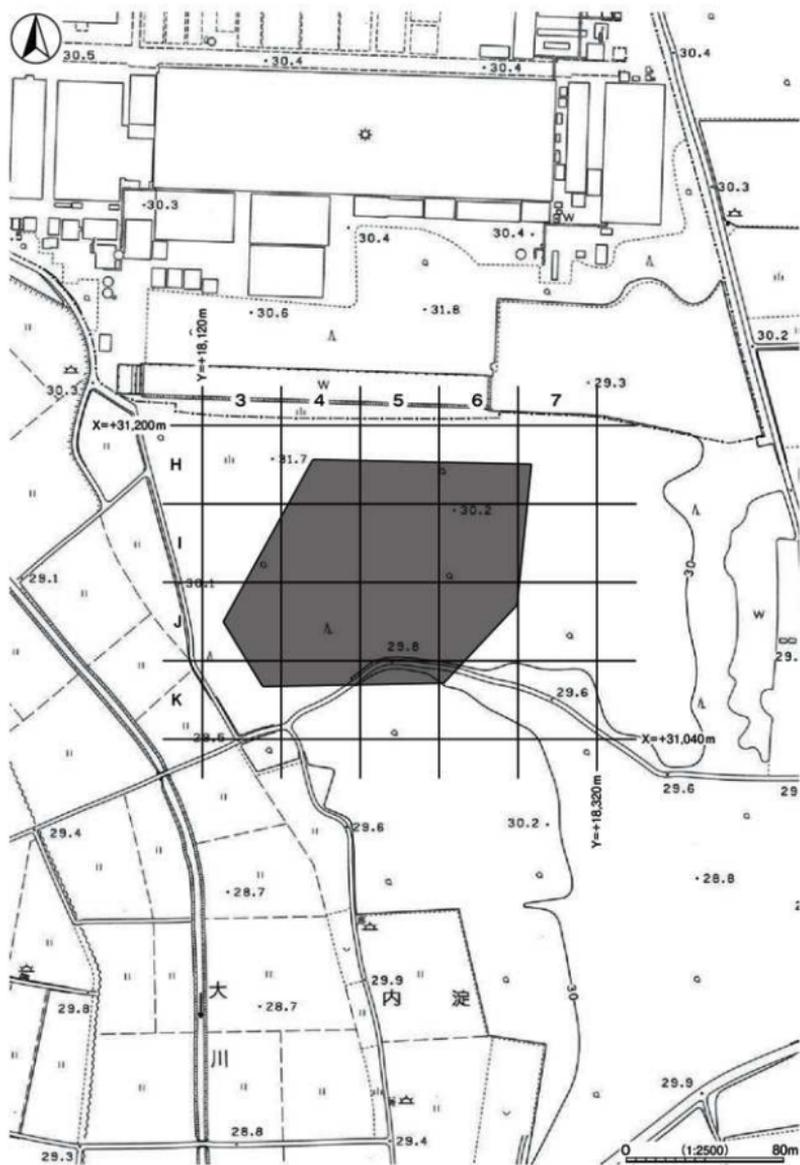
- 1) 日本の地質「関東地方」編集委員会「関東地方」『日本の地質』3 共立出版 2007 年 5 月
- 2) 野田良直「主要地方道下館つくば線緊急地方道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 中根十三塚遺跡」茨城県教育財団文化財調査報告第 154 集 1999 年 7 月
- 3) 田口崇「倉持遺跡-二次調査-」茨城県明野町埋蔵文化財調査報告書第 2 集 明野町教育委員会 1984 年 3 月
- 4) 照山大作「鍋山東原遺跡 つくば明野北部工業団地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財団文化財調査報告第 266 集 2006 年 3 月
- 5) 市村俊英「弘冠北遺跡 炭焼戸東遺跡 主要地方道筑西つくば線バイパス道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財団文化財調査報告第 295 集 2008 年 3 月
- 6) 折原洋一・松田政基「炭焼戸東遺跡 県営は場整備事業（経営体）松原地区関連遺跡発掘調査報告書 1」『筑西市埋蔵文化財調査報告書』第 2 集 筑西市教育委員会 2006 年 9 月
- 7) 茂木悦男「館野遺跡 主要地方道下館つくば線緊急地方道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書 2」茨城県教育財団文化財調査報告第 189 集 2002 年 3 月
- 8) a 明野町史編さん委員会「明野町史」明野町 1985 年 7 月
b 飯島光弘編「大和村」大和村 1974 年 1 月
- 9) 川崎純徳「北椎尾天神塚古墳とその時代」『ふるさと真壁文庫』No. 3 真壁町歴史民俗資料館 2001 年 3 月
- 10) 齋藤洋・大橋生「中根遺跡 炭焼戸西遺跡 県営は場整備事業（経営体）松原地区関連遺跡発掘調査報告書 戦地域文化財研究所 筑西市教育委員会 2010 年 2 月
- 11) 註 8a に同じ
- 12) 註 8a に同じ
- 13) 註 6 に同じ
- 14) 田村雅樹「宮後東原遺跡 一般県道東山田岩瀬道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」茨城県教育財団文化財調査報告第 412 集 2016 年 3 月
- 15) 註 7 に同じ
- 16) 註 8a に同じ
- 17) 註 6 に同じ
- 18) 斎藤武士「海老ヶ島城跡 県営は場整備事業（経営体）松原地区関連遺跡発掘調査報告書 戦地域文化財コンサルタント 筑西市教育委員会 2006 年 8 月
- 19) 註 6 に同じ



第1図 塔ノ内南遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院 25,000分の1「真壁」[筑波])

第1表 塔ノ内南遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	塔ノ内南遺跡		○		○	○	○	37	宮前遺跡			○	○	○			
2	谷貝峯城跡						○	38	宮北遺跡		○		○	○	○		
3	巽内遺跡				○	○		39	久保山遺跡		○		○	○			
4	市村家城跡						○	40	十三塚遺跡		○		○	○	○		
5	高内遺跡		○					41	向山遺跡		○	○	○	○			
6	猫手前遺跡				○	○	○	42	成井古屋敷跡		○		○	○			
7	大夫台遺跡		○					43	中島遺跡		○		○	○			
8	新田遺跡				○	○	○	44	成井北原遺跡				○	○			
9	根ノ下遺跡					○	○	45	稲荷窪遺跡					○	○		
10	猫島新田前遺跡					○	○	46	中坪遺跡		○		○	○	○		
11	西後遺跡				○	○	○	47	上口地遺跡				○	○	○		
12	宮後東原遺跡				○	○	○	48	台山遺跡		○		○	○			
13	宮後前畑遺跡				○	○	○	49	城ノ内遺跡					○	○		
14	天神遺跡		○		○	○		50	海老ヶ島城跡						○		
15	宮山古墳群				○			51	菰冠南遺跡				○	○	○		
16	陣場遺跡				○	○		52	菰冠北遺跡		○		○	○	○		
17	向台遺跡		○		○	○		53	炭焼戸東遺跡		○		○	○	○	○	
18	碓西遺跡		○		○	○		54	田宿炭焼戸遺跡							○	
19	宮山遺跡		○	○	○	○	○	55	新堀遺跡				○	○			
20	宮山石倉遺跡							56	原遺跡				○	○	○		
21	矢尻遺跡					○	○	○	57	中根遺跡				○	○	○	○
22	押尾古屋敷遺跡					○	○	○	58	炭焼戸西遺跡					○		○
23	坪内遺跡					○	○		59	鍋山東原遺跡		○		○	○	○	
24	有田東遺跡				○	○		60	石倉東遺跡				○	○			
25	有田西遺跡					○	○		61	石倉西遺跡				○	○		
26	中根十三塚遺跡		○		○	○	○	○	62	稲荷前遺跡				○	○	○	
27	赤町遺跡				○	○	○		63	村東遺跡				○	○		
28	館野遺跡			○	○	○	○		64	西明遺跡				○	○		
29	戸張遺跡				○	○	○		65	屋敷付西遺跡				○	○		
30	海老ヶ島東原遺跡				○	○	○		66	屋敷付南遺跡						○	
31	狭間遺跡				○	○	○		67	八坂神社古墳				○			
32	宮先遺跡		○		○	○			68	北明遺跡				○	○		
33	山王堂遺跡		○	○		○	○		69	内淀西遺跡				○	○	○	
34	久保新田遺跡				○	○	○		70	北浦遺跡				○	○		
35	稲荷塚古墳				○				71	境ノ町遺跡				○	○		
36	岡山遺跡		○		○	○	○		72	塔ノ内遺跡				○	○		



第2図 塔ノ内南遺跡調査区設定図（筑西市都市計画図2500分の1）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

当遺跡は、筑西市の東部に位置し、観音川右岸の標高約30mの微高地上に立地している。調査面積は13,500㎡で、調査前の現況は山林である。

調査の結果、竪穴建物跡126棟（縄文時代1・古墳時代102・奈良時代8・時期不明15）、掘立柱建物跡13棟（古墳時代3・鎌倉・室町時代10）、方形竪穴遺構3棟（鎌倉・室町時代）、円形周溝状遺構1基（時期不明）、堀跡5条（鎌倉・室町時代）、溝跡19条（鎌倉・室町時代15、時期不明4）、柱穴列6条（鎌倉・室町時代）、ピット群8か所（鎌倉・室町時代3、時期不明5）、土坑532基（縄文時代18・古墳時代34・奈良時代1・時期不明479）、井戸跡54基（古墳時代17・奈良時代1・鎌倉・室町時代36）、火葬施設8基（鎌倉・室町時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に200箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・注口土器・壺）、土師器（坏・碗・埴・器台・高坏・壺・甕・瓶）、須恵器（坏・高台付坏・壺・高坏・埴瓶・甕・瓶）、土師質土器（小皿・鉢・内耳鍋・播鉢・土釜）、陶器（皿・花瓶・鉢・甕）、土製品（土玉・紡錘車・支脚・勾玉・瓦塔）、石器（石鏃・磨石・凹石・紡錘車・砥石・編物石）、石製品（勾玉・五輪塔）、金属製品（刀子・鉄鏃・鎌・斧・釘・鉸具・鏡・耳環）、銭貨（治平元寶・□型元寶、永樂通寶）、自然遺物（馬歯）などである。

第2節 基本層序

調査区西部（J3c5区）の平坦面にテストピットを設定し、基本土層（第3図）の堆積状況の観察を行った。

第1層は、表土である。粘性は普通で、締まりは弱く、層厚は11～21cmである。

第2層は、黒褐色を呈する層で、ローム粒子を微量含んでいる。粘性・締まりともに普通で、層厚は14～23cmである。

第3層は、にぶい黄褐色を呈する層で、ロームブロックを微量、ローム粒子を少量含んでいる。粘性・締まりともに普通で、層厚は10～22cmである。

第4層は、褐色を呈するソフトローム層である。黒色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は8～26cmである。

第5層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を少量含み、粘性は普通で、締まりは強く、層厚は15～38cmである。

第6層は、黄褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を少量含み、粘性は普通で、締まりは強く、層厚は4～18cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。黒色粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は5～14cmである。

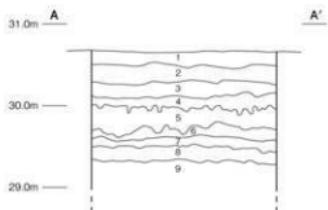
第8層は、にぶい黄褐色を呈する砂層である。黒色粒子を中量含み、白色のシルトを多量に含む。粘性・締まりともに普通で、層厚は14～20cmである。

第9層は、白灰色を呈する砂礫層である。径5～10cmの礫が約10%、径1～5cmの礫が約20%、径0.5～

1cmの礫が約20%、径0.5cm以下の砂が約50%を占める。粘性は弱く、締まりは極めて強い。下層が未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は、第4層の上面で確認した。

また、調査区北部(H 5 f3)、西南部(J 4 il)、南東部(J 6 h5)に位置する古墳時代井戸跡3基(第40・42・43号井戸跡)の断削調査時にも、簡便ながら基本土層の堆積状況を確認している。詳細は井戸跡の項に記載した。



第3図 基本土層図(全体図参照)

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡1棟、土坑18基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第110号竪穴建物跡(第4～6図 PL 3)

位置 調査区西南部のJ 3 c6区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸5.20m、短軸4.59mの楕円形で、長軸方向はN-14'-Wである。壁高は11～13cmで、外傾している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 ほぼ中央部に付設されている。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 57か所。径20～30cm、深さ10～54cmのピットが弧状に巡っている。規模や配置から、P1～P8・P17・P57などは深さ14～54cmで支柱穴となる可能性がある。それ以外のピットについては、補助柱穴や出入口に伴うピットになる可能性もあるが、判断できない。

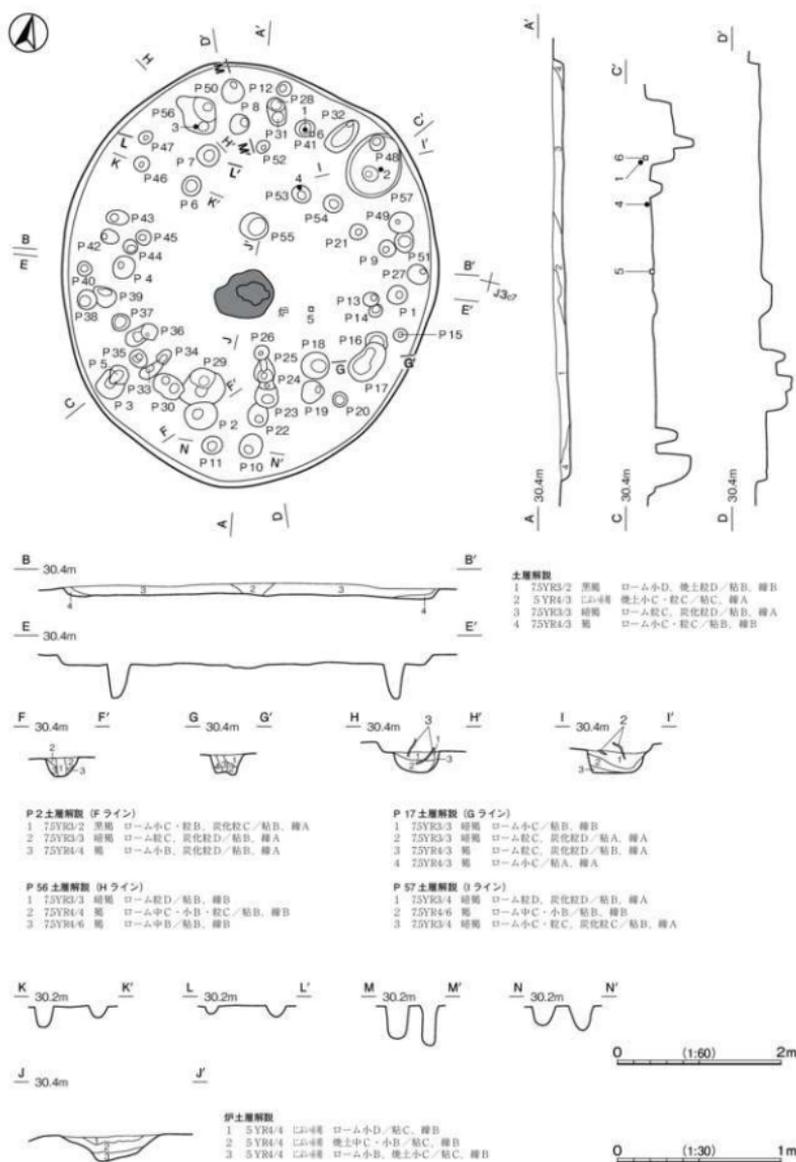
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックや焼土粒子が含まれていることから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片111点(深鉢103, 注口土器2, 壺6), 石器3点(石鏃, 凹石, 剥片)が出土している。5は中央部やや東の床面から、2は北東部のP57, 3は北西部のP56からいずれも斜位で出土している。4は北東部のP53, 6は北部のP41の覆土上層からそれぞれ出土している。1は北部の覆土上層から出土している。

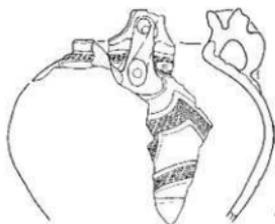
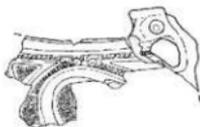
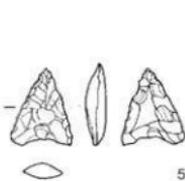
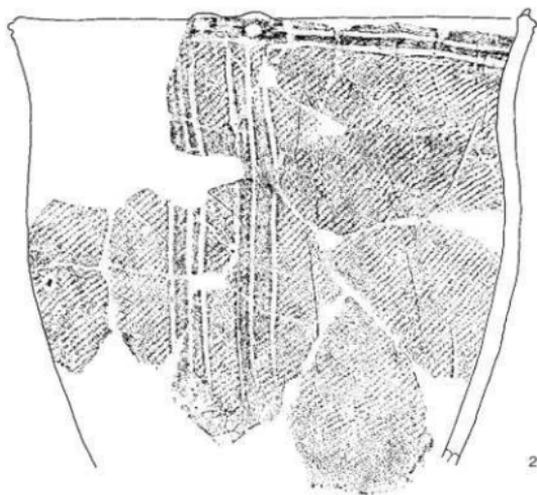
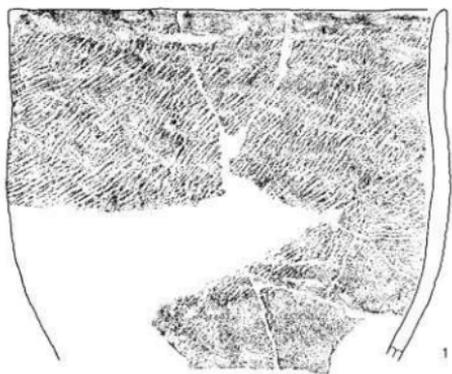
所見 時期は、出土土器から後期前葉と考えられる。

第2表 第110号ピット一覧(深さ)

番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P17	P21
深さ(cm)	43	24	39	40	41	14	14	43	12	26	19	15	13	13	24	10
番号	P23	P24	P25	P28	P32	P36	P37	P38	P39	P43	P44	P46	P47	P48	P49	P50
深さ(cm)	26	33	33	38	43	56	13	26	34	15	12	23	10	46	33	36
番号	P54	P56	P57													
深さ(cm)	14	24	54													



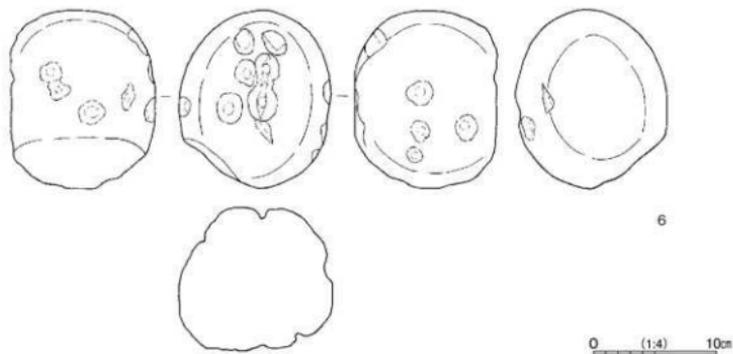
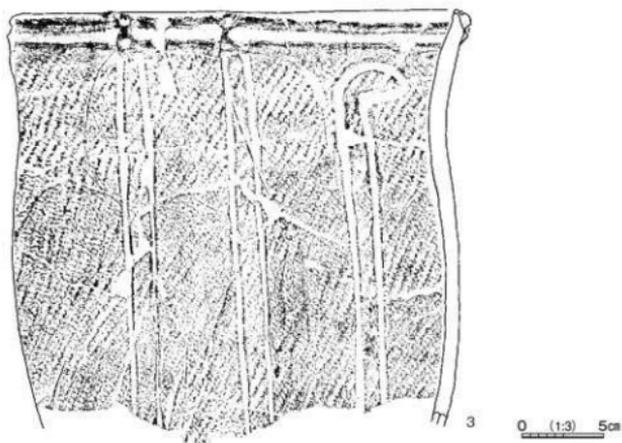
第4図 第110号堅穴建物跡実測図



0 (1:1) 2m

0 (1:3) 10cm

第5图 第110号竖穴建物跡出土物实测图(1)



第6図 第110号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第3表 第110号竪穴建物跡出土遺物一覧(第5・6図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[26.2]	(21.6)	-	長石・石英・細砂	に灰い橙	普通	地文に単筋縄文LR(横) 胴部下端無文	覆土上層	20%
2	縄文土器	深鉢	[31.1]	(27.6)	-	長石・石英・ 黒母・黒色砂子	に灰い 赤褐色	普通	単筋縄文LR(斜・縦)上に3本の沈線による 下半文	P 57 覆土 上層	20% PL57
3	縄文土器	深鉢	26.9	(25.6)	-	長石・石英・細砂	に灰い橙	普通	単筋縄文LR(横)上に沈線による縦手文 口縁部に刺突文	P 56 覆土 中層~上層	60% PL57
4	縄文土器	注口	-	(13.0)	-	長石・石英・細砂	に灰い 赤褐色	普通	口縁部の変形に刺突文 胴部沈線による三角形 状、円形状文様 地文に単筋縄文LR(横)	P 53 覆土 上層	10% PL57
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
5	石皿	1.6	1.2	0.4	0.52	頁岩	凹底式無蓋皿			床面	PL104
6	凹石	14.7	12.5	11.6	2970	花崗岩	凹面に凹み痕			P 41 覆土 上層	PL100

(2) 土坑

今回の調査で、形状や遺物出土状況などが特徴的な土坑8基については、文章と実測図、遺物一覽で解説する。その他の縄文時代の土坑については実測図、土層解説を掲載する。

ア) 形状や遺物出土状況などが特徴的な土坑

第28号土坑 (第7図 PL.3)

位置 調査区北部のH64区、標高30mほどの微高地上に位置している。

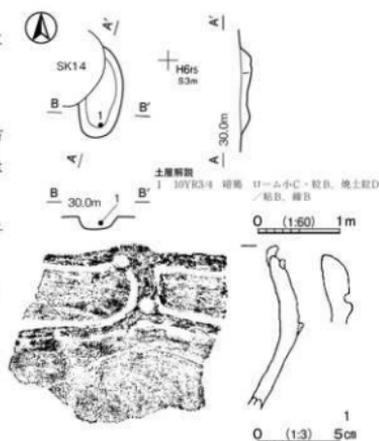
重複関係 第14号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.12m、短径0.52mの楕円形で、長径方向はN-3°-Eである。確認面からの深さは8cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 単一層である。暗褐色土にロームブロックや焼土粒子が含まれていることから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)が出土している。1は南部覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉である。



第7図 第28号土坑・出土遺物実測図

第4表 第28号土坑出土遺物一覽 (第7図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(10.3)	-	長石・石英・赤土粒子・炭化粒子	明赤褐色	普通	流石部のC字形貼付文に2ヶ所の刺突文 沈瀬による区画 区画内埋没済	覆土下層	PL.102

第139号土坑 (第8図 PL.3)

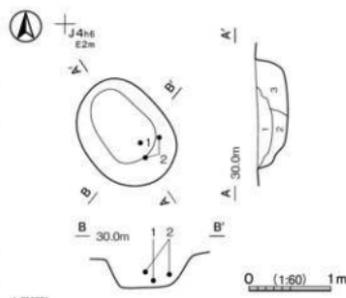
位置 調査区南部のJ4h6区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径1.36m、短径1.06mの楕円形で、長径方向はN-39°-Wである。確認面からの深さは37cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

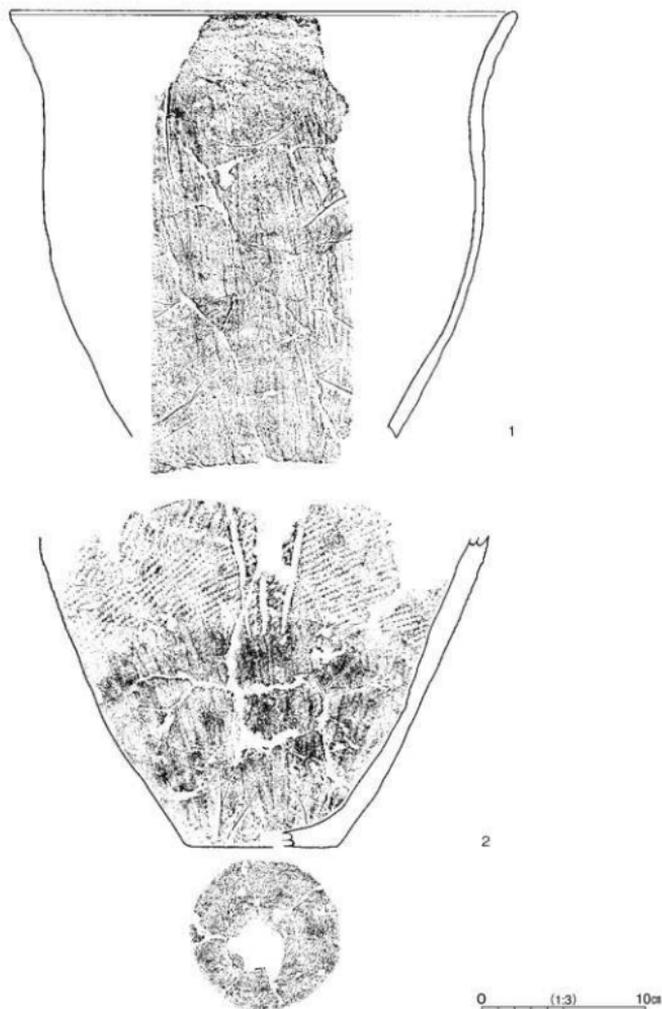
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ、不規則な堆積から、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片49点(深鉢)が出土している。1は南東部覆土下層から出土し、2は南東部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期前葉である。



第8図 第139号土坑実測図



第9図 第139号土坑出土遺物実測図

第5表 第139号土坑出土遺物一覧(第9図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[30.6]	(26.2)	-	長石・石英・半白・赤色粒子・磁礫	にぶい橙	普通	口縁・胴部無文 輪縁凸痕	覆土下層	20%
2	縄文土器	深鉢	-	(19.0)	8.9	長石・石英・赤色粒子・磁礫	橙	普通	胴部地文:半拍縄文RL(横) 胴部下層無文	覆土中層	40%

第163号土坑 (第10・11図 PL 4)

位置 調査区南西部のK 4 b2区、標高30 mほどの微高地上に位置している。

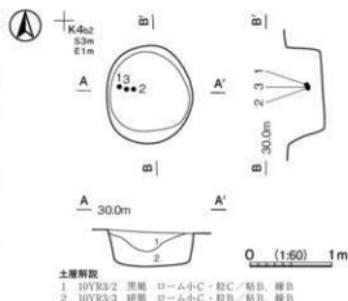
規模と形状 長径1.15 m、短径1.02 mの楕円形で、長径方向はN-4°-Wである。確認面からの深さは43cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 2層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

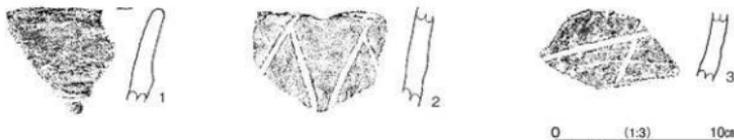
遺物出土状況 縄文土器片23点(深鉢)が出土している。

1~3は西部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉である。



第10図 第163号土坑実測図



第11図 第163号土坑出土遺物実測図

第6表 第163号土坑出土遺物一覧 (第11図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・黒雲母・赤色粒子・繊維	明赤褐色	普通	横位の沈線	覆土中層	
2	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母・黒雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	沈線による幾何学文	覆土中層	
3	縄文土器	深鉢	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母・黒雲母・赤色粒子・繊維	明赤褐色	普通	沈線による区画文 横位の細沈線	覆土中層	

第180号土坑 (第12・13図 PL 4)

位置 調査区南西部のJ 3 b7区、標高30 mほどの微高地上に位置している。

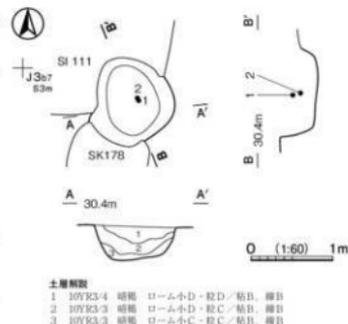
重複関係 第111号土坑堅穴建物と第178号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 確認できた長径1.07 m、短径1.05 mの楕円形で、長径方向はN-22°-Wである。確認面からの深さは41cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片23点(深鉢)が出土している。1・2は中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉である。



第12図 第180号土坑実測図



第13図 第180号土坑出土遺物実測図

第7表 第180号土坑出土遺物一覧(第13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(7.8)	-	長石・石英・細礫	橙	普通	地文に早期縄文LR(縦)波首部に円形の刺突文・沈線による垂下文	覆土中層	PL102
2	縄文土器	深鉢	-	(5.8)	-	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	沈線による縦走文 輪模み肌	覆土中層	

第183号土坑(第14図 PL.4)

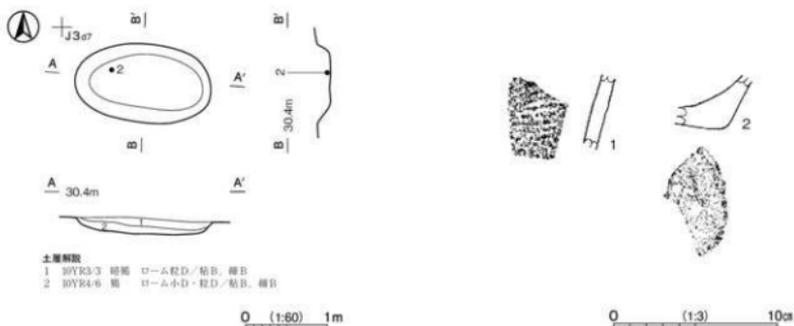
位置 調査区西部のJ3d7区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径1.64m、短径0.96mの楕円形で、長径方向はN-81°-Wである。確認面からの深さは20cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は平坦である。

覆土 2層に分層できる。暗褐色土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢)が出土している。2は西部の覆土下層から出土し、1は覆土中から出土している。

所見 周辺の遺構や出土土器から中期後葉～後期前葉と考えられる。



第14図 第183号土坑・出土遺物実測図

第8表 第183号土坑出土遺物一覧(第14図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(4.5)	-	長石・石英・ 褐色粒子・細礫	明赤褐	普通	早期縄文RL(縦)	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	(3.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部・胴部無文	覆土下層	

第251号土坑 (第15・16図 PL 4)

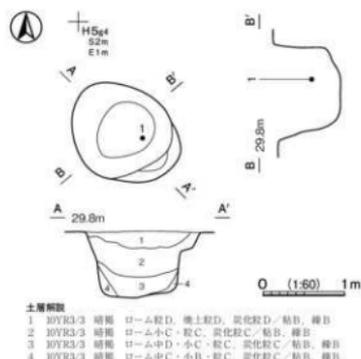
位置 調査区北部のH5g4区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径1.42m、短径1.16mの楕円形で、長径方向はN-42°-Wである。確認面からの深さは79cmで、壁はほぼ直立している。底面は若干の凹凸が認められる。

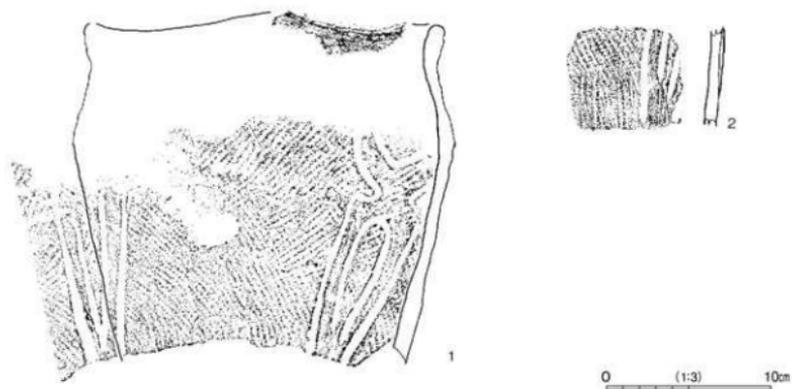
覆土 4層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子を含む層が堆積していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片16点(深鉢)、鏝2点が出土している。1は東部の覆土中層から出土し、埋め戻す過程で投棄されたものと考えられる。2は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉である。



第15図 第251号土坑実測図



第16図 第251号土坑出土遺物実測図

第9表 第251号土坑出土遺物一覧 (第16図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(20.6)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部地文に単輪縄文L段(縦) 胴部地文に単輪縄文L段(縦) 沈線に主たる垂下文、輪積み痕	覆土中層	30%
2	縄文土器	深鉢	-	(9.2)	-	長石・石英	にがい橙	普通	地文に単輪縄文RL(横) 沈線による垂下文	覆土中	

第512号土坑 (第17図 PL 5)

位置 調査区南西部のJ3j0区、標高30mほどの微高地上に位置している。

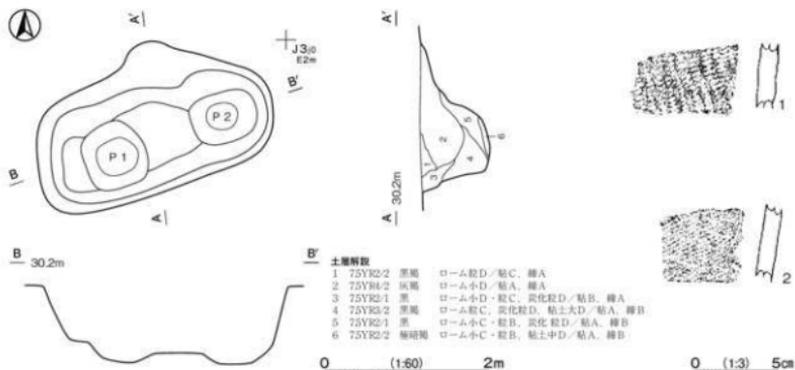
規模と形状 長径298m、短径182mの楕円形で、長径方向はN-72°-Eである。深さは93cmで、底面は両端が浅い皿状を呈している。短径方向の断面形はU字状で、壁はともに外傾している。

ピット 底面に2か所確認した。P1は長径0.80cm、短径0.78の楕円形で、深さは25cmである。P2は長径0.81cm、短径0.44cmの楕円形で、深さは17cmである。性格は不明である。

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、人為堆積である。

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢)が出土している。1・2は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉～後期前葉と考えられる。陥し穴の可能性はある。



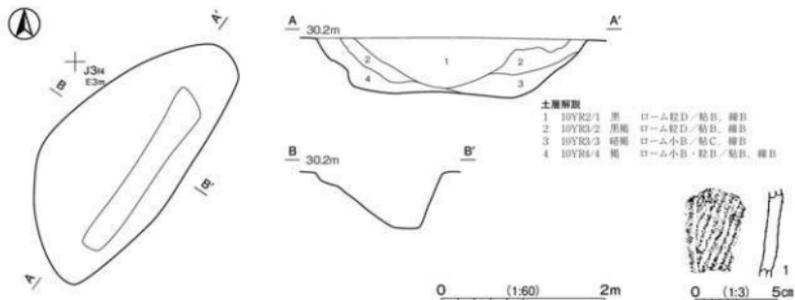
第17図 第512号土坑・出土遺物実測図

第10表 第512号土坑出土遺物一覧(第17図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(41)	-	灰石・石英	に濃い黄褐色	普通	早期縄文Ⅱ(横)	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	-	(48)	-	灰石・石英・黄色砂子	に濃い赤褐色	普通	地文に早期縄文Ⅱ(縦) 細比図による文様	覆土中	

第513号土坑(第18図 PL5)

位置 調査区南西部のJ34区、標高30mほどの微高地上に位置している。



第18図 第513号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径3.42m, 短径1.55mの楕円形で, 長径方向はN-36°-Eである。深さは68cmで, 底面はほぼ平坦である。短径方向の断面形はV字状で, 壁は外傾している。

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

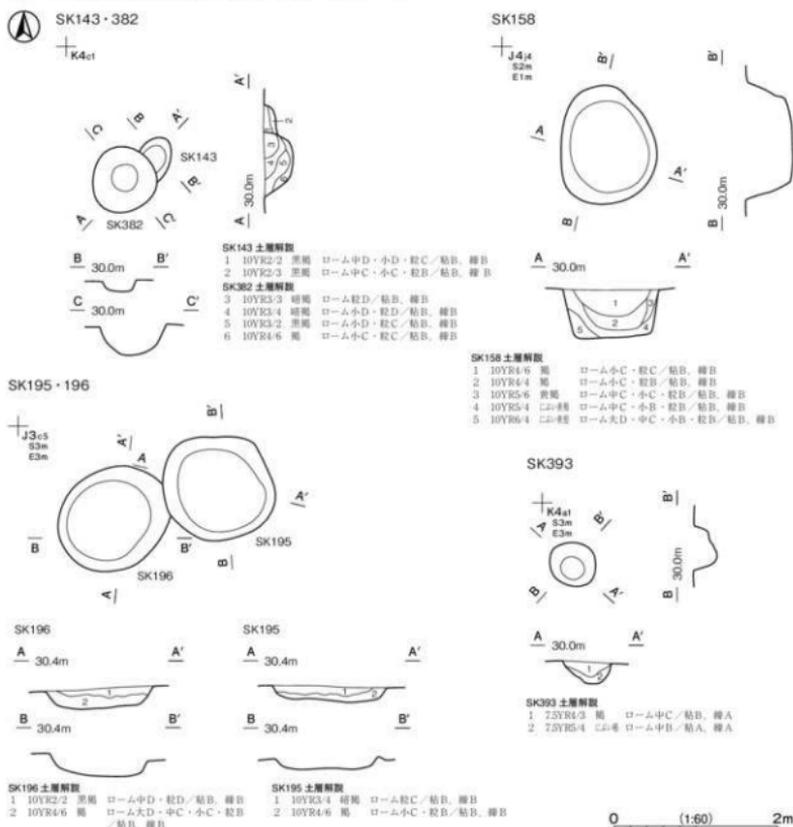
遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)が覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉～後期前葉と考えられる。

第11表 第513号土坑出土遺物一覧(第18図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・細礫	にぶい肌	普通	地文に卑路隅文RL(縦) 沈線による垂下文	覆土中	

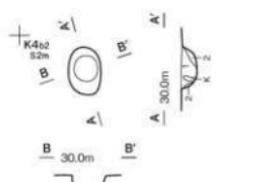
イ) その他の縄文時代土坑(第19・20図 PL.4・5)



第19図 その他の縄文時代土坑実測図1)



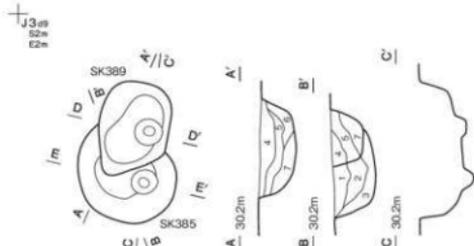
SK397



SK397 土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム粒D / 粘B、粘A
- 2 10YR4/6 黒 ローム小D / 粘D / 粘B、粘A

SK385・389



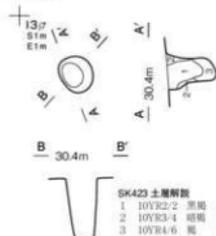
SK385 土層解説

- 1 75YR2/2 赤褐色 ローム粒D、炭化粒D / 粘B、粘A
- 2 75YR3/3 暗褐色 ローム小C / 粘B、粘A
- 3 75YR4/3 黒 ローム中B / 粘A、粘A

SK389 土層解説

- 4 75YR2/3 暗褐色 ローム粒D / 粘C、粘A
- 5 75YR2/2 赤褐色 ローム小D / 粘B、粘A
- 6 75YR3/3 暗褐色 ローム小D / 粘C / 粘B、粘A
- 7 75YR4/3 黒 ローム中B / 粘A、粘A

SK423



SK423 土層解説

- 1 10YR2/2 赤褐色 ローム大D / 粘D / 粘B、粘C
- 2 10YR3/4 暗褐色 ローム粒C / 粘B、粘A
- 3 10YR4/6 黒 ローム粒B / 粘B、粘B

0 (1:60) 2m

第20図 その他の縄文時代土坑実測図(2)

第12表 縄文時代土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
28	H 6f4	N-3°-E	楕円形	1.12 × 0.52	8	緩斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→SK14
139	J 4h6	N-39°-W	楕円形	1.36 × 1.06	37	外傾	平坦	人為	縄文土器	
143	K 4c1	N-42°-E	[楕円形]	[0.45] × 0.40	12	外傾	平坦	自然	-	本跡→SK382
158	J 4j4	N-10°-W	楕円形	1.46 × 1.19	57	外傾 垂直	平坦	自然	縄文土器	
163	K 4h2	N-4°-W	楕円形	1.15 × 1.02	43	外傾	平坦	自然	縄文土器	
180	J 3b7	N-22°-W	楕円形	[1.07] × [1.05]	41	外傾	平坦	自然	縄文土器	本跡→ SI 111,SK128
183	J 3d7	N-81°-W	楕円形	1.64 × 0.96	20	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
195	J 3c6	N-0°	円形	1.42 × 1.34	18	外傾	平坦	自然	縄文土器	SK196→本跡
196	J 3c5	N-47°-E	楕円形	1.38 × 1.21	25	外傾	平坦	自然	縄文土器	本跡→SK195
251	H 2g4	N-42°-W	楕円形	1.42 × 1.16	79	ほぼ直立	平坦 凹状	人為	縄文土器	
382	K 4c1	N-0°	円形	0.80 × 0.80	37	外傾	U字状	自然	縄文土器	SK143→本跡
385	J 3d9	N-32°-W	楕円形	1.34 × 1.10	59	外傾	U字状	自然	縄文土器	本跡→SK389
389	J 3d9	N-23°-E	不整楕円形	1.23 × 0.86	42	外傾	U字状	自然	縄文土器	SK385→本跡
393	K 4a1	N-0°	楕円形	0.60 × 0.52	29	外傾	U字状	自然	縄文土器	
397	K 4b2	N-0°	楕円形	0.61 × 0.39	18	外傾	平坦	自然	縄文土器	
423	I 3j7	N-42°-W	楕円形	0.46 × 0.39	76	垂直	平坦	人為	縄文土器、銅片	
512	J 3j0	N-72°-E	楕円形	2.98 × 1.82	93	外傾	皿状	人為	縄文土器	
513	J 3f4	N-36°-E	楕円形	3.42 × 1.65	68	外傾	平坦	自然	縄文土器	

1 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡102棟、掘立柱建物跡3棟、土坑34基、井戸跡17基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

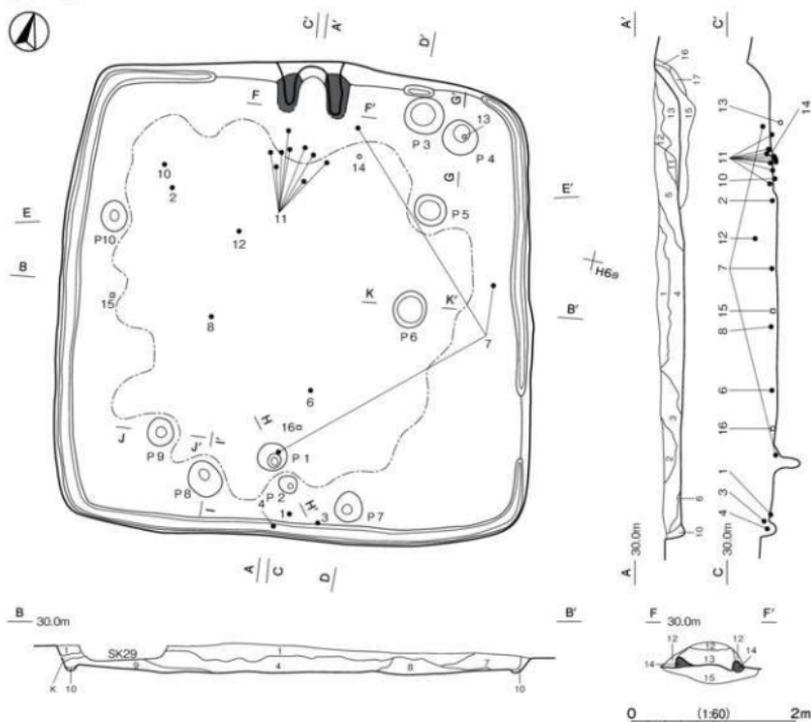
(1) 竪穴建物跡

第1A号竪穴建物跡 (第21～23図 PL.5)

位置 調査区北東部のH6区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第1B号竪穴建物跡の上部に構築し、第29号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.84m、短軸5.72mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は26cmで、ほぼ直立している。



土層解説

1	10YR3/2	赤褐色	ロ-ム粒C、焼土小D、炭化物D/粘B、礫B	10	10YR4/3	褐色	ロ-ム小C・粒C/粘B、礫B
2	10YR3/2	赤褐色	ロ-ム粒D、焼土小D・粒D/粘B、礫B	11	10YR4/4	褐色	ロ-ム粒C、炭化物D、砂質粘土粒A/粘B、礫A
3	10YR3/2	赤褐色	ロ-ム粒D、焼土粒D'、粘B、礫A	12	10YR4/6	暗褐色	ロ-ム粒C、炭土粒D、炭化粒D'/粘B、礫B
4	10YR3/2	赤褐色	ロ-ム小C、焼土小C・粘B、礫A	13	10YR5/6	黄褐色	ロ-ム粒B、焼土中C・小D・粘B、炭化粒D/粘B、礫B
5	10YR3/3	暗褐色	ロ-ム粒D、焼土小C・粒C、炭化粒C/粘B、礫C	14	10YR6/6	明黄褐色	ロ-ム粒B、焼土粒D、砂質粘土小B・粒A/粘A、礫B
6	10YR3/3	暗褐色	ロ-ム粒B/粘B、礫A	15	10YR4/4	褐色	ロ-ム粒C、焼土小C・粒D、炭化粒D'/粘B、礫B
7	10YR3/3	暗褐色	ロ-ム粒D、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B	16	10YR4/3	褐色	ロ-ム粒C、炭土粒D、炭化粒D'/粘B、礫B
8	10YR3/3	暗褐色	ロ-ム小C、焼土小C、炭化物D/粘B、礫B	17	10YR5/6	黄褐色	ロ-ム粒C、焼土小C・粒B/粘B、礫B
9	10YR3/3	暗褐色	ロ-ム粒C、炭化粒D/粘B、礫B				

第21図 第1A号竪穴建物跡実測図

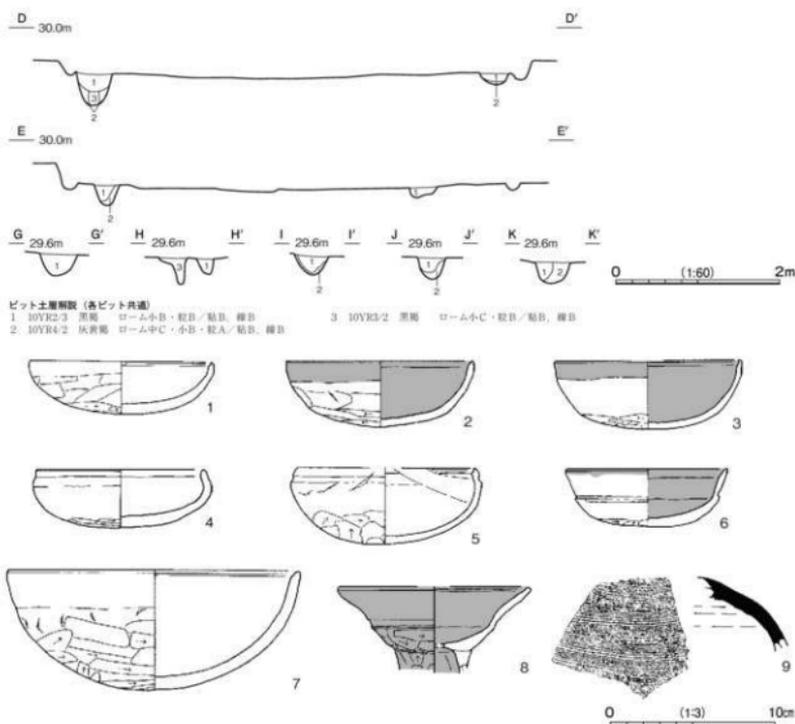
床 平坦で、壁際を除き踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで80cmで、燃焼部幅は35cmである。竈は、地山を25cmほど掘りくぼめ、ローム粒子を含む第15～17層を埋土して整地されている。袖部は整地面上に、ローム粒子や砂質粘土を含む第14層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部はわずかに壁外に掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾している。第11～13層は構築材であり、11の壘が第11・12層中から出土していることから、竈は人為的に壊されている。ピット 10か所。P1・P2は深さ32・20cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P3～P10は深さ12～40cmで、性格不明である。

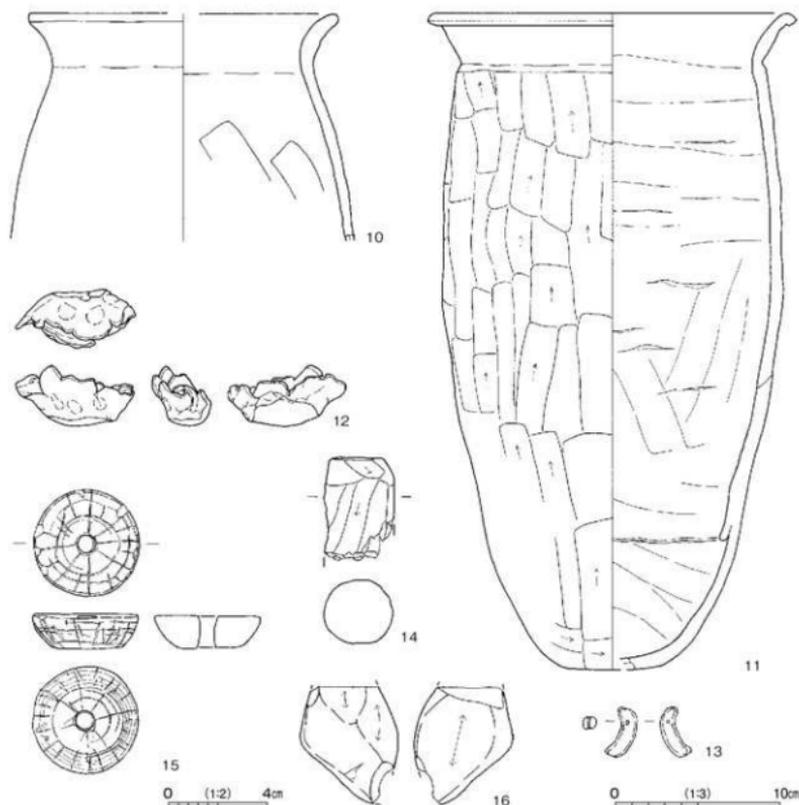
覆土 10層に分層できる。ロームブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片606点(坏341, 高坏14, 碗3, 鉢40, 壘207, 手捏土器1), 須恵器片1点(瓶類), 土製品2点(勾玉, 支脚), 石器4点(磨石2, 砥石1, 紡錘車1), 焼成粘土塊1点(1001g), 鉄滓1点(50.32g)が出土している。完形・半完形の土器が床面付近から出土している。13は、P4の覆土中層から出土した。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第22図 第1A号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第23図 第1A号竪穴建物跡出土遺物実測図

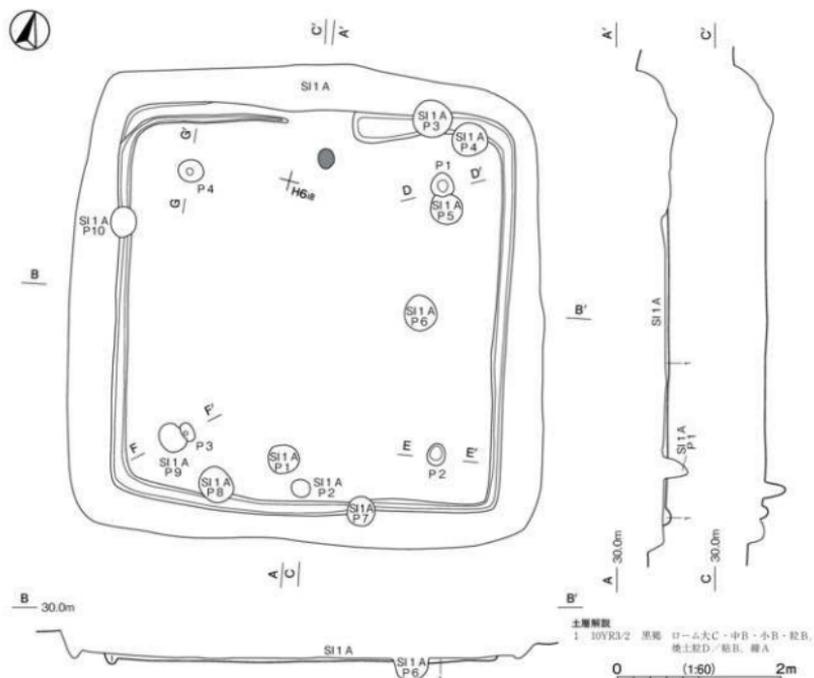
第13表 第1A号竪穴建物跡出土遺物一覧(第22・23図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	111	32	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	床面	100% PL57
2	土師器	坏	112	4.0	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	70%
3	土師器	坏	[113]	4.1	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	60% PL57
4	土師器	坏	101	3.6	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口縁部摩滅 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	壁溝 覆土中層	100% PL57
5	土師器	坏	[108]	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 内面と断面に煤付着	覆土中	60% PL57
6	土師器	坏	9.2	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	90% PL57
7	土師器	碗	17.6	7.2	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡 底部内面版状に剥落	覆土下層	60% PL57
8	土師器	高坏	[116]	(5.0)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	外・内面黒色処理	覆土下層	20%
9	須恵器	瓶頸	-	(4.5)	-	長石・石英	靑灰	普通	外面カキ目 内面ナデ	覆土中	10%
10	土師器	甕	[187]	(13.9)	-	長石・石英・緑礫	にぶい褐	普通	口縁部ナデ 内面剥落著しい	床面	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
11	土師器	甕	21.8	40.1	6.0	長石・石英 赤色胎土	にぶい赤褐色	普通	底部外面摩滅剥落著しく調整不明瞭	床面	50% PL102
番号	種別	器種	長径	短径	器高	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
12	土師器	手捏土器	7.2	3.6	3.6	長石・石英・ 赤色胎土	にぶい橙	普通	指痕が残る	覆土上層	100%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
13	土製勾玉	3.1	2.0	0.8	0.3	306	長石・石英・ 赤色胎土	明赤褐色	一方向から穿孔	P 4 覆土中層	PL103
番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考		
14	支脚	3.1	(4.3)	(6.3)	(94.49)	長石・石英・編織	植物圧痕残る	床面			
番号	器種	上径	下径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
15	石製紡錘車	4.4	2.9	1.4	0.8	(2.79)	蛇紋岩	孔内含め全面に腐蝕	覆土下層	PL100	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
16	紙石	(7.2)	6.0	3.3	(140)	凝灰岩	紙面4面	床面			

第1 B号竪穴建物跡 (第24・25図 PL 5)

位置 調査区北東部のH 6 18区、標高30 mほどの微高地上に位置している。



第24図 第1 B号竪穴建物跡実測図

重複関係 第1A号竪穴建物が上部に構築されている。

規模と形状 長軸4.98m、短軸4.78mの方形で、主軸方向はN-12°-Wである。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。壁溝が全周している。

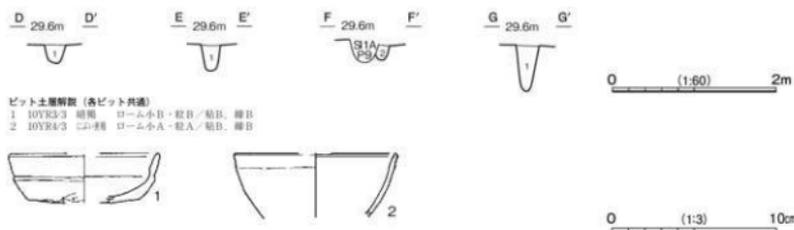
竈 北壁中央部付近に焼土痕が確認できたことから、竈の火床面の可能性がある。

ピット 4か所。P1～P4は深さ20～57cmで、配置から主柱穴である。

覆土 第1層は、第1A号竪穴建物を構築する際の整地層である。

遺物出土状況 土師器片90点(坏76、碗1、高坏1、甕12)が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。本遺構から第1A号竪穴建物への拡張が行われたと考えられる。



第25図 第1B号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第14表 第1B号竪穴建物跡出土遺物一覧(第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[90]	(3.0)	-	長石・石英	にぶい	普通	体部外面へ丸回り 内面ナデ	覆土中	10%
2	土師器	坏	[98]	(3.9)	-	長石・石英	にぶい	普通	口唇部内面沈線 外・内面黒色処理の痕跡	覆土中	10%

第2号竪穴建物跡(第26～28図 PL5・6)

位置 調査区北東部のH6h2区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第21号竪穴建物跡を掘り込み、第31号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.58m、短軸4.25mの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は20～32cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

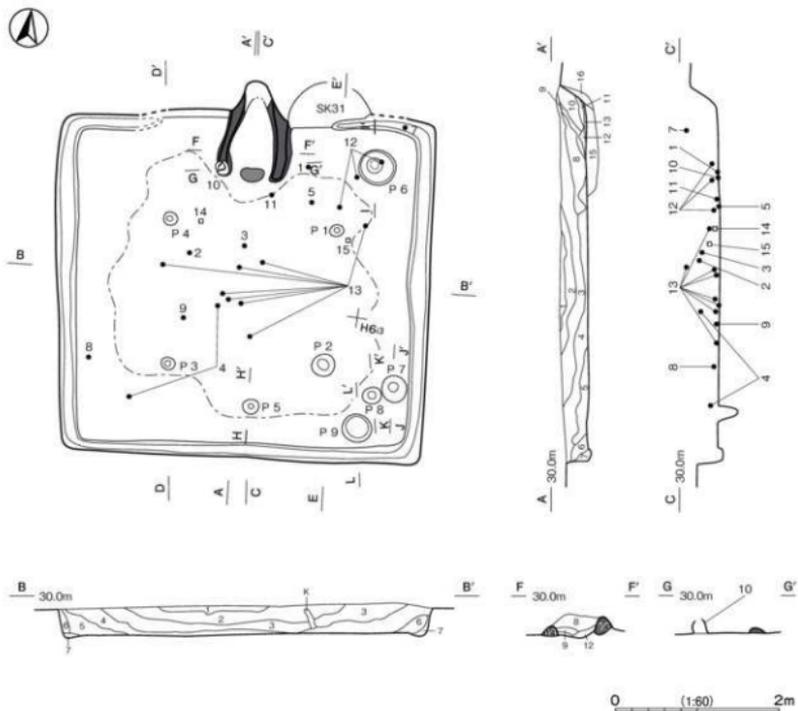
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで150cmで、燃焼部幅は53cmである。竈は、地山を16cmほど掘りくぼめ、ロームブロックを含む第15・16層を埋土して整地されている。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第14層を積み上げて構築されている。左袖部で芯材として土師器の甕が倒置して使用されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は亦硬化している。煙道部は壁外に42cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第8～13層は竈に関連する堆積土で、第8・9層は焼土粒子や砂質粘土粒子などを含む天井部の崩落土である。

ピット 9か所。P1～P4は深さ18～28cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ26cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は深さ12～30cmで、性格不明である。

覆土 7層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片2023点(坏1335, 碗3, 器台1, 高坏5, 壺1, 甕673, 瓶5), 須恵器片4点(横瓶1, 甕3), 土製品1点(支脚), 石器1点(磨石), 石製品1点(勾玉), 金属製品1点(鎌), 焼成粘土塊3点(1202g)が出土している。土器は床面から覆土上層まで完形, 破片を問わず分布している。7の器台は, 坏部底面に焼成前穿孔され, 孔部内面まで黒漆を塗布されている。当該期としては異色の土器で, 出土位置も上層であることから混入の可能性もある。10は, 竈の構架材である。

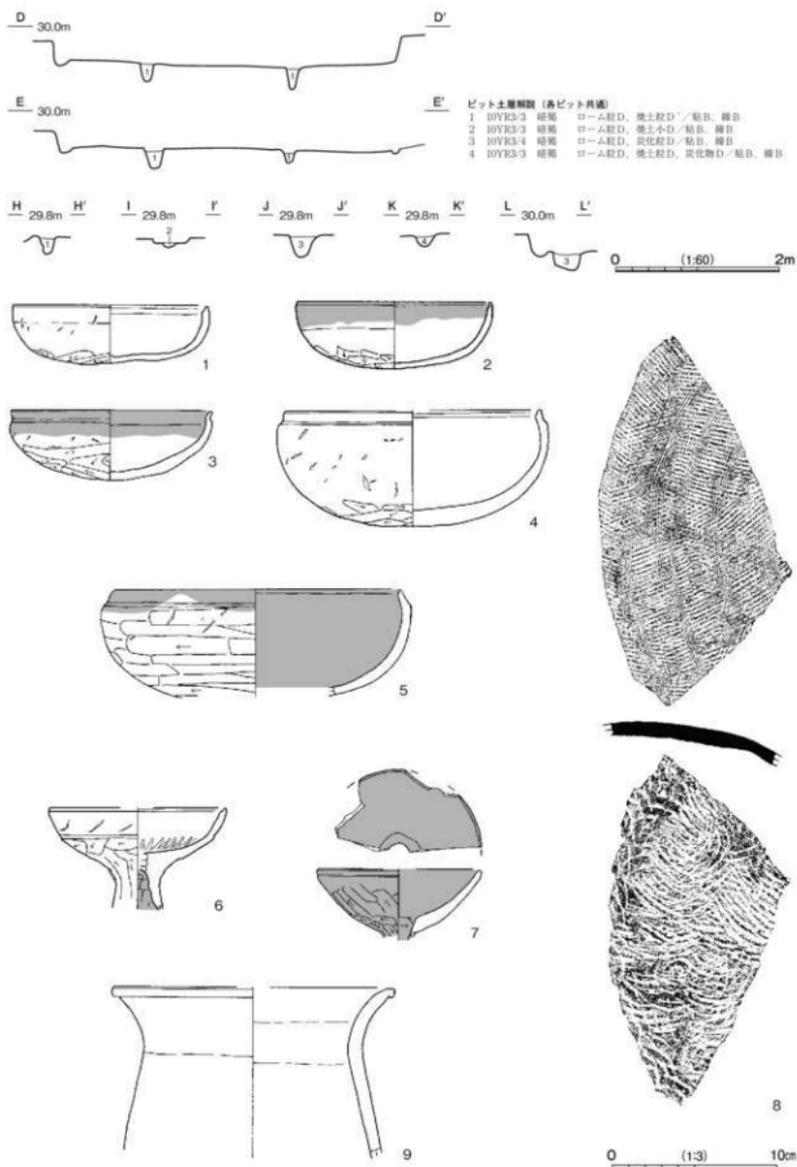
所見 時期は, 出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



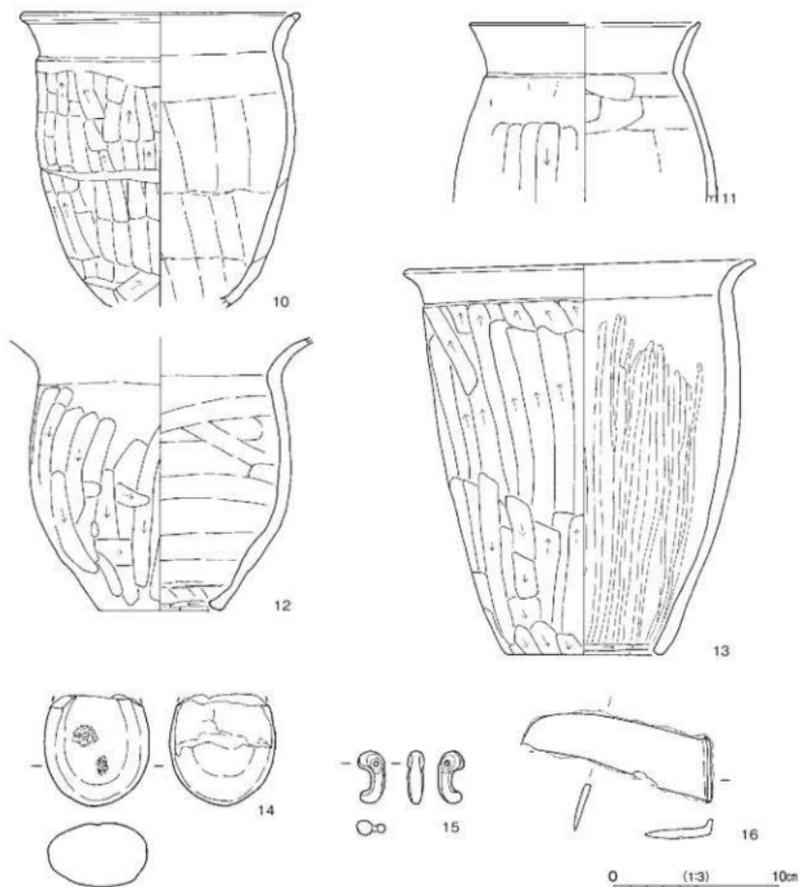
土層解説

1	10YR4-4	粘	ロ-ム小D'・粒C, 焼土粒D, 炭化粒D' / 粘B, 雜B	9	10YR4-6	粘	ロ-ム小D・粒C, 焼土粒C, 炭化粒D', 砂質粘土中C・小B・粒B / 粘B, 雜B
2	10YR3-4	粘	ロ-ム小D'・粒C, 焼土粒D, 炭化粒C' / 粘B, 雜B	10	10YR6-6	粘	ロ-ム粒C, 焼土中C・小B・粒A, 炭化粒D', 砂質粘土粒C' / 粘B, 雜C
3	10YR3-3	黄	ロ-ム小D'・粒D, 焼土粒D', 炭化粒D' / 粘B, 雜B	11	10YR4-6	粘	ロ-ム粒A, 焼土小D・粒C, 炭化粒D' / 粘B, 雜B
4	10YR5-6	黄	ロ-ム中B・粒B, 焼土小D'・粒D, 炭化粒D' / 粘B, 雜B	12	10YR5-4	粘	ロ-ム粒D, 焼土中B, 炭化粒B, 砂質粘土粒C' / 粘B, 雜B
5	10YR4-6	粘	ロ-ム中D・小C・粒C, 焼土粒D' / 粘B, 雜B	13	10YR3-2	黄	ロ-ム粒D, 焼土粒D, 炭化粒B, 砂質粘土粒D' / 粘B, 雜C
6	10YR4-3	粘	ロ-ム中D'・小C・粒C / 粘B, 雜B	14	10YR5-4	粘	焼土粒D, 砂質粘土粒A' / 粘B, 雜A
7	10YR3-4	粘	ロ-ム小D・粒B, 焼土粒D', 炭化粒D' / 粘B, 雜B	15	10YR3-3	粘	ロ-ム小D, 焼土小D, 炭化粒C' / 粘B, 雜B
8	10YR6-6	黄	砂質粘土中C・小B・粒B / 粘B, 雜B	16	10YR4-4	粘	ロ-ム粒B, 焼土粒D', 炭化粒D' / 粘B, 雜B

第26図 第2号竪穴建物跡実測図



第27図 第2号堅穴建物跡・出土遺物実測図



第 28 図 第 2 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 15 表 第 2 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 27・28 図)

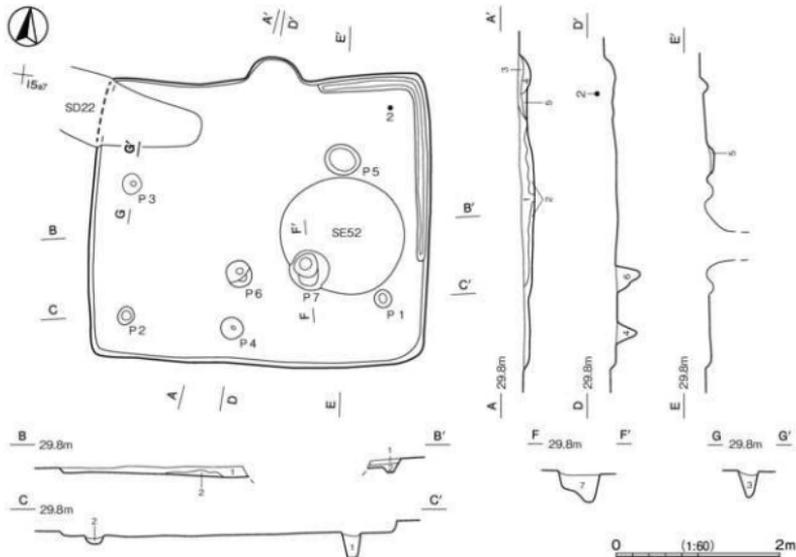
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.8	3.6	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線	床面	100% PL58
2	土師器	坏	11.8	4.1	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外・内面黒色処理	覆土上層	100% PL58
3	土師器	坏	12.1	4.3	-	長石・石英・ 赤色粒子	褐	普通	口縁部外・内面黒色処理	覆土上層	80% PL58
4	土師器	碗	[15.6]	7.1	-	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内面黒色処理の痕跡	覆土中層	50%
5	土師器	碗	17.3	(6.6)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理	床面	70% PL58
6	土師器	高坏	[10.8]	(6.2)	-	長石・石英	に赤い 赤褐	普通	口唇部内面沈線 脚部内面黒色処理	覆土中	20%
7	土師器	貯台	[9.8]	(4.3)	-	長石・石英	に赤い 赤褐	良好	外・内面黒色処理	覆土上層	20% PL102
8	須恵器	横板	-	-	-	長石・石英・雲母	灰	良好	外面平行叩き・ホキ目 内面同心円状当て具痕	覆土下層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
9	土師器	甕	[170]	[104]	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	外・内面ナテ	覆土下層	10%
10	土師器	甕	167	[180]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面輪轆痕残る	龍左箱	80% PL58
11	土師器	甕	[140]	[110]	-	長石・石英・糠殻	にぶい橙	普通	外面煤付着	覆土下層	10%
12	土師器	瓶	-	[167]	7.3	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面煤付着 内面僅かに潤滑する 無底式	覆土下層	30%
13	土師器	瓶	21.1	24.2	9.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	無底式	覆土下層一床面	80% PL58
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
14	磨石	(6.9)	6.5	4.0	(206)	流紋岩	銀打痕あり		覆土下層		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考
15	石製勾玉	3.2	1.7	1.0	0.4	7.48	蛇紋岩	内側から穿孔		覆土中層	PL104
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
16	鎌	(11.7)	5.4	0.3	(47.60)	鉄	先端部・刃部僅かに欠損		覆土上層	PL105	

第3号竪穴建物跡 (第29・30図 PL 6)

位置 調査区北東部のI 5a7区。標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第29号竪穴建物跡を掘り込み、第52号井戸、第22号溝に掘り込まれている。



土層解説

- | | | | |
|---------------|------------------|---------------|------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒C、焼土粒D、粘B、雜B | 4 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒D、焼土小D、粘B、雜B |
| 2 10YR4/4 黄 | ローム小C、粒C、粘A | 5 10YR4/4 黄 | ローム粒B、焼土粒D、粘B、雜B |
| 3 10YR3/2 茶褐色 | ローム粒D、焼土粒D、粘B、雜B | | |

ピット土層解説 (高ビッド列)

- | | | | |
|---------------|-----------------------|---------------|-----------------------|
| 1 10YR4/2 灰褐色 | ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D、粘B、雜B | 5 10YR3/2 茶褐色 | ローム小C、粒B、粘B、雜B |
| 2 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒D、粘B、雜B | 6 10YR2/2 赤褐色 | ローム小D、粒D、粘B、雜B |
| 3 10YR3/4 暗褐色 | ローム小C、粒D、粘B、雜B | 7 10YR4/2 灰褐色 | ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D、粘B、雜B |
| 4 10YR4/4 黄 | ローム小C、粒B、焼土粒D、粘B、雜B | | |

第29図 第3号竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸4.12m、短軸3.58mの長方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は12cmで、外傾している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。北東部の一部のみ壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されていた痕跡を確認した。遺存状況が悪く、規模は不明である。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に25cmほど掘り込まれ、火床部から緩斜して立ち上がっている。

ピット 7か所。P1～P3は深さ8～34cmで、配置から主柱穴の可能性がある。北東部の主柱穴は精査したが確認できなかった。P4は深さ24cmで、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P5～P7は深さ8～40cmで、性格不明である。P7は第52号井戸跡にともなう可能性がある。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。第3～5層は竈付近の堆積であり、竈に関連する堆積土の可能性がある。

遺物出土状況 土師器片61点(坏41、高坏1、甕19)のほか、混入した土師質土器片1点(内耳鍋)が出土している。2は、北東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第30図 第3号竈穴建物跡出土遺物実測図

第16表 第3号竈穴建物跡出土遺物一覧(第30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(35)	-	長石・赤色胎子	橙	普通	外・内面黒色処理	覆土中	10%
2	土師器	高坏	-	(52)	-	長石・石灰	にぶい濁	良好	坏部内面放射状ヘラ磨き 外・内面黒色処理	覆土上層	10%

第4号竈穴建物跡(第31・32図 PL6)

位置 調査区北東部のI6b5区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第12号竈穴建物跡、第24号土坑を掘り込んでいる。

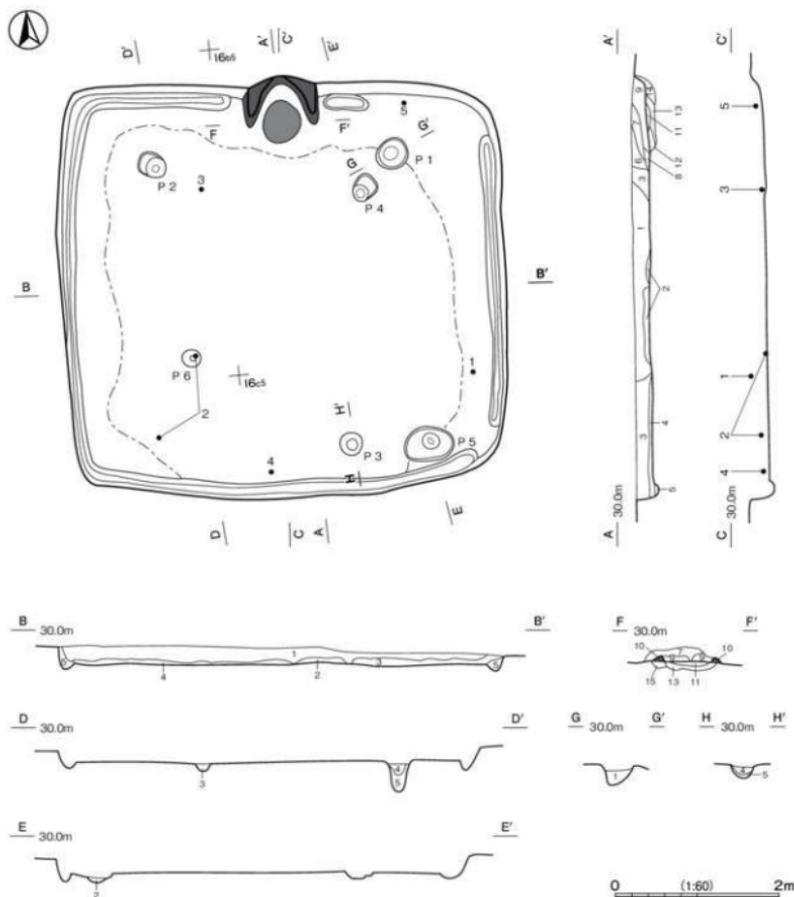
規模と形状 長軸5.38m、短軸5.02mの方形で、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は18～22cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈前面から南部の壁際にかけて、踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで92cmで、燃焼部幅は71cmである。竈は、地山を10cmほど掘りくほめ、ローム粒子を含む第12～15層を埋土して整地されている。袖部は地山と整地面の上に、ローム粒子や砂質粘土を含む第10層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に14cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第6～9層は竈に関連する堆積土で、第11層は竈使用中、火床部に堆積した土である。

ピット 6か所。P1・P2は深さ25・40cmで、南部の柱穴は確認できなかったが、配置から主柱穴と考えられる。P3は深さ20cmで、南壁際のほぼ中央部に位置することから出入口施設に伴うピットと考えられる。P4～P6は深さ6～8cmで、性格不明である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。



土層解説

1 10YR4/3	ローム中C・小B・粒B、焼土中C・小C・粒D、炭化粒C	8 10YR4/3	ローム粒B、焼土中C、砂質粘土粒B/粘C、練A
2 10YR4/6	ローム中B・小B・粒A、焼土小C/粘B、練A	9 5YR4/3	ローム粒B、焼土中B・小B、砂質粘土粒C/粘B、練B
3 10YR3/4	ローム中C・小B・粒B、焼土中C・小B・粒C、炭化粒C	10 10YR5/4	ローム粒C、焼土小C、砂質粘土粒B/粘B、練B
4 10YR3/3	ローム中C・小B・粒B/粘B、練A	11 5YR4/6	ローム粒C、焼土粒C、砂質粘土粒C/粘B、練B
5 10YR4/4	ローム中C・小B・粒A/粘B、練B	12 10YR2/2	ローム粒C、焼土粒C/粘B、練B
6 5YR3/4	ローム粒C、焼土中A・小A、砂質粘土粒C/粘B、練B	13 10YR4/4	ローム粒B、焼土中C・粘B、練B
7 10YR4/4	ローム粒B、焼土中C・小C、砂質粘土粒B/粘B、練A	14 10YR4/4	ローム粒C、焼土中C・粘B、練B
		15 10YR4/4	ローム粒A、焼土粒C/粘B、練B

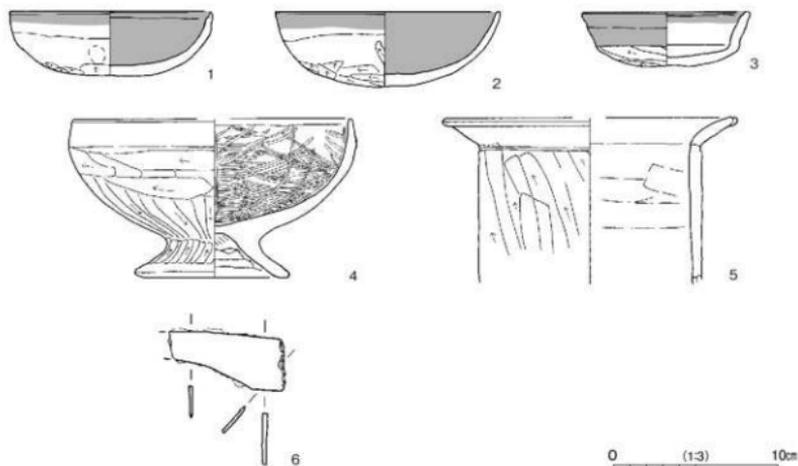
ピット土層解説(各ピット共通)

1 10YR2/3	道層	ローム小D・粒C、焼土小B・粒C、炭化粒D'/粘B、練B	4 10YR3/4	道層	ローム粒D'、焼土粒D'、炭化粒D'/粘B、練B
2 10YR2/3	道層	ローム小C・粒D、焼土粒D'、炭化粒D'/粘B、練B	5 10YR4/4	道層	ローム小D・粒B/粘B、練B
3 10YR3/3	道層	ローム小C・粒D、焼土粒D、炭化粒D'/粘B、練B			

第31図 第4号堅穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 393 点 (坏 112, 碗 5, 高坏 24, 鉢 2, 甕 250), 須恵器片 1 点 (甌), 金属製品 1 点 (鎌), 焼成粘土塊 11 点 (188.10g), 鉄滓 2 点 (75.73g) が出土している。完形に近い土師器が床面から覆土にかけて広く出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀第 2 四半期に比定できる。



第 32 図 第 4 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 17 表 第 4 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 32 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴		出土位置	備考
									口縁部内面沈線	口縁部外面・内面黒色処理		
1	土師器	坏	123	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面沈線	口縁部外面・内面黒色処理	覆土上層	90% PL58
2	土師器	坏	136	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理		床面・覆土下層	100%
3	土師器	坏	10.1	3.4	2.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面沈線	口縁部外・内面黒色処理	覆土下層	90% PL59
4	土師器	高坏	[17.0]	9.7	9.0	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内面沈線	坏部内面放射状へう磨き	覆土下層	60% PL59
5	土師器	甕	[17.8]	(10.2)	-	長石・石英・赤色・細粒	にぶい赤褐	良好	口縁部内面沈線	外面へう磨り 内面ナデ	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	鎌	(7.1)	(3.6)	(0.3)	(22.56)	鉄	先端部欠損	覆土中	PL105

第 5 号竪穴建物跡 (第 33・34 図 PL 6)

位置 調査区北東部の I 6 区画, 標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 3・4 号土坑, 第 3 号堀, 第 4 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 西部が重複しているため, 長軸は 4.41 m, 確認できた短軸は 4.27 m である。形状から主軸方向は N-0° の方形と推定できる。壁高は 7~12cm で, 外傾している。

床 平坦で, ほほ全面が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

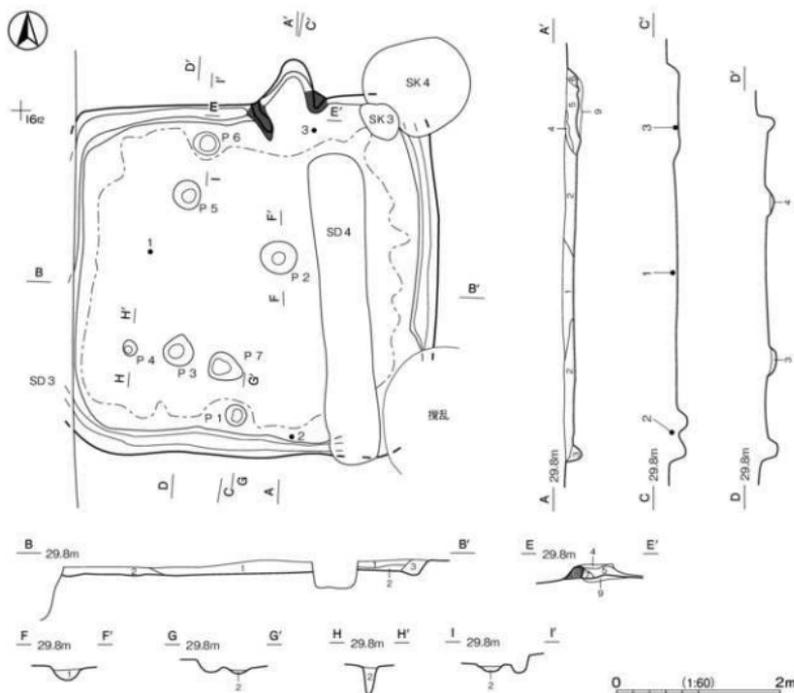
竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで115cmで、燃焼部幅は55cmである。竈は、地山を8cmほど掘りくぼめ、ロームブロックを含む第9層を埋土して整地されている。軸部は地山の上に、ローム粒子や砂質粘土を含む第8層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に52cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第4～7層は竈に関連する堆積土である。

ピット 7か所。P1は深さ10cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P2～P7は深さ8～36cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片517点(坏386, 鉢2, 甕129), 須恵器片1点(坏), 金属製品1点(鉄鏃)が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



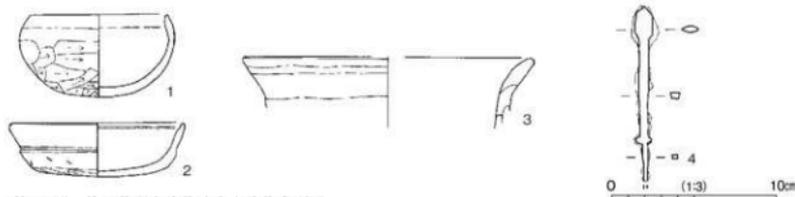
土層解説

1 10YR3/4 暗褐色	ローム小B・粒B, 焼土中C・小C・粒D/粘B, 雜B	6 10YR3/4 暗褐色	ローム粒C, 焼土小D, 炭化粒D', 砂質粘土粒D'/粘B, 雜B
2 10YR4/3 赤褐色	ローム中C・小B・粒B, 焼土中C・小C・粒D/粘B, 雜A	7 10YR3/4 暗褐色	ローム粒D, 焼土小C, 炭化粒D', 砂質粘土粒C/粘B, 雜B
3 10YR3/4 暗褐色	ローム小B・粒B, 焼土小D/粘B, 雜B	8 10YR4/6 暗褐色	ローム粒C, 焼土小D, 砂質粘土粒B, 粘B
4 10YR3/3 暗褐色	ローム粒C, 焼土小B, 炭化粒C, 砂質粘土粒D/粘B, 雜B	9 10YR4/4 暗褐色	ローム小D, 炭化粒D'/粘B, 雜B
5 10YR3/3 暗褐色	ローム粒D, 焼土小C, 炭化粒D, 砂質粘土粒D/粘B, 雜B		

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 10YR3/2 赤褐色	ローム小D, 焼土小D'/粘B, 雜B	3 10YR3/2 赤褐色	ローム粒D, 炭化粒D'/粘B, 雜B
2 10YR3/2 赤褐色	ローム粒D/粘B, 雜B	4 10YR3/2 赤褐色	ローム粒D, 焼土小D, 炭化粒D'/粘B, 雜B

第33図 第5号竈穴遺跡実測図



第34図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図

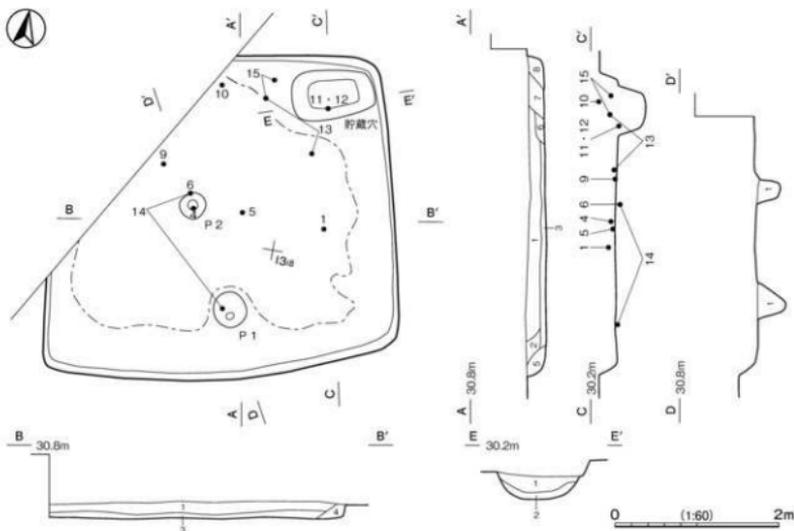
第18表 第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	8.4	5.0	-	長石・石英、 茶母、黒色粒子	にぶい 黄澄	普通	口縁部内面黒色処理の痕跡	覆土下層	60% PL59
2	土師器	坏	10.4	3.3	-	長石・石英、 赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈積	覆土下層	90%
3	土師器	甕	□7.4	(4.3)	-	長石・石英	にぶい濁	普通	外・内面ナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	鉄鏃	(10.7)	1.1	0.5	(10.23)	鉄	基部先端欠損	覆土上層	PL105

第6号竪穴建物跡(第35～37図 PL 6)

位置 調査区西部のI3i7区、標高30mほどの微高地上に位置している。



土層解説

- 1 10YR3/3 暗黒 ローム小D・粒D/粘B、雜B
- 2 10YR3/3 暗黒 ローム中D'・小D・粒D/粘B、雜B
- 3 10YR4/3 C₂-粘 ローム大D'・中C'・小C'・粒B、粘B、雜B
- 4 10YR4/4 粘 ローム大D'・中C'・小B'・粒B、焼土粒D'・粘B、雜B
- 5 10YR4/4 粘 ローム粒D、焼土小D'・粒D、炭化粒D' / 粘B、雜B
- 6 10YR3/3 暗黒 ローム粒D、焼土小D'・粒C、炭化粒D'、粘B、雜B
- 7 10YR4/3 C₂-粘 ローム小D'・粒B、焼土小D'・粒B、炭化粒D' / 粘B、雜B
- 8 10YR4/3 C₂-粘 ローム中D'・小D'・粒B、焼土小D'・粒B、炭化粒D' / 粘B、雜B

ビット土層解説(各ビット共通)

- 1 10YR3/4 暗黒 ローム小D・粒C/粘B、雜B

貯蔵穴土層解説

- 1 10YR2/2 黒黒 ローム小C'・粒B、焼土中D'・小C'・粒C、炭化粒D' / 粘B、雜B
- 2 10YR3/3 暗黒 ローム中D'・小D'・粒C、焼土小D'・粒C、炭化粒D' / 粘B、雜B

第35図 第6号竪穴建物跡実測図

規模と形状 北西部が調査区域外へ延びているため、推定される形状は、長軸 4.24 m、短軸 3.95 m の方で、主軸方向は N-14°-W である。壁高は 22cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

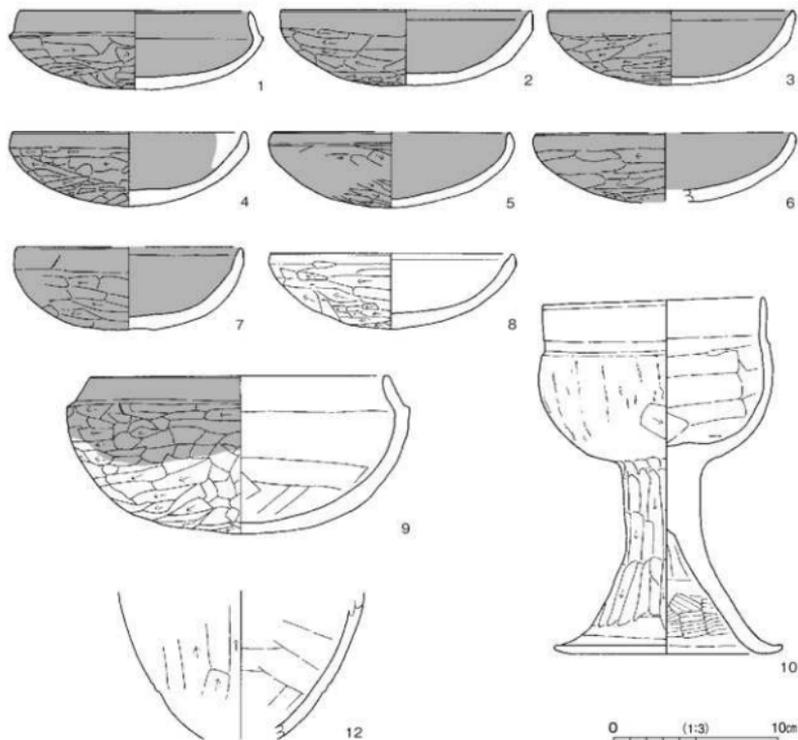
ピット 2か所。P1 は深さ 35cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P2 は深さ 30cm で、性格不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置しており、長軸 100cm、短軸 60cm の隅丸長方形である。深さは 30cm ほど、底面は皿状で、壁は外傾している。2層に分層でき、ロームブロックや焼土粒子などが含まれていることから人為堆積である。

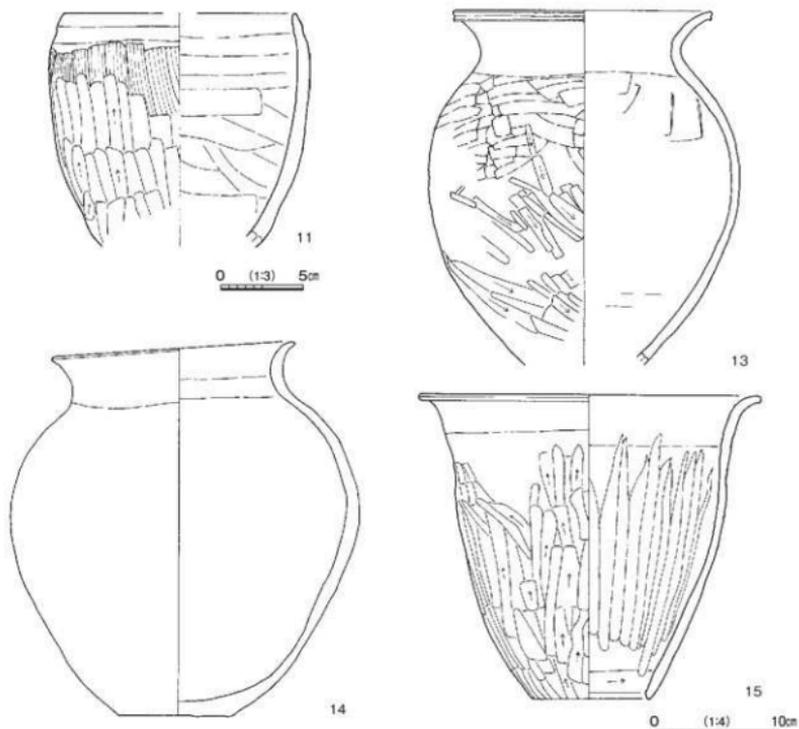
覆土 8層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 264 点（坏 208、鉢 1、脚付鉢 1、甕 53、瓶 1）が出土している。1 は東部、4 は P2 直上、5 は中央部、9 は北西部の床面から覆土下層にかけて、それぞれ出土している。10 は北壁際の覆土上層から斜位で、11・12 は貯蔵穴の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀第 4 四半期に比定できる。



第 36 図 第 6 号堅穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 37 図 第 6 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 19 表 第 6 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 36・37 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.1	4.8	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面黑色処理 口縁部摩耗	覆土下層	90% PL59
2	土師器	坏	15.2	4.7	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面黑色処理 口唇部内面弱い横線 内面縦筋状剥離点在	覆土中	90% PL59
3	土師器	坏	15.0	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外・内面黑色処理 口唇部内面弱い横線	覆土中	60%
4	土師器	坏	14.1	4.5	-	長石・石英	橙	普通	外・内面黑色処理 口縁部摩耗	覆土下層	90% PL59
5	土師器	坏	[14.4]	4.7	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面黑色処理 口縁部摩耗	床面	50% PL59
6	土師器	坏	[15.5]	(4.2)	-	長石・石英	橙	普通	外・内面黑色処理 内面縦筋状剥離点在	床面	40%
7	土師器	坏	[13.8]	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面黑色処理	覆土中	50%
8	土師器	坏	14.8	4.6	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面弱い横線 口縁部摩耗 内面縦筋状剥離点在	覆土中	90% PL59
9	土師器	鉢	17.8	9.7	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面黑色処理 底部黒線 内面縦筋状剥離点在	床面	100% PL59
10	土師器	脚付鉢	13.3	22.1	14.0	長石・石英	橙	普通	底面外面一部弱いヘラ削り 胴部外面ヘラ削り 胴部内面ヘラ目調整	覆土上層	90% PL59
11	土師器	甕	[14.0]	(14.5)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口縁部外面ナデ 体部外面ヘラ目調整後、ヘラ削り 内面ヘラナデ	貯蔵穴 覆土上層	20%
12	土師器	甕	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	体部内面ヘラ削り 外面底部付近摩滅、剥離し 磨整不明 内面ヘラナデ	貯蔵穴 覆土上層	10%
13	土師器	甕	20.6	(28.6)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外・内面下半摩滅、剥離	体部内 覆土中層	90% PL60
14	土師器	甕	19.1	30.2	9.1	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 胴部外面摩滅により調整不明	体部内 P-2 覆土上層	70% PL60
15	土師器	瓶	27.3	24.5	9.4	長石・石英	橙	普通	体部内面やや弱い磨き 無底式	覆土中層	90% PL60

第7号竪穴建物跡 (第38・39図 PL 7)

位置 調査区中央部のJ 6a区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸2.64m、短軸2.58mの方形で、主軸方向はN-9'-Wである。壁高は20cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南壁の一部を除き壁溝が巡っている。

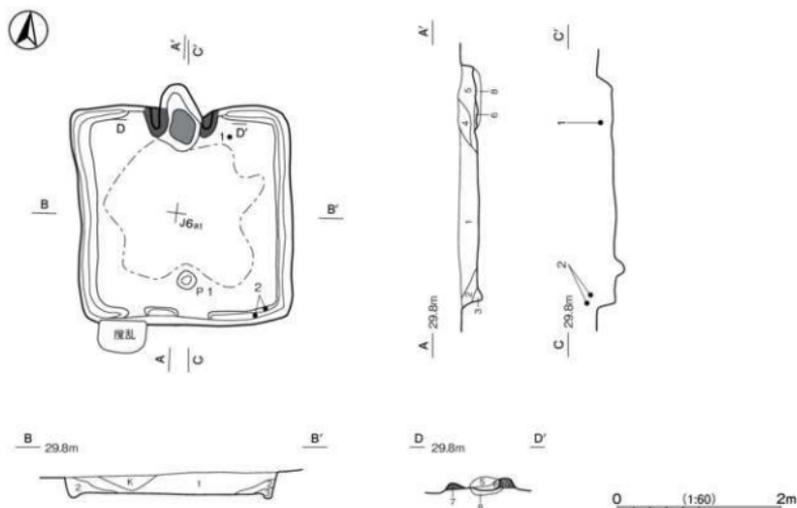
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで82cmで、燃焼部幅は42cmである。竈は、地山を10cmほど掘りくぼめ、ローム粒子を含む第8層を埋土して整地されている。袖部は地山と整地面の上に、砂質粘土を含む第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に26cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第4～6層は竈に関連する堆積土である。

ピット P 1は深さ10cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片207点(坏174, 鉢2, 甕31), 須恵器片4点(甕), 石器1点(磨石)が出土している。1は北部の覆土中層から正位で、2は南東コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

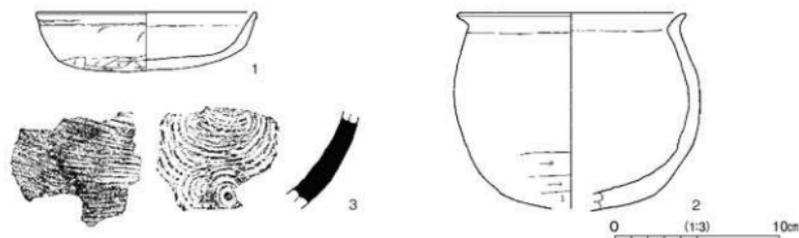
所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



土層解説

1	10YR2/2	黒褐色	ローム中D・小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B	5	10YR3/3	暗褐色	ローム小C・粒C、焼土中D'・小C・粒B、炭化粒D'/粘B、雜B
2	10YR3/3	暗褐色	ローム小D・粒C/粘B、雜B	6	25YR4/6	赤褐色	ローム小C・粒B、焼土大D・中B・小B・粒A、炭化粒D/粘B、雜B
3	10YR3/3	暗褐色	ローム粒C/粘B、雜B	7	10YR4/3	暗褐色	焼土粒D'、砂質粘土粒A、粘B、雜A
4	10YR3/3	暗褐色	ローム中D・小C・粒B、焼土小C・粒C、炭化粒D'/粘B、雜B	8	10YR4/3	暗褐色	ローム粒C、焼土粒D、炭化粒C/粘B、雜B

第38図 第7号竪穴建物跡実測図



第39図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図

第20表 第7号竪穴建物跡出土遺物一覧(第39図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	134	37	-	灰石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面2条の沈線 口縁部外面・内面黒色 底面の痕跡	覆土中層	90% PL60
2	土師器	鉢	138	(121)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面短痕状調離着しく調整不明瞭 底部外面へ之張り	覆土上層	60% PL60
3	須恵器	甕	-	(58)	-	長石	灰白	普通	外面横位平打叩き 内面同心円状当て具痕	覆土中	5%

第8号竪穴建物跡(第40・41図 PL7)

位置 調査区北東部の16d3区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸5.08m、短軸4.90mの方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は14~28cmで、外傾している。

床 平坦で、壁際を除くほぼ全面が踏み固められている。壁溝が全周している。

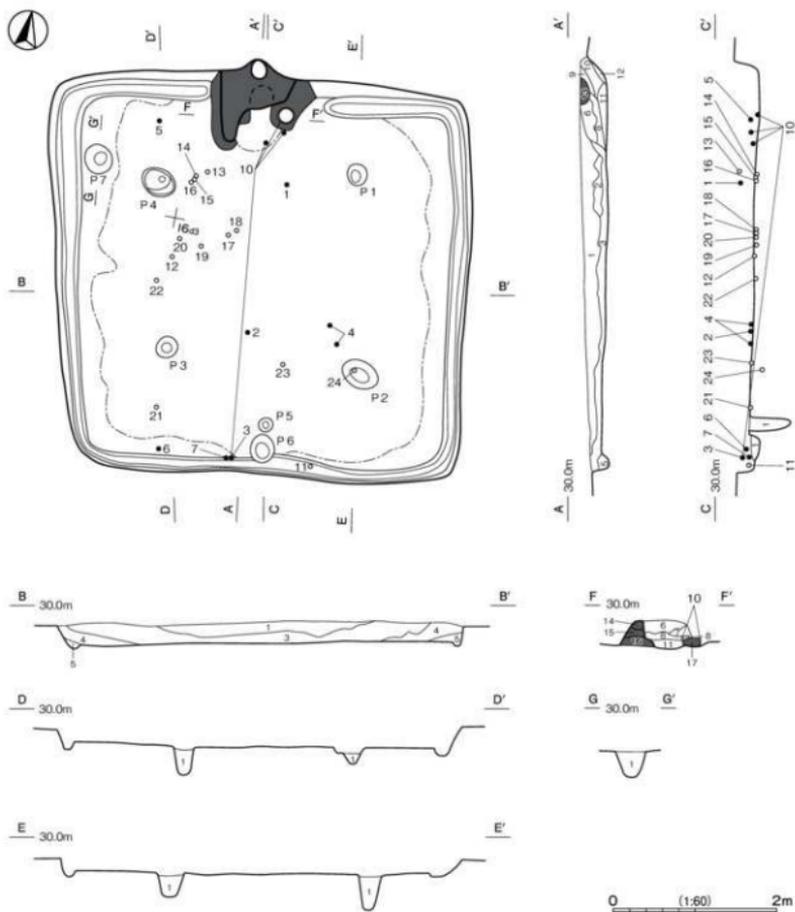
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで114cmで、燃焼部幅は27cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第14~17層を積み上げて構築されている。両袖部では芯材として土師器の甕が倒置して使用されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に16cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第13層は天井部で一部が残存し、煙道部内壁は火熱を受け赤変硬化している。第6~12層は竈に関連する堆積土である。第9・10層は煙道部からの流入土で、煙出部は径20cmほどである。

ピット 7か所。P1~P4は深さ22~45cmで、配置から支柱穴である。P5・P6は深さ50・15cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ32cmで、性格不明である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片1,736点(坏1,418, 碗1, 高坏9, 鉢10, 甕298), 土製品13点(土玉), 石製品1点(勾玉), 焼成粘土塊6点(34.06g)が出土している。2・5~7はほぼ完形の状態でも床面から覆土下層にかけて出土している。10は竈右袖部の芯材である。その破片が竈前及び南壁際から出土しているため、廃絶時に竈右袖が破壊されたと考えられる。11・12・14~23は南部から北西部を中心に、床面から覆土下層にかけてそれぞれ出土している。24はP2の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



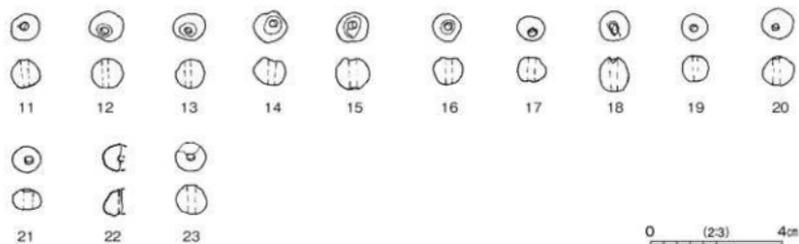
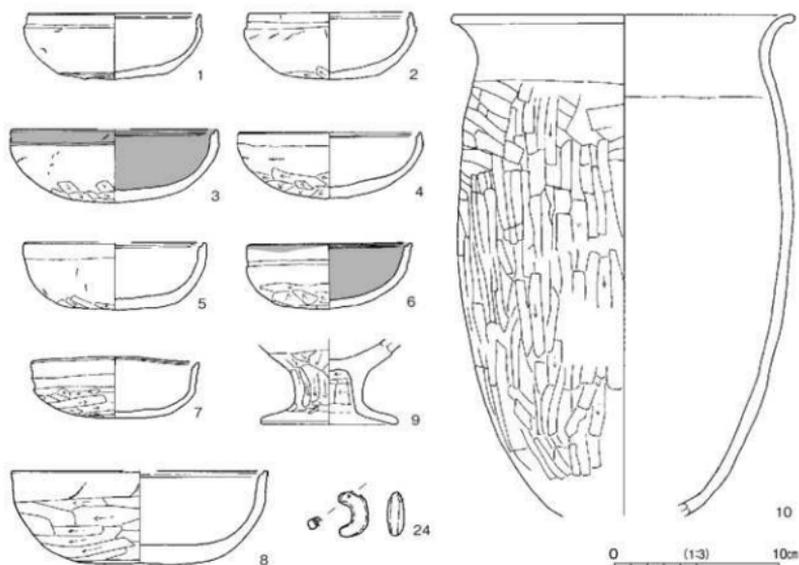
土層解説

- | | | | | | |
|-----------|-----|--------------------------------|------------|-----|-------------------------------|
| 1 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム中C・粒C、焼土小D・粒C/粘B、雜土 | 9 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土小孔、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘B、雜土 |
| 2 10YR4/3 | 灰褐色 | ローム中B・小B・粒B、焼土小B・粒C、炭化粒D/粘B、雜土 | 10 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒C、焼土小C/粘B、雜土 |
| 3 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム中D・小C・粒C、焼土大D・中C/粘B、雜土 | 11 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土小D・粒D、炭化物D/粘B、雜土 |
| 4 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム中B・小B・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜土 | 12 10YR3/2 | 黄褐色 | 焼土小C・粒D、炭化粒D、砂質粘土粒D/粘B、雜土 |
| 5 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム中C・小B・粒B、焼土粒D/粘B、雜土 | 13 10YR5/4 | 灰褐色 | ローム粒C、焼土粒C、砂質粘土大D・中B・小B/粘B、雜土 |
| 6 10YR4/4 | 褐色 | ローム粒C、焼土小C・粒C、砂質粘土粒C/粘B、雜土 | 14 10YR5/4 | 灰褐色 | ローム粒C、焼土粒C、砂質粘土中C・小B・粒B/粘B、雜土 |
| 7 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土粒D、砂質粘土粒D/粘B、雜土 | 15 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土粒D、砂質粘土粒D/粘B、雜土 |
| 8 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土小C、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜土 | 16 10YR5/4 | 灰褐色 | ローム粒B、焼土小C、炭化物D、砂質粘土粒C/粘B、雜土 |
| | | | 17 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土中C、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜土 |

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YR4/3 灰褐色 ローム大C・中B・小B・粒A/粘B、雜土

第40図 第8号堅穴建物跡実測図



第41図 第8号竪穴建物跡出土遺物実測図

第21表 第8号竪穴建物跡出土遺物一覧(第41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.3	4.0	-	長石・石英	灰白	普通	口唇部内面割い沈線	覆土中層	100% PL60
2	土師器	坏	10.0	4.1	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口唇部内面沈線	床面	90% PL60
3	土師器	坏	[12.6]	4.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黑色処理	覆土中層	40%
4	土師器	坏	11.1	4.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面割い沈線	床面	60%
5	土師器	坏	[11.0]	4.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土下層	70%
6	土師器	坏	10.0	4.0	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黑色処理	覆土下層	100% PL60
7	土師器	坏	10.2	3.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面割い沈線 口縁部外面・内面黑色処理の痕跡	覆土下層	100% PL60
8	土師器	椀	[15.6]	5.8	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口唇部内面沈線	覆土下層	40%
9	土師器	高坏	-	(5.2)	(8.2)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	坏部内面ナテ	覆土下層	40%
10	土師器	甕	20.7	(30.8)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤黒	普通	体部外面へツ脣り 体部内面割落激しい	敷地部 覆土下層	60% PL102

番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
11	土玉	09	09	0.2	0.75	長石・石英	黒灰	一方向から穿孔	覆土下層	PL99
12	土玉	1.0	09	0.2	0.91	長石・石英	黒灰	一方向から穿孔	床面	PL99
13	土玉	0.8	09	0.2	0.79	長石・石英	黒灰	一方向から穿孔	覆土下層	PL99
14	土玉	1.0	09	0.2	0.83	長石	灰褐	一方向から穿孔	床面	PL99
15	土玉	1.0	1.0	0.2	0.94	長石	灰褐	一方向から穿孔	床面	PL99
16	土玉	09	0.8	0.2	0.65	長石	にぶい橙	一方向から穿孔	床面	PL99
17	土玉	09	0.7	0.2	0.54	長石	黄灰	一方向から穿孔	床面	PL99
18	土玉	09	1.0	0.2	1.04	長石	にぶい赤褐	一方向から穿孔	床面	PL99
19	土玉	0.8	0.7	0.2	0.62	長石・石英	黒灰	一方向から穿孔	床面	PL99
20	土玉	1.0	09	0.2	0.83	長石	灰褐	一方向から穿孔	床面	PL99
21	土玉	09	0.6	0.3	0.51	長石	灰褐	一方向から穿孔	床面	PL99
22	土玉	09	0.9	(0.1)	(0.80)	長石	黒褐	一方向から穿孔	床面	
23	土玉	09	0.9	0.2	(0.72)	長石	灰褐	一方向から穿孔	床面	PL99

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
24	土製瓦玉	2.8	1.8	0.9	0.1	(4.15)	長石・石英	黒褐	一方向から穿孔	P 2 覆土中層	PL103

第9号竪穴建物跡 (第42・43図 PL 7)

位置 調査区北東部のI 6cl区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第2・3号堀に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.62m、短軸4.17mの長方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は18～30cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。北西コーナー部に焼土を確認した。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで110cmで、燃焼部幅42cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第14～16層を積み上げて構築されている。両袖部では補強材として土師器の甕が縦に二分され、逆位で使用されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第13層は天井部で、一部が残存し、煙道部内壁は火熱を受け赤変硬化している。第7～12層は竈に関連する堆積土である。第9・10層は煙道部からの流入土で、煙出口は径18cmほどである。

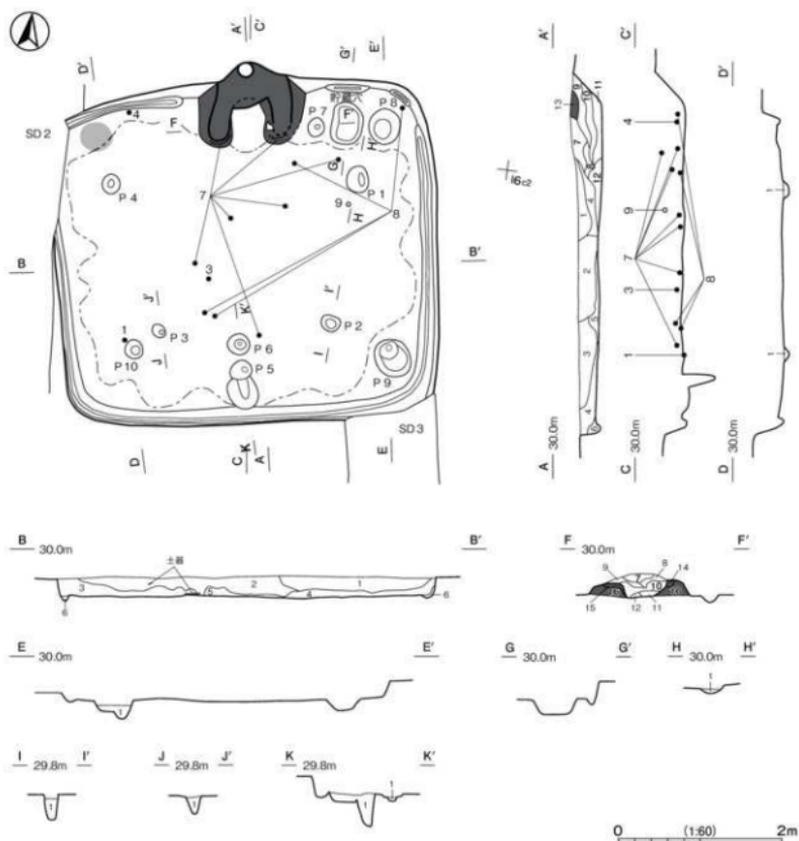
ピット 10か所。P1～P4は深さ8～32cmで、配置から主柱穴である。P5・P6は深さ42・6cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P7～P10は深さ6～24cmで、性格不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置しており、長軸52cm、短軸39cmの隅丸長方形である。深さは18cmほど、底面は平坦で、壁は外傾している。

覆土 6層に分層できる。焼土ブロックやロームブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片741点(坏611、高坏1、甕126、甌3)、須恵器片4点(坏2、瓶1、甕1)、土製品1点(土玉)、焼成粘土塊17点(69.22g)が出土している。遺物は床面から覆土中層まで広く出土している。7は竈袖部の補強材であり、竈周辺から南部にかけての床面に散在して出土しているため、廃絶時に竈の掛け口部から袖部にかけての範囲が破壊されたと考えられる。1は南西部、3は中央部、4は北壁際の床面から覆土下層にかけてそれぞれ出土している。8は北東コーナー部から中央部にかけて散在して出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。床面で確認した焼土は、床面が赤変していないことから、廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。



土層解説

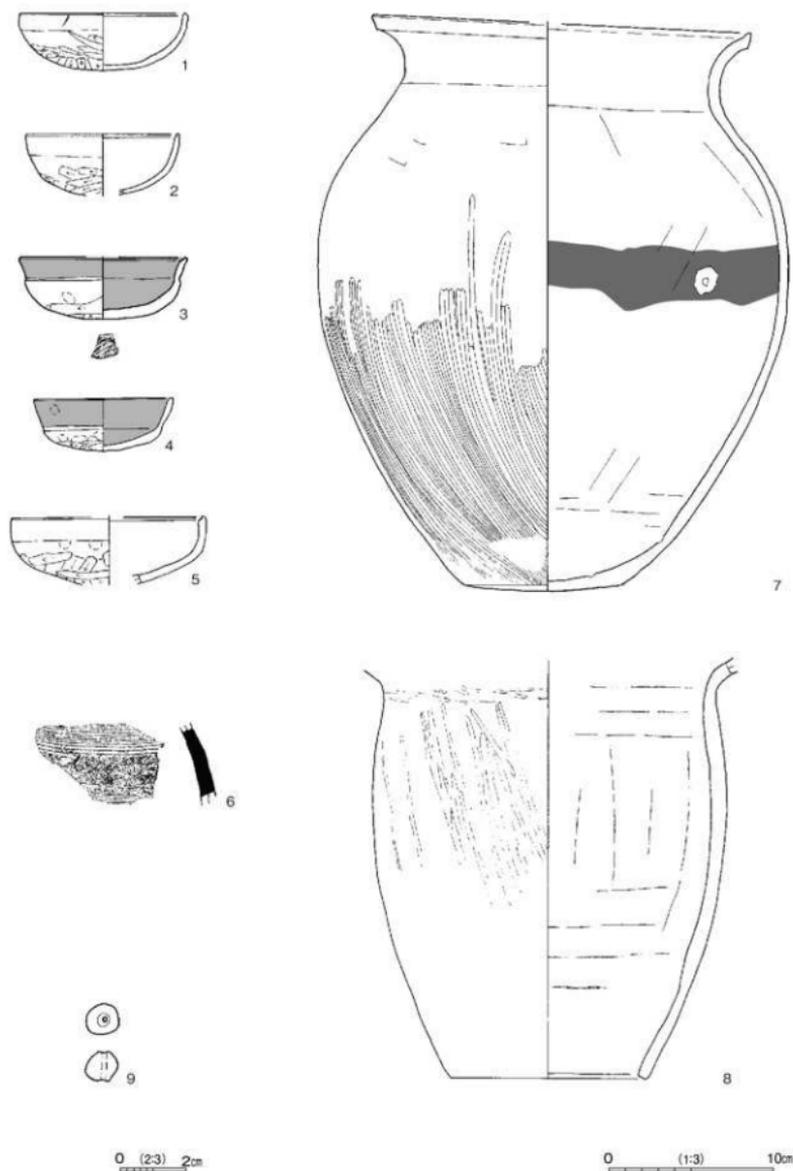
- 1 10YR4-3 Ⅱa-Ⅲ rome中C・粒B、焼土中C・小C・粒D/粘B、雜B
 2 10YR4-4 Ⅲ rome中B・粒B、焼土粒D/粘B、雜B
 3 10YR3-3 Ⅲ rome小B・粒B、焼土粒D/粘B、雜B
 4 10YR4-4 Ⅲ rome小B・粒B、焼土中B・小C/粘B、雜B
 5 10YR4-6 Ⅲ rome中B・粒A、焼土中B・小C/粘B、雜B
 6 10YR5-2 Ⅱa-Ⅲ rome大D・中B・小B・粒A、焼土粒D/粘B、雜A
 7 10YR3-4 Ⅲ rome大C・中B・小B・粒B、焼土小C・粒B、粘B、雜B
 8 7.5YR4-2 Ⅲ rome小B・粒B、焼土中B・粒B/粘B、雜B

- 9 10YR3-3 Ⅲ rome小B・粒B、焼土粒C/粘B、雜B
 10 7.5YR4-4 Ⅲ rome粒C、焼土大A・中B・小B/粘B、雜B
 11 7.5YR3-3 Ⅲ rome小A・粒B、焼土中B・小B/粘B、雜A
 12 10YR4-4 Ⅲ rome大A・中A・小B・粒C/粘B、雜B
 13 10YR5-4 Ⅱa-Ⅲ rome粒D、焼土小B、砂質粘土粒A/粘B、雜A
 14 5YR4-6 Ⅲ rome粒C、焼土中B、砂質粘土粒B/粘B、雜B
 15 5YR4-6 Ⅲ rome粒C、焼土中B、砂質粘土粒B/粘B、雜A
 16 10YR5-4 Ⅱa-Ⅲ rome粒D、焼土小D、砂質粘土粒A/粘B、雜A

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YR3-4 Ⅲ rome小B・粒B、焼土粒D/粘B、雜B

第42図 第9号竪穴建物跡実測図



第43图 第9号竖穴建物跡出土物実測図

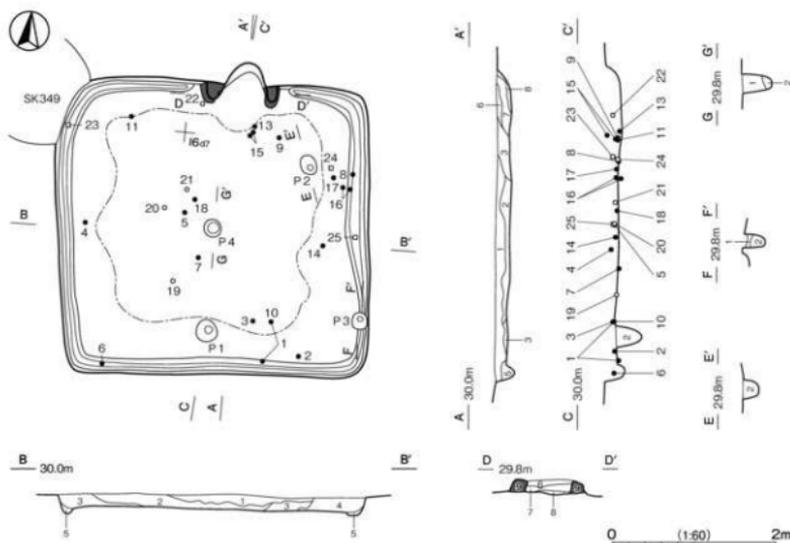
第22表 第9号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第43図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土脚器	坏	100	35	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面-内面ナデ	床面	60%
2	土脚器	坏	92	(38)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内面沈線 口縁部外面-内面ナデ	床面	40%
3	土脚器	坏	[100]	38	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面沈線 外面部頭破れる 口縁部外面-内面黒色処理	覆土下層	40%
4	土脚器	坏	84	33	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面部頭破れる 口縁部外面-内面黒色処理	覆土下層	100% PL61
5	土脚器	坏	[116]	(41)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部内面沈線 口縁部外面-内面黒色処理の粗線	覆土下層	50%
6	灰燼器	瓶	-	(53)	-	長石・石英	靑灰	良好	外面カキ目	覆土下層	5%
7	土脚器	甕	[227]	35.4	9.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外-内面ナデ 底部外面へツクリ 体部穿孔あり	覆土中層	60% PL61
8	土脚器	瓶	-	(25.7)	[120]	長石	橙	普通	外面摩滅し調整不明瞭 無底式	覆土下層	30%

番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
9	土玉	1.0	0.9	0.15	0.91	長石	にぶい靑	一方向から穿孔	覆土中層	

第10号竪穴建物跡 (第44~46図 PL.7・8)

位置 調査区東部の16d7区、標高30mほどの微高地上に位置している。



土層解説

- | | | | |
|----------------|---------------------------|----------------|------------------------|
| 1 10YK2-2 黒層 | ローム小C・粒C、焼土粒D/粘B、雜B | 6 5YR3-3 暗赤層 | ローム粒C、焼土中C・小C・粒B/粘B、雜B |
| 2 10YK3-2 黒層 | ローム小B・粒B、焼土中C・小B・粒D、粘B、雜B | 7 5YR4-4 暗赤層 | ローム小C・粒B、焼土小B・粒B/粘B、雜B |
| 3 10YK3-3 暗褐色層 | ローム小B・粒D、焼土小C・粒C/粘B、雜B | 8 10YK3-4 暗褐色層 | ローム粒C、焼土中C・小B・粒B/粘B、雜B |
| 4 10YK3-4 暗褐色層 | ローム中D・小B・粒A、焼土中C・小D、粘B、雜B | 9 10YK5-4 暗褐色層 | ローム粒C、焼土小C、粘土粒B、粘C |
| 5 10YK3-5 暗褐色層 | ローム中C・小B・粒B/粘B、雜B | | |

ピット土層解説 (赤ピット共通)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 10YK2-2 黒層 | ローム小B・粒B/粘B、雜B |
| 2 10YK3-4 暗褐色層 | ローム中B・小A・粒A、粘B、雜B |

第44図 第10号竪穴建物跡実測図

重複関係 第349号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.82m、短軸3.63mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は15cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

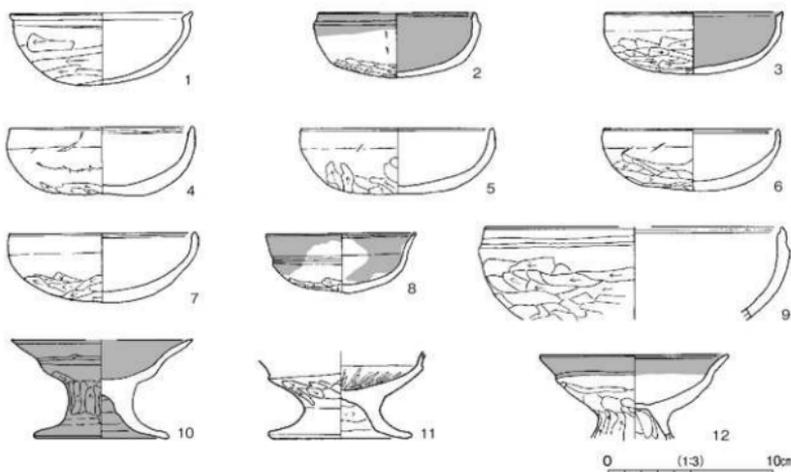
竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は55cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第9層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第6～8層は竈に関連する堆積土である。

ピット 4か所。P1は深さ35cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P2～P4は深さ20～35cmで、性格不明である。

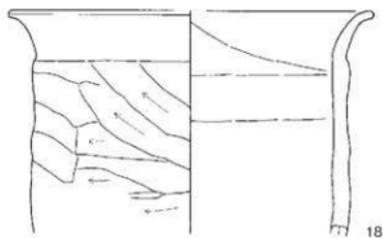
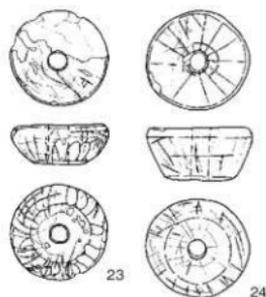
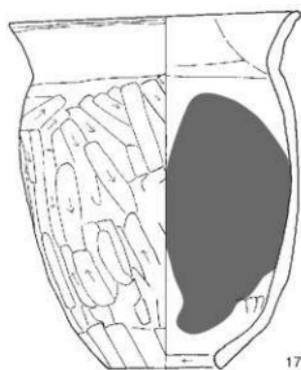
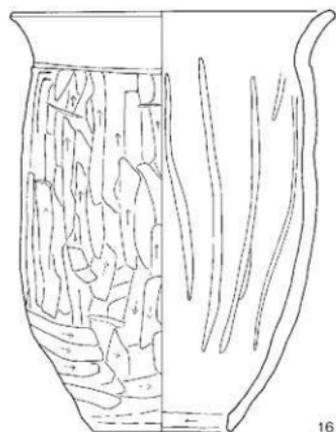
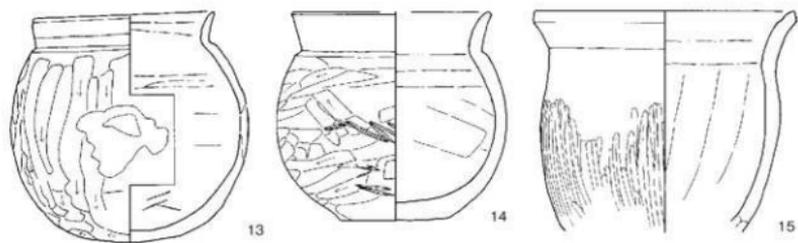
覆土 5層に分層できる。焼土ブロックやロームブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片551点(坏492、碗1、高坏3、鉢4、甕40、瓶11)、須恵器片1点(長頸瓶)、土製品4点(土玉)、石器3点(砥石1、紡錘車2)、石製品1点(勾玉)、焼成粘土塊2点(19.13g)が出土している。遺物は完形、破片を問わず、床面から覆土上層にかけて広く出土している。1～3・5・6は正位で、7は逆位で出土している。13・15は竈前部から、13の上に15がかぶさるように出土している。14は覆土下層から正位で出土している。13は体部、14は底部を内側から破砕されている。16・17は東壁近くの床面に、16の口縁部を17の胴部が塞ぐように横位でそれぞれ遺棄されていた(PL7)。24は東壁際の覆土下層から斜位で出土している。23は北西コーナー一部の壁際覆土中層から逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第45図 第10号竈穴建物跡出土遺物実測図(1)



0 (1:2) 4cm

0 (2:3) 2cm

0 (1:3) 10cm

第 46 图 第 10 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

第23表 第10号竪穴建物跡出土遺物一覧(第45・46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.0	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口唇部内面化粧 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	80%
2	土師器	坏	[94]	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面化粧 口縁部外面・内面黒色処理	床面	50%
3	土師器	坏	108	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面化粧 口縁部外面・内面黒色処理	床面	100% PL61
4	土師器	坏	112	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口唇部内面化粧	覆土中層	100% PL61
5	土師器	坏	117	4.0	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面化粧	覆土下層	70% PL61
6	土師器	坏	107	3.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口唇部内面内化粧	床面	100% PL61
7	土師器	坏	113	4.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口唇部内面化粧	床面	100% PL61
8	土師器	坏	9.1	3.6	-	長石・石英・赤色粒子・網織	橙	普通	口唇部内面化粧 口縁部外面・内面黒色処理	床面	100% PL61
9	土師器	碗	[180]	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面化粧	覆土下層	20%
10	土師器	高坏	[110]	6.0	[8.4]	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	外・内面黒色処理	床面	60% PL61
11	土師器	高坏	-	(5.3)	8.3	長石・石英・雲母	明細灰	普通	杯部内面放射状へう磨き 外・内面黒色処理の痕跡	床面	70%
12	土師器	高坏	11.5	(5.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口唇部内面化粧 口縁部外面・内面黒色処理	床面	60%
13	土師器	甕	109	14.1	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面炭化物付着 体部内面から穿孔の可能性	覆土下層	90% PL61
14	土師器	甕	[118]	12.8	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面工具痕 底部内面から穿孔の可能性	覆土下層	80% PL61
15	土師器	甕	156	(13.5)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面・内面ナゲ 体部下へう磨き	覆土下層	60%
16	土師器	瓶	194	25.9	8.3	長石・石英・雲母・赤色粒子・網織	にぶい橙	普通	口縁部外面ナゲ 体部外面へう磨き 体部内面へう磨き 無底式	床面	100% PL62
17	土師器	瓶	176	22.0	6.8	長石・石英・赤色粒子・網織	にぶい橙	普通	口縁部外面ナゲ 体部内面へう磨き 体部外面下層ナゲ 体部内面一部磨き付着 無底式	床面	90% PL62
18	土師器	瓶	[219]	(13.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	体部外面摩滅	床面	30%
番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
19	土玉	0.6	0.65	0.1	(0.22)	長石・石英	黒褐	一方向から穿孔	床面		
20	土玉	1.0	0.9	0.15	(0.78)	長石・石英	黒褐	一方向から穿孔	覆土下層		
21	土玉	0.6	0.6	0.1	(0.21)	長石・石英	黒褐	一方向から穿孔	覆土下層		
22	土玉	0.7	0.8	0.2	0.62	石英・赤色粒子	黒褐	一方向から穿孔	覆土中層		
番号	器種	上径	下径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
23	石製紡錘車	3.9	2.4	1.6	0.8	(3.29)	蛇紋岩	上・下・側面に縦割	覆土中層	PL100	
24	石製紡錘車	4.2	2.7	2.2	0.8	(3.887)	蛇紋岩	上・下・側面に縦割	覆土下層	PL100	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
25	石製勾玉	(22)	(1.7)	0.9	0.3	(4.43)	瑪瑙	両側から穿孔	覆土中層	PL104	

第11号竪穴建物跡(第47～49図 PL 8)

位置 調査区東部のI 6e4区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第5号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.84m、短軸4.81mの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は18cmで、外傾している。

床 平坦で、硬化面を確認したが、広がり把握できなかった。南西コーナーの一部を除き壁溝が巡っている。貼床は、全体を10cmほど掘りくぼめ、第21層を埋土して構築されている。

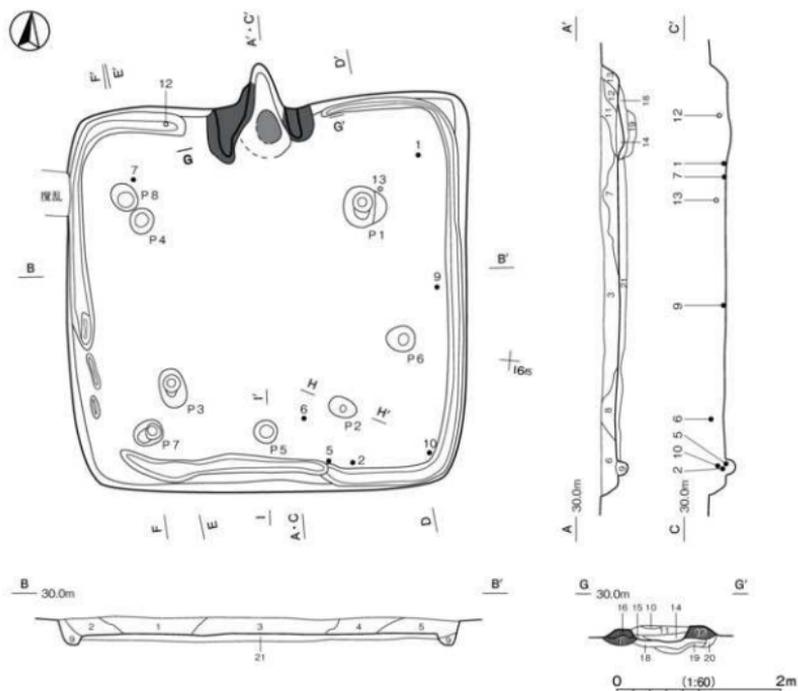
竪 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで116cmで、燃焼部幅は一部掘り過ぎのため26cmのみ確認できた。竪は、地山を17cmほど掘りくぼめ、ロームブロックや砂質粘土粒子などを含む第18～20層を埋土して整地されている。袖部は地山と整地面の上に、砂質粘土を含む第16・17層を積み上げて構築されている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第10～15層は竪に関連する堆積土である。

ピット 8か所。P1～P4は深さ25～55cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ24cmで、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P8は深さ25～27cmで、性格不明である。

覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片2462点(坏2,037, 椀20, 高坏16, 鉢78, 甕309, 瓶1, 手捏土器1), 須恵器片1点(瓶), 土製品5点(土玉1, 勾玉1, 支脚1, 不明土製品2), 石器1点(紡錘車), 金属製品3点(鎌2, 不明鉄製品1), 焼成粘土塊26点(22189g)が出土している。1・5・7は床面から、2は覆土下層から、6は覆土上層からそれぞれ正位で出土している。

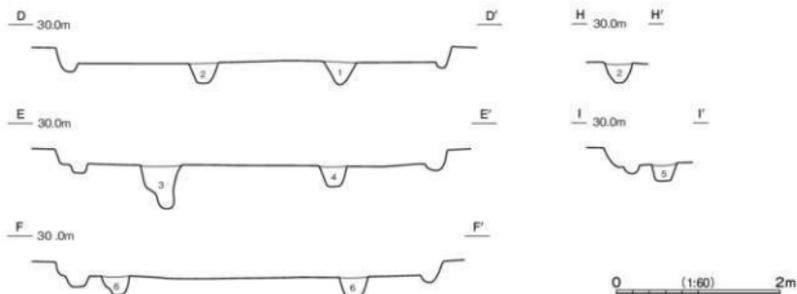
所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。柱穴の配置から拡張の可能性がある。



土層解説

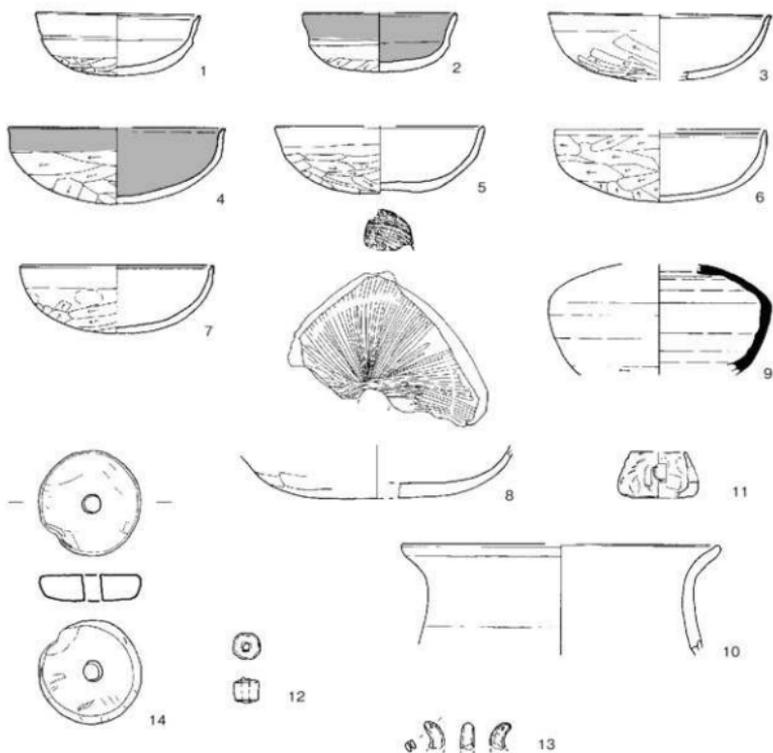
- | | | | |
|----------------|----------------------------|----------------|------------------------------|
| 1 10YR2-2 赤褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒D/粘B、礫B | 12 5YR4/3 土赤黄 | 焼土中C・小B・粒B、砂質粘土粒B/粘B、礫A |
| 2 10YR3-2 赤褐色 | ローム小B・粒B、焼土中C・小B・粒D/粘B、礫B | 13 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒C、焼土小C、砂質粘土粒B/粘B、礫B |
| 3 10YR3-3 暗褐色 | ローム小B・粒D、焼土小C・粒C/粘B、礫B | 14 10YR3/3 暗褐色 | ローム小D、焼土小C・粒D、砂質粘土粒C/粘B、礫B |
| 4 10YR3-4 暗褐色 | ローム中D・小B・粒A、焼土中C・小B・粘B、礫B | 15 5YR4-6 赤褐色 | 焼土中B・小B・粒B、砂質粘土粒A/粘B、礫B |
| 5 10YR3-5 暗褐色 | ローム中C・小B・粒B/粘B、礫B | 16 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒C、焼土粒D、粘B、礫B |
| 6 5YR3-3 暗赤褐色 | ローム粒C、焼土中C・小C・粒B/粘B、礫B | 17 10YR5-4 土赤黄 | ローム粒C、焼土小C、砂質粘土粒B/粘B、礫A |
| 7 5YR4-4 土赤黄 | ローム小C・粒B、焼土小B・粒B/粘B、礫B | 18 10YR5-4 土赤黄 | ローム小D、焼土粒D、砂質粘土粒B/粘B、礫A |
| 8 10YR3-4 暗褐色 | ローム粒B、焼土中C・小B・粒B/粘B、礫C | 19 10YR3-3 暗褐色 | ローム粒D、焼土小B・粒C、炭化物C、砂質粘土小C・粒C |
| 9 10YR5-4 土赤黄 | ローム粒C、焼土小C・粘B、礫A | 20 10YR5-4 土赤黄 | ローム小C、焼土粒D、砂質粘土小C・粒C、粘B、礫B |
| 10 10YR3-3 暗褐色 | ローム粒B/粘B、礫B | 21 10YR4-4 褐色 | ローム粒A/粘B、礫B |
| 11 10YR4-6 褐色 | ローム粒C、焼土小C・粒C、砂質粘土粒A/粘B、礫A | | |

第47図 第11号竪穴建物跡実測図

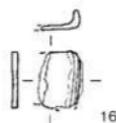
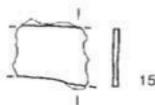


ピット土層断面 (各ピット共通)

- | | | | |
|---------------|-----------------------|---------------|-----------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒C、焼土小D、炭化粒D/粘B、雜B | 4 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒C、焼土粒D、粘土粒D/粘B、雜B |
| 2 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒C、粘B、雜B | 5 10YR3/2 黄褐色 | ローム粒C、焼土粒C、粘土粒C/粘B、雜B |
| 3 10YR4/4 黄 | ローム粒B、焼土粒D/粘B、雜B | 6 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒D、炭化物D/粘B、雜B |



第48図 第11号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 49 図 第 11 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 24 表 第 11 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 48・49 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	100	39	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	床面	90% PL62
2	土師器	坏	[93]	3.6	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部厚縁 口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	50%
3	土師器	坏	[135]	4.1	-	長石・赤色粒子	にぶい	普通	口唇部内面弱い沈線	覆土下層	40%
4	土師器	坏	[130]	4.7	-	長石・石英	にぶい	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	60%
5	土師器	坏	[126]	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	口唇部内面弱い沈線	床面	70%
6	土師器	坏	[128]	4.5	-	長石・石英・赤色粒子・黒曜	明赤褐	普通	口唇部内面弱い沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土上層	30%
7	土師器	坏	116	4.2	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線	床面	100% PL62
8	土師器	碗	-	(32)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面放射状へつ磨き	覆土中	20%
9	灰土器	瓶類	-	(67)	-	長石	灰白	良好	ロケ口壺形 肩部より上自然輪 鉄分湧出	覆土下層	20%
10	土師器	甕	[193]	(68)	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口縁部外面十字 内面十字 外・内面厚縁に上白裏整不明瞭	覆土中層	5%
11	土師器	手捏土器	[31]	28	[32]	長石・石英	明赤褐	普通	内面指頭痕 外側から穿孔	覆土下層	30%
番号	器種	径	高さ	口径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
12	土玉	0.8	0.8	0.2	0.67	長石	灰褐	一方向から穿孔	覆土下層		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	口径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
13	土製均玉	(1.6)	(1.2)	0.8	0.1	(1.28)	長石・石英	にぶい赤褐	一方向から穿孔	覆土中層	PL103
番号	器種	上径	下径	厚さ	口径	重量	材質	特徴	出土位置	備考	
14	石製 絞鉢車	4.2	3.7	1.1	0.8	(3.69)	蛇紋岩	上・下・側面に研磨	覆土中	PL100	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
15	鎌	(4.7)	(3.2)	0.3	(22.31)	鉄	両端欠損	覆土中	PL105		
16	鎌	(2.5)	(3.0)	0.3	(13.10)	鉄	先端部欠損	覆土中	PL105		

第 12 号竪穴建物跡 (第 50 図 PL 8)

位置 調査区北東部の I 6c5 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 24 号土坑を掘り込み、第 4 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 北部が重複しているため、確認できた南北軸は 4.90 m、東西軸は 5.22 m の方形である。形状から主軸方向は N-13°-W と推測できる。壁高は 8~16 cm で、外傾している。

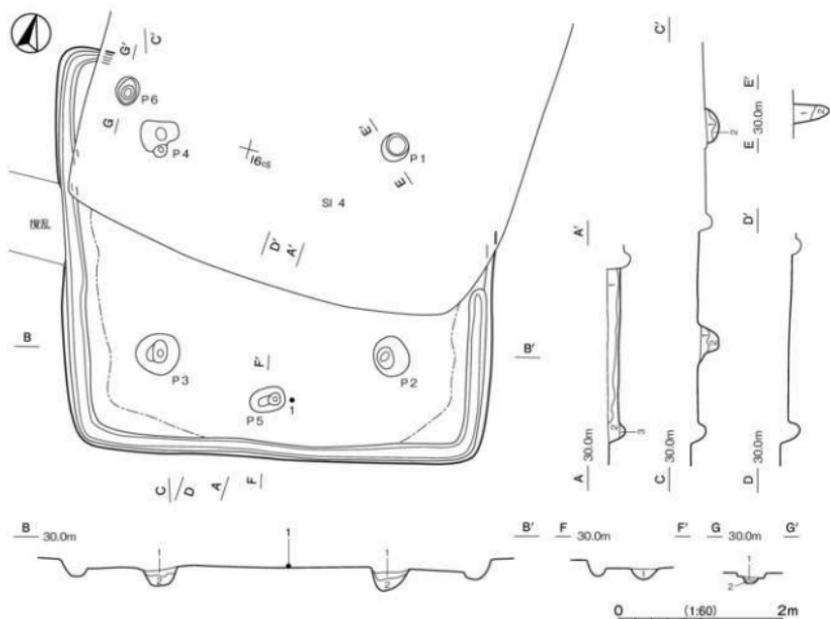
床 平坦で、中央部から南部の壁際にかけて、踏み固められている。東部の一部を除き壁溝が巡っている。

ピット 6 か所。P 1~P 4 は深さ 15~46 cm で、配置から主柱穴である。P 5 は深さ 12 cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 16 cm で、性格不明である。

覆土 3 層に分層できる。焼土ブロックやロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 4 点 (坏 3、甕 1) が出土している。1 は床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 1 四半期に比定できる。



土層解説

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム小C・粒C、焼土小C・粒D/粘B、礫目
 2 10YR3-4 暗褐色 ローム中B・小B・粒B/粘B、礫目
 3 10YR3-2 黒褐色 ローム小C・粒B/粘B、礫目

ビット土層解説 (赤ビット共通)

- 1 10YR3-2 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土小D/粘B、礫目
 2 10YR5-6 黄褐色 ローム小C・粒B/粘B、礫目



0 (1:3) 10cm

第50図 第12号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第25表 第12号堅穴建物跡出土遺物一覧 (第50図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	123	41	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理	床面	90% PL62

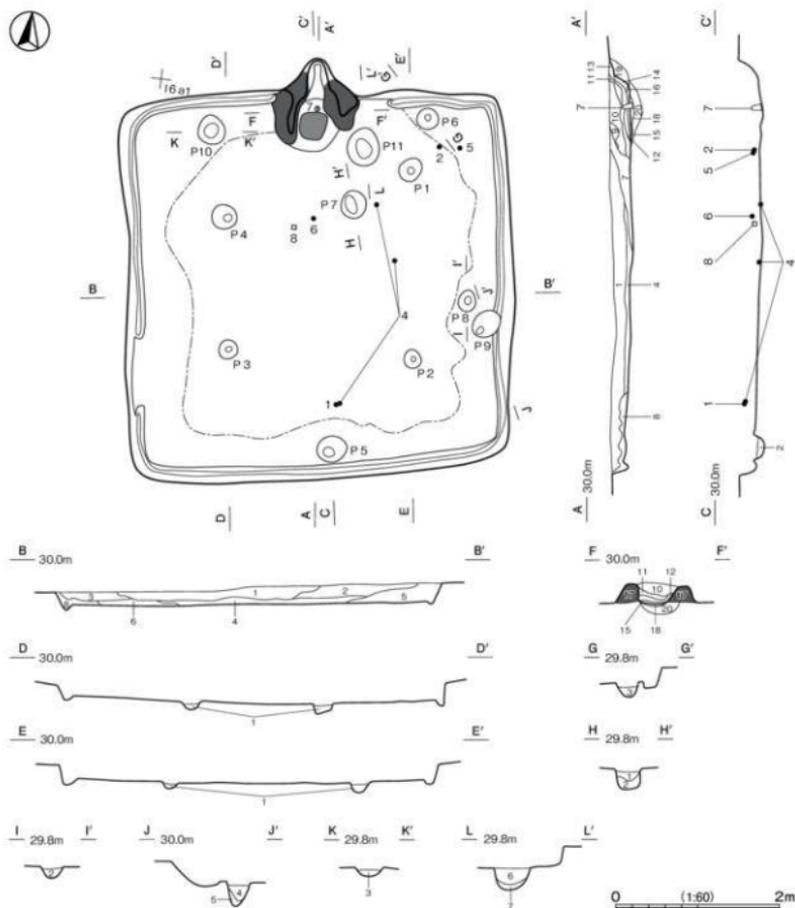
第13号堅穴建物跡 (第51～53図 PL 8)

位置 調査区北東部のI 6a1区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第27号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.74m、短軸は4.72mの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は14～22cmで、外傾している。

床 平坦で、壁下を除き踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。



土層解説

1	10YK3-1	黒層	ローム小-D, 焼土粒D, 炭化粒C/粘B, 雜B	11	10YR4-4	層	ローム小C, 焼土小B・粒B, 砂質粘土粒A/粘B, 雜A
2	10YK3-2	黒層	ローム小・粒C, 焼土粒D', 炭化粒D/粘B, 雜B	12	5YR4-4	ローム粒B	ローム中B・小B・粒B, 砂質粘土粒B/粘B, 雜B
3	10YK3-3	砂層	ローム粒C/粘B, 雜B	13	10YK3-2	砂層	ローム粒C, 焼土小B/粘B, 雜B
4	10YK3-3	砂層	ローム粒C, 焼土小D', 炭化粒C/粘B, 雜B	14	10YK5-4	ローム粒D	ローム粒D, 炭化粒D, 炭化粒D/粘B, 雜B
5	10YK4-3	ローム層	ローム粒B, 焼土小D'・粒D, 炭化粒D/粘B, 雜B	15	5YR4-4	ローム層	焼土中B・小B, 砂質粘土粒A/粘A, 雜B
6	10YK3-3	砂層	ローム小C, 炭化粒D/粘B, 雜B	16	10YK3-2	砂層	ローム粒D, 焼土小D・粒C, 炭化粒A/粘B, 雜B
7	10YR4-3	ローム層	ローム粒B, 焼土粒D', 粘土粒C/粘B, 雜A	17	10YK5-2	黒層	ローム粒B, 砂質粘土粒A, 粘A, 雜A
8	10YK3-3	砂層	ローム粒C, 焼土粒D'/粘B, 雜B	18	10YK3-2	砂層	ローム粒C, 炭化粒B/粘B, 雜B
9	10YK3-4	砂層	ローム小C・粒C, 焼土粒D/粘B, 雜B	19	10YK5-4	ローム層	ローム粒D, 焼土中B・小C, 炭化粒D, 砂質粘土粒B/粘B, 雜B
10	10YK4-6	層	ローム小C, 焼土小B・粒B, 砂質粘土粒A/粘B, 雜A	20	10YR4-4	層	ローム粒B, 炭化粒D/粘B, 雜B

ピット土層解説 (各ピット共通)

1	10YK3-3	砂層	ローム粒C, 炭化粒C/粘B, 雜B	5	10YR4-4	層	ローム粒C/粘B, 雜B
2	10YK3-3	ローム層	ローム粒C/粘B, 雜B	6	10YK3-2	砂層	ローム粒C, 焼土粒D, 炭化粒D/粘B, 雜B
3	10YK3-2	黒層	ローム小C, 炭化粒D/粘B, 雜C	7	10YK3-2	黒層	ローム粒C/粘B, 雜B
4	10YK3-2	黒層	ローム小D・粒D/粘B, 雜B				

第51図 第13号堅穴建物跡実測図

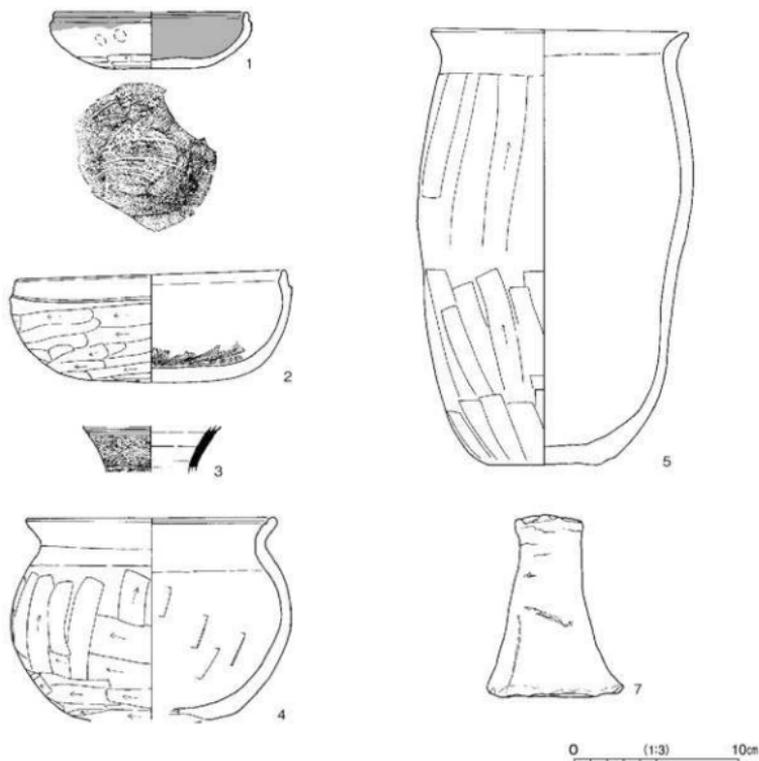
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで114cmで、燃焼部幅は42cmである。竈は、地山を12cmほど掘りくほめた部分にローム粒子などを含む第18～20層を埋土して整地されている。袖部は地山と整地面の上に、砂質粘土を含む第17層を積み上げて構築されている。火床部は床面よりややくぼんでおり、火床面奥の第18層底面に支脚が遺存している。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に42cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第9～16層は竈に関連する堆積土である。

ピット 11か所。P1～P4は深さ8～12cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ16cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P11は深さ12～28cmで、性格不明である。

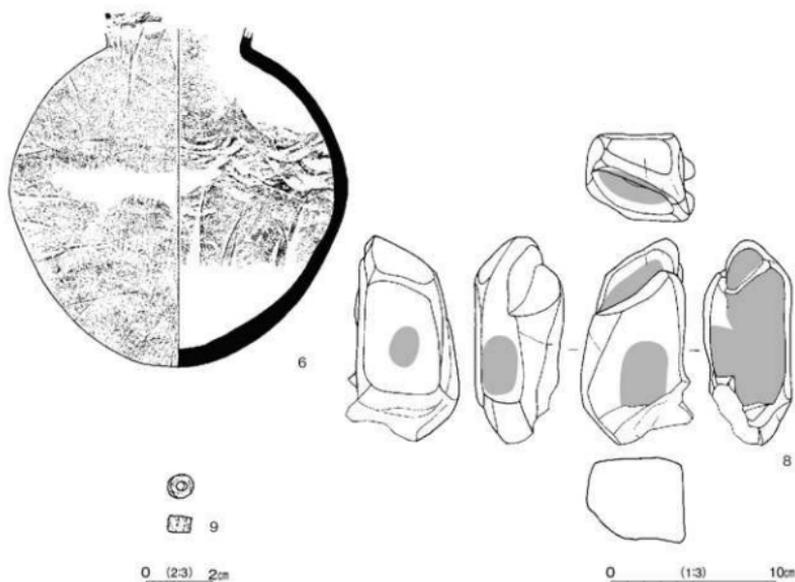
覆土 8層に分層できる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片255点（坏143、碗1、高坏1、壺3、甕106、瓶1）、須恵器片6点（壺1、瓶類2、甕1、長頸瓶2）、土製品5点（支脚）、石器1点（磨石）、石製品1点（白玉）が出土している。7は竈火床面の奥壁寄りから出土した。4は中央部の床面、南部の覆土中層、竈覆土中から出土した破片が接合している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。



第52図 第13号竪穴建物跡出土遺物実測図1)



第53図 第13号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第26表 第13号竪穴建物跡出土遺物一覧(第52・53図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.5]	3.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理 底部外面磨光・糸割	覆土中層	60%
2	土師器	柄	16.1	6.9	8.2	長石・石英・ 赤色粒子	細灰	普通	外・内面一部に灰化物付着 内面放射状へろ割	覆土下層	80% PL62
3	須恵器	甗類	-	(28)	-	長石・石英	黄灰	良好	2条の沈線 波状文	覆土中	5%
4	土師器	甗	14.8	(12.3)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 口唇部内面沈線	床間・覆土中・ 覆土下層	80% PL63
5	土師器	甗	15.3	26.8	6.7	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部外・内面ナデ 体部内面へろナデ 内・外面摩滅・剥落著しく底割不明瞭 体部外面下半部子目切 体部均面同心円状当 て具痕 外・内面磨滅著しい 二次焼成	覆土下層	70% PL62
6	須恵器	甗	-	(20.6)	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	不良		覆土中層	60%
番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴			出土位置	備考
7	支脚	4.2	8.4	11.1	430	長石・石英	接合痕残る			覆土中層	PL59
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
8	磨石	12.7	6.8	5.2	583	安山岩	使用面4面 使用面光沢あり			覆土下層	
番号	器種	径	高さ	孔径	重量	材質	特徴			出土位置	備考
9	白土	0.7	0.5	0.3	0.49	蛇紋岩	一方向から穿孔			覆土中	PL104

第14号竪穴建物跡(第54・55図 PL 8)

位置 調査区北東部のI 6g2区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第13号土坑、第3号堀に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第3号堀に、北部が第13号土坑に掘り込まれているため、確認できた南北軸は3.68m、東西軸は2.92mである。平面形は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-0°である。壁高は10cmで、外傾している。

床 平坦で、竈前面から南部の壁際にかけて、踏み固められている。南壁際及び東壁際の一部で壁溝を確認した。

竈 北壁に付設されている。第13号土坑に掘り込まれており、確認できた規模は焚口から煙道部まで75cmで、燃焼部幅は70cmである。袖部は確認できなかった。火床部は床面よりややくぼんでおり、火床面の赤変硬化は確認できなかった。第3・4層は竈に関連する堆積土である。

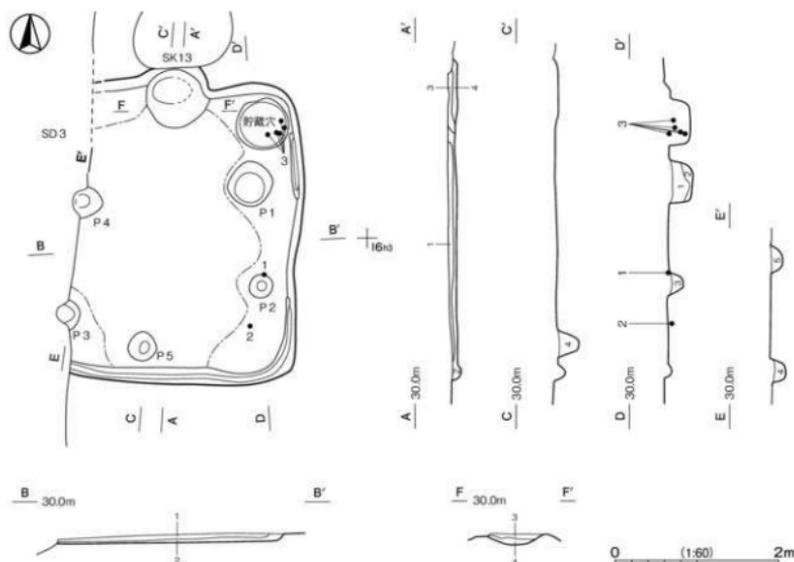
ピット 5か所。P1～P4は深さ15～30cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ25cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置しており、長径64cm、短径62cmの円形である。深さは26cmほど、底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片146点(坏99、甕47)、焼成粘土塊4点(19.71g)が出土している。1・2は南東部の床面から、3は貯蔵穴の覆土下層から上層にかけて出土した。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



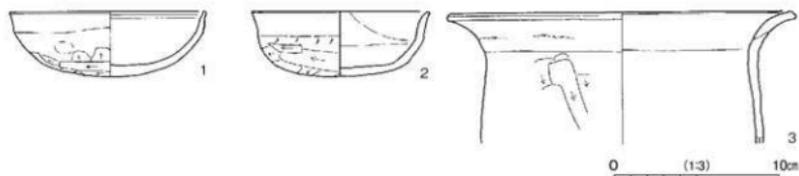
土層解説

1	10YR3/3	暗褐色	ローム中C・小B・粒B/粘B、礫B
2	10YR4/4	褐色	ローム大B・中B・小B・粒A/粘B、礫B
3	7.5YR3/4	暗褐色	ローム小C・粒B、焼土中B・小B/粘B、礫B
4	10YR3/2	黒褐色	ローム中C・小B・粒B、焼土粒C/粘B、礫B

ピット土層解説 (赤ピット共通)

1	10YR4/4	褐色	ローム小D・粒B、焼土小D・粒D、炭化粒D/粘B、礫B
2	10YR4/6	暗褐色	ローム中C・粒A/粘B、礫B
3	10YR3/2	黒褐色	ローム小C・粒B、粘B、礫B
4	10YR3/4	暗褐色	ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B
5	10YR3/4	暗褐色	ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B

第54図 第14号堅穴建物跡実測図



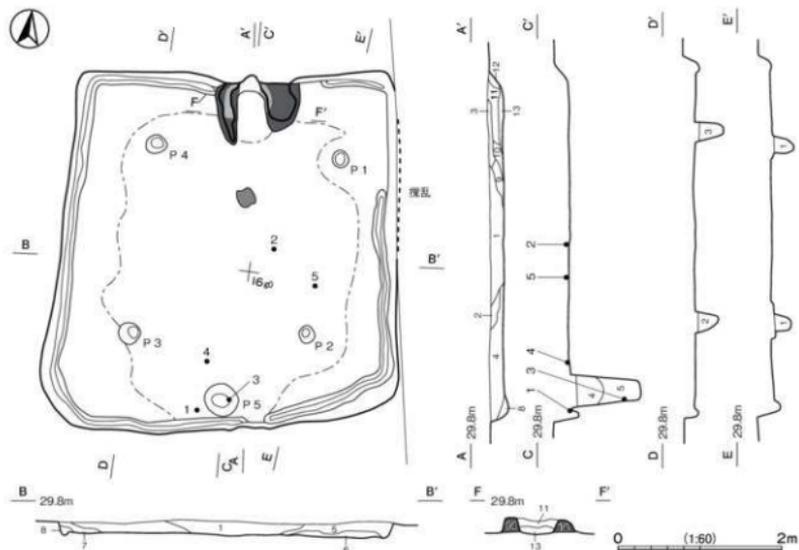
第55図 第14号竪穴建物跡出土遺物実測図

第27表 第14号竪穴建物跡出土遺物一覧(第55図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.8	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	口唇部内面残線	床面	60% PL63
2	土師器	坏	10.7	4.0	-	長石・赤緑・赤色粒子	にぶい	黄緑	内面痕状に剥落	床面	100% PL63
3	土師器	甕	20.8	(8.1)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口唇部内面弱い沈線 外・内面草減	貯蔵穴覆土 下層～上層	10%

第16号竪穴建物跡(第56・57図 PL 9)

位置 調査区北東部の16号区、標高30mほどの微高地上に位置している。



土層順記

- | | | | |
|--------------|-----------------------|----------------|------------------------------|
| 1 10YK3-1 茅葺 | ローム粒D、焼土小C、炭化粒C/粘B、雜B | 8 10YK3-2 茅葺 | ローム粒D'、焼土粒D'/粘B、雜B |
| 2 10YK3-2 茅葺 | ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B | 9 10YK3-3 二土層 | ローム粒D、焼土小C、炭化粒D、砂質粘土粒A/粘B、雜A |
| 3 10YK3-2 茅葺 | ローム粒C、焼土小D/粘B、雜B | 10 10YK3-3 埴間 | ローム粒C、焼土小C、砂質粘土粒C/粘B、雜B |
| 4 10YK3-2 茅葺 | ローム粒C、焼土小D、炭化粒D/粘B、雜B | 11 10YK3-3 埴間 | ローム小C、焼土中B、炭化粒D、砂質粘土粒A、粘B、雜A |
| 5 10YK3-2 茅葺 | ローム粒D'、焼土粒D'/粘B、雜B | 12 10YK3-2 茅葺 | ローム粒D、焼土小D、砂質粘土粒C/粘B、雜B |
| 6 10YK3-4 埴間 | ローム小D、粘B/粘B、雜C | 13 10YK3-2 茅葺 | ローム粒D、焼土小C、炭化粒C、砂質粘土粒C/粘B、雜B |
| 7 10YK3-2 茅葺 | ローム粒C、焼土粒D'/粘B、雜B | 14 10YK3-3 二土層 | 焼土小D'、粒D、炭化粒D、砂質粘土粒A/粘B、雜A |

ビット土層順記(各ピット共通)

- | | | | |
|--------------|------------------|--------------|------------------|
| 1 10YK3-2 茅葺 | ローム粒C、焼土粒D/粘B、雜B | 4 10YK3-3 埴間 | ローム粒D、焼土粒D/粘B、雜B |
| 2 10YK3-2 茅葺 | ローム粒D、焼土粒D/粘B、雜B | 5 10YK3-2 茅葺 | ローム粒D'/粘B、雜B |
| 3 10YK3-3 埴間 | ローム粒C/粘B、雜B | | |

第56図 第16号竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸 4.44 m、短軸 4.14 m の方形で、主軸方向は N-4°-W である。壁高は 13~21 cm で、外傾している。

床 平坦で、竈前面から南部の壁際にかけて、踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。また、中央部北寄りの床面が一部赤変硬化している。

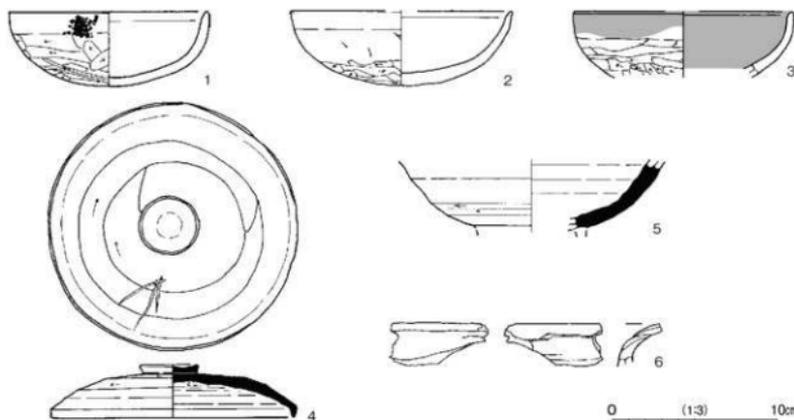
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 80 cm で、燃烧部幅は 35 cm である。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第 14 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は確認できなかったが、竈奥壁の一部が赤変硬化している。煙道部は壁外に 10 cm ほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第 9~13 層は竈に関連する堆積土である。

ピット 5 か所。P 1~P 4 は深さ 25~35 cm で、配置から主柱穴である。P 5 は深さ 85 cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 8 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 317 点 (坏 171、碗 5、甕 141)、須恵器片 4 点 (蓋 1、瓶類 2、甕 1)、焼成粘土塊 7 点 (26.39g) が出土している。1・4 は床面から正位で、3 は P 5 の覆土下層から出土している。4 は法量から盤に伴う蓋と考えられる。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 4 四半期に比定できる。



第 57 図 第 16 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 28 表 第 16 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 57 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	120	4.5	-	長石・石英・赤色粒子・粗織	橙	普通	口唇部内面横線 口縁部内面黒色処理の痕跡・外面油煙付着	床面	100% PL63
2	土師器	坏	[13.4]	4.5	-	長石・雲母	赭灰	普通	口唇部内面横線	床面	40%
3	土師器	坏	[13.2]	(4.0)	-	長石・石英	灰褐	普通	口唇部内面横線 口縁部外面・内面黒色処理	P 5 覆土下層	20%
4	須恵器	蓋	150	3.2	-	長石・石英・細織	灰	良好	大開口部へラ削り 天井部にヘラ記号「◀」	床面	100% PL63
5	須恵器	瓶	-	(4.4)	-	長石・石英・黒色粒子・粗織	灰	良好	ロク口輪影 体部下半回転へラ削り 高台部剥離 鉄分の滲出	床面	10%
6	土師器	甕	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部ナデ	覆土中	5%

第17号竪穴建物跡 (第58・59図 PL 9)

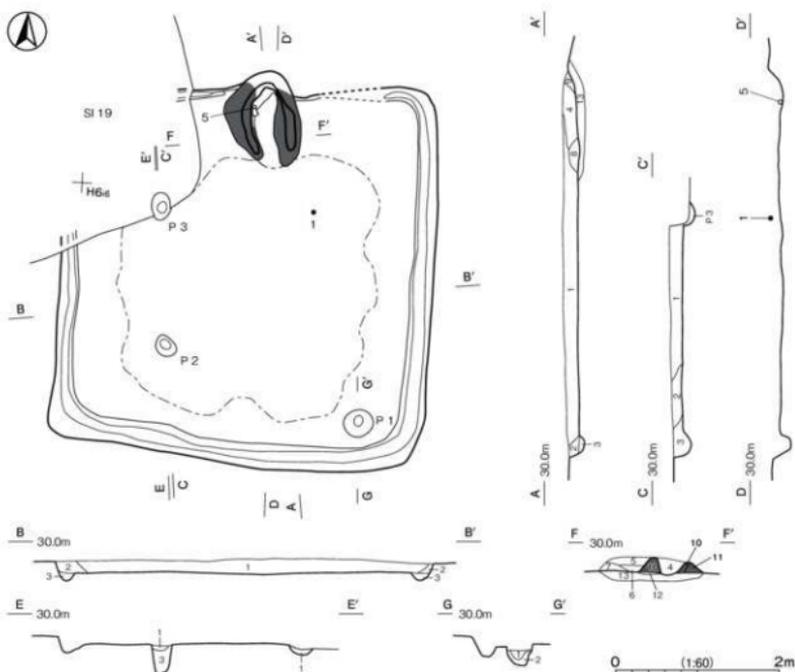
位置 調査区北東部のH616区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第18・37号竪穴建物跡、第89号土坑を掘り込み、第19号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.68m、短軸4.50mの方形で、主軸方向はN-4'-Wである。壁高は10~14cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた範囲では壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで105cmで、燃焼部幅は22cmである。竈は、地山を10cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第12・13層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、砂質粘土を含む第10・11層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床部の奥から支脚の一部が出土している。火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれ、火



土層解説

1 10YK3-3	暗褐色	ローム小C・粒C、焼土粒D'、炭化粒D' / 粘B、礫B	8 10YK3-2	黒褐色	ローム粒C、焼土中C・小B、砂質粘土小B・粒A、粘B、礫A
2 10YK4-2	㊦赤褐色	ローム粒D / 粘B、礫B	9 10YK3-3	暗褐色	ローム粒C、焼土小B、炭化粒D、砂質粘土粒B / 粘B、礫B
3 10YK4-4	㊦黒	ローム小D・粒C / 粘B、礫B	10 10YK5-4	㊦赤褐色	焼土粒D'、炭化粒D'、砂質粘土粒B / 粘B、礫A
4 10YK3-2	黒褐色	ローム小C、焼土中C、炭化粒D、砂質粘土粒D / 粘B、礫A	11 10YK5-3	㊦赤褐色	ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D'、砂質粘土粒B / 粘B、礫A
5 10YK5-4	㊦赤褐色	ローム粒D、焼土中B、炭化粒D、砂質粘土粒A / 粘B、礫A	12 10YK3-2	暗褐色	ローム粒C、焼土小C、炭化粒C、砂質粘土粒D / 粘B、礫A
6 10YK5-4	㊦赤褐色	ローム粒D'、焼土小C、炭化粒C、砂質粘土粒D / 粘B、礫A	13 10YK4-4	㊦黒	ローム粒B、焼土粒D、炭化粒D、砂質粘土粒D' / 粘B、礫A
7 10YK3-3	㊦赤褐色	ローム粒D、焼土粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C / 粘B、礫A			

ピット土層解説 (赤ピット共通)

1 10YK3-2	炭褐色	ローム小D・粒D、焼土粒D / 粘B、礫B	3 10YK3-3	暗褐色	ローム粒C、焼土粒D' / 粘B、礫B
2 10YK3-3	暗褐色	ローム小C / 粘B、礫B			

第58図 第17号竪穴建物跡実測図

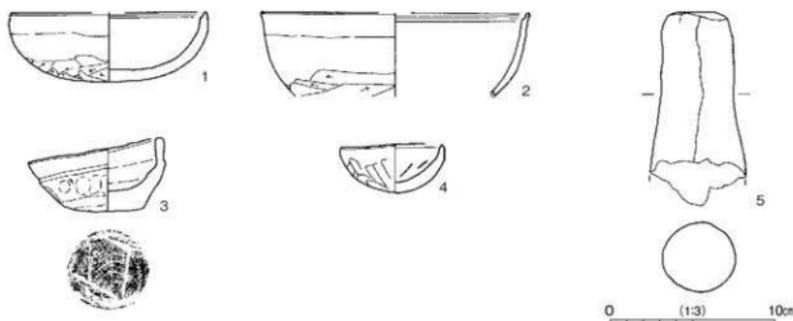
床部から外傾して立ち上がっている。第4～9層は竈に関連する堆積土である。5～7層は竈を破壊した際に流出した堆積土と考えられる。

ピット 3か所。P1～P3は深さ18～40cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。含有物が少なく、均質な堆積であることから自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片291点(坏227, 椀2, 高坏2, 甕58, 手捏土器2), 須恵器片3点(坏2, 蓋1), 土製品4点(支脚3, 不明土製品1), 金属製品2点(刀子, 鎌), 焼成粘土塊2点(11.57g)が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第59図 第17号竪穴建物跡出土遺物実測図

第29表 第17号竪穴建物跡出土遺物一覧(第59図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土師器	坏	[11.8]	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	40%	
2	土師器	椀	[16.2]	(5.1)	-	長石	にぶい黄橙	普通	口唇部内面弱い沈線	竈覆土中	20%	
3	土師器	手捏土器	7.8	4.5	4.4	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	指痕痕残る 底部木葉痕	覆土中	70% PL63	
4	土師器	手捏土器	6.0	2.8	-	長石・石英・赤色粒子	赤黒	普通	外面へう張り 内面へうナゲ	覆土中	80%	
番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴			出土位置	備考	
5	支脚	4.2	(5.8)	(11.8)	(278)	長石・石英	全面ナゲ				竈穴床部	

第18号竪穴建物跡 (第60・61図 PL9)

位置 調査区北東部のH6g5区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第37号竪穴建物跡を掘り込み、第17・19号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 南部が重複しているため、確認できた南北軸は5.00m、東西軸は4.76mである。平面形は、長方形と推定される。主軸方向はN-12°-Eである。壁高は10～18cmで、外傾している。

床 平坦で、竈前面から中央部にかけて、踏み固められている。確認できた範囲では壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は42cmである。袖部は地山面の上に、砂質粘土を含む第12層を積み上げて構築されている。火床部は床面よりややくぼんでおり、火床

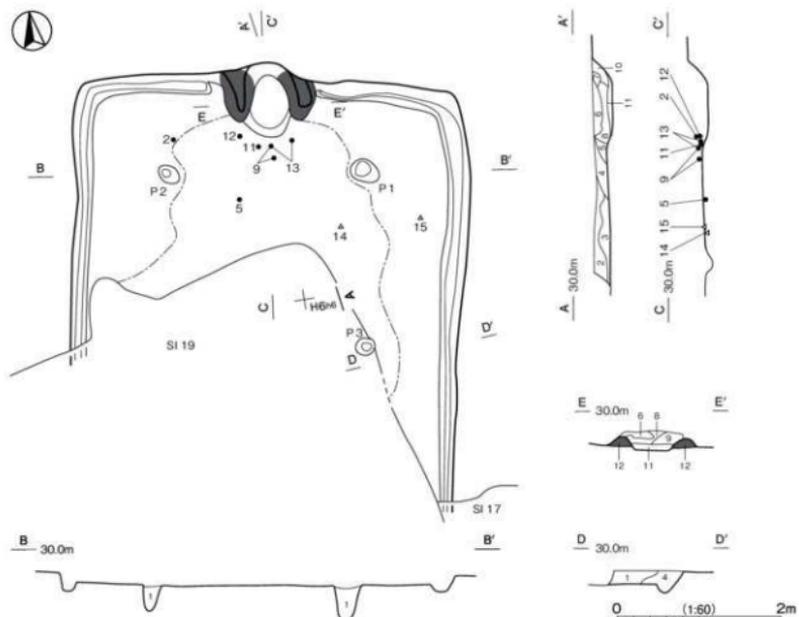
面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第6～11層は竈に関連する堆積土である。

ピット 3か所。P1～P3は深さ34～44cmで、配置から支柱穴である。南西部の柱穴は第19号竪穴建物に掘り込まれているため確認できなかった。

覆土 5層に分別できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片444点(坏343, 碗4, 高坏11, 鉢9, 甕63, 甌14), 須恵器片1点(甕), 金属製品2点(耳環)が出土している。4はP3の覆土中から出土している。9・11～13は、竈前面の床面からまともに出て出土した。11は口縁部を上にして斜線で出土している。5・14・15は床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。

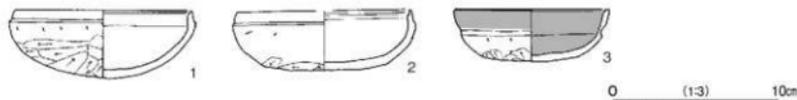


土層解説

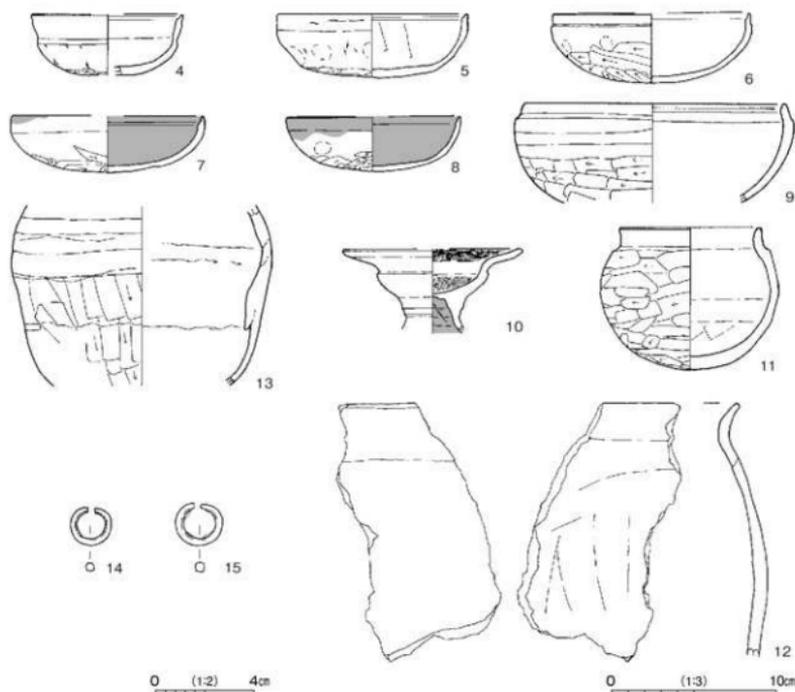
- | | | | |
|---------------|-------------------------------|----------------|----------------------------------|
| 1 75YR3-4 暗紫 | ローム粒C, 焼土小C/粘B, 雜B | 7 10YR5/4 赤み黄 | ローム粒D, 焼土粒B, 炭化粒D, 砂質粘土粒C/粘B, 雜B |
| 2 75YR3-4 暗紫 | ローム小C, 焼土小B/粘B, 雜B | 8 10YR3-3 赤み黄 | ローム粒D, 焼土小C, 炭化粒D, 砂質粘土粒C/粘B, 雜B |
| 3 75YR4-4 紫 | ローム中C, 小C, 焼土小C/粘B, 雜B | 9 10YR4-3 赤み黄 | ローム粒D, 焼土粒C, 炭化粒D, 砂質粘土粒D/粘B, 雜B |
| 4 75YR4-4 紫 | ローム小B, 焼土小C/粘B, 雜B | 10 10YR3-3 暗紫 | ローム粒D, 焼土小B, 砂質粘土粒D/粘B, 雜B |
| 5 75YR5-4 赤み黄 | ローム粒B, 焼土小C/粘B, 雜C | 11 10YR4-4 紫 | ローム粒B, 焼土小D, 砂質粘土粒D/粘B, 雜A |
| 6 10YR5-3 赤み黄 | ローム粒C, 焼土小C, 粒C, 炭化粒D, 砂質粘土粒B | 12 10YR6/4 赤み黄 | 焼土粒D, 砂質粘土粒A/粘B, 雜A |

ピット土層解説(赤ピット共通)

- 1 10YR3-3 暗紫 ローム粒C, 焼土粒D'/粘B, 雜B



第60図 第18号竪穴建物跡・出土遺物実測図



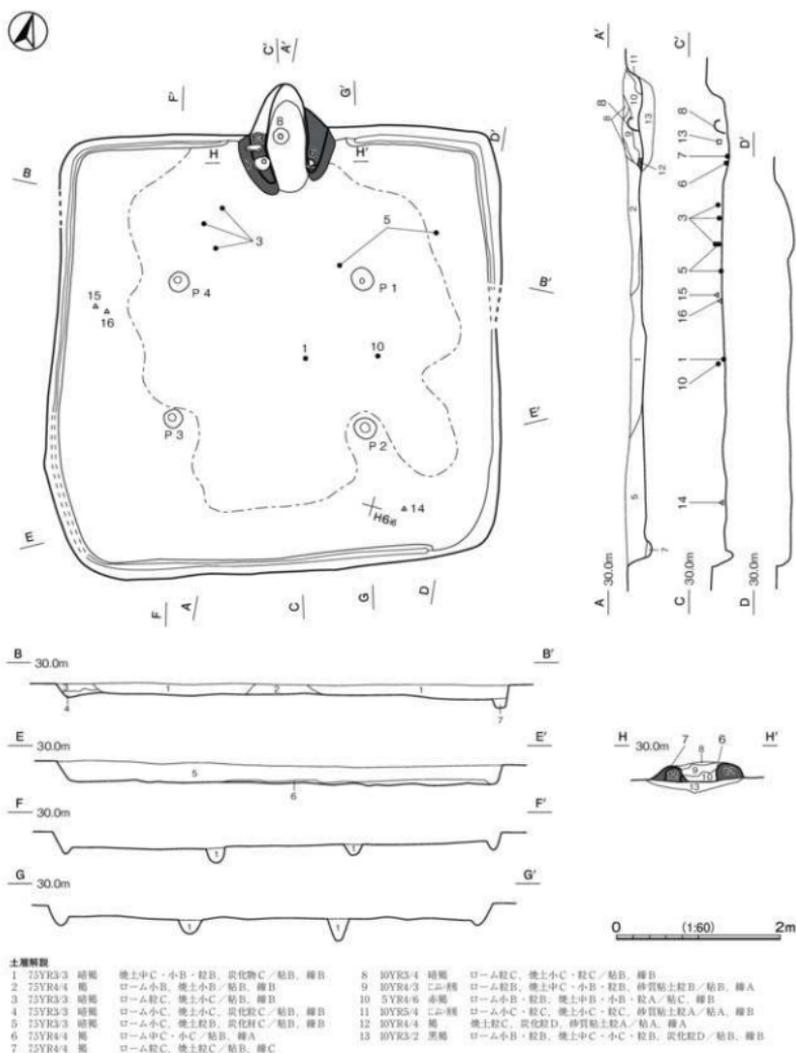
第 61 図 第 18 号堅穴建物跡出土遺物実測図

第 30 表 第 18 号堅穴建物跡出土遺物一覧 (第 60・61 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	環	107	42	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面凹凸沈線	覆土中	100% PL63
2	土師器	環	[106]	3.7	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面凹凸沈線 外・内面黒色処理の痕跡	覆土中層	60%
3	土師器	環	9.3	3.2	-	長石	黒褐	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	90% PL63
4	土師器	環	[91]	[3.7]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	P 3 覆土中	30%
5	土師器	環	11.5	3.9	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線	床面	80% PL63
6	土師器	環	[118]	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	40%
7	土師器	環	[116]	3.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	50%
8	土師器	環	[105]	3.4	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部厚成 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	60%
9	土師器	碗	15.6	(6.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面凹凸沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	80% PL63
10	土師器	高杯	[107]	(5.2)	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	良好	口縁部内面へつ磨き 底部内面放射状へつ磨き 脚部内面黒色処理	覆土中	20%
11	土師器	甕	8.4	8.7	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面一部腐食状に剥落 口縁部外・内面黒色処理の痕跡	床面	100% PL64
12	土師器	甕	-	(15.6)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面十字 体部外面厚成	床面	10%
13	土師器	甕	-	(11.1)	-	長石・石英・赤色粒子	灰赤	普通	外面一部腐食 接合痕残る	床面	40%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調		特徴	出土位置	備考
14	耳環	1.5	1.6	0.3	221	銅	金層残る			床面	PL104
15	耳環	1.7	1.9	0.4	291	銅	金層残る			床面	PL104

第19号竪穴建物跡 (第62～64図 PL.9・10)

位置 調査区北東部のH6h5区、標高30mほどの微高地上に位置している。



第62図 第19号竪穴建物跡実測図

重複関係 第17・18・20・37号竪穴建物跡、第98号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.50m、短軸5.35mの方形で、主軸方向はN-17°-Wである。壁高は16~30cmで、外傾している。

床 平坦で、竈前面から中央部にかけて、踏み固められている。壁溝は南東コーナー部を除き巡っている。

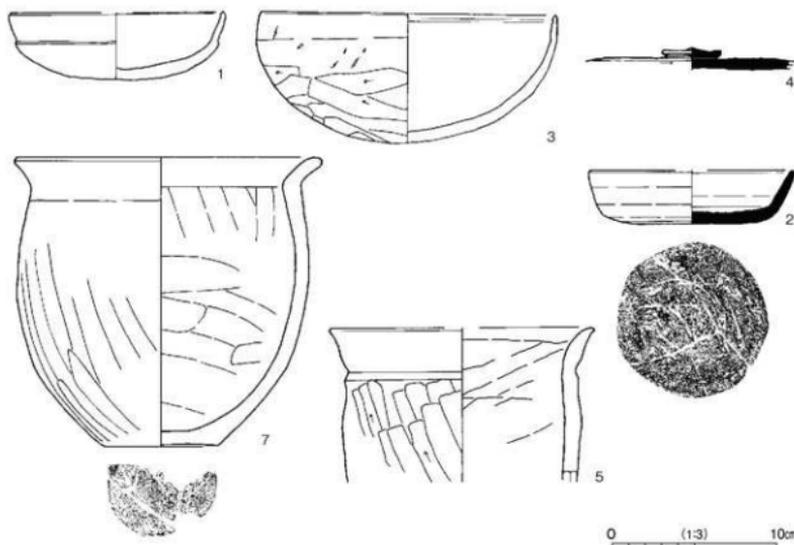
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで133cmで、燃焼部幅は42cmである。竈は、地山を15~20cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第13層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上面に、砂質粘土を含む第12層を積み上げて構築されている。左袖部では芯材として土師器の甕が倒置して使用されている。火床部は床面よりやや高く、土師器の甕が逆位で据え付けられており支脚転用と考えられる。火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に58cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第8~11層は竈に関連する堆積土である。

ピット 4か所。P1~P4は深さ14~28cmで、配置から支柱穴である。

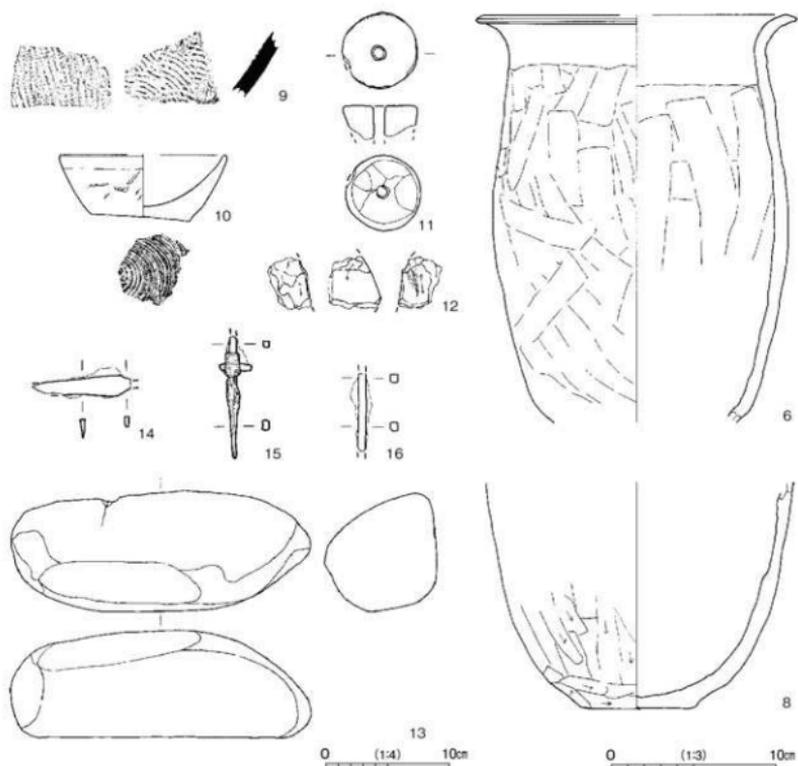
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片1382点(坏996、碗8、高坏4、甕373、手捏土器1)、須惠器片12点(坏6、蓋2、壺1、甕3)、土製品1点(紡錘車)、石器2点(砥石)、石製品1点(竈部材)、金属製品3点(刀子1、鉄鋸2)、焼成粘土塊14点(197.21g)が出土している。6は竈右袖の補強材、7は左袖の芯材である。8は竈火床部から出土しており、支脚として使用されたと考えられる。13は竈部材と考えられる。1は中央部床面から、5は北東部床面から覆土下層にかけてそれぞれ出土している。14は南東部覆土下層、15は西部覆土下層、16は西部床面からそれぞれ出土している。3は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



第63図 第19号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第64図 第19号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第31表 第19号竪穴建物跡出土遺物一覧(第63・64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.0]	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	摩滅著しく調整不明瞭	床面	40%
2	須恵器	坏	[12.4]	3.3	8.5	長石・石英	黄灰	普通	ロクロ整形 底部全面回転ヘラ削り	覆土中	70%
3	土師器	碗	18.0	7.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土下層	70% PL64
4	須恵器	蓋	-	(1.3)	-	長石	灰黄	普通	ロクロ整形 天井部回転ヘラ削り	覆土中	20%
5	土師器	甕	[15.8]	(9.4)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 体部外面ヘラ削り	床面・覆土下層	10%
6	土師器	甕	[18.4]	(24.9)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外・内面摩滅	甕右袖	50%
7	土師器	甕	18.2	17.7	6.7	長石・石英・赤色粒子・細礫	赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ ナデ 底部本業減	甕左袖	90% PL64
8	土師器	甕	-	(13.9)	6.5	長石・石英・細礫	橙	普通	体部外面下層ヘラ削り 焼熱により外・内面摩滅著しく調整不明瞭 内面砂質粘土付着	竈火床部	40%
9	須恵器	甕	-	(4.0)	-	長石・石英	灰	普通	外面格子目印さ 内面同心円状当て貫痕	覆土中	5% SK352.2と重合
10	土師器	手經土器	[10.2]	4.1	(5.7)	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	底部外面糸切り痕	覆土下層	30%
番号	器種	上径	下径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴		出土位置	備考
11	土師器 絞鉢	4.7	-	(2.1)	0.7	(3.6)	長石・石英・赤色粒子	全面ナデ		覆土中	PL103

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	砥石	(32)	(33)	(27)	(2638)	凝灰岩	砥面3面	覆土下層	
13	産部材	244	100	9.1	3.008	流紋岩	4方に面取り行う 一部焼熟	覆土層上面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
14	刀子	(59)	1.3	0.2 - 0.4	(860)	鉄	両端欠損	覆土下層	
15	鉄鏝	(75)	1.6	0.1 - 0.7	(629)	鉄	棘状開 胴部半ばから鏝身部欠損	覆土下層	PL105
16	鉄鏝	(48)	0.5	0.5	(633)	鉄	茎部のみ遺存	床面	PL105

第20号竪穴建物跡 (第65・66図 PL10)

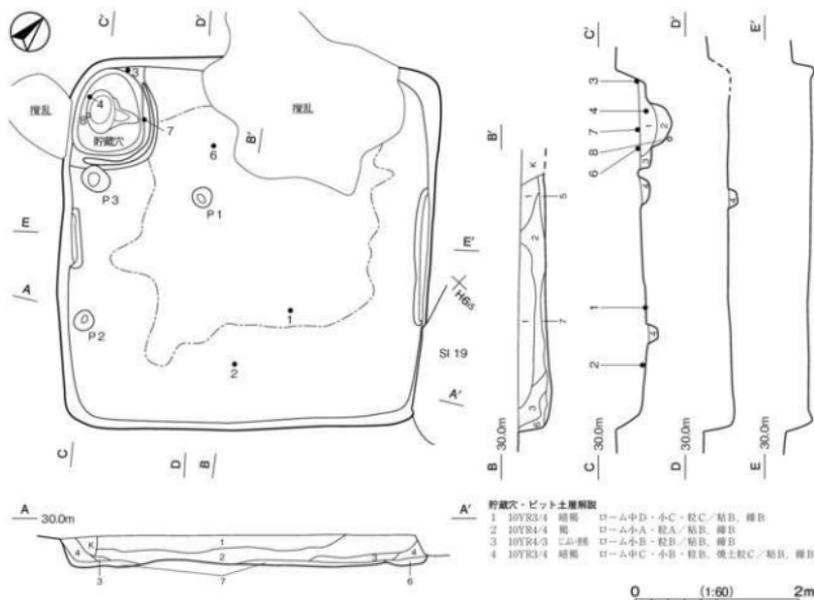
位置 調査区北東部のH64区、標高30mほどの微高地に位置している。

重複関係 第19号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.55m、短軸4.50mの方形で、長軸方向はN-43°-Wである。壁高は23~37cmで、外傾している。

床 やや凹凸があり、中央部が踏み固められている。北東・南西壁際の一部に壁溝が巡っている。

ピット 3か所。P1~P3は深さ15cmで、性格不明である。



土層解説

- 10YR2/3 赤褐色 ローム中D・小C・粒C/粘B、礫B
- 10YR3/4 暗褐色 ローム中C・小B・粒B、炭化粒D/粘B、礫B
- 10YR4/3 赤褐色 ローム大C・中C・小B・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B
- 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小C、焼土粒C、炭化粒D/粘B、礫B

貯蔵穴・ピット土層解説

- 10YR3/4 暗褐色 ローム中D・小C・粒C/粘B、礫B
- 10YR4/4 暗褐色 ローム小A・粒A/粘B、礫B
- 10YR4/3 赤褐色 ローム小B・粒B/粘B、礫B
- 10YR3/4 暗褐色 ローム中C・小B・粒B、焼土粒C/粘B、礫B

- 10YR6/2 灰青褐色 ローム小B・粒B、焼土粒D/粘B、礫B
- 10YR6/4 暗褐色 ローム小B・粒B、焼土粒B/粘B、礫B
- 10YR4/6 暗褐色 ローム中B・小B・粒B/粘B、礫B

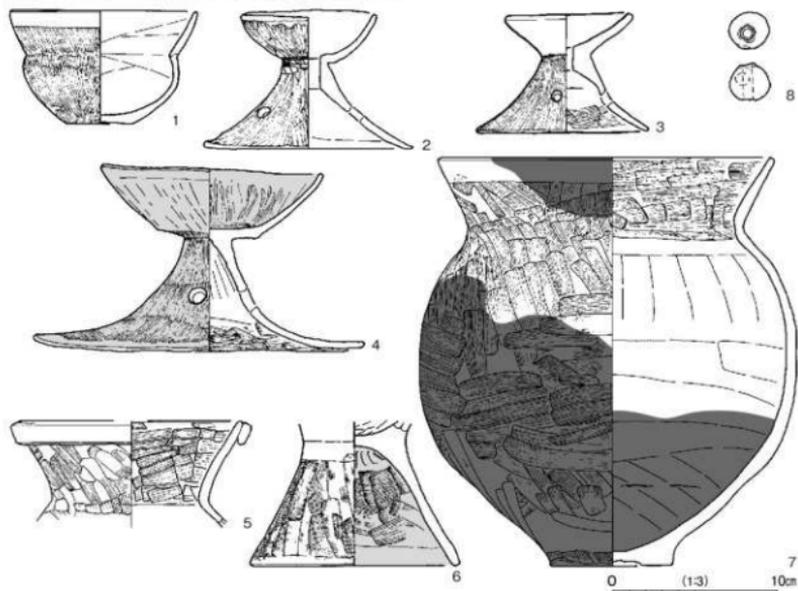
第65図 第20号竪穴建物跡実測図

貯蔵穴 西コーナー部に位置しており、長径120cm、短径95cmの楕円形である。深さは40cmほど、底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がり、上面にテラス状の平坦面をもつ。貯蔵穴の北東・南東側に逆し字状の高まりを確認した。3層に分層でき、ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片138点(埴1, 器台3, 高坏1, 壺119, 台付甕1, 甕13)、土製品1点(土玉)が出土している。また、混入した土師器片85点(坏82, 碗1, 鉢2)も出土している。1は逆位で中央部の床面から、2は横位で南部の覆土下層から、6は横位で中央部北側の覆土下層からそれぞれ出土している。8は貯蔵穴の覆土下層から、3は斜位で貯蔵穴北側の壁面から、4は斜位、7は横位で西コーナー部の覆土下層から貯蔵穴覆土上層にかけてそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀前葉に比定できる。



第66図 第20号竪穴建物跡出土遺物実測図

第32表 第20号竪穴建物跡出土遺物一覧(第66図)

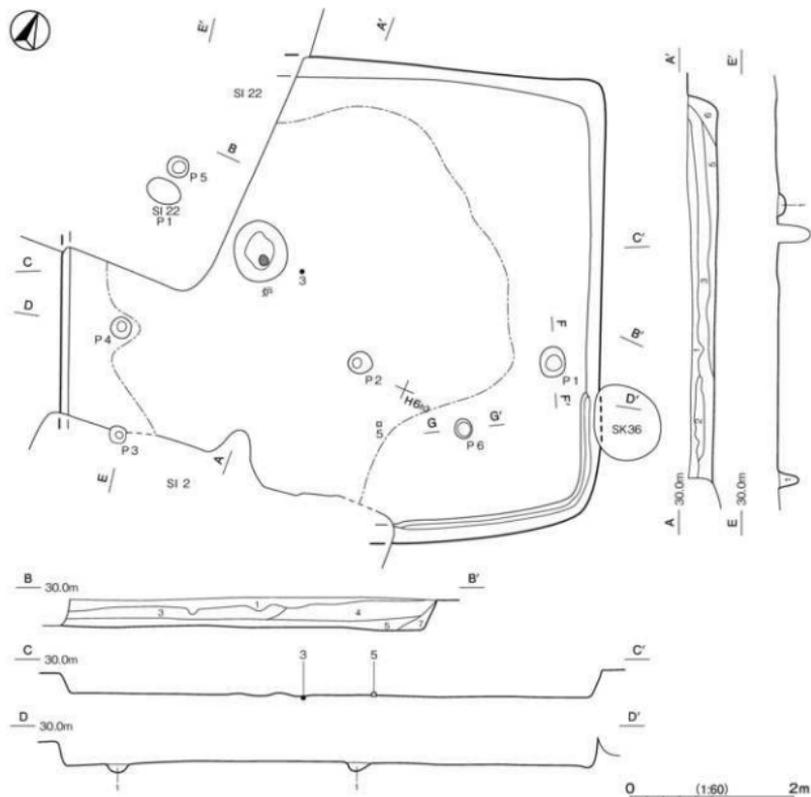
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	埴	112	7.0	3.8	長石・赤色粒子・黒色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面ナテ 外面へラ磨き 内面ナテ	床面	90% PL64
2	土師器	器台	8.0	8.5	12.7	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	脚部3ヶ所穿孔 全面赤彩の痕跡	覆土下層	90% PL64
3	土師器	器台	7.3	7.3	10.2	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	脚部3ヶ所穿孔 脚部内面へテ目調整 全面赤彩の痕跡	覆土中層	100% PL64
4	土師器	高坏	13.3	11.4	20.2	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	脚部3ヶ所穿孔 坏部内面・脚部外面へラ磨き 坏部外・内面・脚部外面赤彩	覆土下層・新成土層上層	80% PL64 真面赤
5	土師器	壺	[134]	(6.5)	-	長石・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部外・内面へテ目調整	覆土中	5%
6	土師器	台付甕	-	(8.8)	12.6	長石・石英	浅黄橙	普通	脚部外・内面へテ目調整 断面摩耗 右部内面赤彩 二次焼成	覆土下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
7	土師器	甕	200	250	7.2	長石・石灰	橙	普通	外面下手塚付着 底部外面へ丸割り	西土下層～ 野原式層土上層	100% PL64
番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
8	土玉	25	22	0.8	11.30	長石・赤色粒子	にぶい黄橙	一方向から穿孔	野原式 西土下層	PL103	

第21号竪穴建物跡 (第67～70図 PL10)

位置 調査区北東部のH6g2区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第2・22号竪穴建物、第31・32・36号土坑に掘り込まれている。



土層解説

- | | | | |
|---------------|---------------------------|---------------|------------------------------|
| 1 10YR2-2 赤褐色 | ロ→A粒C、焼土粒D'、炭化粒D' / 粘B、雜B | 5 10YR4-4 黄 | ロ→A小D、粒C / 粘B、雜B |
| 2 10YR3-3 暗褐色 | ロ→A粒C、焼土粒D' / 粘B、雜B | 6 10YR5-4 赤土層 | ロ→A中D、小C、粒B / 粘B、雜B |
| 3 10YR3-4 暗褐色 | ロ→A粒C、炭化粒D' / 粘B、雜B | 7 10YR3-3 暗褐色 | ロ→A小C、粒C、焼土粒D'、炭化粒D' / 粘B、雜B |
| 4 10YR3-3 暗褐色 | ロ→A粒C、焼土粒D' / 粘B、雜B | | |

第67図 第21号竪穴建物跡実測図(1)

F 30.0m F'



G 30.0m G'



ピット土層解説 (赤ピット共通)

- 1 10YR4/3 細粒ローム小B・粒B/粒B、粒B
 2 10YR4/6 細粒ローム大C・中A・小A・粒A/粒B、粒B

0 (1:50) 2m

第68図 第21号竪穴建物跡実測図(2)

規模と形状 長軸6.58m、短軸5.86mの長方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は22~32cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南東コーナー部に壁溝を確認した。

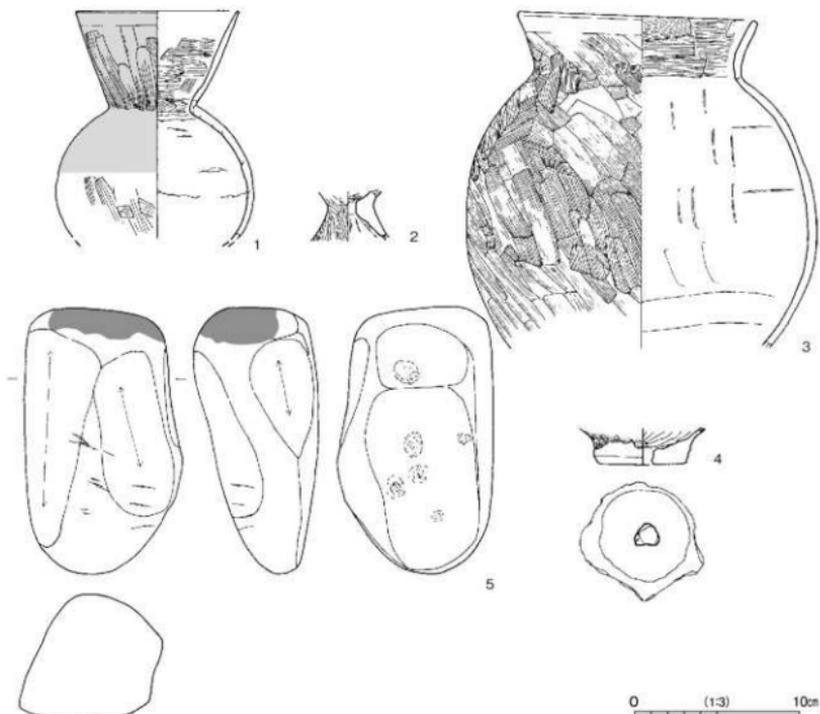
炉 中央部の西寄りに付設された地床炉である。長径76cm、短径64cmの楕円形で、炉床面は赤変している。

ピット 6か所。P1~P6は深さ10~26cmで、性格不明である。

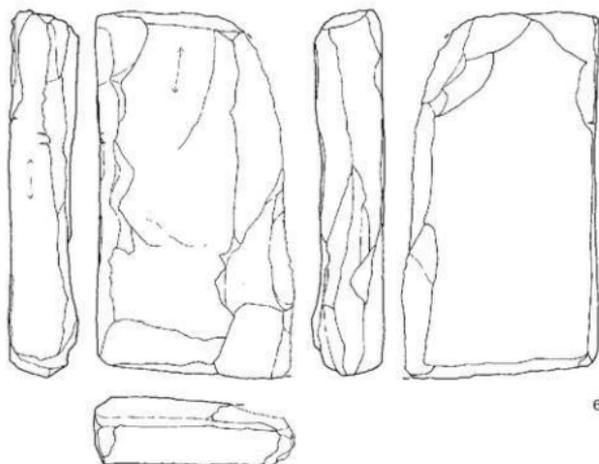
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片177点(埴1, 器台8, 高坏1, 壺101, 甕66), 石器2点(磨石, 砥石)が出土している。3は中央部の床面から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第69図 第21号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



6

0 (1:3) 10cm

第70図 第21号竪穴建物跡出土遺物実測図2)

第33表 第21号竪穴建物跡出土遺物一覧(第69・70図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	埴	99	(14.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	裏面外・内面ハケ目調整 口縁部・体部外面率	覆土中	60% PL65
2	土師器	影台	-	(3.1)	-	長石・石英・磁礫	にぶい黄緑	普通	焼成前穿孔	覆土中	20%
3	土師器	甕	143	(20.5)	-	長石・石英・磁礫	橙	普通	外面ハケ目調整	床面	80% PL65
4	土師器	甕	-	(2.2)	5.4	長石・石英・ 赤土砂子	にぶい橙	普通	底部焼成前穿孔	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	磨石	16.3	9.7	7.7	1.472	流紋岩	敲打痕 焼熱による赤化あり	床面	
6	砥石	22.7	(12.1)	4.4	(2.014)	千枚岩	裏面・側面研磨	覆土中	

第22号竪穴建物跡(第71・72図 PL10・11)

位置 調査区北東部のH6g1区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第21号竪穴建物跡を掘り込み、第1号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.08m、短軸4.88mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は22~30cmで、外傾している。

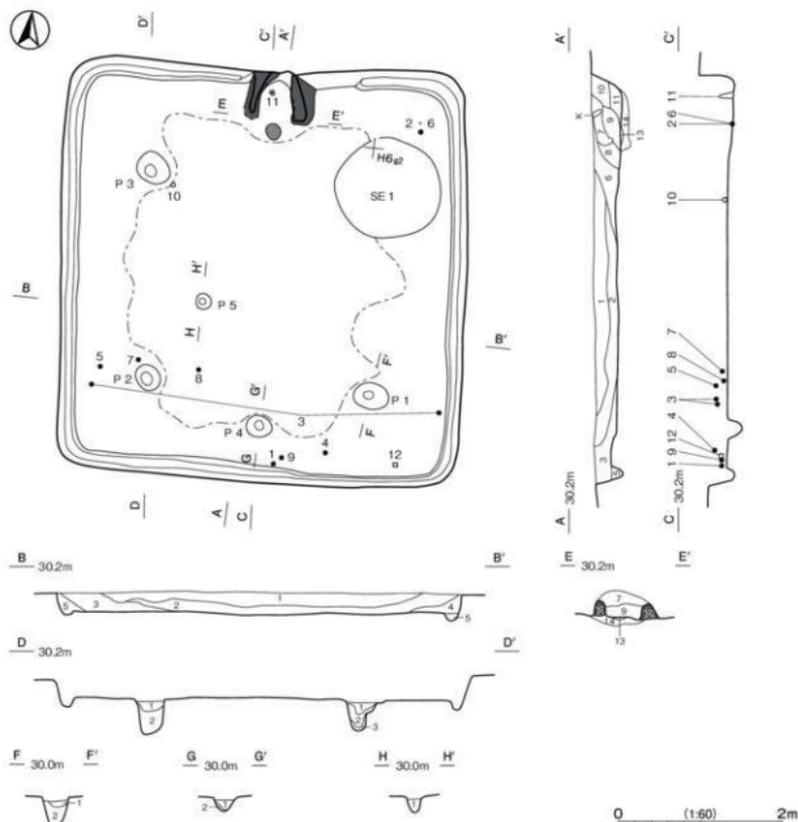
床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで88cmで、燃焼部幅は42cmである。竈は、地山を12cmほど掘りくぼめ、ロームブロックなどを含む第13・14層を埋土して整地されている。袖部は地山と整地面の上に、砂質粘土を含む第12層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、支脚が立位で遺存している。火床面は赤変硬化している。煙道部はわずかに壁外に掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第6~11層は竈に関連する堆積土である。

ピット 5か所。P1～P3は深さ36～42cmで、配置から主柱穴である。P4は深さ16cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ20cmで、性格不明である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片280点(坏154, 高坏9, 甕116, 瓶1), 須恵器片2点(坏), 土製品2点(土玉, 支脚), 石器1点(砥石), 焼成粘土塊1点(21.82g)が出土している。図示した遺物のうち完形に近い遺物は、床面



土層解説

1 10YK3-3	暗褐色	ローム中D・小C・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B	8 10YK3-3	暗褐色	ローム粒C、焼土小D'、炭化粒C、砂質粘土粒D/粘B、雜B
2 10YR4-3	〚赤〚褐色	ローム中C・小B・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B	9 10YR3-3	暗褐色	ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D、砂質粘土粒D/粘B、雜B
3 10YR4-2	〚赤〚褐色	ローム中C・小B・粒A、焼土中D・小D'、粘B、雜B	10 10YR5-4	〚赤〚褐色	ローム粒D'、焼土粒D'、炭化粒D'、砂質粘土粒B/粘B、雜B
4 10YK3-3	暗褐色	ローム中C・小C・粒C、焼土粒D/粘B、雜B	11 10YR4-4	褐色	ローム粒C、焼土粒A、砂質粘土粒C/粘B、雜B
5 10YR4-4	褐色	ローム小D・粒B、炭化粒D/粘B、雜B	12 10YR5-4	〚赤〚褐色	焼土粒C、砂質粘土粒A/粘B、雜A
6 10YR4-6	褐色	ローム中C・粒C、焼土小C、砂質粘土粒B/粘B、雜A	13 5YR4-6	赤褐色	ローム小C、焼土粒A/粘B、雜B
7 10YR5-4	〚赤〚褐色	ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜B	14 10YR4-4	褐色	ローム小C、焼土小D、炭化粒D/粘B、雜B

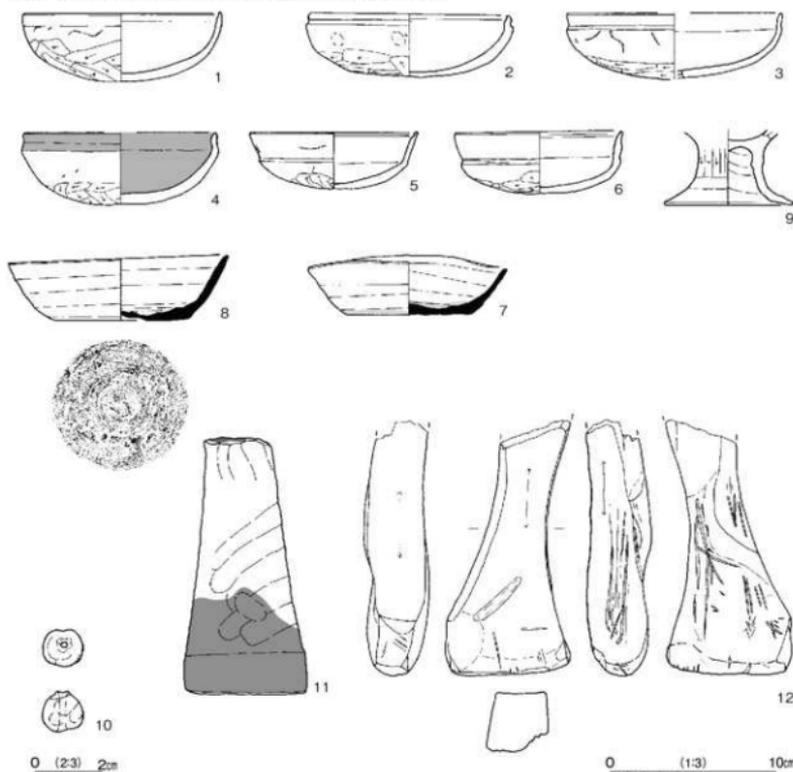
ピット土層解説(赤ピット共通)

1 10YK3-4	暗褐色	ローム中C・小B・粒B、焼土小C/粘B、雜B	3 10YR5-6	黄褐色	ローム粒A、砂質粘土粒A/粘A、雜B
2 10YR4-3	〚赤〚褐色	ローム中C・小A・粒A/粘B、雜B			

第71図 第22号堅穴建物跡実測図

から覆土下層の壁際に分布が集中している。2・6は、2の内に6が重なって出土している。11は竈内に遺棄されている。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



第72図 第22号竪穴建物跡出土遺物実測図

第34表 第22号竪穴建物跡出土遺物一覧(第72図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土師器	坏	11.9	4.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈澱	覆土下層	100% PL65	
2	土師器	坏	12.0	3.9	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口唇部内面沈澱	床面	100% PL65	
3	土師器	坏	[130]	4.0	-	長石・石英	灰褐	普通	内面ナシ	覆土中層	30%	
4	土師器	坏	[116]	4.4	-	長石・石英・黒色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理	覆土中層	50%	
5	土師器	坏	10.1	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈澱	覆土中層	90% PL65	
6	土師器	坏	10.1	3.8	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口唇部内面沈澱	覆土下層	90% PL65	
7	須恵器	坏	12.0	3.6	7.8	長石・石英・黒色粒子・粗體	灰白	良好	外・内面一部自然釉かかる	底部外面へラ割り調整	覆土下層	100% PL65
8	須恵器	坏	13.3	4.1	8.3	長石・石英・黒色粒子・粗體	灰	良好	底部外面へラ割り調整	覆土下層	100% PL65	
9	土師器	高坏	-	(4.6)	7.7	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部・脚部内面ナシ	脚部外面へラ割り	覆土下層	60%

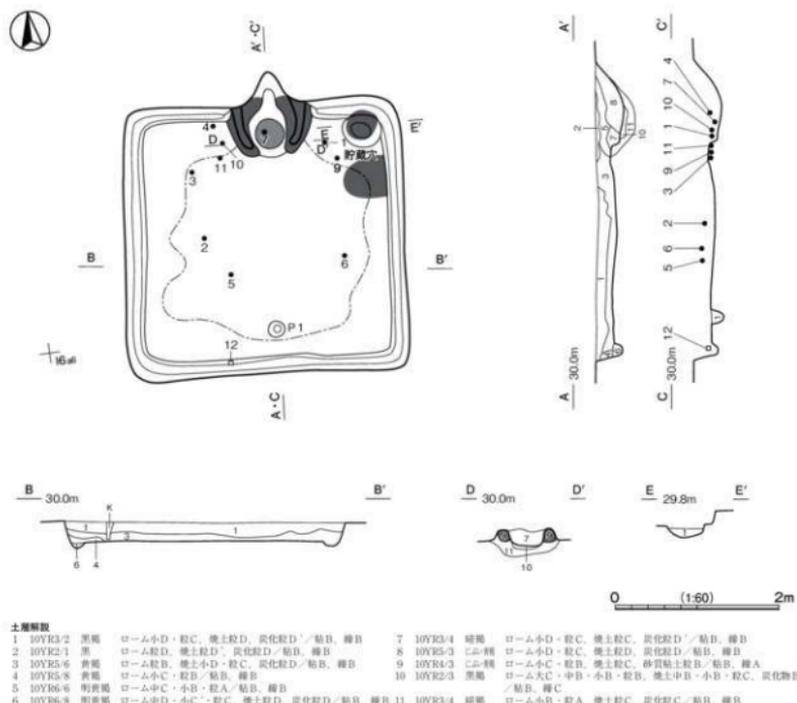
番号	部 種	径	高さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
10	土玉	1.2	1.2	0.2	1.50	長石	にふい赤釉 一方向から穿孔	床面	
番号	部 種	上径	下径	高さ	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
11	支脚	4.0	7.5	15.8	(600)	長石・石英	全面ナメ 被熱痕	爐火床面	
番号	部 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
12	砥石 (156)	7.6	3.9	(499)		凝灰岩	砥面 4面	覆土下層	

第 23 号竪穴建物跡 (第 73・74 図 PL11)

位置 調査区北東部の H6j6 区、標高 30m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 24 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.42m、短軸 3.30m の方形で、主軸方向は $N-5^{\circ}-E$ である。壁高は 24 ~ 27cm で、外傾している。



土層解説

- | | | | |
|----------------|-------------------------------|----------------|-------------------------------------|
| 1 10YR3-2 黒褐色 | ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D' / 粘B、雜質 | 7 10YR3/4 暗褐色 | ローム小D・粒C、焼土粒C、炭化粒D' / 粘B、雜質 |
| 2 10YR2-1 黒 | ローム粒D、焼土粒D'、炭化粒D / 粘B、雜質 | 8 10YR3/3 暗褐色 | ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D / 粘B、雜質 |
| 3 10YR3-6 黄褐色 | ローム粒B、焼土小D・粒C、炭化粒D / 粘B、雜質 | 9 10YR4/3 暗褐色 | ローム小C・粒B、焼土粒C、砂質粘土粒D / 粘B、雜質 |
| 4 10YR3-8 黄褐色 | ローム小C・粒B、粘B、雜質 | 10 10YR2/3 黄褐色 | ローム小C・中B・粒B、焼土中B・小B・粒C、炭化粒B / 粘B、雜質 |
| 5 10YR6-6 明黄褐色 | ローム中D・小B・粒A / 粘B、雜質 | | |
| 6 10YR6-8 明黄褐色 | ローム中D・小C・粒C、焼土粒D、炭化粒D / 粘B、雜質 | 11 10YR3/4 暗褐色 | ローム小B・粒A、焼土粒C、炭化粒C / 粘B、雜質 |

ピット土層解説 (赤ピット共通)

- | | | | |
|---------------|----------------------|---------------|------------------------------|
| 1 10YR3-3 暗褐色 | ローム小D、砂質粘土粒D / 粘B、雜質 | 貯蔵穴土層解説 | |
| | | 1 10YR5/4 暗褐色 | ローム小C・炭化粒D・粘土ブロック大A' / 粘A、雜質 |

第 73 図 第 23 号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで105cmで、燃燒部幅は36cmである。竈は、地山を16cmほど掘りくぼめ、ロームブロックなどを含む第10・11層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上面に、砂質粘土を含む第9層を積み上げて構築されている。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり、火床面は赤変している。煙道部は壁外に28cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第7・8層は竈に関連する堆積土である。

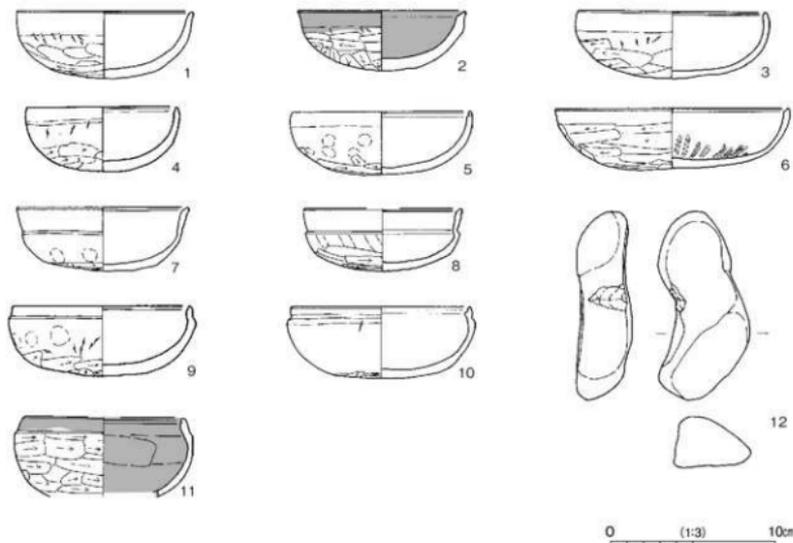
ピット P1は深さ16cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置しており、長径48cm、短径42cmの楕円形である。深さは15cmほど、底面は皿状で、壁は外傾している。単一層で、ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子が含まれていることから人為堆積である。また、北東コーナー部2か所で貯蔵穴から覆土下層にかけて粘土塊を確認した。

遺物出土状況 土師器片248点（坏202、高坏1、甕43、甕1、手捏土器1）、須恵器片1点（坏）、石器1点（編物石）、焼成粘土塊2点（14.72g）が出土している。7は竈火床部から、1・9は竈右袖脇の床面から、3・10・11は竈左袖脇の床面からそれぞれ出土している。1・3は逆位で、9・10・11は正位で、7は斜位で出土している。2・5・6は中央部の覆土下層から中層にかけてそれぞれ出土している。5・6は正位で出土している。4は北壁際、12は南壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第74図 第23号竪穴建物跡出土遺物実測図

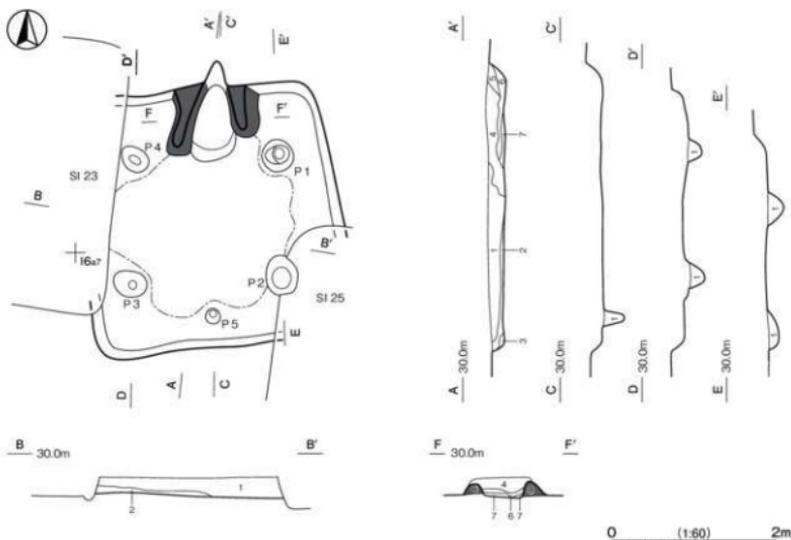
第35表 第23号竪穴建物跡出土遺物一覧(第74図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	杯	10.7	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内面深い沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	100% PL65
2	土師器	杯	10.1	3.7	-	長石・石英・赤色粒子	明褐色	普通	口縁部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中層	100% PL65
3	土師器	杯	11.4	4.1	-	長石・石英・赤母	にぶい橙	普通	口縁部内面沈線	床面	100% PL66
4	土師器	杯	9.1	3.9	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部内面沈線	覆土下層	100% PL66
5	土師器	杯	10.9	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内面沈線	覆土中層	90% PL66
6	土師器	杯	14.1	3.7	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内面沈線 外面赤彩の痕跡	覆土中層	80% PL66
7	土師器	杯	10.4	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内面沈線	龍内	100% PL66
8	土師器	杯	[9.4]	3.8	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部内面沈線	覆土中層	40%
9	土師器	杯	10.8	4.2	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内面深い沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	100% PL66
10	土師器	杯	10.9	4.3	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面沈線	床面	100% PL66
11	土師器	杯	[9.5]	(4.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内面沈線 内面ヘラナジ 口縁部外面・内面黒色処理	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
12	礫物石	11.6	5.6	3.5	258	花崗閃岩	一部打ち欠き	覆土下層	PL100

第24号竪穴建物跡(第75・76図 PL11)

位置 調査区北東部のH6j7区、標高30mほどの微高地上に位置している。



土層解説

- | | | | |
|--------------|------------------------------|--------------|------------------------------|
| 1 10YR3-2 赤褐 | ローム粒D、焼土小D/粘B、雜B | 5 10YR3-3 暗赤 | ローム粒C、焼土小C、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜B |
| 2 10YR3-3 暗赤 | ローム粒C、焼土小D/粘B、雜B | 6 10YR4-3 紅 | ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘B、雜B |
| 3 10YR4-4 紅 | ローム粒B/粘B、雜B | 7 10YR3-2 黒褐 | ローム粒D、焼土粒D、炭化粒C、砂質粘土粒D/粘B、雜B |
| 4 10YR4-3 紅 | ローム粒C、焼土粒C、炭化物D、砂質粘土粒B/粘B、雜A | 8 10YR4-3 紅 | 砂質粘土粒A/粘B、雜A |

ピット土層解説(赤ピット共通)

- 1 10YR3-3 暗赤 ローム小D、炭化粒C/粘B、雜B

第75図 第24号竪穴建物跡実測図

重複関係 第23・25号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第23号竪穴建物に、南東部が第25号竪穴建物に掘り込まれているため、南北軸は3.20m、推定される東西軸は3.18mである。平面形は方形と推定され、主軸方向はN-1°-Eである。壁高は14～22cmで、外傾している。

床 平坦で、竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。

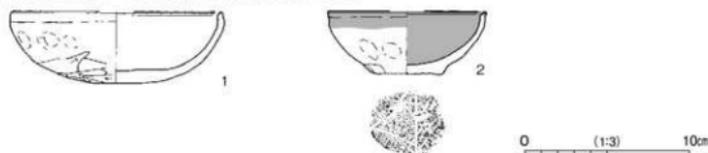
竈 北壁に付設されている。規模は焚口から煙道部まで124cmで、燃焼部幅は42cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第8層を積み上げて構築されている。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に38cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第4～7層は竈に関連する堆積土である。第4層は竈を破壊した際の堆積土である。

ピット 5か所。P1～P4は深さ14～26cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ26cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分層できる。焼土ブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片314点（坏290、高坏3、甕20、瓶1）、焼成粘土塊1点（4.03g）が出土している。1・2は南部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。



第76図 第24号竪穴建物跡出土遺物実測図

第36表 第24号竪穴建物跡出土遺物一覧（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[128]	4.4	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	口唇部内面沈線	覆土中	40%
2	土師器	坏	[9.5]	3.9	4.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理 底部外面縁部の木炭痕	覆土中	50%

第25号竪穴建物跡（第77・78図 PL11）

位置 調査区北東部のI6a8区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第24号竪穴建物跡、第67号土坑を掘り込み、第85号土坑に掘り込まれている。

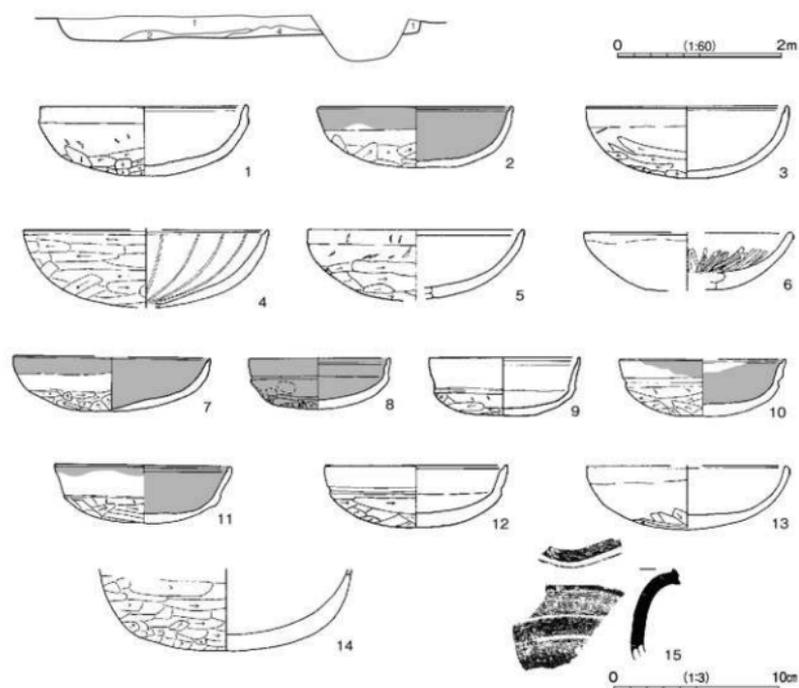
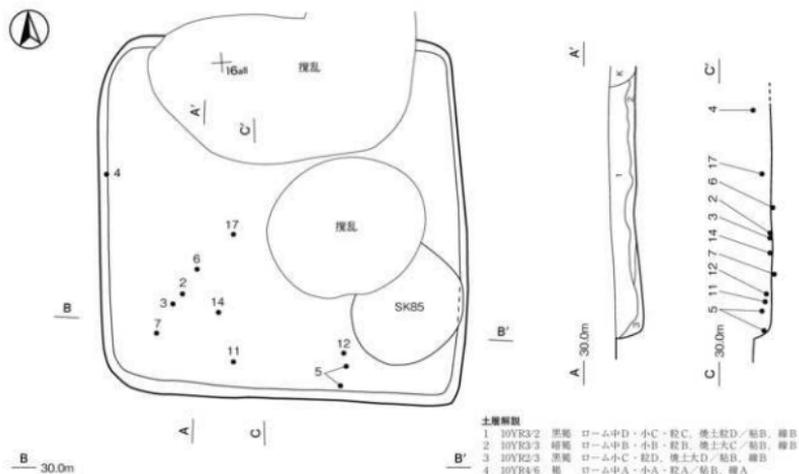
規模と形状 長軸4.48m、短軸4.46mの方形で、長軸方向はN-4°-Eである。壁高は24cmで、外傾している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

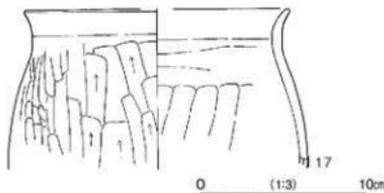
覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片2,295点（坏1,960、輪4、高坏10、鉢6、甕312、瓶3）、須恵器片8点（坏2、蓋2、瓶4）、土製品2点（支脚）、焼成粘土塊9点（53.48g）が出土している。2・3・6・7・14は南西部の床面からそれぞれ出土している。2・3は正位で出土している。5・11・12は南壁際の覆土下層から中層にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第77图 第25号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第78図 第25号竪穴建物跡出土遺物実測図

第37表 第25号竪穴建物跡出土遺物一覧(第77・78図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	環	126	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	80% PL66
2	土師器	環	118	3.7	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口唇部内面沈線	口縁部外面・内面黒色処理	床面 80% PL66
3	土師器	環	122	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	良好	口唇部内面沈線	床面	70% PL66
4	土師器	環	[148]	(4.7)	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	良好	口唇部内面沈線 内面放射状へら磨き	覆土上層	30%
5	土師器	環	131	(4.3)	-	長石・赤色粒子	橙	良好	口唇部内面沈線	覆土中層	50%
6	土師器	環	[124]	(3.6)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	内面放射状へら磨き	床面	40%
7	土師器	環	[119]	3.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	50%
8	土師器	環	87	3.1	-	長石	赭灰	良好	口唇部内面沈線 外・内面黒色処理	覆土中	90% PL66
9	土師器	環	91	3.5	-	長石・雲母・赤色粒子	にぶい橙	良好	口縁部内面弱く幅広い沈線 外・内面黒色処理の痕跡	覆土中	60%
10	土師器	環	[99]	3.5	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	40%
11	土師器	環	105	3.7	-	長石・赤色粒子	橙	普通	外面近部摩滅により調整不明確 口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	80% PL66
12	土師器	環	109	3.8	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口唇部内面沈線	覆土下層	80% PL67
13	土師器	環	[122]	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	50%
14	土師器	環	-	(5.0)	-	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	内面ナデ	床面	50%
15	須恵器	瓶	-	(5.5)	-	長石・石英	灰白	普通	口唇部磨滅状工具による痕目 口縁部1条の沈線 肩部磨滅き流状文・2条の沈線	覆土中	5%
16	須恵器	長頸瓶	-	(7.3)	-	長石	灰白	良好	外面カキ目 内面ロタロ目	覆土中	5%
17	土師器	甕	[137]	(9.7)	-	長石・石英	にぶい黄橙	良好	外面保肉着	覆土中層	10%

第27号竪穴建物跡(第79・80図 PL11・12)

位置 調査区北部のI 5a0区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第13号竪穴建物、第2号堀に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第2号堀に、東部が第13号竪穴建物に掘り込まれているため、推定される形状は、長軸4.16m、短軸3.50mの長方形で、長軸方向はN-33°-Wである。壁高は5~19cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

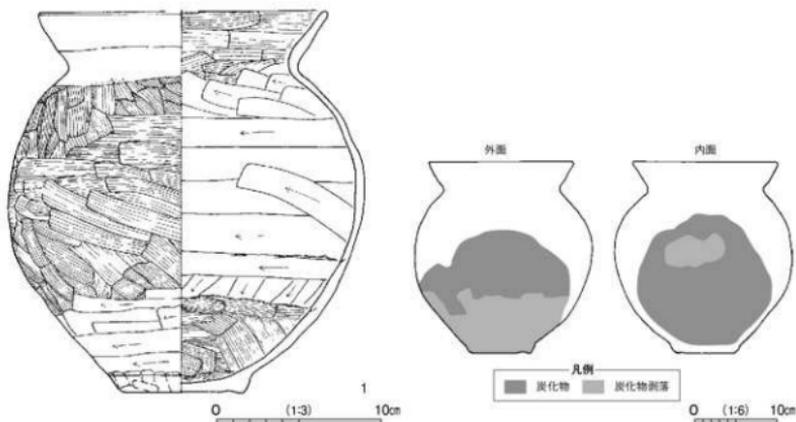
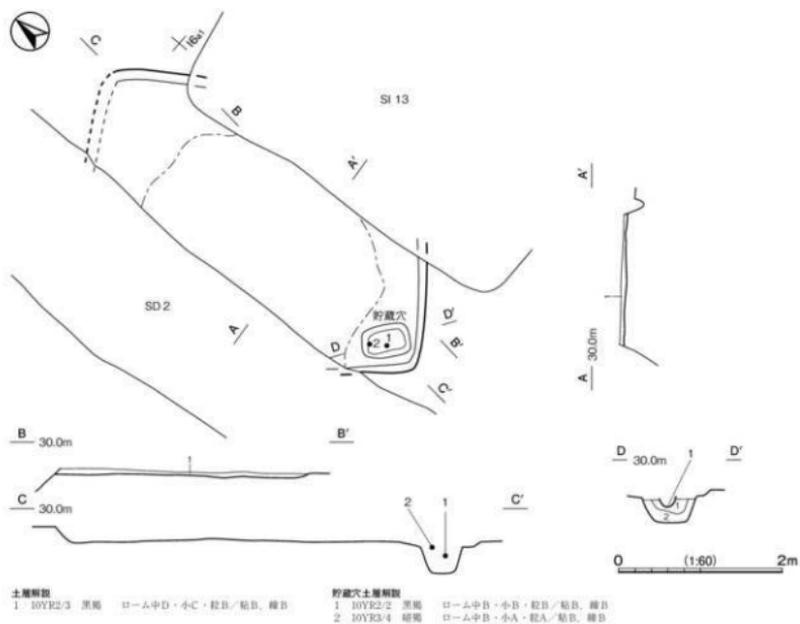
貯蔵穴 南コーナー部に位置しており、長軸60cm、短軸42cmの隅丸長方形である。深さは34cmほど、底面は平坦で、壁はほぼ直立している。2層に分層でき、ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

覆土 単一層である。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

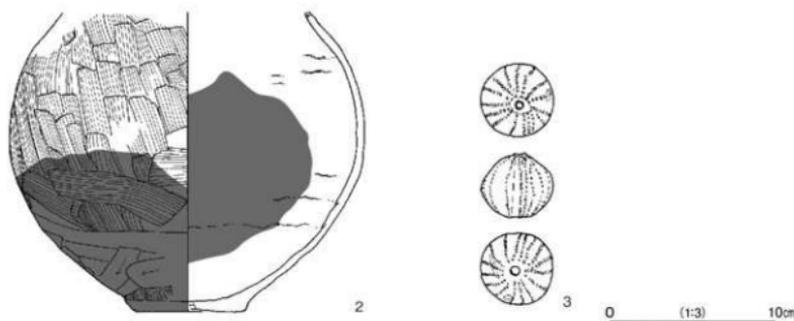
遺物出土状況 土師器片83点(環29、高環7、鉢10、甕37)、土製品1点(土玉)、焼成粘土塊1点(6.31g)が出土している。1は貯蔵穴の上面から中層にかけて斜線で、2は貯蔵穴の上面から横位でそれぞれ出土して

いる。

所見 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第79図 第27号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第80図 第27号竪穴建物跡出土遺物実測図

第38表 第27号竪穴建物跡出土遺物一覧(第79・80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[17A]	23.3	7.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面表裏同位置に塚付着	竪穴遺土上層	70% PL67
2	土師器	甕	-	(18.4)	6.8	長石・石英・赤色粒子・粗礫	橙	普通	体部外・内面表裏同位置に塚付着	竪穴遺土上層	50%
番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
3	土玉	4.4	3.4	0.5	69.22	長石・石英	ぶい・黄褐色	竹筒状工具による16条の列点文 一方向から穿孔	遺土中	PL59	

第28号竪穴建物跡(第81図 PL12)

位置 調査区北部のI 6a2区、標高30 mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第40号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.16 m、短軸4.66 mの長方形で、主軸方向はN-52°-Eである。壁高は2~10 cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北西壁及び南西壁の壁溝から、それぞれ中央に向かって延びる間仕切り溝2条を確認した。

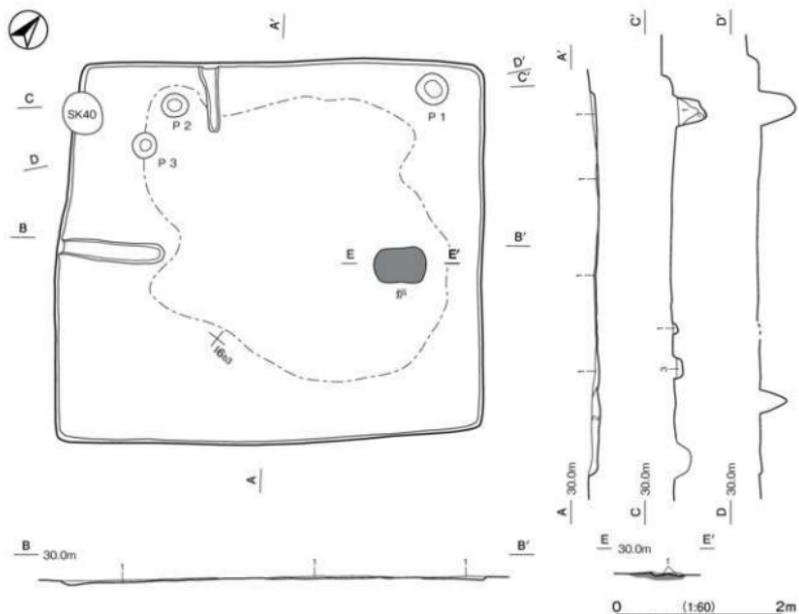
炉 中央部の東寄りに付設された地床炉である。長径65 cm、短径45 cmの楕円形である。炉床部は床面から6 cmくぼんでいる。炉床面は赤変しており、やや硬化している。

ピット 3か所。P1~P3は深さ15~40 cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

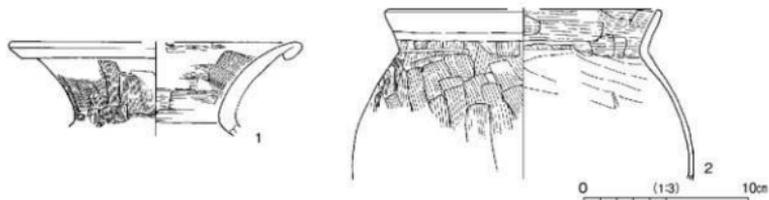
遺物出土状況 土師器片54点(壺2、甕52)、土製品1点(不明土製品)が出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。



- 土層解説
 1 10YR4-4 粘 ローム粒C/粘B、緑B
 2 10YR3-3 砂質 ローム小D・粒C/粘B、緑B
- 炉土層解説
 1 10YR3-3 砂質 ローム粒C、焼土小D、炭化粒D/粘B、緑B

- ピット・間仕切り溝土層解説 (各ピット共通)
- 10YR4-3 粘土層 ローム小D・粒D、焼土粒D/粘B、緑B
 - 10YR5-6 黄褐 ローム小C・粒B/粘B、緑B
 - 10YR6-8 黄褐色 ローム小B・粒A/粘B、緑B



第81図 第28号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第39表 第28号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	皿	[174]	(5.7)	-	長石・石英・白色粒子	褐	普通	折り返し口縁 内面やや摩耗	覆土中	10%
2	土師器	鉢	[162]	(10.4)	-	長石・石英・白色粒子	赤褐	普通	内面摩耗	覆土中	20%

第29号竪穴建物跡 (第82図 PL12)

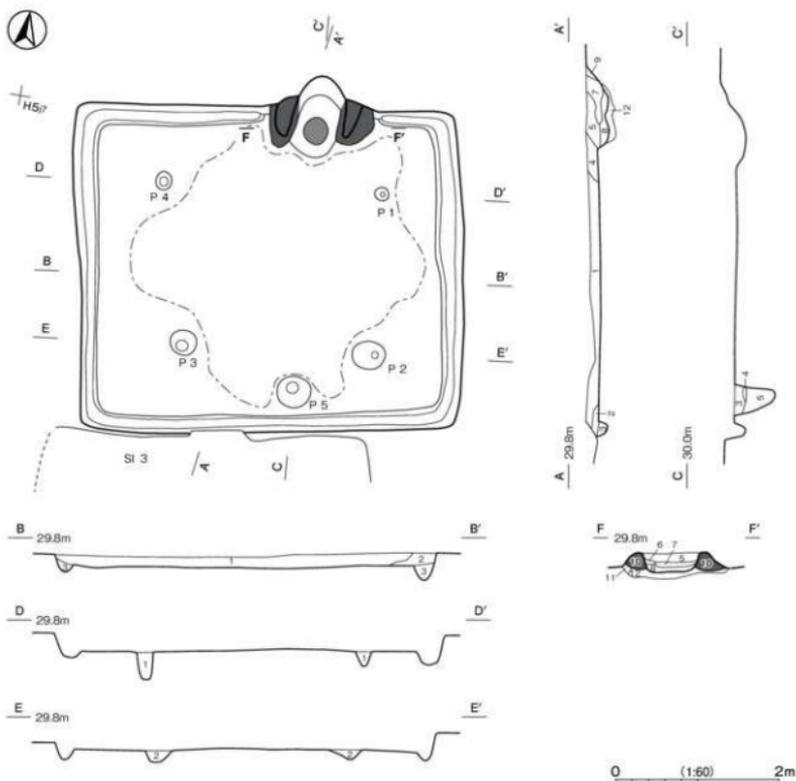
位置 調査区北部のH5J7区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第35号竪穴建物跡を掘り込み、第3号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.62m、短軸3.96mの長方形で、主軸方向はN-9°-Wである。壁高は10~24cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁のやや東側に付設されている。規模は焚口から煙道部まで112cmで、燃焼部幅は50cmである。竈は、地山を10cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第11・12層を埋土して整地されている。袖部は整



土層解説

- 1 10YK3-2 黒褐色 ローム粒C、焼土小D、炭化粒D/粘B、雜B
- 2 10YK3-1 黒褐色 ローム粒C/粘B、雜B
- 3 10YK3-3 暗褐色 ローム粒C、炭化粒D'/粘B、雜B
- 4 10YK3-3 暗褐色 ローム粒D、焼土小C、砂質粘土粒C/粘B、雜B
- 5 10YR4-4 黒褐色 ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘B、雜B
- 6 10YR4-4 黒褐色 焼土小C/粘B、炭化粒C、砂質粘土粒C/粘B、雜C

- 7 10YR4-4 黒褐色 ローム粒D、焼土小C/粘B、炭化粒C、砂質粘土粒C/粘B、雜C
- 8 10YK3-3 暗褐色 焼土粒C、炭化粒B、砂質粘土粒D/粘B、雜C
- 9 10YK3-3 暗褐色 ローム粒C、炭化粒D、砂質粘土粒D/粘B、雜B
- 10 10YK3-6 黄褐色 焼土粒D、砂質粘土粒A/粘B、雜A
- 11 10YK3-6 黄褐色 ローム粒C、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘B、雜B
- 12 10YK3-3 暗褐色 ローム粒D、焼土粒C、炭化粒C、砂質粘土粒C/粘B、雜B

ビット土層解説 (各ビット共通)

- 1 10YK3-2 黒褐色 ローム粒D、焼土粒D/粘B、雜B
- 2 10YK3-3 暗褐色 ローム粒D、焼土粒D'/粘B、雜B
- 3 10YK3-2 黒褐色 ローム粒C、焼土小D、炭化物D/粘B、雜B

- 4 10YK3-3 暗褐色 ローム小C/粘B、雜B
- 5 10YR4-4 黒褐色 ローム小C、炭化粒D'/粘B、雜B

第82図 第29号竪穴建物跡実測図

地面の上に、砂質粘土を含む第10層を積み上げて構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第4～9層は竈に関連する堆積土である。

ピット 5か所。P1～P4は深さ12～34cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ50cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片350点(坏238, 高坏2, 鉢1, 甕108, 瓶1), 須恵器片6点(坏5, 瓶1), 焼成粘土塊2点(9.76g)が出土している。遺物は細片で図示できなかったが、小形の土師器坏や、いわゆるX字状の器形を呈する高坏が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から7世紀後半に比定できる。

第30号竪穴建物跡(第83・84図 PL12)

位置 調査区北東部のH6e8区、標高30mほどの微高地上に位置している。

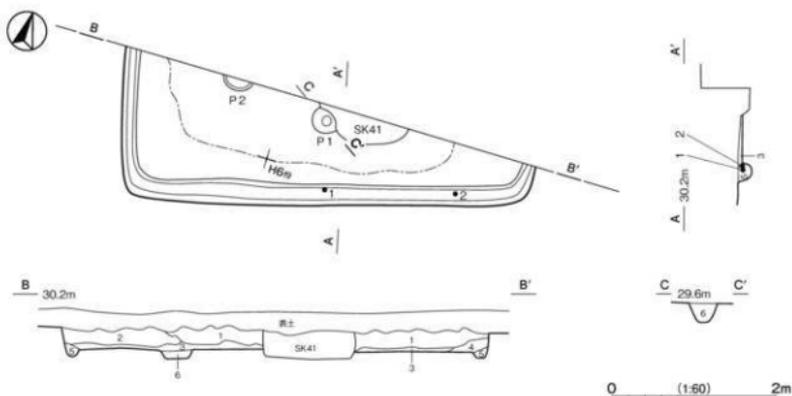
重複関係 第41号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部の大半が調査区域外へ延びているため、確認できた南北軸は1.80m、東西軸は5.02mで、方形または長方形と推定される。南北軸方向はN-15°-Wである。壁高は25cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部から南部の壁際にかけて、踏み固められている。確認できた範囲では壁溝が巡っている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ10・22cmで、性格不明である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。



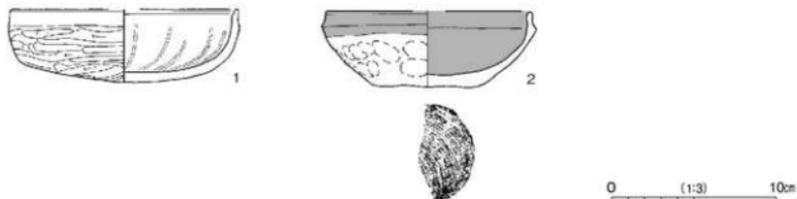
土器解説 - ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | | |
|---------------|---------------------|------------|---------------|---------------------|
| 1 10YR2/2 黒褐色 | ローム小C・粒C | 焼土小C・粘B、層B | 4 10YR2/3 黒褐色 | ローム小C・粒B、焼土粒D・粘B、層B |
| 2 10YR2/2 黒褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒D・粘B、層B | | 5 10YR3/3 暗褐色 | 焼土小B・粒B・粘B、層B |
| 3 10YR3/2 黒褐色 | ローム中C・小B・粒B・粘B、層B | | 6 10YR3/2 黒褐色 | ローム粒D・粘B、層B |

第83図 第30号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 70 点 (坏 51, 鉢 2, 甕 17), 焼成粘土塊 1 点 (288g) が出土している。1・2 は南壁溝の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀第 4 半期に比定できる。



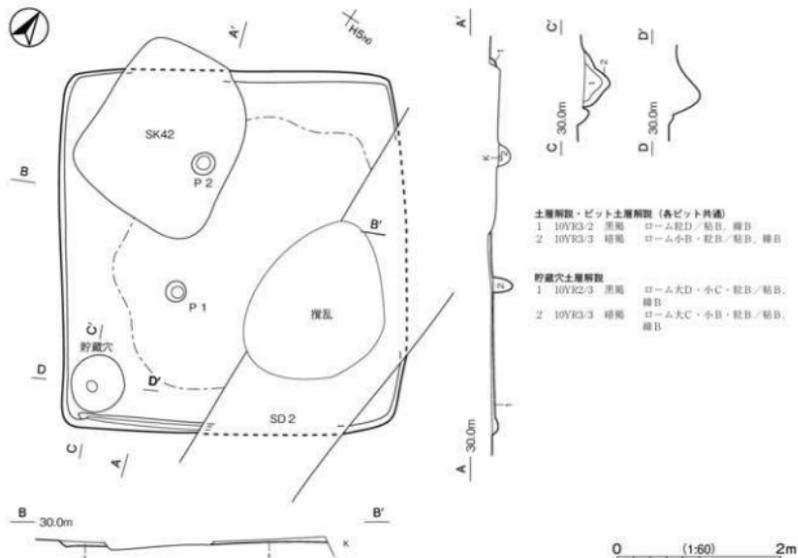
第 84 図 第 30 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 40 表 第 30 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 84 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[138]	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	にじみ橙	普通	口唇部内面比線 内面放射状ヘラ書き	南溝 覆土上層	70% PL67
2	土師器	坏	[122]	4.6	6.0	長石・赤色粒子・粗糠	灰白	普通	底部外面磨り未切り 内面短痕状剥離 口縁部厚縁 口縁部内面・内面黒色処理	南溝 覆土上層	30%

第 32 号竪穴建物跡 (第 85 図 PL12)

位置 調査区北部の H 5 h0 区, 標高 30 m ほどの微高地上に位置している。



第 85 図 第 32 号竪穴建物跡実測図

重複関係 第2号堀、第42号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 形状は長軸4.48 m、短軸4.10 mの方形である。主軸方向はN-34°-Wである。壁高は7 cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は南東壁の一部で確認した。

ピット 2か所。P1・P2は深さ25・20 cmで、性格不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。覆土中の出土遺物と出土遺物の時期が同時期であることと配置から貯蔵穴と判断した。平面形は長径73 cm、短径65 cmの楕円形であり、深さは38 cmほど、底面はU字状で、壁は緩やかに立ち上がっている。2層に分層でき、ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

覆土 単一層である。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片41点(高坏2、甕39)が出土しているほか、混入した土師器片42点(坏)も出土している。遺物は細片で図示できなかったが、ハケ目調整された甕などが出土している。

所見 時期は、出土土器や遺構の形状から4世紀代に比定できる。

第33号竪穴建物跡(第86図 PL12・13)

位置 調査区北部のH61区、標高30 mほどの微高地上に位置している。

重複関係 ピットは確認できなかったが配置から、第2号柱穴列に掘り込まれている可能性がある。

規模と形状 長軸4.48 m、短軸4.42 mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は12~23 cmで、外傾している。

床 平坦で、竈前方部から中央部にかけて、踏み固められている。壁溝が全周している。また、P5の北側に6 cmほどの高まりを確認した。北東コーナー部に粘土塊を確認した。

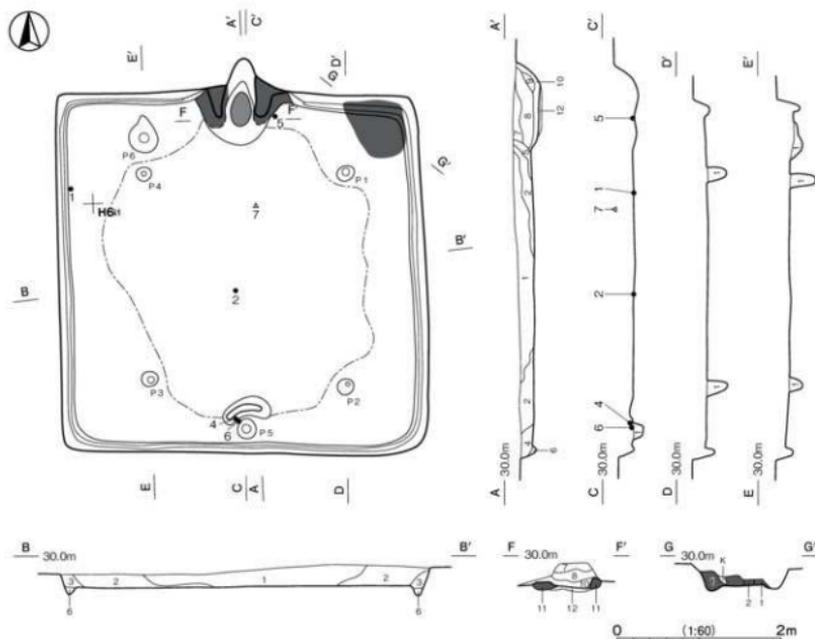
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで106 cmで、燃焼部幅は36 cmである。竈は、地山を4 cmほど掘りくはめた部分にローム粒子などを含む第12層を埋土して整地されている。袖部は地山と整地面の上に、砂質粘土を含む第11層を積み上げて構築されている。火床部は床面から8 cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に34 cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第7~10層は竈に関連する堆積土である。

ピット 6か所。P1~P4は深さ18~32 cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ16 cmで、位置や硬化面の広がり、北側にある高まりから出入口施設に伴うピットと考えられる。P6は深さ16 cmで、性格不明である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックや焼土が含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片148点(坏114、高坏2、甕30、瓶2)、金属製品1点(刀子)が出土しているほか、混入した土師器片1点(器台)も出土している。1は西壁際、2は中央部の床面からそれぞれ出土している。4・6はP5北側の床面から、6の上に4が入れ子状に重なって出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



土層解説

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム粒C、焼土小D、粘土、雜土
 2 10YR4-4 褐色 ローム粒B、焼土小D、粒D、炭化粒D/粘土、雜土
 3 10YR3-3 暗褐色 ローム粒C、焼土粒D、炭化物D/粘土、雜土
 4 10YR3-3 暗褐色 ローム粒C、焼土粒D、炭化粒C/粘土、雜土
 5 10YR4-4 褐色 ローム小D、粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘土、雜土
 6 10YR3-2 黄褐色 ローム小B、粒B、粘土、雜土

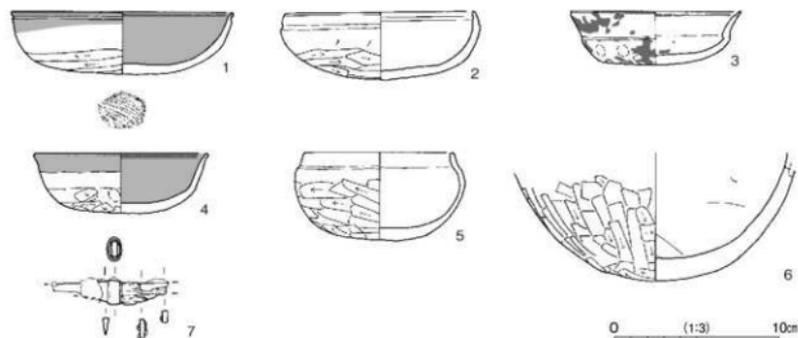
粘土質土層解説

- 1 10YR4-3 暗褐色 ローム小C・粒C、焼土粒C、砂質粘土小A/粘土、雜土
 2 10YR4-4 褐色 ローム小B・粒B、砂質粘土粒C/粘土、雜土

- 7 10YR3-3 暗褐色 ローム粒D、焼土粒D、砂質粘土粒C/粘土、雜土
 8 10YR4-3 暗褐色 ローム粒C、焼土粒D、砂質粘土粒C/粘土、雜土
 9 10YR3-3 暗褐色 ローム粒D、焼土小C、炭化粒D、砂質粘土粒D/粘土、雜土
 10 10YR4-3 暗褐色 ローム中C・粒D、砂質粘土粒B/粘土、雜土
 11 10YR5-6 黄褐色 焼土粒D、砂質粘土粒A/粘土、雜土
 12 10YR4-3 暗褐色 ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘土、雜土

ビット土層解説 (赤ビット共通)

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム中C・小B・粒B/粘土、雜土



第 86 図 第 33 号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第41表 第33号竪穴建物跡出土遺物一覧(第86図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	132	38	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 底部外面赤切り痕 口縁部外	床面	90% PL67
2	土師器	坏	115	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	床面	100% PL67
3	土師器	坏	101	3.2	-	長石・石英・赤色粒子	黄灰	普通	口唇部内面沈線 外・内・破断面保付着	覆土中	90% PL67
4	土師器	坏	106	3.6	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	良好	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	90% PL67
5	土師器	坏	90	5.3	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面一部保付着	床面	90% PL67
6	土師器	甕	-	(78)	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい赤黒	普通	内面ヘラナゲ 内面一部腐直状に剥落	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
7	刀子	(7.1)	15	0.3-0.7	(9.83)	鉄	黄銅片残存 柄部木質遺存	覆土上層	PL105

第34号竪穴建物跡(第87・88図 PL13)

位置 調査区北部のH5g9区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第31号竪穴建物、第43・77・78号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第31号竪穴建物に掘り込まれているが、形状は長軸5.52m、短軸5.12mの方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は18~24cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北東コーナー部を除いて壁溝が全周している。南壁中央部から南東コーナー部の床面から覆土下層にかけて焼土を確認した。

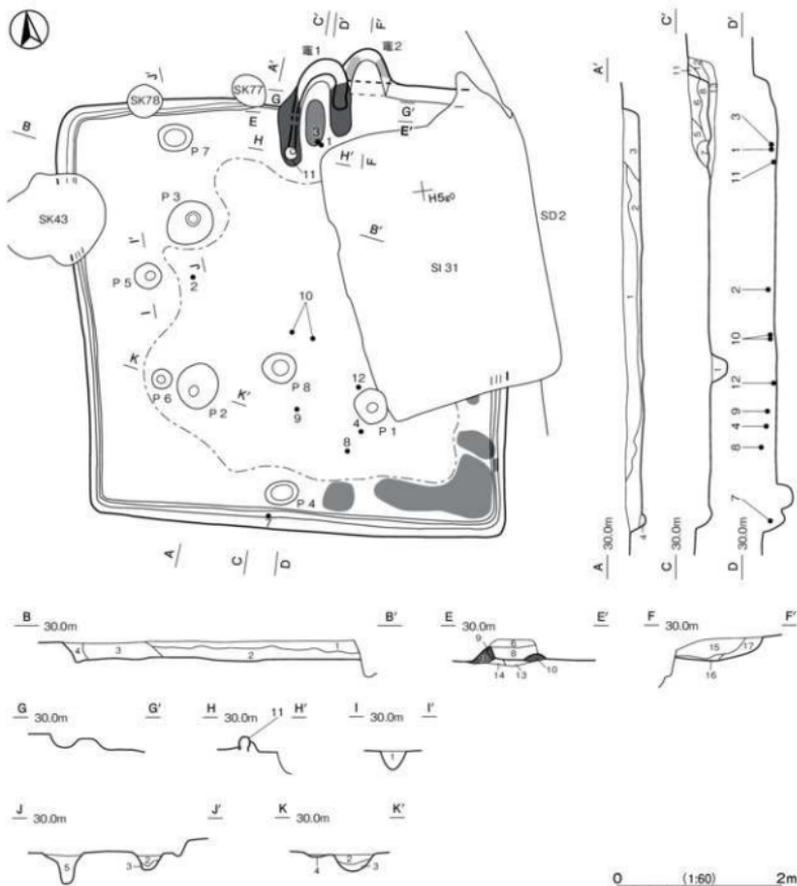
竈 2か所。北壁のやや東よりに付設されている。竈1の規模は焚口から煙道部まで142cm、燃焼部幅は34cmで、地山を12cmほど掘りくぼめた部分に砂質粘土粒子やローム粒子などを含む第11~14層を埋土して整地されている。袖部は地山と整地面の上に、砂質粘土を含む第9・10層を積み上げて構築されている。左袖部では芯材として土師器の甕が倒置して使用されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に58cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第5~8層は竈1に関連する堆積土である。竈2の右袖部は壊され、左袖部は竈1の右袖部に転用されている。また、竈奥壁の一部が赤変硬化している。第15~17層は竈2に関連する堆積土である。竈1・2の新旧関係は、竈2の左袖を利用して竈1の右袖を作っていることから、竈2から竈1に作りかえていると考えられる。

ピット 8か所。P1~P3は深さ22~40cmで、配置から主柱穴である。P4は深さ22cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P5~P8は深さ5~25cmで、性格不明である。

覆土 4層に分層できる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片663点(坏508, 碗1, 高坏14, 甕2, 甕136, 手捏土器2), 土製品4点(勾玉3, 紡錘車1), 石製品1点(不明石製品), 焼成粘土塊2点(9.87g)が出土している。11は竈左袖の芯材である。1・3は竈焚口部から、正位で出土した1の上に、3が逆位で出土している。2は中央部西寄り, 12は南部の覆土下層からそれぞれ正位で出土している。4・7・9は南部の覆土中層から斜位で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第1四半期に比定できる。



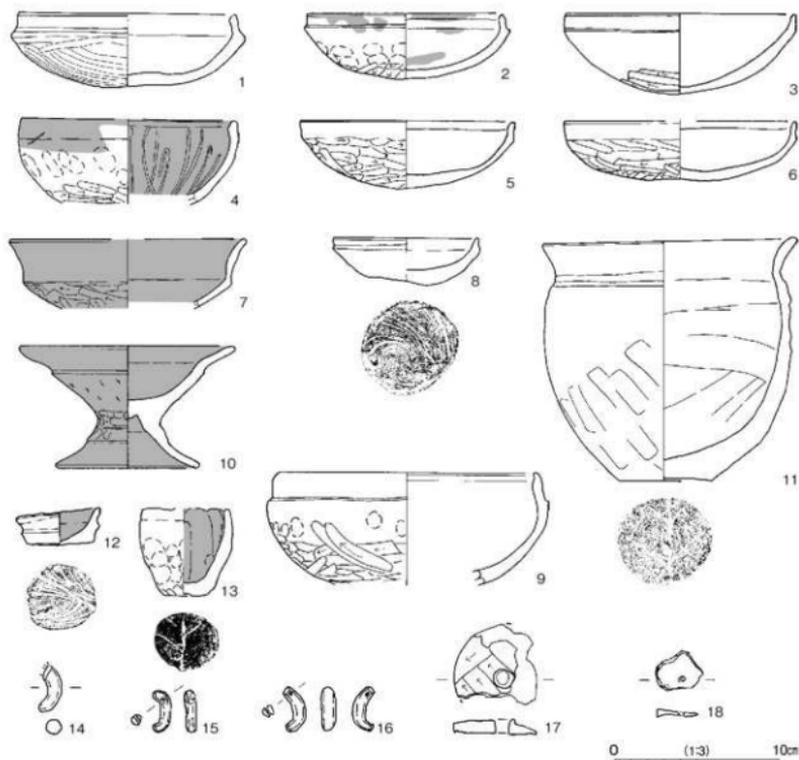
土層解説

- | | | | | | | | |
|---|---------|------|---------------------------------------|----|----------|------|--|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒B, 焼土粒D, 炭化物D・粒D/粘B, 雜B | 10 | 10YR5/4 | 淡赤褐色 | 炭化粒D, 砂質粘土粒A/粘B, 雜A |
| 2 | 10YR4/3 | 淡赤褐色 | ローム粒A, 焼土小D, 炭化粒C/粘B, 雜B | 11 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D, 焼土小C, 炭化粒D', 砂質粘土粒C/粘B, 雜B |
| 3 | 10YR3/2 | 濃褐色 | ローム粒B, 焼土粒D, 炭化粒D', 粘B, 雜B | 12 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D, 焼土小D, 炭化粒D', 砂質粘土粒C/粘B, 雜B |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒C, 炭化粒D', 粘B, 雜B | 13 | 10YR4/3 | 淡赤褐色 | ローム粒C, 焼土小C・粒C, 炭化粒C, 砂質粘土粒D/粘B, 雜B |
| 5 | 10YR4/4 | 濁 | ローム粒C, 焼土小D, 炭化粒C, 砂質粘土粒C/粘B, 雜B | 14 | 10YR4/4 | 濁 | ローム粒D, 焼土粒D, 砂質粘土粒D/粘B, 雜B |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒C, 焼土小D', 粒D, 炭化粒D, 砂質粘土粒B/粘B, 雜B | 15 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒C, 焼土粒C, 炭化粒D/粘B, 雜B |
| 7 | 10YR4/4 | 濁 | 焼土小D, 炭化粒D, 砂質粘土粒A/粘B, 雜A | 16 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒C, 焼土中C・小B, 粒B, 炭化粒D/粘B, 雜B |
| 8 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒C, 焼土粒D, 炭化粒D', 砂質粘土粒B/粘B, 雜B | 17 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム中C・小B, 粒B, 焼土粒C, 砂質粘土粒B/粘B, 雜B |
| 9 | 10YR4/4 | 濁 | 焼土小C・粒A, 砂質粘土粒A/粘B, 雜A | 18 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒C, 焼土中D・小C・粒C, 炭化物D', 粒D/粘B, 雜B |
| | | | | 19 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小B・粒B, 焼土粒C, 炭化物B・粒C, 砂質粘土粒B/粘B, 雜B |

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | | | | | |
|---|---------|------|--------------------|---|---------|------|--------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒C, 焼土粒D/粘B, 雜B | 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D/粘B, 雜B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D, 炭化粒D/粘B, 雜B | 5 | 10YR5/4 | 淡赤褐色 | ローム粒C, 炭化粒D/粘B, 雜B |
| 3 | 10YR5/4 | 淡赤褐色 | ローム粒C/粘B, 雜B | | | | |

第 87 図 第 34 号堅穴建物跡実測図



第 88 図 第 34 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 42 表 第 34 号竪穴建物跡出土遺物一覽 (第 88 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	128	4.4	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡 全面摩滅	竈焚口部	90% PL67
2	土師器	坏	117	4.0	-	長石・石英	にぶい靑	良好	口唇部内面稜線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	100% PL67
3	土師器	坏	138	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡 全面摩滅	竈焚口部	90% PL67
4	土師器	坏 [128]	(52)	-	-	長石・石英・赤色粒子	靑灰	普通	口唇部内面沈線 内面放射状へう磨き 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中層	20%
5	土師器	坏 [129]	4.2	-	-	長石・赤色粒子	靑灰	普通	外・内面黒色処理の痕跡	覆土中	50%
6	土師器	坏 [140]	(36)	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面稜線	覆土中	30%
7	土師器	坏 [143]	(42)	-	-	長石・石英・白色粒子	黒靑	普通	外・内面黒色処理	覆土中層	20%
8	土師器	坏 87	29	5.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部外面糸切り痕	覆土上層	80% PL68
9	土師器	碗 156	(69)	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	50% PL68
10	土師器	高坏 127	7.5	[84]	-	長石・石英・赤色粒子	橙	良好	坏・脚部全面黒色処理	覆土下層	60% PL68
11	土師器	甕 15.2	14.9	5.7	-	長石・石英・雲母	にぶい靑	普通	外面摩滅により調整不明瞭 底部外面本葉痕	竈左袖	100% PL68
12	土師器	手捏土器 5.0	2.3	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部外面糸切り痕 内面黒色処理	覆土下層	90% PL68
13	土師器	手捏土器 [5.1]	5.4	2.2	-	長石・石英	橙	普通	底部外面本葉痕 内面黒色処理	覆土中	30%

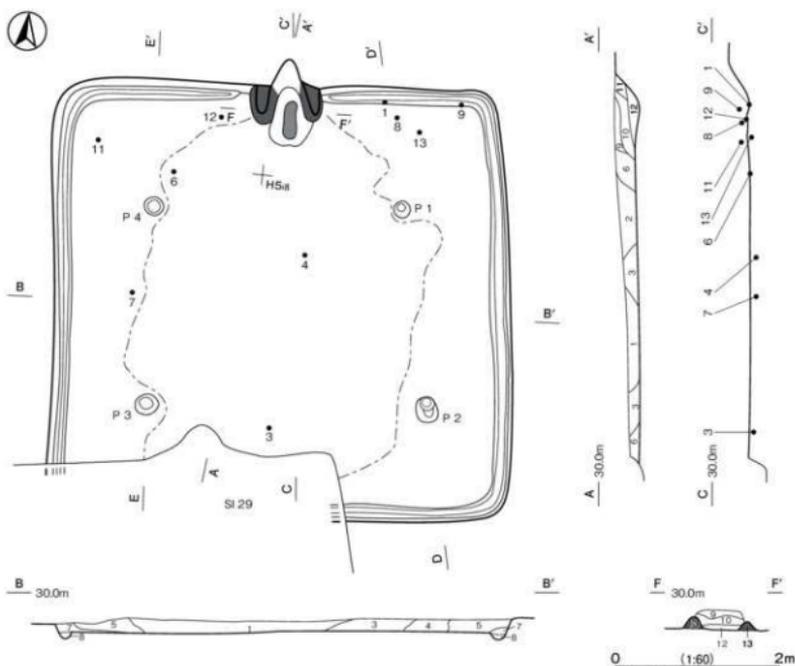
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	土製勾玉	(28)	(1.4)	0.9	(0.1)	(2.99)	白色粒子	灰褐色	孔部僅かに残存	覆土中	
15	土製勾玉	2.6	1.1	0.6	0.15	(1.20)	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	一方向から穿孔	覆土中	
16	土製勾玉	2.7	1.3	0.8	0.1	2.58	長石	にぶい橙	一方向から穿孔	覆土中	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
17	土製 紡錘車	[6.2]	0.9	1.2	(19.76)	長石・石英	全面丁寧なヘタ張り	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
18	不明 石製品	(2.4)	(2.8)	(0.6)	0.3	(3.00)	頁岩	石製模造品等の未製品*	覆土中	

第 35 号竪穴建物跡 (第 89・90 図 PL13)

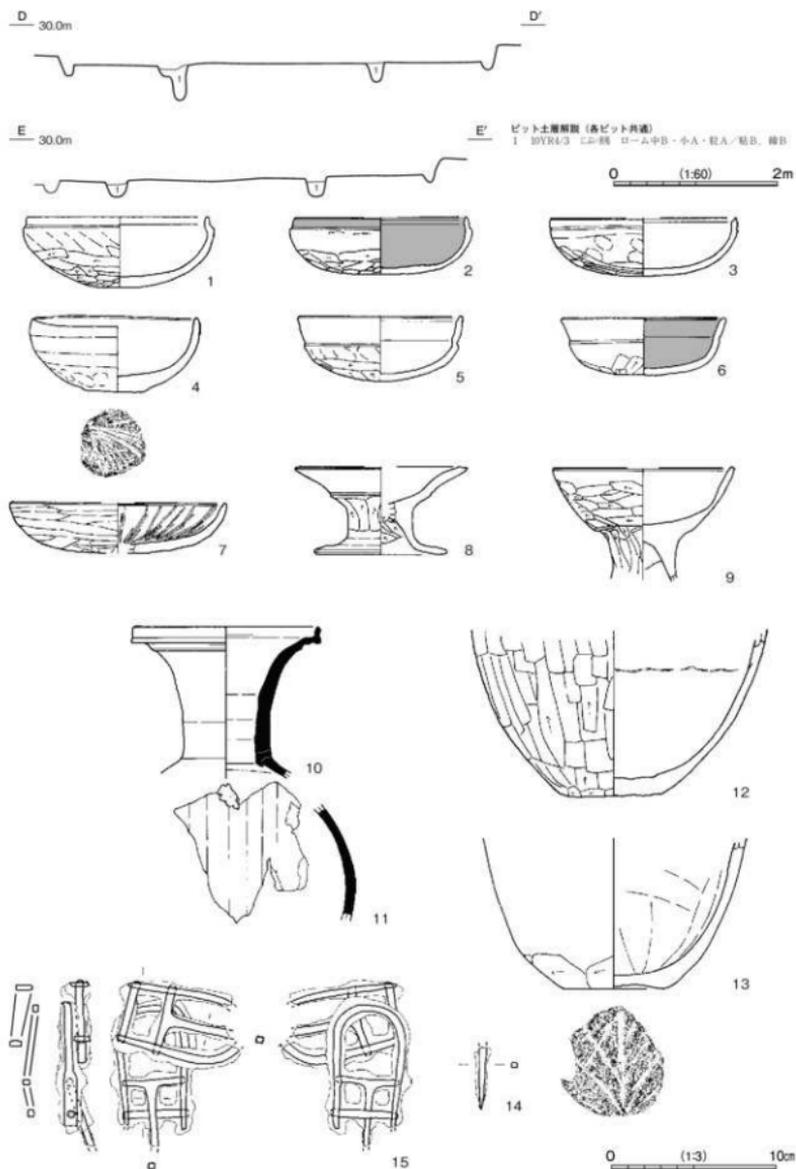
位置 調査区北部の H 518 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。



土層解説

- | | | | | | | | |
|---|---------|----|------------------------|----|---------|-----|---------------------------------|
| 1 | IOYK3/3 | 硬層 | ローム小C・粒B/粘B、礫B | 8 | IOYK3/4 | 硬層 | ローム小C・粒B/粘B、礫B |
| 2 | IOYK2/3 | 硬層 | ローム小C・粒C、焼土粒D/粘B、礫B | 9 | IOYK4/3 | 土砂層 | ローム粒B、焼土小C、砂質粘土粒A/粘B、礫A |
| 3 | IOYK3/4 | 硬層 | ローム小B・粒B/粘B、礫B | 10 | IOYK3/4 | 硬層 | ローム粒C、焼土小C、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘B、礫B |
| 4 | IOYK2/3 | 硬層 | ローム小C・粒B/粘B、礫B | 11 | IOYK3/3 | 硬層 | ローム粒D、焼土小B・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘B、礫B |
| 5 | IOYK3/3 | 硬層 | ローム小C・小C・粒B、焼土粒D/粘B、礫B | 12 | IOYK3/3 | 硬層 | ローム粒D、焼土小D・粒D、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘B、礫B |
| 6 | IOYK3/3 | 硬層 | ローム小B・粒B、焼土粒C/粘B、礫B | 13 | IOYK3/4 | 土砂層 | 焼土粒D、砂質粘土粒A/粘B、礫A |
| 7 | IOYK3/4 | 硬層 | ローム小C・粒C/粘B、礫B | | | | |

第 89 図 第 35 号竪穴建物跡実測図



第90図 第35号竪穴建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第29号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.50m, 短軸5.28mの方形で, 主軸方向はN-4°-Wである。壁高は22cmで, 外傾している。

床 平坦で, 竈前から南壁にかけて踏み固められている。確認できた範囲では壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで108cmで, 燃焼部幅は34cmである。袖部は地山の上に, 砂質粘土を含む第13層を積み上げて構築されている。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり, 火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に32cmほど掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。第9~12層は竈に関連する堆積土である。

ピット 4か所。P1~P4は深さ20~44cmで, 配置から主柱穴である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックが含まれ, 不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片290点(坏209, 高坏7, 鉢1, 甕72, 瓶1), 須恵器片10点(長頸瓶1, 瓶類9), 金属製品4点(鉄鎌2, 鉸具1, 不明鉄製品1)が出土している。4・6は床面から逆位でそれぞれ出土している。1・8・9・13は北東部の床面から中層にかけて, 斜位でそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。

第43表 第35号竪穴建物跡出土遺物一覧(第90図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.0	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面残線	覆土下層	100% PL68
2	土師器	坏	[104]	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口唇部内面残線・沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	40%
3	土師器	坏	[112]	3.6	-	長石	浅黄橙	普通	口唇部内面沈線	床面	30%
4	土師器	坏	10.0	4.6	3.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部外面糸切り痕	床面	100% PL68
5	土師器	坏	9.8	4.0	-	長石	にぶい黄橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	90%
6	土師器	坏	9.8	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面黒色処理の痕跡 内面黒色処理	床面	100% PL68
7	土師器	坏	[130]	3.1	-	長石・石英	橙	良好	口唇部内面沈線 内面放射状ヘラ跡	床面	30%
8	土師器	高坏	[104]	5.4	[8.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏~脚部全面口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土下層	30%
9	土師器	高坏	[108]	[6.9]	-	長石・石英・赤色粒子・白熱粒子	にぶい赤褐	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	40%
10	須恵器	長頸瓶	[112]	[9.3]	-	長石	灰白	良好	鉄分濃出 フラスコ形	覆土中	20% 11と同一。
11	須恵器	長頸瓶	-	[8.7]	-	長石	灰黄	良好	鉄分濃出 壺体付着 粘土板閉塞	覆土下層	5% 10と同一。
12	土師器	甕	-	[10.2]	5.6	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	外面厚減 内面厚減により調整不明瞭 底部外面へラ跡	床面	40%
13	土師器	甕	-	[9.2]	6.2	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面厚減 底部外面木炭痕	床面	40%

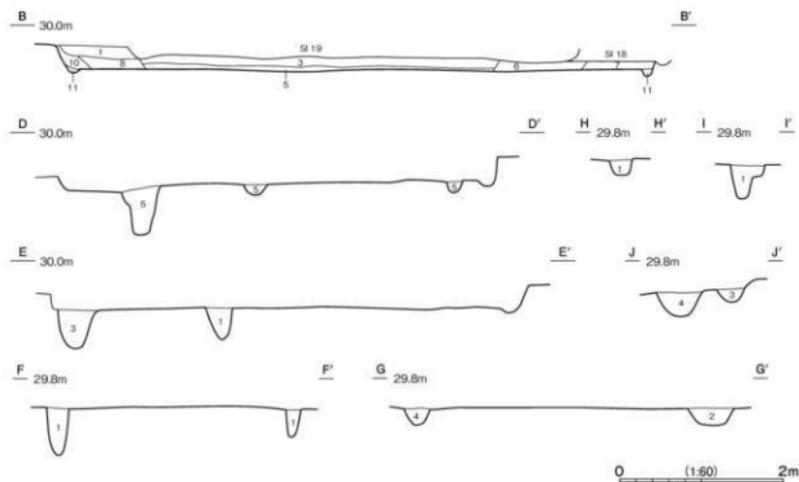
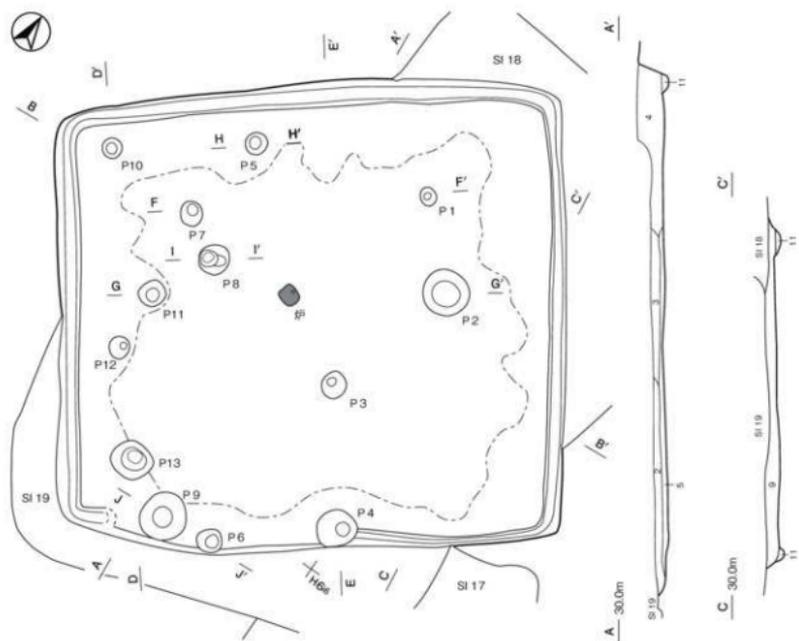
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
14	鉄鎌	(3.7)	0.4	0.4	(1.77)	鉄	葉部のみ遺存	覆土中	PL105
15	鉸具	(7.8) (9.2)	5.0 3.2	1.8 (2.3)	(78.12)	鉄	2個体接着	床面	PL101

第37号竪穴建物跡(第91・92図 PL13)

位置 調査区北東部のH6h5区, 標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第98号土坑を掘り込み, 第17・18・19号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.16m, 短軸5.65mの方形で, 主軸方向はN-36°-Wである。壁高は23~30cmで, ほぼ直立している。



第 91 图 第 37 号竖穴建物跡実測图

土層解説

1	75YR4-4	黄	ローム中C・小C/粘B、雜C	7	75YR2-3	暗褐褐	ローム粒C/粘B、雜B
2	75YR2-2	赤褐	ローム小D、焼土小D・粒D/粘B、雜A	8	75YR3-4	暗褐	ローム粒C、焼土粒C/粘B、雜C
3	75YR3-2	赤褐	ローム中D、焼土小C・粒C、炭化物D/粘B、雜A	9	75YR4-4	黄	ローム中C・小C、焼土粒C、炭化粒C/粘B、雜A
4	75YR2-3	暗褐	ローム中D/粘B、雜B	10	75YR3-4	暗褐	焼土粒C、炭化粒C/粘B、雜C
5	75YR2-3	暗褐	ローム中D・粒C、焼土粒D、炭化物C/粘B、雜A	11	75YR4-4	黄	ローム中B/粘B、雜B
6	75YR3-1	赤褐	ローム小D・粒D、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜A				

ピット土層解説 (赤ピット共通)

1	10YR3-3	暗褐	ローム粒C/粘B、雜B	4	10YR3-3	暗褐	ローム粒C、焼土粒D/粘B、雜B
2	10YR3-3	暗褐	ローム中D、焼土粒D/粘B、雜B	5	10YR3-2	深褐	ローム粒D/粘B、雜B
3	10YR3-3	暗褐	ローム中D、焼土粒C、炭化粒D/粘B、雜B				

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南東部を除き、壁溝が全周している。

炉 中央部に付設されている。長軸 23cm、短軸 22cmの隅丸方形を呈した地床炉である。炉床部は床面とほぼ同じ高さである。炉床面は、赤変している。硬化は弱い。配置から炉と判断した。

ピット 13か所。P1～P13は深さ13～60cmで、性格不明であるが、配置などからP1・P7は支柱穴、P4は出入口施設に伴うピットの可能性がある。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 148点(埴2, 高坏1, 壺72, 甕73), 焼成粘土塊2点(537g)が出土している。また、混入した土師器片 440点(坏435, 碗1, 盤3, 高坏1), 土製品1点(円筒形土製品), 石器1点(剥片)も出土している。図示した遺物のうち、1・3は重複する第17・18・19号竪穴建物からの混入と考えられるが、どの遺構に帰属するかは不明である。2の高坏は、重複する第17号竪穴建物から出土しているが、本跡からの流れ込みと考えられるため本項で掲載した。その他細片で図示できなかったが、赤彩された埴やハケ目調整を施す甕が出土している。

所見 時期は、出土遺物、重複関係や遺構の形状から4世紀代と考えられる。



第92図 第37号竪穴建物跡出土遺物実測図

第44表 第37号竪穴建物跡出土遺物一覧(第92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	碗	-	(48)	4.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面へく張り	覆土中	40%
2	土師器	高坏	-	(48)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部穿孔3ヶ所 脚部外面へく張り 外・内面赤彩	覆土中	30%
番号	器種	径	高さ	底径	重量	胎土	特徴		出土位置	備考	
3	円筒形土製品	-	(47)	-	(369)	長石・石英・赤色粒子	外面磨理え 内面ナデ		覆土中		

第38号竪穴建物跡(第93・94図 PL13・14)

位置 調査区北部のH5b6区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第4・37号井戸、第44・59号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.06m、短軸5.02mの方形で、長軸方向はN-53°-Eである。壁高は20cmで、外傾している。

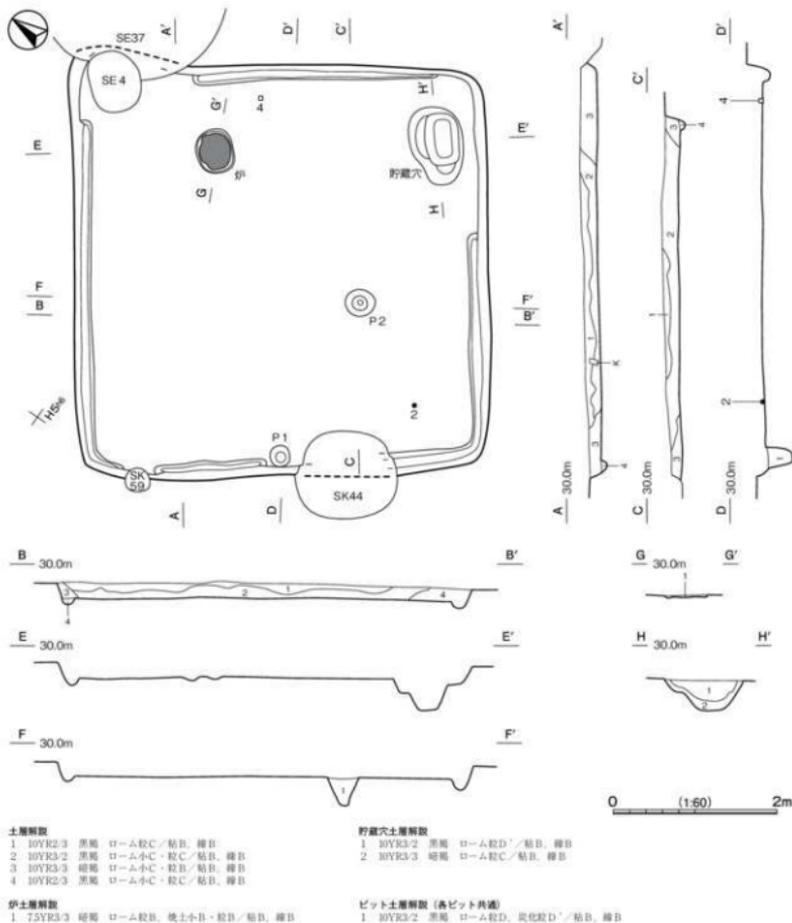
床 平坦で、硬化面は確認できなかった。壁溝が断続的に巡っている。

炉 北部に付設されている。長径55cm、短径48cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床部は床面から4cmくぼんでいる。炉床面は赤変しており、やや硬化している。

ピット 2か所。P1・P2は深さ32・36cmで、性格不明である。

貯蔵穴 東コーナー部に位置しており、長径98cm、短径66cmの楕円形である。深さは38cmほど、底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。2層に分層でき、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

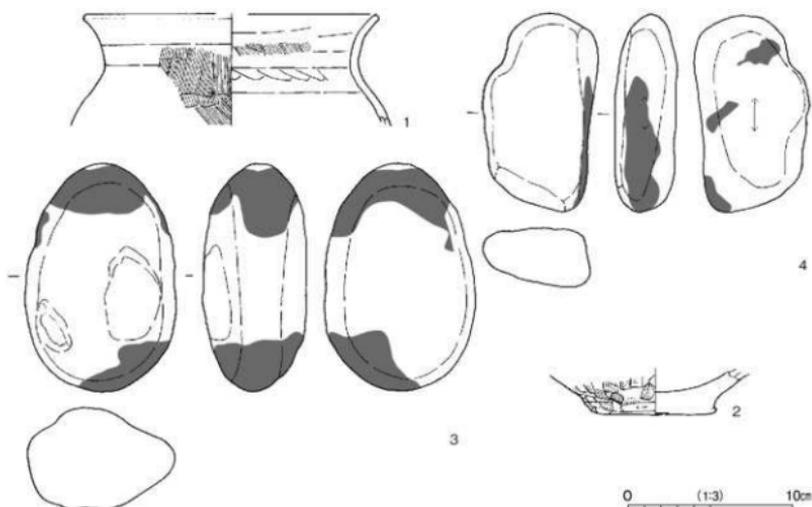
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。



第93図 第38号堅穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 219点 (坏50, 埴11, 高坏3, 壺1, 甕154), 石器2点 (磨石, 砥石), 焼成粘土塊1点 (5.46g) が出土している。2は南部, 4は北部の床面から, それぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第94図 第38号竪穴建物跡出土遺物実測図

第45表 第38号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第94図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[176]	(6.8)	-	長石・石英・ 黒色粒子	橙	普通	外面一部厚付着	覆土中	10%
2	土師器	甕	-	(28)	7.5	長石・石英・ 黒色粒子	橙	普通	底部外面ナデ	床面	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
3	磨石	139	92	6.3	972	礫岩	炭化物付着		覆土中		
4	砥石	121	70	3.8	434	礫岩	一部焼熱・炭化物付着		床面		

第39号竪穴建物跡 (第95図 PL14)

位置 調査区北部のI 5a6区, 標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第45号土坑, 第22号溝に掘り込まれている。

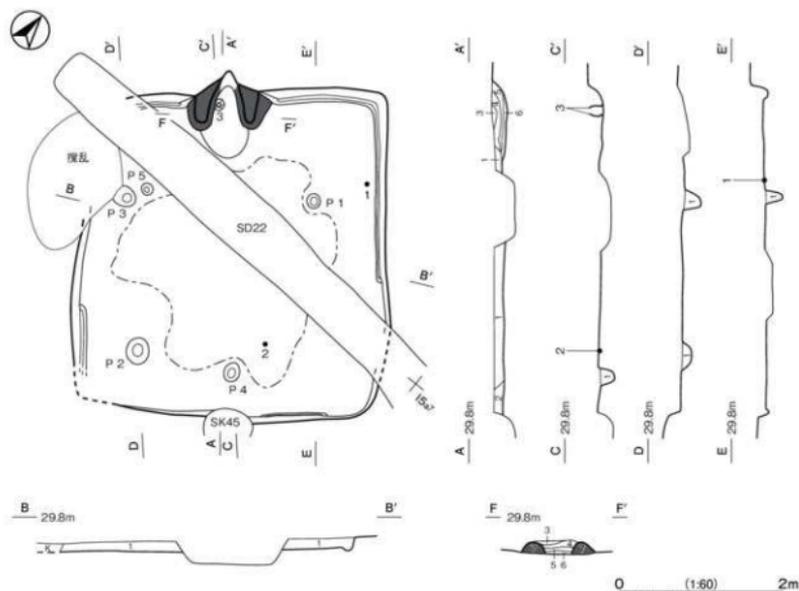
規模と形状 長軸4.06m, 短軸3.90mの方形で, 主軸方向はN-40°-Wである。壁高は14~16cmで, 外傾している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が東コーナー部から南西壁際の一部を除き巡っている。

竈 北西壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで109cmで, 焼成部幅は32cmである。袖部は地山の上に, 砂質粘土ブロックを含む第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり, 火床面の赤変硬化は確認できなかった。火床部からは甕が逆位で出土しており, 支脚に転用された可能

性がある。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第3～6層は竈に関連する堆積土である。

ピット 5か所。P1～P3は深さ12～24cmで、配置から支柱穴の可能性がある。P4は深さ18cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は性格不明である。

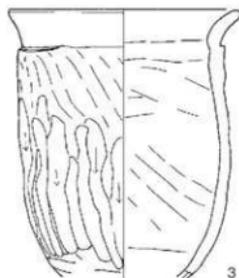


土層解説

- | | | | |
|---------------|------------------------|---------------|------------------------|
| 1 75YR3-2 黒褐色 | ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B | 5 75YR3-3 暗褐色 | ローム粒C、焼土小C、炭化物D/粘B、雜A |
| 2 75YR2-2 黒褐色 | ローム中D、小C・粒C、炭化粒D/粘B、雜B | 6 75YR4-6 暗褐色 | ローム中B、焼土粒D、炭化粒D/粘A、雜A |
| 3 75YR3-4 暗褐色 | 焼土粒D、炭化粒D、砂質粘土小C/粘C、雜A | 7 75YR4-3 暗褐色 | 焼土粒D、炭化粒D、砂質粘土中B/粘A、雜A |
| 4 75YR3-3 暗褐色 | 焼土小B・粒B、砂質粘土中B・粘B、雜A | | |

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム粒B/粘B、雜B



第95図 第39号竈穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。含有物が少なく、均質な堆積であることから自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 135点（坏110、高坏1、甕24）、焼成粘土塊1点（31.04g）が出土している。3は竈火床部の奥側、左袖側に寄って逆位で出土している。1は東壁際の床面から正位で、2は南部の床面から、それぞれ出土している。

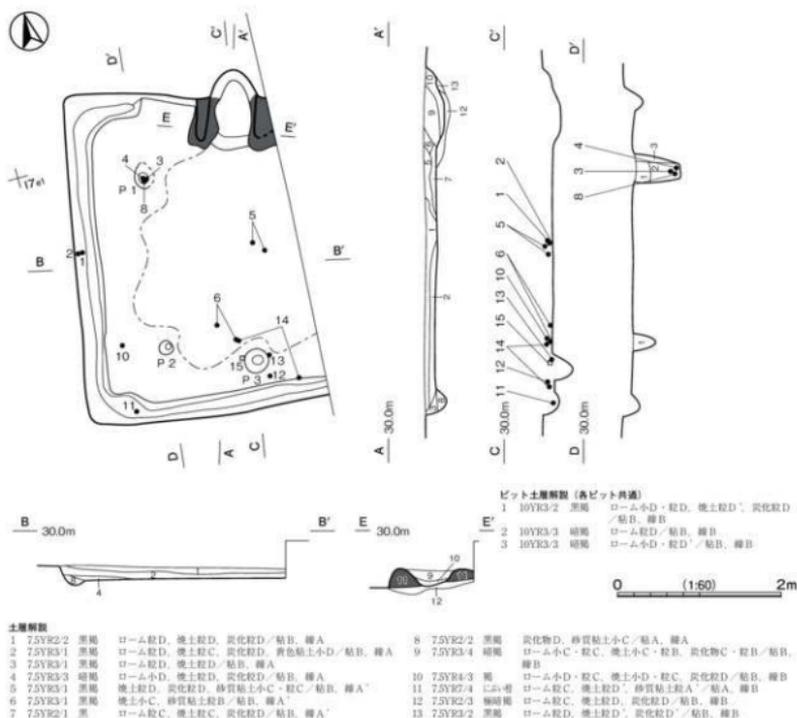
所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。

第46表 第39号竪穴建物跡出土遺物一覧（第95図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	106	4.1	-	長石・石英・赤色粘土・黒色粘土	にふい橙	普通	口唇部内面嵌み沈線	床面	100% PL69
2	土師器	坏	110	4.3	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	口唇部内面沈線	床面	90% PL69
3	土師器	甕	138	(16.4)	-	長石・石英・赤色粘土	にふい赤黒	普通	体部外面上半部成形時のナデ 体部下半部削り 全体に凹凸感あり	竈内	80% PL69

第40号竪穴建物跡（第96～98図 PL14）

位置 調査区東部のI7el区、標高30mほどの微高地上に位置している。



第96図 第40号竪穴建物跡実測図

規模と形状 東部が調査区域外へ延びているため、南北軸は4.08 m、確認できた東西軸は2.72 mで、方形または長方形と推定される。主軸方向はN-12°-Eである。壁高は12~16cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた範囲では北壁際の一部を除き、壁溝が巡っている。

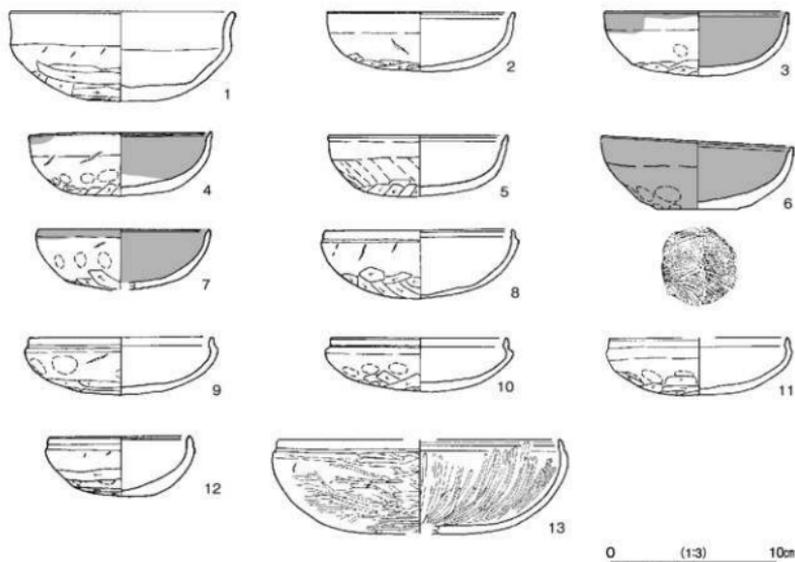
竈 北壁に付設されている。規模は焚口から煙道部まで98cmで、燃烧部幅は38cmである。竈は、地山を12cmほど掘りくはめた部分にローム粒子などを含む第12・13層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上、砂質粘土を含む第11層を積み上げて構築されている。火床部は床面から6cmほどくぼんでおり、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に35cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第9・10層は竈に関連する堆積土である。

ピット 3か所。P1・P2は深さ56・28cmで、配置から支柱穴である。P3は深さ26cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

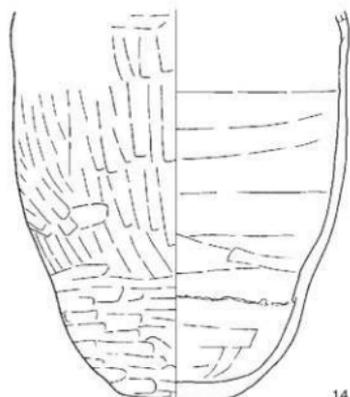
覆土 8層に分层できる。焼土ブロックやロームブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片619点(坏534、碗15、高坏8、甕62)、須恵器片1点(甕)、石器1点(編物石)、金属製品1点(刀子)、焼成粘土塊14点(84.89g)が出土している。1・2は西壁際の覆土下層から、1が2の上に重なって斜位で出土している。3・4・8は、P1の覆土下層から重なってそれぞれ正位で出土している。10は、南西部の覆土下層から出土している。11は南西コーナー部の壁溝覆土下層から出土している。6・12~15は南部の覆土下層から出土している。12は正位で出土している。

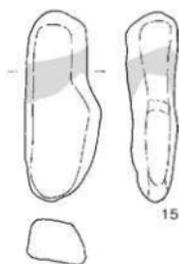
所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。



第97図 第40号竈穴建物跡出土遺物実測図(1)



14



0 (1:3) 10cm

第98図 第40号竪穴建物跡出土物実測図2)

第47表 第40号竪穴建物跡出土物一覽(第97・98図)

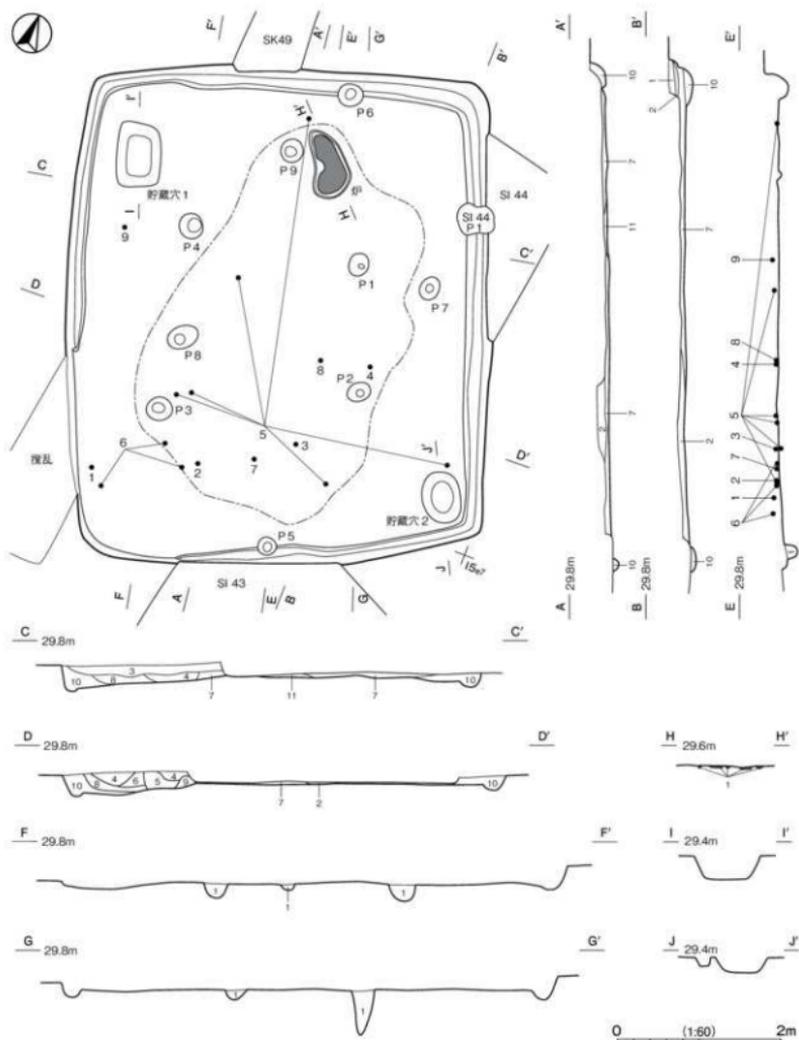
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	135	5.4	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土下層	100% PL69
2	土師器	坏	112	3.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面幅広い沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土下層	100% PL69
3	土師器	坏	110	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	橙	良好	口唇部内面深い沈線 口縁部外面・内面黒色処理	P1 覆土下層	100% PL69
4	土師器	坏	110	3.8	-	長石・石英	橙	良好	口唇部内面深い沈線 口縁部外面・内面黒色処理	P1 覆土下層	100% PL69
5	土師器	坏	107	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土下層	50%
6	土師器	坏	115	4.5	4.8	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	口唇部内面幅広い沈線 外・内面黒色処理 底部外面垂削り	覆土下層	70% PL69
7	土師器	坏	104	(3.7)	-	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	70%
8	土師器	坏	114	4.2	-	長石	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	P1 覆土下層	100% PL69
9	土師器	坏	110	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	に濃い黄褐色	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	50%
10	土師器	坏	106	3.3	-	長石・石英・赤色粒子	に濃い橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土下層	60%
11	土師器	坏	[108]	3.5	-	長石・赤色粒子	に濃い黄褐色	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	新溝 覆土下層	50%
12	土師器	坏	84	3.7	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土下層	100% PL69
13	土師器	碗	[170]	(5.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外・内面黒色処理の痕跡	覆土下層	30%
14	土師器	甕	-	(23.8)	6.1	長石・石英・赤色粒子・粗礫	に濃い赤褐色	普通	底部外面ヘラ削り	覆土下層	10%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質			特徴	出土位置	備考
15	編物石	11.6	4.7	3.2	226	礫岩			摩耗痕あり	覆土下層	PL100

第45号竪穴建物跡(第99～101図 PL14・15)

位置 調査区中央部のI5d6区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第43・44号竪穴建物、第49号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.06m、短軸5.18mの長方形で、主軸方向はN-21°-Wである。壁高は10～27cmで、ほぼ直立している。



土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|--------------------------|
| 1 | 75YR2-2 | 黒層 | ローム粒D / 粘C、雜B |
| 2 | 75YR2-1 | 黒 | ローム粒C、焼土粒C、炭化粒D / 粘C、雜A' |
| 3 | 75YR2-2 | 黒層 | ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D / 粘C、雜A |
| 4 | 75YR2-1 | 黒 | ローム小D・粒C、炭化アロフ小D・粘B、雜A |
| 5 | 75YR2-3 | 極暗褐 | ローム粒C、焼土粒C / 粘C、雜A |
| 6 | 75YR2-2 | 黒層 | ローム粒C、炭化粒D / 粘C、雜B |

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|---|---------|----|---------------------|
| 1 | 10YR2-2 | 黒層 | ローム小C・小D・粒C / 粘B、雜B |
|---|---------|----|---------------------|

圀土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|---------------------|
| 1 | 75YR3-4 | 暗褐 | ローム粒C、焼土小粒B / 粘B、雜B |
|---|---------|----|---------------------|

第99図 第45号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が南西コーナー部付近を除いて全周している。

炉 中央部やや北寄りに付設された地床炉である。長径88cm、短径38cmの楕円形である。炉床部は床面から5cmほどくぼんでいる。炉床面は赤変している。

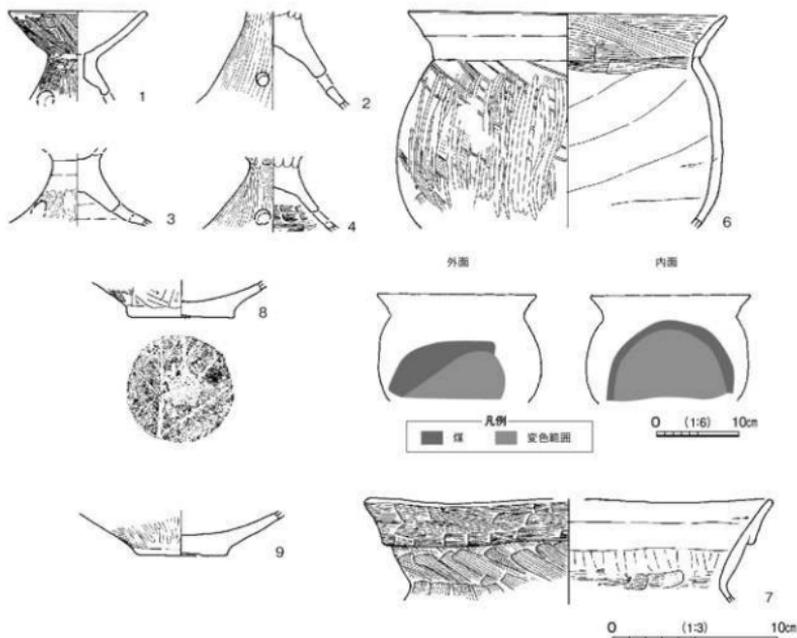
ピット 9か所。P1～P4は深さ14～56cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ14cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は深さ21～52cmで、性格不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は長軸80cm、短軸55cmの隅丸長方形である。深さは30cmほど、底面は平坦で、壁は外傾している。貯蔵穴2は長径63cm、短径48cmの楕円形である。深さは20cmほど、底面は平坦で、壁は外傾している。

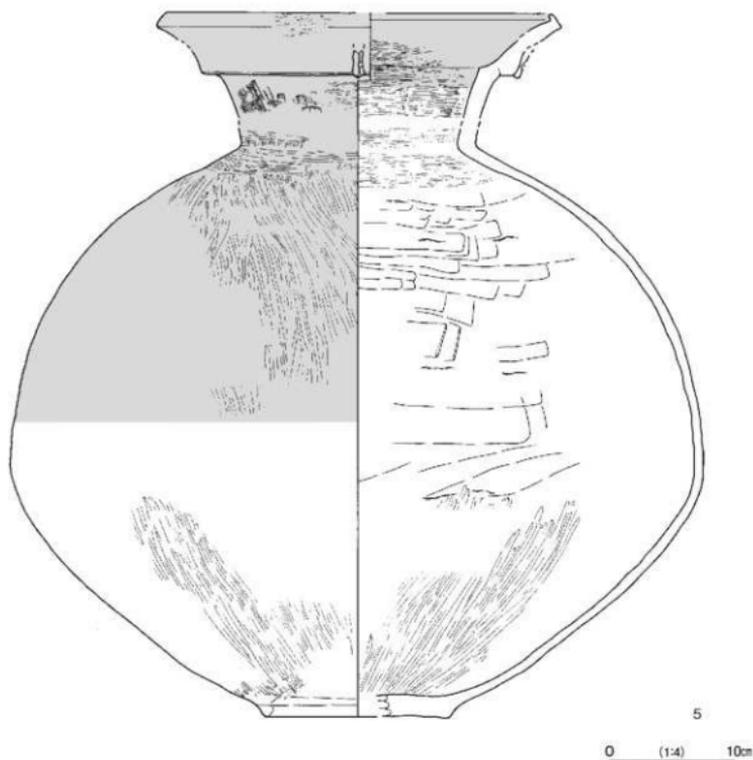
覆土 11層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子、炭化粒子が含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片953点(埴12, 器台7, 壺18, 甕916)が出土している。また、混入した土師器片37点(坏36, 高台付坏1), 須恵器片1点(蓋), 石器1点(剥片)も出土している。4・8は中央部の床面から出土している。5は遺構全体の床面から覆土下層にかけて散在している。6は南西部の床面から覆土中層にかけて、2は覆土下層から、1は覆土中層から、それぞれ出土している。3・7は南部の床面からそれぞれ出土している。9は西部の覆土下層から出土している。5は東海地方の影響を受けている壺である。

所見 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第100図 第45号竅穴建物跡出土遺物実測図1)



第 101 図 第 45 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 48 表 第 45 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 100・101 図)

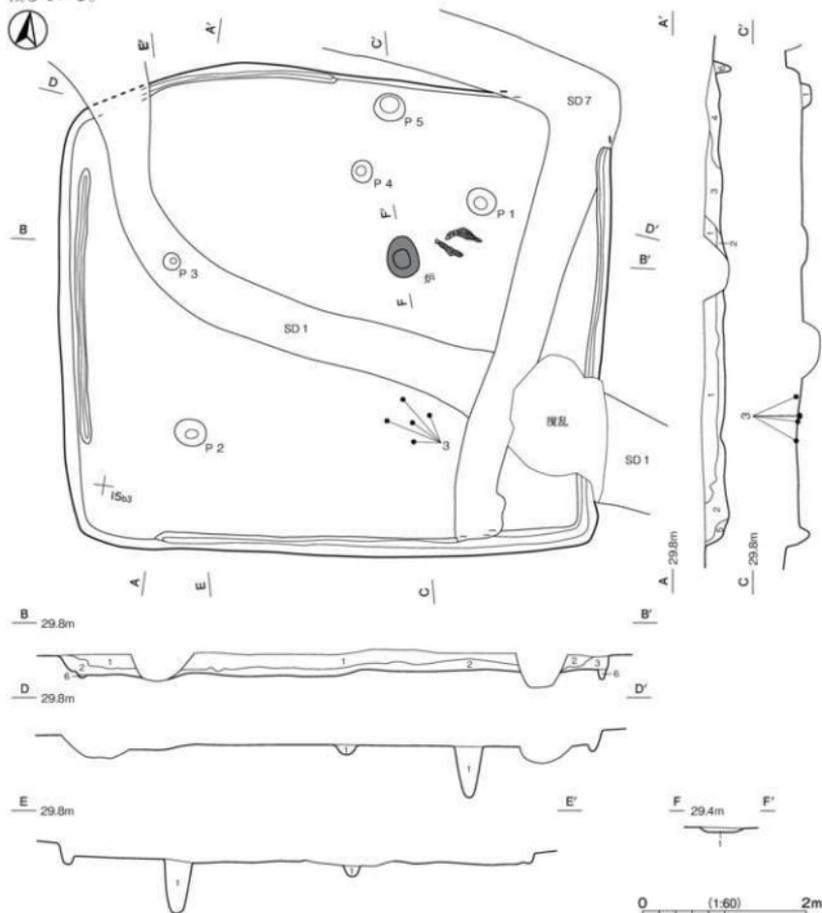
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	器台	8.2	(5.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部三方に穿孔	覆土中層	50%
2	土師器	器台	-	(5.9)	-	長石・石英	橙	普通	脚部三方に穿孔	覆土下層	20%
3	土師器	器台	-	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部三方に穿孔	床面	30%
4	土師器	器台	-	(4.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部三方に穿孔	床面	20%
5	土師器	壺	(31.4)	(57.7)	15.1	長石・石英・赤色粒子・緑礫	橙	普通	外・内面赤彩	覆土下層・床面	20%
6	土師器	甕	19.3	(13.2)	-	長石・石英・緑礫	明赤褐	普通	全体に被熱による剥落 体部外・内面表裏同位置に傷付き	覆土中層・床面	30%
7	土師器	甕	(24.5)	(6.4)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	折り返し口縁	床面	5%
8	土師器	甕	-	(2.3)	6.3	長石・石英・赤色粒子	灰赤	普通	底部内面摩耗 底部外面木葉痕	床面	20%
9	土師器	甕	-	(2.8)	5.4	長石・石英・緑礫	明赤褐	普通	底部内面摩耗	覆土下層	5%

第 47 号竪穴建物跡 (第 102・103 図 PL15)

位置 調査区北部の I 5a3 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 1・7 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 6.66 m、短軸 5.98 m の長方形で、主軸方向は $N-82^{\circ}-E$ である。壁高は 8-28 cm で、外傾している。



土層解説

1 10YK3-2 黒褐色 ローム中C・小C・粒C/粘B、雜B
2 10YR4-3 赤み黒 ローム小C・粒B/粘B、雜B
3 10YK3-3 暗褐色 ローム小B・粒B/粘B、雜B

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 10YK3-2 黒褐色 ローム小C・粒B、焼土粒D/粘B、雜B

4 10YK3-4 暗褐色 ローム中C・小B・粒B/粘B、雜B
5 10YR4-4 黒 ローム大B・中B・小A・粒A/粘B、雜B
6 10YK2-2 黒褐色 ローム大C・中B・小B・粒B/粘B、雜B

炉土層解説

1 10YK3-3 暗褐色 ローム粒B、焼土粒D/粘B、雜B

第 102 図 第 47 号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。壁溝が南西・北西コーナー部と北壁の一部を除いて巡っている。また西壁側の壁溝は壁より若干内側に巡っている。

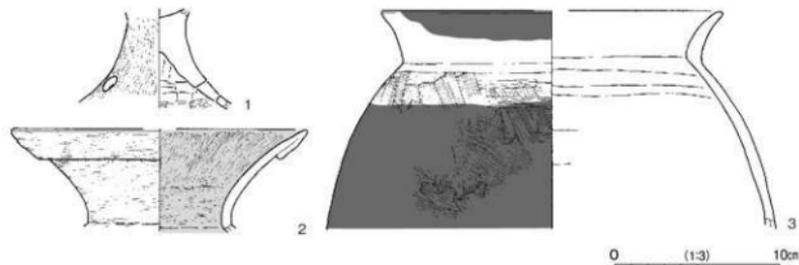
炉 中央部やや東寄りに付設された地床炉である。長径 50cm、短径 40cmの楕円形である。炉床部は床面から 6cmくぼんでいる。炉床面は赤変している

ピット 5か所。P 1・P 2は深さ 64・66cmで、配置から主柱穴と思われる。残りの 2本については精査したが確認できなかった。P 3～P 5は深さ 11～13cmで、性格不明である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックなどが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 506点（埴 10、器台 14、高坏 4、壺 16、甕 462）、焼成粘土塊 2点（34.85g）が出土している。また、混入した土師器片 84点（坏 83、手握土器 1）、須恵器片 5点（甕）、陶器片 1点（摺鉢）、石器 1点（砥石）も出土している。3は南部の床面から覆土下層にかけて出土したものが接合している。

所見 時期は、出土土器から 4世紀中葉に比定できる。炉の東側床面から炭化材が出土しているが、焼土や炭化物が覆土中に確認できないため焼失家屋とは考えにくい。遺構廃絶時の投棄と考えられる。



第 103 図 第 47 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 49 表 第 47 号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 103 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	器台	-	(6.0)	-	長石	明赤褐	普通	脚部三方に穿孔	覆土中	30%
2	土師器	壺	(17.7)	(6.3)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	良好	内面赤彩 折り返し口縁	覆土中	10%
3	土師器	甕	(20.6)	(13.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面黒付着	床面 覆土下層	20%

第 48 号竪穴建物跡（第 104・105 図 PL15）

位置 調査区北部の H 5 i 4 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 46 号竪穴建物、第 7 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 6.34 m、短軸 5.56 m の長方形で、長軸方向は N - 73° - E である。壁高は 3～10cm で、外傾している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。確認できた範囲で壁溝が巡っている。

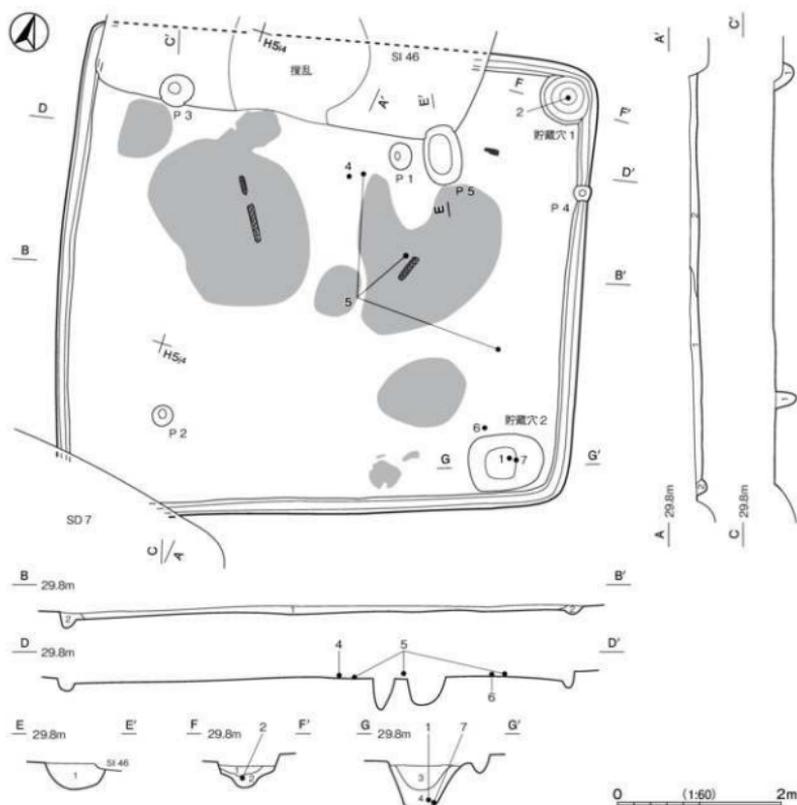
ピット 5か所。P 1～P 5は深さ 25～38cm で、性格不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴 1は長径 64cm、短径 58cm の円形で 2 段掘り込みである。深さは 34cm ほど、底面は U 字状で、壁は外傾している。貯蔵穴 2は長径 92cm、短径 68cm の楕円形である。深さは 50cm ほど、底面は平坦で、壁は外傾している。貯蔵穴 1・2ともに、覆土は 2 層に分層でき、焼土ブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 238 点 (埴 6, 器台 38, 壺 18, 甕 176), 土製品 1 点 (不明土製品), 石器 1 点 (磨石) が出土している。また混入した土師器片 17 点 (坏 16, 高坏 1) も出土している。2 は貯蔵穴 1 の覆土中層から斜位で出土している。1・7 は貯蔵穴 2 の覆土下層から出土している。5 は中央部から東部の、床面から覆土下層にかけて出土した破片が接合している。4 は中央部の覆土下層から出土している。6 は南東部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 4 世紀中葉に比定できる。焼土や炭化材、炭化物が北部から南部にかけての床面から出土しており、焼失家屋とみられる。



土器解説

- 1 10YK3-3 埴輪 ローム中D・小C・粒B/粘B、瓣B
 2 10YK4-3 埴輪 ローム中C・小B・粒B/粘B、瓣B

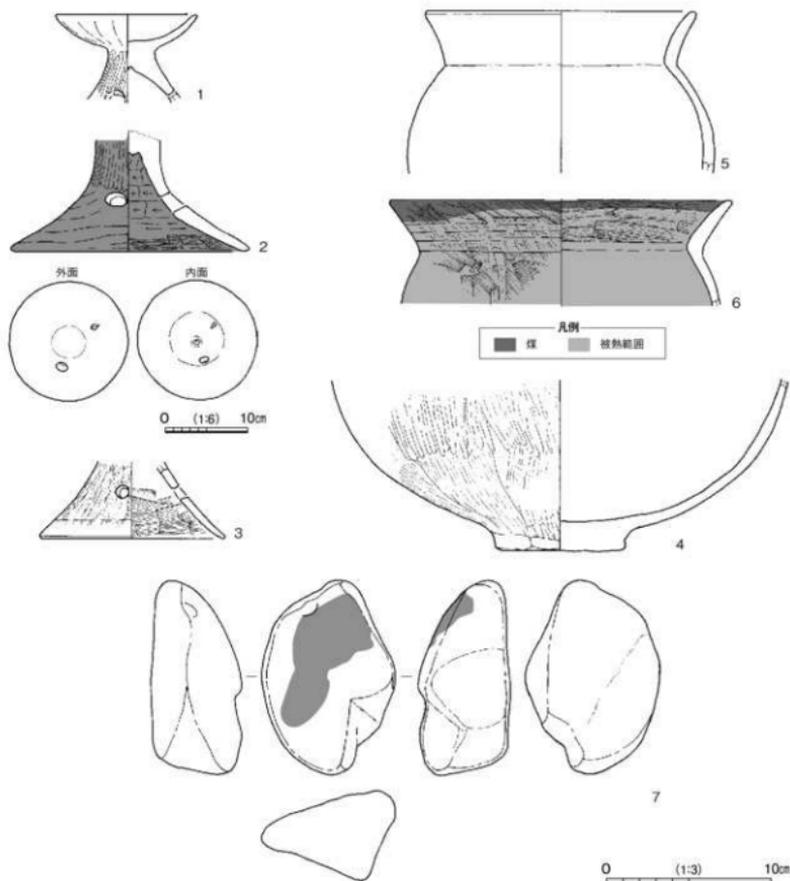
ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YK2-2 赤黒土 ローム小C・粒C/粘B、瓣B

貯蔵穴土層解説 (1・2共通)

- 1 10YK2-3 赤黒土 ローム小B・粒B/粘B、瓣B
 2 10YK2-2 赤黒土 ローム小B・粒A/粘B、瓣B
 3 10YK2-3 赤黒土 ローム小C・粒C/粘B、瓣B
 4 10YK2-2 赤黒土 ローム小B・粒B、焼上小C・粒C、炭化粒C/粘B、瓣B

第 104 図 第 48 号竪穴建物跡実測図



第 105 図 第 48 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 50 表 第 48 号竪穴建物跡出土遺物一覽 (第 105 図)

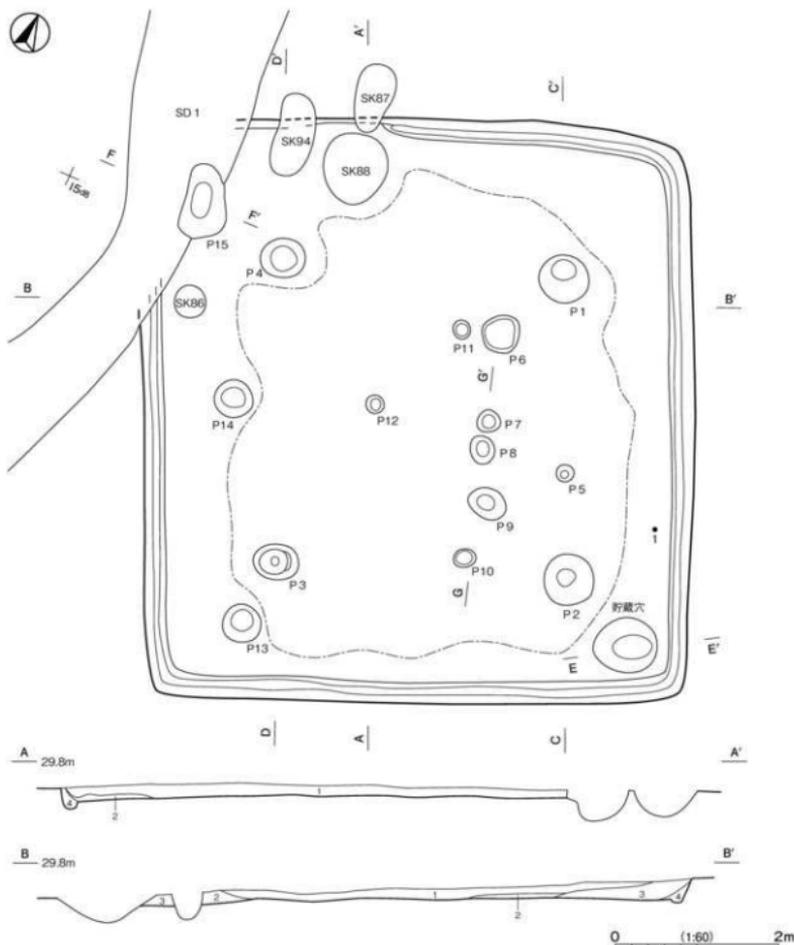
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	器台	8.5	(5.4)	-	長石・石英	赤褐色	普通	脚部三方に穿孔 片無被熱	貯蔵穴2 覆土下層	60%
2	土師器	器台	-	(7.3)	14.1	長石・石英	にぶい 黄褐色	普通	脚部穿孔1ヶ所 脚部外・内面に各1ヶ所穿孔 (本瓦通) 全面被熱	貯蔵穴1 覆土中層	50%
3	土師器	器台	-	(4.7)	11.0	長石・石英	橙	普通	脚部三方に穿孔	覆土中	30%
4	土師器	器	-	(10.5)	7.9	長石・石英・細礫	橙	普通	底部外面へラ振り 内面摩耗	覆土下層	30%
5	土師器	甕	16.1	(9.9)	-	長石・石英・細礫	浅黄褐色	普通	外・内面やや摩減	覆土下層一 床面	20%
6	土師器	甕	[20.6]	(6.5)	-	長石・石英	にぶい 褐色	普通	外・内面被熱 煤付着	床面	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
7	磨石	11.9	8.2	5.6	57.4	安山岩	磨面4面	一部被熱	貯蔵穴2 覆土下層		

第49号竪穴建物跡 (第106・107図 PL15)

位置 調査区中央部のI5d9区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第86～88・94号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.20m、短軸6.72mの方形で、長軸方向はN-23°-Wである。壁高は10～24cmで、外傾している。



土層解説

1	10YK3/4	硬層	ローム小C・粒C/粘B、礫B	3	10YK4/2	灰黄層	ローム小C・粒B/粘B、礫B
2	10YK3/2	黒層	ローム中C・小C・粒C/粘B、礫B	4	10YK4/4	黒層	ローム小B・粒B/粘B、礫B

第106図 第49号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

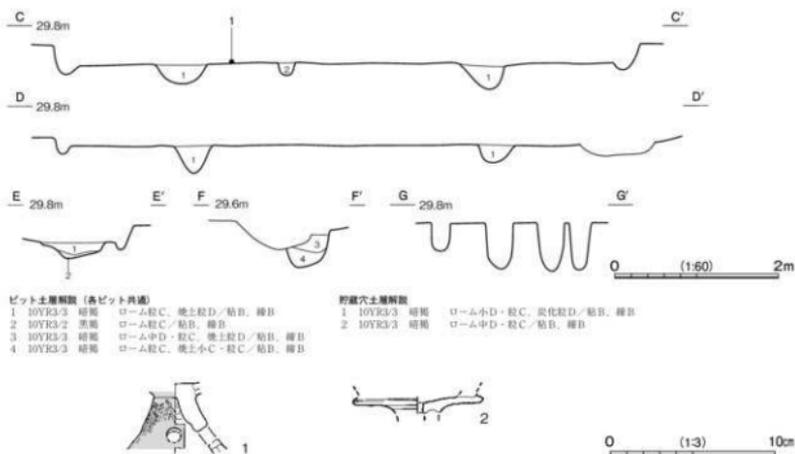
ピット 15か所。P 1～P 4は深さ22～32cmで、配置から支柱穴である。P 5～P 15は深さ10～95cmで、性格不明である。

貯蔵穴 長径80cm、短径68cmの楕円形である。深さは21cmほど、底面は凹凸で、壁は外傾している。2層に分層でき、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。第4層は壁溝の堆積土である。

遺物出土状況 土師器片131点(埴7, 器台2, 高坏4, 壺30, 甕88)が出土している。また、混入した土師器片24点(坏)も出土している。1は東壁際の床面から出土している。2は台部上半が剥離しており、結合器台の可能性があるが、やや小ぶりである。

所見 時期は、出土土器から4世紀代に比定できる。



第107図 第49号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第51表 第49号竪穴建物跡出土遺物一覧(第107図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	器台	-	(4.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部四方に穿孔、外面赤彩	床面	20%
2	土師器	器台	-	(1.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	台部上半・脚部剥離	覆土中	10%

第50号竪穴建物跡(第108図 PL15)

位置 調査区中央部のI 5d区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第8号掘立柱建物、第71・80号土坑、第8号溝、第2号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.72m、短軸4.65mの隅丸方形で、主軸方向はN-5°-Wと推定される。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

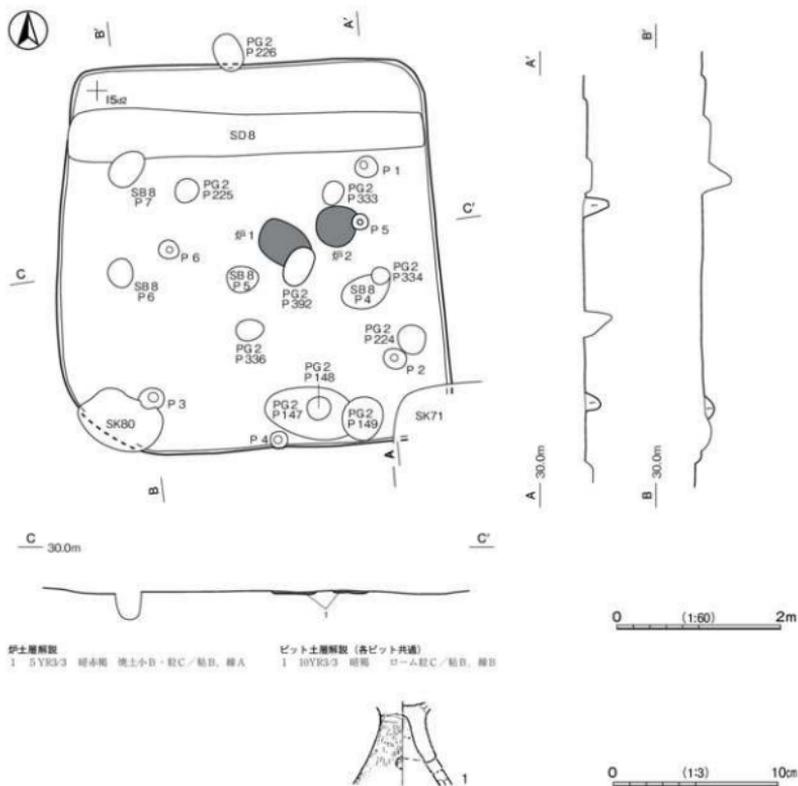
炉 2か所。炉1・2は中央部やや東寄りに付設された地床炉である。炉1は第2号ピット群に掘り込まれており、推定される長径は64cm、短径は50cmの楕円形である。炉2は長径52cm、短径50cmの円形である。いずれも炉床部は床面と同じ高さを使用しており、炉床面は赤変している。

ピット 6か所。P1～P6は深さ12～30cmで、性格不明である。

覆土 削平によりほとんど残存部がないことから、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片33点(器台1、壺11、甕21)が出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第108図 第50号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第52表 第50号堅穴建物跡出土遺物一覧 (第108図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	器台	-	(5.1)	-	長石・石英	橙	普通	脚部三方に穿孔	床面	30%

第 51 号竪穴建物跡 (第 109・110 図 PL15)

位置 調査区南東部の J 6c4 区, 標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 132・133 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.54 m, 短軸 3.47 m の方形で, 主軸方向は N-6°-E である。壁高は 12~14 cm で, 外傾している。

床 平坦で, 全体が踏み固められている。壁溝が南西コーナー部と南東コーナー部の一部で確認できた。

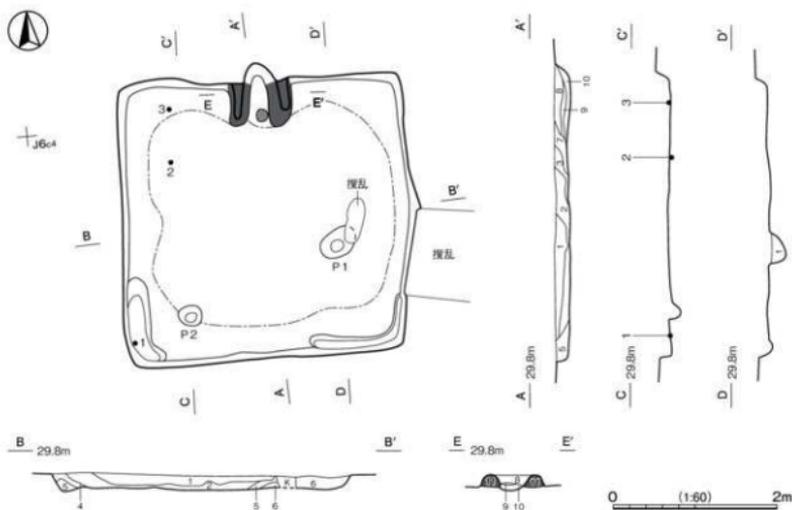
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 78 cm で, 燃焼部幅は 25 cm である。袖部は地山の上に, 砂質粘土を含む第 11 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 22 cm ほど掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。第 7~10 層は竈に関連する堆積土である。

ピット 2 か所。P1・P2 は深さ 22・14 cm で, 性格不明である。

覆土 6 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 192 点 (坏 154, 碗 4, 甕 34), 焼成粘土塊 1 点 (3.66g) が出土している。1 は南西部の壁溝覆土上層から出土している。2・3 は北西部の床面からそれぞれ出土している。2 は正位で出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀第 2 四半期に比定できる。



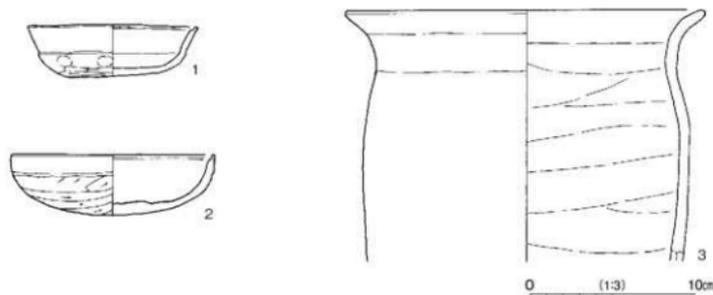
土層解説

- | | | | |
|----------------|----------------------|----------------|--|
| 1 75YR2-3 極暗褐色 | ローム粒C / 粘土, 雜A | 7 75YR3-3 暗褐色 | ローム小D / 粘土, 焼土粒D / 粘土, 雜B |
| 2 75YR2-3 極暗褐色 | ローム粒C, 焼土小C / 粘土, 雜B | 8 75YR2-2 赤褐色 | ローム小C / 粘土, 焼土大C / 中D, 小A / 粒A / 粘土, 雜B |
| 3 75YR2-1 灰 | ローム粒B / 粘土, 雜B | 9 75YR2-3 暗褐色 | ローム中D / 小C / 粒C, 焼土大D / 中D / 小B / 粒B, 粘土, 雜C |
| 4 75YR3-3 暗褐色 | ローム小C / 粘土, 雜B | 10 75YR3-3 暗褐色 | ローム小C / 粒C, 焼土中C / 小D / 粒D / 粘土, 雜B |
| 5 75YR2-1 灰 | ローム小C / 粘土, 雜B | 11 75YR4-6 暗褐色 | ローム大C / 中C / 小A / 粒A, 砂質粒土粒A / 粘土, 雜A |
| 6 75YR3-2 赤褐色 | ローム粒A / 粘土, 雜B | | |

ピット土層解説

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム小C / 粒C, 焼土粒D / 粘土, 雜B

第 109 図 第 51 号竪穴建物跡実測図



第110図 第51号竪穴建物跡出土遺物実測図

第53表 第51号竪穴建物跡出土遺物一覧(第110図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土師器	坏	10.2	3.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口唇部内面深い沈線 口縁部の痕跡	口縁部外面・内面黒色染	埋溝 覆土上層	90% PL70
2	土師器	坏	12.4	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口唇部内面沈線	床面	90% PL70	
3	土師器	甕	21.8	(15.3)	-	長石・石英・磁礫	にぶい橙	普通	外面摩滅により調整不明瞭	床面	30%	

第52号竪穴建物跡(第111図 PL15・16)

位置 調査区南東部のJ6f2区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸4.45m、短軸3.32mの長方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は11~20cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

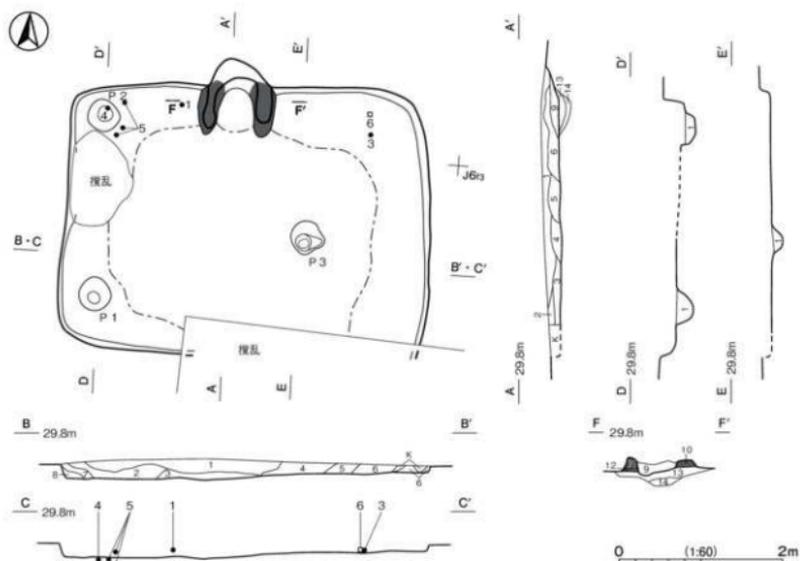
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで92cmで、燃焼部幅は45cmである。竈は、地山を20cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第13・14層を埋土して整地されている。袖部は整地地面の上に、砂質粘土を含む第10~12層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に33cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第9層は竈に関連する堆積土である。

ピット 3か所。P1・P2は深さ15・22cmで、配置から主柱穴の可能性はあるが、残りの2か所については精査したが確認できなかった。P3は深さ14cmで、性格不明である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片174点(坏121、碗1、高坏1、甕48、瓶1、手捏土器2)、土製品3点(支脚)、石器1点(紡錘車)、焼成粘土塊2点(12.16g)が出土している。1は竈左袖脇の床面から、逆位で出土している。3・6は北東コーナー部の床面からそれぞれ出土している。5は北西コーナー部の床面から出土している。4はP2の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。

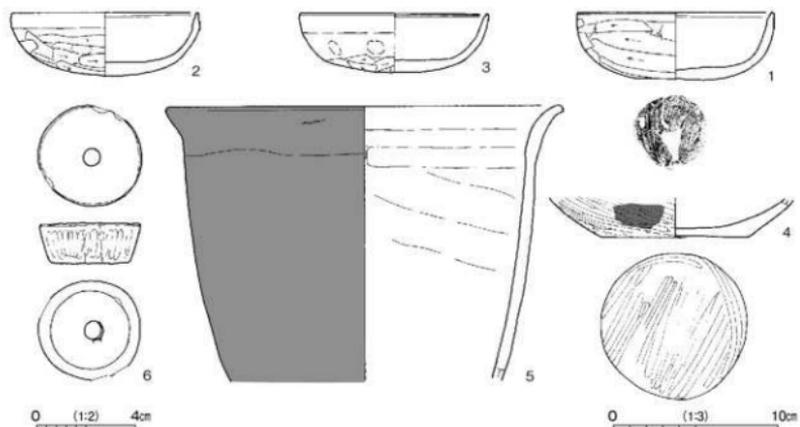


土層解説

- | | | | |
|---------------|-----------------------------|----------------|----------------------------------|
| 1 75YR3-3 暗褐色 | ローム中C、焼土小C、白色粘土粒A/粘B、雜B | 9 10YR3-3 暗褐色 | ローム小C・粒C、焼土小C・粒B、炭化粒D/粘B、雜B |
| 2 75YR3-2 黒褐色 | ローム小A、焼土小C/粘B、雜B | 10 10YR3-3 暗褐色 | ローム中C・小C・粒B、炭化粒D、砂質粘土粒A/粘B、雜B |
| 3 75YR4-4 黒 | ローム小B、焼土小C、炭化粒C/粘A、雜C | 11 10YR4-4 黒 | ローム大D・中C・小B・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒A/粘B、雜B |
| 4 75YR2-2 赤褐色 | ローム小C・粒B、焼土小C・粒C、炭化粒D/粘B、雜B | 12 10YR4-3 黒褐色 | ローム中D・小C・粒C、砂質粘土粒B/粘B、雜B |
| 5 75YR2-2 赤褐色 | ローム小C・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B | 13 10YR2-2 黒褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒C、炭化粒C/粘B、雜B |
| 6 75YR2-3 暗褐色 | ローム小B・粒B、焼土小C・粒C、炭化粒D/粘B、雜B | 14 10YR3-4 暗褐色 | ローム粒C、焼土粒C/粘B、雜B |
| 7 75YR3-4 暗褐色 | ローム中C・小B・粒B/粘B、雜B | | |
| 8 75YR4-4 黒 | ローム中C・小B・粒B/粘B、雜B | | |

ピット土層解説 (赤ピット共通)

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム小D・粒D/粘B、雜B



第111図 第52号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第54表 第52号竪穴建物跡出土遺物一覧(第111図)

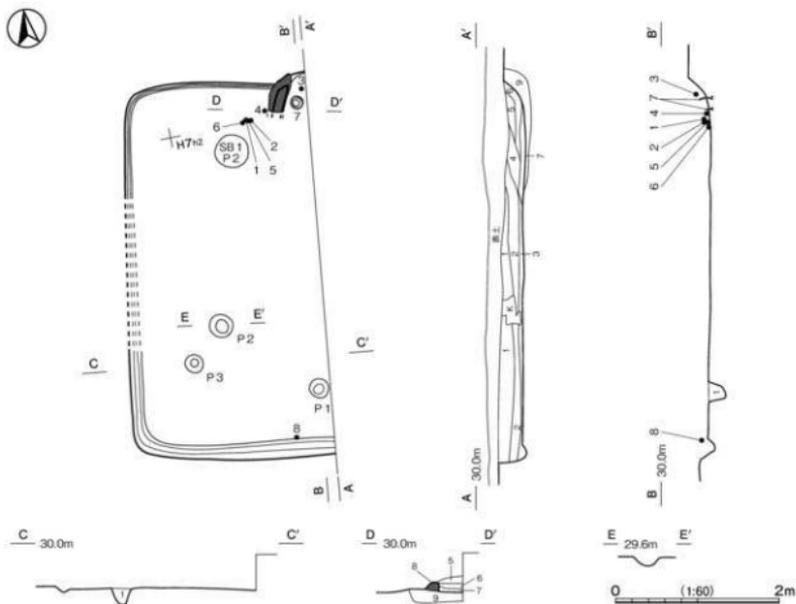
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.9	4.1	4.5	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口唇部内面削い沈線 底部停止未切り痕	床面	90% PL70
2	土師器	坏	11.4	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面削い沈線 口縁部外面・内面黒色地埋の痕跡	覆土中	90% PL70
3	土師器	坏	11.4	3.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面削い沈線 口縁部外面・内面黒色地埋の痕跡	床面	100% PL70
4	土師器	甕	-	(2.4)	8.9	長石・石英・黄母	にぶい褐	普通	体部外面保存着 底部外面削い磨き 内面粘状土に直蒸	P2 覆土上層	5%
5	土師器	瓶	23.8	(16.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面摩滅により調整不明瞭 外面被熱	床面	20%

番号	器種	口径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	石製紡錘車	4.1	3.2	1.6	0.7 (4977)	蛇紋岩	全面丁寧に研磨	床面	PL100

第53号竪穴建物跡(第112・113図 PL16)

位置 調査区北東部のH7h2区。標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第1号掘立柱建物に掘り込まれている。



土層解説

- | | | | |
|--------------|----------------------------|----------------|------------------------------|
| 1 10YK3-2 黒層 | ローム段D/粘土、雜土 | 6 10YR4-3 にぶい橙 | ローム段D、焼土小C、炭化段D、砂質粘土段B/粘土、雜土 |
| 2 10YK3-2 黒層 | ローム段C、炭化段D/粘土、雜土 | 7 10YK3-3 暗褐 | ローム段D、焼土小C、炭化段C、砂質粘土段C/粘土、雜土 |
| 3 10YK3-3 暗褐 | ローム段D、焼土小C・粒D、砂質粘土段C/粘土、雜土 | 8 10YR4-4 褐 | ローム段B、焼土小D・粒C、砂質粘土段A・粘土、雜土 |
| 4 10YK3-3 暗褐 | ローム段B、焼土小D・粒C/粘土、雜土 | 9 10YK3-3 暗褐 | ローム段C、砂質粘土段D/粘土、雜土 |
| 5 10YK3-3 暗褐 | ローム段D、焼土段D/粘土、雜土 | | |

ピット土層解説(各ピット共通)

- 1 10YK3-3 暗褐 ローム小D・粒D/粘土、雜土

第112図 第53号竪穴建物跡実測図

規模と形状 西部の一部が掘削を受け東部が調査区域外へ延びているため、南北軸は4.59m、確認できた東西軸は2.45mで、方形または長方形と推定される。主軸方向はN-9°-Eである。壁高は30cmで、ほぼ直立している。

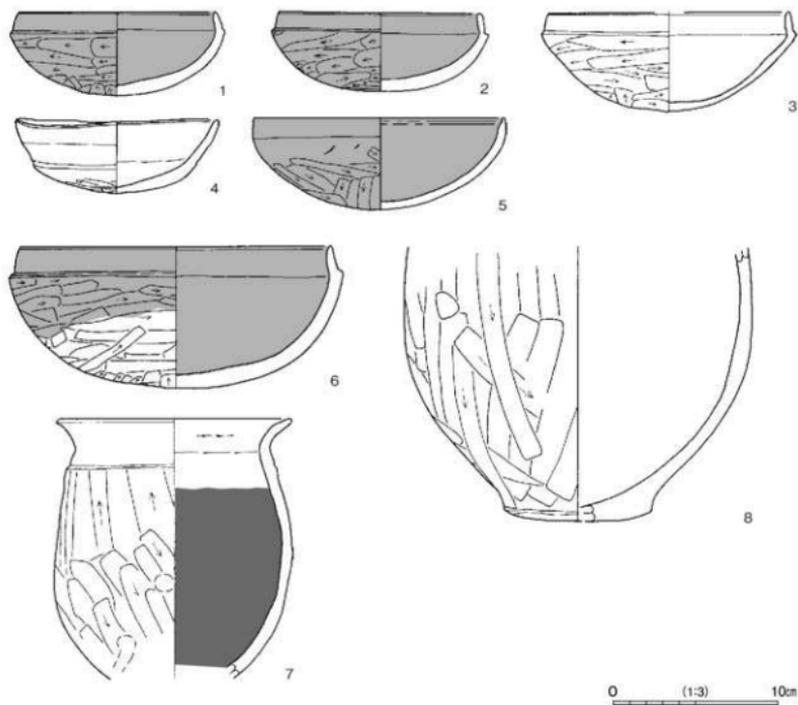
床 平坦で、硬化面は確認できなかった。確認できた範囲で、壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。北西側が削平され、東側が調査区域外に延びているため、規模は焚口から煙道部まで掘方から140cmと推定される。燃烧部幅は28cmしか確認できなかった。竈は、地山を12cmほど掘りくほめた部分にローム粒子などを含む第9層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、砂質粘土を含む第8層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、土師器の甕が逆位で据えられており、支脚として転用されたと考えられる。火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に12cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第4～7層は竈に関連する堆積土である。

ピット 3か所。P1～P3は深さ12～22cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片27点（坏15、高坏1、鉢1、甕10）が出土している。7は竈火床部から逆位で出土している。3は竈覆土中層から出土している。1・2・5・6は、竈左袖前の床面から覆土下層にかけて、ま



第113図 第53号竪穴建物跡出土遺物実測図

とまって出土している。2は逆位で、1・5・6は正位で重なって出土している。4は竈左袖外側の覆土下層から出土している。8は南壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀第4四半期に比定できる。

第55表 第53号竪穴建物跡出土遺物一覧(第113図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	119	5.2	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外・内面黒色処理	覆土下層	100% PL70
2	土師器	坏	122	4.8	-	長石・石英	橙	普通	外・内面黒色処理	覆土下層	100% PL70
3	土師器	坏 [146]	6.0	-	-	長石・石英	褐色	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	竈内	40%
4	土師器	坏	121	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土下層	100% PL70
5	土師器	坏	15.3	5.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面化粧 外・内面黒色処理	床面	100% PL70
6	土師器	鉢	18.8	8.6	-	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	口縁部外面・内面黒色処理	床面	100% PL70
7	土師器	羹	140 (15.8)	-	-	長石・石英・赤色粒子・粗糠	明赤褐	普通	体部内部保存者	竈内	70% PL71
8	土師器	羹	- (16.7)	[9.0]	-	長石・石英・粗糠	明赤褐	普通	底部外面へう割り 内面摩滅により調整不明瞭	覆土下層	20%

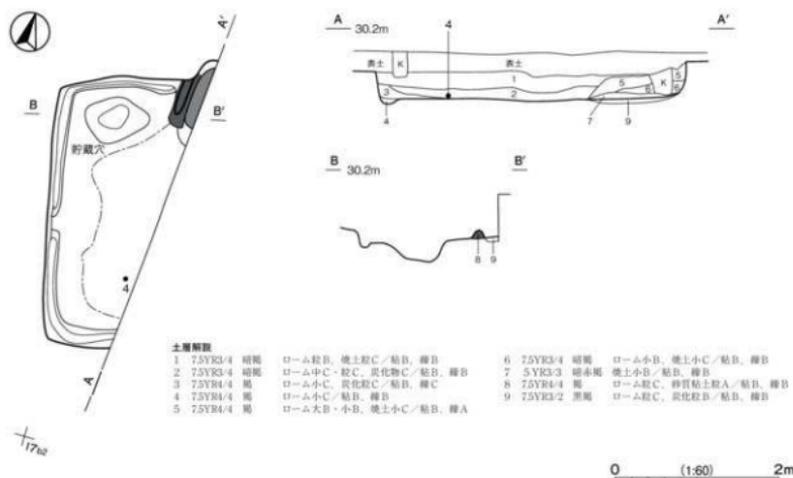
第54号竪穴建物跡 (第114・115図 PL16)

位置 調査区北東部のI7a2区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 東部が調査区域外へ延びているため、南北軸は333m、確認できた東西軸は187mで、方形または長方形と推定される。主軸方向はN-13°-Wである。壁高は33cmで、直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた範囲では、西壁の中央部を除き壁溝が巡っている。

竈 北壁に付設されている。確認できた規模は焚口から煙道部まで88cmで、燃焼部幅は不明である。地山を8cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第9層を埋土して整地されている。袖部は地山の上に、砂



第114図 第54号竪穴建物跡実測図

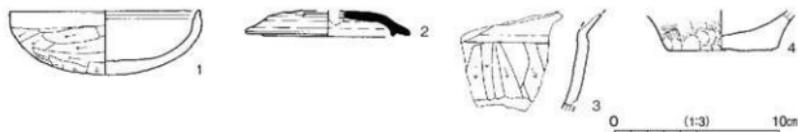
質粘土を含む第8層を積み上げて構築されている。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり、火床面は赤変し、やや硬化している。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれ、火床部からほぼ直立して立ち上がっている。第5～7層は竈に関連する堆積土である。

貯蔵穴 長径84cm、短径52cmの不整形円形である。深さは28cmほど、底面は東側にやや傾斜しており、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれる堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片58点(坏36、甕22)、須恵器片1点(蓋)が出土している。4は南部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



第115図 第54号竪穴建物跡出土遺物実測図

第56表 第54号竪穴建物跡出土遺物一覧(第115図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	114	39	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面強い沈澱	覆土中	100% PL70
2	須恵器	蓋	[100]	(15)	-	長石・石英	灰	普通	ロケロ彫彩	覆土中	20%
3	土師器	甕	-	(61)	-	長石・石英	橙	普通	内面丁寧なナデ	覆土中	5%
4	土師器	甕	-	(25)	68	長石・石英・雲母	に濃い黄褐色	普通	底部外縁へく崩り	覆土下層	5%

第55号竪穴建物跡(第116図 PL16・17)

位置 調査区東部のI 6i8区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸4.12m、短軸4.10mの方形で、主軸方向はN-86°-Eである。壁高は8～12cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた範囲で壁溝が巡っている。

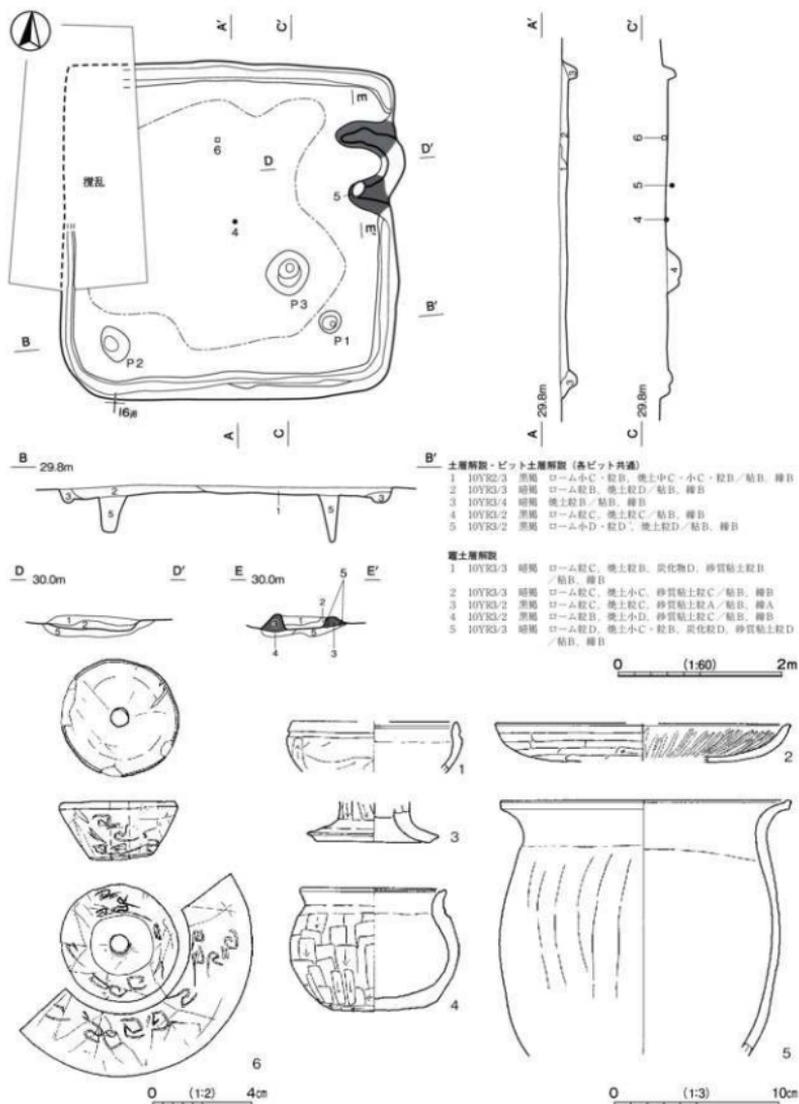
竈 東壁のやや北寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで108cmで、燃烧部幅は40cmである。竈は、地山を10cmほど凹凸に掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第4・5層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、砂質粘土を含む第3層を積み上げて構築されている。右袖部では芯材として土師器の甕が倒置して使用されている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に16cmほど掘り込まれ、火床部から緩斜して立ち上がっている。

ピット 3か所。P1・P2は深さ56・43cmで、規模や配置から主柱穴の可能性があるが、残り2か所については精査したが確認できなかった。P3は深さ18cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片138点(坏91、碗2、器台1、高坏1、甕43)、石器1点(紡錘車)、焼成粘土塊1点(10.09g)が出土している。5は竈右袖の芯材である。4は中央部床面から、6は北部覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



第116図 第55号竪穴建物跡・出土遺物実測図

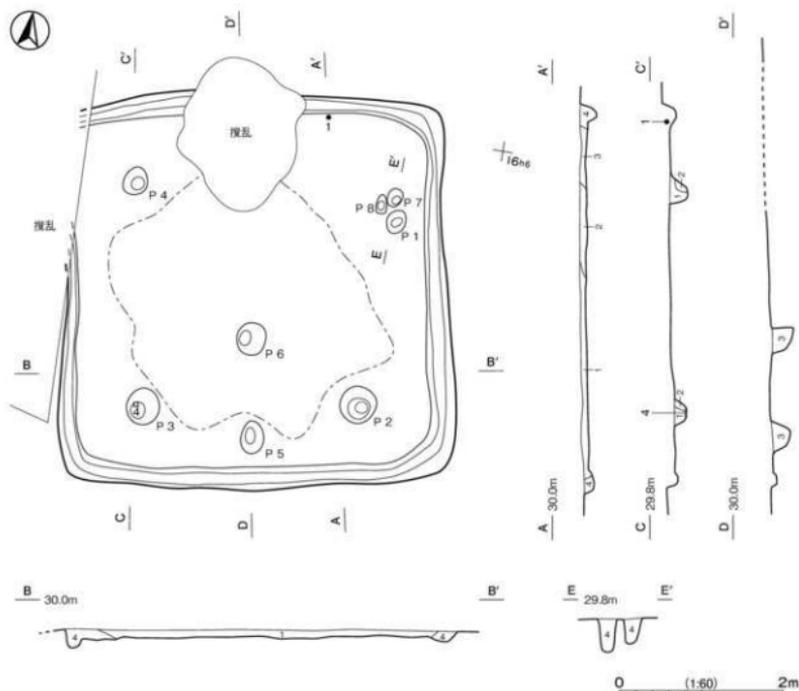
第57表 第55号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第116図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[100]	(31)	-	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部ナデ	覆土中	10%
2	土師器	坏	[180]	(24)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線 内面放射状へう磨き	覆土中	20%
3	土師器	高坏	-	(25)	[80]	長石・雲母	にぶい橙	普通	内面ナデ	覆土中	10%
4	土師器	甕	8.9	7.5	6.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 内面放射状に剥落	床面	100% PL70
5	土師器	甕	17.4	15.6	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ナデ	覆石箱	50% PL71

番号	器種	上径	下径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
6	石製 紡錘車	4.8	2.5	2.4	0.8	(7.5)	蛇紋岩	上・下・側面に線刻	覆土下層	PL100

第56号竪穴建物跡 (第117・118図 PL17)

位置 調査区東部のI 6h5区、標高30mほどの微高地上に位置している。



土層解説

- | | | |
|-----------|-----|----------------------|
| 1 10YK2-3 | 茶褐色 | ローム小C・粒C/粘B、雜B |
| 2 10YK3-3 | 暗褐色 | ローム大C・中B・小B・粒B、粘B、雜B |
| 3 10YK3-4 | 暗褐色 | ローム小C・粒B/粘B、雜B |
| 4 10YK3-3 | 暗褐色 | ローム小B・粒B/粘B、雜B |

ビット土層解説 (各ビット共通)

- | | | |
|-----------|-----|-------------------|
| 1 10YK3-2 | 茶褐色 | ローム粒D'・粘土粒D/粘B、雜B |
| 2 10YK3-3 | 暗褐色 | ローム粒C/粘B、雜B |
| 3 10YK3-3 | 暗褐色 | ローム粒D'・粘B、雜B |
| 4 10YK3-2 | 黒褐色 | ローム小D'・粒D'・粘B、雜B |

第117図 第56号竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸 4.80 m、短軸 4.78 m の方形で、主軸方向は $N-10^{\circ}-W$ である。壁高は 6～15cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた範囲で、壁溝が全周している。

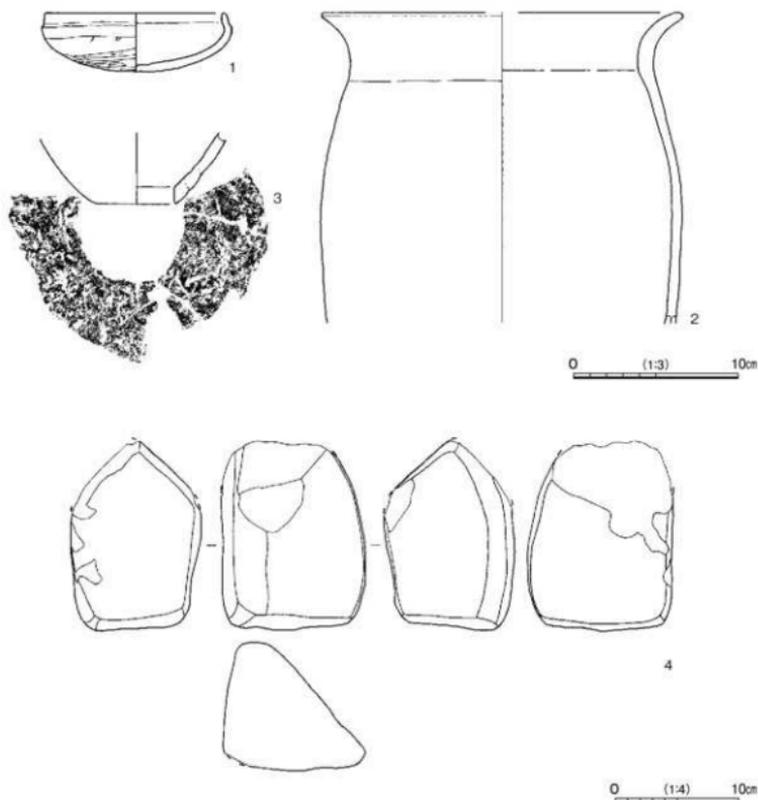
竈 北壁中央部に付設されていると考えられるが、攪乱を受けており詳細は不明である。

ピット 8か所。P 1～P 4 は深さ 17～42cm で、配置から支柱穴である。P 5 は深さ 24cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 8 は深さ 25～33cm で、性格不明である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれている堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 202 点 (坏 81, 甕 120, 瓶 1), 石器 1 点 (磨石) が出土している。4 は P 3 の底面から出土しており、根石に転用していた可能性がある。1 は北壁際の床面から出土している。2・3 は北部壁際中央部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 2 四半期に比定できる。



第 118 図 第 56 号竈穴建物跡出土遺物実測図

第58表 第56号竪穴建物跡出土物一覧(第118図)

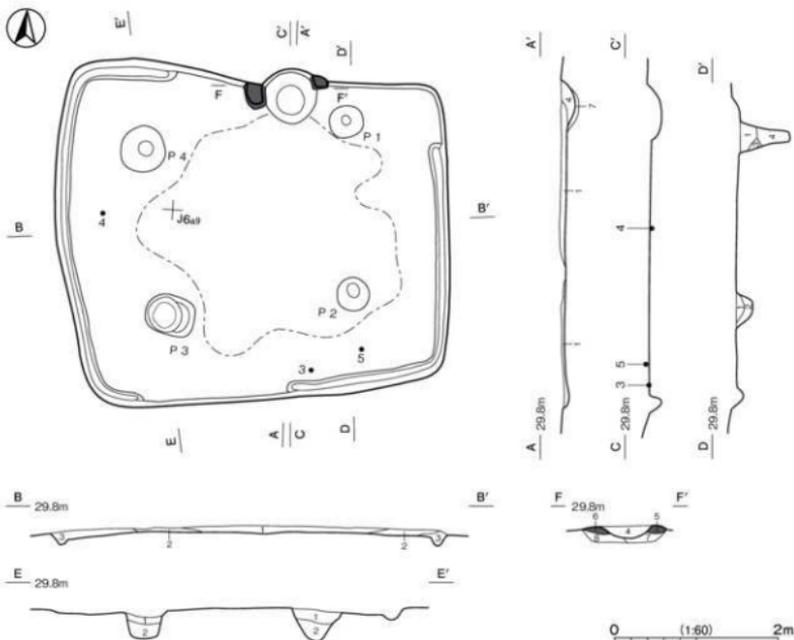
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.8	3.6	-	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐色	普通	内面痕痕状に剥落	床面	90%
2	土師器	甕	21.5	(19.0)	-	長石・石英・磁石	赤褐色	普通	外・内面摩滅により調整不明瞭	覆土中	10%
3	土師器	瓶	-	(4.4)	4.8	長石・石英・雲母	に濃い青褐色	普通	体部外面下端本磨痕	覆土中	10% PL102

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
4	磨石	(15.5)	11.7	10.5	(2.48)	流紋岩	磨面3面	P3底面	硯石転用

第57号竪穴建物跡(第119・120図 PL17)

位置 調査区東部のJ 6a9区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸4.74m、短軸4.20mの長方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は3~8cmで、外傾



土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒C、焼土粒D、炭化物C・粒B、雜B
- 2 10YR4/3 土褐色 ローム粒C、焼土粒D、炭化物D・粒B、雜B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化物D・粒B、雜B
- 4 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒B、焼土小D・粒C、炭化物C・粒B、雜B
- 5 10YR4/3 土褐色 ローム小D・粒D、砂質粘土粒C・粒B、雜B
- 6 10YR2/2 黄褐色 ローム粒C、焼土粒D、炭化物D、砂質粘土小C・粒B・粒B、雜B
- 7 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・小C・粒C、焼土粒C、炭化物D・粒C・粒B、雜B
- 8 10YR2/2 黄褐色 ローム粒C、焼土小C・粒C、炭化物D・粒D・粒B、雜B

ピット土層解説(各ピット共通)

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化物D・粒B、雜B
- 2 10YR2/2 黄褐色 ローム小C・粒B・粒B、雜B
- 3 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒B・粒B、雜B
- 4 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒B・粒B、雜B

第119図 第57号竪穴建物跡実測図

している。

床 西部がやや下っており、中央部が踏み固められている。北・南壁際の一部を除いて壁溝がほぼ全周している。

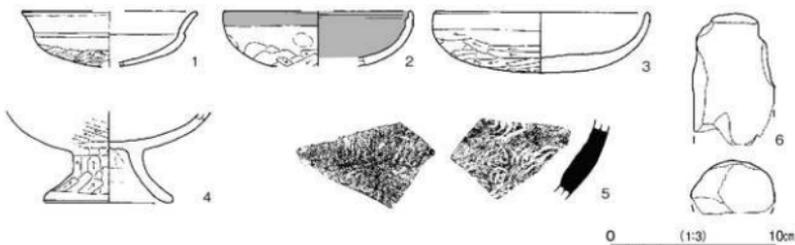
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで68cmで、燃烧部幅は60cmである。竈は、地手を12cmほど掘りくぼめ、ロームブロックなどを含む第7・8層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上面に、砂質粘土を含む第5・6層を積み上げて構築されている。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に14cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第4層は竈に関連する堆積土である。

ピット 4か所。P1～P4は深さ22～60cmで、配置から支柱穴である。

覆土 3層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片154点(坏107、碗2、高坏3、甕42)、須恵器片1点(甕)、土製品1点(支脚)、が出土している。3は南部の床面から逆位で、5は覆土下層からそれぞれ出土している。4は西部の床面から斜位で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。



第120図 第57号竪穴建物跡出土遺物実測図

第59表 第57号竪穴建物跡出土遺物一覧(第120図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[104]	(3.4)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黒	普通	口縁部ナデ	覆土中	30%
2	土師器	坏	[114]	(3.3)	-	長石・石英	にぶい橙	良好	口唇部内面沈澱 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	30%
3	土師器	坏	128	3.7	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	70%
4	土師器	高坏	-	(5.5)	7.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部内面やや変滅	床面	70%
5	須恵器	甕	-	(4.6)	-	長石・石英	灰	良好	外面平行叩き抜ナデ 内面同心円状当て具痕	覆土下層	5%

番号	器種	土径	下径	高さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
6	支脚	2.8	(5.0)	(8.0)	(94.55)	長石・赤色粒子・磁器	綜合痕残る	覆土中	

第58号竪穴建物跡(第121・122図 PL17)

位置 調査区南東部のJ 6c9区、標高30 mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸3.42 m、短軸3.36 mの方形で、主軸方向はN-13'-Wである。壁高は8～15cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

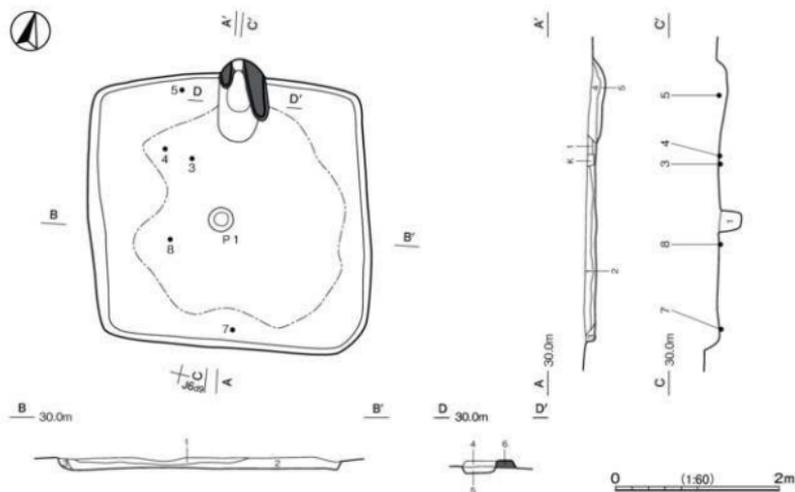
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで103cmで、燃焼部幅は16cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第6層を積み上げて構築されている。火床部は床面から8cmほどくぼんでおり、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に14cmほど掘り込まれ、火床部から緩斜して立ち上がっている。第4・5層は竈に関連する堆積土である。

ピット P1は深さ26cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片133点(坏105, 鉢10, 甕18)が出土している。5は北部, 3・4・8は中央部, 7は南部の床面から、正位でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。

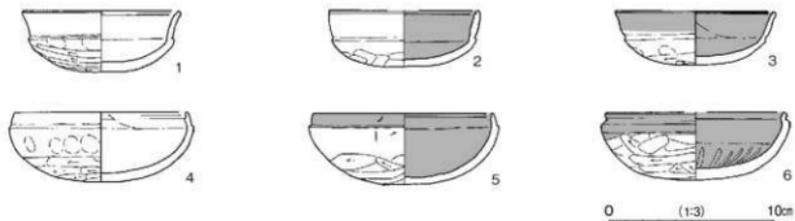


土器解説

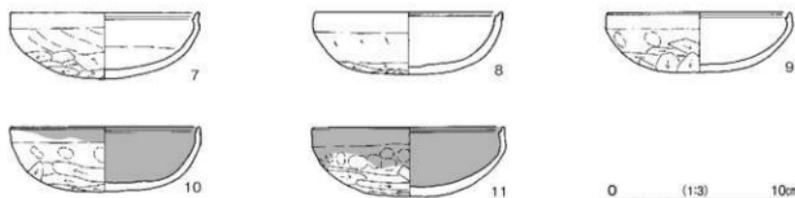
- | | |
|--------------|------------------------------------|
| 1 75YR2-2 茶黒 | ローム小D・粒C/粘B、雜B |
| 2 75YR2-2 茶黒 | ローム中D・小C・粒D/粘B、雜B |
| 3 75YR3-3 緑黄 | ローム小D・粒D/粘B、雜B |
| 4 10YR3-2 茶黒 | ローム粒C、黄土中B・小C・粒C、炭化粒B、砂質粘土小C/粘B、雜B |
| 5 10YR3-2 茶黒 | ローム粒D'、焼土粒D'、砂質粘土粒B/粘B、雜B |
| 6 10YR4-4 黄 | 焼土粒D、砂質粘土粒A' /粘B、雜A |

ピット土層解説

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 10YR3-2 茶黒 | ローム粒C/粘B、雜B |
|--------------|-------------|



第121図 第58号竈穴建物跡・出土遺物実測図



第122図 第58号竪穴建物跡出土遺物実測図

第60表 第58号竪穴建物跡出土遺物一覧(第121・122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	96	3.7	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部内面陥・沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	100% PL71
2	土師器	坏	[90]	3.4	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	40%
3	土師器	坏	9.6	3.3	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	100% PL71
4	土師器	坏	106	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	床面	90% PL71
5	土師器	坏	109	4.4	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	100% PL71
6	土師器	坏	[108]	4.1	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	60%
7	土師器	坏	11.4	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	橙	良好	口唇部内面沈線	床面	100% PL71
8	土師器	坏	11.3	3.8	-	長石・石英	明赤橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	100% PL71
9	土師器	坏	11.0	3.6	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	良好	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	60% PL71
10	土師器	坏	11.4	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	相灰	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	70% PL71
11	土師器	坏	11.5	4.3	-	長石・石英	にぶい橙	良好	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	90% PL72

第59号竪穴建物跡(第123図 PL17)

位置 調査区南東部のJ6e4区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 南部が削平されているため、東西軸は4.91m、南北軸は4.30mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は4~8cmで、外傾している。

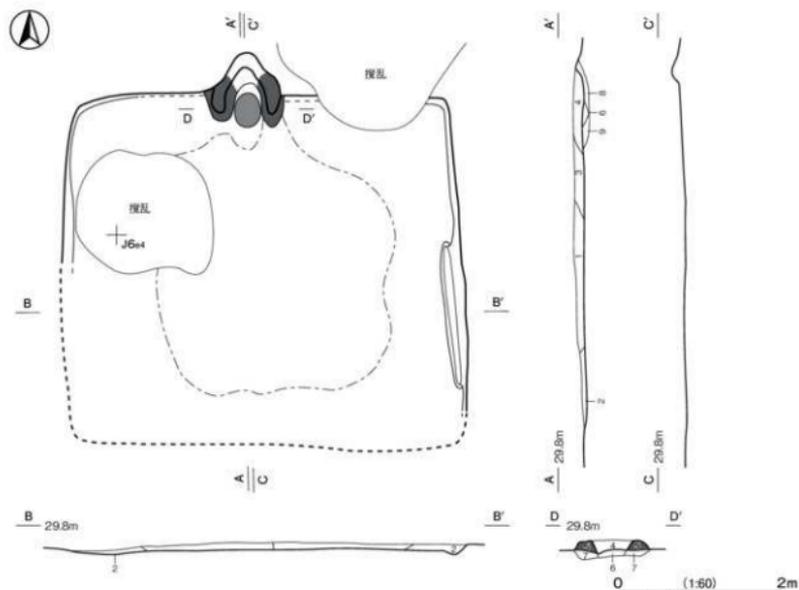
床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は東部の一部で確認した。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで82cmで、燃焼部幅は34cmである。竈は、地山を10cmほど掘りくぼめた部分に砂質粘土やローム粒子などを含む第6~9層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、砂質粘土を含む第5層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に32cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第4層は崩れた竈構築材を含む堆積土である。

覆土 3層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片153点(坏120、甕32、瓶1)、土製品1点(支脚)、焼成粘土塊1点(13.69g)が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



土層解説

- | | | | |
|---------------|-----------------------------------|---------------|--------------------------------|
| 1 10YR3-2 黒褐色 | ローム粒C、焼土粒D / 粘B、雜B | 6 10YR3-2 黒褐色 | ローム粒C、焼土粒C、炭化粒C、砂質粘土中D / 粘B、雜B |
| 2 10YR3-3 暗褐色 | ローム粒B / 粘B、雜B | 7 10YR4-3 黒土層 | 焼土粒D、炭化粒D、砂質粘土中B / 粘B、雜A |
| 3 10YR3-3 暗褐色 | ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D / 粘B、雜B | 8 10YR3-3 暗褐色 | ローム粒C、焼土小C・粒C、炭化粒D、砂質粘土中C |
| 4 10YR4-3 黒土層 | ローム粒C、焼土小C・粒C、炭化粒D、砂質粘土中C / 粘B、雜B | 9 10YR3-3 暗褐色 | ローム粒B、焼土粒D、砂質粘土中D / 粘B、雜B |
| 5 10YR3-3 黒土層 | 焼土粒D、砂質粘土中A / 粘B、雜A | | |



0 (1:3) 10cm

第123図 第59号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第61表 第59号堅穴建物跡出土遺物一覧 (第123図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[145]	4.0	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線 内面黒色処理	覆土中	30%
2	土師器	瓶	[186]	(45)	-	長石・石英	橙	普通	外面横位のヘラ磨き、口縁部内面横位のヘラ磨き 体部内面縦位のヘラ磨き	覆土中	5%

第60号堅穴建物跡 (第124図 PL18)

位置 調査区南東部のJ6d2区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸3.59m、短軸3.42mの隅丸方形で、主軸方向はN-26°-Eである。壁高は6cmで、外傾している。

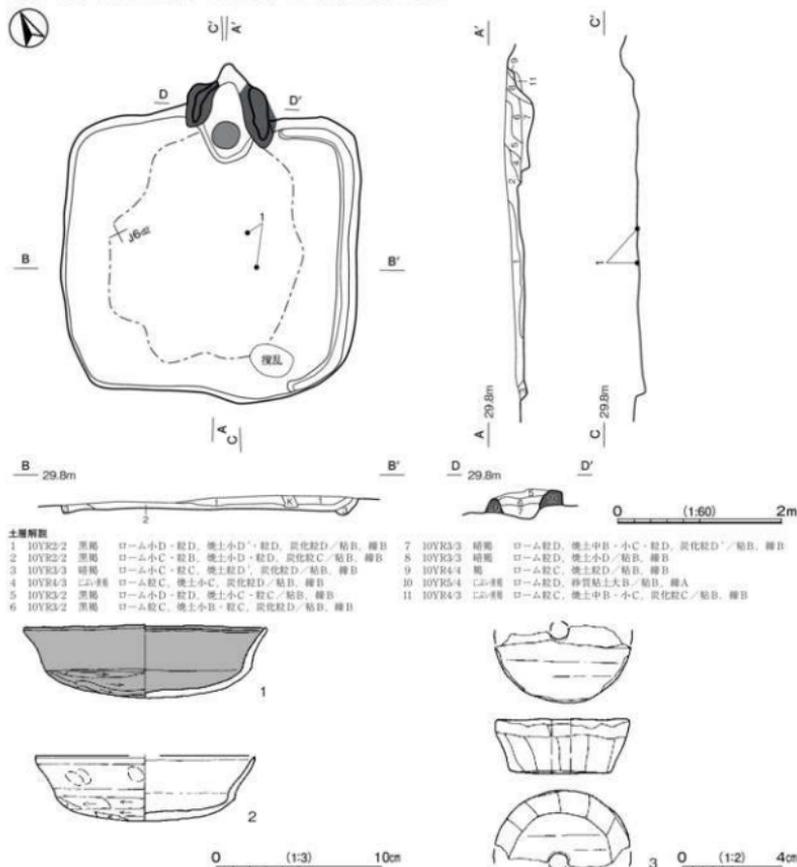
床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝は東コーナー部から南コーナー部にかけて巡っている。

竈 北東壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで123cmで、燃焼部幅は42cmである。竈は、地山を15cmほど掘りくぼめた部分に焼土ブロックやローム粒子などを含む第11層を埋土して整地されている。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第10層を積み上げて構築されている。火床部は床面から17cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に58cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第4～9層は竈に関連する堆積土である。

覆土 3層に分層できる。含有物が少なく、均質な堆積であることから自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片191点（坏162、鉢1、甕28）、土製品1点（紡錘車）、焼成粘土塊1点（8.13g）が出土している。1は中央部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



第124図 第60号竈穴建物跡・出土遺物実測図

第 62 表 第 60 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 124 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土脚器	坏	146	45	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい陶	普通	口唇部内面削い北面 外・内面黒色処理	床前	20% PL22
2	土脚器	坏	[133]	41	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面や々摩滅 口唇部内面削い北面	覆土中	30%

番号	器種	上径	下径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
3	土脚 刺摩摩	[56]	[41]	22	08	[327]	長石・石英・赤色粒子	全面ナテ	覆土中	

第 62 号竪穴建物跡 (第 125・126 図 PL18)

位置 調査区南東部の J 6 h2 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸 3.53 m、短軸 2.92 m の長方形で、主軸方向は N-9°-E である。壁高は 21 cm で、外傾している。

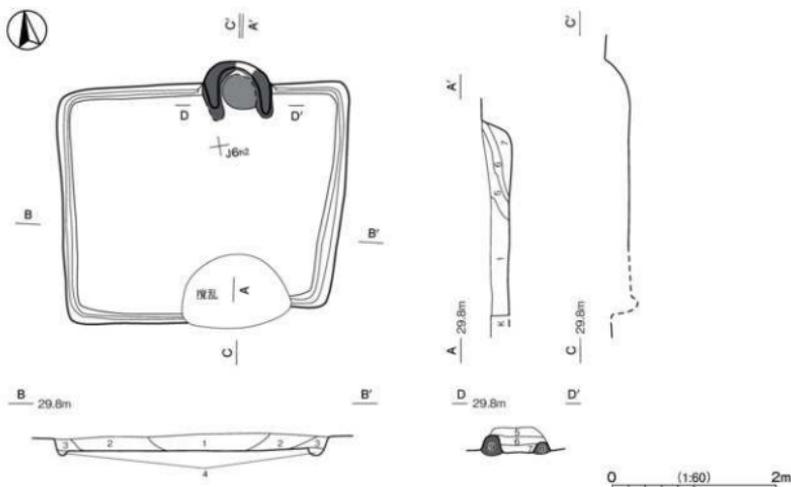
床 平坦で、硬化面は確認できなかった。確認できた範囲で、壁溝が全周している。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで 72 cm で、燃焼部幅は 40 cm である。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第 8・9 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に 30 cm ほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第 5~7 層は竈に関連する堆積土である。

覆土 4 層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 78 点 (坏 63、高坏 3、甕 12)、石器 1 点 (編物石) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀代に比定できる。

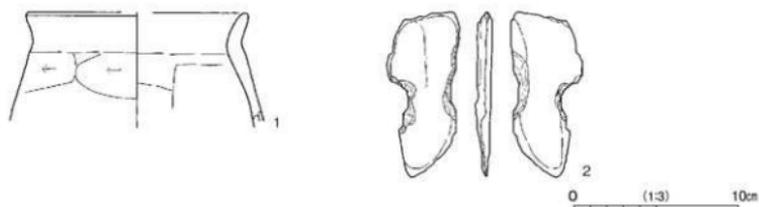


土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小D'・粒C、焼土粒D' / 粘B、雜B
 2 10YR3/3 暗褐色 ローム粒D / 粘B、雜B
 3 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒B / 粘B、雜B
 4 10YR4/3 紅褐色 ローム小C・粒C、粘B、雜B
 5 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粒D、炭化粒D' / 粘B、雜B
 6 10YR2/2 黒褐色 ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D / 粘B、雜B

- 7 10YR2/2 黒褐色 ローム小C・粒C、焼土小D・粒C、炭化粒D / 粘B、雜B
 8 10YR4/4 褐色 ローム小B・粒B、焼土小C・粒C、炭化粒D'、砂質粘土粒A / 粘B、雜A
 9 10YR4/3 紅褐色 ローム小D'・粒C、焼土粒D'、炭化粒D、砂質粘土粒A / 粘B、雜B

第 125 図 第 62 号竪穴建物跡平面図



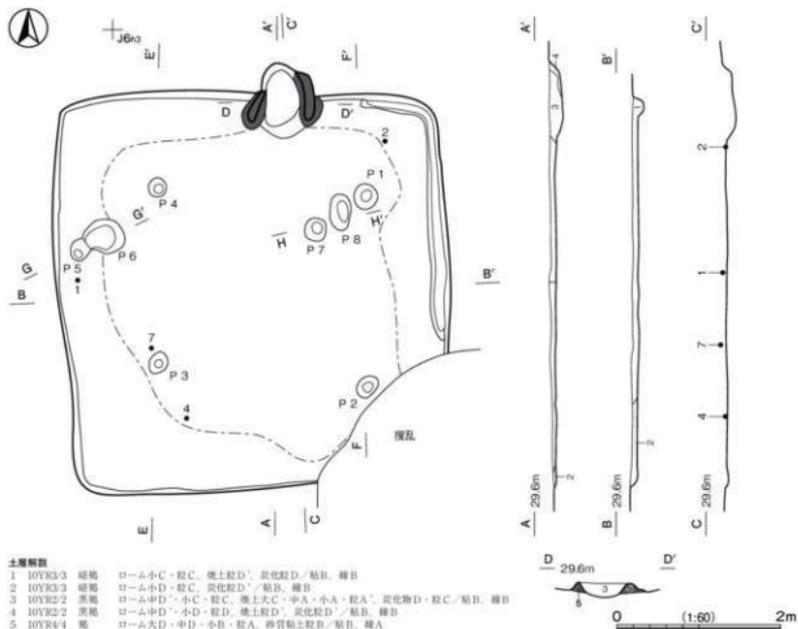
第126図 第62号竪穴建物跡出土実測図

第63表 第62号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第126図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[133]	(7.0)	—	長石・石英・繊維	1:赤い・黒	普通	口縁部ナデ	覆土中	5%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	編物石	10.1	4.4	1.0	42.87	千枚岩	2か所打ち欠き			覆土中	

第63号竪穴建物跡 (第127・128図 PL18)

位置 調査区南東部のJ6h3区、標高30mほどの微高地上に位置している。



土層解説

- 1 10YR3/3 埴輪 ローム小C・粒C、焼土粒D'、炭化粒D' / 粘B、雜B
- 2 10YR3/3 埴輪 ローム小D・粒C、炭化粒D' / 粘B、雜B
- 3 10YR2/2 赤黒ローム中D'・小C・粒C、焼土粒C'・中A・小A・粒A'、炭化物D'・粒C' / 粘B、雜B
- 4 10YR2/2 赤黒ローム中D'・小D・粒D、焼土粒D'、炭化粒D' / 粘B、雜B
- 5 10YR4/4 黒ローム大D・中D・小B・粒A、砂質粘土粒B' / 粘B、雜A

第127図 第63号竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸 4.94 m, 短軸 4.83 m の方形で, 主軸方向は N-0° である。壁高は 6 ~ 10 cm で, 外傾している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が北東コーナー部から東部の一部に巡っている。

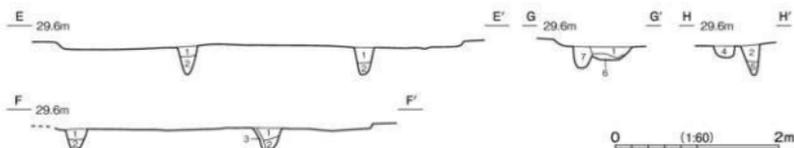
竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで 93 cm で, 燃焼部幅は 40 cm である。袖部は地山の上に, 砂質粘土を含む第 5 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 11 cm ほどくぼんでおり, 火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に 40 cm ほど掘り込まれ, 火床部から緩斜して立ち上がっている。第 3・4 層は竈に関連する堆積土である。

ピット 8 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 26 ~ 36 cm で, 配置から主柱穴である。P 5 ~ P 8 は深さ 15 ~ 38 cm で, 性格不明である。

覆土 2 層に分層できる。層厚が薄いので, 堆積状況は不明である。

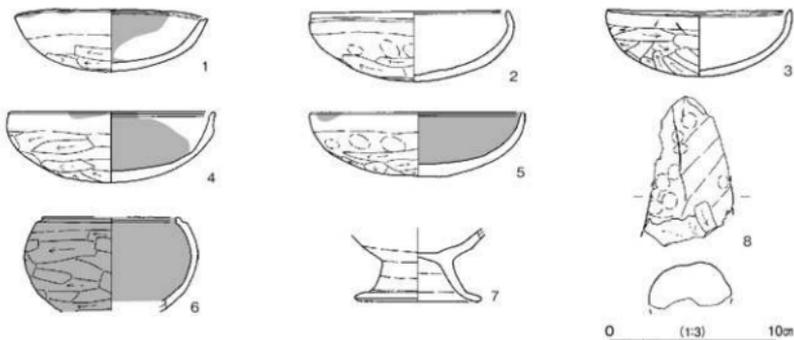
遺物出土状況 土師器片 144 点 (坏 129, 高坏 1, 鉢 1, 甕 11, 瓶 2), 土製品 1 点 (支脚) が出土している。4 は西部の床面から逆位で, 1 は覆土下層から正位で, 7 は逆位でそれぞれ出土している。2 は北東コーナー部の床面から正位で出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀第 2 四半期に比定できる。



ピット土層断面 (赤ピット共通)

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 10YK3-3 粘層 ローム殻D' / 粘土, 礫B | 5 10YK3-2 黒層 ローム殻B, 炭化殻D' / 粘土, 礫B |
| 2 10YK3-3 粘層 ローム殻C, 炭土殻D' / 粘土, 礫B | 6 10YK3-2 粘層 ローム殻B, 炭化殻D' / 粘土, 礫B |
| 3 10YK4-4 粘 土層 ローム殻B / 粘土, 礫B | 7 10YK3-2 黒層 ローム殻D' / 炭化殻D' / 粘土, 礫B |
| 4 10YK3-2 黒層 ローム殻D' / 粘土, 礫B | |



第 128 図 第 63 号竈穴建物跡・出土遺物実測図

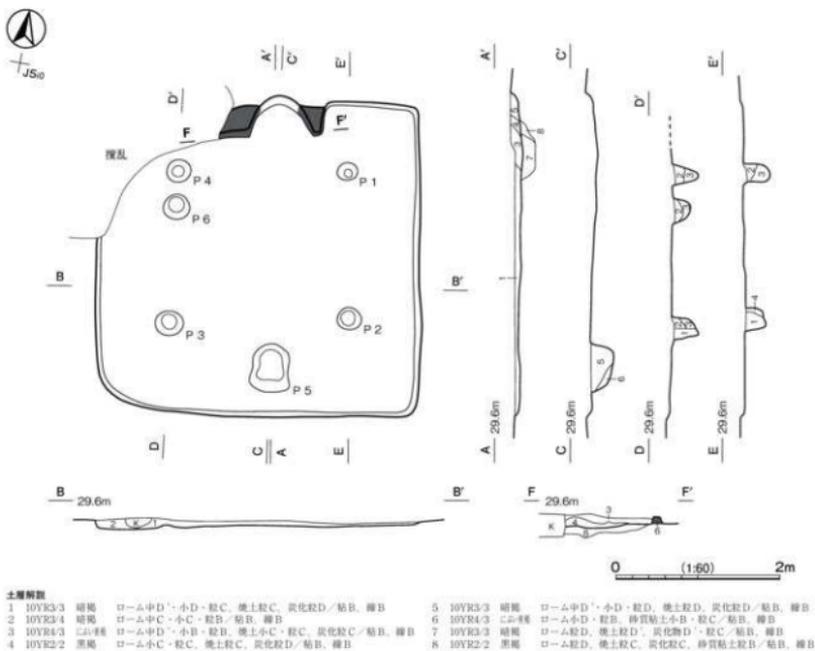
第64表 第63号竖穴建物跡出土遺物一覧(第128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	発成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.6	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい根	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	100% PL72
2	土師器	坏	12.0	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	90% PL72
3	土師器	坏	11.1	4.0	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい根	普通	口唇部内面沈線 外・内面痕痕状に剥落	覆土中	90% PL72
4	土師器	坏	12.4	4.3	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	100% PL72
5	土師器	坏	13.0	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい根	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	60% PL72
6	土師器	輪	Ø8.1	Ø5.8	-	長石・石英	にぶい根	良好	口唇部内面沈線 外・内面黒色処理	覆土中	20%
7	土師器	高坏	-	(4.5)	7.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	全面ナデ	覆土下層	50%

番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
8	支脚	-	-	(9.2)	(109)	長石・石英・赤色粒子	指摺痕残る	覆土中	

第64号竖穴建物跡(第129図 PL18)

位置 調査区南部のJ5i0区。標高30mほどの微高地上に位置している。



土層解説

- | | | | |
|---------------|----------------------------------|---------------|--------------------------------|
| 1 10YK3-3 暗褐色 | ローム中D'・小D'・粒C・焼土粒C・炭化粒D'・粘B・雜B | 5 10YK3-3 暗褐色 | ローム中D'・小D'・粒D・焼土粒D・炭化粒D'・粘B・雜B |
| 2 10YK3-4 暗褐色 | ローム中C・小C・粒B・粘B・雜B | 6 10YK4-3 黄褐色 | ローム小D・粘B・砂質粘土小B・粒C・粘B・雜B |
| 3 10YK3-3 黄褐色 | ローム中D'・小B・粒B・焼土小C・粒C・炭化粒C'・粘B・雜B | 7 10YK3-3 暗褐色 | ローム粒D・焼土粒D'・炭化物D'・粒C'・粘B・雜B |
| 4 10YK2-2 黄褐色 | ローム中C'・粒C・焼土粒C・炭化粒D'・粘B・雜B | 8 10YK2-2 暗褐色 | ローム粒D・焼土粒C・炭化物C'・砂質粘土粒D'・粘B・雜B |

ピット土層解説(各ピット共通)

- | | | | |
|---------------|-------------------|---------------|-----------------------------|
| 1 10YK3-3 暗褐色 | ローム粒D'・粘B・雜B | 4 10YK3-3 暗褐色 | ローム粒C・炭化粒D'・粘B・雜B |
| 2 10YK3-3 暗褐色 | ローム中C・炭化粒D'・粘B・雜B | 5 10YK3-3 暗褐色 | ローム大D'・中C・小B・粒B・炭化粒D'・粘B・雜B |
| 3 10YK4-4 黄褐色 | ローム中C'・粘B・雜B | 6 10YK4-4 暗褐色 | ローム中C'・焼土小C'・粒C・炭化粒D'・粘B・雜B |

第129図 第64号竖穴建物跡実測図

規模と形状 長軸 396 m, 短軸 385 m の方形で, 主軸方向は $N - 10^{\circ} - W$ である。壁高は 4 ~ 13 cm で, 外傾している。

床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 108 cm で, 燃焼部幅は 48 cm である。竈は, 地山を 17 cm ほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第 7・8 層を埋土して整地されている。袖部は, 地山の上に砂質粘土を含む第 6 層を積み上げて構築されており, 前面が整理されている。火床部は床面と同じ高さで, 火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に 5 cm ほど掘り込まれ, 火床部から外斜して立ち上がっている。

ピット 6 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 24 ~ 32 cm で, 配置から支柱穴である。P 5 は深さ 29 cm で, 位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 22 cm で, 性格不明である。

覆土 5 層に分層できる。層厚が薄いため, 堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片 29 点 (坏 14, 甕 15) が出土している。遺物は細片で図示できなかったが, 口唇部内面に沈線を有する小形の坏が出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀代に比定できる。

第 65 号竪穴建物跡 (第 130 図)

位置 調査区南部の J 58 区, 標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

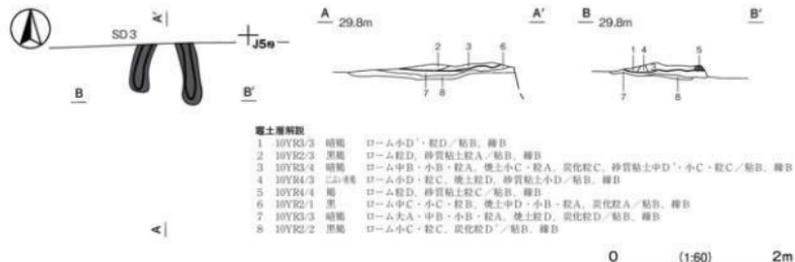
重複関係 第 3 号堀に掘り込まれている。

規模と形状 床面が削平されているため, 竈しか確認できなかった。規模と形状は不明である。

竈 北壁に付設されている。規模は北部が第 3 号堀に掘り込まれているため, 焚口から煙道部まで 82 cm しか確認できなかった。竈は, 地山を 18 cm ほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第 6 ~ 8 層を埋土して整地されている。燃焼部幅は 43 cm である。袖部は整地面の上に, 砂質粘土を含む第 5 層を積み上げて構築されている。火床面の赤変硬化は確認できなかった。第 1 ~ 4 層は竈に関連する堆積土である。第 4 層は砂質粘土が含まれていることから左袖から流出した堆積土である。

遺物出土状況 土師器片 7 点 (坏 6, 甕 1) が出土している。遺物は細片で図示できなかったが, 口唇部内面に沈線を有する小形の坏が出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀代に比定できる。



第 130 図 第 65 号竪穴建物跡実測図

第66号竪穴建物跡 (第131・132図 PL18・19)

位置 調査区南部のJ50区、標高30mほどの微高地上に位置している。

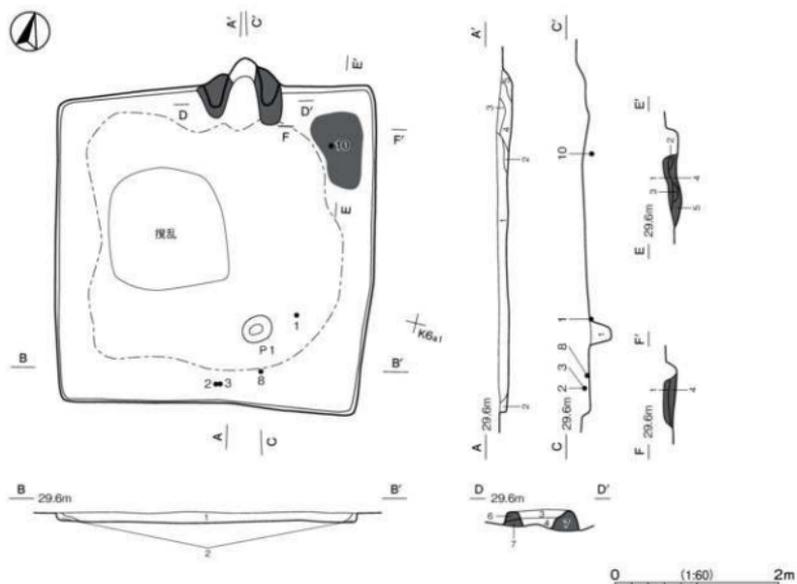
規模と形状 長軸3.97m、短軸3.88mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は9-12cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北東コーナー部はややくぼんでおり、床面に粘土塊を確認した。

竈 北壁中央部やや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第6・7層を積み上げて構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に34cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第3～5層は竈に関連する堆積土である。

ピット P1は深さ28cmで、性格不明である。

覆土 2層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。



土層解説

- | | | | |
|---------------|------------------------------|---------------|---------------------------------|
| 1 10YR2/2 黒褐色 | ローム小D・粒D、炭化粒D'、粘B、礫B | 5 10YR4/3 赤褐色 | ローム中C・小B・粒B、焼土小C・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C |
| 2 10YR2/2 黒褐色 | ローム中D・小C・粒C、焼土粒D'、粘B、礫B | 6 10YR2/2 黒褐色 | ローム粒D、焼土粒D'、砂質粘土粒B、粘B、礫A |
| 3 10YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粒C、焼土小D・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C | 7 10YR4/3 赤褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒D'、砂質粘土粒B、粘B、礫A |
| 4 10YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粒C、焼土小D・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒D | | |

ピット土層解説

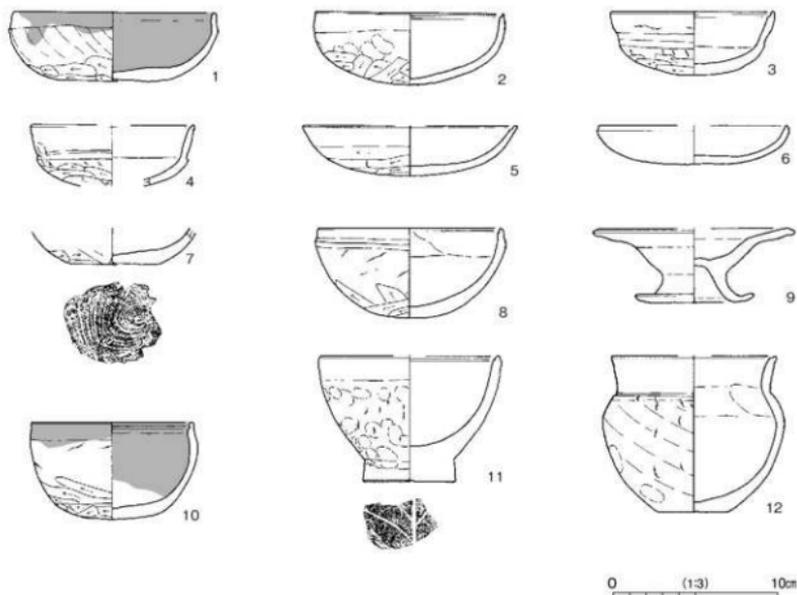
- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒D/粘B、礫B

粘土塊土層解説

- 1 10YR4/1 黄褐色 ローム大D・中B・小B・粒A、白色粘土中C・小A・粒A/粘B、礫B
 2 10YR4/4 黄褐色 ローム大D・中B・小B・粒B、白色粘土中D・小B・粒A/粘B、礫B
 3 10YR7/1 灰白色 ローム小C・粒C、白色粘土大A'・粘A、礫B
 4 10YR4/4 黄褐色 ローム大C・中B・小A・粒A、白色粘土小C・粒B/粘B、礫B
 5 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・小C・粒C、白色粘土小C・粒D/粘B、礫B

第131図 第66号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 177 点 (坏 154, 碗 3, 高坏 1, 鉢 6, 甕 13) が出土している。1・8 は南部の床面から逆位で、2・3 は覆土下層から出土している。10 は北東コーナー部粘土塊中層から正位で出土している。所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 4 半期に比定できる。



第 132 図 第 66 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 65 表 第 66 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 132 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	121	42	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	90% PL72
2	土師器	坏	114	44	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の粗線	覆土下層	70% PL72
3	土師器	坏	99	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口唇部内面沈線	覆土下層	50%
4	土師器	坏	[98]	(3.7)	-	赤色粒子	灰褐	普通	口唇部内面弱い沈線	覆土中	20%
5	土師器	坏	[130]	3.0	-	長石・石英	黒褐	普通	口唇部内面沈線	覆土中	40%
6	土師器	坏	[114]	2.3	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外・内面摩滅により調整不明瞭	覆土中	20%
7	土師器	坏	-	(2.2)	5.2	長石・石英	にぶい橙	良好	底部糸切り痕	覆土中	10%
8	土師器	坏	11.2	5.5	-	長石・石英	明褐	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の粗線	床面	100% PL72
9	土師器	鉢	[116]	4.5	[7.2]	長石・石英	橙	良好	口唇部内面沈線	覆土中	30%
10	土師器	高坏	9.8	5.9	-	長石・石英	にぶい橙	良好	口唇部内面弱い沈線 口縁部外面・内面黒色処理	粘土塊中層	100% PL72
11	土師器	鉢	[108]	7.7	[5.6]	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線 底部外面本葉痕	覆土中	40%
12	土師器	甕	[100]	9.5	4.4	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 底部へう張り	覆土中	40%

第 67 号竪穴建物跡 (第 133・134 図 PL19)

位置 調査区南部の K 4 a9 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

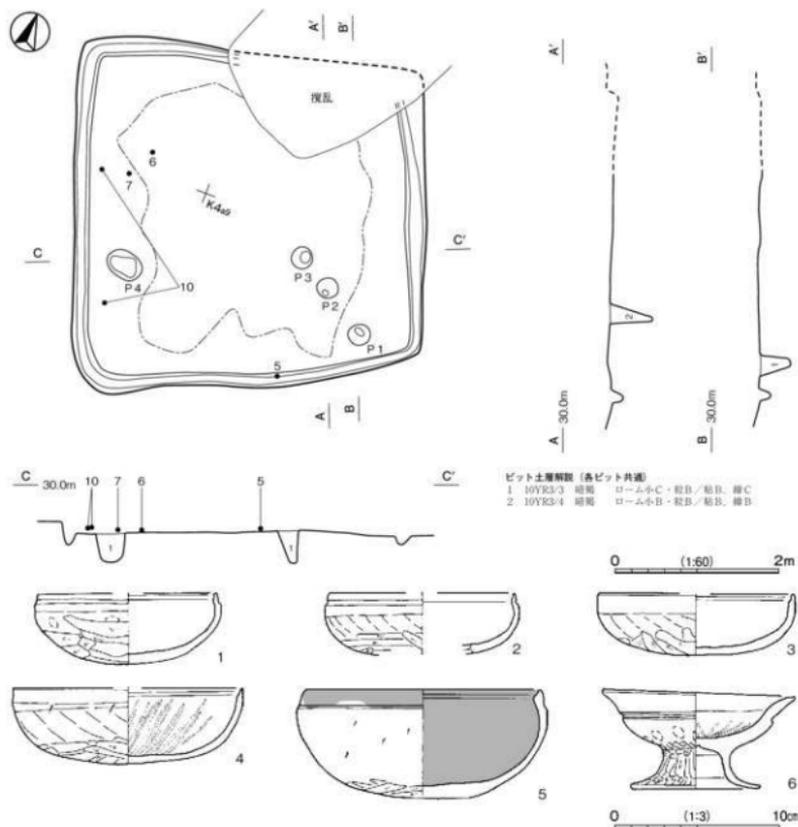
規模と形状 長軸 4.29 m、短軸 4.26 m の方形で、長軸方向は N-73°-E である。壁高は 15 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた範囲では壁溝が巡っている。

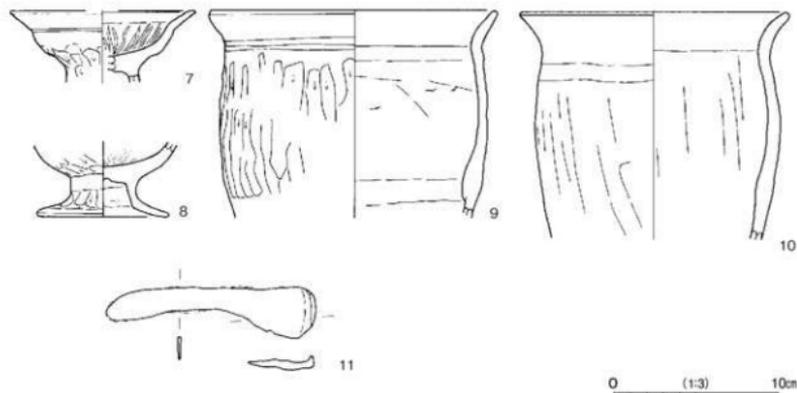
ピット 4 か所。P 1～P 4 は深さ 37～53 cm で、性格不明である。

遺物出土状況 土師器片 536 点 (坏 479、碗 6、高坏 5、甕 33、瓶 13)、金属製品 1 点 (鎌)、焼成粘土塊 10 点 (96.61 g) が出土している。6・7・10 は西部の覆土下層から出土しており、6 は斜位で出土している。5 は南壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 4 四半期に比定できる。



第 133 図 第 67 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第134図 第67号竪穴建物跡出土遺物実測図

第66表 第67号竪穴建物跡出土遺物一覧(第133・134図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	杯	[108]	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	40%
2	土師器	杯	[112]	(3.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	内面磨痕状に剥落	覆土中	30%
3	土師器	杯	[118]	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面弱い沈線	覆土中	40%
4	土師器	杯	[140]	4.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 内面放射状へら磨き 内面砥	覆土中	50%
5	土師器	碗	14.3	6.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	80% PL72
6	土師器	高杯	11.6	6.1	7.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 杯部内面放射状へら磨き	覆土下層	70% PL23
7	土師器	高杯	[112]	(4.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 杯部内面放射状へら磨き	覆土下層	30%
8	土師器	高杯	-	(4.6)	7.9	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	杯部内面放射状へら磨き	覆土中	70%
9	土師器	甕	17.2	(12.6)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面一部腐付着	覆土中	30%
10	土師器	甕	16.4	(13.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・黒曜	橙	普通	縦熱により外・内面剥落 内面一部腐付着	覆土下層	40%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
11	鎌	122	31	0.5~0.9	22.49	鉄	刃部中央やや研ぎ減り			覆土中	PL105

第68号竪穴建物跡(第135図 PL19)

位置 調査区南部のJ4i5区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸4.84m、短軸4.80mの方形で、長軸方向はN-54°-Eである。壁高は9~28cmで、外傾している。

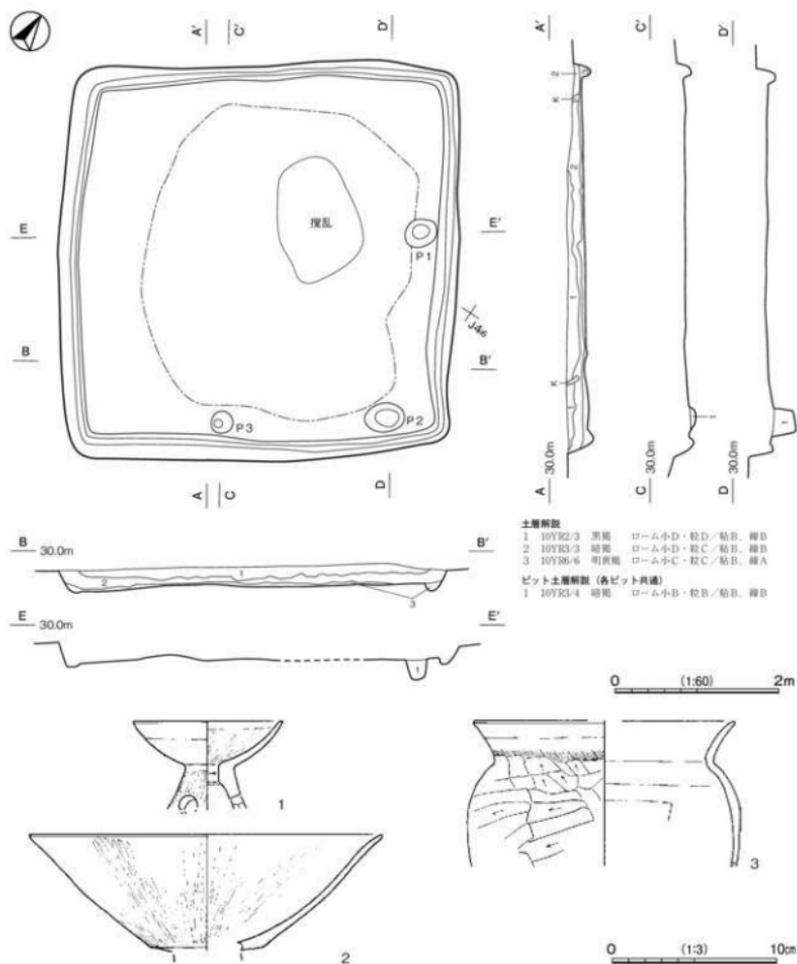
床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。

ピット 3か所。P1~P3は深さ9~27cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片100点(器台5、高杯9、壺6、甕80)、土製品1点(支脚)が出土している。また、混入した土師器片22点(杯)、土製品1点(支脚)も出土している。2は東海系の高杯である。

所見 時期は、出土土器から4世紀前葉に比定できる。



第135図 第68号堅穴建物跡・出土遺物実測図

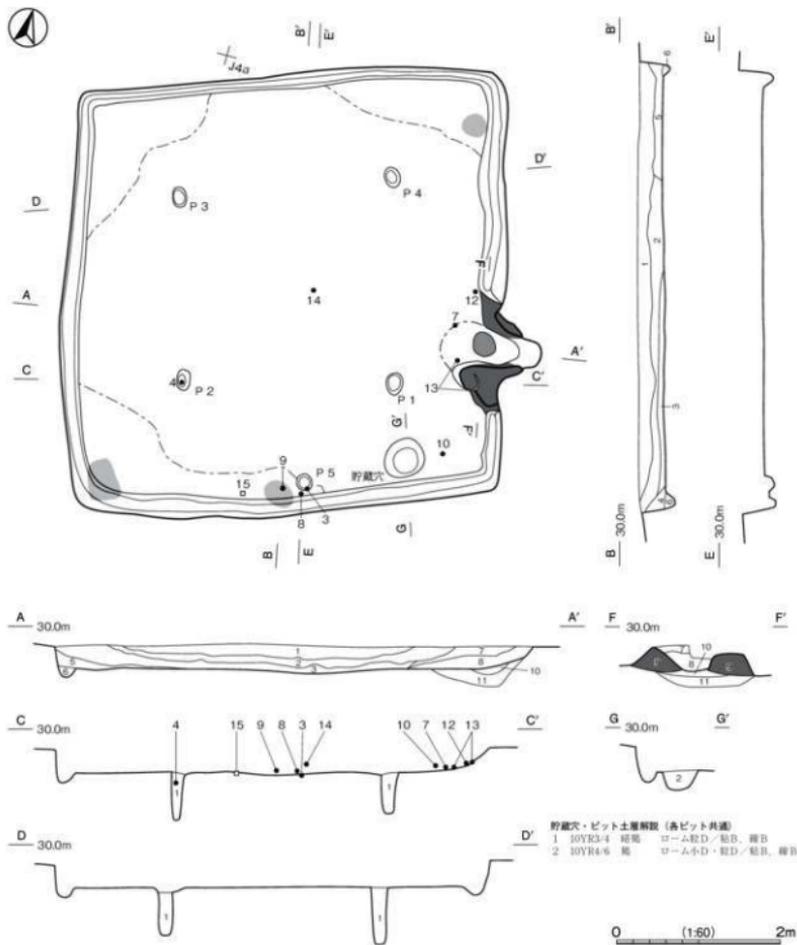
第67表 第68号堅穴建物跡出土遺物一覧(第135図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	器台	8.9	(5.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面放射状へラ磨き 脚部3方穿孔	覆土中	60%
2	土師器	高坏	21.5	(7.0)	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	外面縦位へラ磨き	覆土中	40%
3	土師器	壺	[160]	(8.9)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	外・内面一部麻付着	覆土中	10%

第 69 号竪穴建物跡 (第 136 ~ 138 図 PL19)

位置 調査区南部の J 4 区, 標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸 5.40 m, 短軸 5.38 m の方形で, 主軸方向は N - 75° - E である。壁高は 28 ~ 34 cm で, ほは直立している。



土層解説

1	7.5YR4-3	粘	ローム小B・粘B, 焼土小D・粒C, 炭化物D / 粘B, 粘A	7	10YR4-4	粘	ローム小C・粒C, 焼土粒C, 炭化粒D, 砂質粘土粒B / 粘B, 粘B
2	7.5YR4-3	粘	ローム小B・粘B, 焼土小C・粒C, 炭化粒D / 粘B, 粘A	8	7.5YR4-6	粘	ローム小C・粒B, 焼土小C・粒B, 炭化粒D, 砂質粘土粒C / 粘B, 粘B
3	7.5YR3-3	粘炭	ローム小C・粒B, 焼土粒C / 粘B, 粘A	9	10YR4-6	粘	ローム粒B, 砂質粘土粒A / 粘B, 粘A
4	7.5YR2-3	粘炭粘	ローム粒C, 焼土粒C, 炭化物D / 粘C, 粘B	10	10YR4-3	粘	ローム小B・粒B, 焼土小B・粒C, 粘B, 粘B
5	7.5YR3-3	粘炭	ローム粒C, 焼土粒D, 炭化物D / 粘B, 粘A	11	10YR4-4	粘	ローム小C・粒B, 砂質粘土粒B / 粘B, 粘B
6	7.5YR4-3	粘	ローム小C, 炭化粒D / 粘A, 粘A				

第 136 図 第 69 号竪穴建物跡実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。南壁の中央部と北東・南西コーナー部に焼土塊を確認した。

竈 東壁のやや南寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで122cmで、燃焼部幅は41cmである。竈は、地山を21cmほど掘りくほめ、ロームブロックなどを含む第10・11層を埋土して整地されている。袖部は地山と整地面の上に、砂質粘土を含む第9層を積み上げて構築されている。右袖部では芯材として土師器の甕が倒置して使用されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第7・8層は竈に関連する堆積土で、第7層は焼土粒子と砂質粘土粒子などを含む天井部の崩落土である。

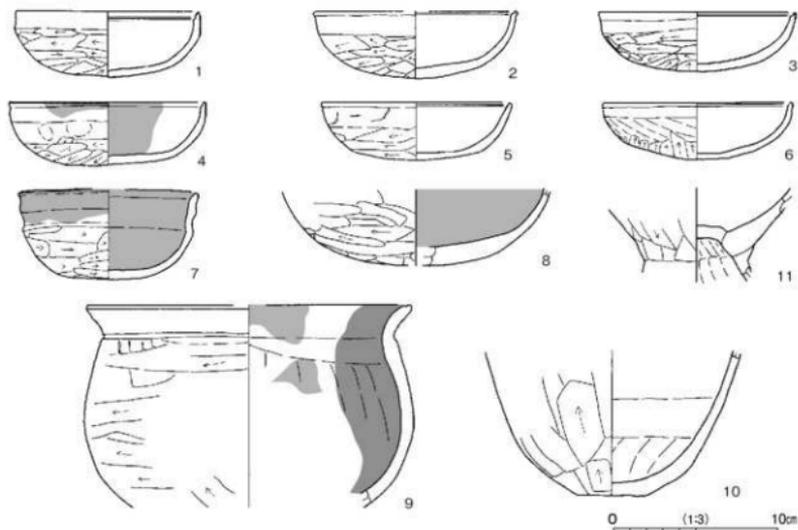
ピット 5か所。P1～P4は深さ50～72cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ12cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 長径50cm、短径48cmの円形である。深さは25cmほど、底面はU字状で、壁は外傾している。単一層で、堆積状況は不明である。

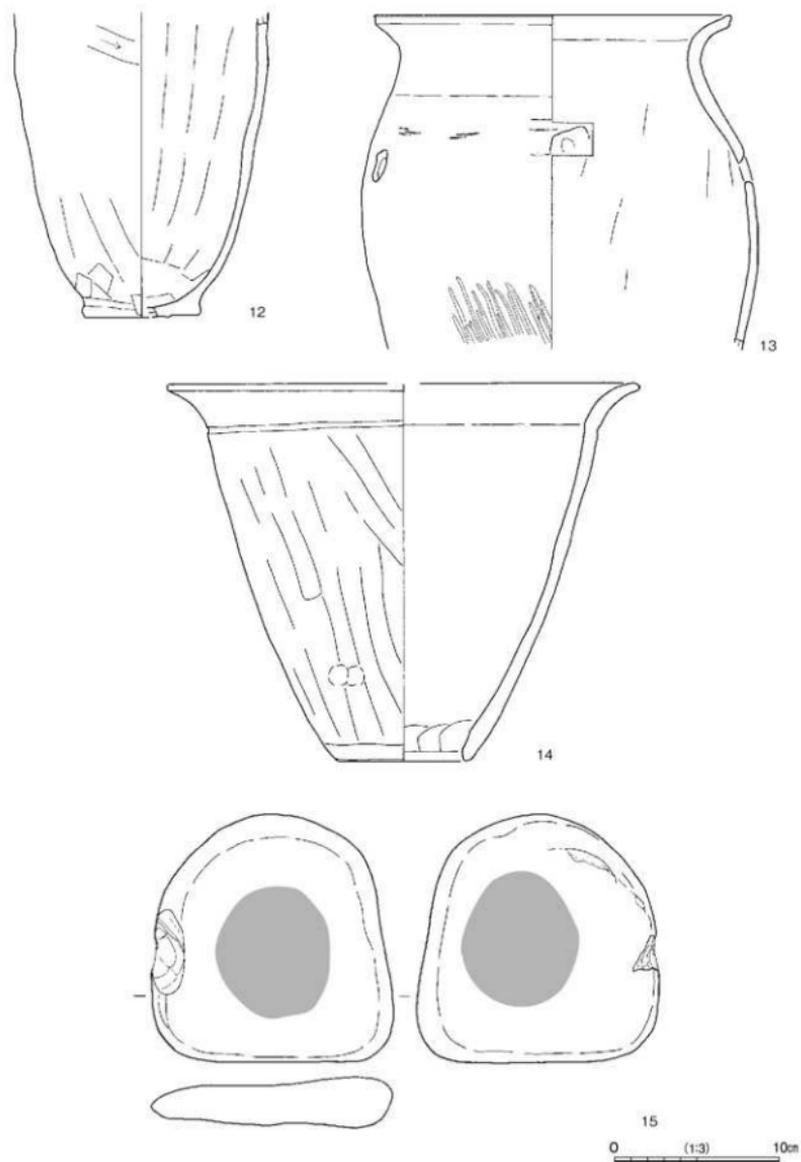
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれており、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片848点(坏680、椀1、高坏7、鉢3、甕156、瓶1)、須恵器片2点(坏、甕)、石器1点(磨石カ)、焼成粘土塊11点(49.36g)が出土している。13は竈右袖の芯材である。7は竈前の床面から逆位で出土している。12は竈左脇の覆土下層から出土している。15は南部の床面から、8・9は覆土下層から出土している。4はP2の覆土上層から出土している。3はP5の覆土上層から正位で出土している。14は中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第137図 第69号竈穴建物跡出土遺物実測図1)



第 138 图 第 69 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

第68表 第69号竪穴建物跡出土遺物一覧(第137・138図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	112	4.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面削い沈線	覆土中	50%
2	土師器	坏	[123]	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	50%
3	土師器	坏	119	3.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土上層 P.5	80%
4	土師器	坏	120	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土上層 P.2	80%
5	土師器	坏	114	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	50%
6	土師器	坏	116	3.4	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面削い沈線	覆土中	50%
7	土師器	坏	[107]	5.5	-	長石・赤色粒子	にぶい赤黒	普通	多段口縁 口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	50%
8	土師器	碗	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面黒色処理	覆土下層	30%
9	土師器	甕	[196]	(12.4)	-	長石・赤色粒子	明赤黒	普通	口唇部内面削い沈線 内面被熱 内面黒色処理	覆土下層	10%
10	土師器	甕	-	(8.9)	4.2	長石・石英・細砂	橙	普通	外・内面被熱により調整不明瞭 底部外面へラ削り 内面直感状に剥落	覆土下層	10%
11	土師器	台付甕	-	(3.7)	-	長石・石英・細砂	明赤黒	普通	外・内面被熱	覆土中	5%
12	土師器	甕	-	(18.6)	[6.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	外面被熱により厚減し調整不明瞭 内面直感状に剥落	覆土下層	20%
13	土師器	甕	21.7	[20.4]	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	内側から2ヶ所打ち欠き	甕右蓋	40% PL73
14	土師器	瓶	[280]	23.3	[8.0]	長石・石英	褐灰	普通	体部外・内面一部煤付着 無底式	覆土中層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
15	磨石*	15.1	14.8	3.2	1.041	砂岩	光沢面2面	床面	PL101

第70号竪穴建物跡(第139・140図 PL19)

位置 調査区南部のJ4gI区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第149号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 一边が4.24mの方形で、主軸方向はN-7°-Wである。壁高は10~18cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が北部を除いて巡っている。また、中央部が被熱している。

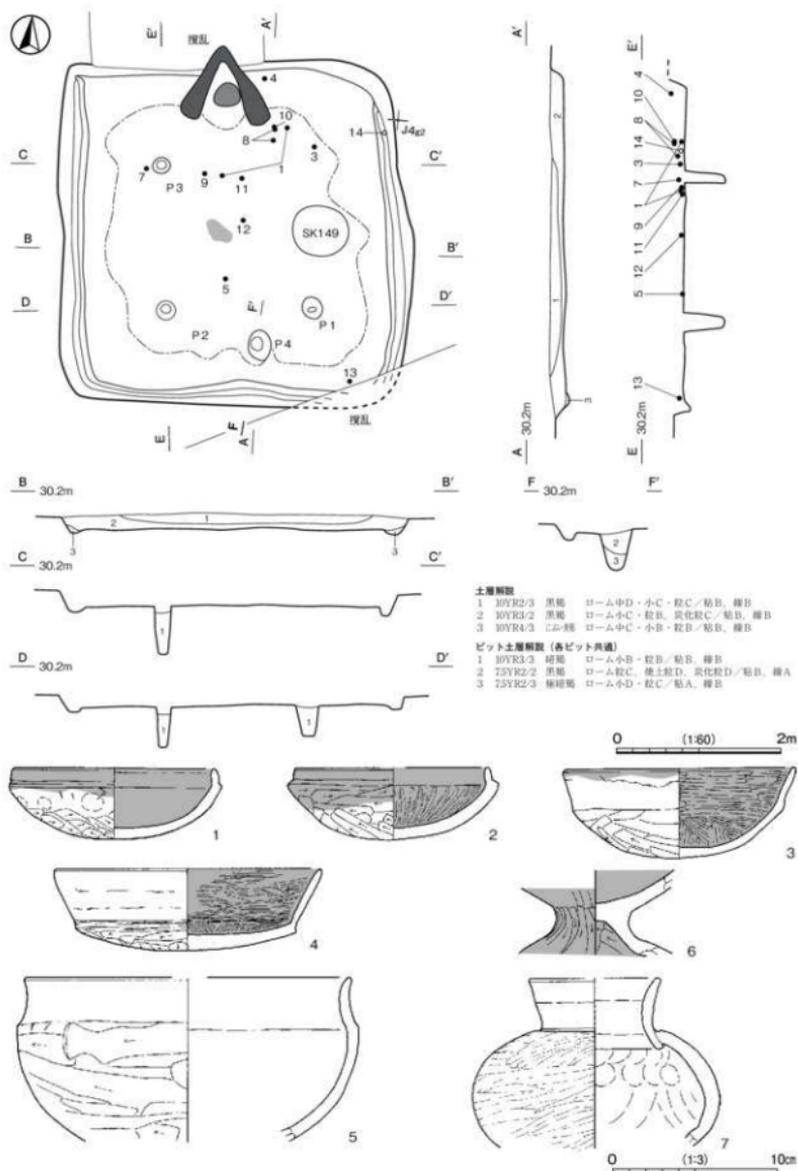
竈 北壁中央部に付設されていた痕跡を確認した。部材は消失しており、粘土範囲と焼土痕から規模は焚口から煙道部まで80cmで、燃焼部幅は50cmと推測される。火床面は赤変硬化している。

ピット 4か所。P1~P3は深さ38~60cmで、配置から主柱穴の可能性が高い。北東側の柱穴は、精査したが確認できなかった。P4は深さ50cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

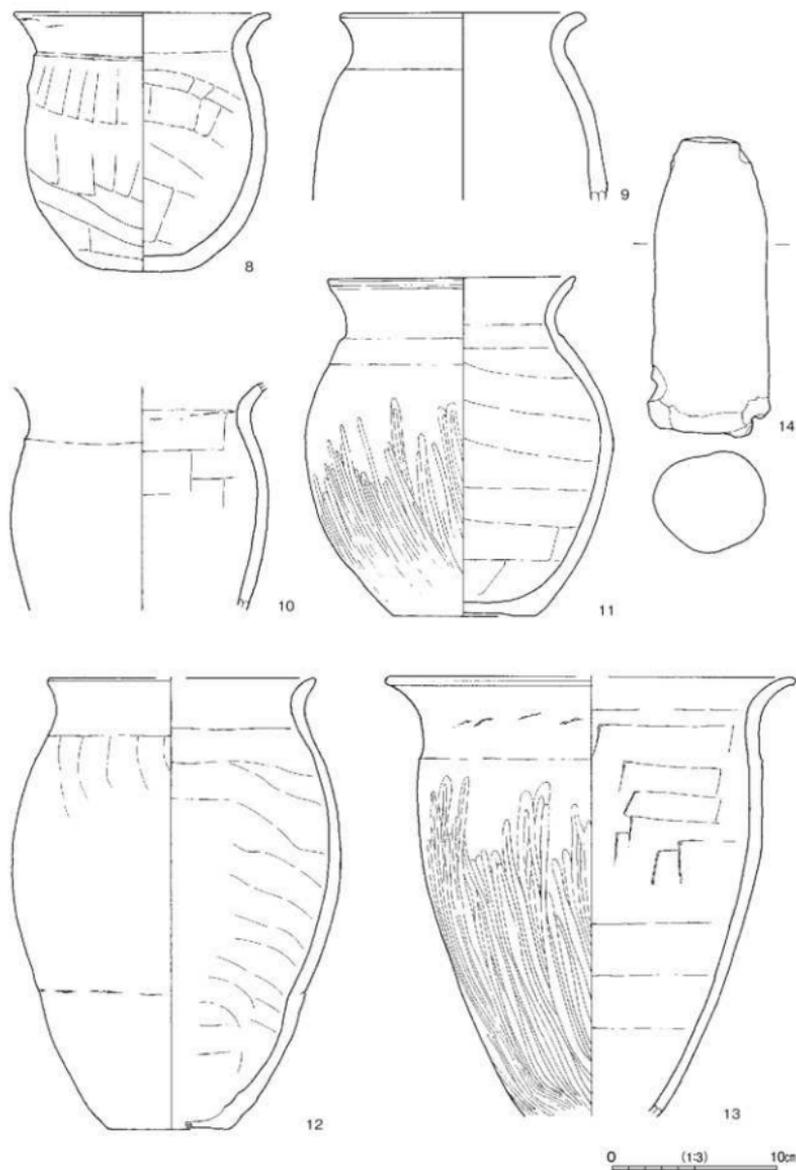
覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片238点(坏120、碗2、高坏1、鉢3、壺1、甕111)、土製品1点(支脚)が出土している。5・12は中央部の床面、9・11は覆土下層からそれぞれ出土している。1は中央部と北部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。8は北部の覆土下層から中層にかけて、10は覆土中層から逆位で、4は覆土上層からそれぞれ出土している。3は東部の覆土下層から逆位で、14は壁溝覆土上層からそれぞれ出土している。13は南東コーナー部の覆土下層から出土している。7は西部の覆土下層から横位で出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀第3四半期に比定できる。中央部床面の被熱から工房跡の可能性が高い。



第139図 第70号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第140图 第70号竖穴建物跡出土遺物実測図

第69表 第70号竪穴建物跡出土遺物一覧(第139・140図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	122	4.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	90%
2	土師器	坏	[118]	4.4	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理 内面放射状へう磨き	覆土中	70%
3	土師器	坏	140	5.5	-	長石・石英	にぶい	普通	口縁部外面・内面黒色処理 内面へう磨き	覆土下層	80% PL73
4	土師器	坏	161	5.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい	普通	内面黒色処理 内面へう磨き	覆土上層	80%
5	土師器	椀	[198]	(100)	-	長石・石英	にぶい	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	30%
6	土師器	高坏	-	(53)	-	長石・石英	黒黒	普通	坏・脚部全面黒色処理	覆土中	30%
7	土師器	壺	[79]	(103)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	外部外面粗いへう磨き	覆土下層	60% PL73
8	土師器	甕	156	159	27	長石・石英・糊曜	にぶい	普通	体部外面粗熱により調整 体部下半～底部摩滅	覆土下層・中層	80%
9	土師器	甕	142	(11.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	外・内面摩滅により調整不明瞭	覆土下層	40%
10	土師器	甕	-	(138)	-	長石・石英	にぶい	普通	外面摩滅により調整不明瞭	覆土中層	30%
11	土師器	甕	150	208	85	長石・石英・雲母	にぶい	普通	底部外面へう磨き 体部内面粗熱に磨落 外面一部摩付着	覆土下層	80% PL73
12	土師器	甕	[161]	276	7.3	長石・石英・赤色粒子・糊曜	明赤黒	普通	外面粗熱 体部外面下半摩滅により調整不明瞭	床面	50%
13	土師器	甕	[246]	(26.9)	-	長石・石英・赤色粒子・糊曜	灰黄黒	普通	外・内面一部摩付着	覆土下層	30%
番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴		出土位置	備考	
14	支脚	3.4	7.4	18.4	748	長石・石英・赤色粒子	全面雑なナデ		中層 覆土上層		

第71号竪穴建物跡(第141・142図 PL19)

位置 調査区南西部のJ3h7区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第97号竪穴建物・第18号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.82m、短軸5.27mの長方形で、主軸方向はN-2'-Eである。壁高は5～14cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。煙道部を第97号竪穴建物に掘り込まれているため、確認できた規模は焚口から煙道部まで132cmで、燃焼部幅は28cmである。竈は、地山を10cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第11・12層を埋土して整地されている。袖部は整地面上に、砂質粘土を含む第10層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、火床部からほぼ直立して立ち上がっている。第3～9層は竈に関連する堆積土である。

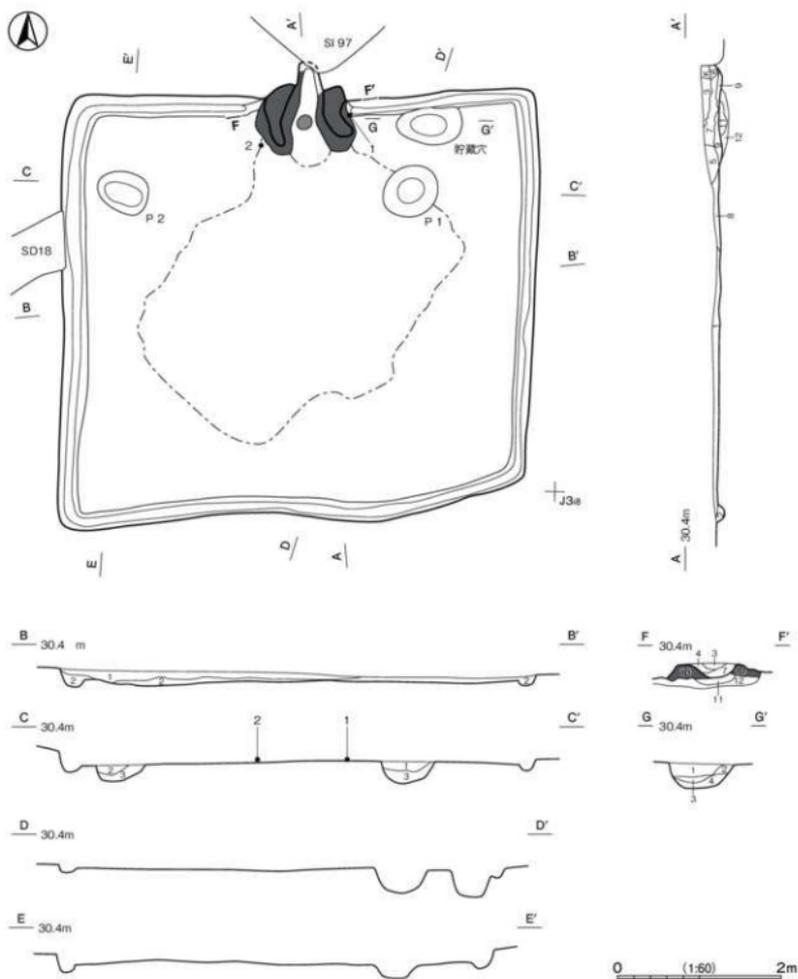
ピット 2か所。P1・P2は深さ30・22cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 長径82cm、短径47cmの楕円形である。深さは30cmほど、底面は皿状で、壁は外傾している。4層に分層でき、ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

覆土 2層に分層できる。第2層にロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片151点(坏35、甕115、瓶1)、焼成粘土塊2点(26.74g)が出土している。1は逆位の状況で竈右袖脇から、2が竈左袖脇の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第1四半期に比定できる。



土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|------------------------|
| 1 | 75YK2/2 | 黒層 | ローム小D・粒D/粘C、雜C |
| 2 | 75YK4/4 | 雑 | ローム中B/粘B、雜B |
| 3 | 75YK4/6 | 雑 | ローム小D・粒D、焼土小C・粒C/粘B、雜B |
| 4 | 75YK3/3 | 埴間 | ローム小D・粒D、焼土小C・粒C/粘B、雜B |
| 5 | 75YK2/2 | 黒層 | ローム小D・粒D、焼土粒D/粘C、雜A |
| 6 | 75YK4/2 | 灰層 | ローム小C・粒B、焼土小D・粒C/粘B、雜B |

ピット土層解説 (各ピット共通)

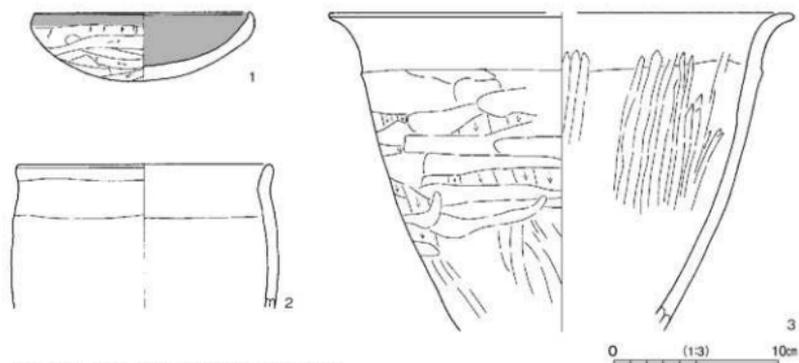
- | | | | |
|---|---------|-----|----------------|
| 1 | 75YK2/3 | 埴間層 | ローム小D・粒C/粘B、雜A |
| 2 | 75YK2/3 | 埴間 | ローム粒B/粘B、雜B |
| 3 | 75YK4/4 | 雑 | ローム中B/粘B、雜A |

- | | | | |
|----|---------|-----|---------------------------|
| 7 | 75YK3/2 | 黒層 | ローム小D・粒C、焼土中D・小C・粒C/粘B、雜A |
| 8 | 75YK4/3 | 雑 | ローム小B・粒B/粘C、雜B |
| 9 | 75YK4/3 | 雑 | ローム小C・粒C、焼土小C・粒B/粘B、雜B |
| 10 | 75YK7/4 | にみぎ | 焼土粒D、灰化粒D、砂質粘土小B・粒B/粘B、雜A |
| 11 | 75YK2/3 | 埴間層 | ローム小C・粒C/粘B、雜B |
| 12 | 75YK3/4 | 埴間 | ローム小C・粒B/粘B、雜B |

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|------------------|
| 1 | 75YK2/3 | 埴間層 | ローム粒B、焼土粒D/粘B、雜B |
| 2 | 75YK4/4 | 雑 | ローム中C・粘B、雜A |
| 3 | 75YK3/3 | 埴間 | ローム粒D/粘B、雜A |
| 4 | 75YK3/3 | 埴間 | ローム小B/粘B、雜A |

第141図 第71号堅穴建物跡実測図



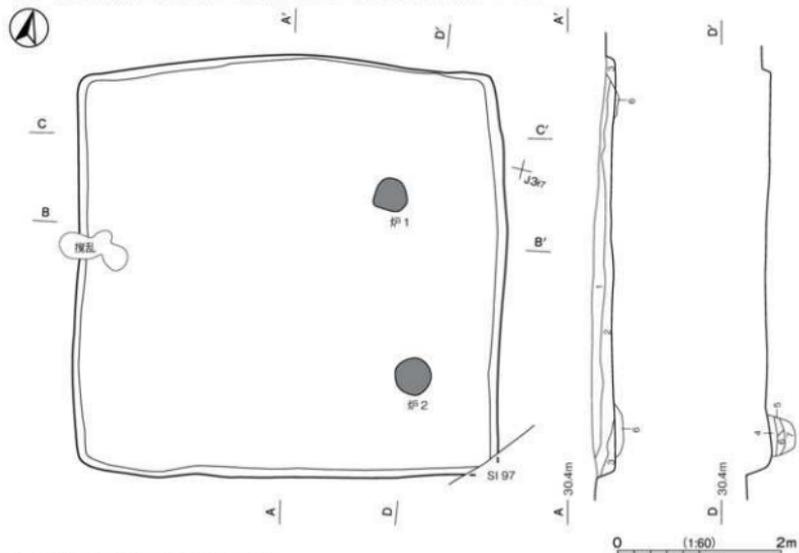
第142図 第71号竪穴建物跡出土遺物実測図

第70表 第71号竪穴建物跡出土遺物一覧(第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	杯	13.2	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部摩耗 口縁部外面・内面黒色処理	床面	90% PL73
2	土師器	甕	15.4	(8.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外・内面摩滅により調整不明瞭	床面	20%
3	土師器	瓶	[28.4]	(19.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面粗いヘラ磨き	覆土中	20%

第72号竪穴建物跡(第143・144図)

位置 調査区南部のJ36区、標高30mほどの微高地上に位置している。



第143図 第72号竪穴建物跡実測図

重複関係 第474号土坑を掘り込み、第97号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.20m、短軸5.17mの方形で、主軸方向はN-76°-Eである。壁高は8~26cmで、ほぼ直立または外傾している。

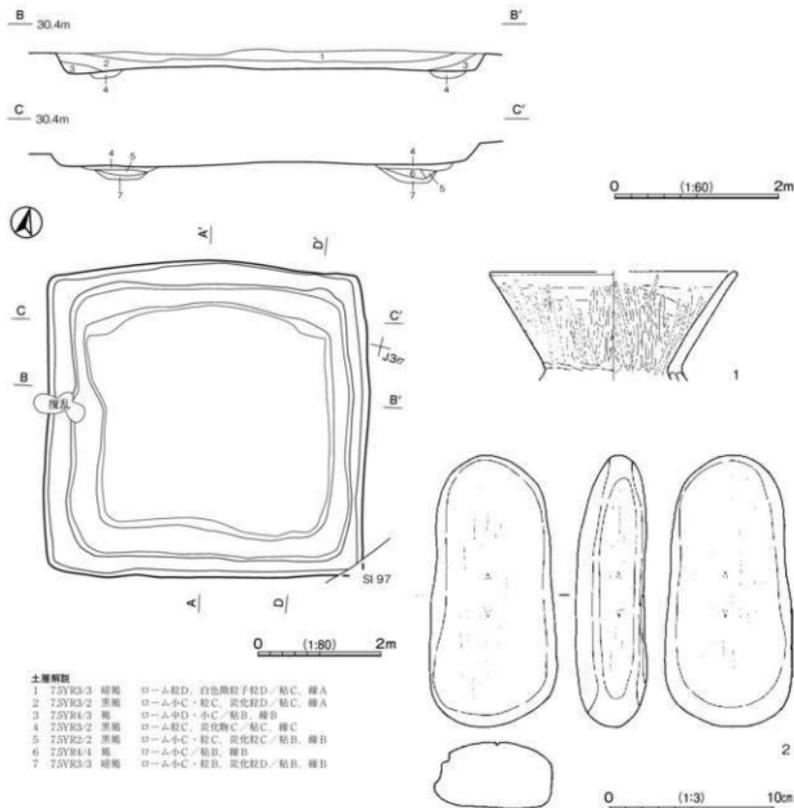
床 平坦で、硬化面は確認できなかった。第4~7層は掘方の埋土である。

炉 2か所。炉1は中央部の北東寄りに付設された地床炉で、直径44cmの円形である。炉2は南東コーナー部に付設された地床炉で、長径46cm、短径43cmの円形である。いずれも炉床部は床面と同じ高さを使用しており、炉床面は赤変している。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片10点(高坏2、壺2、甕6)、石器1点(磨石)が出土している。また、混入した土師器片11点(坏10、碗1)も出土している。

所見 時期は、遺構の形状や出土土器から、4世紀代に比定できる。



第144図 第72号竪穴建物跡掘方・出土遺物実測図

第71表 第72号竪穴建物跡出土遺物一覧(第144図)

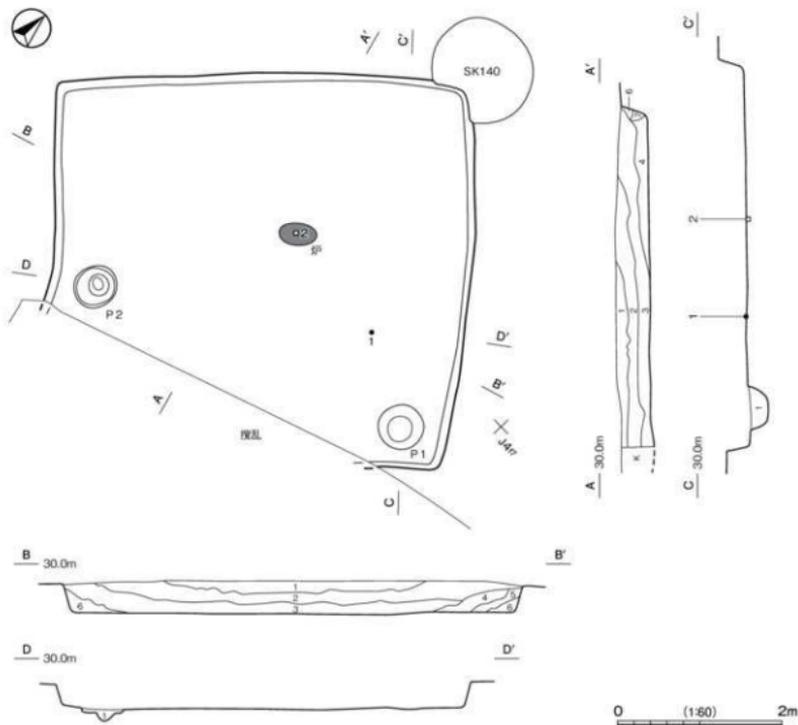
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土陶器	壺	[150]	(67)	-	長石・石英・雲母	にふい橙	普通	外・内面ヘラ磨き	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
2	磨石	165	7.2	4.3	797	頁岩	磨面3面	覆土中	PL101

第73号竪穴建物跡(第145・146図 PL20)

位置 調査区南部のJ46区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第140号土坑に掘り込まれている。



土層解説

- | | | | |
|----------------|----------------------------|---------------|------------------------|
| 1 10YR2-3 赤褐色 | ローム状C / 粘B、雜B | 5 10YR3-2 赤褐色 | ローム小B・粘B / 粘B、雜B |
| 2 10YR2-2 赤褐色 | ローム小D・粒C、炭化粒D / 粘B、雜B | 6 10YR3-3 暗褐色 | ローム小C・粘B / 粘B、雜B |
| 3 10YR4-2 灰青褐色 | ローム小C・粒C、炭土粒D、炭化粒D / 粘B、雜B | 7 10YR4-6 暗褐色 | ローム大C・中C・小B・粒B / 粘B、雜B |
| 4 10YR4-4 褐色 | ローム小C・粘B、炭土粒D / 粘B、雜B | | |

ピット土層解説(各ピット共通)

- 1 10YR3-4 暗褐色 ローム粒D / 粘B、雜B

第145図 第73号竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸 5.14 m、短軸 4.78 m の方形で、主軸方向は N-42°-E である。壁高は 28cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

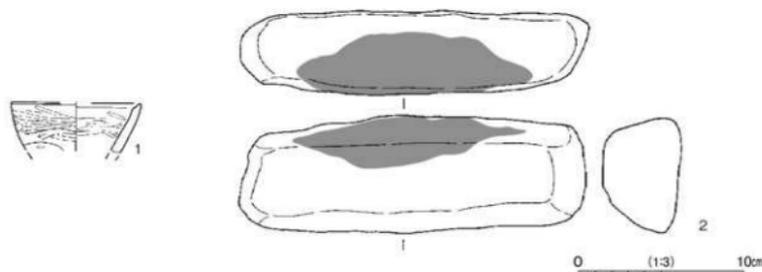
炉 中央部の北寄りに付設された地床炉で、長径 45cm、短径 27cm の楕円形である。炉床部は床面と同じ高さを使用しており、炉床面は赤変している。

ピット 2か所。P1・P2は深さ 22・14cm で、性格不明である。

覆土 7層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 51 点 (埴 1、壺 8、甕 42)、石器 1 点 (炉石) が出土している。また、混入した土師器片 57 点 (坏 52、高坏 5) も出土している。1 は東部の床面、2 は炉床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 4 世紀代に比定できる。



第 146 図 第 73 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 72 表 第 73 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 146 図)

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	埴	[7.8]	(3.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面へうろき	床面	30% PL73
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
2	炉石	21.0	7.2	5.0	1.265	流紋岩	保付着		炉床面		

第 74 号竪穴建物跡 (第 147 図 PL20)

位置 調査区南西部の J 3e8 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 135 号土坑を掘り込んでいる。第 135 号土坑の上面で、本跡の床面の踏み締まりを確認したことから本跡が新しい。

規模と形状 長軸 4.02 m、短軸 3.72 m の長方形で、長軸方向は N-29°-W である。壁高は 34cm で、ほぼ直立している。

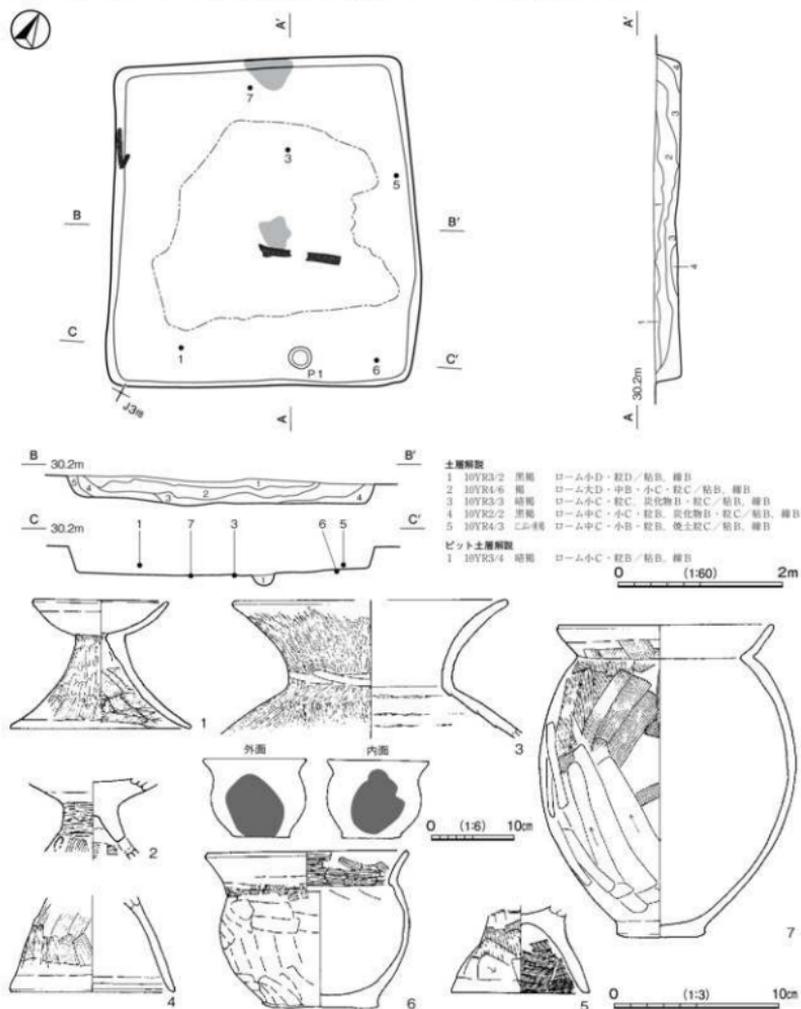
床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P1 は深さ 14cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層できる。中央部と隙際の床面から覆土下層にかけて炭化材と焼土痕を確認した。第 2 層は、ロームブロックが多く含まれていることから、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 土師器片 58 点（器台 7、高坏 5、壺 17、甕 29）が出土している。3 は中央床面から出土している。7 は北部の床面から横位で出土している。6 は南東コーナー部の床面から横位で出土している。5 は東部の、1 は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 4 世紀中葉に比定できる。焼土や炭化材、炭化物が北西部から中央部にかけての床面から出土していることや、床面出土遺物が被熱していることから焼失家屋とみられる。



第 147 図 第 74 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第73表 第74号竪穴建物跡出土遺物一覧（第147図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	器台	81	79	[110]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	台部底面に穿孔。脚部穿孔の有無不明	覆土下層	50%
2	土師器	高坏	-	(47)	-	長石・石英	橙	普通	脚部3方穿孔	覆土中	30%
3	土師器	甕	[164]	(85)	-	長石・石英	橙	普通	全面焼熟	床面	20%
4	土師器	台付罌	-	(59)	100	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい肌	普通	全面焼熟 外・内面一部僅行着	覆土中	10%
5	土師器	台付罌	-	(52)	84	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	全面やや焼熟 前面やや摩耗	覆土下層	10% 支脚粘用 [※]
6	土師器	罌	123	9.6	7.2	長石・石英	明赤褐	普通	底部外周へう割り 全面焼熟 外・内面表裏同位置に僅行着	床面	90% PL73
7	土師器	罌	129	19.2	5.4	長石・石英	明赤褐	普通	全面焼熟 底部外周へう割り 体部内面下手隅破状に剥落	床面	90% PL73

第75号竪穴建物跡（第148図 PL20）

位置 調査区南部のJ50区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 床面のほとんどが削平されているため、竈及び東壁の一部しか確認できなかった。規模は不明で、主軸方向はN-106°-Eである。

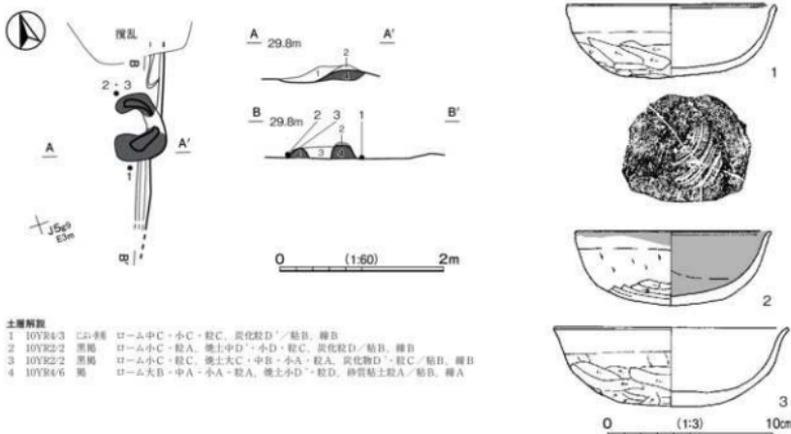
床 ほとんどが削平されている。壁溝は竈の南北に一部確認された。

竈 東壁に付設されている。規模は焚口から煙道部まで84cmで、燃焼部幅は24cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第4層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。第3層は竈に関連する堆積土である。

覆土 床面がほぼ削平されているため、竈付近に残存している2層しか確認できなかった。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片59点（坏43、罌16）が出土している。1は竈右袖脇から正位で出土している。また、竈左袖脇から3の上に2が重なって正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2-4半期に比定できる。



土器解説

- 1 10YR4/3 二小半 rome中C・小C・粒C、炭化粒D / 粘B、雜B
- 2 10YR2/2 黒黒 rome小C・粒A、焼土中D・小D・粒C、炭化粒D / 粘B、雜B
- 3 10YR2/2 黒黒 rome小C・粒C、焼土大C・中B・小A・粒A、炭化物D・粒C / 粘B、雜B
- 4 10YR4/6 黄 rome大B・中A・小A・粒A、焼土小D・粒D、砂質粘土粒A / 粘B、雜A

第148図 第75号竪穴建物跡・出土遺物実測図

竈 北壁に付設されている。規模は焚口から煙道部まで108cmで、燃焼部幅は62cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第5層を積み上げて構築されている。火床部は床面から15cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に74cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第3層は焼土ブロックと砂質粘土粒子などを含む天井部の崩落土である。

ピット P1は深さ22cmで、配置から支柱穴の可能性がある。

覆土 4層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片1点(甕)が出土している。1は竈覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀代に比定できる。



第150図 第77号竈穴建物跡出土遺物実測図

第75表 第77号竈穴建物跡出土遺物一覧(第150図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[138]	(4.4)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈澱 口唇部外・内面黒色処理の痕跡	竈覆土中	5%

第78号竈穴建物跡(第151・152図 PL20)

位置 調査区南東部のJ68区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第77号竈穴建物、第146号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.56m、短軸4.51mの方形で、主軸方向はN-13°-Eである。壁高は4~7cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。竈周辺から西部・中央部にかけて焼土や炭化物の広がりを確認した。

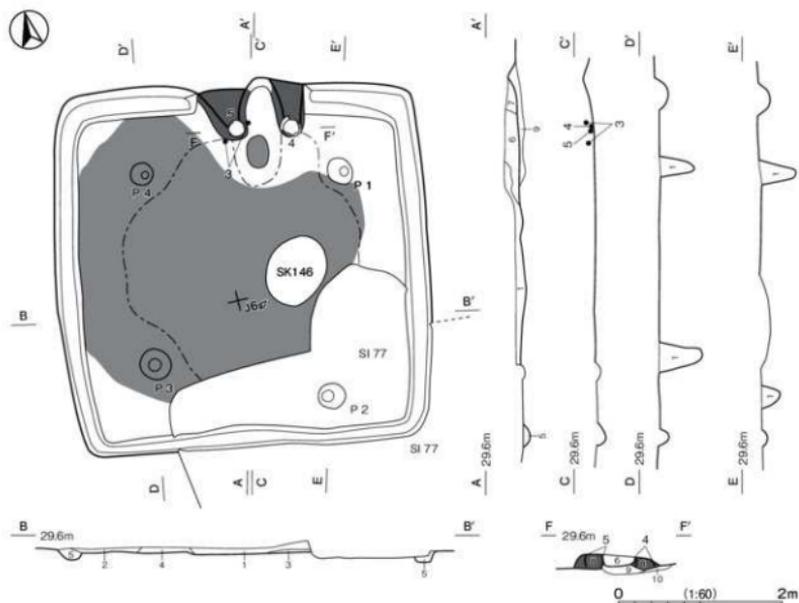
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで134cmで、燃焼部幅は38cmである。竈は、地山を10cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第9・10層を埋土して整地されている。袖部は地山と整地面の上に、砂質粘土を含む第8層を積み上げて構築されている。両袖部では、芯材として土師器の甕が使用されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部はわずかに壁外に掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第6・7層は竈に関連する堆積土である。

ピット 4か所。P1~P4は深さ24~54cmで、配置から支柱穴である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片274点(坏190、椀1、甕82、瓶1)、土製品2点(支脚)が出土している。4は右袖部の芯材で、正位で出土している。5は左袖部の芯材で、逆位で出土している。3は竈内と左袖部前面の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。焼土や炭化物が西部から東部にかけての床面から確認されており、焼失家屋とみられる。

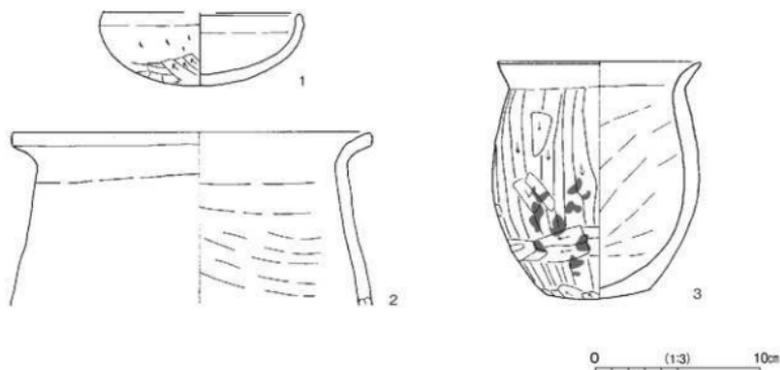


土層解説

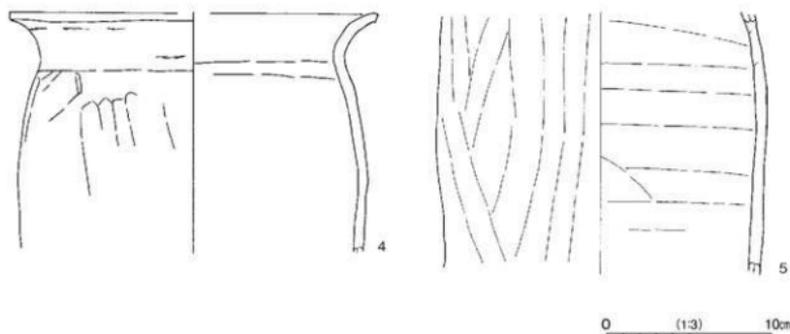
- | | | | |
|----------------|-----------------------------------|------------------|---|
| 1 10YR2/2 黒褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒D、炭化物C・粒D/粘B、雜B | 7 10YR2/2 黒褐色 | ローム中D・小D・粒C、焼土大D・中C・小C・粒B、炭化物D'・粒D/粘B、雜B |
| 2 10YR4/4 黄 | ローム大C・中B・小B・粒B、焼土粒D'/粘B、雜A | 8 10YR2/2 黒褐色 | ローム小C・粒C、焼土中D'・小C・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘B、雜B |
| 3 10YR4/4 黄 | ローム大D・中B・小B・粒B、焼土粒D'/粘B、雜A | 9 10YR3/2 黒褐色 | ローム中D'・小B'・粒C、焼土大D'・中D'・小C'・粒B、炭化粒D/粘B、雜B |
| 4 10YR2/2 黒褐色 | ローム小D・粒D、焼土粒D'、炭化粒C/粘B、雜B | 10 10YR4/3 C-B-精 | ローム中D'・小C'・粒B、焼土粒D、炭化粒D'/粘B、雜B |
| 5 10YR2/2 黒褐色 | ローム小D・粒D、焼土粒D'、炭化粒D/粘B、雜B | | |
| 6 10YR4/2 灰黄褐色 | ローム中D'・小B'・粒A、焼土小D'・粒C、炭化粒D/粘B、雜B | | |

ピット土層解説 (赤ピット共通)

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム大D'・中C'・小C'・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B



第151図 第78号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第152図 第78号竪穴建物跡出土遺物実測図

第76表 第78号竪穴建物跡出土遺物一覧(第151・152図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[120]	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	20%
2	土師器	甕	[220]	(10.4)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外・内面摩滅により調整不明瞭	覆土中	5%
3	土師器	甕	12.4	14.4	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面焼熱 外面・割れ面に煤付着	覆土下層・ 甕埋土下層	100%
4	土師器	甕	[223]	(14.7)	-	長石・石英・雲母	明赤相	普通	全面焼熱 外・内面摩滅により調整不明瞭	甕右袖	40%
5	土師器	甕	-	(16.1)	-	長石・石英	にぶい赤相	普通	外面焼熱によりやや潤滑	甕左袖	30%

第79号竪穴建物跡(第153図 PL21)

位置 調査区南部のJ 6b1区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第3号堀に掘り込まれている。

規模と形状 一辺が3.24mの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は10~18cmで、ほぼ直立または外傾している。

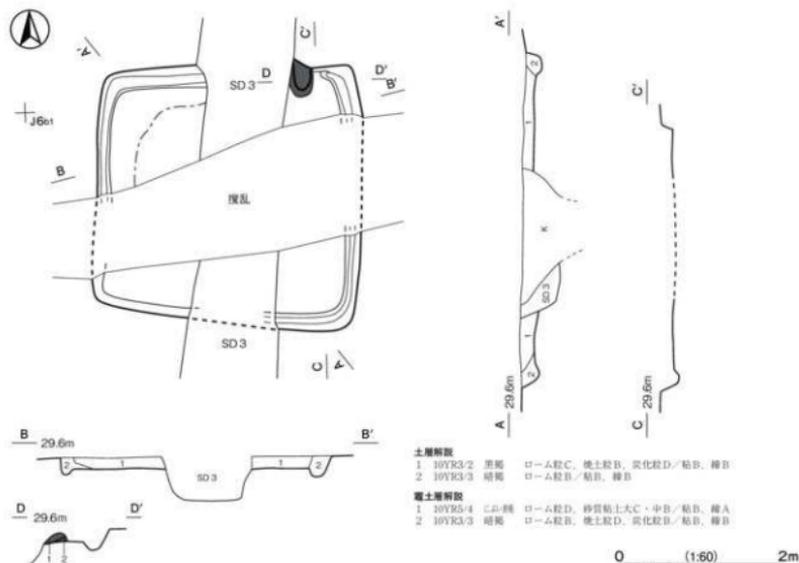
床 平坦で、第3号堀の掘り込みと攪乱を受けているため、確認できた硬化範囲は北西部の一部のみであり、南部の一部を除いて壁溝が巡っている。

竈 北壁やや東寄りに付設されている。第3号堀に掘り込まれており、右袖のみ確認できた。右袖部は地山の上に砂質粘土などを含む第1・2層を積み上げて構築されている。

覆土 2層に分層できる。含有物が少なく均質な堆積であることから自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片52点(坏40、甕12)が出土している。遺物は細片で図示できなかったが、橙色の胎土を用い、内面に磨きを施した口縁部が外反する坏が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀代に比定できる。



第153図 第79号竪穴建物跡実測図

第80号竪穴建物跡 (第154～156図 PL21・56)

位置 調査区南西部のJ3j8区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.42m、短軸5.40mの方形で、主軸方向はN-14°-Eである。壁高は30cmで、ほぼ直立または外傾している。

床 平坦で、四方のコーナー部を除いて全体が踏み固められている。間仕切り溝が2条確認でき、西壁がコの字状、南壁が弧状に配置されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで170cmで、燃焼幅は40cmである。竈は、地山を12cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第17層を埋土して整地されている。袖部は整地面のの上に、砂質粘土を含む第16層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に70cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第8～15層は竈に関連する堆積土である。第12層は天井部の崩落土である。

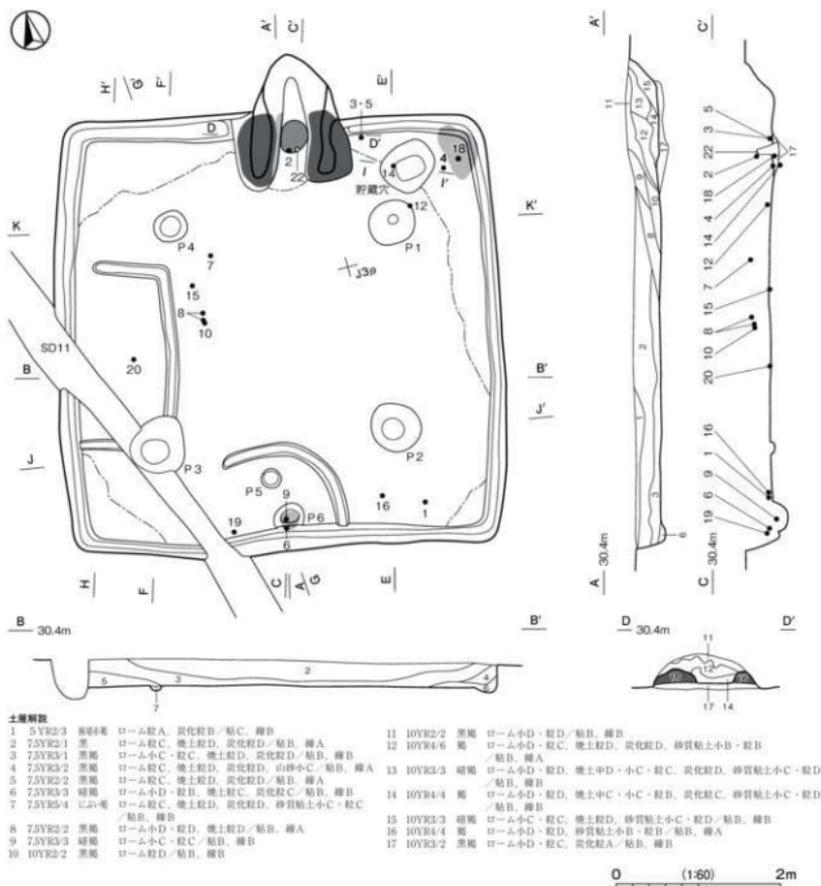
ピット 6か所。P1～P4は深さ20～30cmで、配置から支柱穴である。P5・P6はいずれも深さ12cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置しており、長軸68cm、短軸56cmの隅丸長方形である。深さは18cmほど、底面は皿状で、壁は外傾している。単一層で、焼土粒子やロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

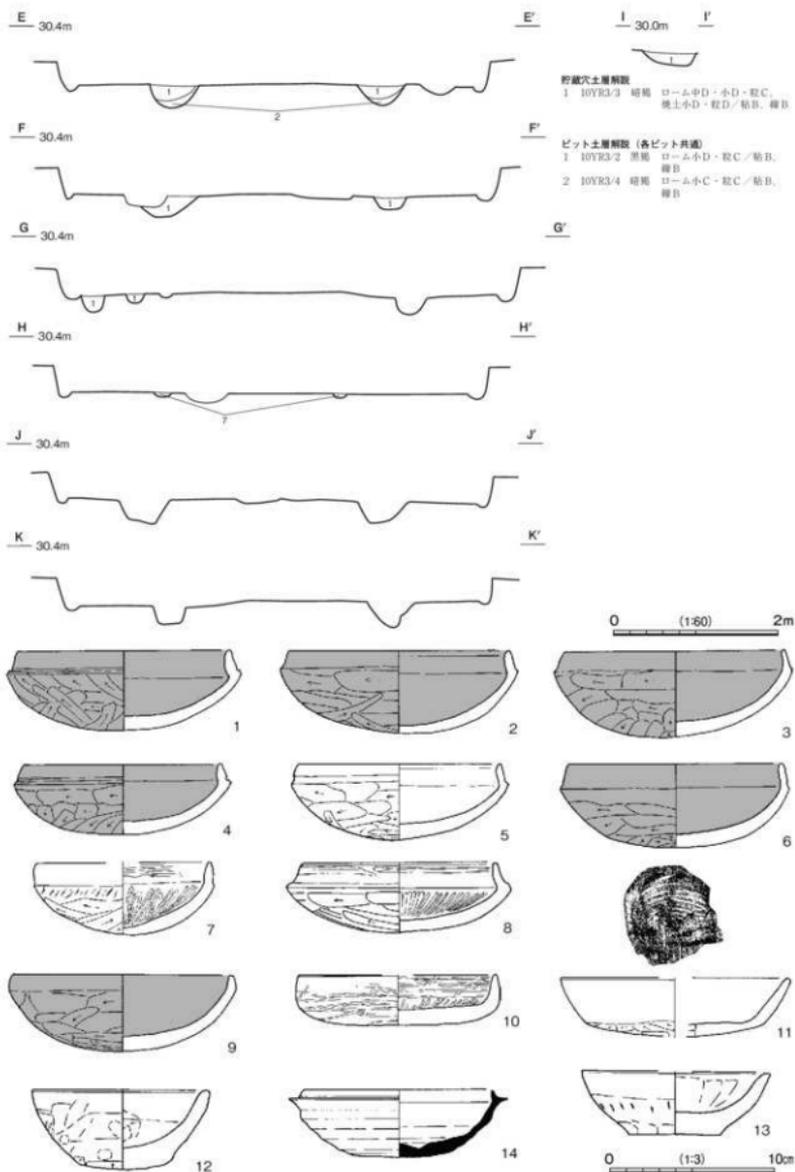
覆土 7層に分層できる。覆土中から新しい時期の遺物が出土することや、レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 304 点 (坏 230, 高坏 3, 鉢 6, 甕 63, 手捏土器 2), 土製品 1 点 (支脚) が出土している。22 は掘方に埋め込まれた使用時の状態で、竈火床部に遺棄されている。2 は竈覆土中層から出土している。14 は貯藏穴の覆土上層から斜位で出土している。9 は P6 の覆土上層から逆位で出土している。3・5 は竈右袖脇の床面から逆位で、3 は 5 の上に重なって出土している。15 は中央部西よりの床面から、7・8・10 は覆土上層からそれぞれ出土している。4・18 は北東コーナー部の床面から、12 は覆土下層からそれぞれ出土している。1・16 は南東部の覆土下層から出土している。6・19 は南壁際の覆土下層から、それぞれ出土している。6 は正位, 19 は斜位で出土している。20 は西部の床面から正位で出土している。

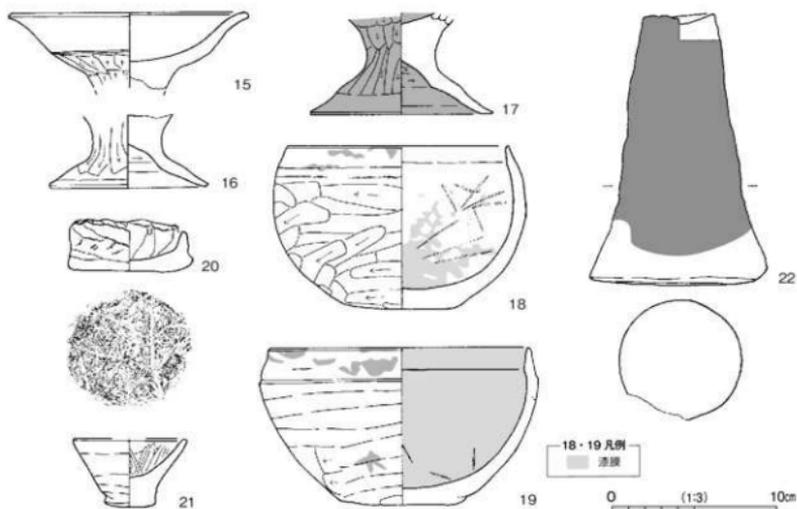
所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 1 四半期に比定できる。



第 154 図 第 80 号竈穴建物跡実測図



第155図 第80号堅穴建物跡・出土遺物実測図



第156図 第80号竪穴建物跡出土遺物実測図

第77表 第80号竪穴建物跡出土遺物一覧(第155・156図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	130	4.9	-	長石・黒色粒子	にぶい橙	普通	口唇部摩耗 内面陥痕状に剥落 外・内面黒色処理	覆土下層	100% PL74
2	土師器	坏	133	5.2	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	口唇部摩耗 内面陥痕状に剥落 外・内面黒色処理	覆土中層	90% PL74
3	土師器	坏	132	5.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部摩耗 外・内面陥痕状に剥落 外・内面黒色処理	床面	90% PL74
4	土師器	坏	120	4.4	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口唇部摩耗 内面陥痕状に剥落 外・内面黒色処理	床面	90% PL74
5	土師器	坏	123	4.7	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇部摩耗 内面陥痕状に剥落 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	90% PL74
6	土師器	坏	128	5.2	-	長石・黒色粒子	橙	普通	外・内面黒色処理 底部余切り痕々	覆土下層	90%
7	土師器	坏	[106]	4.5	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	口縁部内面へラ磨き 底部内面放射状へラ磨き	覆土上層	80%
8	土師器	坏	118	4.3	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	内面放射状へラ磨き	覆土上層	90%
9	土師器	坏	133	4.7	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部摩耗 外・内面黒色処理	下石 覆土上層	100% PL74
10	土師器	坏	[121]	3.1	-	長石・黒色粒子	橙	普通	外面へラ磨き 口縁部内面へラ磨き 底部内面放射状へラ磨き	覆土上層	70%
11	土師器	坏	[140]	[3.6]	-	長石・赤色粒子・黒色粒子	灰黄褐色	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	40%
12	土師器	坏	106	4.8	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	底部外面へラ磨き	覆土下層	80% PL75
13	土師器	坏	[112]	3.8	5.6	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	底部外面へラ磨き	覆土上層	40%
14	須恵器	坏	115	4.1	-	長石	灰	普通	受け部・内面一部僅存着 内面底部ナゲ	貯蔵穴 覆土上層	90% PL75 異分産出
15	土師器	高坏	141	[4.6]	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	内面ナゲ	床面	50%
16	土師器	高坏	-	(4.5)	[9.6]	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	坏部僅かに残存	覆土下層	50%
17	土師器	高坏	-	(6.1)	[11.6]	長石・石英・黒色粒子	にぶい褐	普通	全面黒色処理	覆土中	60%
18	土師器	鉢	135	10.0	7.2	長石・石英・黒色粒子・紺磁	橙	普通	外・内面漆膜有残 内面漆膜の下に焼成後の指痕 底部外面へラ磨き	床面	90% PL74
19	土師器	鉢	158	9.6	7.7	長石・石英・赤磁・紺磁	灰黄褐色	普通	外・内面漆膜有残 内面漆膜付着 底部外面へラ磨き	覆土下層	90% PL74
20	土師器	手拭土器	6.8	3.2	7.5	長石・石英	にぶい橙	普通	底部外面本漆痕	床面	100% PL75
21	土師器	手拭土器	[6.3]	4.3	3.0	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	底部外面ナゲ 内面へラ磨き	覆土中	70%
番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴			出土位置	備考
22	支脚	4.3	10.7	16.7	(867)	長石・石英・黒色粒子・紺磁	上半焼熟により変色			竈厨方	PL99

第 81 号竪穴建物跡 (第 157・158 図 PL22)

位置 調査区南部の J 5h9 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

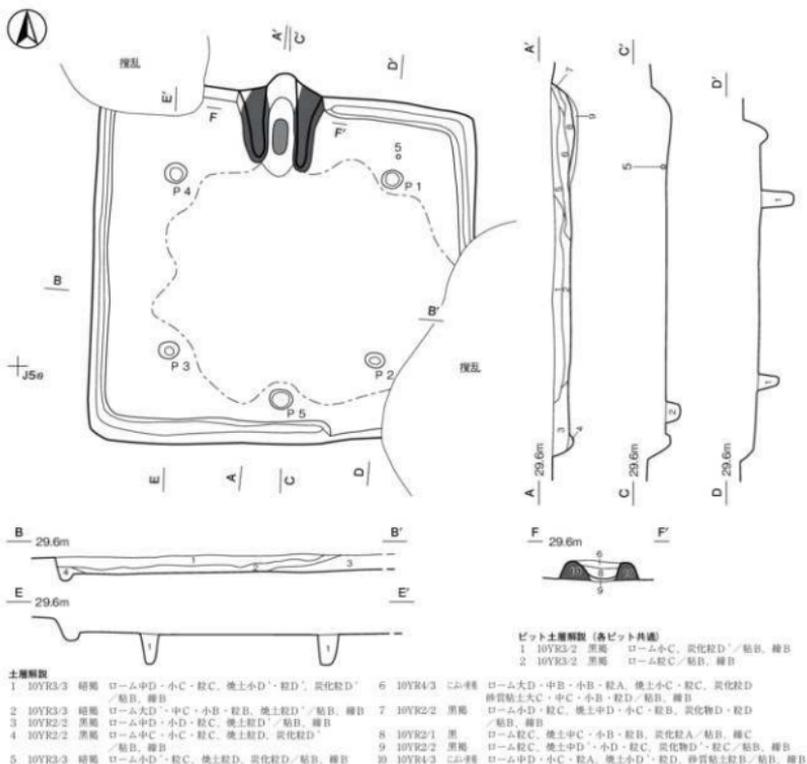
規模と形状 長軸 4.62 m、短軸 4.40 m の方形で、主軸方向は N-2°-E である。壁高は 20cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで 130cm で、燃焼部幅は 34cm である。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第 10 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 7cm ほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。第 9 層は燃焼部の堆積土である。第 9 層下面が当初の火床面、上面が焼絶時の火床面である。煙道部は壁外に 24cm ほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第 5～9 層は竈に関連する堆積土で、第 6 層は竈の構築材が含まれている。

ピット 5 か所。P1～P4 は深さ 28～40cm で、配置から主柱穴である。P5 は深さ 18cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

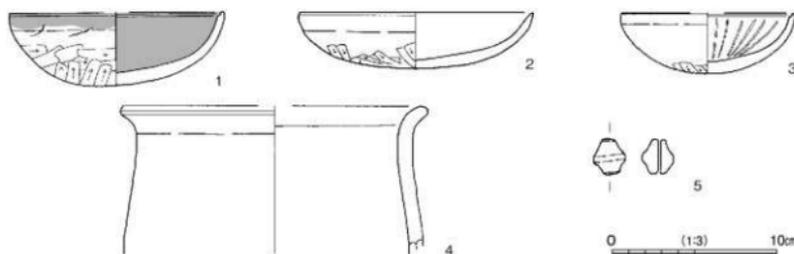
覆土 4 層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。



第 157 図 第 81 号竪穴建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 203 点 (坏 157, 椀 3, 鉢 16, 甕 25, 手捏土器 2)、土製品 1 点 (土玉)、焼成粘土塊 2 点 (12.11g) が出土している。5 は、北東部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 4 四半期に比定できる。



第 158 図 第 81 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 78 表 第 81 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 158 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[130]	4.5	-	長石・石英・ 赤色粒子	に 黄	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	70% PL75
2	土師器	坏	14.3	3.4	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	100% PL75
3	土師器	坏	[106]	3.7	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 内面放射状ヘラ磨き	覆土中	60%
4	土師器	甕	[182]	(8.8)	-	長石・石英	灰濁	普通	外面摩滅により調整不明瞭	覆土中	10%

番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	土玉	20	21	0.2	6.01	長石・石英	橙	一方向から穿孔	床面	PL103

第 82 号竪穴建物跡 (第 159 図 PL22)

位置 調査区南部の J 4g4 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸 4.48 m、短軸 4.00 m の長方形で、主軸方向は N-3°-W である。壁高は 6~20 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、西部から東部にかけて攪乱を受けている。確認できた範囲では中央部から南壁下にかけて踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

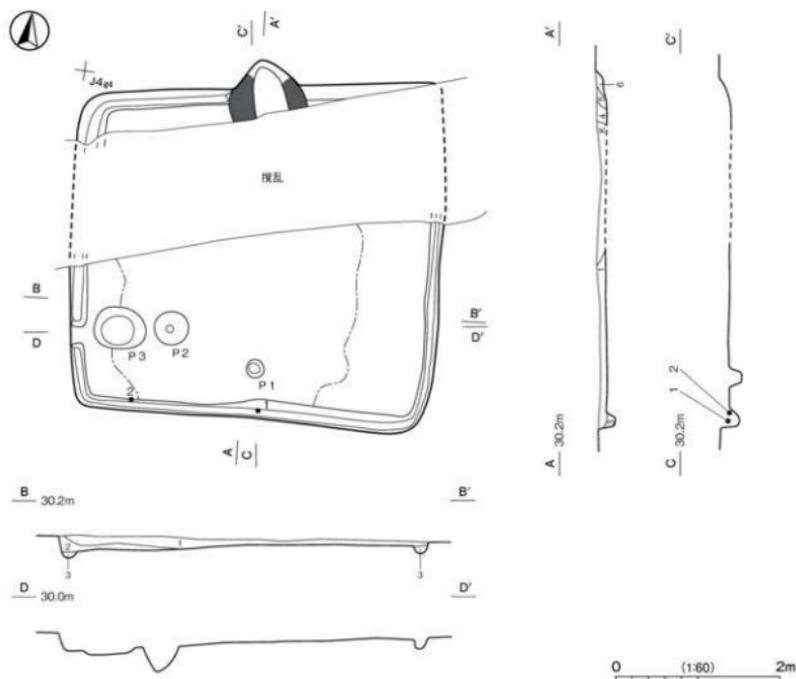
竈 北壁中央部に付設されている。竈南側が攪乱を受けているため、確認できた規模は焚口から煙道部まで 66 cm で、燃焼部幅は 42 cm である。袖部は壊されており、床面に砂質粘土が残存していた。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に 24 cm ほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第 4~6 層は竈に関連する堆積土である。

ピット 3 か所。P 1 は深さ 17 cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 2・P 3 は深さ 5・30 cm で、西壁の壁溝が切れる位置に隣接しているが、性格は不明である。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

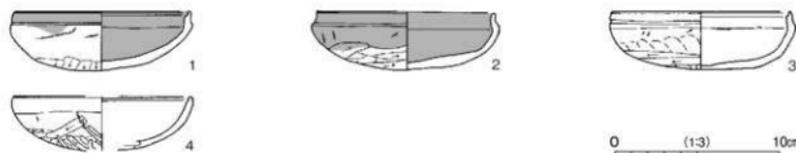
遺物出土状況 土師器片 91 点 (坏 83, 高坏 1, 鉢 1, 甕 6) が出土している。1 は南部の壁溝覆土上層から正位で、2 は床面から正位でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 3 四半期に比定できる。



土層解説

- | | | | |
|--------------|----------------------|---------------|----------------------------------|
| 1 5YR3-2 赤褐色 | ロ-M-軟D / 粘B、礫B | 4 5YR3-6 暗赤褐色 | ロ-M-小B、粒B、硬土小D、粒A、砂質粘土粒A / 粘B、礫B |
| 2 10YR4-4 紫 | ロ-M-小C、粒C / 粘B、礫B | 5 5YR3-4 暗赤褐色 | ロ-M-小B、粒A、硬土小D、粒B / 粘B、礫B |
| 3 10YR4-6 紫 | ロ-M-中D、小C、粒B / 粘B、礫B | 6 10YR4-4 紫 | ロ-M-小B、粒A、硬土小D、粒C / 粘B、礫B |



第159図 第82号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第79表 第82号竪穴建物跡出土遺物一覧(第159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	108	3.6	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	甲溝 覆土上層	80% PL75
2	土師器	坏	108	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	黒褐色	普通	口縁部外面・内面黒色処理	床面	90% PL75
3	土師器	坏	109	3.6	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	90% PL75
4	土師器	坏	[108]	[3.2]	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面弱い沈線	覆土中	40%

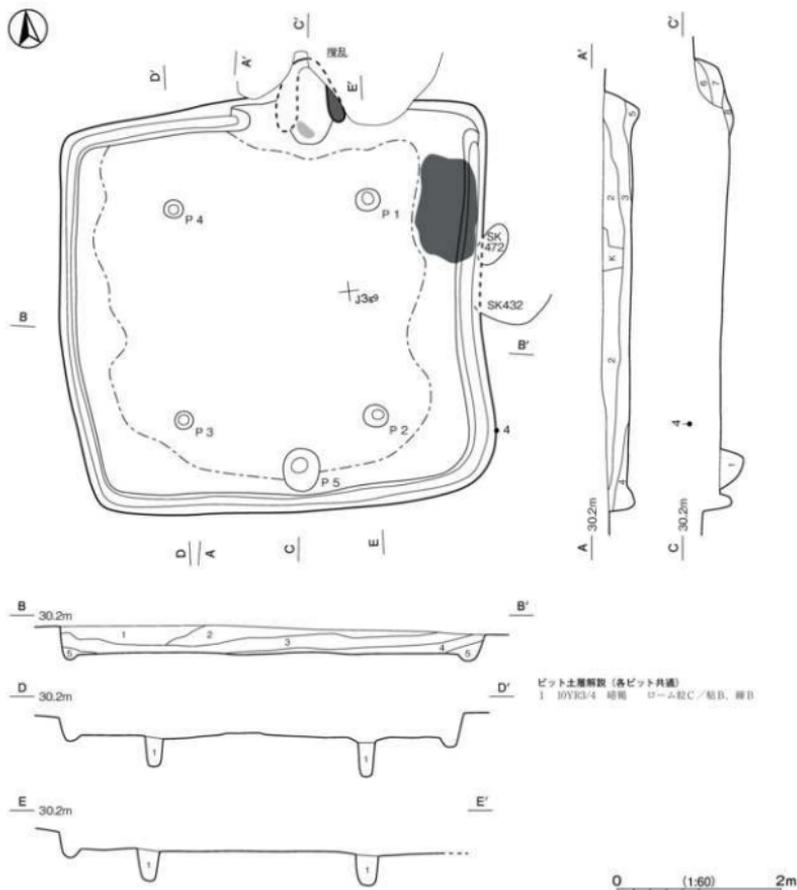
第 84 号竪穴建物跡 (第 160・161 図 PL.22)

位置 調査区南部の J 38 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 432・472 号土坑と重複しているが新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸 5.16 m、短軸 5.06 m の方形で、主軸方向は N-5°-E である。壁高は 21~30 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北東側の一部を除き壁溝が全周している。東壁際に粘土塊を確認



土層解説

- | | | | |
|----------------|--------------------------|---------------|------------------------|
| 1 10YR3/2 黒褐色 | ローム中D・小C・粒C、焼土中C・小B、炭化粒C | 5 10YR3/2 黒褐色 | ローム小B・粒B、焼土粒D/粘B、雜B |
| 2 10YR3/3 暗褐色 | ローム小D・粒C、焼土粒C、炭化粒D/粘B、雜B | 6 10YR3/2 黒褐色 | ローム小D・粒C、焼土小C・粒C/粘B、雜B |
| 3 10YR4/2 灰黄褐色 | ローム小C・粒B、焼土粒D、炭化粒C/粘B、雜B | 7 10YR3/4 暗褐色 | ローム中C・粒C、焼土粒C/粘B、雜B |
| 4 10YR3/4 暗褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒C/粘B、雜B | 8 10YR4/6 褐色 | ローム小C・粒B、焼土粒C/粘B、雜B |

第 160 図 第 84 号竪穴建物跡実測図

した。

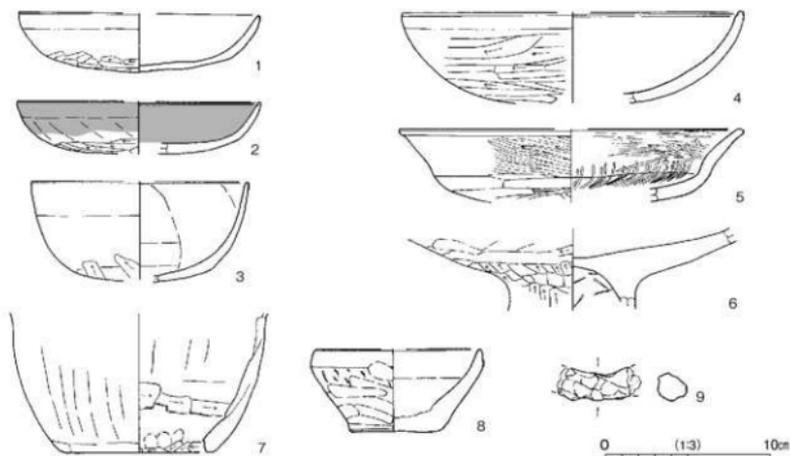
竈 北壁中央部に付設されている。部材は攪乱によって一部消失しており、粘土範囲と焼土痕から規模は焚口から煙道部まで80cmで、燃焼部幅は50cmと推測される。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第6～8層は竈に関連する堆積土である。

ピット 5か所。P1～P4は深さ38～40cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ28cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片1,171点（坏957, 碗1, 高坏2, 鉢5, 甕194, 瓶11, 手捏土器1）、須恵器片7点（蓋1, 甕6）、土製品1点（不明土製品）、焼成粘土塊4点（27.25g）が出土している。4は南東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



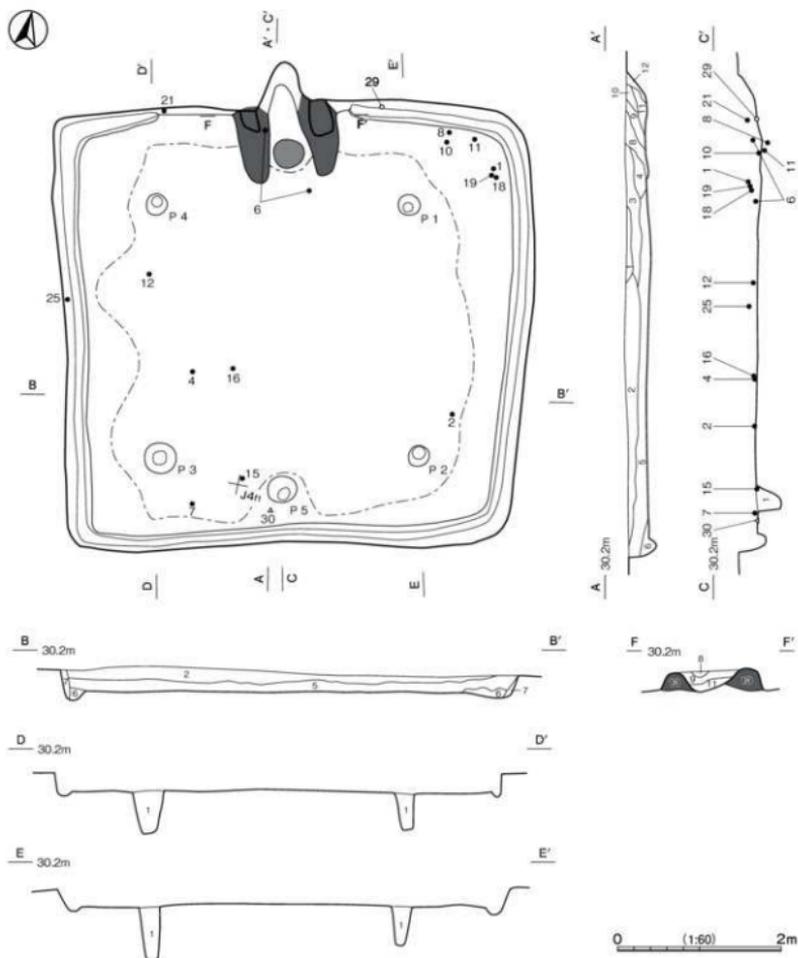
第161図 第84号竪穴建物跡出土遺物実測図

第80表 第84号竪穴建物跡出土遺物一覧（第161図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[146]	3.6	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	70%
2	土師器	坏	[148]	(3.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面弱い沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	30%
3	土師器	坏	[132]	(6.1)	-	長石・石英	橙	普通	底部ヘラ削り	覆土中	30%
4	土師器	碗	[210]	(5.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部内面弱い沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土上層	20%
5	土師器	高坏	[208]	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面・口縁部内面横位のヘラ書き 底部内面放射状へラ削り	覆土中	10%
6	土師器	高坏	-	(4.9)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ナデ	覆土中	10%
7	土師器	瓶	-	(8.5)	(9.0)	長石・石英	橙	普通	無底式	覆土中	10%
8	土師器	手捏土器	[101]	5.1	5.3	長石・石英	橙	普通	底部ヘラ削り	覆土中	70% PL75
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴			出土位置	備考
9	不明土製品	(5.1)	(2.1)	1.8	(14.42)	長石・石英・雲母	指頭押圧により成形			覆土中	

第 85 号竪穴建物跡 (第 162 ~ 164 図 PL22)

位置 調査区南部の J 4e1 区、標高 30m ほどの微高地上に位置している。



土層解説

1	10YK3-2	深層	ローム小C・粒C、焼土粒D/粘B、雜B	8	10YR4-6	底	ローム粒C、砂質粘土粒B/粘B、雜B
2	10YK3-3	暗層	ローム大D・小B・粒B、炭化粒D/粘B、雜B	9	10YR4-4	底	ローム小C・粒C、焼土粒D、砂質粘土粒B/粘B、雜A
3	10YR4-3	二土層	ローム中B・小B・粒A、焼土粒C、炭化粒C/粘B、雜B	10	10YK3-4	暗層	ローム小C・粒C、焼土小C・粒B/粘B、雜B
4	10YK3-4	暗層	ローム小B・粒C、焼土粒C/粘B、雜B	11	10YR4-4	底	ローム小D・粒C、焼土小C・粒B/粘B、雜B
5	10YK3-3	深層	ローム小B・粒B、焼土粒C/粘B、雜B	12	10YR4-6	底	ローム小D・粒B、焼土粒B/粘B、雜B
6	10YK3-3	暗層	ローム小B・粒B、雜B	13	10YR5-6	表層	ローム小C・粒C、砂質粘土粒A/粘B、雜A
7	10YK3-2	深層	ローム小B・粒A/粘B、雜B				

ピット土層解説 (各ピット共通)

1	10YK3-4	暗層	ローム大C・中C・小B・粒B/粘B、雜B
---	---------	----	----------------------

第 162 図 第 85 号竪穴建物跡実測図

規模と形状 長軸5.76m, 短軸5.34mの方形で, 主軸方向はN-11°-Wである。壁高は22cmで, 外傾している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝がほぼ全周している。

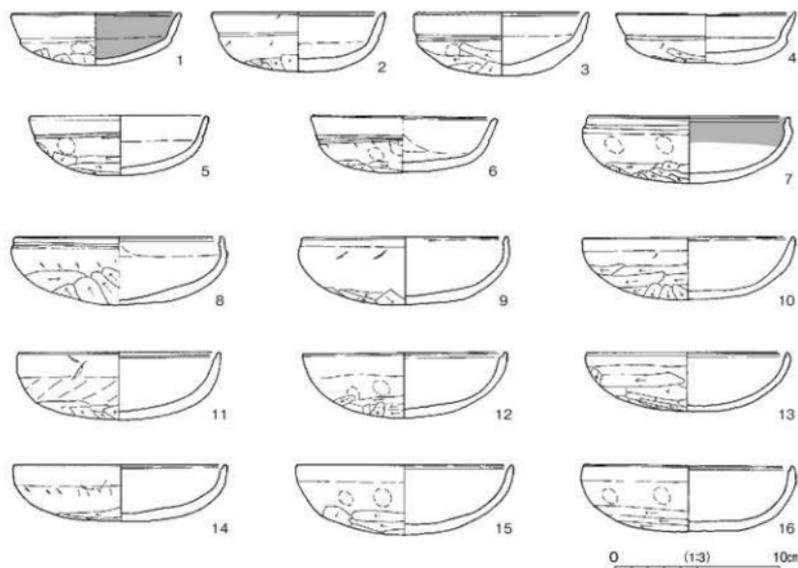
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで137cmで, 燃焼部幅は30cmである。袖部は地山の上に, 砂質粘土を含む第13層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで, 火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に47cmほど掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。第8-12層は竈に関連する堆積土である。

ピット 5か所。P1~P4は深さ46~66cmで, 配置から支柱穴である。P5は深さ30cmで, 配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

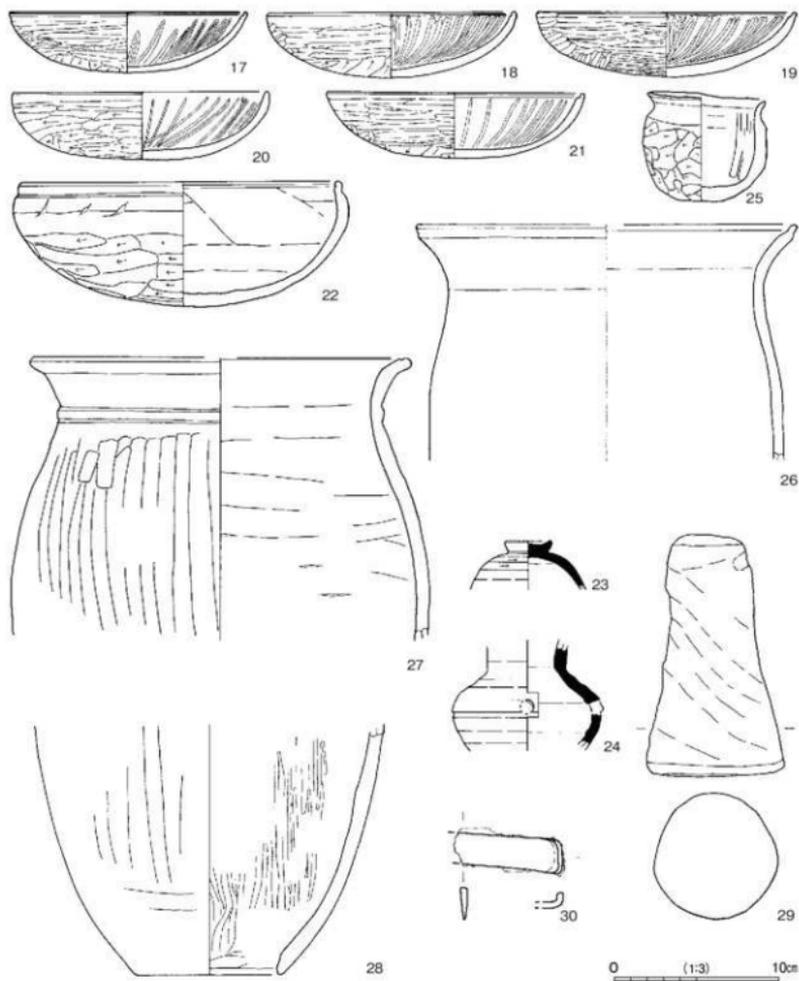
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片2288点(杯1,863, 椀21, 高杯13, 鉢11, 甕366, 瓶14), 須恵器片5点(蓋1, 甕1, 甕3), 土製品1点(支脚), 金属製品1点(鎌), 焼成粘土塊12点(152.86g)が出土している。6は竈内と, 覆土下層から出土した破片が接合したものである。16は中央部の床面から, 逆位で出土している。21は北部の覆土中層から正位, 29は壁溝覆土上層からそれぞれ出土している。8・10・11は北東部の床面から, 18・19が覆土中層から, 1は覆土上層からそれぞれ出土している。8・11は正位, 10は逆位で, 1・18・19は重なって正位で出土している。2は東部の床面から正位で出土している。7・15・30は南部の床面からそれぞれ出土している。7は正位で, 15は逆位で出土している。4は西部の床面から逆位で, 12は正位で, 25は覆土中層から正位で, それぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



第163図 第85号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第164図 第85号竪穴建物跡出土物実測図(2)

第81表 第85号竪穴建物跡出土遺物一覧(第163・164図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.2	3.1	-	長石・石英・雲母	にぶい・橙	普通	口唇部内面沈澱 口縁部外面・内面黒色処理	覆土上層	100% PL75
2	土師器	坏	10.5	3.6	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈澱・沈澱	床面	100% PL75
3	土師器	坏	10.4	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい・橙	普通	口唇部内面沈澱 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	70%
4	土師器	坏	[11.0]	3.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	口唇部内面沈澱 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
5	土師器	坏	11.0	3.6	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ナゲ	覆土中	90%
6	土師器	坏	11.3	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面弱い沈澱 外・内面厚減により調整不明瞭	覆土下層	90%
7	土師器	坏	12.0	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	灰黄	普通	口唇部内面沈澱 口縁部外面・内面黒色処理	床面	100% PL75
8	土師器	坏	12.8	4.2	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部内面弱い沈澱	床面	100% PL76
9	土師器	坏	12.4	5.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇部内面弱い沈澱	覆土中	90%
10	土師器	坏	12.8	3.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面弱い沈澱 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	100% PL76
11	土師器	坏	12.2	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈澱 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	100% PL76
12	土師器	坏	12.4	3.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部内面沈澱	床面	60%
13	土師器	坏	12.3	3.7	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈澱	覆土中	60%
14	土師器	坏	12.9	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面弱い沈澱	覆土中	70%
15	土師器	坏	13.3	4.3	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面弱い沈澱	床面	100% PL76
16	土師器	坏	12.8	4.0	-	長石・石英・雲母	淡黄	普通	口唇部内面沈澱	床面	100% PL76
17	土師器	坏	14.5	3.7	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈澱 内面放射状ヘラ磨き	覆土中	90% PL76
18	土師器	坏	14.9	4.0	-	長石・石英	橙	普通	体部外面横位のヘラ磨き 内面放射状ヘラ磨き 口唇部内面沈澱	覆土中層	100% PL76
19	土師器	坏	16.0	4.0	-	長石・石英	橙	普通	外面ヘラ磨き 内面放射状ヘラ磨き 口唇部内面沈澱	覆土中層	100% PL76
20	土師器	坏	15.6	4.1	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	外面細く丁寧なヘラ磨き 内面放射状ヘラ磨き	覆土中	70% PL76
21	土師器	坏	15.6	4.0	-	長石・石英	橙	普通	体部外面横位のヘラ磨き 内面放射状ヘラ磨き 口唇部内面沈澱	覆土中層	60%
22	土師器	碗	19.5	7.2	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ナゲ	覆土中	50%
23	須恵器	蓋	-	(30)	-	長石・石英	灰黄	良好	ロケロ整形	覆土中	20%
24	須恵器	皿	-	(67)	-	長石・石英	黄灰	良好	体部外面一帯の沈澱	覆土中	10%
25	土師器	甕	7.1	6.7	2.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面に擦痕	覆土中層	100% PL76
26	土師器	甕	[230]	(14.5)	-	長石・石英・細礫	明橙	普通	内面厚減により調整不明瞭	覆土中	10%
27	土師器	甕	[228]	(17.4)	-	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	外周厚減により調整不明瞭	覆土中	10%
28	土師器	瓶	-	(15.4)	[88]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き 無底式	覆土中	10%

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	特徴	出土位置	備考
29	支脚	4.5	8.4	14.9	605.9	長石・石英	全面ナゲ	中層 覆土上層 PL59

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
30	鎌	(67)	(26)	(0.4)	(19.88)	鉄	先端部欠損	床面	

第86号竪穴建物跡 (第165・166図 PL23)

位置 調査区南部のJ 4c3区。標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第519号土坑、第6号堀に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.08m、短軸4.90mの長方形で、長軸方向はN-68°-Eである。壁高は20cmで、外傾している。

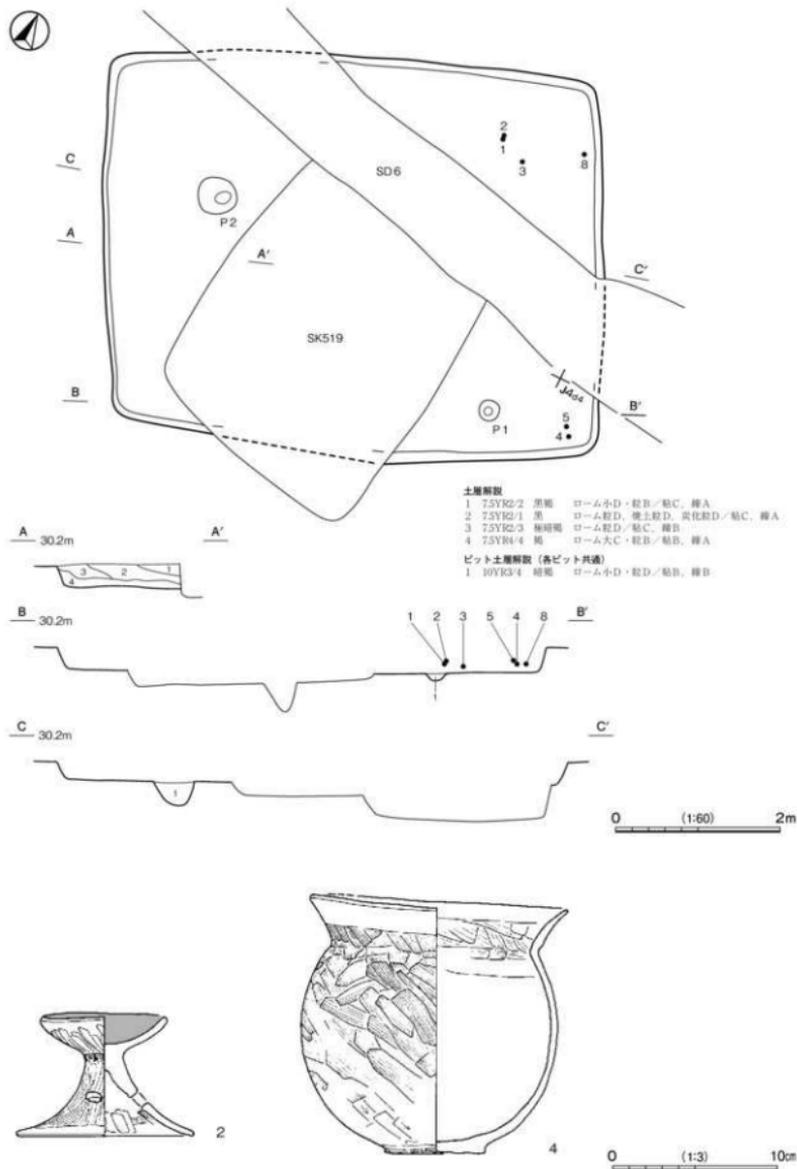
床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

ピット 2か所。P1・P2は深さ10・32cmで、性格不明である。

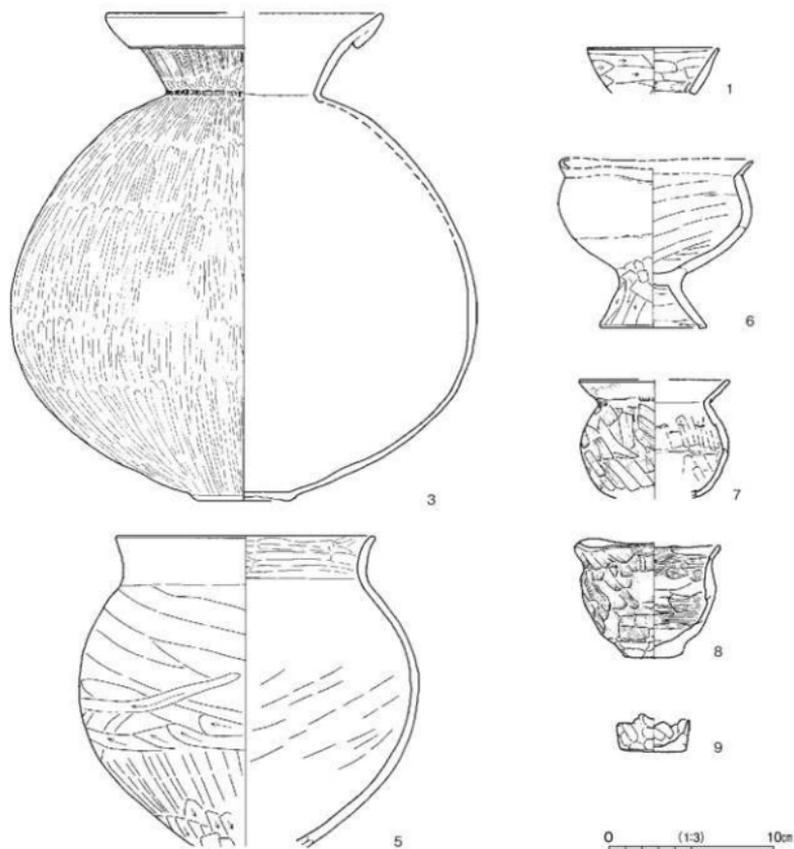
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片252点(埴1、器台2、壺14、甕229、手捏土器6)が出土している。また、混入した土師器片1,041点(坏1,031、椀6、鉢3、瓶1)、須恵器片2点(瓶、甕)、土師質土器片1点(小皿)、土製品3点(支脚3)も出土している。3は北部の覆土下層、1・2・8は覆土中層からそれぞれ出土している。4・5は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第165図 第86号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第166図 第86号竪穴建物跡出土遺物実測図

第82表 第86号竪穴建物跡出土遺物一覧(第165・166図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	埴	84	(28)	-	長石・石英	橙	普通	全面被熱 割れ面磨蝕	覆土中層	10% 部分転用
2	土師器	器台	73	7.5	107	長石・石英	橙	普通	坏部内面黒色処理 脚部3方に穿孔	覆土中層	80% PL76
3	土師器	壺	[166]	299	64	長石・石英・ 炭母・赤色粒子	橙	普通	外面へろ磨き 折り返し口縁	覆土下層	70% PL77
4	土師器	甕	154	158	61	長石・赤色粒子	橙	普通	底部へろ削り	覆土中層	70% PL77
5	土師器	甕	155	(190)	-	長石・石英	にぶい 黄橙	普通	体部外面一部被熱	覆土中層	90% PL77
6	土師器	手捏土器	115	104	65	長石・石英・ 赤色粒子・細礫	にぶい 黄橙	普通	全面被熱 外面被附着	覆土中	70% PL77
7	土師器	手捏土器	[90]	(73)	-	長石	橙	普通	体部外面一部被熱	覆土中	40%
8	土師器	手捏土器	86	7.3	23	長石・石英	にぶい 黄橙	普通	全面被熱	覆土中層	80% PL77
9	土師器	手捏土器	44	23	40	長石	にぶい 黄橙	普通	全面被熱 底部へろ削り	覆土中	90% PL77

第 87 号竪穴建物跡 (第 167・168 図 PL23)

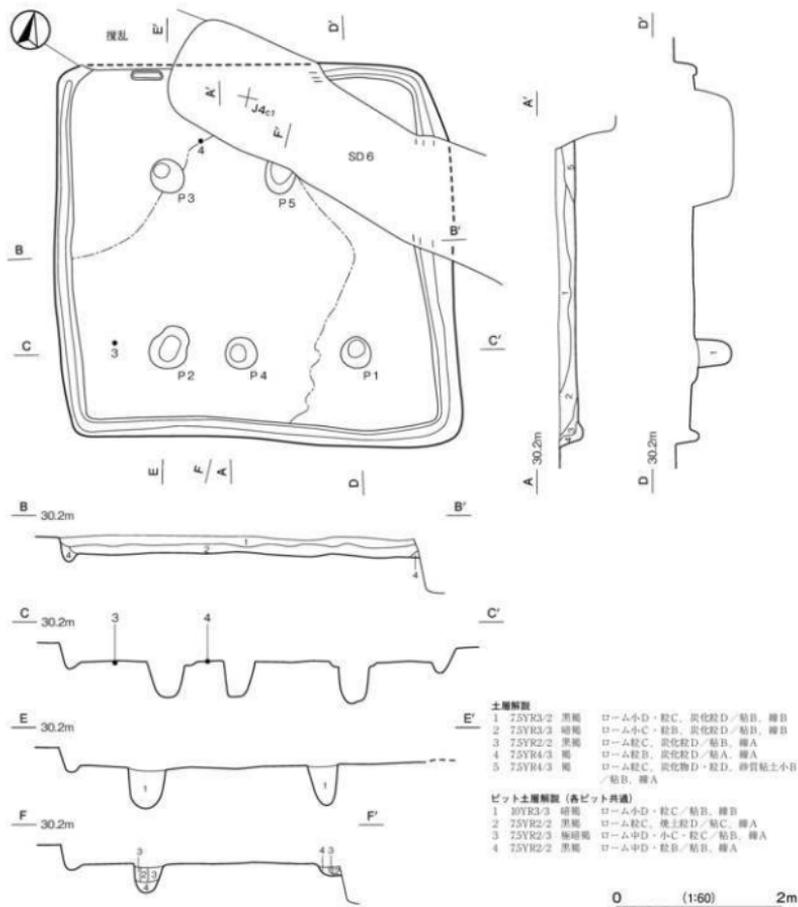
位置 調査区西部の J 4c1 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 6 号堀に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.80 m、短軸 4.68 m の方形で、主軸方向は N - 17° - W である。壁高は 23cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部から南西コーナー部にかけて踏み固められている。壁溝が全周している。

ピット 5 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 45 ~ 54cm で、配置から主柱穴である。P 4 は深さ 45cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 5 は深さ 16cm で、性格不明である。

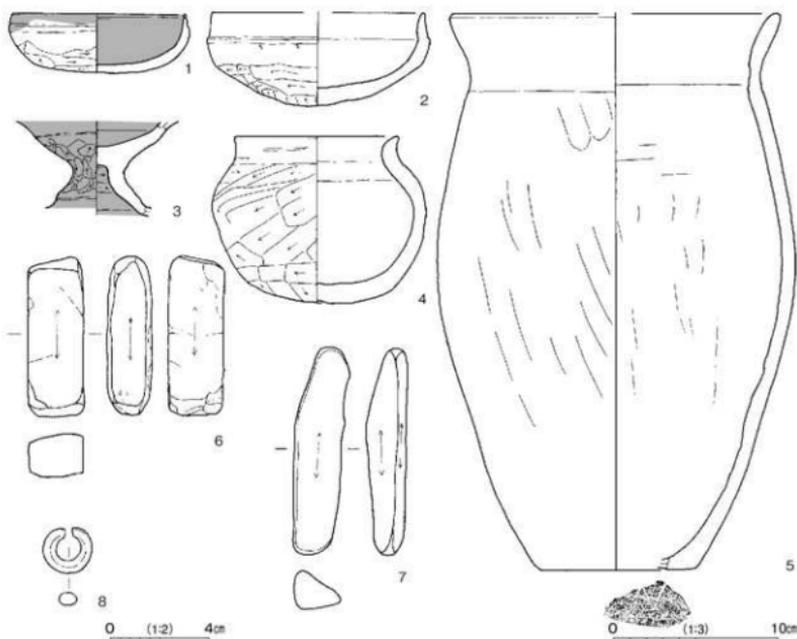


第 167 図 第 87 号竪穴建物跡実測図

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれている堆積状況から人為堆積である。第5層は砂質粘土ブロックなどが含まれており、竈器材の流出土の可能性はある。

遺物出土状況 土師器片177点(坏105, 碗4, 高坏3, 鉢6, 甕57, 瓶2), 須恵器片2点(甕), 石器2点(砥石), 金属製品1点(耳環)が出土している。また、混入した土師器片2点(器台, 壺)も出土している。4は北部, 3は南西部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀第2・4半期に比定できる。



第168図 第87号竪穴建物跡出土遺物実測図

第83表 第87号竪穴建物跡出土遺物一覧(第168図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	106	35	-	長石・石英 に赤い赤斑	普通	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	60% PL77
2	土師器	坏	[128]	57	-	長石・石英・ 白色粒子	橙	普通	内面ナシ	覆土中	40%
3	土師器	高坏	-	(55)	-	長石・石英・ 赤色粒子	灰黄褐	普通	全面黒色処理	床面	50%
4	土師器	壺	98	102	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面へラ磨き 内面痲状に剥落	床面	90% PL77
5	土師器	甕	[196]	340	[94]	長石・石英	に赤い陶	普通	体部内面下半著しく摩滅 底部外面木炭痕	覆土中	50%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
6	砥石	9.7	3.4	2.7	176	砂岩	紙面4面		覆土中		
7	砥石	12.6	3.4	2.5	114	安山岩	紙面3面		覆土中		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
8	耳環	1.85	2.0	0.7	6.89	銅	金銀混る		覆土中	PL104	

第 88 号竪穴建物跡 (第 169 図 PL23)

位置 調査区西部の J 3a9 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

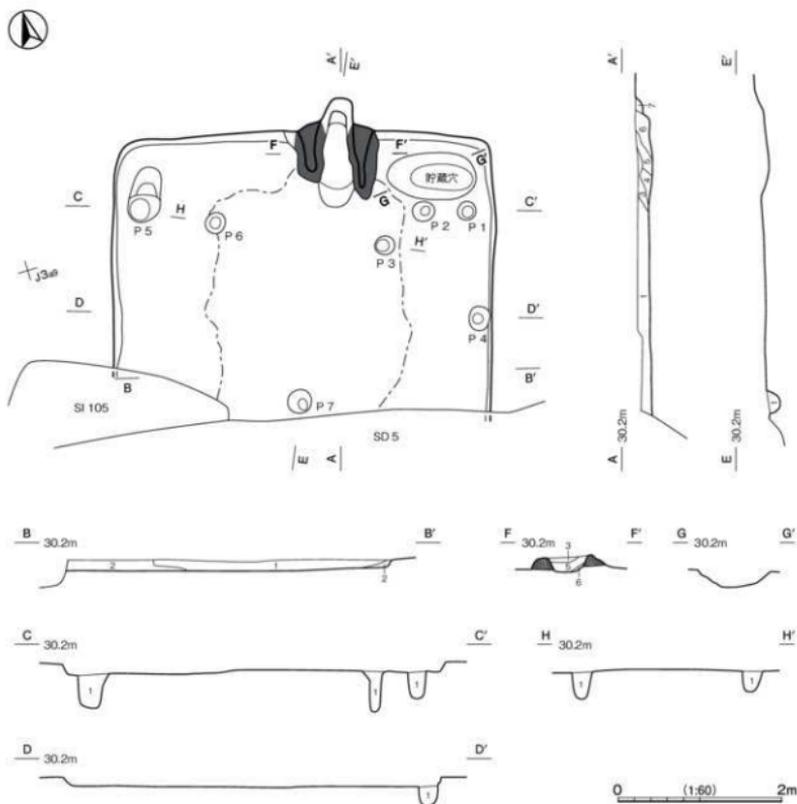
重複関係 第 105 号竪穴建物、第 5 号堀に掘り込まれている。

規模と形状 南部が第 5 号堀に掘り込まれているため、東西軸は 4.60 m、確認した南北軸は 3.54 m である。

平面形は方形または長方形で、主軸方向は N - 17° - E である。壁高は 16 cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁やや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで 135 cm で、燃焼部幅は 32 cm である。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第 8 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 5 cm ほどくぼんでおり、



土層解説

- 1 75YK3-3 埴層 ローム小D・粒D、炭化粒D/粘B、雜B
 2 75YR4-3 埴層 ローム小C/粘B、雜A
 3 75YK3-2 埴層 ローム粒C、炭化物C・粒B/粘B、雜A
 4 75YK3-3 埴層 ローム粒C、焼土小D、炭化粒D/粘B、雜B

- 5 75YK2-3 埴層 埴層
 6 75YK3-3 埴層 ローム粒C、焼土粒C、炭化物D/粘B、雜A
 7 5YR4-4 土砂層 土砂層
 8 10YR4-4 層 ローム中B・小C、焼土粒C、砂質粘土粒D/粘A、雜A

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YK3-3 埴層 ローム小D・粒C/粘B、雜B

第 169 図 第 88 号竪穴建物跡実測図

火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に38cmほど掘り込まれ、火床部から段を有して立ち上がっている。第3～7層は竈に関連する堆積土である。

ピット 7か所。P1～P7は深さ16～52cmで、性格不明であるが、P2・P6は配置から支柱穴の可能性がある。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径110cm、短径60cmの楕円形である。深さは20cmほど、底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。含有物が少なく、均質な堆積であることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片124点(坏86, 甕38), 焼成粘土塊1点(19.74g)が出土している。遺物は細片で図示できなかったが、坏身模倣坏や、口唇部内面に沈線有する坏が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀代に比定できる。

第90号竈穴建物跡(第170～173図 PL23・56)

位置 調査区西部の14e4区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第166号土坑、第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.02m、短軸4.84mの方形で、主軸方向はN-22°-Wである。壁高は28～36cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。東・南・西壁下の一部に壁溝が巡っている。

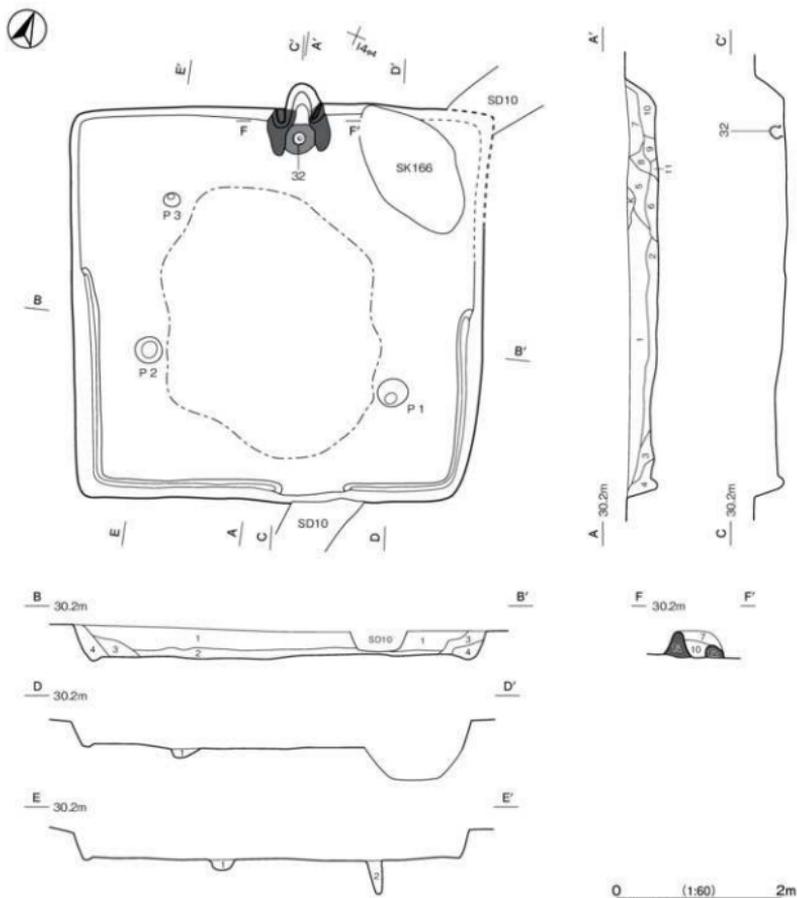
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで98cmで、燃焼部幅は37cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第12・13層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に26cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第5～11層は竈に関連する堆積土である。

ピット 3か所。P1～P3は深さ14～43cmで、性格不明である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片512点(坏391, 高坏2, 鉢5, 壺3, 甕107, 瓶3, 手捏土器1), 土製品1点(支脚), 焼成粘土塊1点(12.09g)が出土している。そのうち、竈内から坏4点, 甕1点, 支脚1点, 右袖脇から坏5点, 左袖周辺から坏17点, 壺1点, 甕4点, 瓶2点が出土している。竈内の遺物は15・18・21・25・32・39である。32は竈火床部上部から逆位で、15・21は竈覆土中層から、25・39は竈覆土下層からそれぞれ出土している。18は竈燃焼部の覆土下層から中層と、左袖脇の覆土下層から出土した破片が接合している。右袖脇の遺物は1・8・14・16・17・19・28である。1・17・19は右袖脇の覆土中層から出土している。1・17は逆位で出土している。8は覆土上層から逆位, 14は覆土下層から逆位, 28は覆土下層から斜位でそれぞれ出土している。左袖周辺の遺物は2・7・9・13・20・22・23・27・30・31・33・37である。2・35は竈左前から左脇の床面から、2は正位で出土している。3・12・16・20・22・23・27・33・34・36・37は竈左前から左脇の覆土下層から、4・7・9・10・11・13は正位で、34・36・37は横位で、5・6は斜位で出土している。16は竈の右袖脇の覆土中層からも出土している。このうち、9・11は9が11の上に重なって出土している。また、34に36が入れ込まれた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀第3四半期に比定できる。多量の遺物が竈前に積み重なるように出土していることから、竈廃絶時に祭祀が行われたと考えられる。



土層解説

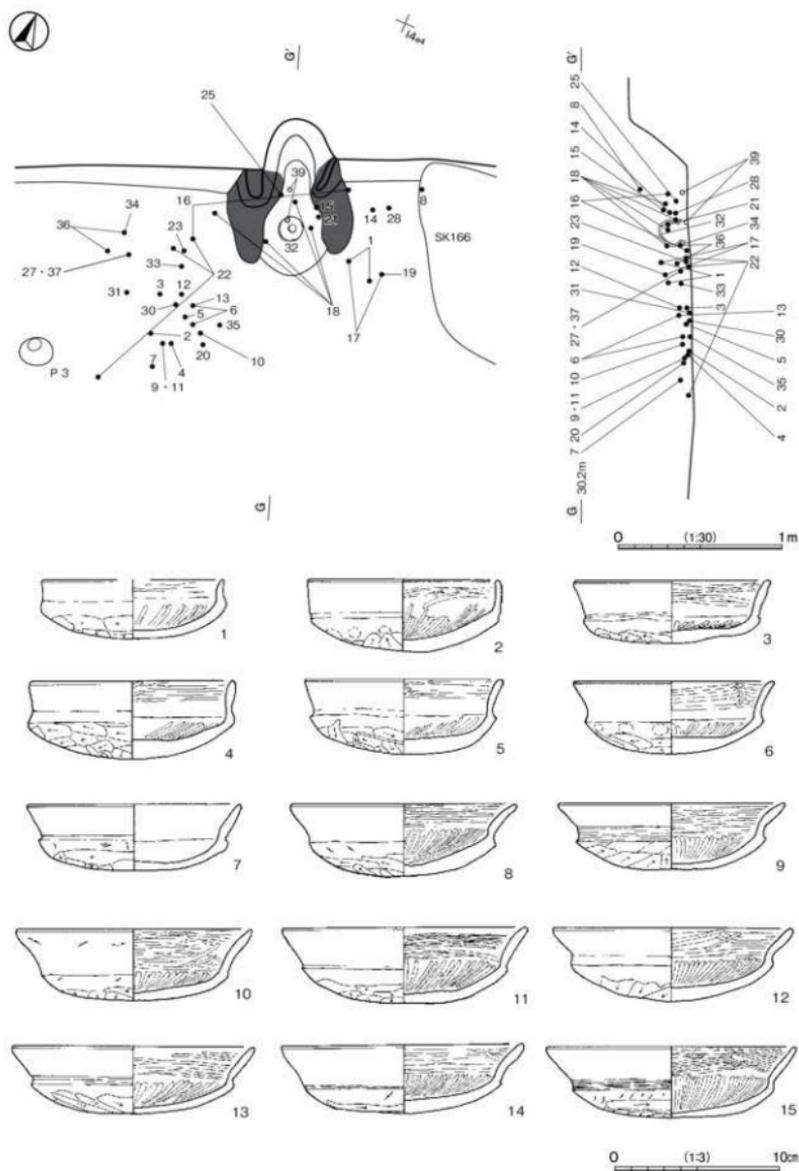
- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム小D・粒C / 粘B, 締B
 2 10YR3-3 暗褐色 ローム大D^{*}・中D・小B・粒B, 焼土粒D^{*} / 粘B, 締B
 3 10YR4-4 黒色 ローム中C・小B・粒B / 粘B, 締B
 4 10YR3-4 暗褐色 ローム大D^{*}・中D・小C^{*}・粒B / 粘B, 締B
 5 10YR3-4 暗褐色 ローム中D・小C^{*}・粒C, 焼土粒D, 炭化粒D^{*} / 粘B, 締B
 6 10YR4-3 黒山色 ローム大D^{*}・中C^{*}・小B^{*}・粒B, 焼土粒D, 炭化粒D^{*} / 粘B, 締B
 7 10YR4-3 黒山色 ローム小C^{*}・粒C, 焼土粒D, 炭化粒D, 砂質粘土粒C / 粘B, 締B

- 8 10YR3-3 暗褐色 ローム粒C, 焼土小B^{*}・粒B, 炭化粒C, 砂質粘土粒D / 粘B, 締B
 9 10YR3-4 暗褐色 ローム小C^{*}・粒C, 焼土小C^{*}・粒C, 炭化粒C, 砂質粘土粒D / 粘B, 締B
 10 10YR3-3 暗褐色 ローム粒C, 焼土中C^{*}・小C^{*}・粒B, 炭化粒C, 砂質粘土粒D / 粘B, 締B
 11 10YR3-4 暗褐色 ローム小C^{*}・粒B, 炭化粒D, 砂質粘土粒D / 粘B, 締B
 12 10YR4-4 黒色 ローム小C^{*}・粒B, 砂質粘土粒C / 粘B, 締A
 13 10YR4-6 黒色 ローム小D^{*}・粒B, 砂質粘土粒B / 粘B, 締A

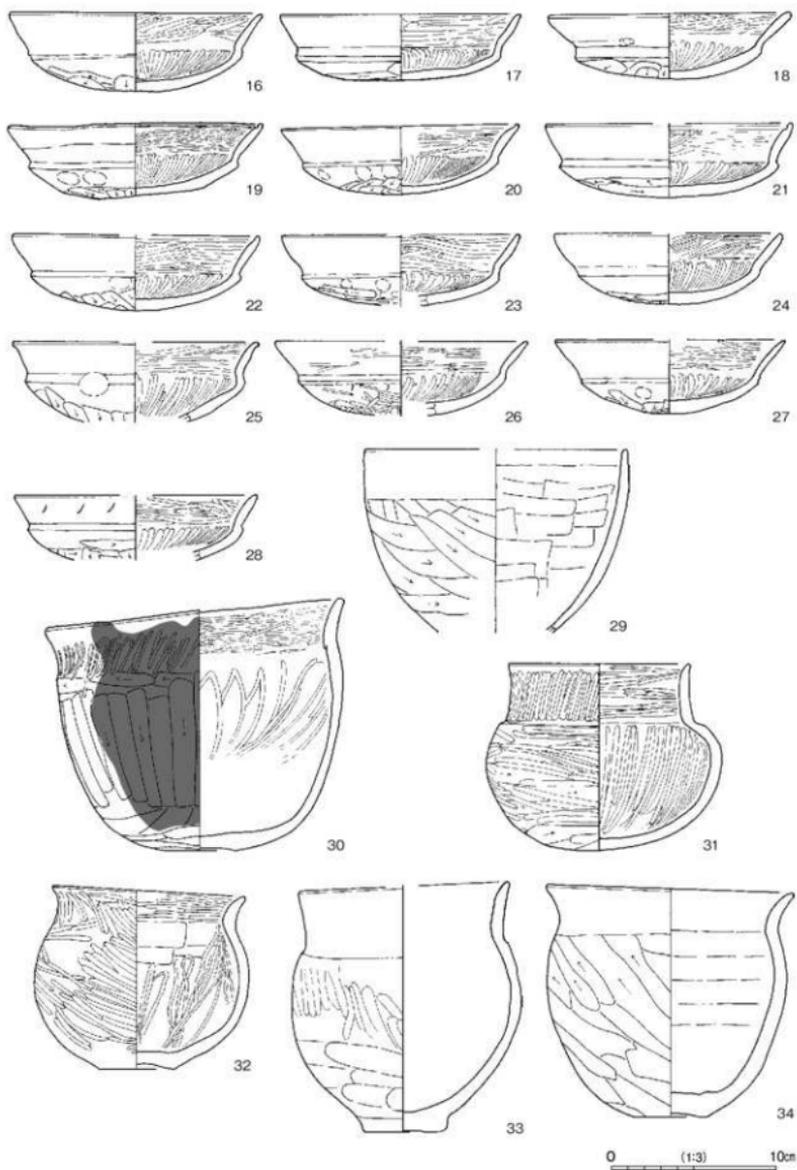
ピット土層解説 (高ビット内蔵)

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム小C^{*}・粒C / 粘B, 締B
 2 10YR3-2 黒褐色 ローム小C^{*}・粒B / 粘B, 締C

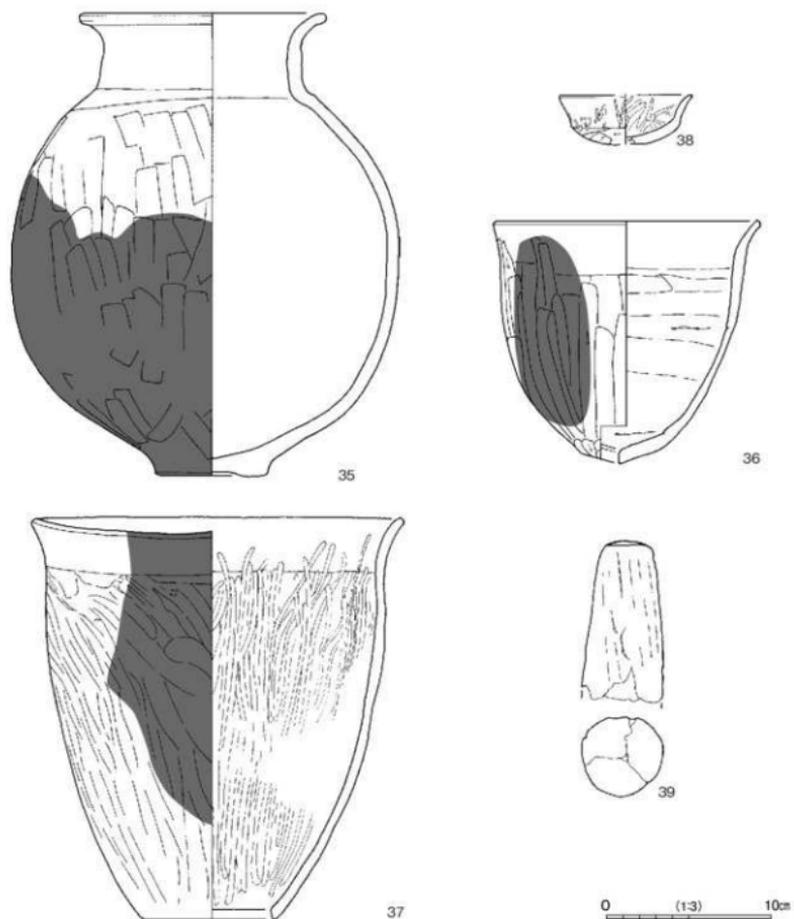
第170図 第90号竪穴建物跡実測図



第171图 第90号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第172图 第90号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第173図 第90号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第84表 第90号竪穴建物跡出土遺物一覧(第171～173図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[110]	36	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	覆土中層	80%
2	土師器	坏	116	44	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	床面	100% PL77
3	土師器	坏	117	39	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	覆土下層	100% PL78
4	土師器	坏	122	49	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	覆土下層	100% PL78
5	土師器	坏	119	47	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	覆土下層	100% PL78
6	土師器	坏	121	54	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	覆土下層	90% PL78

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
7	土師器	坏	128	4.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ヘラナデ	覆土下層	100% PL78
8	土師器	坏	137	4.4	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き 口縁部外面磨き 内面磨痕状に剥落	覆土上層	90% PL78
9	土師器	坏	139	4.0	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	100% PL78
10	土師器	坏	142	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	100% PL78
11	土師器	坏	147	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	100% PL78
12	土師器	坏	142	4.5	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	100% PL78
13	土師器	坏	146	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	90% PL78
14	土師器	坏	146	4.2	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	90% PL78
15	土師器	坏	151	4.4	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	90% PL79
16	土師器	坏	152	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層・中層	100% PL79
17	土師器	坏	144	4.0	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土中層	80%
18	土師器	坏	145	4.1	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土中層・下層	60%
19	土師器	坏	153	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土中層	60% PL79
20	土師器	坏	143	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	70% PL79
21	土師器	坏	[150]	4.5	-	長石・石英	橙	普通	口唇部外面横位へう磨き 口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土中層	50%
22	土師器	坏	[150]	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	50% PL79
23	土師器	坏	[144]	(4.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	40% PL79
24	土師器	坏	[137]	4.3	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土中	40%
25	土師器	坏	[146]	(4.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	40%
26	土師器	坏	[154]	(4.5)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土中	20%
27	土師器	坏	[139]	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	30%
28	土師器	坏	[148]	(4.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土下層	30%
29	土師器	鉢	[157]	(11.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	内面ヘラナデ	覆土中	40%
30	土師器	鉢	180	15.4	4.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面へう磨き 底部外面へう磨き 口縁部内面へう磨き 内面磨痕状に剥く剥落	床面	100% PL79
31	土師器	壺	108	11.5	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面へう磨き 口縁部内面へう磨き	床面	100% PL79
32	土師器	壺	117	11.2	4.6	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面へう磨き 口縁部内面へう磨き	火床部	90% PL79
33	土師器	甕	[126]	15.3	4.5	長石・石英	橙	普通	口縁部外面へう磨き 口縁部内面へう磨き 内面磨痕状に剥く剥落	覆土下層	60% PL79
34	土師器	甕	147	14.2	4.5	長石・石英	橙	普通	口縁部外面へう磨き 内面磨痕状に剥落	覆土下層	90% PL80
35	土師器	甕	147	28.3	6.9	長石・石英・黒粒	橙	普通	口縁部外面へう磨き 内面磨痕状に剥落	床面	60% PL80
36	土師器	瓶	159 - 184	14.8	2.3 - 2.9	長石・石英・赤色粒子	明赤褐 橙	普通	頸孔式	覆土下層	90% PL80
37	土師器	瓶	223	24.6	8.0	長石・石英	橙	良好	外面丁寧なヘラナデ 内面へう磨き 底部内面へう磨き 下平磨痕状に剥落 無底式	覆土下層	90% PL80
38	土師器	手拭土器	[7.8]	(3.0)	-	長石	橙	普通	口縁部外・内面磨き	覆土中	50%
番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土			特徴	出土位置	備考
39	支脚	3.0	(4.9)	(9.9)	(179)	長石・石英	全体に橙			覆土下層・火床部	

第91号竪穴建物跡 (第174・175図 PL23・24)

位置 調査区西部のI 4d1区、標高30mほどの微高地上に位置している。

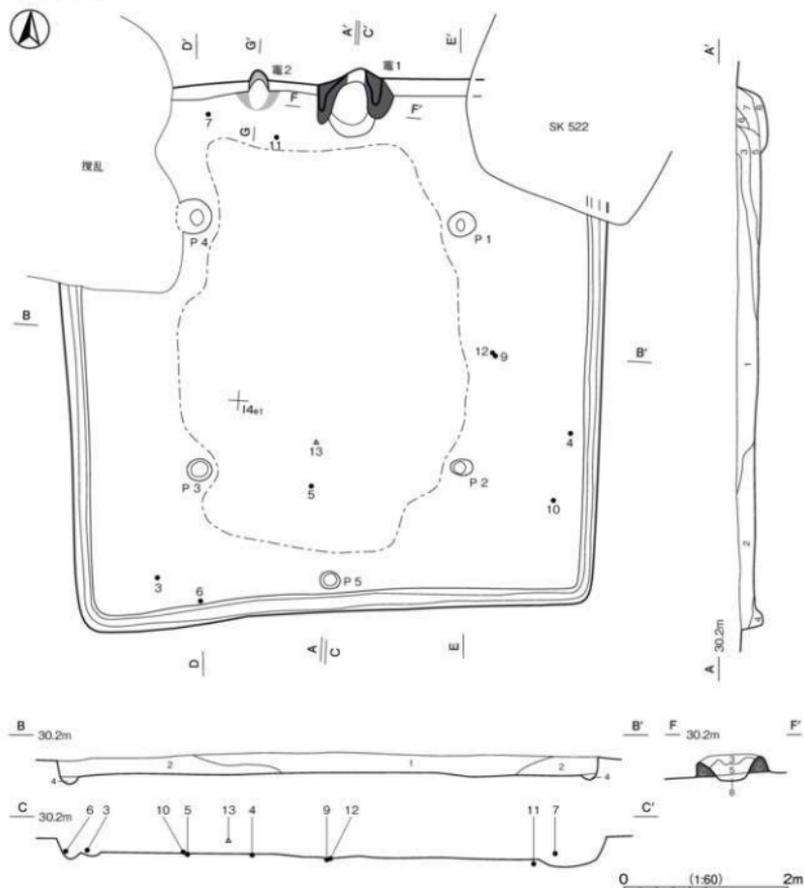
重複関係 第134号竪穴建物跡を掘り込み、第522号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.52m、短軸6.50mの方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁高は16～29cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が北壁を除き巡っている。

竈 2か所。北壁に付設されている。竈1の規模は焚口から煙道部まで85cmで、燃焼部幅は33cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第9層を積み上げて構築されている。火床部は床面から10cmほどくぼんで

おり、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に18cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第5～8層は竈に関連する堆積土である。竈2の規模は焚口から煙道部まで50cmで、燃焼部幅は55cmと推定される。竈2は袖部が遺存しておらず、火床部と煙道部の一部のみを確認した。火床部の底面と煙道部奥壁の一部が赤変している。竈2の袖が遺存していないことから、竈2から竈1へ作り替えたと考えられる。



土層解説

- | | | | |
|--------------|---|---------------|---|
| 1 10YR3/3 黒層 | ローム大D・中C・小B・粒B、焼土粒D'、粘B、締B | 6 10YR3/2 黒層 | ローム小C・粒C、焼土大C・中B・小B・粒B、炭化物D'・粒D'・粘B、締B |
| 2 10YR3/2 黒層 | ローム中D・小C・粒C、焼土粒D'、炭化物D' / 粘B、締B | 7 10YR2/2 黒層 | ローム中D・小C・粒C、焼土大B・中A・小A'・粒A'、炭化物D'・粒A'・粘B、締B |
| 3 10YR3/2 黒層 | ローム大D'・中D・小C・粒C、焼土中D'・小C・粒C、炭化物D' / 粘B、締B | 8 10YR4/4 黒層 | ローム中D・小C・粒C、焼土粒D、炭化物D' / 粘B、締B |
| 4 10YR3/3 粘層 | ローム小D・粒D、粘B、締B | 9 10YR4/3 土砂層 | ローム中D・小C・粒B、焼土粒D'、炭化物D'、砂質粘土粒B / 粘B、締B |
| 5 10YR2/2 黒層 | ローム小C・粒B、焼土粒D、炭化物D'、粘B、締B | | |

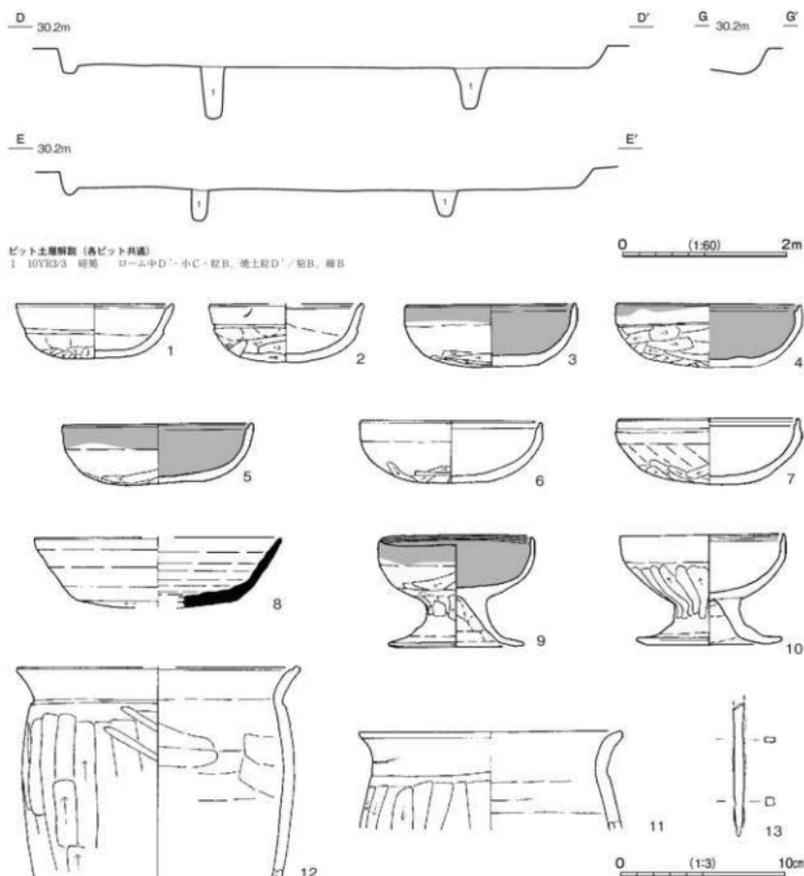
第174図 第91号竈穴建物跡実測図

ピット 5か所。P1～P4は深さ32～65cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ8cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片870点(坏686, 高坏5, 鉢2, 甕176, 瓶1), 須恵器片1点(坏), 土製品1点(支脚), 金属製品1点(鉄鏝), 焼成粘土塊2点(1780g)が出土している。11は北部の床面から、7は覆土下層から正位で出土している。4・9・12は東部の床面から4は正位で、9は横位で出土している。10は南東部の床面から出土している。5は南部の床面から正位で出土している。3・6は南西部の床面から3は横位で、6は正位で出土している。13は中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第175図 第91号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 85 表 第 91 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 175 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	96	33	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の重線	覆土中	90% PL80
2	土師器	坏	[91]	35	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	50%
3	土師器	坏	103	38	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	100% PL80
4	土師器	坏	111	38	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	90% PL80
5	土師器	坏	116	37	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	90% PL81
6	土師器	坏	110	37	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	床面	90% PL81
7	土師器	坏	109	41	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土下層	100% PL81
8	須恵器	坏	[150]	(43)	[96]	長石	灰白	普通	底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り	覆土中	30% PL81
9	土師器	高坏	94	68	82	長石・赤色粒子	にぶい橙	良好	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	80% PL81
10	土師器	高坏	100	67	89	長石・石英	にぶい橙	良好	口唇部内面沈線 全面黒色処理の重線	床面	90% PL81
11	土師器	甕	160	(60)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面腐付着	床面	10%
12	土師器	甕	(170)	(129)	-	長石・石英・礫	にぶい橙	普通	口唇部内面弱い沈線	床面	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	鉄鍬	(81)	06	05	(8.63)	鉄	三角断面方形 鋭縁より先断面長方形	覆土中層	

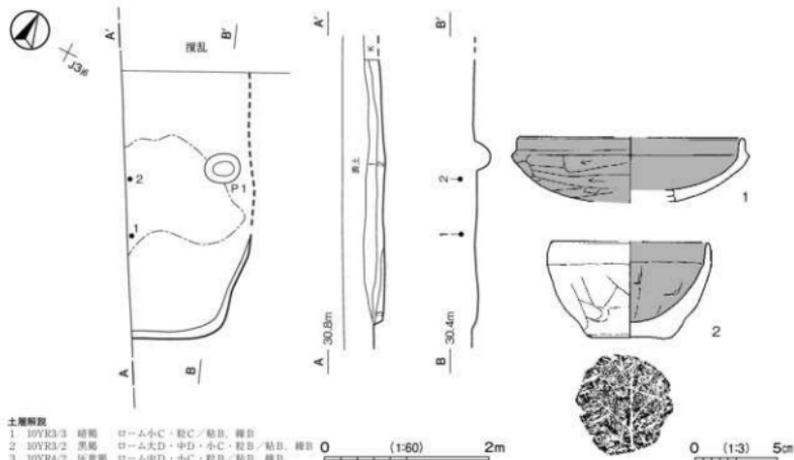
第 93 号竪穴建物跡 (第 176 図 PL24)

位置 調査区南部の J 36 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外へ延びており、北部が攪乱を受けているため、確認できた北西・南東軸は 3.27 m、南西・北東軸は 1.45 m で、方形または長方形と推定される。長軸方向は N-25°-W である。壁高は 15 ~ 23 cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P1 は深さ 16 cm で、性格不明である。



土層解説

1 10YR3/3 礫層 ローム小C・粒C・粘B、礫B

2 10YR3/2 黒層 ローム大D・中D・小C・粒B、粘B、礫B

3 10YR4/2 灰黄層 ローム中D・小C・粒B、粘B

第 176 図 第 93 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 28点(坏12、甕15、手捏土器1)が出土している。1・2は中央部の覆土上層から出土している。

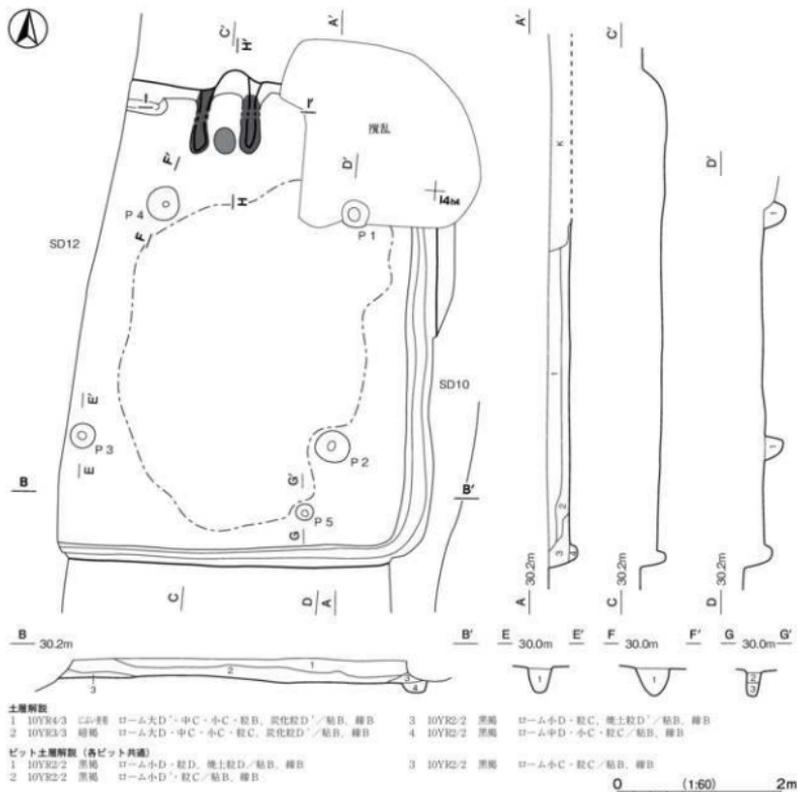
所見 時期は、出土土器から6世紀第3四半期に比定できる。

第86表 第93号竪穴建物跡出土遺物一覧(第176図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[135]	(3.9)	-	長石・雲母	黒黒	普通	外・内面黒色処理	覆土上層	20%
2	土師器	手捏土器	[94]	5.9	5.0	長石・石英	にぶい黒	普通	底部木葉痕 内面黒色処理	覆土上層	60%

第94号竪穴建物跡(第177・178図 PL24)

位置 調査区西部のI4h3区、標高30mほどの微高地上に位置している。



第177図 第94号竪穴建物跡実測図

重複関係 第10号溝、第12号堀に掘り込まれている。

規模と形状 東西を堀と溝に掘り込まれているため、確認できた南北軸は5.81m、東西軸は4.22mの方形または長方形で、主軸方向はN-2°-Wである。壁高は20～28cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた範囲で壁溝が全周している。

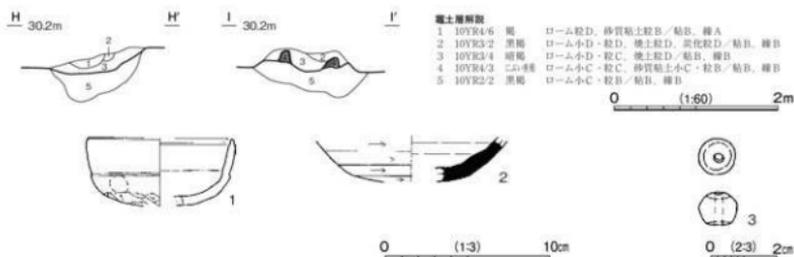
竈 北壁に付設されている。規模は焚口から煙道部まで135cmで、燃焼部幅は40cmである。竈は、地山を35cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第5層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、砂質粘土を含む第4層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に22cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

ピット 5か所。P1～P4は深さ22～34cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ32cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片264点（坏213、高坏1、鉢3、甕47）、須恵器片2点（瓶類）、土製品1点（土玉）が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第178図 第94号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第87表 第94号竪穴建物跡出土遺物一覧（第178図）

番号	器種	器形	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[87]	(4.1)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面割い沈瀝	覆土中	5%
2	須恵器	瓶類	-	(2.2)	-	長石	灰黄	普通	内面一部障灰	覆土中	5%
番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考	
3	土玉	1.1	1.0	0.2	1.31	長石	浅黄橙	一方向から穿孔	覆土中		

第95号竪穴建物跡（第179・180図 PL24）

位置 調査区西部の14b5区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第113・122号竪穴建物跡を掘り込み、第24号井戸、第10・16号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.57m、短軸5.43mの長方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は10～19cmで、外傾している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。南東コーナー部と南西コーナー部を除いて壁溝が巡っている。

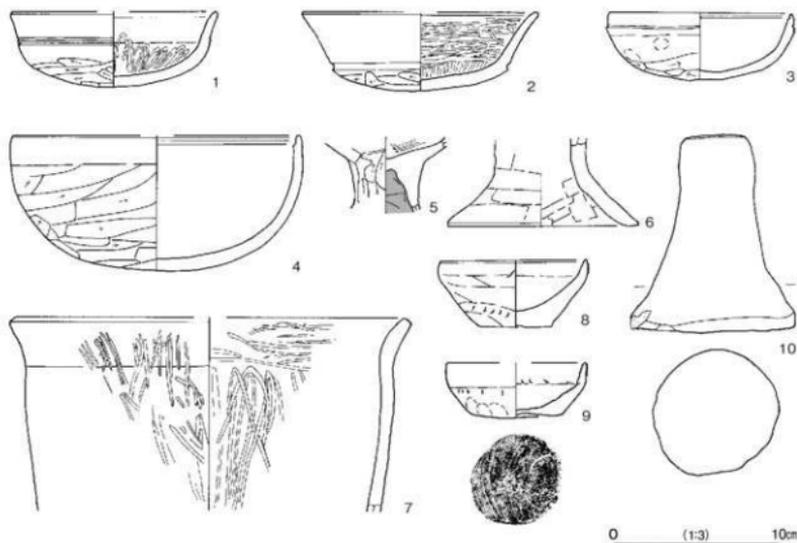
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで116cmで、燃焼部幅は39cmである。竈は、地山を12cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第9～11層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、砂質粘土を含む第6～8層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

ピット 4か所。P1～P4は深さ20～47cmで、性格不明である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片510点（坏400、碗1、高坏3、甕102、瓶1、手捏土器3）、須恵器片2点（甕）、土製品1点（支脚）、焼成粘土塊2点（13.15g）が出土しているほか、混入した土師器片1点（器台）も出土している。10は竈火床部、6は竈覆土下層から出土している。6は横位で出土している。3は西部、4は東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第1四半期に比定できる。



第180図 第95号竪穴建物跡出土遺物実測図

第88表 第95号竪穴建物跡出土遺物一覧（第180図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[123]	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内面放射状へう磨き	覆土中	40%
2	土師器	坏	[141]	4.8	-	長石・石英・雲母	橙	普通	底部外面縦いへう磨き 口縁部内面横位へう磨き 凸面放射状へう磨き	覆土中	50%
3	土師器	坏	[112]	4.0	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口縁部内面沈線	覆土下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
4	土師器	椀	[173]	8.3	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面化粧、口縁部外面・内面黒色処理の痕跡、内面放射状へつ磨き	覆土下層	40%
5	土師器	高坏	-	(46)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	坏部内面放射状へつ磨き、脚部内面黒色処理	覆土中	30%
6	土師器	高坏	-	(54)	11.6	長石・石英・赤母・胡麻	にぶい橙	普通	外・内面被熱により剥落	龍覆土下層	50%
7	土師器	瓶	[236]	(118)	-	長石・石英・赤母	橙	普通	外面粗いへつ磨き、口縁部内面横位へつ磨き	覆土中	10%
8	土師器	手捏土器	8.9	4.1	4.4	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	底部外面ナデ	覆土中	80%
9	土師器	手捏土器	[84]	3.4	5.7	長石・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	底部外面赤切り痕	覆土下層	70%

番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
10	支脚	3.1	(10.1)	12.1	(520)	長石・石英・胡麻・種子	全面被熱	龍覆土下層	PL99

第96号竪穴建物跡 (第181～184図 PL24・25)

位置 調査区西部のI45区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.50m、短軸5.36mの方形で、主軸方向はN-13°-Wである。壁高は18～28cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が全周している。南部から東部にかけて炭化材が出土し、焼土や炭化物がほぼ全面に堆積している。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで75cmで、燃焼部幅は46cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第11層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部はわずかに壁外に掘り込まれ、火床部からはほぼ直立して立ち上がっている。第8～10層は竈に関連する堆積土である。

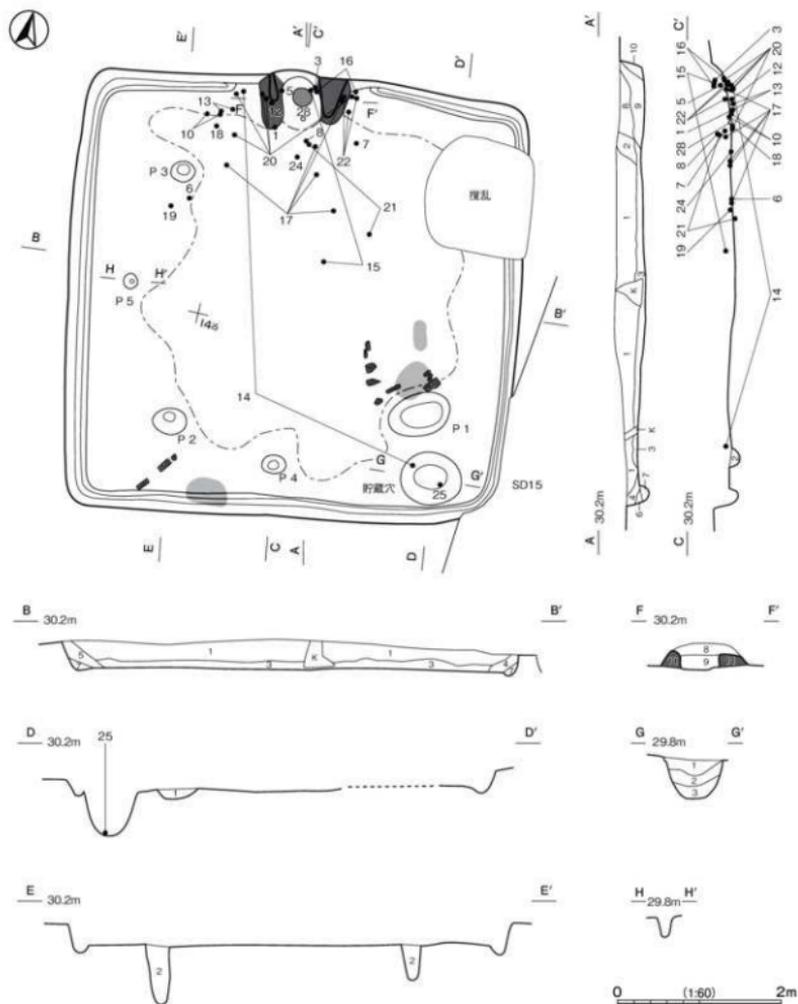
ピット 5か所。P1～P3は深さ14～74cmで、配置から主柱穴と考えられる。P4は深さ14cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ25cmで、性格不明である。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径75cm、短径67cmの楕円形である。深さは52cmほど、底面はU字状で、壁はほぼ直立している。3層に分層でき、焼土粒子や炭化粒子などが含まれていることから焼失時に埋没したと考えられる。

覆土 7層に分層できる。焼土ブロックや炭化物などが含まれており、竪穴建物焼失時の堆積土である。

遺物出土状況 土師器片987点(坏575、椀1、高坏2、鉢4、壺4、甕374、瓶26、手捏土器1)、須恵器片2点(瓶、甕)、土製品5点(支脚)、石器2点(紡錘車)、焼成粘土塊1点(548g)のほか、混入した土師質土器片1点(内耳鍋)が出土している。15・16は龍覆土下層から、3は覆土中層からそれぞれ出土している。28は竈焚口部から斜位で出土している。1・12は竈左袖付近から、20は左袖脇と右袖脇の床面から、5は竈左袖の上部から出土している。10・13・18は竈左袖脇の床面から出土している。22は竈右袖脇の覆土下層から出土している。24は竈前方部の床面から、7は覆土下層から、8は覆土中層から出土している。17・21は中央部と竈前方部の床面から覆土下層にかけてそれぞれ出土している。14は北部と南東部の覆土下層から出土している。6・19はP3周辺の床面から、それぞれ出土している。25は貯蔵穴の覆土下層から横位で出土している。

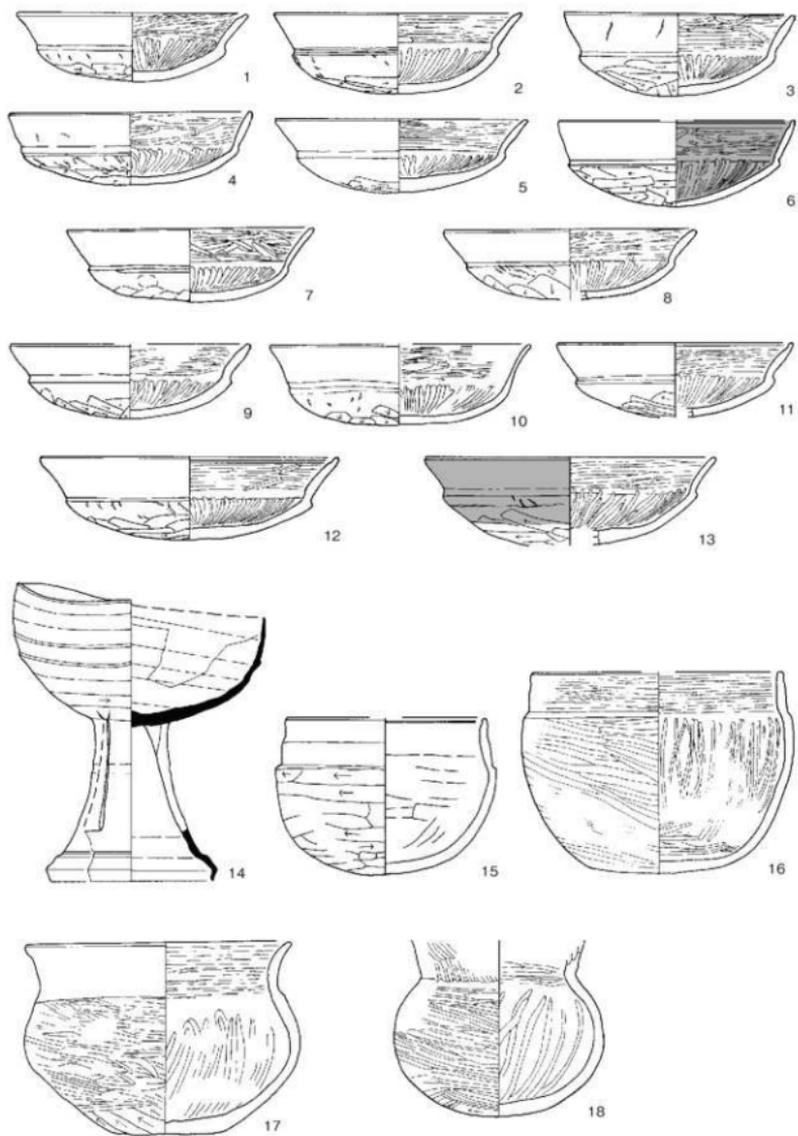
所見 時期は、出土土器から6世紀第2四半期に比定できる。焼土や炭化材、炭化物の出土状況から、焼失家屋と考えられる。



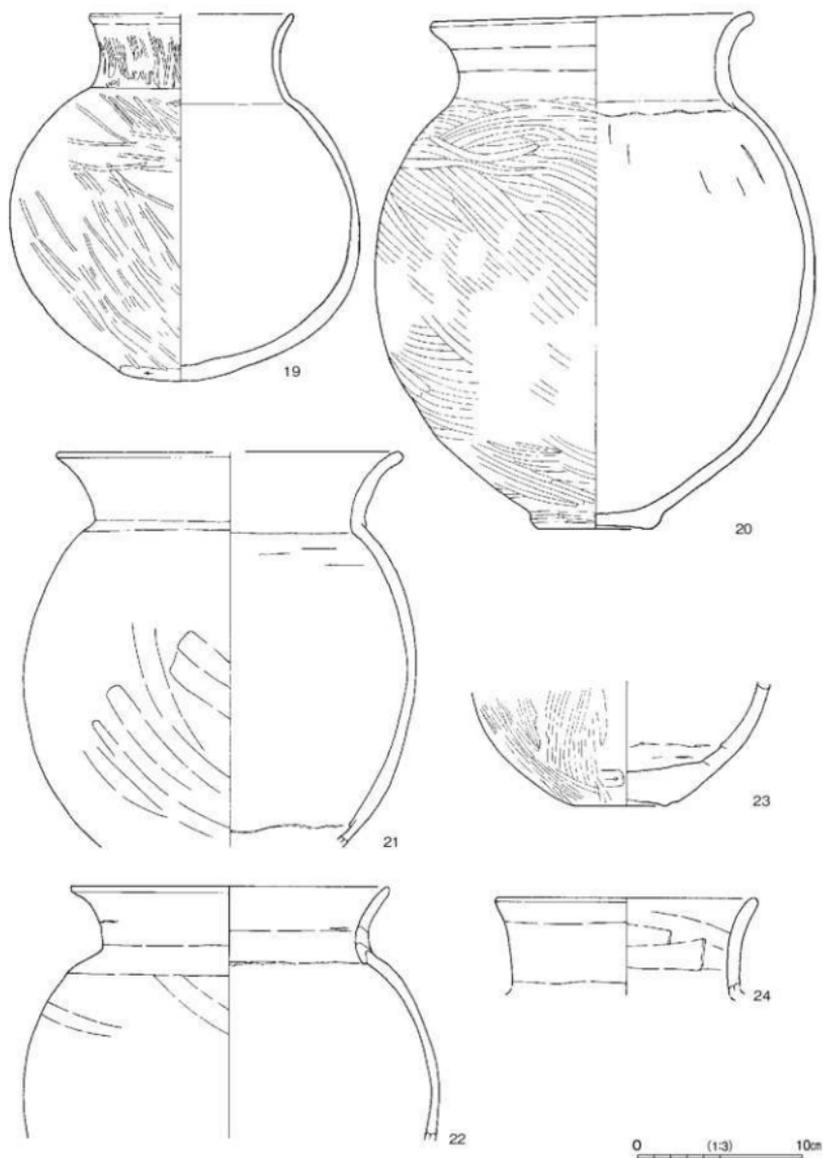
- 土層解説**
- | | | | |
|---|---------|-----|----------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 赤褐色 | ローム粒C、焼土粒C / 粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土小C・粒D / 粘B、雜B |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒C、炭化物C / 粘B、雜B |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土中D・小C / 粘B、雜B |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、粘B、雜B |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒C、焼土粒B / 粘B、雜B |
- 貯蔵穴土層解説**
- | | | | |
|---|---------|-----|----------------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 赤褐色 | ローム粒D、焼土粒C、炭化物C / 粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土粒C、炭化物C・粒C / 粘B、雜B |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D / 粘B、雜B |

- | | | | |
|----|---------|-------|---|
| 7 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム粒B、炭化粒D / 粘B、雜B |
| 8 | 10YR4/3 | こげ茶褐色 | ローム小C・粒C、焼土小C・粒B、炭化物D'・粒D / 粘B、雜B |
| 9 | 10YR4/3 | こげ茶褐色 | ローム中D'・小C・粒B、焼土大D'・中C・小B・粒A、炭化物D・粒C / 粘B、雜B |
| 20 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム中C・小C・粒B、焼土小D・粒D、炭化粒D' / 粘B、雜B |
| 11 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒D'、砂質粘土粒C / 粘B、雜A |
- ビット土層解説 (各ビット共通)**
- | | | | |
|---|---------|-----|-------------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒D、炭化粒D / 粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒B、焼土粒D、炭化粒C / 粘B、雜B |

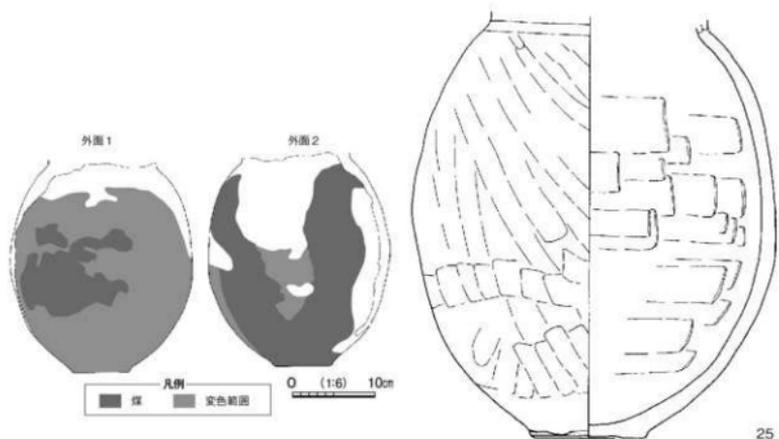
第 181 図 第 96 号 堅穴建物跡実測図



第 182 图 第 96 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



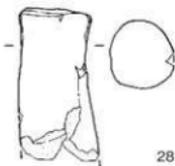
第 183 图 第 96 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



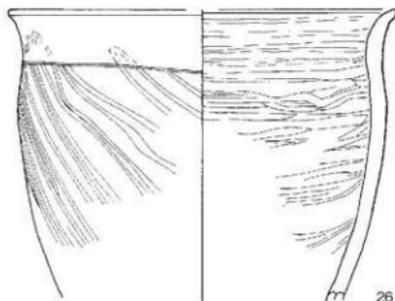
25



27

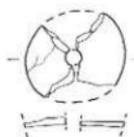


28

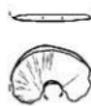


26

0 (1:3) 10cm



29



30

0 (1:2) 4cm

第184图 第96号竖穴建物跡出土遺物実測図(3)

第89表 第96号竪穴建物跡出土遺物一覧(第182～184図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土師器	坏	139	42	-	長石・石美・赤色粒子	明赤縄	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き	床面	90% PL81
2	土師器	坏	150	50	-	長石・石美・赤色粒子	赤	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き	覆土中	70% PL81
3	土師器	坏	138	50	-	長石・石美	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き	重覆土中層	80% PL81
4	土師器	坏	146	45	-	長石・石美・赤色粒子	明赤縄	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き	覆土中	60% PL81
5	土師器	坏	153	45	-	長石・石美・赤色粒子	赤	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き	覆土中層	70%
6	土師器	坏	[144]	55	-	長石・石美・赤色粒子・黒色粒子	橙	良好	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き 内面黒色処理	床面	60%
7	土師器	坏	148	45	-	長石・石美	明赤縄	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き	覆土下層	60%
8	土師器	坏	152 (4.3)	-	-	長石・石美	明赤縄	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き	覆土中層	60%
9	土師器	坏	[144]	46	-	長石・石美	明赤縄	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き	覆土中	30%
10	土師器	坏	[158]	50	-	長石・赤色粒子	明赤縄	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き	床面	40%
11	土師器	坏	142	45	-	長石・石美・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き	覆土中	60%
12	土師器	坏	180	51	-	長石・石美	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き	床面	100% PL81
13	土師器	坏	174	54	-	長石・石美・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き 口縁部一体部外面黒色処理	床面	80% PL81
14	須恵器	高坏	143-163	18.3	9.8	長石	灰	良好	全面障灰 脚部三方透かし		覆土下層	60% PL82
15	土師器	鉢	[120]	97	-	長石・石美	橙	普通	口唇部内面沈線		重覆土下層	60%
16	土師器	鉢	[150]	123	84	長石・石美	橙	普通	外へう磨き 口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内部内面横位へう磨き 内部内面一方向へう磨き	重覆土下層	80% PL82
17	土師器	鉢	160	118	70	長石・石美・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	内面放射状へう磨き 口縁部外面 内面黒色処理の痕跡 内面放射状へう磨き	覆土下層一床面	90% PL82
18	土師器	壺	- (108)	-	-	長石・石美・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位へう磨き 口唇部内面横位へう磨き	体外面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	床面	40%
19	土師器	壺	[122]	225	60	長石・石美・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 口唇部内面沈線	体部外面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	床面	70% PL82
20	土師器	甕	192	316	78	長石・石美・細粒	にぶい靑	普通	外・内面被熱により剥落	底部外面ナデ	床面	70% PL82
21	土師器	甕	[206]	[242]	-	長石・石美	にぶい靑	普通	体部内面下手被熱により剥落		覆土下層一床面	40% PL102
22	土師器	甕	193 (15.4)	-	-	長石・石美・細粒・黒色粒子	にぶい靑	普通	内面被熱により剥落		覆土下層	30%
23	土師器	甕	- (76)	54	-	長石・石美・細粒・赤色粒子	にぶい靑	普通	外・内面被熱により調整不明瞭		覆土中	10%
24	土師器	甕	156 (5.9)	-	-	長石・石美	にぶい靑	普通	底部外面・内面摩滅により調整不明瞭		床面	20%
25	土師器	甕	- (86.1)	70	-	長石・石美・細粒	にぶい靑	普通	外面障付着 底部外面周縁部へう磨り	内面摩滅により調整不明瞭	竪穴覆土下層	80% PL82
26	土師器	甕	[234]	[178]	-	長石・石美・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	外面被熱によりやや剥落		覆土中	20%
27	土師器	手取土器	- (2.9)	[5.7]	-	長石	橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡		覆土中	30%
番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴		出土位置	備考		
28	支脚	4.4 (4.9)	(9.4)	(15.8)		長石・石美	全面被熱	全面ナデ	床面			
番号	器種	上径	下径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
29	石製 灰土障壁	-	-	(0.4)	(0.6)	(4.27)	頁岩	外縁部研磨 上端・下縁研磨	覆土中	30 上同一a		
30	石製 灰土障壁	-	(3.3)	(0.3)	0.7	(3.15)	頁岩	下面・外縁部研磨 上縁研磨	覆土中	29 上同一a PL104		

第97号竪穴建物跡(第185図 PL25)

位置 調査区南部のJ 3区7区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第71・72号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.59m、短軸3.06mの長方形で、主軸方向はN-47°-Wである。壁高は7～15cmで、外傾している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

竈 北西壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで98cmで、燃焼部幅は16cmである。竈は、地山を5cmほど掘りくぼめ、ローム粒子などを含む第7層を埋土して整地されている。袖部は整地面の

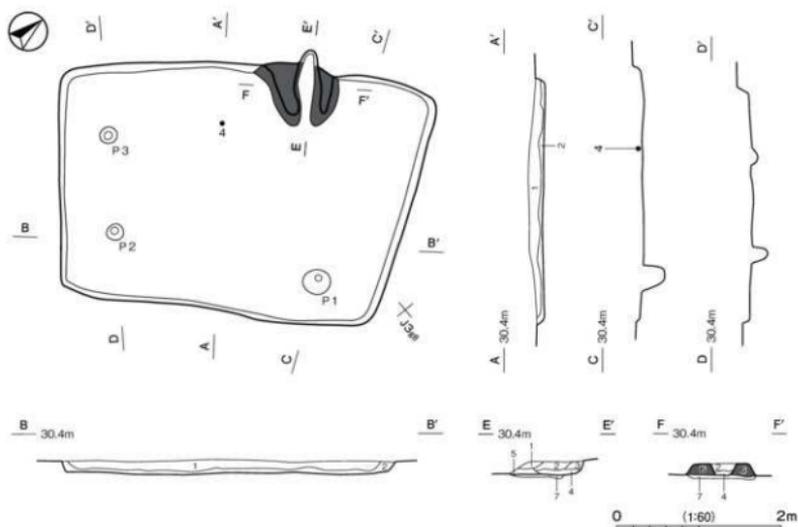
に、砂質粘土を含む第6層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁内に18cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

ピット 3か所。P1～P3は深さ6～28cmで、性格は不明である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片76点(坏58, 高坏2, 甕15, 手捏土器1)が出土している。4は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。

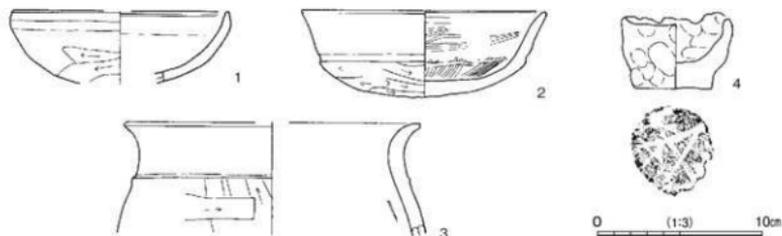


土器解説

- 1 10YK3-4 埴輪 ローム中D・小D・粒C/粘B、雜B
2 10YK5-6 黄陶 ローム中D・小C・粒C/粘B、雜B

甕土器解説

- 1 10YK3-4 埴輪 ローム小D・粒C/粘B、雜B
2 10YK2-3 埴輪 ローム小C・粒C、砂質粘土粒D/粘B、雜B
3 10YK4-6 甕 ローム中C・小C・粒B/粘B、雜B
4 10YK3-4 埴輪 ローム小C・粒B/粘B、雜B
5 10YK5-6 黄陶 ローム小C・粒C/粘B、雜B
6 10YK5-6 黄陶 ローム粒D、砂質粘土粒B/粘B、雜A
7 10YK3-2 黄陶 ローム小D・粒D/粘B、雜B



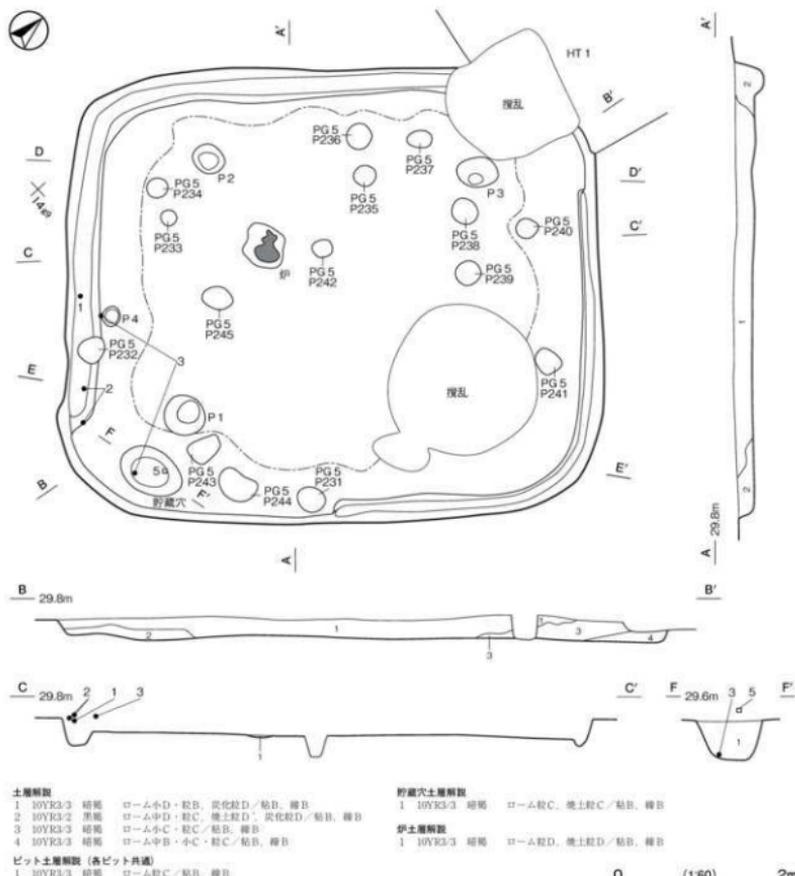
第185図 第97号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第90表 第97号竪穴建物跡出土遺物一覧(第185図)

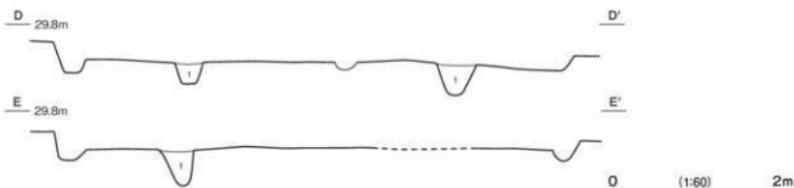
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[132]	(4.4)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部内面削り沈線	覆土中	20%
2	土師器	坏	149	5.3	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面横位のへり磨き 内面放射状へり磨き	覆土中	60% PL82
3	土師器	壺 [178]	(7.0)	-	-	長石・石英・細礫	にぶい黄褐色	普通	外・内面一部保存	覆土中	5%
4	土師器	手捏土器	64	4.8	4.7	長石・石英	にぶい橙	普通	底部外面横位の圧痕	覆土下層	100% PL82

第98号竪穴建物跡(第186~188図 PL25)

位置 調査区南部のI49区。標高30mほどの微高地上に位置している。



第186図 第98号竪穴建物跡実測図(1)



第187図 第98号竪穴建物跡実測図②

重複関係 第1号方形竪穴遺構、第5号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.52m、短軸5.54mの隅丸長方形で、主軸方向はN-40°-Eである。壁高は26cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、全体が踏み固められている。北コーナー部と南コーナー部を除き壁溝が巡っている。

炉 中央部の西寄りに付設された地床炉である。長径60cm、短径50cmの不整楕円形で、炉床面は赤変している。

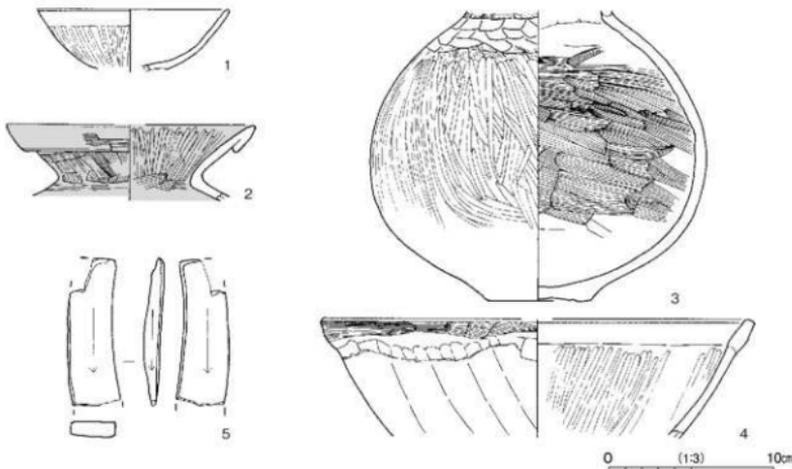
ピット 4か所。P1～P3は深さ27～44cmで、配置から支柱穴である。P4は深さ25cmほどで、性格は不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長径80cm、短径55cmの楕円形である。深さは48cmほど、断面形はU字状で、壁はほぼ直立している。単一層で、焼土粒子などが含まれていることから人為堆積である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片91点（坏8、埴2、高坏1、壺48、甕30、鉢形瓶1、手捏土器1）、石器1点（砥石）が出土している。1・2は南西コーナー部の覆土上層から、3は覆土上層と貯蔵穴覆土下層からそれぞれ出土している。4は鉢形の単孔式甕と考えられる。

所見 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第188図 第98号竪穴建物跡出土遺物実測図

第91表 第98号竪穴建物跡出土遺物一覧(第188図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土脚部	高坏	11.7	3.6	-	長石・石英・雲母	に深い橙	普通	外・内面厚減により調整不明瞭	覆土層	30%
2	土脚部	壺	15.0	4.6	-	長石・石英	に深い赤褐色	普通	外・内面赤彩	覆土層	5%
3	土脚部	壺	-	18.0	6.0	長石・石英	橙	普通	底部外面へラ削り	覆土層・ 砂質土層下層	40%
4	土脚部	鉢形瓶	25.6	7.3	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内面へラ削き	覆土層	10%

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
5	紙石	9.0	2.9	0.9	35.04	凝灰岩	紙面4面	覆土層	

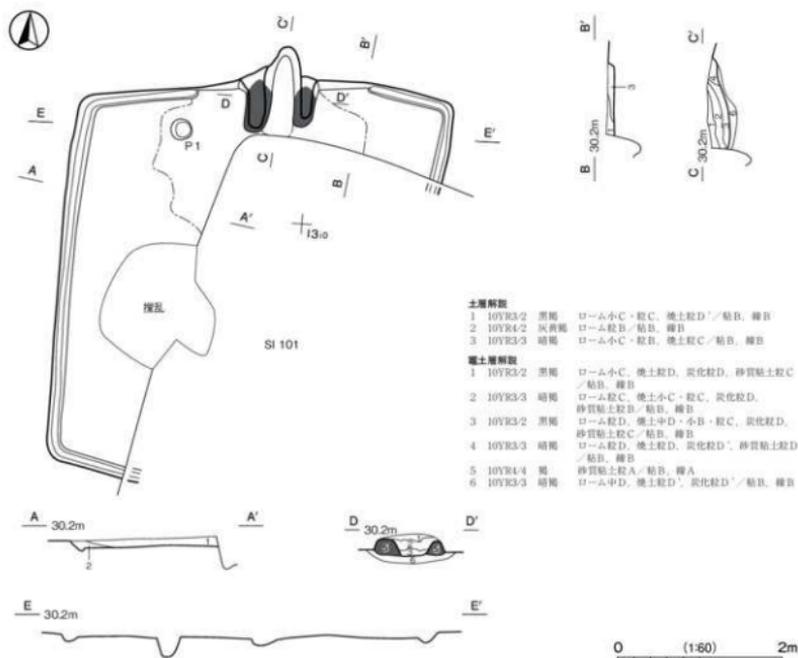
第100号竪穴建物跡(第189・190図 PL25・26)

位置 調査区西部のI319区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第101号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 南東部の大半が第101号竪穴建物に掘り込まれている。長軸4.76m、短軸4.50mの長方形で、主軸方向はN-3'-Eである。壁高は8~12cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 平坦で、竈周辺が踏み固められている。確認できた範囲で壁溝が全周している。



第189図 第100号竪穴建物跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで106cmで、燃焼部幅は30cmである。竈は、地山を10cmほど掘りくぼめた部分にロームブロックなどを含む第6層を埋土して整地されている。袖部は整地地面の上に、砂質粘土を含む第5層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外から36cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

ピット P1は深さ25cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。層厚が薄く、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片50点(坏43, 甕7)が出土している。1は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



0 (1:3) 10cm

第190図 第100号竪穴建物跡出土遺物実測図

第92表 第100号竪穴建物跡出土遺物一覧(第190図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	106	36	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	50%

第101号竪穴建物跡(第191・192図 PL26)

位置 調査区西部のI3i0区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第100・102号竪穴建物跡を掘り込み、第103号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.00m、短軸5.50mの長方形で、主軸方向はN-7°-Eである。壁高は30~36cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、ほぼ全体が踏み固められている。壁溝が全周している。北東コーナー部の床面から覆土下層にかけて粘土塊を確認した。

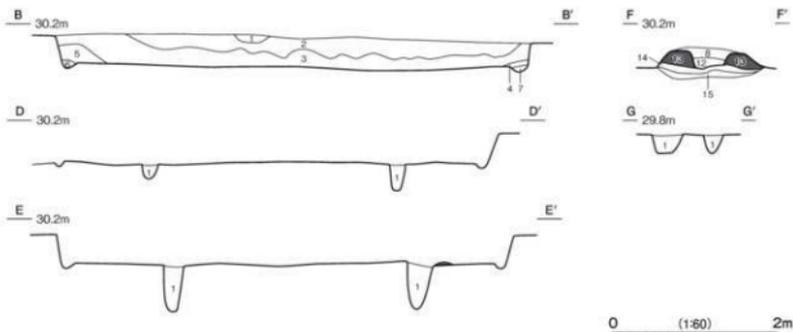
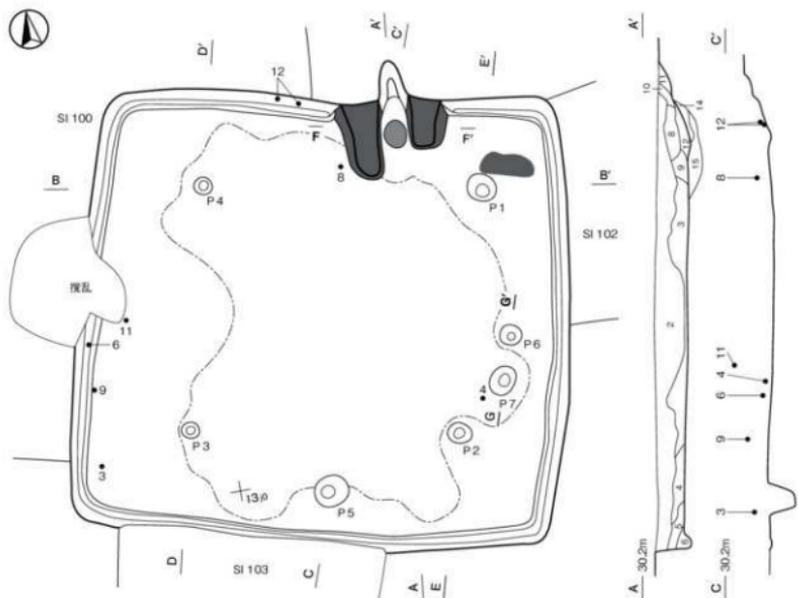
竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで148cmで、燃焼部幅は34cmである。竈は、地山を15cmほど掘りくぼめた部分にロームブロックなどを含む第14・15層を埋土して整地されている。袖部は整地地面の上に、砂質粘土を含む第13層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外から50cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第8~12層は竈に関連する堆積土である。

ピット 7か所。P1~P4は深さ18~58cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ32cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7はいずれも深さ22cmで、性格不明である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片613点(坏500, 碗4, 鉢3, 甕104, 手捏土器2), 須恵器片1点(瓶), 土製品2点(土玉, 支脚), 焼成粘土塊14点(13723g)が出土している。8・12は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。4は東部の覆土下層から出土している。3は南西部の覆土中層から逆位で出土している。6は覆土下層, 9・11は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



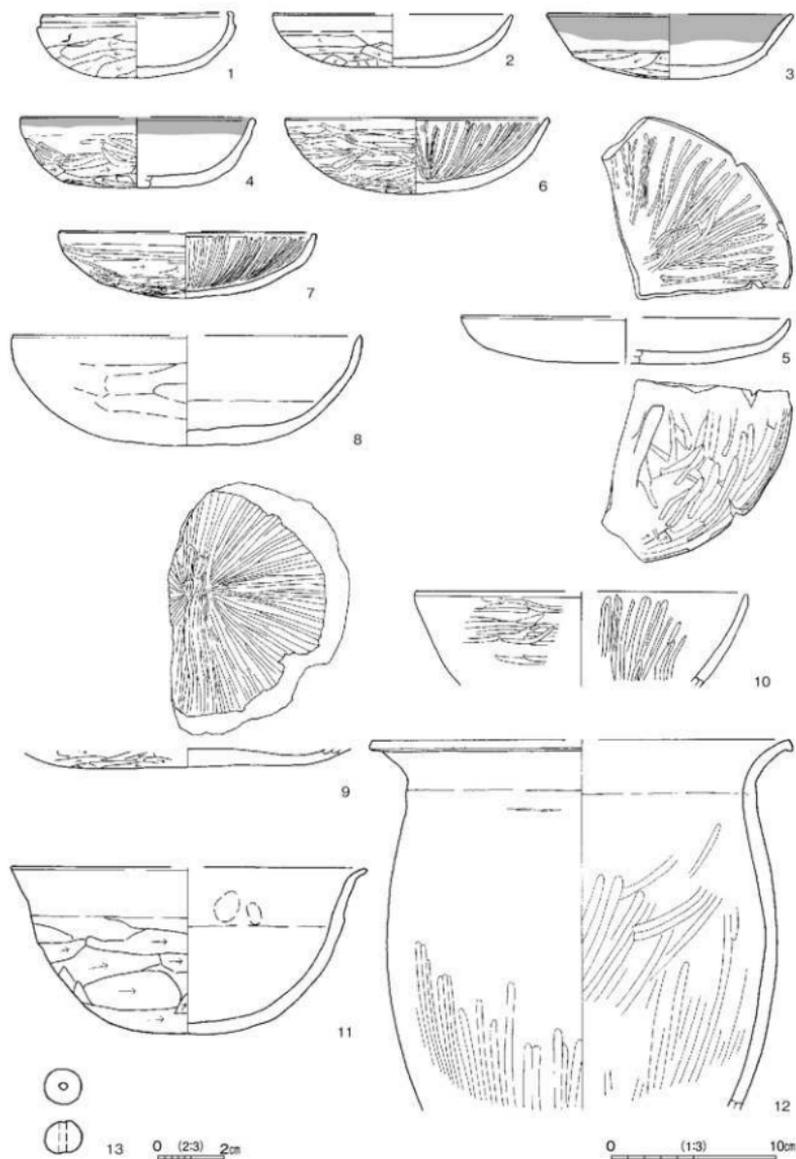
土層解説

- | | | | |
|---------------|------------------------------------|----------------|---------------------------------|
| 1 10YR2/1 黒 | ローム粒C、焼土粒D/粘土、礫B | 9 10YR3/2 黒褐色 | ローム粒C、焼土粒D、砂質粘土粒B/粘土、礫B |
| 2 10YR3/2 黒褐色 | ローム中C・小B・粒B、焼土粒D/粘土、礫B | 10 10YR4/4 褐 | ローム小C・粒B、焼土粒C、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘土、礫B |
| 3 10YR3/3 暗褐色 | ローム中D・小C・粒B、焼土粒D/粘土、礫B | 11 10YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粒C/粘土、礫B |
| 4 10YR2/2 黒褐色 | ローム小C・粒C/粘土、礫B | 12 10YR3/4 暗褐色 | ローム粒C、焼土中C・小C・粒B、砂質粘土粒C/粘土、礫B |
| 5 10YR3/1 黒褐色 | ローム小C・粒B、焼土粒D/粘土、礫B | 13 10YR5/6 黄褐色 | ロームC、砂質粘土粒B/粘土、礫A |
| 6 10YR4/3 暗褐色 | ローム小B・粒A、焼土粒D/粘土、礫B | 14 10YR2/2 黒褐色 | ローム小C・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘土、礫B |
| 7 10YR4/2 暗褐色 | ローム小B・粒A、焼土粒D/粘土、礫B | 15 10YR4/6 褐 | ローム小B・粒B、焼土粒D、炭化粒C/粘土、礫B |
| 8 10YR4/6 褐 | ローム粒C、焼土大D・小C・粒B、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘土、礫A | | |

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小C・粒C/粘土、礫B

第191図 第101号堅穴建物跡実測図



第 192 图 第 101 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第93表 第101号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第192図)

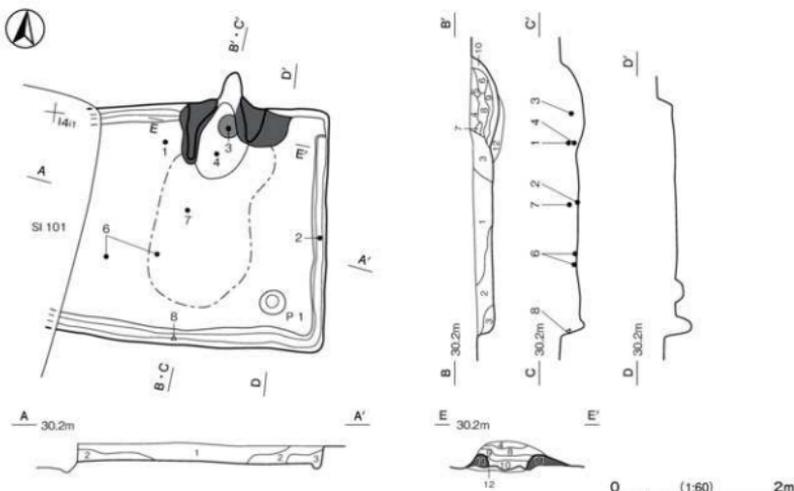
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土脚部	坏	11.2	3.9	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	80% PL83
2	土脚部	坏	[146]	3.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面ナゲ	覆土中	30%
3	土脚部	坏	[148]	4.0	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面黒色処理	覆土中層	50%
4	土脚部	坏	[142]	4.2	8.7	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面弱い沈線 口縁部外・内面黒色処理の痕跡	覆土下層	50%
5	土脚部	坏	[200]	2.8	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面横位へラ磨き 底部外面へラ磨き 内面放射状へラ磨き	覆土中	20% PL83
6	土脚部	坏	15.9	4.6	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	良好	体部外面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き 外・内面平手状に黒色処理痕跡	覆土下層	100% PL83
7	土脚部	坏	[154]	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	良好	体部外面横位へラ磨き 底部外面へラ磨き 唇部内面弱い沈線 内面放射状へラ磨き	覆土中	40%
8	土脚部	碗	[21.2]	6.7	-	長石・石英・赤色粒子	褐灰	普通	外面やや縦熟	覆土中層	50%
9	土脚部	碗	-	(1.1)	[120]	長石・赤色粒子	にぶい黄緑	普通	内面放射状へラ磨き	覆土上層	5%
10	土脚部	鉢	[20.1]	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面横位へラ磨き 内面縦位へラ磨き	覆土中	5%
11	土脚部	鉢	[21.6]	10.2	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	外面やや縦熟	覆土上層	50%
12	土脚部	甕	(25.3)	(22.8)	-	長石・石英・糊礫	橙	普通	外面縦熟 体部内面縦熟	覆土中層	20%

番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
13	土玉	1.1	1.0	0.2	1.24	石英	灰黄褐	一方向から穿孔	覆土中	

第102号竪穴建物跡 (第193・194図 PL26)

位置 調査区南部のI4区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第101号竪穴建物に掘り込まれている。



土層解説

- | | | | | | | | |
|---|---------|-----|------------------------|----|---------|-----|------------------------------|
| 1 | 10YR3-2 | 黒褐色 | ローム小C・粒B/粘B、雜B | 7 | 10YR4-6 | 褐 | 焼土小C・粒B、炭化粒C・粘B、雜B |
| 2 | 10YR2-3 | 黒褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒D/粘B、雜B | 8 | 10YR3-4 | 暗褐色 | ローム粒D、焼土粒C、炭化粒D、砂質焼土粒B/粘B、雜B |
| 3 | 10YR3-4 | 暗褐色 | ローム中D・小B・粒A、焼土粒D/粘B、雜B | 9 | 10YR3-3 | 暗褐色 | ローム粒D/粘B、雜B |
| 4 | 10YR3-4 | 暗褐色 | ローム粒D、砂質焼土粒C/粘B、雜B | 10 | 10YR3-4 | 暗褐色 | ローム小C・粒C/粘B、雜B |
| 5 | 10YR3-4 | 暗褐色 | ローム小D・粒D/粘B、雜B | 11 | 10YR2-6 | 黄褐色 | ローム粒D、砂質焼土粒B、粘B、雜A |
| 6 | 10YR3-2 | 黒褐色 | ローム小C・粒C/粘B、雜B | 12 | 10YR2-2 | 黒褐色 | ローム小C・粒B/粘B、雜C |

第193図 第102号竪穴建物跡実測図

規模と形状 西部が重複しており、確認できた東西軸は3.24 m、南北軸は2.94 mの長方形で、主軸方向はN-5°-Eである。壁高は20cmで、外傾している。

床 平坦で、竈前方部から中央部にかけて踏み固められている。確認できた範囲では壁溝がほぼ全周している。

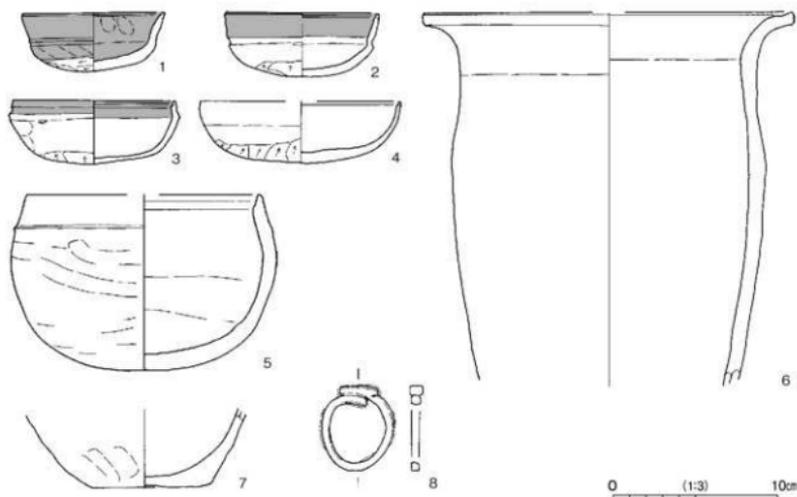
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで135cmで、燃烧部幅は40cmである。竈は、地山を10cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第12層を埋土して整地されている。右袖部は地山、左袖部は整地面の上に、砂質粘土を含む第11層を積み上げて構築されている。火床部は床面から10cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外から40cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第4～10層は竈に関連する堆積土である。

ピット P1は深さ12cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片583点(坏523、碗5、鉢2、甕53)、須恵器片2点(瓶、甕)、土製品4点(支脚)、金属製品1点(不明鉄製品)、焼成粘土塊1点(11.65g)が出土している。4は竈焚口部の覆土下層から、3は火床部の覆土中層から出土している。1は北部の覆土中層から出土している。2は東部の壁溝覆土上層から出土している。6は中央部の床面から、7は覆土中層から出土している。8は南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第194図 第102号竈穴建物跡出土遺物実測図

第94表 第102号竈穴建物跡出土遺物一覧(第194図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	8.6	3.6	-	長石・石英	に・い・橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部・体部外面・内面黒色処理	覆土中層	80% PL83
2	土師器	坏	9.3	3.9	-	石英	に・い・橙	良好	口唇部内面沈線 口縁部外・内面黒色処理	壁溝覆土上層	100% PL83
3	土師器	坏	9.9	3.9	-	長石・石英・雲母	に・い・橙	良好	口唇部内面沈線 口縁部外・内面黒色処理	竈覆土中層	90% PL83

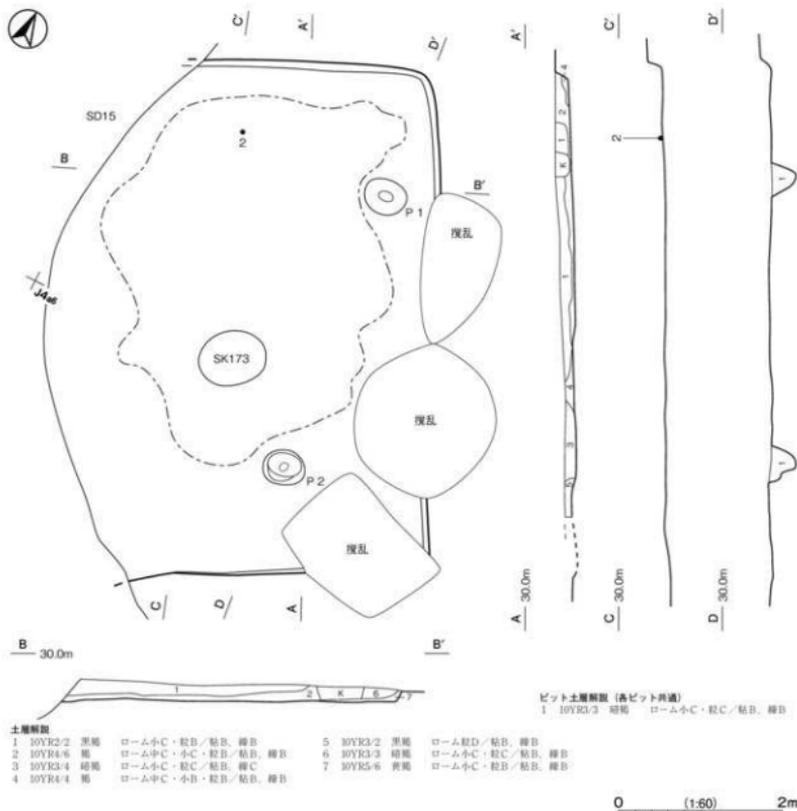
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
4	土師器	坏	[121]	38	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい 黄褐色	普通	口径部内面沈線	産覆土下層	90% PL83
5	土師器	鉢	[142]	107	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい 赤褐色	普通	外・内面ナデ	覆土中	40%
6	土師器	甕	[223]	[229]	-	長石・石英	にぶい期	普通	外・内面摩滅により調整不明瞭	床面	20%
7	土師器	甕	-	[48]	66	長石・石英	にぶい期	普通	底部外面ヘラ削り	覆土中層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
8	不明 鉄製品	5.1	4.3	0.8	22.54	鉄	断面方形 扉の接合部やや扁平化する	覆土中層	馬具、 PL104

第107号竪穴建物跡 (第195・196図 PL26)

位置 調査区中央部のI4j6区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第174号土坑を掘り込み、第173号土坑、第15号溝に掘り込まれている。



第195図 第107号竪穴建物跡実測図

規模と形状 西部が第15号溝に掘り込まれており、北西・南東軸は6.30m、北東・南西軸は4.75mしか確認できなかった。北西・南東軸方向はN-27°-Wで、方形または長方形と推定される。壁高は12～16cmで、外傾している。

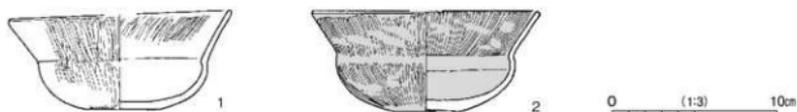
床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ30・32cmで、性格不明である。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片258点(埴38, 器台2, 壺57, 甕161)のほか、混入した土師器片129点(坏116, 椀8, 高坏1, 鉢4), 土師質土器片10点(小皿1, 内耳鍋9), 陶器片2点(甕)が出土している。1は覆土中から、2は北部床面から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。



第196図 第107号竪穴建物跡出土遺物実測図

第95表 第107号竪穴建物跡出土遺物一覧(第196図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	埴	[135]	6.2	4.5	長石・石英	明赤褐色	普通	底部外面へラ張り	覆土中	50%
2	土師器	埴	[137]	6.2	4.0	長石・石英・ 赤鉄鉱子・濃鉄鉱子	橙	普通	底部外面へラ張り 外・内面赤彩	床面	40%

第109号竪穴建物跡(第197～199図 PL26)

位置 調査区西部のJ4a2区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第5・12号堀, 第20号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.23m、短軸6.20mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は24～36cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南部の一部で壁溝を確認した。

竪 第12号堀に掘り込まれており、残存している竪部材から北壁中央部に付設されていたと考えられる。左袖部は地山の上に砂質粘土を含む第1～3層を積み上げて構築されている。

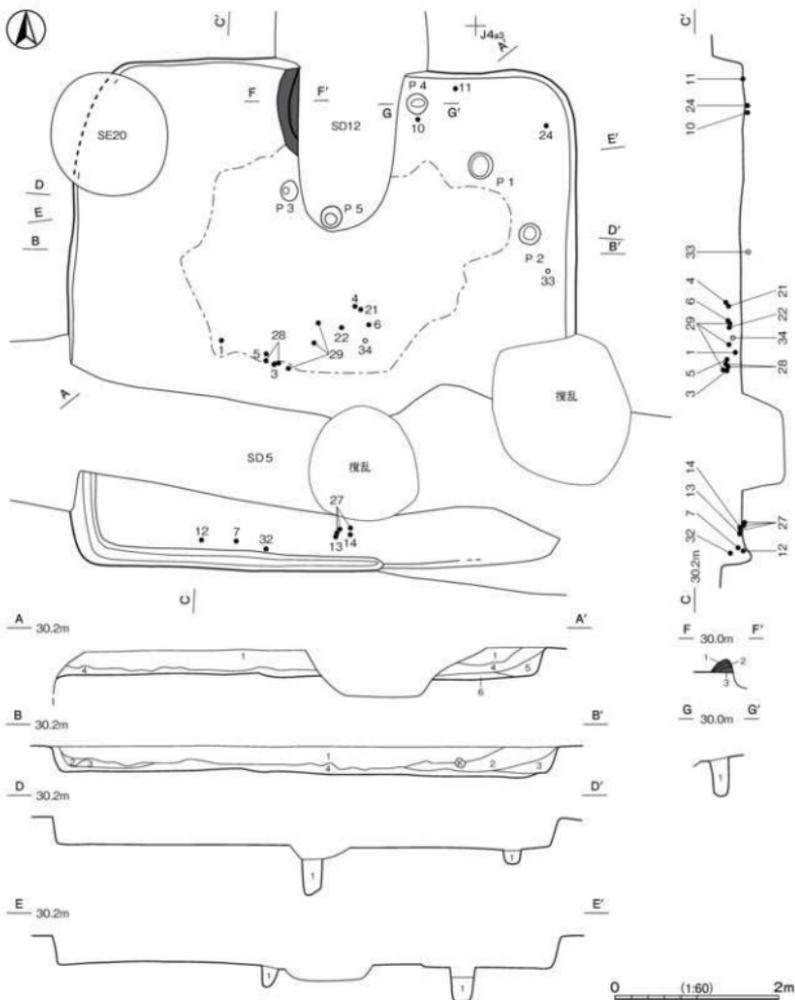
ピット 5か所。P1～P5は深さ18～62cmで、性格不明である。

覆土 6層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片1,107点(坏627, 椀1, 高坏5, 鉢5, 甕466, 瓶3), 須恵器片9点(坏1, 瓶4, 甕2, 短頸壺1, 長頸瓶1), 土製品4点(土玉1, 支脚3), 石器2点(礫), 石製品1点(白玉), 焼成粘土塊1点(6.85g), 鉄滓1点が出土しているほか、混入した陶器片1点(瓶子)も出土している。出土位置は、大きく北東部と南壁際の床面から覆土下層と、中央部の覆土中層に分かれている。1・34は中央部の覆土下層、3～6・21・22・28・29は覆土中層から出土している。10・11は北部の床面から出土している。24は北東部の床面から、逆位で出土している。33は東部の床面から出土している。13・14・27は南部の床面から、7・12は覆土下層から斜位で、32は覆土中層から出土している。13・14は正位で出土している。25は覆土中からの出土であり、第5・12号堀, 第20号井戸からの混入と考えられるが、いずれの遺構に伴うものかは不明で

あるため、本跡に掲載する。

所見 時期は、出土土器から6世紀第3四半期に比定できる。



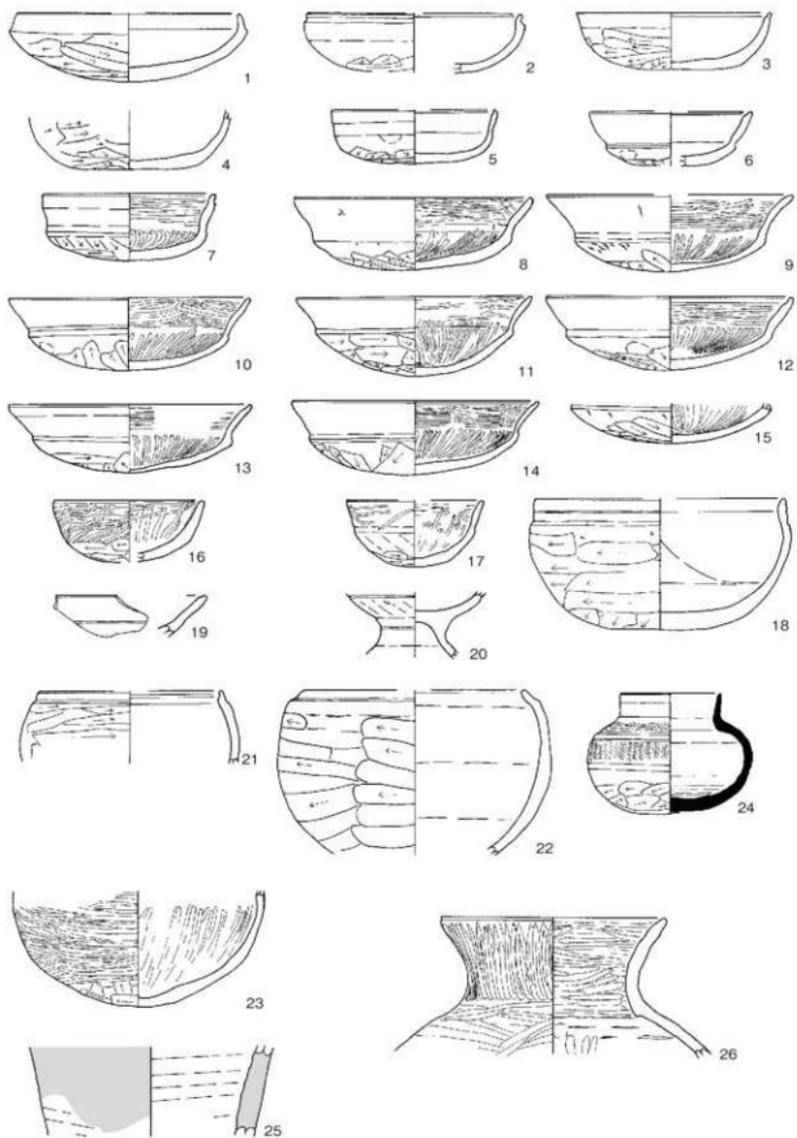
土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|-------------------|
| 1 | 10YR2-2 | 黒褐色 | ローム小D・粒D/粘B、雜C |
| 2 | 10YR3-3 | 暗褐色 | ローム小D・粒D/粘B、雜B |
| 3 | 10YR3-4 | 暗褐色 | ローム中C・小C・粒C/粘B、雜B |
| 4 | 10YR3-4 | 暗褐色 | ローム小C・粒C/粘B、雜B |
| 5 | 10YR4-4 | 褐色 | ローム中D・小C・粒B/粘B、雜B |
| 6 | 10YR4-6 | 褐色 | ローム小C・粒B/粘B、雜B |

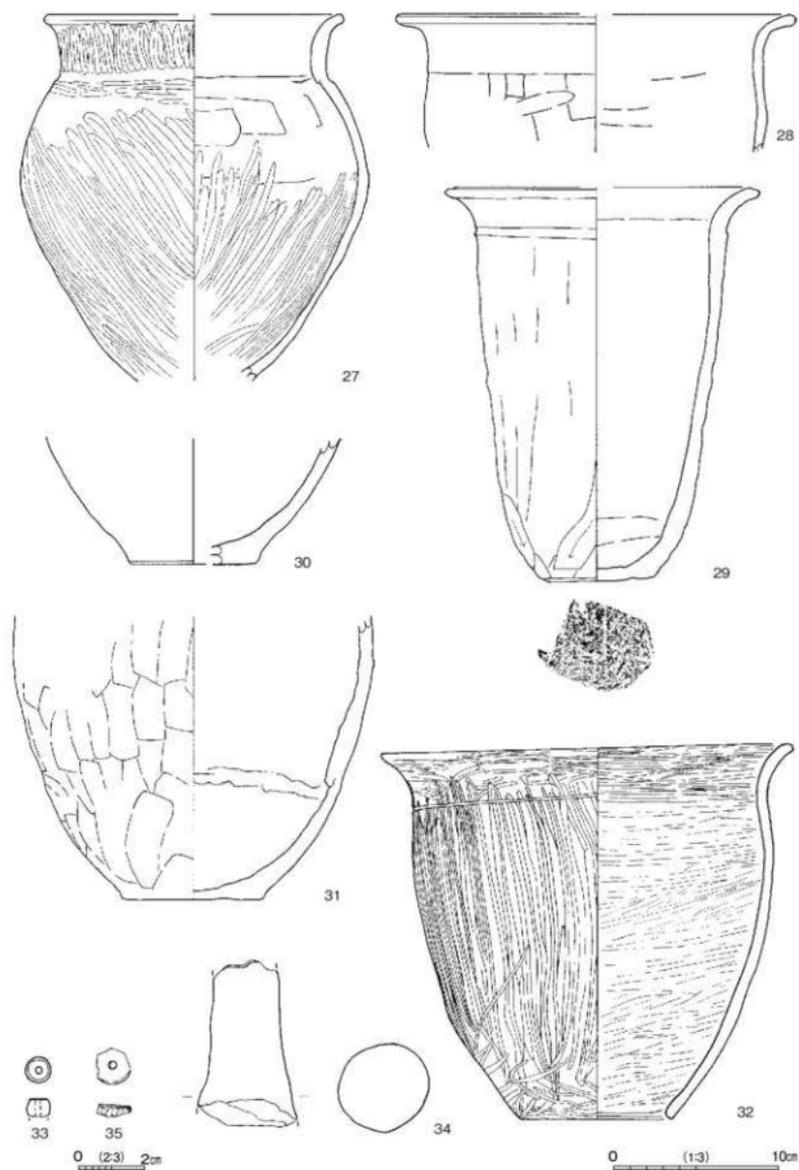
竈土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|-------------------------|
| 1 | 25YR4-3 | 褐色 | ローム粒C、焼土粒C、砂質粘土粒C/粘B、雜B |
| 2 | 10YR4-6 | 褐色 | ローム小C・粒C、砂質粘土粒C/粘B、雜A |
| 3 | 10YR4-4 | 褐色 | ローム粒C、焼土粒C、砂質粘土粒C/粘B、雜A |

第197図 第109号竪穴建物跡実測図



第 198 图 第 109 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 199 图 第 109 号竖穴建物跡出土遺物実測図 2)

第96表 第109号壘穴建物跡出土土物一覧(第198・199図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[134]	4.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	外面摩滅により調整不明瞭 内面磨痕状に剥落	覆土下層	50%
2	土師器	坏	[130]	[36]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面鋭い沈線	覆土中	20%
3	土師器	坏	11.8	3.5	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	70%
4	土師器	坏	-	[3.6]	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面ナデ	覆土中層	20%
5	土師器	坏	[9.8]	3.3	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	60%
6	土師器	坏	[10.0]	[3.3]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	40%
7	土師器	坏	10.5	4.0	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き 内面磨痕状に剥落	覆土下層	100% PL83
8	土師器	坏	14.3	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	覆土中	70%
9	土師器	坏	[14.7]	4.7	-	長石・石英	橙	良好	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	覆土中	50%
10	土師器	坏	14.5	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	覆土中	90% PL83
11	土師器	坏	14.2	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き 内面磨痕状に剥落	床面	90% PL83
12	土師器	坏	14.7	4.5	-	長石・石英・黒色粒子・銅礫	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	覆土下層	90% PL83
13	土師器	坏	14.7	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	床面	90% PL83
14	土師器	坏	14.7	4.5	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	床面	70%
15	土師器	坏	-	[2.5]	-	長石・石英	明赤褐	普通	内面放射状へラ磨き	覆土中	40%
16	土師器	坏	9.0	3.8	-	長石・赤色粒子・小礫	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き 内面磨痕状に剥落	覆土中	80%
17	土師器	坏	[8.1]	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き 外・内面磨痕状に剥落	覆土中	60%
18	土師器	碗	[15.1]	8.0	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	40%
19	土師器	高坏	-	[2.5]	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	5%
20	土師器	高坏	-	[4.0]	-	長石・石英	橙	普通	坏・脚部全面ナデ	覆土中	20%
21	土師器	鉢	[11.0]	[5.5]	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	10%
22	土師器	鉢	[13.4]	[10.1]	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	外面摩滅により調整不明瞭	覆土中層	20%
23	土師器	鉢	-	[7.1]	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き 内面磨痕状に剥落	覆土中	40%
24	須恵器	短頸甕	6.1	7.4	-	長石・石英	灰	良好	口縁部外・内面横位へラ磨き 体部磨理王による列点文 全体に陰文	床面	100% PL84
25	陶器	瓶子	-	[5.5]	-	長石・石英	灰黄	良好	口縁部外・内面横位へラ磨き	覆土中	5%
26	土師器	甕	[13.6]	[8.4]	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	外・内面へラ磨き	覆土中	10%
27	土師器	甕	[17.8]	[22.4]	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面横位へラ磨き 肩部外面横位へラ磨き 体部外・内面斜位へラ磨き	床面	30%
28	土師器	甕	[23.6]	[8.5]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ナデ	覆土中層	5%
29	土師器	甕	[18.0]	24.0	6.8	長石・石英	明赤褐	普通	外面摩滅により調整不明瞭 底部外面木炭痕	覆土中層	40%
30	土師器	甕	-	[7.7]	7.9	長石・石英	赤褐	普通	外・内面摩滅 底部外面へラ削り	覆土中	5%
31	土師器	甕	-	[17.4]	[8.5]	長石・石英	赤褐	普通	外・内面摩滅 底部外面へラ削り	覆土中	5%
32	土師器	甕	24.8	22.2	9.1	長石・黒色粒子	橙	普通	外・内面へラ磨き 内面磨痕状に剥落 黒底式	覆土中層	90% PL84
番号	器種	径	高さ	孔径	重量	胎土	色調		特徴	出土位置	備考
33	土玉	0.8	[0.5]	0.2	[1.29]	赤色粒子・白色粒子	にぶい褐		一方向から穿孔	床面	
番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土			特徴	出土位置	備考
34	支脚	(40)	(60)	(102)	(298)	長石・石英	全面焼熟	全面ナデ		覆土下層	
番号	器種	径	高さ	孔径	重量	材質			特徴	出土位置	備考
35	白玉	[1.2]	0.4	0.2	[2.55]	粘板岩		一方向から穿孔		覆土中	PL104

第111号壘穴建物跡(第200・201図 PL27)

位置 調査区西部のJ367区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第180号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 332 m, 短軸 300 m の長方形で, 主軸方向は N-3'-E である。壁高は 14~22cm で, 外傾している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで 107cm で, 燃焼部幅は 30cm である。袖部は地山の上に, 砂質粘土を含む第 10 層を積み上げて構築されている。火床部は床面から 12cm ほどくぼんでおり, 火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に 20cm ほど掘り込まれ, 火床部から緩やかに立ち上がっている。第 5~9 層は竈に関連する堆積土である。

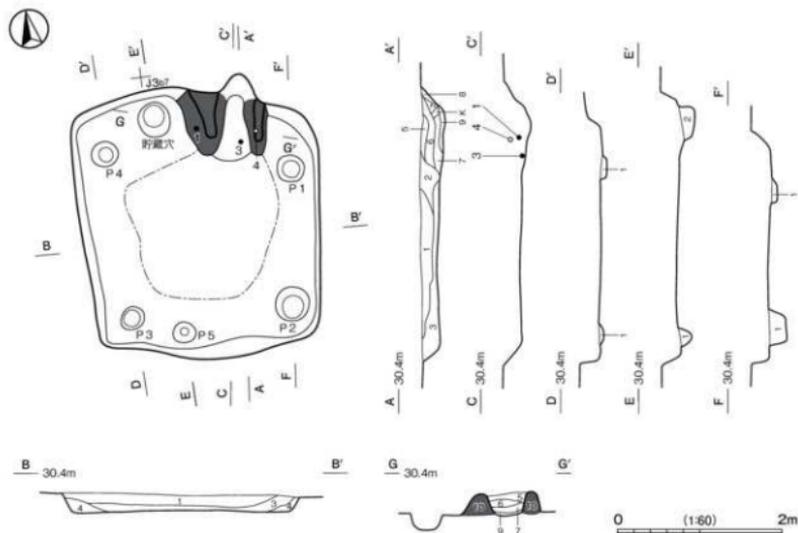
ピット 5 か所。P1~P4 は深さ 8~20cm で, 配置から支柱穴である。P5 は深さ 14cm で, 配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 竈左側に位置しており, 長径 43cm, 短径 40cm の円形である。深さは 20cm ほど, 底面は皿状で, 壁はほぼ直立している。単一層で, 自然堆積である。

覆土 4 層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 42 点 (坏 6, 碗 1, 鉢 1, 甕 34), 土製品 1 点 (支脚), 石器 1 点 (礫) が出土している。1 は竈左袖脇の覆土下層から正位で, 3 は竈焚口部から横位で, 4 は右袖上面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀第 4 四半期に比定できる。



土層解説

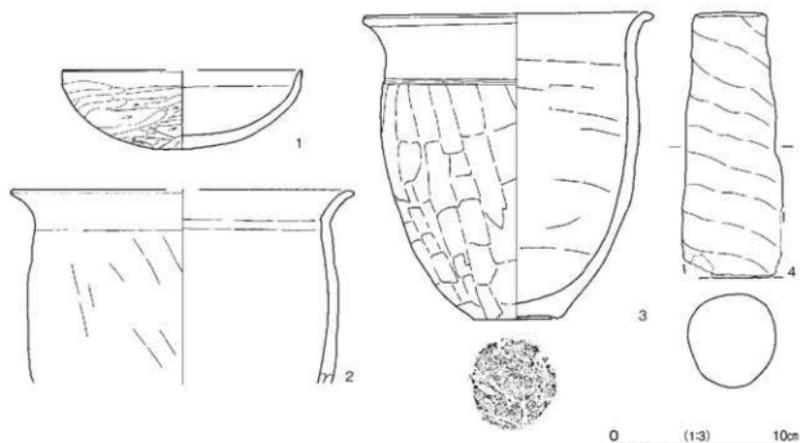
- 1 10YK2-2 黒層 ローム粒D/粘B, 雜B
- 2 10YK2-2 黒層 ローム小C・粒C, 焼土小C・粒C/粘B, 雜B
- 3 10YK3-3 暗層 ローム小C・粒C/粘B, 雜B
- 4 10YK4-6 暗層 ローム小C・粒B/粘B, 雜B
- 5 10YK3-2 黒層 ローム小C・粒B, 焼土粒D/粘B, 雜B

- 6 10YK3-4 暗層 ローム小C・粒C, 焼土小C・粒B/粘B, 雜B
- 7 10YK3-3 暗層 ローム粒D, 焼土粒C/粘B, 雜B
- 8 10YK4-4 暗層 ローム小C・粒B/粘B, 雜B
- 9 10YK4-6 暗層 ローム中C・小C・粒B/粘B, 雜B
- 10 10YK3-4 暗層 ローム小C・粒B, 砂質粘土粒C/粘B, 雜B

ピット・貯蔵穴土層解説 (赤ピット共通)

- 1 10YK3-3 暗層 ローム粒C/粘B, 雜B
- 2 10YK3-4 暗層 ローム小D・粒D/粘B, 雜B

第 200 図 第 111 号竈穴建物跡実測図



第201図 第111号竪穴建物跡出土遺物実測図

第97表 第111号竪穴建物跡出土遺物一覧(第201図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	杯	[145]	4.8	-	赤色粒子	橙	普通	口縁部外面・内面黒色地埋の痕跡	壺方地 埋土下層	70% PL84
2	土師器	甕	[205]	(11.8)	-	長石・石英・繊維 に多い赤褐色	普通	普通	外・内面塗施により調整不明瞭	埋土中	10%
3	土師器	甕	16.8	18.7	5.0	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面ヘラナゲ 底部外面木葉痕	壺方口部 上層	90% PL84
番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴		出土位置	備考	
4	支脚	4.3	(6.1)	16.1	(54.1)	長石・石英・ 赤色粒子	全面螺旋状にナデ		壺方口部 上層		

第113号竪穴建物跡(第202図 PL27)

位置 調査区北西部のI4b6区、標高30mほどの微高地に位置している。

重複関係 第95号竪穴建物、第10号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.09m、短軸2.97mの方形で、長軸方向はN-22°-Eである。壁高は18~28cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

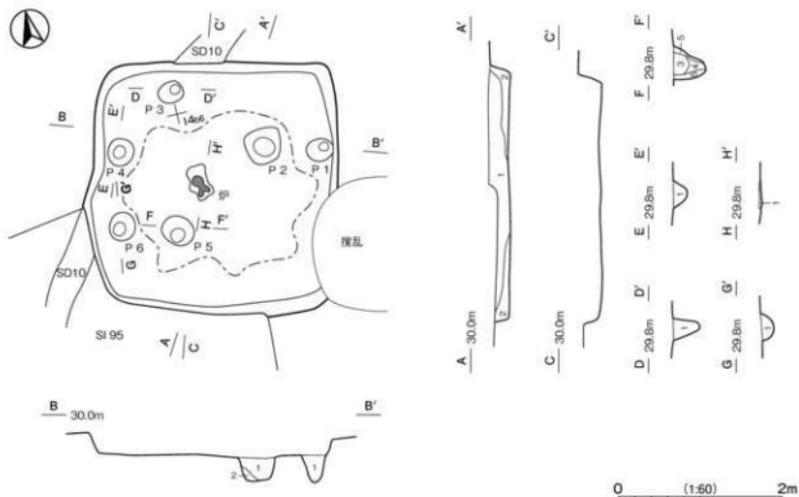
炉 中央部に付設された地床炉である。長径42cm、短径22cmの不整楕円形で、炉床面は赤変している。

ピット 6か所。P1~P6は深さ18~40cmで、性格不明である。

覆土 2層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片1点(手捏土器)のほか、混入した土師器片123点(杯91, 高杯2, 甕29), 須恵器片4点(杯2, 甕2)が出土している。

所見 重複関係と遺構の形状から4世紀代と考えられる。



土層解説

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D'、粘土、雜土
 2 10YR3-3 暗褐色 ローム小D・粒D、焼土粒D'、粘土、雜土

伊土層解説

- 1 5YR5-8 明赤褐色 焼土小B・粒B'、粘土、雜土A

ビット土層解説 (各ビット共通)

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム粒C、炭化粒D'、粘土、雜土
 2 10YR4-4 褐色 ローム大C・中C・小A'・粒A'、粘土、雜土
 3 10YR3-3 暗褐色 ローム粒C'、粘土、雜土
 4 10YR3-3 暗褐色 ローム小B'・粒A'、粘土、雜土
 5 10YR4-4 褐色 ローム粒A'、粘土、雜土



0 (1:3) 10cm

第202図 第113号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第98表 第113号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第202図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	発見率
1	土師器	手捏土器	-	(3.5)	[5.0]	長石・石英	橙	普通	外面磨頭痕	竪土中	30%

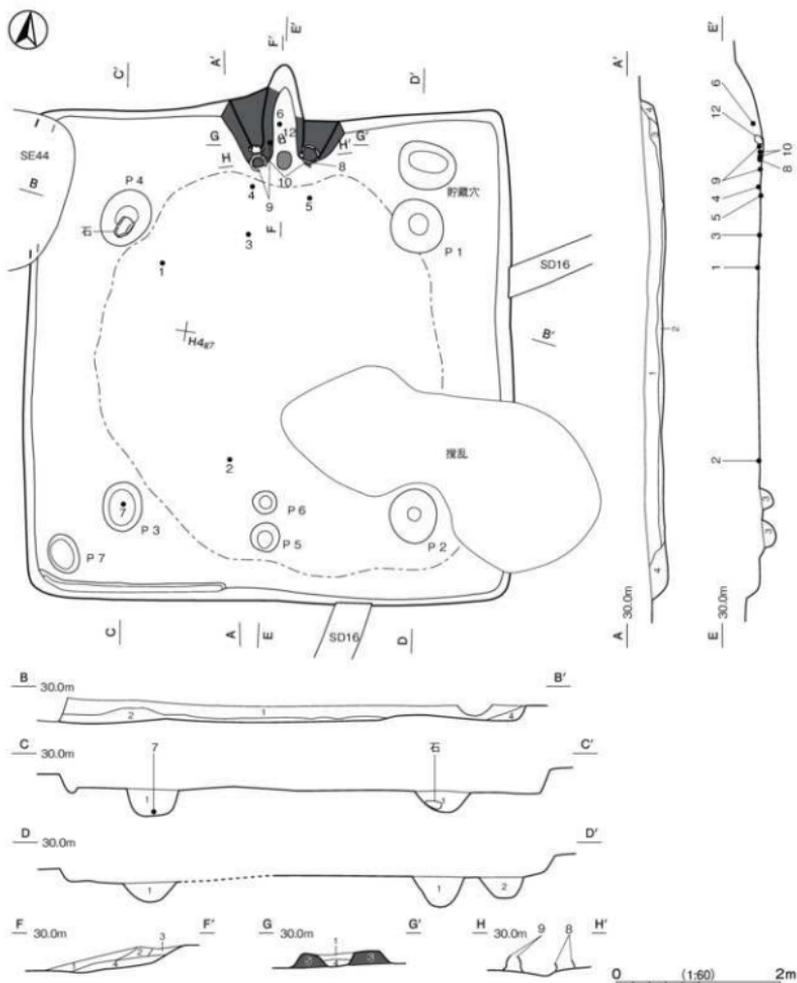
第114号竪穴建物跡 (第203～205図 PL27)

位置 調査区北西部のH4F7区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第44号井戸、第16号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.02m、短軸5.87mの方形で、主軸方向はN-6°-Wである。壁高は16～28cmで、外傾している。

床 平坦で、全体が踏み固められている。南壁下の西部に壁溝を確認した。



土層解説

- | | |
|---------------|--------------------------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐色 | ローム中D・小C・粒C、焼土粒D、炭化粒D' / 粘B、雜B |
| 2 10YR3/3 暗褐色 | ローム中D・小C・粒B、焼土粒D / 粘B、雜B |
| 3 10YR4/3 暗褐色 | ローム大D'・中D・小C・粒B、焼土粒C、炭化粒D / 粘B、雜B |
| 4 10YR2/2 黒褐色 | ローム大D'・中D・小C・粒C、焼土小D・粒C、炭化粒D / 粘B、雜B |

雑土層解説

- | | |
|---------------|---------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐色 | ローム小D・粒C、焼土粒C / 粘B、雜B |
| 2 10YR3/2 黒褐色 | ローム小C・粒C、焼土粒D / 粘B、雜B |
| 3 10YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粒B、焼土粒D / 粘B、雜B |
| 4 7.5YR4/4 褐色 | ローム小C・粒C、焼土小A・粒A / 粘B、雜C |
| 5 10YR3/4 暗褐色 | ローム粒B、焼土粒B、砂質粘土粒B / 粘B、雜A |

ピット・貯蔵穴土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|---------------|-------------------------|
| 1 10YR2/2 黒褐色 | ローム小C・粒B / 粘B、雜B |
| 2 10YR3/3 暗褐色 | ローム小D'・粒C、炭化粒D' / 粘B、雜B |
| 3 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒D、炭化粒D'・粒D' / 粘B、雜B |

第 203 図 第 114 号貯穴建物跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで142cmで、燃焼部幅は28cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第5層を積み上げて構築されている。両袖部では芯材として土師器の甌が倒置して使用されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、支脚の一部が残存しているが、原位置ではない。火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に45cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。袖部芯材が露出していることから、竈は人為的に破壊されている。

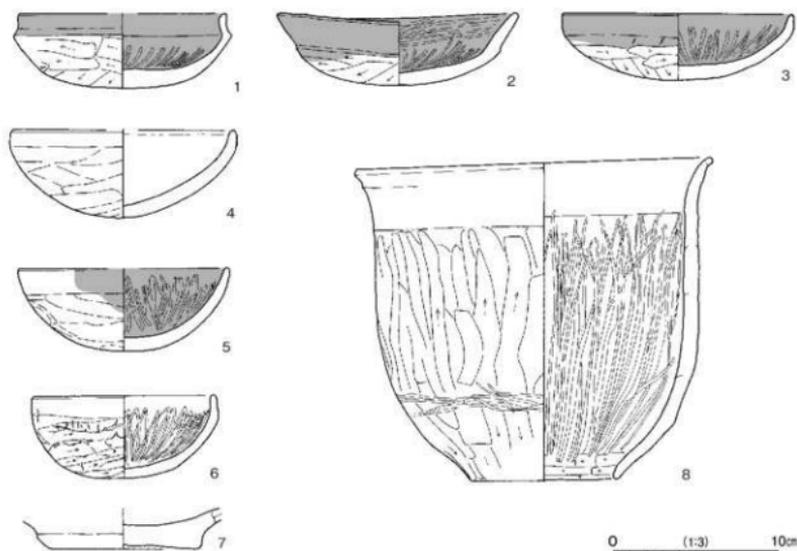
ピット 7か所。P1～P4は深さ24～38cmで、配置から主柱穴である。P4の底面から、根石を確認した。P5・P6はいずれも深さ16cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P7は深さ18cmで、性格不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置しており、長径72cm、短径60cmの楕円形である。深さは28cmほど、底面はU字状で、壁は外傾している。単一層で、堆積状況は不明である。

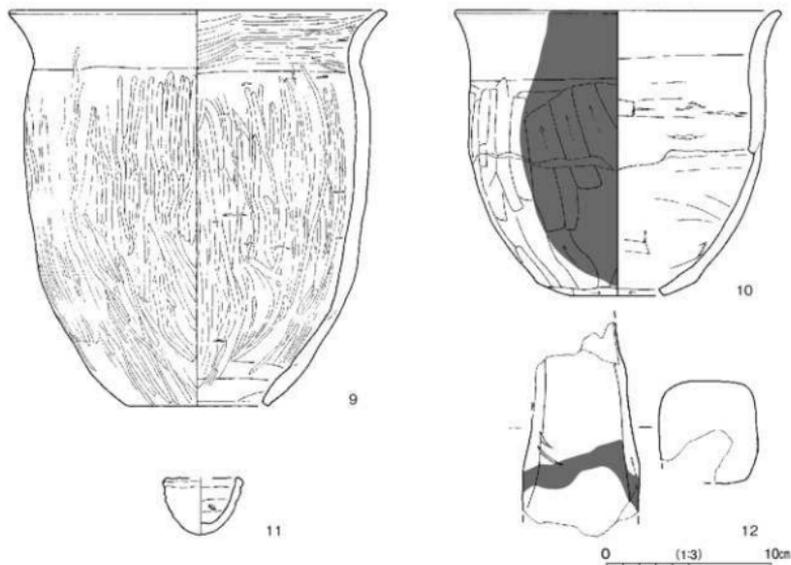
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれる堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片1,382点（坏996、碗8、高坏4、甕373、手捏土器1）、須恵器片12点（坏6、蓋2、壺1、甕3）、石器3点（砥石2、紡錘車1）、焼成粘土塊14点（197.21g）が出土している。6は竈燃焼部の覆土下層から正位で、12は竈火床部から立位で、8は竈右袖から逆位で、9は竈左袖から逆位で、10は竈の左右袖から、4・5は竈前方部の床面から逆位で、1～3は中央部の床面から出土している。1・2は逆位で、3は正位で出土している。7はP3覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第1四半期に比定できる。



第204図 第114号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 205 図 第 114 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 99 表 第 114 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 204・205 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[123]	4.5	-	長石・石英	橙	普通	内面放射状へら磨き 口縁部外面・内面黒色焼	床面	50%
2	土師器	坏	14.4	4.3	-	長石・石英・燧石	橙	普通	内面放射状へら磨き 口縁部外面・内面黒色焼	床面	90% PL84
3	土師器	坏	13.8	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面放射状へら磨き 口縁部外面・内面黒色焼	床面	90% PL84
4	土師器	坏	13.4	5.4	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	橙	普通	外面摩滅 内面ナゲ	床面	90% PL84
5	土師器	坏	[126]	5.0	-	長石	橙	普通	内面放射状へら磨き 口縁部外面・内面黒色焼	床面	50% PL84
6	土師器	坏	10.8	5.1	-	長石・石英	橙	普通	内面放射状へら磨き	焼成地部 覆土下層	100% PL84
7	土師器	甕	-	(25)	9.0	長石・石英・赤色粒子・粗礫	にぶい	明赤焼	外・内面摩滅により調整不明瞭 底面外面へら磨り	P3 覆土下層	10%
8	土師器	甕	21.6	19.8	8.8	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい	普通	体部内面縦位へら磨き 無底式	甕右袖	80% PL85
9	土師器	甕	22.4	24.1	8.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へら磨き 体部外・内面縦位のへら磨き 無底式	甕左袖	80% PL85
10	土師器	甕	19.4	17.4	[5.7]	長石・石英・赤色粒子	にぶい 赤焼	普通	外面環付着 単孔式	甕左右袖	40%
11	土師器	手捏土器	[4.4]	3.4	-	砂粒	普通	普通	外・内面摩滅により調整不明瞭	甕土中	90%

番号	器種	上幅	下幅	高さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
12	支脚	(4.7)	(7.0)	(13.1)	(38.2)	長石・石英・赤色粒子	方形 下半帯状に煤付着 煤付着部位より焼成不良	焼成地部 覆土下層	

第 115 号竪穴建物跡 (第 206 ~ 209 図 PL27・28)

位置 調査区北西部の I 4 b2 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

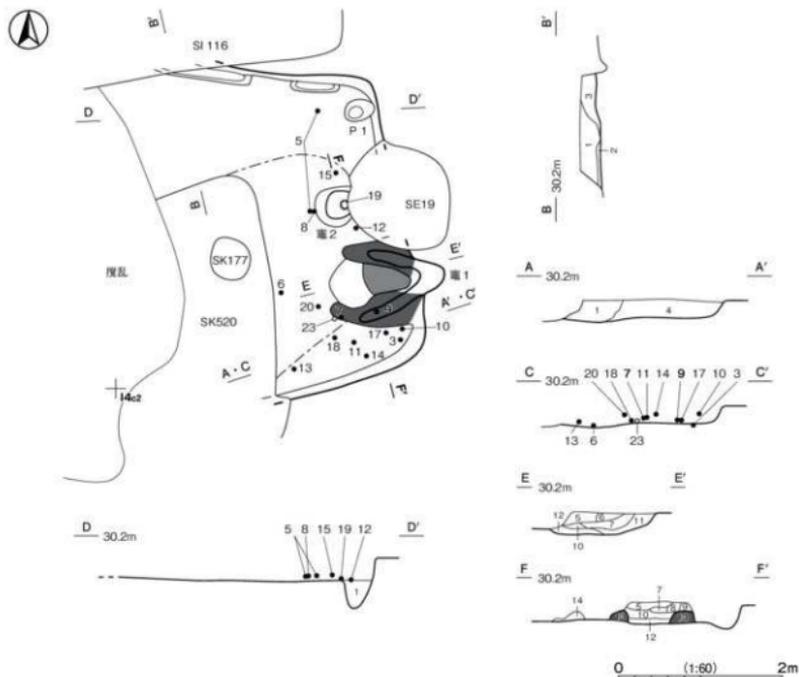
重複関係 第 175 号土坑を掘り込み、第 116 号竪穴建物、第 177・520 号土坑、第 19 号井戸に掘り込まれている。

規模と形状 西側を攪乱で壊されているため、規模は南北軸は 4.12 m、東西軸は 3.20 m しか確認できなかった。

形状は方形または長方形と推定され、主軸方向はN-77°-Eである。壁高は20～27cmで、外傾している。床平坦で、竈前が踏み固められている。北壁下の一部に壁溝を確認した。

竈 2か所。竈1は東壁の南寄りに付設され、規模は焚口から煙道部まで144cmで、燃焼部幅は37cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第13層を積み上げて構築されている。右袖部では芯材として土師器の甕が使用されている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に28cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。第5～12層は竈1に関連する堆積土である。竈2は東壁のほぼ中央部に付設されているが、第19号井戸に掘り込まれており、規模は不明である。竈2から竈1への作り替えが考えられる。

ピット P1は深さ33cmで、性格は不明である。



土層解説

1	10YR3/3	暗褐色	ローム中D・小C・粒C、炭化粒D'、粘B、雜B	9	10YR3/3	暗褐色	ローム粒D、焼土中D・小D・粒B、炭化物D'・粒D/粘B、雜B
2	10YR2/2	黒褐色	ローム中D・小C・粒C、炭化粒D'、粘B、雜B	10	10YR2/1	黒	ローム粒C、焼土小D・粒C、炭化粒C/粘B、雜B
3	10YR2/1	黒	ローム粒D、焼土粒D'、炭化粒D'/粘B、雜B	11	10YR4/3	こげ茶	ローム小D・粒D、焼土小D・粒C、炭化粒D'/粘B、雜B
4	10YR3/3	暗褐色	ローム中C・小C・粒C、焼土中D・粒C、炭化粒D'/粘B、雜B	12	10YR3/1	黒褐色	ローム小D・粒D、焼土中D'・小D'・粒C、炭化粒D・粒A/粘B、雜B
5	10YR3/3	暗褐色	ローム粒D、焼土粒D'、炭化粒D'/粘B、雜B	13	10YR7/4	こげ茶	焼土粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜A
6	10YR4/3	こげ茶	ローム小D・粒C、焼土小C・粒C、炭化粒C/粘B、雜B	14	10YR2/2	黒褐色	ローム小C・粒B、焼土小D・粒D、炭化粒D/粘B、雜B
7	10YR2/2	黒褐色	ローム粒C、焼土大D・中C・小C・粒A'、炭化粒D'/粘B、雜B				
8	10YR4/4	褐色	ローム小C・粒C、焼土中D・小C・粒B、炭化粒D・粒C/粘B、雜B				

ピット土層解説 (各ピット共通)

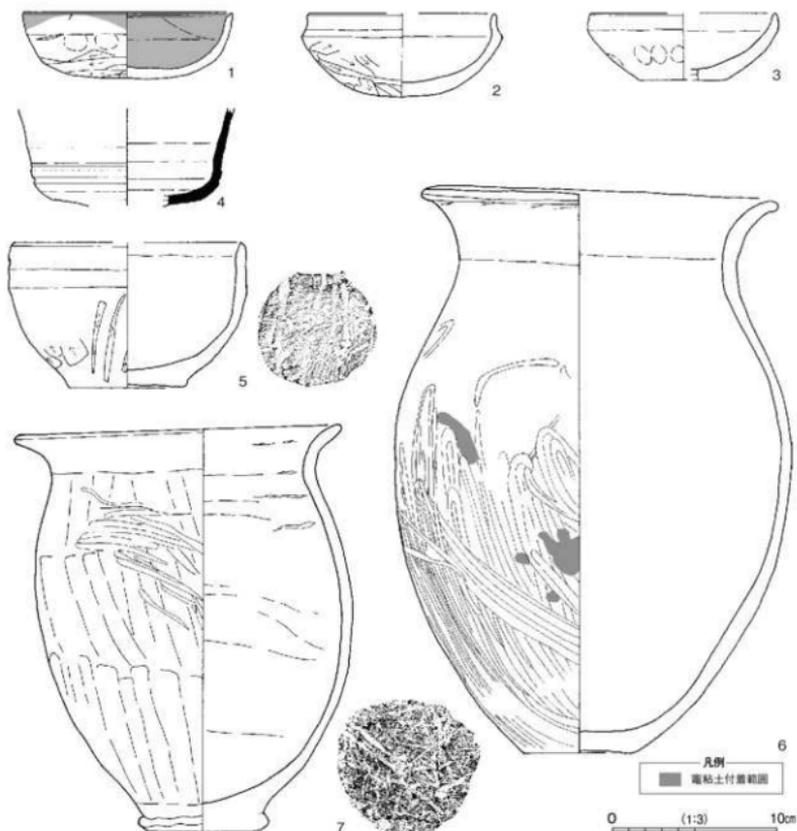
1	10YR3/3	暗褐色	ローム小D・粒C、焼土粒D'、炭化粒D'/粘B、雜B
---	---------	-----	----------------------------

第206図 第115号竈穴建物跡実測図

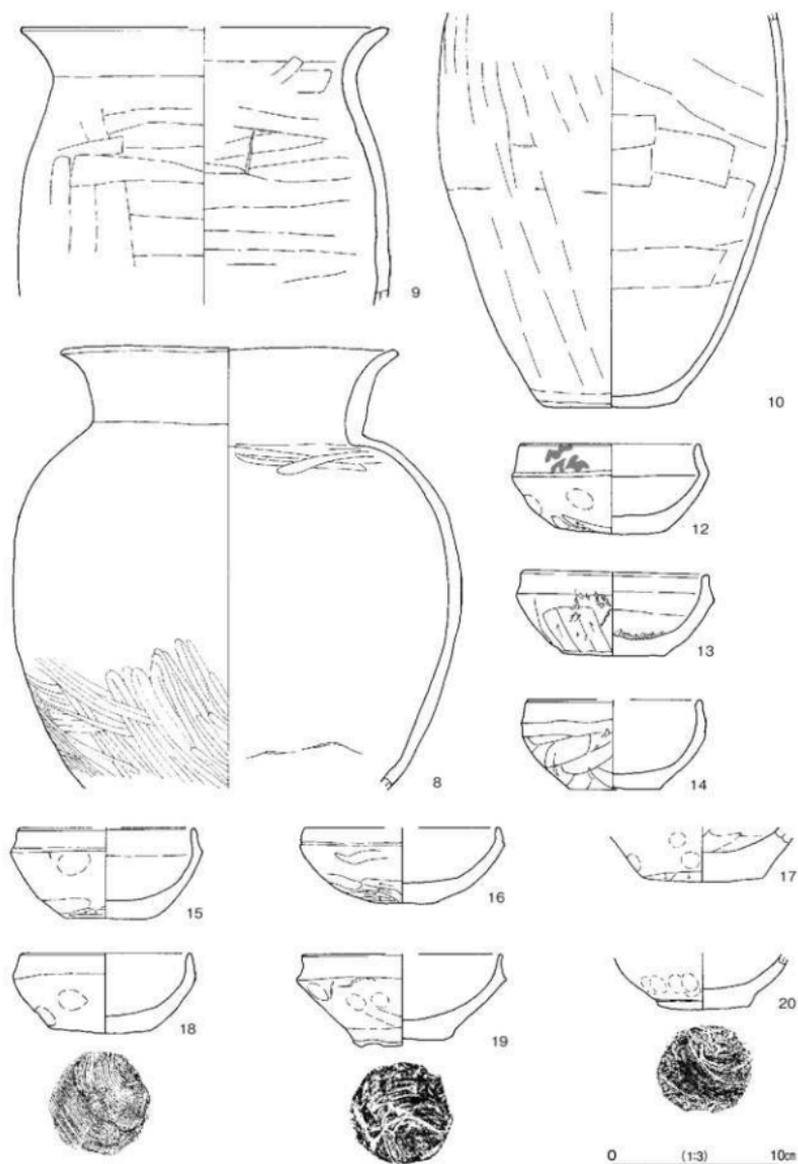
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片427点(坏244, 碗9, 高坏1, 鉢1, 甕138, 瓶2, 手捏土器32), 須恵器片1点(高杯), 土製品3点(支脚), 金属製品2点(不明鉄製品), 焼成粘土塊1点(20.17g), 鉄滓2点が出土している。9は竈1の右袖から立位で, 7は竈1の右袖上面から横位で, 3は右袖脇の床面から, 17・18・23は覆土下層から, 10・11・14は覆土中層からそれぞれ出土している。14・18は正位で出土している。6は竈1前方部の床面から, 20は覆土中層から出土している。19は床面から, 12は竈2右脇の床面から逆位で, 15は竈2の左脇の覆土下層から正位で出土している。8は竈2前方部, 5は竈2前方部と北部の覆土下層から出土している。13は南部の覆土下層から正位で出土している。

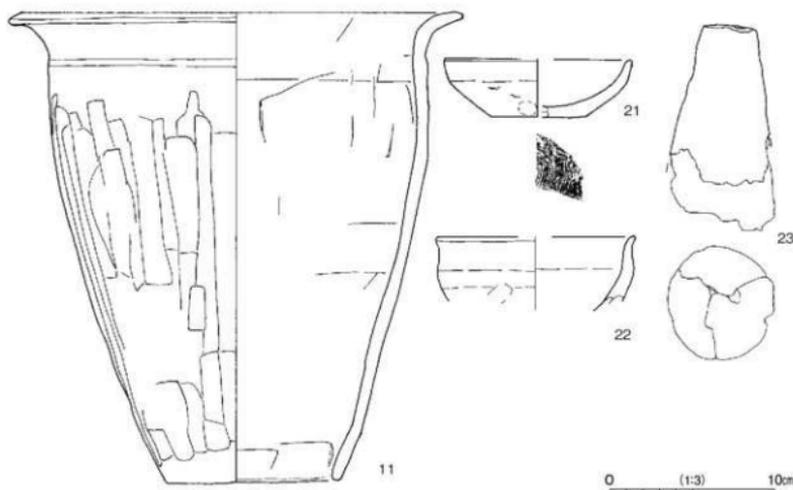
所見 時期は, 出土土器から7世紀第1四半期に比定できる。



第207図 第115号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 208 图 第 115 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第209図 第115号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第100表 第115号竪穴建物跡出土遺物一覧(第207～209図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	127	4.0	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口唇部内面化粧 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	60%
2	土師器	坏	[114]	5.1	-	長石	橙	普通	外・内面黒色処理の痕跡 外面一部露付着	覆土中	40%
3	土師器	坏	[112]	4.1	[54]	長石・石英	橙	普通	底部外面へう開り	覆1右袖部 覆土中	30%
4	須恵器	高坏	-	(6.1)	-	長石・石英	灰白	普通	底部内面自然釉 鉄分濃出	覆土中	10%
5	土師器	鉢	[138]	8.9	7.2	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部外面赤切り痕	北壁・覆之前 覆土下層	70% PL86
6	土師器	壺	21.1	34.9	6.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面へう磨き	覆1前 覆土中	70% PL85
7	土師器	壺	19.3	25.0	6.1	長石・石英・繊維	明褐	普通	体部外面粗雑な磨き 底部外面木炭痕	覆1右袖上 覆土中	70% PL85
8	土師器	壺	20.2	(27.2)	-	長石・石英	赤褐	普通	体部外面下平へう磨き	覆2前 覆土下層	70% PL86
9	土師器	壺	[220]	(17.0)	-	長石・石英	にぶい褐	不良	外面摩滅により調整不明瞭	覆1右袖 覆土中	10%
10	土師器	壺	-	(24.2)	8.0	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	底部外面へう開り	覆1右袖 覆土中	20%
11	土師器	瓶	27.8	29.0	10.5	長石・石英	明赤褐	普通	体部内面やや滑ぬ 無紋式	覆1右袖部 覆土中層	60% PL86
12	土師器	手捏土器	10.8	5.6	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	底部外面へう開り 外面一部露付着	覆2右袖 覆土下層	100% PL86
13	土師器	手捏土器	11.1	5.1	6.3	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	底部内面へう磨き 底部外面へう開り	覆1前 覆土下層	60% PL86
14	土師器	手捏土器	[103]	5.5	5.6	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部外面赤切り後、ナデ	覆1右袖部 覆土中層	40% PL86
15	土師器	手捏土器	[105]	5.5	5.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部外面へう開り	覆2右袖 覆土下層	70%
16	土師器	手捏土器	[117]	4.6	-	長石・石英	にぶい橙	普通	底部外面へう開り	覆土中	30%
17	土師器	手捏土器	-	(3.4)	7.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部外面へう開り	覆1右袖部 覆土中層	10%
18	土師器	手捏土器	10.1	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	底部外面赤切り痕	覆1右袖部 覆土下層	90% PL86
19	土師器	手捏土器	[120]	5.7	6.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部外面赤切り痕	床面	60%
20	土師器	手捏土器	-	(3.4)	5.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	良好	底部外面赤切り後、ナデ	覆1前 覆土中層	40%
21	土師器	手捏土器	[114]	3.6	[58]	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	底部外面赤切り痕	覆土中	20%
22	土師器	手捏土器	[122]	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい褐	普通	外面一部露付着	覆土中	20%

番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
23	支脚	3.2	(6.5)	(12.6)	(33.5)	長石・石英・赤色粒子・繊維	下半焼成不良	覆1右袖 覆土下層	

第 116 号竪穴建物跡 (第 210・211 図 PL28)

位置 調査区北西部の I 4 a2 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 115 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

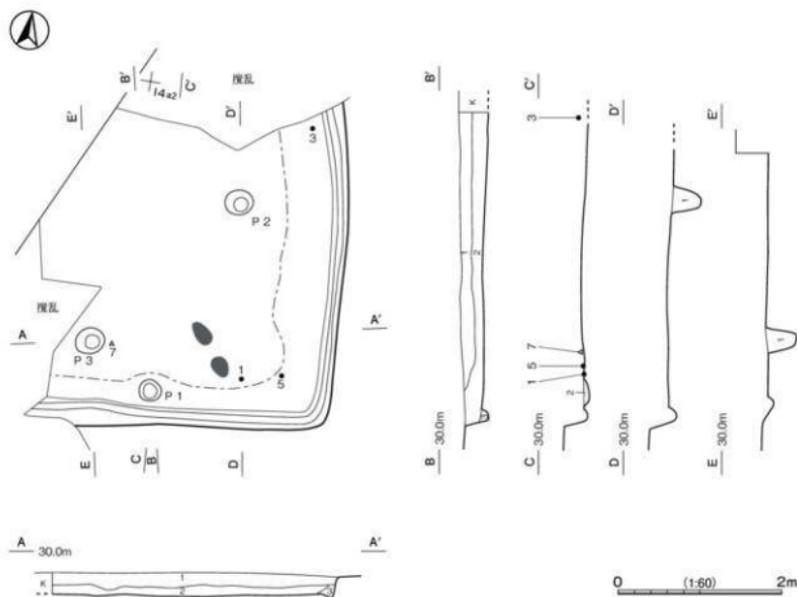
規模と形状 西部が調査区域外へ延びており、北部と南西部が攪乱を受けているため、確認できた南北軸は 3.95 m、東西軸は 3.70 m の方形または長方形と推定され、主軸方向は N-8°-W である。壁高は 8~25 cm で、直立している。

床 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。確認できた範囲で壁溝が全周している。南部に粘土塊を確認した。ピット 3 か所。P1 は深さ 6 cm で、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P2・P3 はいずれも深さ 38 cm で、性格不明である。

覆土 3 層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 297 点 (坏 220、椀 3、高坏 5、鉢 5、甕 64)、須恵器片 4 点 (坏 2、甕 2)、金属製品 1 点 (鋤先) が出土している。3 は北東部の覆土下層から、正位で出土している。1・5 は南東部の床面から出土している。1 は逆位で出土している。7 は南部の覆土下層から出土している。

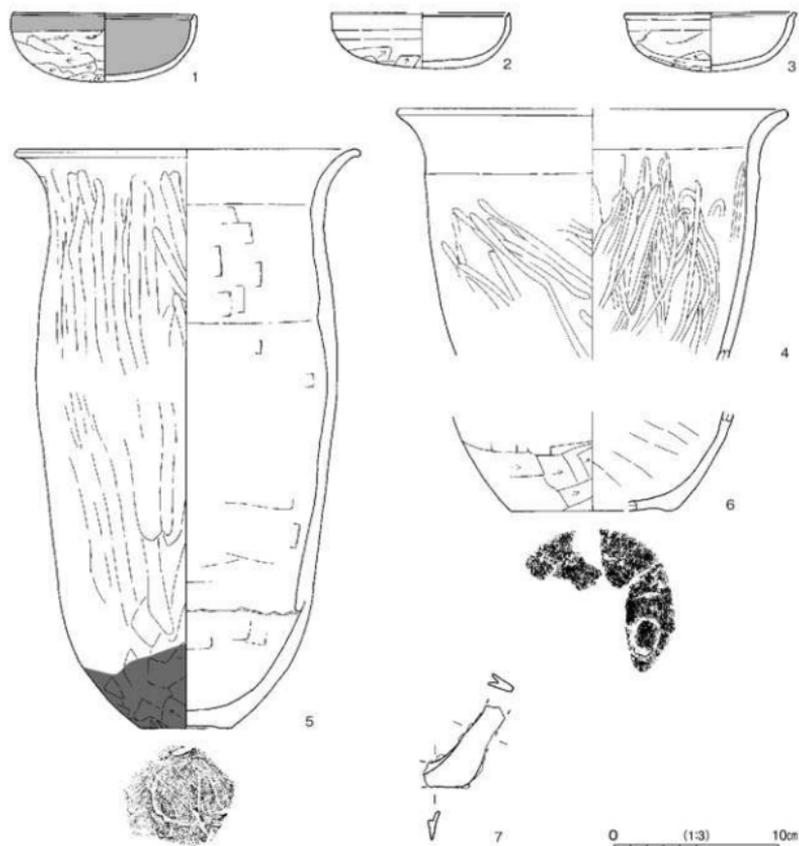
所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 3 四半期に比定できる。



土層解説
 1 10YR2/2 黒褐色 ローム状 D、焼土粒 D'、炭化粒 D' / 粘 B、腐 B
 2 10YR2/2 黒褐色 ローム小 D'、粒 C、焼土粒 D'、炭化粒 D' / 粘 B、腐 B
 3 10YR2/3 黒褐色 ローム小 C・粒 C、焼土粒 D' / 粘 B、腐 B

ピット土層解説 (各ピット共通)
 1 10YR2/2 黒褐色 ローム小 D'・粒 D、炭化粒 D' / 粘 B、腐 B
 2 10YR2/3 黒褐色 ローム小 D' / 粘 B、腐 B

第 210 図 第 116 号竪穴建物跡実測図



第211図 第116号竪穴建物跡出土遺物実測図

第101表 第116号竪穴建物跡出土遺物一覧(第211図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.1	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	1:35・橙	良好	口唇部内面の沈線 口縁部外面・内面黒色焼	床面	80% PL86
2	土師器	坏	[107]	3.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	良好	口唇部内面沈線	覆土中	50%
3	土師器	坏	10.2	3.6	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土下層	60%
4	土師器	甕	[236]	(15.4)	-	長石・石英	橙	普通	体部内面へラ磨き	覆土中	10%
5	土師器	甕	20.6	35.4	5.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面彫付着 底部木着痕	床面	60%
6	土師器	甕	-	(6.1)	[98]	長石・石英・赤色粒子	1:35・褐	普通	外面摩滅により調整不明瞭 底部外面へラ磨り	覆土中	20%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
7	釧先	(5.2)	(5.0)	0.6~0.7	(15.26)	鉄	断面Y字状	両端欠損	覆土下層	PL105	

第118号竪穴建物跡 (第212図 PL28)

位置 調査区北西部のH4区、標高30mほどの微高地に位置している。

規模と形状 長軸4.30m、短軸4.18mの隅丸方形で、主軸方向はN-35°-Wである。壁高は6~18cmで、外傾している。

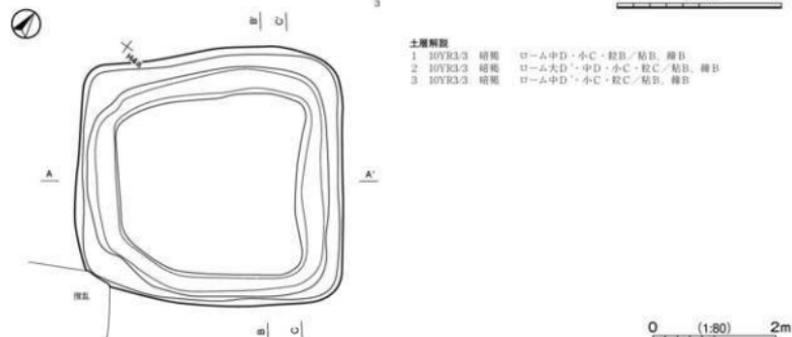
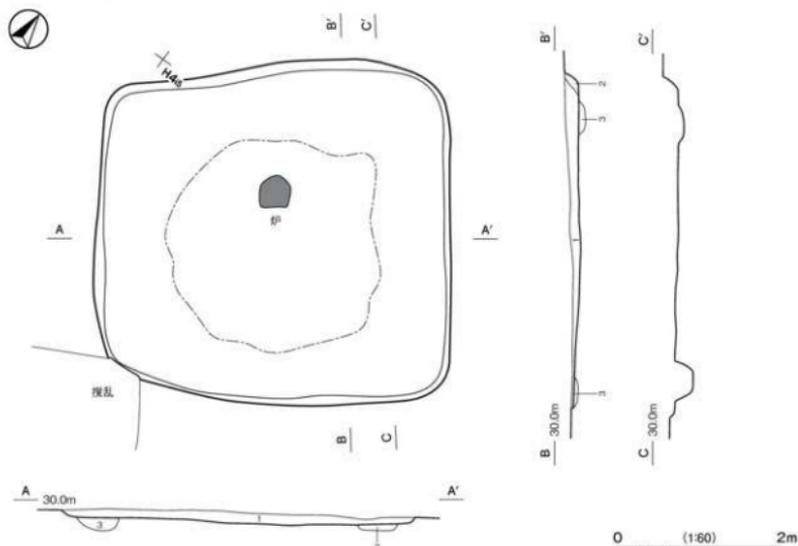
床 平坦で、中央部が踏み固められている。中央部のやや北寄りに床面の被熱を確認した。

炉 中央部に付設された地床炉である。長径36cm、短径35cmの円形で、炉床面は赤変している。

覆土 2層に分層できる。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。第3層は掘方への埋土である。

遺物出土状況 混入した土師器片19点(坏14、甕5)が出土している。

所見 時期は、遺構の形状や炉をもつことから4世紀代である。



第212図 第118号竪穴建物跡・掘方実測図

第119号竪穴建物跡 (第213～215図 PL28)

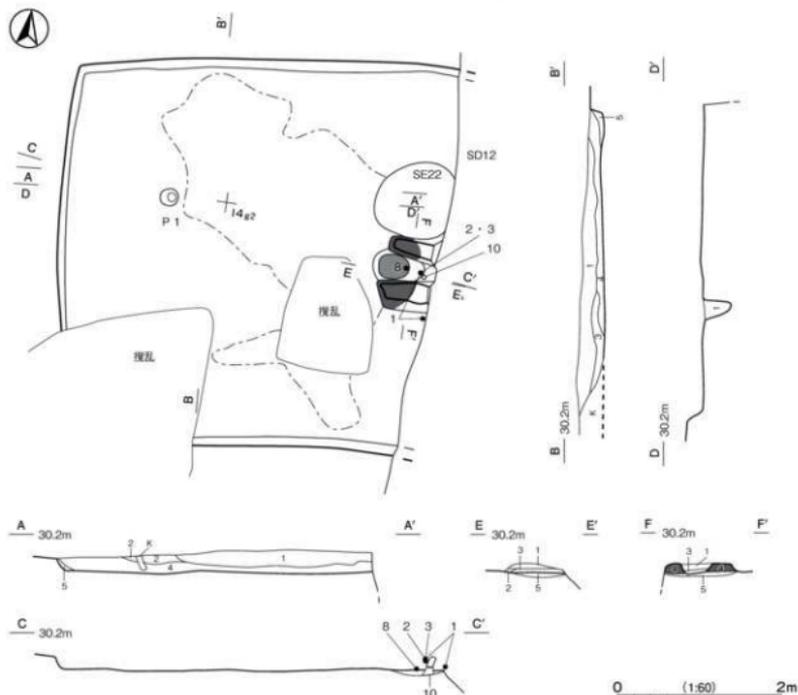
位置 調査区西部のI4g2区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第22号井戸、第12号堀に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第12号堀に掘り込まれているため、確認できた東西軸は4.73m、南北軸は4.70mの長方形と推定され、主軸方向はN-84°-Eである。壁高は15～30cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈前から北部にかけて踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は一部が第12号堀に掘り込まれているため、焚口から煙道部まで80cmしか確認できなかった。燃焼部幅は32cmである。竈は、地山を5cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第5層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、砂質粘土を含む第4層を積み上げて構築さ



土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|-------------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒D・粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒D・粘B、雜B |
| 3 | 10YR2/2 | 茶褐色 | ローム小C・粒C、粘B、雜B |
| 4 | 10YR4/6 | 黄褐色 | ローム小C・粒D・粘B、雜B |
| 5 | 10YR4/4 | 黄褐色 | ローム中D・小C・粒B・粘B、雜B |

ピット土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|----------------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム小C・粒B・粘B、雜B |
|---|---------|-----|----------------|

竈土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|---------------------------------|
| 1 | 10YR4/6 | 黄褐色 | ローム粒D、焼土粒C、炭化粒D、砂質粘土小C・粒B・粘B、雜A |
| 2 | 10YR4/4 | 黄褐色 | ローム小C・粒C・粘B、雜B |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色 | ローム粒C、焼土小C・粒B、炭化粒D、砂質粘土粒C・粘B、雜B |
| 4 | 10YR4/4 | 黄褐色 | ローム粒D、砂質粘土粒A・粘B、雜A |
| 5 | 10YR2/2 | 茶褐色 | ローム小C・粒C・粘B、雜B |

第213図 第119号竪穴建物跡実測図

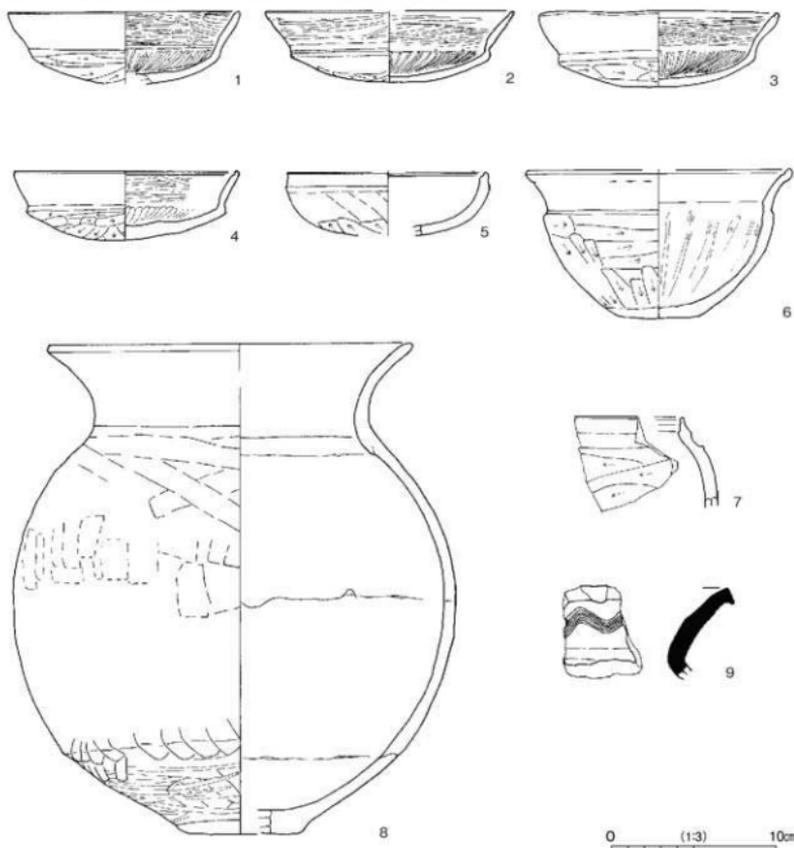
れている。火床部は床面から5cmほどくぼんでおり、支脚が残存し、火床面は赤変硬化している。第1層は天井部の崩落土と考えられる。

ピット P1は深さ33cmで、性格不明である。

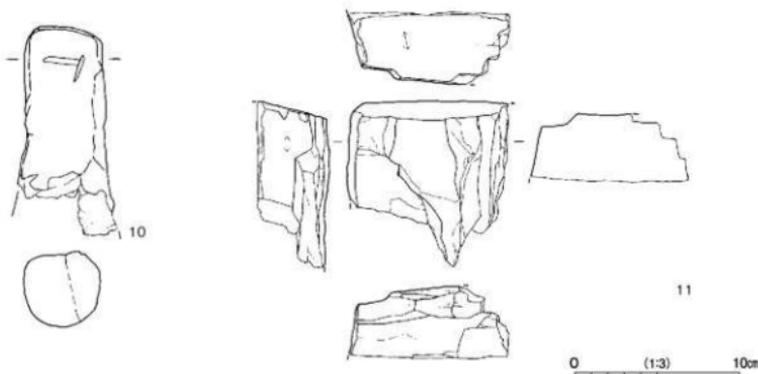
覆土 5層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片424点(坏391, 碗1, 鉢4, 甕28), 須恵器片2点(支脚), 石器2点(砥石, 礫), 焼成粘土塊1点(16.04g)が出土している。8は燃焼部上面から正位で出土しており, 8の中に, 上から順に3・2が入れ子状に重なって出土している(PL28)。10は甕燃焼部から, 立位で出土している。10の掘方内部に埋め込まれていた部位は, 焼成不良によって軟質であり, 取り上げ時に崩壊した。1は甕右袖脇の床面及び甕内覆土中層から出土した破片2点が接合したものであり, 逆位で出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀第3四半期に比定できる。



第214図 第119号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 215 図 第 119 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 102 表 第 119 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第 214・215 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	141	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	竈石部 土面	90% PL87
2	土師器	坏	[151]	4.4	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	竈石部 土面	60% PL87
3	土師器	坏	143	4.6	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	竈石部 土面	90% PL87
4	土師器	坏	135	4.2	-	長石・石英・黒色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部内面横位へラ磨き 内面放射状へラ磨き	竈石部 土面	80% PL87
5	土師器	坏	[118]	(3.9)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	竈土中	10%
6	土師器	鉢	[160]	9.1	5.0	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	内面放射状へラ磨き 内面縦状に剥落 底部内面へラ磨き	竈土中	20%
7	土師器	鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇部内面2条の沈線	竈土中	10%
8	土師器	甕	221	30.3	7.4	長石・石英・細砂	にぶい褐	普通	体部下端へラ磨き 体部内面縦状に剥落	竈石部 土面	70% PL87
9	須恵器	甕	-	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	黄灰	普通	外面流状文(6条)	竈土中	5%
番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴			出土位置	備考
10	支脚	4.5	(5.7)	(128)	(290)	長石・石英・赤砂・黒色粒子	下半地成不良			竈石部 裏方	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
11	砥石	(102)	(9.9)	(4.4)	(490)	千枚岩	砥面2面			竈土中	

第 121 号竪穴建物跡 (第 216 図 PL28)

位置 調査区北西部の H 4 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 2 号方形竪穴遺構、第 10 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.06 m、短軸 3.01 m の方で、主軸方向は N - 20° - E である。壁高は 10 ~ 18 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

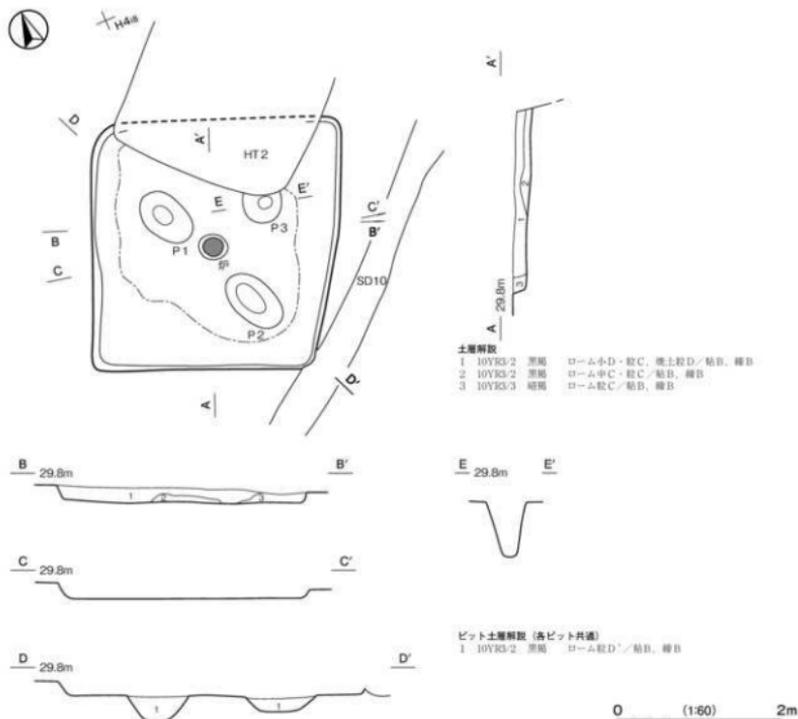
炉 中央部に付設された地床炉である。長径 37 cm、短径 33 cm の楕円形で、炉床面は赤変している。

ピット 3 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 15 ~ 65 cm で、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 混入した土師器片131点(坏72, 椀2, 埴2, 高坏1, 甕54), 須恵器片3点(坏1, 甕2)が出土している。

所見 時期は, 遺構の形状や埴をもつことから4世紀代である。



第216図 第121号堅穴建物跡実測図

第122号堅穴建物跡 (第217図 PL29)

位置 調査区西部のI4c6区, 標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第95号堅穴建物, 第203号土坑, 第15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.09m, 短軸4.95mの方形で, 長軸方向はN-26°-Wである。壁高は12~24cmで, 外傾している。

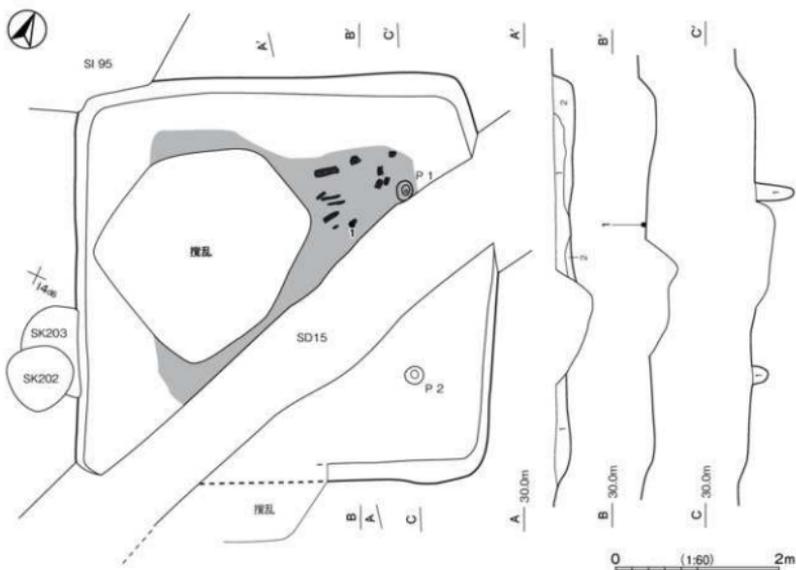
床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。北部に炭化材, 北部から南部の床面に於いて焼土や炭化物が床面に堆積している。

ピット 2か所。P1・P2は深さ50・18cmで、性格は不明であるが、配置から支柱穴の可能性はある。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片1点(高坏)のほか、混入した土師器片6点(坏)が出土している。1は中央部の床面から出土している。

所見 時期は、出土遺物や重複関係から4世紀代と考えられる。焼土や炭化材、炭化物が出土している状況から、焼失家屋の可能性はある。



土層解説

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム大C・中B・小B・粘B、炭化粒D/粘B、粘B
 2 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粘C、炭化物C・粘D/粘B、粘B

ピット土層解説 (赤ピット共通)

- 1 10YR3/3 暗褐色 ローム小C・粘C、炭化物B/粘B、粘B



0 (1:3) 5cm

第217図 第122号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第103表 第122号堅穴建物跡出土遺物一覧(第217図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	高坏	-	(5.0)	-	長石・石英	明褐色	普通	坏部・器部外面へラ削ぎ調整不明瞭	坏部内面摩滅により	床面 10%

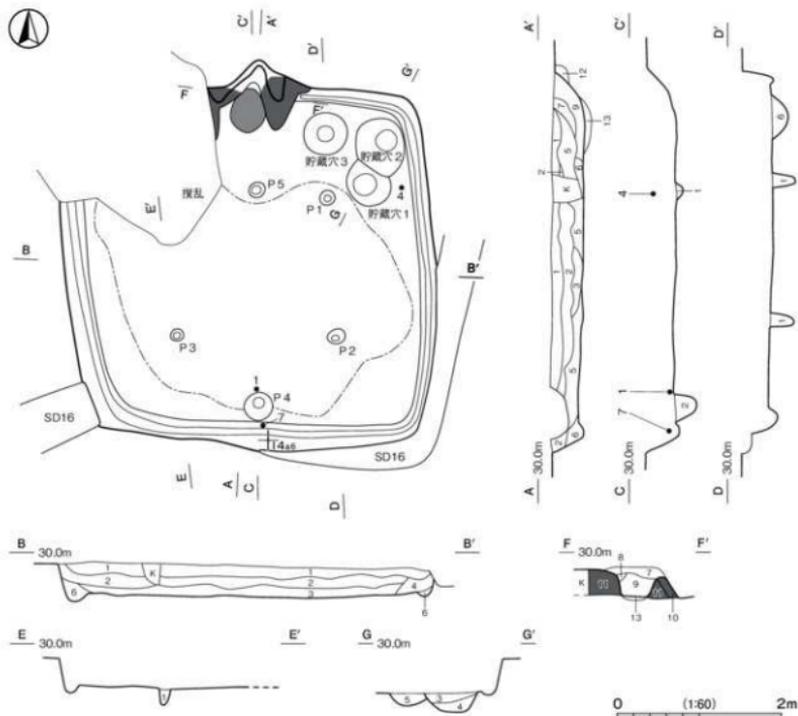
第131号竪穴建物跡 (第218・219図 PL29)

位置 調査区北西部のH4j6区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第16号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.50m、短軸4.44mの方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は36cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた範囲で壁溝が全周している。



土層解説

1 10YK2/2 黒層	ローム粒C、焼土粒D、炭化粒D ⁺ /粘B、雜D	8 10YR4/3 ㇿ色層	ローム粒D、炭化粒D ⁺ /粘B、雜B
2 10YK2/3 黒層	ローム小D・粒D、焼土粒D ⁺ 、炭化粒D ⁺ /粘B、雜B	9 10YK2/2 黒層	ローム小D・粒D、焼土小C・粒C、炭化物D ⁺ /粘B、雜B
3 10YK2/2 黒層	ローム小D・粒C、焼土粒D ⁺ 、炭化粒D ⁺ /粘B、雜B	10 10YR4/3 ㇿ色層	ローム粒D、砂質粘土粒C ⁺ /粘B、雜B
4 10YK3/3 暗層	ローム小C・粒C、焼土粒D ⁺ 、炭化粒D ⁺ /粘B、雜B	11 10YR4/4 暗層	ローム中D・小C・粒B、焼土粒D ⁺ 、砂質粘土粒C ⁺ /粘B、雜A
5 10YR4/3 ㇿ色層	ローム小D・粒C、焼土粒D ⁺ 、炭化粒D ⁺ /粘B、雜B	12 10YK3/3 暗層	ローム粒D/粘B、雜B
6 10YK3/3 暗層	ローム中D・小C・粒C、焼土粒D ⁺ /粘B、雜B	13 10YK2/1 黒	ローム小D・粒C、焼土粒D ⁺ 、炭化粒D ⁺ /粘B/粘B、雜A
7 10YK3/3 暗層	ローム小D・粒C、焼土中D・小C・粒C/粘B、雜B		

ピット・貯蔵穴土層解説 (各ピット共通)

1 10YK3/3 暗層	ローム小D ⁺ ・粒D、焼土粒D ⁺ /粘B、雜B
2 10YK3/3 暗層	ローム小D ⁺ ・粒D、炭化粒D ⁺ /粘B、雜B
3 10YK3/3 暗層	ローム小C・粒B、焼土小D ⁺ ・粒D、炭化粒D ⁺ /粘B、雜B
4 10YR4/3 ㇿ色層	ローム粒D ⁺ 、白粘土コアクテ大A ⁺ /粘B、雜B
5 10YK3/3 暗層	ローム小C・粒B、焼土小C・粒B、炭化物D ⁺ /粒D/粘B、雜B
6 10YK3/2 黒層	ローム粒C、焼土粒D ⁺ 、炭化粒D ⁺ /粘B、雜B

第218図 第131号竪穴建物跡実測図

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで106cmで、燃焼部幅は36cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土を含む第10・11層を積み上げて構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれ、火床部から緩斜して立ち上がっている。第7～9層は竈に関連する堆積土である。

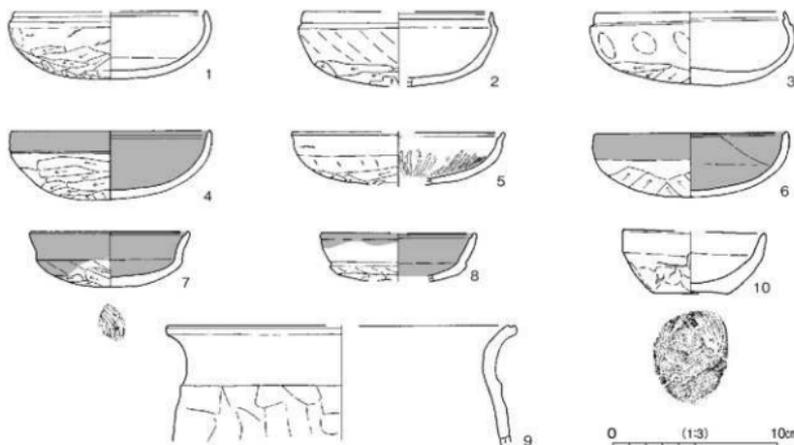
ピット 5か所。P1～P3は深さ20～28cmで、配置から主柱穴である。P4は深さ28cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P5は深さ10cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 3か所。貯蔵穴1は長径58cm、短径32cmの楕円形で、深さは16cmほどである。貯蔵穴2は長径65cm、短径58cmの楕円形で、深さは22cmほどである。第4層には白色粘土が多く含まれていた。貯蔵穴3は長径54cm、短径52cmの円形で、深さは20cmほどである。いずれも底面は皿状で、壁は外傾している。貯蔵穴1・2の新旧関係は貯蔵穴1を埋土して整地した後に貯蔵穴2を構築したものと考えられる。いずれも焼土や白色粘土が含まれており、粘土を貯蔵していたと考えられる。

覆土 6層に分層できる。含有物が少なく、均質な堆積であることから、自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片489点（坏345、碗12、鉢2、甕124、手捏土器6）、須恵器片1点（甕）のほか、混入した土師器片4点（器台1、高坏3）も出土している。4は東部の覆土上層から、正位で出土している。1・7は南部の覆土下層から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第219図 第131号竈穴建物跡出土遺物実測図

第104表 第131号竈穴建物跡出土遺物一覧（第219図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[116]	4.2	-	長石・石英	にぶい相	普通	口唇部内面沈線	覆土下層	50%
2	土師器	坏	[114]	(4.5)	-	長石・石英・ 黒色粘土	明赤褐	普通	口唇部内面沈線	覆土中	40%
3	土師器	坏	11.5	4.5	-	長石・雲母	明赤褐	普通	口唇部内面沈線	覆土中	70% PL87

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
4	土師器	杯	120	4.3	-	長石・石英・雲母 にふい粉	普通	普通	口唇部内面沈靨 口縁部外面・内面黒色処理	覆土上層	90% PL87
5	土師器	杯	[128]	(3.2)	-	長石・石英・燧石	明赤褐	普通	口唇部内面沈靨 内面放射状へうき	覆土中	30%
6	土師器	杯	116	3.9	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口唇部内面沈靨 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	50%
7	土師器	杯	96	3.4	-	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部内面沈靨 口縁部外面・内面黒色処理 底部外面赤切り痕	覆土下層	90% PL87
8	土師器	杯	[93]	(2.9)	-	長石・石英・雲母 にふい粉	普通	普通	口唇部内面沈靨 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	30%
9	土師器	甕	[21.0]	(7.4)	-	長石・石英・雲母 にふい粉	普通	普通	口唇部内面沈靨 内面放射状に剥落	覆土中	5%
10	土師器	手捏土器	[8.4]	3.9	4.5	長石・石英・雲母	橙	普通	底部外面赤切り痕、ナデ	覆土中	70%

第132号竪穴建物跡(第220・221図 PL29)

位置 調査区北西部のH4h3区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第12号堀に掘り込まれている。

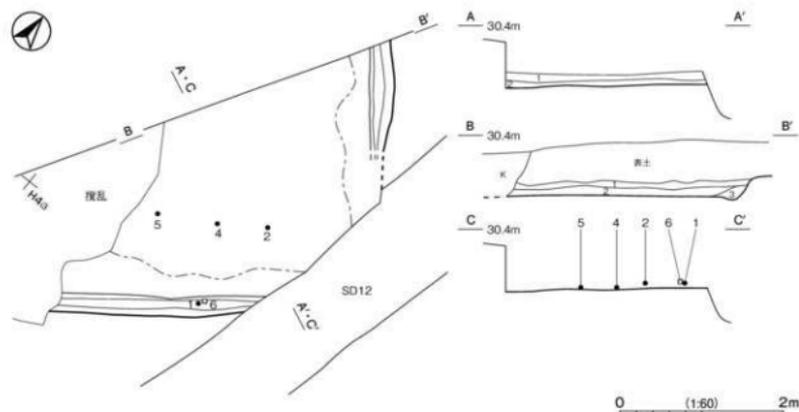
規模と形状 北西部が調査区域外へ延びており、東コーナー部が第12号堀に掘り込まれているため、確認できた北東・南西軸は3.05m、北西・南東軸は2.70mである。方形または長方形と推定され、北東・南西軸方向は $N-51^{\circ}-E$ である。壁高は18cmで、外傾している。

床 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。確認できた範囲では壁溝が巡っている。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片126点(杯81, 椀3, 高杯1, 鉢1, 甕40) 石器1点(砥石)、焼成粘土塊3点(2321g)が出土している。1・2・4～6は、南東部の覆土下層から出土している。1は斜位で出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀第4四半期に比定できる。



土器解説

- 10YK3-2 茶碗 ローム中D・粒C・焼土粒D'・炭化物D' / 粘土、糠目
- 10YK3-3 燧石 ローム中D・小C・粒C・焼土粒D'・炭化物D' / 粘土、糠目
- 10YK4-3 土師器 ローム中D・小C・粒A・焼土粒D'・炭化物D'・粒D / 粘土、糠目

第220図 第132号竪穴建物跡実測図



第 221 図 第 132 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 105 表 第 132 号竪穴建物跡出土遺物一覽 (第 221 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特 徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	135	49	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	内面瘤状に剥落	覆土下層	50%
2	土師器	坏	[142]	45	-	長石・石英	にぶい・橙	普通	口唇部内面沈線 外・内面黒色処理	覆土下層	60% PL87
3	土師器	高坏	[110]	61	7.6	長石・石英	靑灰	普通	坏部内面放射状へろ縮み 坏・脚部全面黒色処理	覆土中	60%
4	土師器	鉢	122	13.2	8.0	長石・石英	にぶい・橙	普通	二次焼熱 内面放射により調整不明瞭 内面から底砂 底部外面未塗装	覆土下層	90% PL87
5	土師器	甕	[150]	19.2	5.8	長石・石英	にぶい・靑	普通	外・内面焼熱により剥落 底部外面未塗装	覆土下層	80% PL88
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴		出土位置	備考	
6	砥石	7.0	7.9	5.4	332	花崗岩	砥面3面		覆土下層		

第 133 号竪穴建物跡 (第 222・223 図 PL.29)

位置 調査区北部の H 5g2 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

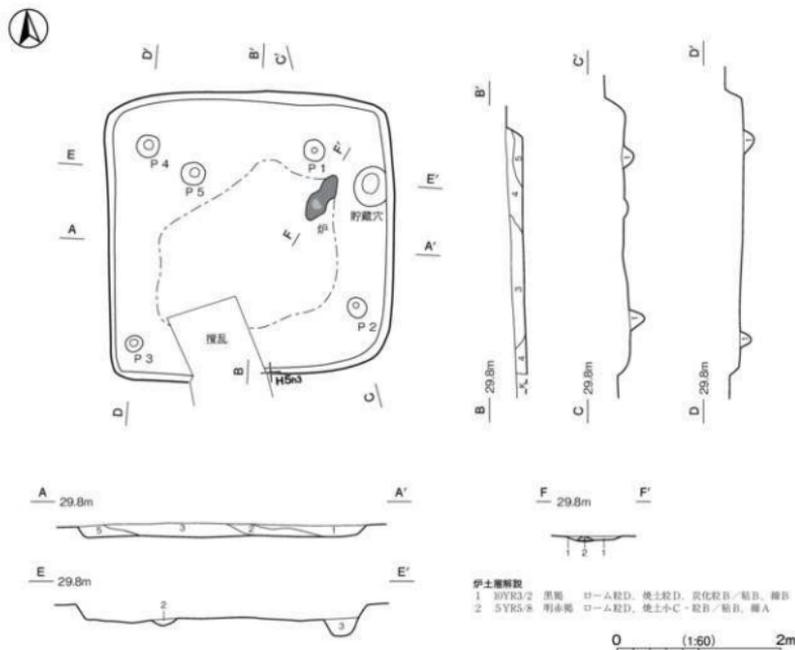
規模と形状 長軸 3.53 m、短軸 3.47 m の方形で、主軸方向は N-5°-E である。壁高は 13 ~ 22 cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部の東寄りに付設された地床炉である。長径 65 cm、短径 20 cm の不整形である。炉床部は床面から 6 cm くらいはんでいる。炉床面は赤変しており、硬化は強い。

ピット 5 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 12 ~ 18 cm で、配置から主柱穴である。P 5 は深さ 10 cm で、性格不明である。

貯蔵穴 長径 50 cm、短径 40 cm の楕円形である。深さは 22 cm ほど、底面は U 字状で、壁は外傾している。単一層で、堆積状況は不明である。



土層解説

- | | | | |
|---|---------|-----|-----------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小C・粒D、焼土粒D/粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム小D・粒D、炭化粒D/粘B、雜B |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色 | ローム小D、焼土粒D/粘B、雜B |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒C、焼土粒C、炭化粒D/粘B、雜B |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒C/粘B、雜B |

ピット・貯蔵穴土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|---|---------|-----|-----------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 暗褐色 | ローム小C・粒C、炭化粒D/粘B、雜B |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小D・粒C、焼土粒C、炭化粒D・粒C/粘B、雜B |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム小D・粒C/粘B、雜B |

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 12点（器台1，甕11）が出土している。また、混入した土師器片 10点（坏）も出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。



0 (1:3) 10cm

第223図 第133号竪穴建物跡出土遺物実測図

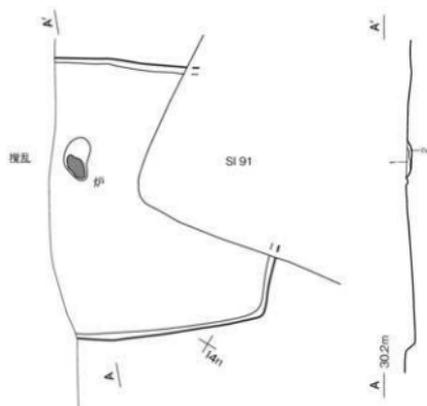
第106表 第133号竪穴建物跡出土遺物一覧（第223図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	器台	-	(5.8)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	脚部三方に穿孔	覆土中	

第134号竪穴建物跡（第224図 PL29）

位置 調査区西部のI3e0区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第91号竪穴建物に掘り込まれている。



浮土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐色 ローム粒D、焼土中C・粒C/粘B、砂A
2 10YR4/6 褐色 ローム小C・粒C/粘B、砂B

0 (1:60) 2m

第224図 第134号竪穴建物跡実測図

規模と形状 西部が攪乱を受けているため、南北軸は343m、確認できた東西軸は266mで、方形または長方形と推定される。主軸方向はN-31'-Wである。壁高は12cmで、外傾している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部の北寄りに付設された地床炉である。長径65cm、短径28cmの不整楕円形である。炉床部は床面から5cmくぼんでいる。炉床面は赤変硬化している。

覆土 層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片3点(坏1, 甕2)が出土している。遺物は細片で図示できなかった。

所見 重複関係や遺構の形状から4世紀代と考えられる。

第107表 古墳時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形状	規模 長軸×短軸(m)	壁高 (cm)	床面	壁面	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考	
								柱穴	土間	ヒト	伊・重					
1A	H618	N-10'-W	方形	5.84 × 5.72	26	平坦	ほぼ全周	-	2	8	1	人為	土師器, 須恵系土師器, 土師器, 瓦, 土師器, 土師器	7世紀第3-4半期	SI 1B → 本跡 → SK29	
1B	H618	N-12'-W	方形	4.98 × 4.78	-	平坦	全周	4	-	-	-	土師器	7世紀第2-3半期	本跡 → SI 1A		
2	H622	N-6'-W	方形	4.98 × 4.25	20-32	平坦	ほぼ全周	4	1	4	1	自然	土師器, 須恵系土師器, 土師器, 土師器, 土師器	7世紀第3-4半期	本跡 → 本跡 → SK31	
3	15a7	N-5'-W	長方形	4.12 × 3.58	12	平坦	一部	3	1	3	1	人為	土師器	7世紀第3-4半期	SI 29 → 本跡 → SE55, SI 22	
4	16b5	N-4'-E	方形	5.38 × 5.02	18-22	平坦	ほぼ全周	2	1	3	1	人為	土師器, 須恵系土師器, 土師器, 土師器	7世紀第2-4半期	SI 12, SK24 → 本跡	
5	16f2	N-0'	方形	4.41 × (4.27)	7-12	平坦	ほぼ全周	-	1	6	1	人為	土師器, 須恵系土師器	7世紀第3-4半期	本跡 → SK 3・4, SD 3・4	
6	13f7	N-14'-W	方形	4.24 × 3.95	22	平坦	-	-	1	-	1	人為	土師器	7世紀第4半期		
7	J6a1	N-9'-W	方形	2.64 × 2.58	20	平坦	ほぼ全周	-	1	-	1	人為	土師器, 須恵系土師器	7世紀第4半期		
8	16a3	N-10'-W	方形	5.08 × 4.90	14-28	平坦	全周	4	2	1	1	人為	土師器, 土師器, 土師器, 土師器	7世紀第3-4半期		
9	16c1	N-7'-W	長方形	4.62 × 4.17	18-30	平坦	ほぼ全周	4	2	4	1	人為	土師器, 須恵系土師器, 土師器, 土師器	7世紀第3-4半期	本跡 → SD 2・3	
10	16d7	N-5'-W	方形	3.82 × 3.63	15	平坦	全周	-	1	3	1	人為	土師器, 須恵系土師器, 土師器, 土師器	7世紀第3-4半期	本跡 → SK49	
11	16e4	N-7'-W	方形	4.84 × 4.81	18	平坦	ほぼ全周	4	1	3	1	人為	土師器, 須恵系土師器, 土師器, 土師器	7世紀第3-4半期	本跡 → SK 5	
12	16e5	N-13'-W	方形	5.22 × 4.90	8-16	平坦	ほぼ全周	4	1	1	-	人為	土師器	7世紀第1-3半期	SK24 → 本跡 → SI 4	
13	16a1	N-7'-W	方形	4.74 × 4.72	14-22	平坦	ほぼ全周	4	1	6	1	人為	土師器, 須恵系土師器, 土師器, 土師器	7世紀第2-4半期	本跡 → SK13, SD 3	
14	16g2	N-0' [方形, 長方形]	3.68 × 2.92	10	平坦	一部	4	1	-	1	1	人為	土師器, 土師器	7世紀第3-4半期		
16	16f9	N-4'-W	方形	4.44 × 4.14	13-21	平坦	ほぼ全周	4	1	-	1	自然	土師器, 須恵系土師器, 土師器	7世紀第4半期		
17	H616	N-4'-W	方形	4.68 × 4.50	10-14	平坦	[全周]	-	-	3	1	自然	土師器, 須恵系土師器, 土師器, 土師器	7世紀第3-4半期	SI 18・37, SK80 → 本跡 → SI 19	
18	H6g5	N-12'-E	[長方形]	5.00 × 4.76	10-18	平坦	[全周]	3	-	-	-	人為	土師器, 須恵系土師器, 土師器	7世紀第2-4半期	SI 17・19	
19	H6h5	N-17'-W	方形	5.50 × 5.35	16-30	平坦	ほぼ全周	4	-	-	1	人為	土師器, 須恵系土師器, 土師器, 土師器	7世紀第3-4半期	SI 17・18・20・24	
20	H614	N-43'-W	方形	4.55 × 4.50	23-37	平坦	一部	-	-	3	-	1	人為	土師器, 土師器	4世紀前半	本跡 → SI 19
21	H6g2	N-23'-W	長方形	6.58 × 5.86	22-32	平坦	一部	-	-	6	伊1	人為	土師器, 土師器, 土師器	4世紀中葉	本跡 → SI 2・22, SK31・32・36	
22	H6g1	N-3'-W	方形	5.08 × 4.88	22-30	平坦	ほぼ全周	3	1	1	1	人為	土師器, 須恵系土師器, 土師器, 土師器	7世紀第4半期	SI 37 → 本跡 → SI 17・19	
23	H6j6	N-5'-E	方形	3.42 × 3.30	24-27	平坦	全周	-	1	-	1	人為	土師器, 須恵系土師器, 土師器	7世紀第3-4半期	本跡 → 本跡	
24	H6j7	N-1'-E	[方形]	3.20 × 3.18	14-22	平坦	-	4	1	-	1	人為	土師器, 土師器	7世紀第3-4半期	本跡 → SI 23・25	
25	16a8	N-4'-E	方形	4.48 × 4.46	24	平坦	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵系土師器, 土師器, 土師器	7世紀第3-4半期	本跡 → SK67 → 本跡 → SK85	
27	15a0	N-33'-W	[長方形]	4.16 × (3.50)	5-19	平坦	-	-	-	-	-	不明	土師器, 土師器	4世紀中葉	本跡 → SI 13, SD 2	
28	16a2	N-52'-E	長方形	5.16 × 4.66	2-10	平坦	-	-	-	3	伊1	不明	土師器	4世紀中葉	本跡 → SK40	
29	H5j7	N-9'-W	長方形	4.62 × 3.96	10-24	平坦	全周	4	1	-	1	自然	土師器, 須恵系土師器, 土師器	7世紀後半	本跡 → 本跡 → SI 3	
30	H6e8	N-15'-W	[方形, 長方形]	5.02 × (1.80)	25	平坦	[全周]	-	2	-	-	人為	土師器, 土師器	4世紀	本跡 → SK41	
32	H5h9	N-34'-W	方形	4.48 × 4.10	7	平坦	一部	-	-	2	-	不明	土師器	4世紀代	本跡 → SK42, SD 2	
33	H6i1	N-2'-E	方形	4.48 × 4.42	12-23	平坦	全周	4	1	1	1	人為	土師器, 土師器	7世紀第4半期	[本跡] → SA 2	
34	H5g9	N-10'-E	方形	5.52 × 5.12	18-24	平坦	ほぼ全周	3	1	4	1	人為	土師器, 土師器, 土師器, 土師器	7世紀第3-4半期	本跡 → SI 31, SK43・77・78	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		階高 (cm)	床面	傾斜	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考		
				長×短×高 (m)	厚 (cm)				柱状	出入口	土	伊					重	階段
35	H518	N-4°-W	方形	5.50 × 5.28	22	平坦	[全面]	4	-	-	掘1	-	人為	土師器、須恵器、織紋瓦	7世紀第4四半期	本跡→SI 29		
37	H985	N-36°-W	方形	6.16 × 5.65	23	平坦	[ほぼ全面]	-	-	13	伊1	-	人為	土師器、焼成粘土瓦	4世紀代	SK08 → 本跡→SI 17 ~ 19		
38	H586	N-53°-E	方形	5.06 × 5.02	20	平坦	一部	-	-	2	伊1	1	人為	土師器、灰石、磁石、焼成粘土瓦	4世紀中葉	本跡→SE 4、37、SK14、39		
39	15a6	N-40°-W	方形	4.06 × 3.90	14	平坦	一部	3	1	1	掘1	-	自然	土師器、焼成粘土瓦、瓦子、焼成粘土瓦	7世紀第3四半期	本跡→SK 45、SD22		
40	17e1	N-12°-E	[方形、長方形]	4.08 × (2.72) 12	16	平坦	[全面]	2	1	-	掘1	-	人為	土師器、須恵器、磁物石、瓦子、焼成粘土瓦	7世紀第2四半期			
45	15d6	N-21°-W	長方形	6.06 × 5.18	10	平坦	[ほぼ全面]	4	1	4	伊1	2	人為	土師器	4世紀中葉	本跡→SI 43、44、SK49		
47	15a3	N-82°-E	長方形	6.66 × 5.98	8	平坦	[ほぼ全面]	2	-	3	伊1	-	人為	土師器、焼成粘土瓦	4世紀中葉	本跡→SD 1・7		
48	H514	N-73°-E	長方形	6.34 × 5.56	3	10	平坦	[全面]	-	-	5	-	人為	土師器、磨石	4世紀中葉	本跡→SI 46、SD 7		
49	15d9	N-23°-W	方形	7.20 × 6.72	10	平坦	[ほぼ全面]	4	-	11	-	1	自然	土師器	4世紀代	本跡→SK86 ~ 88、94、SD 1		
50	15d2	N-5°-W	[方形、長方形]	4.72 × 4.65	-	平坦	-	-	-	6	伊2	-	不明	土師器	4世紀中葉	本跡→SB 8、SK71、80、SD 8、PG 2		
51	J6e4	N-6°-E	方形	3.54 × 3.47	12	14	平坦	一部	-	-	2	掘1	-	自然	土師器、焼成粘土瓦	7世紀第2四半期	SK132・133 → 本跡	
52	J6f2	N-6°-W	長方形	4.45 × 3.32	11	20	平坦	一部	-	-	2	掘1	-	人為	土師器、支脚、石製網鉢車、焼成粘土瓦	7世紀第3四半期		
53	H782	N-9°-E	[方形、長方形]	4.59 × 2.45	30	平坦	[全面]	-	-	3	掘1	-	人為	土師器	6世紀第4四半期	本跡→SB 1		
54	17a2	N-13°-W	[方形、長方形]	3.33 × (1.87) 33	30	平坦	[全面]	-	-	-	掘1	1	自然	土師器、須恵器	7世紀第4四半期			
55	1618	N-86°-E	方形	4.12 × 4.10	8	12	平坦	[全面]	2	-	1	掘1	-	人為	土師器、石製網鉢車、焼成粘土瓦	7世紀第4四半期		
56	16a5	N-10°-W	方形	4.80 × 4.78	6	15	平坦	[全面]	4	1	3	-	人為	土師器、磨石	7世紀第3四半期			
57	J6a9	N-4°-W	長方形	4.74 × 4.20	3	8	平坦	[ほぼ全面]	4	-	-	掘1	-	不明	土師器、須恵器、支脚	7世紀第2四半期		
58	J6e9	N-13°-W	方形	3.42 × 3.36	8	15	平坦	一部	-	-	1	掘1	-	自然	土師器	7世紀第4四半期		
59	J6e4	N-3°-W	[方形、長方形]	4.91 × (4.30)	4	8	平坦	一部	-	-	-	掘1	-	不明	土師器、支脚、焼成粘土瓦	7世紀第4四半期		
60	J6d2	N-26°-E	[方形、長方形]	3.59 × 3.42	6	30	平坦	一部	-	-	-	掘1	-	自然	土師器、石製網鉢車、焼成粘土瓦	7世紀第4四半期		
62	J6b3	N-9°-E	長方形	3.53 × 2.92	21	平坦	全部	-	-	-	掘1	-	自然	土師器、磁物石	7世紀代			
63	J6b2	N-0°-E	方形	4.94 × 4.83	6	10	平坦	一部	4	-	4	掘1	-	不明	土師器、支脚	7世紀第2四半期		
64	J510	N-10°-W	方形	3.96 × 3.85	4	13	平坦	-	4	1	1	掘1	-	不明	土師器	7世紀代		
65	J518	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	掘1	-	不明	土師器	7世紀代	本跡→SD 3	
66	J510	N-15°-W	方形	3.97 × 3.88	9	12	平坦	-	-	-	1	掘1	-	不明	土師器	7世紀第4四半期		
67	K4a9	N-73°-E	方形	4.29 × 4.26	15	平坦	[全面]	-	-	4	-	-	-	土師器、鎌、焼成粘土瓦	7世紀第4四半期	本跡→SI 97、SK146		
68	J415	N-54°-E	方形	4.84 × 4.80	9	28	平坦	全面	-	3	-	-	自然	土師器、支脚	4世紀末葉			
69	J413	N-75°-E	方形	5.80 × 5.38	28	34	平坦	全面	4	1	-	掘1	1	人為	土師器、須恵器、磨石、焼成粘土瓦	7世紀第3四半期		
70	J4e1	N-7°-W	方形	4.24 × 4.24	10	18	平坦	一部	3	1	-	掘1	-	自然	土師器、支脚	6世紀第3四半期	SK149 → 本跡	
71	J3b7	N-2°-E	長方形	5.82 × 5.27	5	14	平坦	全面	-	-	2	掘1	1	人為	土師器、焼成粘土瓦	7世紀第4四半期	本跡→SI 97、SD18	
72	J3e1	N-76°-E	方形	5.20 × 5.17	8	26	平坦	全部	-	-	伊2	-	自然	土師器、磨石	4世紀代	SK474 → 本跡→SI 97		
73	J416	N-42°-E	方形	5.14 × 4.78	28	平坦	-	-	-	2	伊1	-	自然	土師器、伊石	4世紀代	本跡→SK140		
74	J3e8	N-29°-W	長方形	4.02 × 3.72	34	平坦	-	-	1	-	-	-	人為	土師器	4世紀中葉	SK135 → 本跡		
75	J510	N-106°-E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	掘1	-	不明	土師器	7世紀第2四半期		
77	J6e7	N-2°-W	[方形、長方形]	(4.15) × (4.13) 14	20	平坦	一部	1	-	-	掘1	-	自然	土師器	7世紀代	SI 78 → 本跡		
78	J616	N-13°-E	方形	4.56 × 4.51	4	7	平坦	全面	4	-	-	掘1	-	人為	土師器、支脚	7世紀第2四半期	本跡→SI 77、SK146	
79	J6b1	N-2°-E	方形	3.24 × 3.24	10	18	平坦	一部	-	-	-	-	自然	土師器	7世紀代	本跡→SD 3		
80	J318	N-14°-E	方形	5.42 × 5.40	30	平坦	全面	4	2	-	掘1	1	自然	土師器、支脚	7世紀第1四半期	本跡→SD11		
81	J5d9	N-2°-E	方形	4.62 × 4.40	20	平坦	[ほぼ全面]	4	1	-	掘1	-	自然	土師器、土瓦、焼成粘土瓦	7世紀第4四半期			
82	J4e1	N-3°-W	長方形	4.48 × 4.00	6	20	平坦	[ほぼ全面]	-	-	1	2	掘1	-	人為	土師器	7世紀第3四半期	
84	J3f8	N-5°-E	方形	5.16 × 5.06	21	30	平坦	[ほぼ全面]	4	1	-	掘1	-	人為	土師器、須恵器、焼成粘土瓦	7世紀第4四半期	SK432・472 土相不明	
85	J4e1	N-11°-W	方形	5.76 × 5.34	22	平坦	[ほぼ全面]	4	1	-	掘1	-	人為	土師器、須恵器、支脚、鎌、焼成粘土瓦	7世紀第4四半期			
86	J4c3	N-68°-E	長方形	6.08 × 4.90	20	平坦	-	-	-	2	-	-	人為	土師器	4世紀中葉	本跡→SK519、SD 6		
87	J4c1	N-17°-W	方形	4.89 × 4.68	23	平坦	[全面]	3	1	1	-	-	人為	土師器、須恵器、砥石、耳環	4世紀第2四半期	本跡→SD 6		
88	J3a9	N-17°-E	[方形、長方形]	4.60 × (3.54) 16	平坦	-	-	-	-	7	掘1	1	自然	土師器、焼成粘土瓦	7世紀代	本跡→SI 105、SD 5		
90	14e4	N-22°-W	方形	5.02 × 4.84	28	36	平坦	一部	-	-	3	掘1	-	人為	土師器、支脚、焼成粘土瓦	6世紀第3四半期	本跡→SD10、SK166	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長×短(m)	壁高 (cm)	床面 構造	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考		
							柱穴	土口	ピット	貯蔵穴						
91	1441	N-3°-W	方形	6.52 × 6.50	16-29	平坦 [注1] 全周	4	1	-	竈2	-	人為	土師器、須恵器、支脚 皿、焼成粘土塊	7世紀第 3四半期	SI 134 →本跡→ SK322	
93	J316	N-25°-W	方形・ 長方形	3.27 × 1.45	15-23	平坦	-	-	1	-	-	人為	土師器	6世紀第 3四半期		
94	1443	N-2°-W	方形 長方形	5.81 × (4.22)	20-28	平坦 [注1] 全周	3	-	2	竈1	-	人為	土師器、須恵器、 土玉	7世紀第 3四半期	本跡→SD10・12	
95	1445	N-4°-W	長方形	6.57 × 5.43	10-19	平坦	一部	-	4	竈1	-	人為	土師器、須恵器、 支脚、焼成粘土塊	7世紀第 1四半期	SI 113・122 →本跡 →SE24、SD10・16	
96	1415	N-13°-W	方形	5.50 × 5.36	18-28	平坦	全周	3	1	1	竈1	1	焼失	土師器、須恵器、土師 石製の磨盤、焼成粘土塊	6世紀第 2四半期	本跡→SD15
97	J367	N-47°-W	長方形	4.50 × 3.06	7-15	平坦	-	-	3	竈1	-	人為	土師器	7世紀第 2四半期	SI 71・72 →本跡	
98	1449	N-40°-E	隅丸 長方形	6.32 × 5.54	26	平坦	[注1] 全周	3	-	1	伊1	1	人為	土師器、磁石	4世紀中葉	本跡→HT 1、 PC-5
100	1319	N-3°-E	長方形	4.76 × 4.50	8-12	平坦	[全周]	-	1	竈1	-	不明	土師器	7世紀第 3四半期	本跡→SI 101	
101	1310	N-7°-E	長方形	6.00 × 5.50	30-36	平坦	全周	4	1	2	竈1	-	人為	土師器、須恵器、土玉、 支脚、焼成粘土塊	7世紀第 4四半期	SI 100・102 → 本跡→SI 103
102	1411	N-5°-E	長方形	3.24 × 2.94	20	平坦	[注1] 全周	-	1	竈1	-	人為	土師器、須恵器、土師 磨状磨盤、焼成粘土塊	7世紀第 3四半期	本跡→SI 101	
107	1446	N-27°-W	方形・ 長方形	6.30 × 4.75	12-16	平坦	-	-	2	-	-	人為	土師器	4世紀中葉	SK174 →本跡→ SK175、SD15	
109	J442	N-0°	方形	6.23 × 6.20	24-36	平坦	一部	-	5	竈1	-	自然	土師器、須恵器、土玉、 支脚、白土、焼成粘土塊	6世紀第 3四半期	本跡→SD 5・12 SE20	
111	J367	N-3°-E	長方形	3.32 × 3.00	14-22	平坦	一部	4	1	-	竈1	1	自然	土師器、支脚	7世紀第 4四半期	SK180 →本跡
113	1446	N-22°-E	方形	3.09 × 2.97	18-28	平坦	-	-	6	伊1	-	自然	-	4世紀代	SK180 →SI 95、 SD10	
114	H417	N-6°-W	方形	6.02 × 5.87	16-28	平坦	一部	4	2	1	竈1	1	人為	土師器、須恵器、磁石、 石製の磨盤、焼成粘土塊	7世紀第 1四半期	本跡→SE44、 SD16
115	1442	N-77°-E	方形	4.12 × 3.20	20-27	平坦	一部	-	1	竈2	-	人為	土師器、須恵器、 支脚、焼成粘土塊	7世紀第 1四半期	SK25 →43 →SI 18、 SE19、SK177・520	
116	1442	N-8°-W	方形・ 長方形	3.95 × 3.70	8-25	平坦	[全周]	-	1	2	-	自然	土師器、須恵器、 磨盤	7世紀第 3四半期	SI 115 →本跡	
118	H415	N-35°-W	隅丸 方形	4.30 × 4.18	6-18	平坦	-	-	-	伊1	-	不明	-	4世紀代		
119	1442	N-84°-E	(長方形)	4.73 × 4.70	15-30	平坦	-	-	1	竈1	-	自然	土師器、須恵器、支脚 磁石、焼成粘土塊	6世紀第 3四半期	本跡→SE22、 SD12	
121	H418	N-20°-E	方形	3.06 × 3.01	10-18	平坦	-	-	3	伊1	-	人為	-	4世紀代	本跡→HT 2、 SD10	
122	1446	N-26°-W	方形	5.09 × 4.95	12-24	平坦	-	-	2	-	-	人為	土師器	4世紀代	本跡→SI 95、SD15、 SK303	
131	H416	N-3°-E	方形	4.50 × 4.44	36	平坦	[全周]	3	1	1	竈1	3	自然	土師器、須恵器	7世紀第 3四半期	本跡→SD16
132	H413	N-51°-E	方形・ 長方形	3.05 × 2.70	18	平坦	[注1] 全周	-	-	-	-	自然	土師器、磁石、 焼成粘土塊	6世紀第 4四半期	本跡→SD12	
133	H562	N-5°-E	方形	3.53 × 3.47	13-22	平坦	-	4	-	1	伊1	1	人為	土師器	4世紀中葉	
134	134e0	N-31°-W	方形・ 長方形	3.43 × 2.66	12	平坦	-	-	-	伊1	-	不明	土師器	4世紀代	本跡→SI 91	

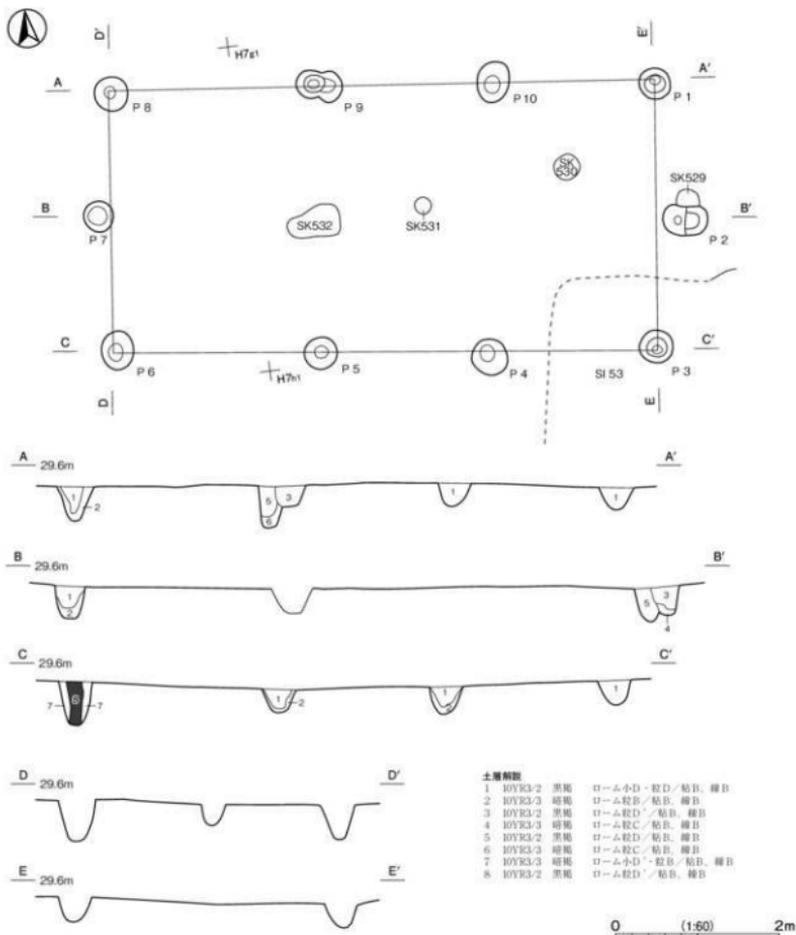
(2) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第225・226図 PL30)

位置 調査区北東部のH7g1区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第53号竪穴建物跡、第529～532号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡、桁行方向N-83°-Wの東西棟である。規模は桁行6.60m、梁行3.30mで、面積は21.78㎡である。柱間寸法は桁行1.94～2.45mで、梁行1.50～1.80mで、柱筋は概ね揃っている。



第225図 第1号掘立柱建物跡実測図

柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で、長径38～55cm、短径32～42cmである。深さは24～52cmで、掘方の断面形はU字形である。第8層は柱痕跡、第7層は掘方への埋土、第1～6層は柱抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況 土師器片46点(坏34、甕11、手捏土器1)が出土している。

所見 時期は、出土遺物から7世紀以降と考えられる。P2・P9の形状から、建て替えられている可能性がある。



0 (1:3) 10cm

第226図 第1号掘立柱建物跡出土物実測図

第108表 第1号掘立柱建物跡出土遺物一覧(第226図)

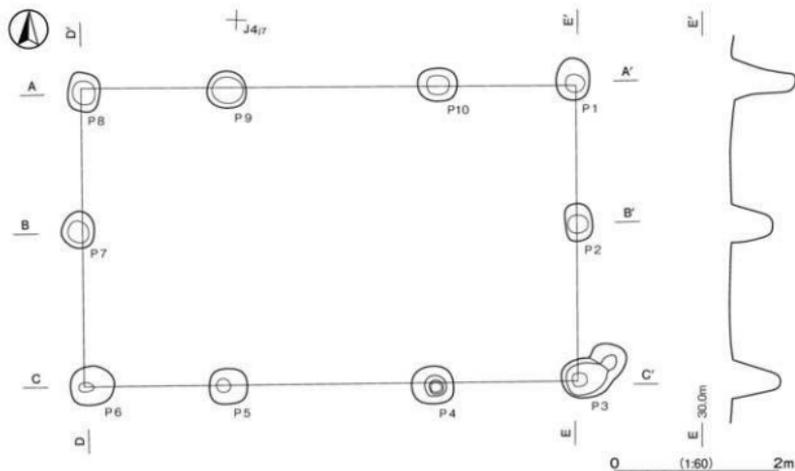
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	手捏土器	[8.3]	4.1	[5.0]	長石・石英	にぶい橙	普通	内面黒色処理	P1覆土中	20%

第2号掘立柱建物跡(第227・228図 PL30)

位置 調査区南部のJ4j7区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-88°-Eの東西棟である。規模は桁行6.00m、梁行3.62mで、面積は21.72m²である。柱間寸法は桁行1.63～2.60m、梁行1.73～1.92mで、柱筋は描っている。

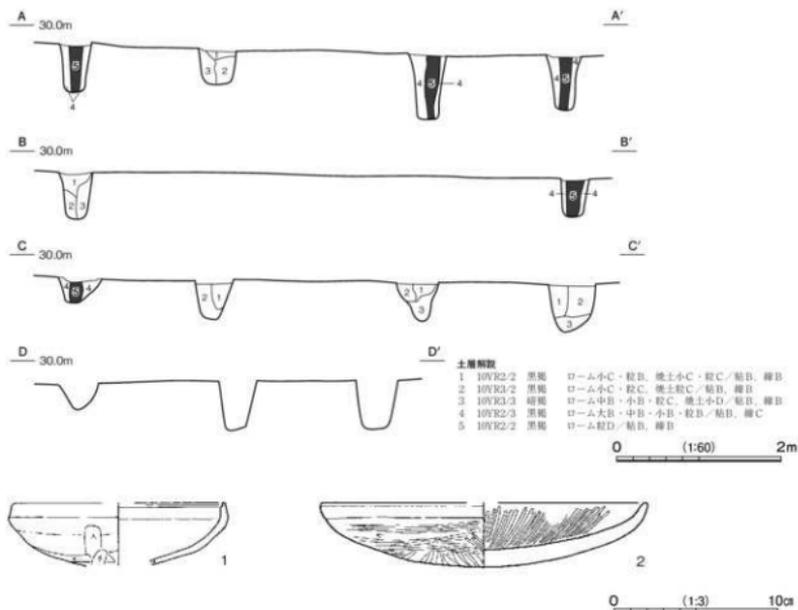
柱穴 10か所。平面形は円形または楕円形で、長径45～85cm、短径30～48cmである。深さは30～78cmで、掘方の断面形はU字形である。第5層は柱痕跡、第4層は掘方への埋土、第1～3層は柱抜き取り後の覆土である。



第227図 第2号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 115 点 (坏 70, 椀 1, 高坏 1, 甕 43), 焼成粘土塊 2 点 (33.9g) のほか, 混入した陶器片 1 点 (甕), 石器 1 点 (砥石) が出土している。

所見 時期は, 出土遺物から 7 世紀第 4 四半期と考えられる。



第 228 図 第 2 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 109 表 第 2 号掘立柱建物跡出土遺物一覧 (第 228 図)

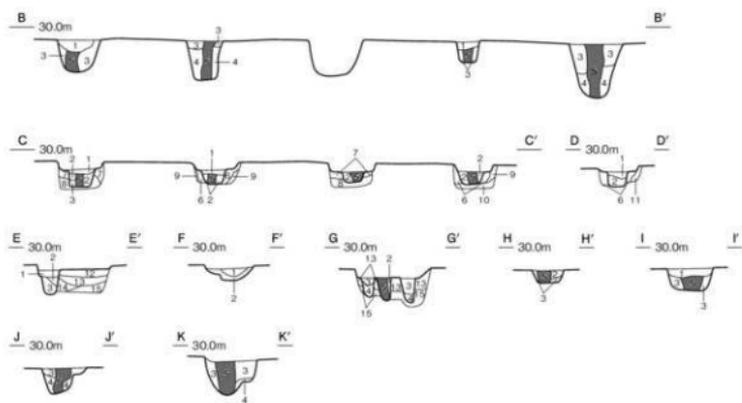
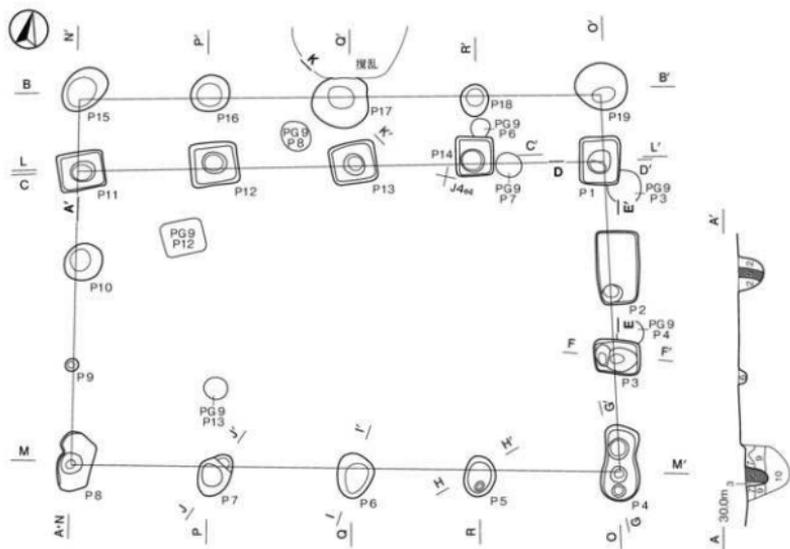
番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[127]	(3.8)	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口唇部内面沈線	P 2 覆土中	10%
2	土師器	坏	[198]	3.8	-	長石・石英・赤色粘土	橙	普通	内面放射状へう磨き	P 8 覆土中	10%

第 7 号掘立柱建物跡 (第 229・230 図 PL30)

位置 調査区南西部の J4e3 区, 標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 9 号ピット群と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行 4 間, 梁行 3 間の身舎に, 北庇が付く側柱建物跡で, 桁行方向 N - 78° - E の東西棟である。規模は身舎が桁行 6.34 ~ 6.54 m, 梁行 3.62 ~ 3.76 m で, 面積は 23.74㎡である。庇の出は東西 6.30 m, 南北 0.82 ~ 0.86 m で, 庇を含めた桁行は 6.30 ~ 6.54 m, 梁行は 4.44 ~ 4.62 m で, 面積は 29.05㎡である。身舎の柱間寸法は桁行 1.40 ~ 1.80 m で, 梁行 1.10 ~ 1.40 m で, 庇の柱間寸法は, 桁行 1.50 ~ 1.60 m, 梁行 0.70 ~



土層關係

- | | | | |
|--------------|---------------------|---------------|------------------|
| 1 75YR2-3 磁磚 | □-△粒石/粘土、雜土 | 9 75YR5-4 石灰 | □-△粒石/粘土、雜土 |
| 2 75YR4-3 磁 | □-△小石、粒石/粘土、雜土 | 10 75YR4-3 磁 | □-△小石、粒石/粘土、雜土 |
| 3 75YR2-2 灰泥 | □-△小石、粒石、炭化粒石/粘土、雜土 | 11 75YR4-3 磁 | □-△小石/粘土、雜土 |
| 4 75YR2-2 灰泥 | □-△小石、粒石/粘土、雜土 | 12 75YR4-3 磁 | □-△中石、小石、粘土、雜土 |
| 5 75YR2-2 灰泥 | □-△小石、粒石/粘土、雜土 | 13 75YR3-3 磁 | □-△小石、炭化粒石/粘土、雜土 |
| 6 75YR4-4 磁 | □-△中石/粘土、雜土 | 14 75YR2-2 灰泥 | □-△粒石/粘土、雜土 |
| 7 75YR3-3 磁 | □-△粒石/粘土、雜土 | 15 75YR3-2 灰泥 | □-△小石、燒土粒石/粘土、雜土 |
| 8 75YR4-6 磁 | □-△中石/粘土、雜土 | | |

0 (1:50) 2m

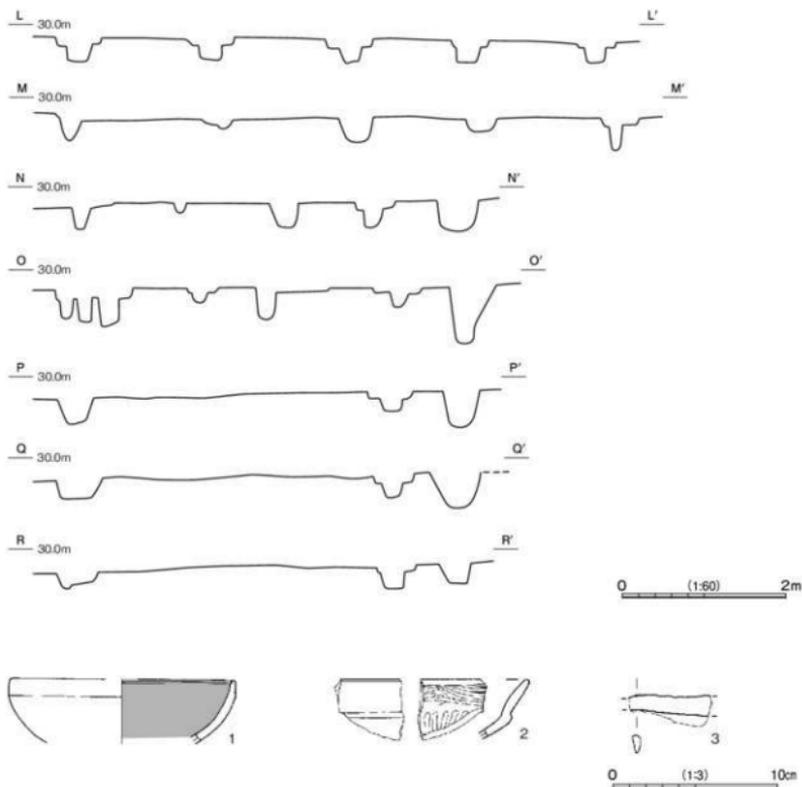
第 229 圖 第 7 号掘立柱建物跡実測図

0.90 mで、いずれも柱筋は揃っている。

柱穴 19か所。P 1～P 14は身舎の柱穴である。掘方の平面形は隅丸方形・隅丸長方形または楕円形で、長軸（径）18～89cm、短軸（径）16～54cm、深さは11～19cmで、掘方の断面は直立している。P 15～P 18は庇の柱穴である。掘方の平面形は円形または楕円形で、長径40～70cm、短径35～62cmである。深さは26～68cmで、掘方の断面形はU字形である。第7～15層は壺地業への埋土、第6層は建て替え前の掘方への埋土、第5層は柱痕跡、第2～4層は掘方への埋土、第1層は柱抜き取り後の覆土である。

遺物出土状況 土師器片26点（坏19、碗1、甕6）、金属製品1点（刀子）のほか、混入した縄文土器片2点（深鉢）が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3～4四半期と考えられる。P 3・P 4の形状や、P 1・P 12・P 14の土層断面の状況から複数回の建て替えが行われている。



第230図 第7号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第110表 第7号掘立柱建物跡出土遺物一覧(第230図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	134	39	-	長石・石英	に灰い橙	普通	口唇部内面沈線 内面黒色処理	P 14 覆土中	10%
2	土師器	坏	-	36	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	P 2 覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	刀子	(5.1)	1.9	0.5	(15.48)	鉄	両端部欠損	P 4 覆土中	

第111表 古墳時代掘立柱建物跡一覧

番号	位置	前行方向	柱間数		面積	柱間寸法		柱穴		主な出土遺物	時期	備考		
			桁×梁	桁×梁		桁間	梁間	構造	平面形				深さ	
1	H7gl	N-83°-W	3 × 2	6.60 × 3.30	21.78	1.94 ~ 2.45	1.50 ~ 1.80	圓柱	10	円形・楕円形	24 ~ 52	土師器	7世紀代	SI 31 (古墳) → 本墓 SK29 ~ 32 と新田古墳
2	J4j7	N-88°-E	3 × 2	6.00 × 3.62	21.72	1.63 ~ 2.60	1.73 ~ 1.92	圓柱	10	円形・楕円形	30 ~ 78	土師器、 焼成粘土	7世紀第 4四半期	
7	J4e3	N-78°-E	4 × 3	5.30 × 4.41 5.51 × 4.82	29.05	1.80 ~ 1.80 1.50 ~ 1.60	1.10 ~ 1.80 0.70 ~ 0.90	圓柱	19	円形・楕円形 方形・長方形	11 ~ 31	土師器、刀子	7世紀 後半	PC 9 と新田古墳 底位置関係(一断面)

(3) 土坑

第1号土坑(第231図)

位置 調査区北東部のH6h8区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第2号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸0.78m、短軸0.62mの隅丸長方形で、長軸方向はN-58°-Wである。深さ45cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることや不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片1点(坏)が出土している。1は覆土上層から斜位で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。



第231図 第1号土坑・出土遺物実測図

第112表 第1号土坑出土遺物一覧(第231図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	106	39	-	長石・石英・雲母	褐灰	普通	口唇部内面沈線 外・内面黒色処理	覆土上層	30%

第6号土坑 (第232図)

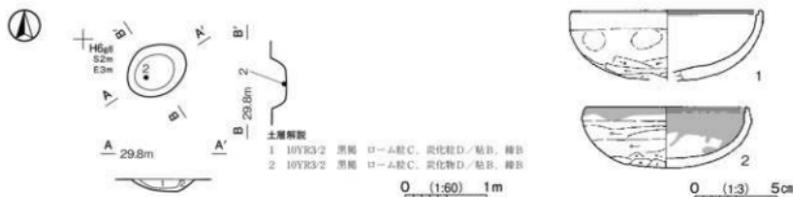
位置 調査区北東部のH6g8区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径0.76m、短径0.62mの楕円形で、長径方向はN-57°-Eである。深さ17cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 2層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片6点(坏)が出土している。2は底面から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第232図 第6号土坑・出土遺物実測図

第113表 第6号土坑出土遺物一覧 (第232図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.5	(4.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にじみ橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	90% PL88
2	土師器	坏	9.9	3.7	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部内面の沈線 口縁部外面・内面黒色処理	底面	100% PL88

第38号土坑 (第233図 PL30)

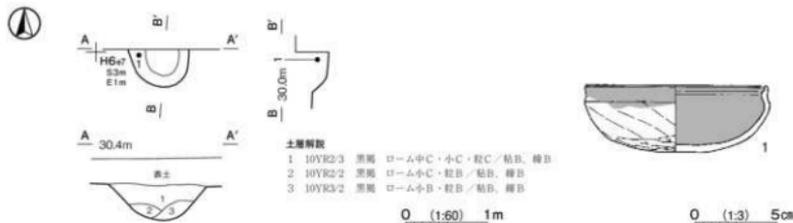
位置 調査区北東部のH6e7区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外に延びており、東西径0.72m、確認できた南北径0.48mの楕円形と推定され、長径方向はN-14°-Wである。深さ20cmで、底面はU字状である。壁は外傾している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれている不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片12点(坏11、甕1)が出土している。1は覆土中層から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第233図 第38号土坑・出土遺物実測図

第114表 第38号土坑出土遺物一覧(第233図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	108	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	口唇部内面沈靨 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中層	90% PL88

第44号土坑(第234図 PL30)

位置 調査区北部のH5h6区、標高30mほどの微高地上に位置している。

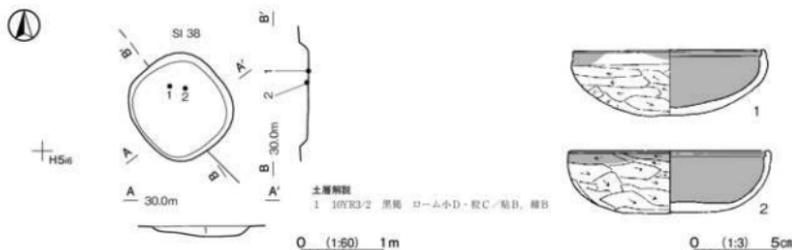
重複関係 第38号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.24m、短軸1.16mの隅丸方形で、長軸方向はN-38°-Wである。深さ12cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 単一層である。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片12点(坏9、甕3)が出土している。1・2は底面から出土している。1は逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



第234図 第44号土坑・出土遺物実測図

第115表 第44号土坑出土遺物一覧(第234図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	115	4.0	-	長石・石英	黒靨	普通	口唇部内面沈靨 口縁部外面・内面黒色処理	底面	80% PL88
2	土師器	坏	121	3.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黒	普通	口唇部内面沈靨 口縁部外面・内面黒色処理	底面	60% PL88

第110号土坑(第235図 PL30)

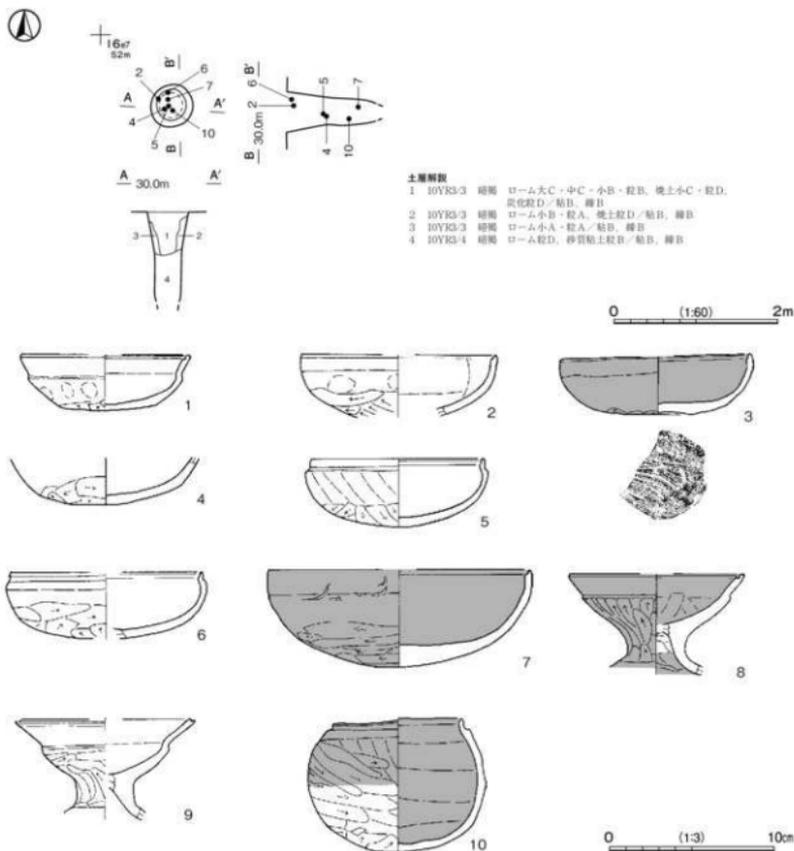
位置 調査区東部のI 6e7区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径0.54m、短径0.50mの円形である。深さ110cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

覆土 4層に分層できる。遺物が覆土下層から上層にかけて散在して出土している状況や、ロームブロックが多量に含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 89 点 (坏 64, 碗 2, 高坏 5, 鉢 1, 甕 17), 須恵器片 1 点 (甕) が出土している。7・10 は覆土下層から, 4・5 は覆土中層から立位で, 2・6 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀第 3 四半期に比定できる。



第 235 図 第 110 号土坑・出土遺物実測図

第 116 表 第 110 号土坑出土遺物一覧 (第 235 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[103]	3.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	60%
2	土師器	坏	[118]	(3.8)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面弱い沈線	覆土上層	20%
3	土師器	坏	[115]	3.8	4.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 底唇未切り裏・外・内面黒色処理	覆土中	40%
4	土師器	坏	-	(2.9)	-	長石・石英・雜粒	にぶい黄橙	普通	外・内面黒色処理の痕跡	覆土中層	40%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
5	土師器	坏	10.4	4.2	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 内面痲状に剥落	覆土中層	100% PL88
6	土師器	坏	[11.6]	(4.0)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土上層	40%
7	土師器	椀	[16.0]	6.0	-	長石・石英・赤色粒子・細砂	にぶい黄緑	普通	口唇部内面沈線 外・内面黒色処理	覆土下層	50%
8	土師器	高坏	[10.4]	(6.1)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面弱い沈線 外・内面黒色処理	覆土中	40%
9	土師器	高坏	[10.3]	(6.1)	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	30%
10	土師器	鉢	7.7	8.1	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	にぶい橙	普通	外・内面黒色処理 内面痲状に剥落	覆土下層	100% PL88

第115号土坑 (第236・237図 PL31)

位置 調査区北部のH5g8区、標高30mほどの微高地上に位置している。

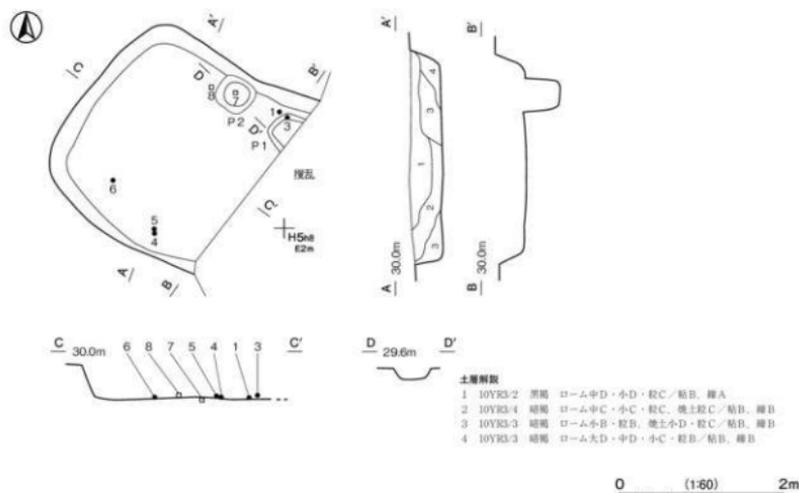
規模と形状 南東部が攪乱を受けており、北東・南西軸は258m、確認できた北西・南東軸は232mで、長方形と推定され、長軸方向はN-54°-Wである。深さは44cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

ピット 2か所。P1・P2は深さ46cm・12cmで、性格不明である。

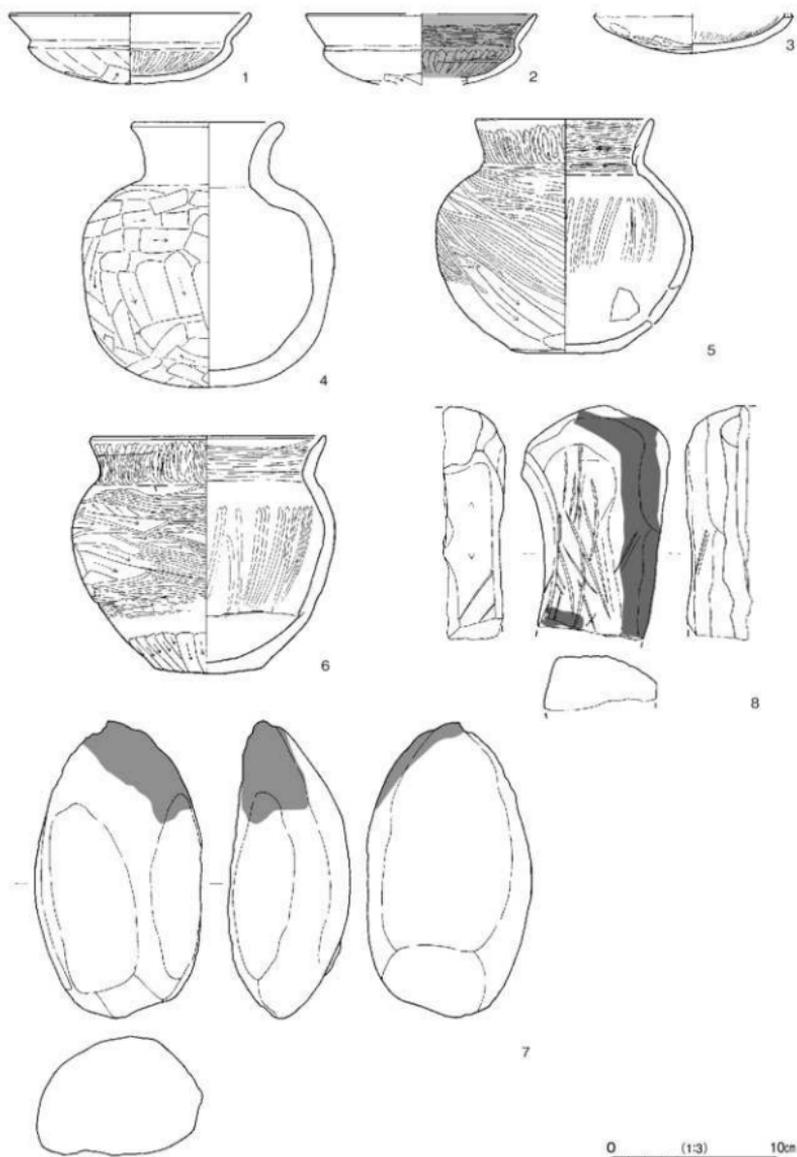
覆土 4層に分層できる。ロームブロックなどが含まれている不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片108点(坏71, 壺1, 甕36)、石器2点(磨石、砥石)が出土している。1・8は北東部、4～6は南部の底面から出土している。1・5は斜位で、4は横位で出土している。3は覆土下層から斜位で出土している。7はP2の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀第4四半期に比定できる。



第236図 第115号土坑実測図



第 237 图 第 115 号土坑出土遗物实测图

第117表 第115号土坑出土遺物一覧(第237図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	146	43	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面放射状へう磨き	底面	80% PL89
2	土師器	坏	[138]	(43)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内外へう磨き 内面放射状へう磨き 内面黒色処理	覆土中	30%
3	土師器	坏	-	[25]	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内面放射状へう磨き	覆土下層	40%
4	土師器	壺	92	162	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外面焼成前擦痕	底面	100% PL88
5	土師器	甕	107	143	65	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面磨光・内面磨光へう磨き 体部外面磨光・内面放射状へう磨き 内側から穿孔 底面外面へう磨き	底面	90% PL89
6	土師器	甕	144	146	[70]	長石・石英	橙	普通	内面へう磨き 体部内面下半部環状に磨光 底面外面へう磨き	底面	90% PL89

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
7	磨石	182	101	70	1,362	砂岩	磨面3面 一部被熱	P2 覆土上層	
8	砥石	[143]	90	[38]	[612]	凝灰岩	砥面4面 一部保付着	底面	PL101

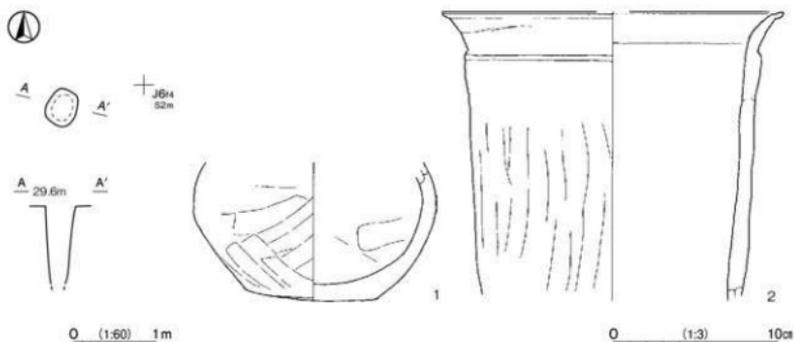
第134号土坑(第238図 PL31)

位置 調査区南東部のJ 6f3区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸0.46m、短軸0.36mの隅丸長方形で、長軸方向はN-20°-Eである。深さ100cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

遺物出土状況 土師器片6点(坏4、甕2)が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀代に比定できる。



第238図 第134号土坑・出土遺物実測図

第118表 第134号土坑出土遺物一覧(第238図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	-	(84)	78	長石・石英	にぶい橙	普通	底面外面へうナデ	覆土中	20%
2	土師器	甕	[206]	(177)	-	長石・石英・赤色粒子・網織	にぶい橙	普通	口唇部内面沈積 体部内面磨減により黄橙不明瞭	覆土中	20%

第153号土坑 (第239図 PL31)

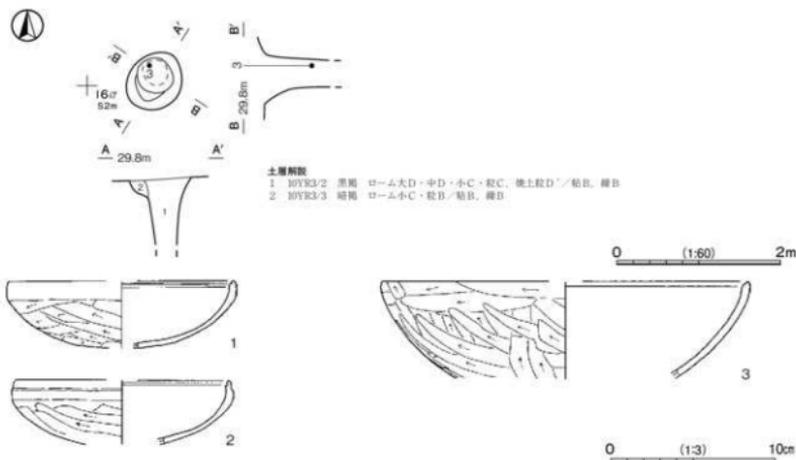
位置 調査区東部の167区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径0.77m、短径0.64mの楕円形で、長径方向はN-33°-Eである。深さ80cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

覆土 2層に分層できる。層厚が厚く、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片27点(坏22、碗5)、須恵器片1点(長頸瓶)、焼成粘土塊1点(6.95g)が出土している。3は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



第239図 第153号土坑・出土遺物実測図

第119表 第153号土坑出土遺物一覧 (第239図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[138]	(4.1)	-	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	に濃い黄褐色	普通	口唇部内面沈線	覆土中	30%
2	土師器	坏	[130]	(3.9)	-	長石・石英	に濃い黄褐色	良好	口唇部内面沈線	覆土中	10%
3	土師器	碗	[224]	(5.9)	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄褐色	普通	口唇部内面内側・横線	覆土下層	20%

第157号土坑 (第240図 PL31)

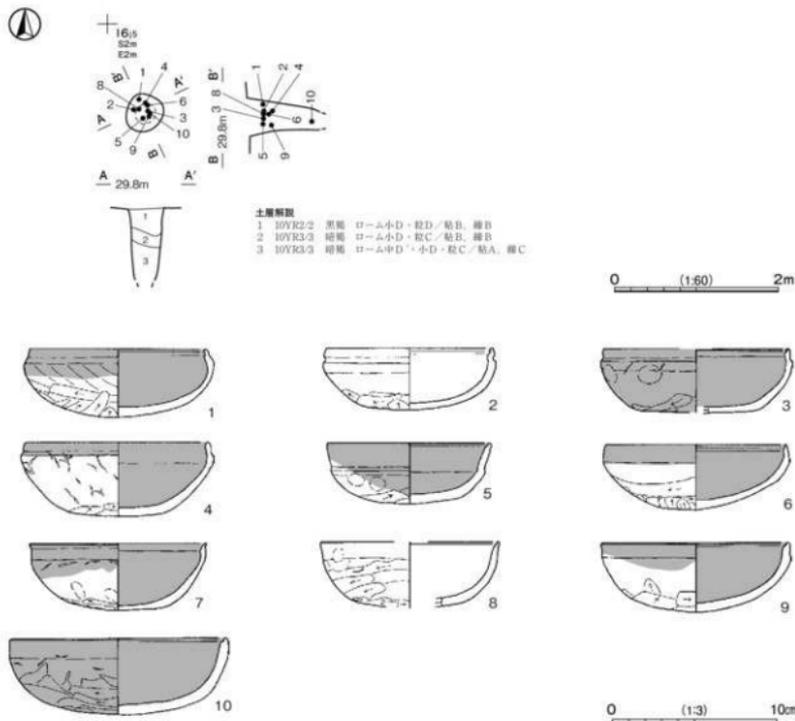
位置 調査区東部の167区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 径0.46mの円形である。深さ89cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

覆土 3層に分層できる。遺物が覆土下層から上層にかけて散在して出土している状況や、ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 35 点 (坏 23, 甕 12) が出土している。1 ~ 3・5・6・8 は覆土上層から、4・9 は覆土中層から、10 は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 3 四半期に比定できる。



第 240 図 第 157 号土坑・出土遺物実測図

第 120 表 第 157 号土坑出土遺物一覧 (第 240 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.7	4.1	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	良好	口縁部内面弱い沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土上層	100% PL89
2	土師器	坏	10.0	3.8	-	長石・赤色粒子	橙	良好	口縁部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土上層	90% PL89
3	土師器	坏	[11.2]	(3.9)	-	長石・石英	にぶい靑	普通	口縁部内面沈線 外・内面黒色処理	覆土上層	30%
4	土師器	坏	11.0	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい靑	普通	口縁部外面・内面黒色処理	覆土中層	90%
5	土師器	坏	9.8	3.7	-	長石・石英	にぶい靑	普通	口縁部内面弱い沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土上層	60%
6	土師器	坏	11.1	4.0	-	長石・石英	にぶい靑	普通	口縁部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土上層	80% PL89
7	土師器	坏	10.7	4.1	-	長石・石英	灰靑	普通	口縁部内面弱い沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	40%
8	土師器	坏	[10.8]	(4.0)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい靑	普通	口縁部内面弱い沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土上層	40%
9	土師器	坏	11.3	4.7	-	長石・石英	にぶい靑	良好	口縁部内面弱い沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中層	70%
10	土師器	坏	13.0	4.6	-	長石・石英	黒靑	普通	口縁部内面沈線 外・内面黒色処理	覆土下層	80% PL89

第 161 号土坑 (第 241 図 PL31)

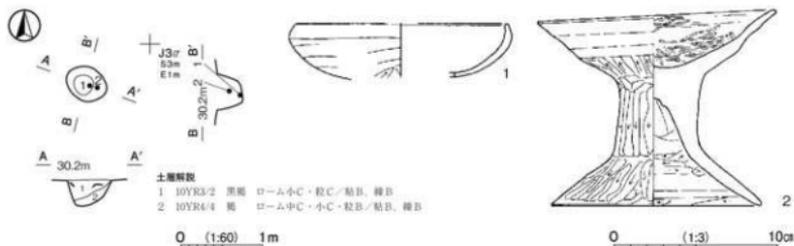
位置 調査区南西部の J 317 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径 0.52 m、短径 0.40 m の楕円形で、長径方向は N - 62° - W である。深さ 33cm で、底面は皿状である。壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 12 点 (坏 3、碗 1、高坏 1、甕 7) が出土している。1 は底面から正位で、2 は覆土下層から逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 1 四半期に比定できる。



第 241 図 第 161 号土坑・出土遺物実測図

第 121 表 第 161 号土坑出土遺物一覧 (第 241 図)

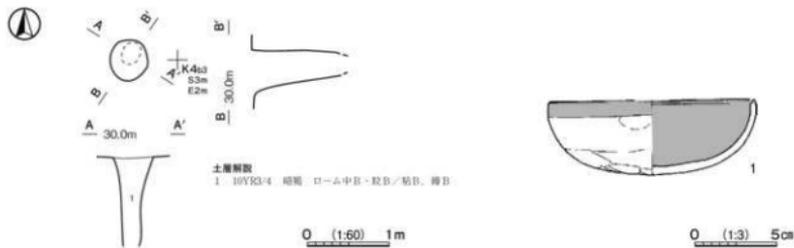
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[128]	[33]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外面・内面黒色地埋の痕跡	底面	30%
2	土師器	高坏	143	120	126	長石・石英	橙	普通	坏部内面ヘラ磨き	覆土中層	80% PL89

第 162 号土坑 (第 242 図 PL32)

位置 調査区南部の K4b3 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径 0.50 m、短径 0.47 m の円形である。深さ 112cm まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。



第 242 図 第 162 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片7点(坏)が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。

第122表 第162号土坑出土遺物一覧(第242図)

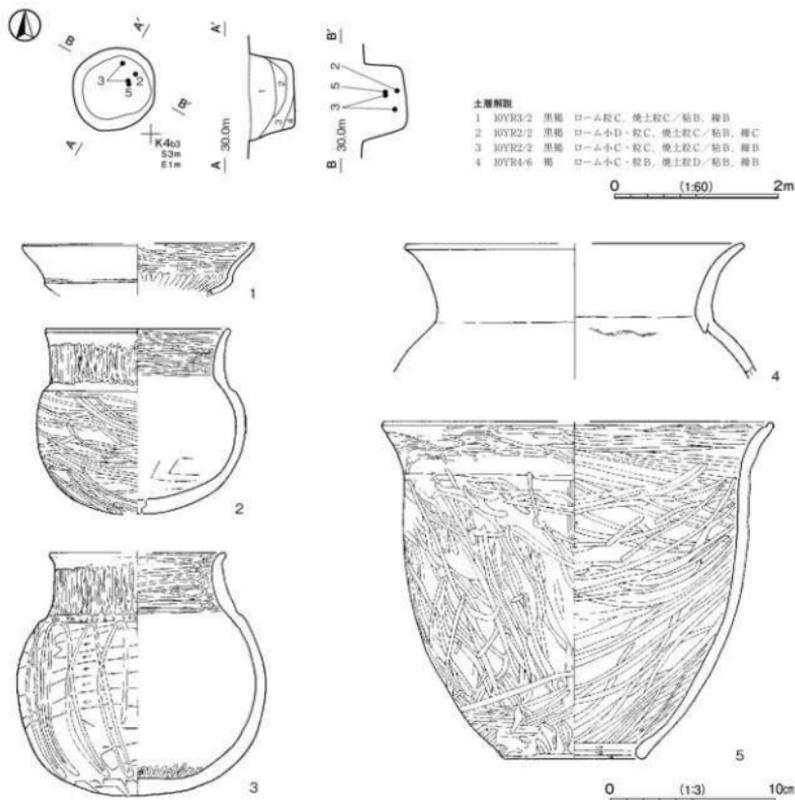
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	324	45	-	長石・赤色粘土	にぶい橙	普通	口唇部内面に沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	50%

第167号土坑(第243図 PL32)

位置 調査区南部のK4b3区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径1.06m、短径1.00mの円形である。深さ56cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 4層に分層できる。遺物が第2～4層中に散在して出土することから人為堆積である。



第243図 第167号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 66点 (坏7, 甕25, 瓶34), 焼成粘土塊 3点 (1393g) が出土している。2は覆土下層から, 5は覆土中層から出土している。3は覆土下層から斜位で出土し, 覆土中層から出土した破片と接合している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀第4四半期に比定できる。

第123表 第167号土坑出土遺物一覧 (第243図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[140]	(3.2)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き	覆土中	10%
2	土師器	甕	11.1	(11.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横位・内面横位へう磨き 体部外面横位へう磨き 底部内側から穿孔	覆土下層	90% PL89
3	土師器	甕	[103]	14.9	-	長石	明赤褐	普通	口縁部外面横位へう磨き 内面横位へう磨き 体部外面横位へう磨き 底部内側へう磨き	覆土下層 覆土中層	80% PL90
4	土師器	甕	[204]	(8.3)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	一部塚付着	覆土中	5%
5	土師器	瓶	[238]	20.7	8.6	長石・赤色粒子	赤褐	普通	外・内面へう磨き 無底式	覆土中層	50% PL90

第175号土坑 (第244図 PL32)

位置 調査区西部のI 4c2区, 標高30mほどの微高地上に位置している。

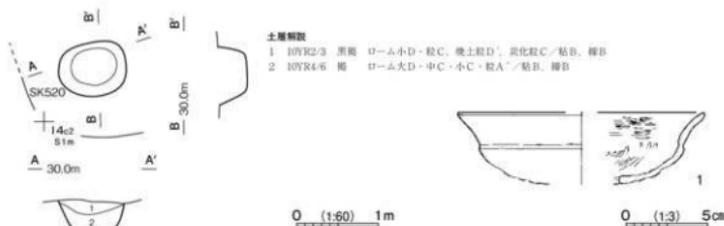
重複関係 第520号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.83m, 短径0.66mの楕円形で, 長径方向はN-72°-Eである。深さ32cmで, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 2層に分層できる。ローம்பロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 12点 (坏10, 甕2) が出土している。

所見 時期は, 出土土器から6世紀第4四半期から7世紀第1四半期に比定できる。



第244図 第175号土坑・出土遺物実測図

第124表 第175号土坑出土遺物一覧 (第244図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[149]	(4.4)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部内面横位へう磨き 内面放射状へう磨き 外・内面敷く摩滅	覆土中	30%

第209号土坑 (第245図 PL32)

位置 調査区中央部のJ 4c8区, 標高30mほどの微高地上に位置している。

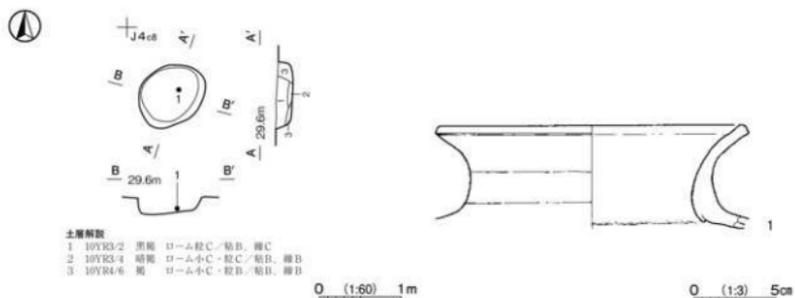
規模と形状 長径0.80m, 短径0.72mの楕円形で, 長径方向はN-33°-Eである。深さ22cmで, 底面は平

坦である。壁は直立している。

覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片1点(甕)が出土している。1は覆土下層から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀第4四半期から7世紀第1四半期に比定できる。



第245図 第209号土坑・出土遺物実測図

第125表 第209号土坑出土遺物一覧(第245図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	18.3	(6.3)	-	長石・石英・ 細礫・赤色砂子	にぶい橙	普通	外・内面痕状に剥落	覆土下層	30%

第214号土坑(第246図 PL32)

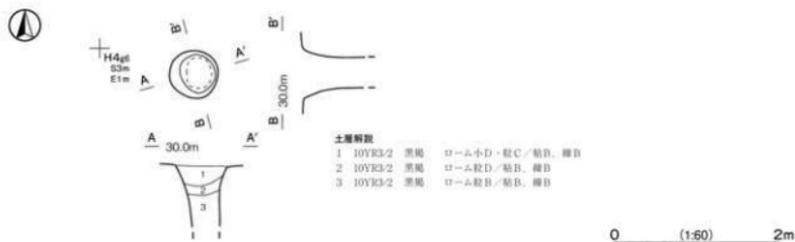
位置 調査区北西部のH4g6区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 径0.60mの円形である。深さ74cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

覆土 3層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片6点(坏4, 壺1, 甕1)が出土している。遺物は細片で図示できなかったが、口唇部に沈線を有する坏が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀中葉に比定できる。



第246図 第214号土坑実測図

第 219 号土坑 (第 247 図 PL32)

位置 調査区北西部の I 4a4 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

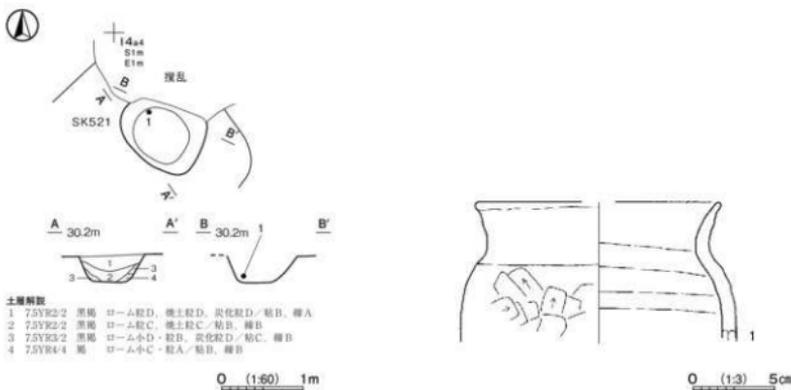
重複関係 第 521 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が攪乱を受けており、北西・南東径 1.08 m、確認できた北東・南西径 0.80 m の楕円形と推定され、長径方向は N - 51° - W である。深さ 38 cm で、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 12 点 (坏 10, 甕 2) が出土している。1 は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀代に比定できる。



第 247 図 第 219 号土坑・出土遺物実測図

第 126 表 第 219 号土坑出土遺物一覧 (第 247 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[146]	(8.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ナメ	覆土中層	5%

第 220 号土坑 (第 248 図)

位置 調査区北西部の I 4a4 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

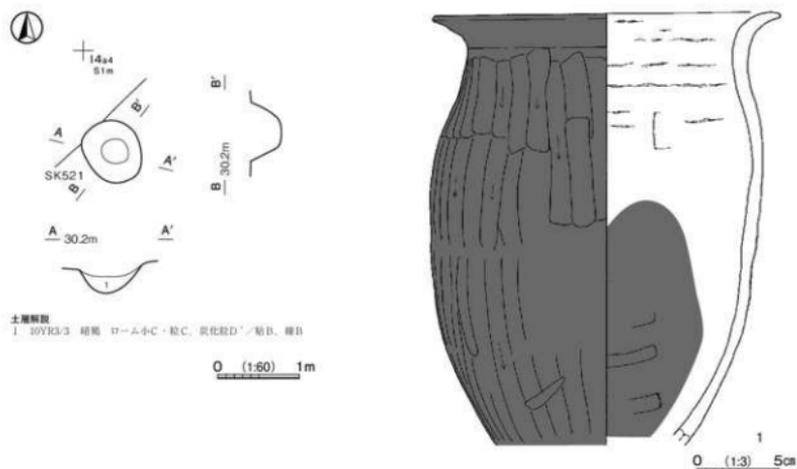
重複関係 第 521 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.80 m、短径 0.70 m の楕円形で、長径方向は N - 36° - W である。深さ 40 cm で、底面は皿状である。壁は外傾している。

覆土 単一層である。ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 10 点 (鉢 2, 甕 8) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。



土層解説
1 10YK3-3 硬質 ローム小C・粒C、炭化粒D' / 粘B、硬B

第248図 第220号土坑・出土遺物実測図

第127表 第220号土坑出土遺物一覧 (第248図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	20.8	(26.6)	—	長石・石英・細礫	に濃い赤褐色	普通	外・内面煤付着 外・内面摩滅	覆土中	70%

第223号土坑 (第249図 PL32)

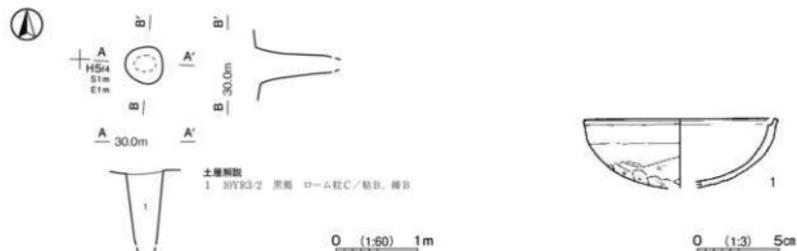
位置 調査区北部のH54区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 径0.48mの円形である。深さ94cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

覆土 単一層である。均質な覆土が厚く堆積する状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片2点(坏、甕)が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



土層解説
1 10YK3-2 黒質 ローム粒C / 粘B、硬B

第249図 第223号土坑・出土遺物実測図

第128表 第223号土坑出土遺物一覧(第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.6	(4.2)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	60% PL90

第282号土坑(第250図 PL32)

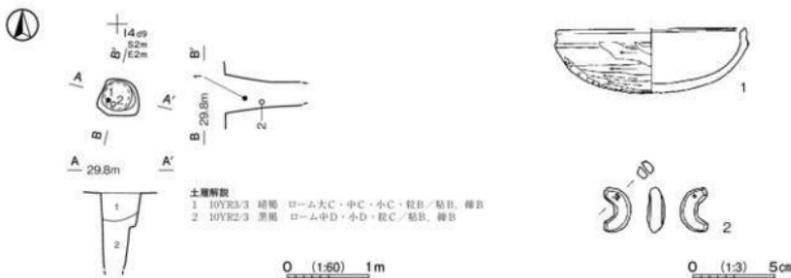
位置 調査区中央部のI4d9区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 径0.52mの不整形である。深さ96cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片1点(坏)、土製品1点(勾玉)が出土している。1・2は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。



第250図 第282号土坑・出土遺物実測図

第129表 第282号土坑出土遺物一覧(第250図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.4]	4.0	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	50%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
2	土製勾玉	2.7	1.6	1.0	0.15	4.29	長石・石英	黒	片側から穿孔	覆土中層	PL103

第285号土坑(第251図 PL33)

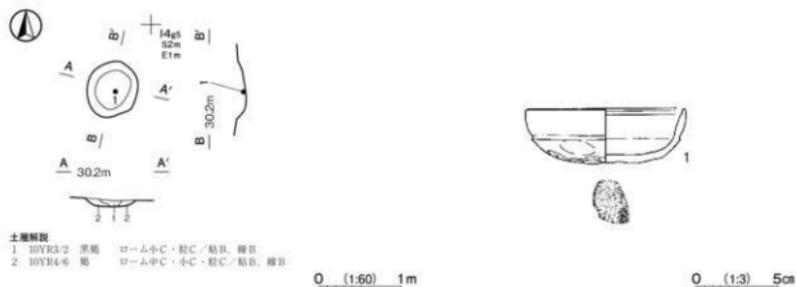
位置 調査区西部のI4g5区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径0.82m、短径0.61mの楕円形で、長径方向はN-13°-Eである。深さ11cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片2点(坏、甕)が出土している。1は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



第251図 第285号土坑・出土遺物実測図

第130表 第285号土坑出土遺物一覧(第251図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	9.5	3.4	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口径部内面沈線 底部回転糸切り	底面	100% PL90

第350号土坑(第252・253図 PL.33)

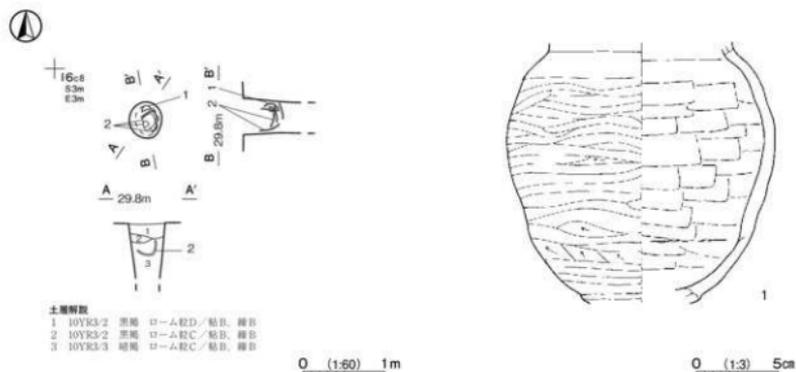
位置 調査区東部の16c9区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径0.45m、短径0.40mの楕円形で、長径方向はN-10°-Wである。深さ71cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

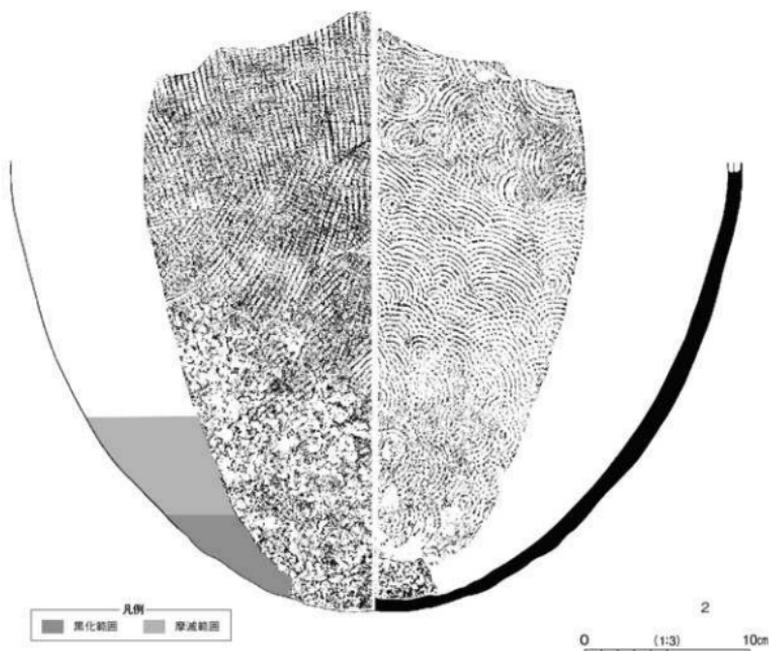
覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片1点(欠)、須恵器片1点(欠)が出土している。1・2は大型の破片の状態で覆土中層から出土している。2は底部付近が摩滅、変色しており、地面に据え付けて使用されていたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉に比定できる。



第252図 第350号土坑・出土遺物実測図



第253図 第350号土坑出土遺物実測図

第131表 第350号土坑出土遺物一覧(第252・253図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	-	(15.8)	[7.2]	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ナデ	覆土中層	60% PL50
2	須恵器	甕	-	(27.7)	-	長石・石英	灰オリーブ	普通	外周格子目印、内面同心四状当て具痕、底部外周面入付31こより変域	覆土中層	30%

第365号土坑(第254図)

位置 調査区中央部のI 5c1区、標高30mほどの微高地上に位置している。

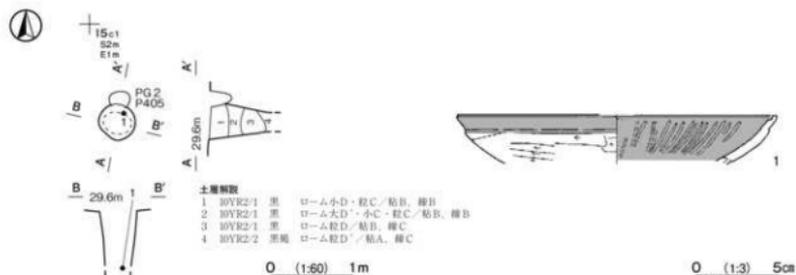
重複関係 第2号ピット群P 405に掘り込まれている。

規模と形状 長径0.44m、短径0.42mの円形である。深さ63cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

覆土 4層に分層できる。第1・2層はロームブロックが含まれていることから人為堆積で、第3・4層は含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片7点(坏2、甕5)が出土している。1は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。



第 254 図 第 365 号土坑・出土遺物実測図

第 132 表 第 365 号土坑出土遺物一覧 (第 254 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[196]	(30)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 内面放射状へら磨き 口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	10%

第 444 号土坑 (第 255 図 PL33)

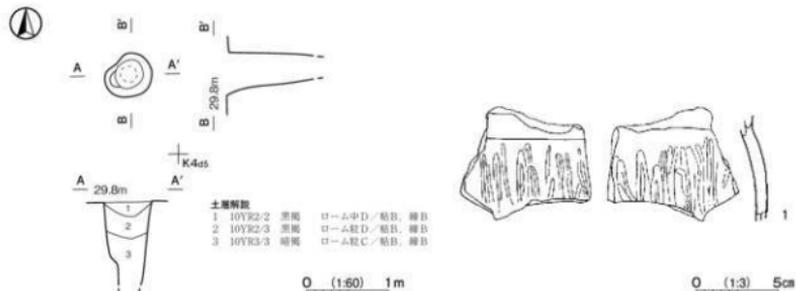
位置 調査区南部の K4e4 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径 0.60 m、短径 0.52 m の不整楕円形で、長径方向は N - 59° - E である。深さ 108cm まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

覆土 3 層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 4 点 (坏 2, 碗 1, 甕 1) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。



第 255 図 第 444 号土坑・出土遺物実測図

第 133 表 第 444 号土坑出土遺物一覧 (第 255 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	碗	-	(6.5)	-	長石・石英	浅黄橙	普通	体部外・内面へら磨き	覆土中	5%

第 475 号土坑 (第 256 図 PL33)

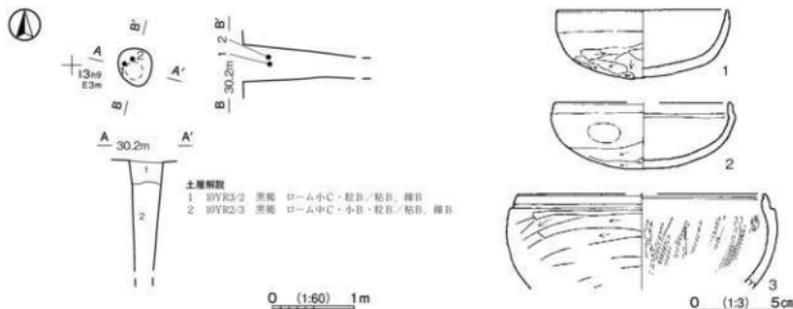
位置 調査区西部の J3h9 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径 0.46 m、短径 0.41 m の楕円形で、長径方向は N - 17° - W である。深さ 135 cm まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 4 点 (坏 2、碗 1、甕 1) が出土している。1・2 は覆土上層から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 2 四半期に比定できる。



第 256 図 第 475 号土坑・出土遺物実測図

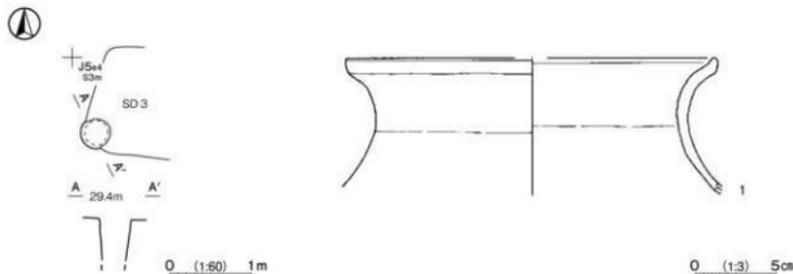
第 134 表 第 475 号土坑出土遺物一覧 (第 256 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	使用	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.4	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	黒	普通	内面ナデ	覆土上層	80%
2	土師器	坏	[10.4]	4.1	-	長石・赤色粒子	灰黄褐	普通	内面ナデ	覆土上層	40%
3	土師器	碗	[15.0]	[5.8]	-	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	口唇部内面沈澱 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	20%

第 477 号土坑 (第 257 図)

位置 調査区中央部の J5e4 区、標高 29 m ほどの微高地上に位置している。

重複関係 第 3 号堀に掘り込まれている。



第 257 図 第 477 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 第3号堀に掘り込まれているが、径0.38mの円形と推定される。深さ50cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

遺物出土状況 土師器片1点(甕)が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀代に比定できる。

第135表 第477号土坑出土遺物一覧(第257図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[224]	(8.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部内面摩滅	覆土中	5%

第483号土坑(第258図 PL33)

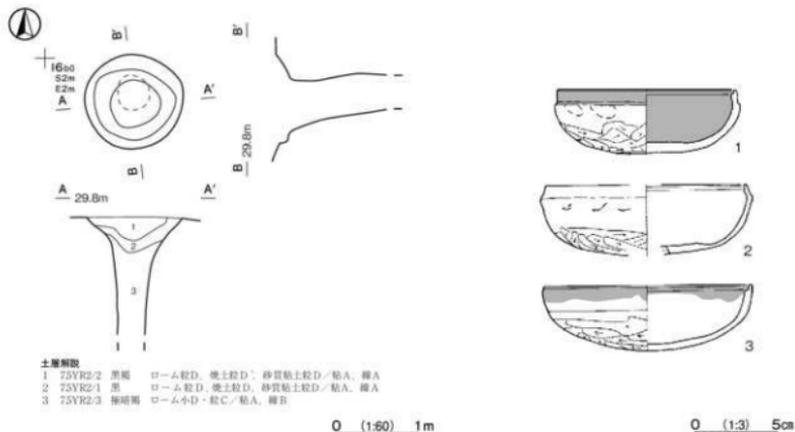
位置 調査区東部のI 6b0区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径1.17m、短径1.13mの円形である。確認面から漏斗状に掘り込まれている。深さ145cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 3層に分層できる。第1・2層は含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積で、第3層はロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片67点(坏50、甕17)が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。形状から、井戸の可能性も考えられる。



第258図 第483号土坑・出土遺物実測図

第136表 第483号土坑出土遺物一覧(第258図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	10.7	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理 内面扇状に磨滅	覆土中	70%
2	土師器	坏	[121]	(4.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	20%
3	土師器	坏	[126]	4.0	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外・内面黒色処理	覆土中	30%

第 487 号土坑 (第 259 図 PL33)

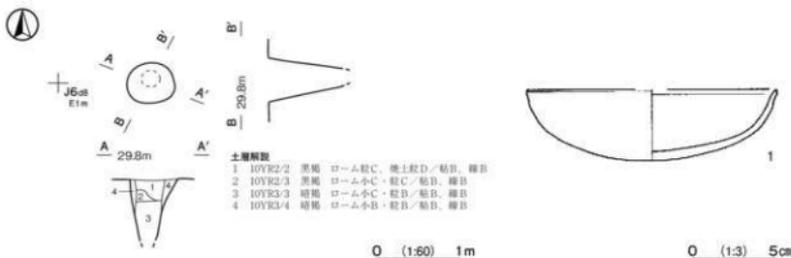
位置 調査区南東部の J6d8 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径 0.56 m、短径 0.50 m の楕円形で、長径方向は $N-70^{\circ}-W$ である。深さ 98 cm まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は外傾している。

覆土 4 層に分層できる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 25 点 (坏 9、椀 13、甕 3) が出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 4 四半期に比定できる。



第 259 図 第 487 号土坑・出土遺物実測図

第 137 表 第 487 号土坑出土遺物一覧 (第 259 図)

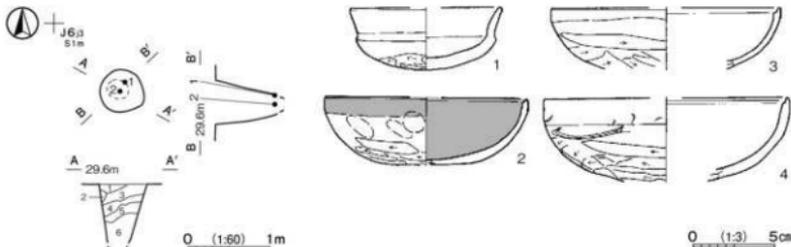
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[150]	4.4	-	長石・石英	暗灰	不明	口唇部内面残破 外・内面摩滅により調整不明瞭	覆土中	50%

第 489 号土坑 (第 260 図 PL33)

位置 調査区南東部の J6j3 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径 0.58 m、短径 0.52 m の円形である。深さ 80 cm まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。壁は外傾している。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが含まれている不規則な堆積状況から人為堆積である。



土層解説

1 10YR3/2 黒褐 ローム小C、粒C/粘B、礫B	4 10YR2/3 黒褐 ローム粒C/粘B、礫B
2 10YR4/4 黒 ローム粒B/粘B、礫B	5 10YR2/2 黒褐 ローム中C、小B、粒B/粘B、礫B
3 10YR2/2 黒褐 ローム小B、粒B、礫B	6 10YR3/3 暗褐 ローム大C・中C、小B、粒B/粘B、礫B

第 260 図 第 489 号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 12 点 (坏 4, 碗 2, 甕 6) が出土している。1・2 は覆土下層から出土している。
所見 時期は, 出土土器から 7 世紀第 3 四半期に比定できる。

第 138 表 第 489 号土坑出土遺物一覧 (第 260 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[92]	3.8	-	長石・石英・ 白色粒子	橙	普通	内面ナテ	覆土下層	40%
2	土師器	坏	[122]	4.1	-	長石	黒	普通	口唇部内面強い沈澱 口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	30%
3	土師器	碗	[138]	[37]	-	長石・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈澱	覆土中	5%
4	土師器	甕	[148]	[51]	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈澱	覆土中	40%

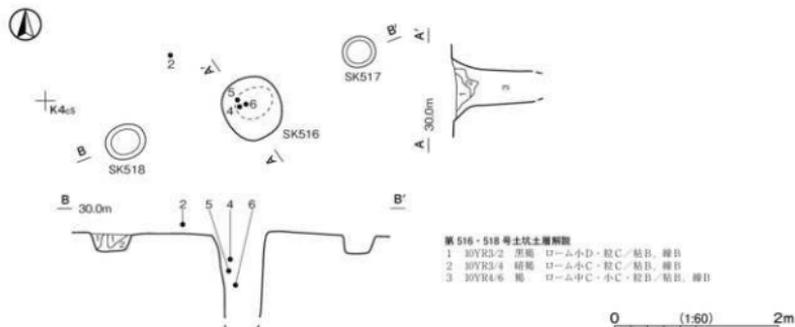
第 516 号土坑 (第 261・262 図 PL33・34)

位置 調査区南部の K4c5 区, 標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

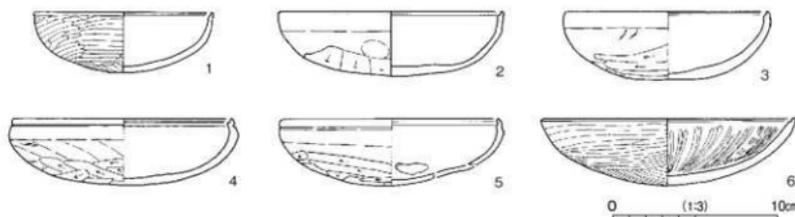
規模と形状 長径 0.76 m, 短径 0.70 m の円形である。深さ 108 cm まで掘り下げたが, 湧水のため下部の調査を断念した。壁は直立している。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 6 点 (坏) が出土している。2 は覆土上層から逆位で出土している。4~6 は覆土中層から出土している。4・5 は逆位, 6 は斜位で出土している。



第 261 図 第 516・517・518 号土坑実測図



第 262 図 第 516 号土坑出土遺物実測図

所見 時期は、出土土器から7世紀第4四半期に比定できる。第517・518号土坑は本跡に付設する遺構と思われるが性格は不明である。

第139表 第516号土坑出土遺物一覧(第262図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	107	3.7	-	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面深い沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中	70%
2	土師器	坏	134	4.1	-	赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土上層	100% PL90
3	土師器	坏	122	4.1	-	長石・石英赤色粒子	にぶい橙	良好	口唇部内面沈線	覆土中	70% PL90
4	土師器	坏	133	4.0	-	長石・石英赤色粒子	暗黄	良好	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土中層	90% PL91
5	土師器	坏	131	4.1	-	長石・石英赤色粒子	明赤黄	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡 体部打ち欠き	覆土中層	90% PL91
6	土師器	坏	154	4.1	-	長石・石英赤色粒子	橙	普通	外面へう磨き 口唇部内面沈線 内面放射状へう磨き 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡 内面放射状に沈線	覆土中層	100% PL91

第517号土坑(第261図 PL33)

位置 調査区南部のK4b5区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径0.42m、短径0.40mの円形である。深さ22cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

所見 時期は、周囲の遺構との関係から7世紀第4四半期と考えられる。本跡は第516号土坑に付設する遺構と思われるが、性格は不明である。

第518号土坑(第261図 PL33)

位置 調査区南部のK4c5区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長径0.50m、短径0.43mの楕円形で、長径方向はN-69°-Eである。深さ23cmで、底面は平坦である。壁は直立している。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

所見 時期は、周囲の遺構との関係から7世紀第4四半期と考えられる。本跡は第516号土坑に付設する遺構と思われるが、性格は不明である。

第519号土坑(第263図)

位置 調査区南西部のJ4d3区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第86号竪穴建物跡を掘り込み、第6号堀に掘り込まれている。

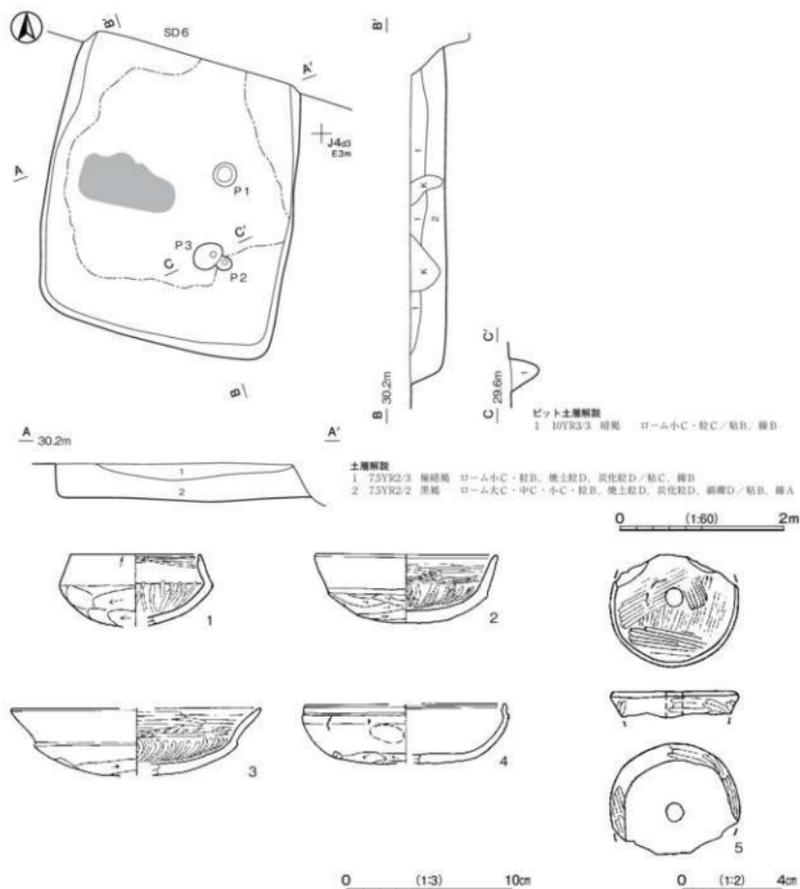
規模と形状 北部が第6号堀に掘り込まれており、確認できた南北軸は352mで、東西軸は3.04mの長方形と推定され、長軸方向はN-13°-Eである。深さは41cm、底面は平坦である。中央部は踏み固められており、西側の一部が熱然により赤変している。壁はほぼ直立している。

ピット 3か所。P3は深さ36cmである。P1~P3は性格不明である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片181点(坏155、高坏1、甕25)、須恵器片1点(甕)、土製品1点(紡錘車)、焼成粘土塊1点(2.18g)が出土している。1~5は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第1四半期に比定できる。



第 263 図 第 519 号土坑・出土遺物実測図

第 140 表 第 519 号土坑出土遺物一覧 (第 263 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	8.0	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面一部深い沈線 内面種な放射状へう磨き	覆土中	30%
2	土師器	坏	11.0	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	口縁部内面へう磨き 底部内面放射状へう磨き	覆土中	50%
3	土師器	坏	[15.1]	(4.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面へう磨き 底部内面放射状へう磨き	覆土中	30%
4	土師器	坏	[12.2]	(3.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中	40%
番号	器種	上径	下径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考	
5	土製 紡錘車	5.2	(4.3)	(1.1)	0.7	(2.99)	長石・石英・赤色粒子	全面へう磨き	覆土中		

第 520 号土坑 (第 264 図 PL34)

位置 調査区北西部の I 4 b2 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

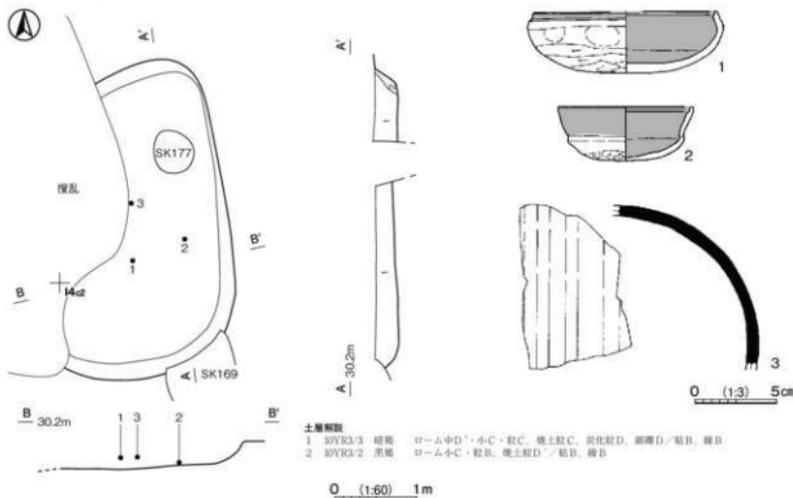
重複関係 第 115 号竪穴建物跡、第 175 号土坑を掘り込み、第 169・177 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が攪乱を受けているため、南北径は 3.67 m、確認できた東西径は 2.10 m で、不整形円形と推定される。長径方向は N-10°-W である。深さは 30 cm で、底面はほぼ平坦である。壁は外傾している。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックや焼土粒子などが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 572 点 (坏 456, 碗 3, 高坏 3, 甕 110), 須恵器片 1 点 (瓶類), 焼成粘土塊 1 点 (13.75g) が出土している。2 は中央部の底面から正位で、1・3 は覆土下層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 3 四半期に比定できる。



第 264 図 第 520 号土坑・出土遺物実測図

第 141 表 第 520 号土坑出土遺物一覧 (第 264 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[110]	3.8	-	長石・石英	黒褐色	普通	口唇部内面沈澱 口縁部外面・内面黒色処理	覆土下層	30%
2	土師器	坏	81	3.3	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口唇部内面沈澱 口縁部外面・内面黒色処理	底面	90% PL91
3	須恵器	瓶類	-	[100]	-	石英	灰白	良好	ロータロ型形 鉄分湧出	覆土下層	10% PL102

第 521 号土坑 (第 265・266 図 PL34)

位置 調査区北西部の I 4 a4 区、標高 30 m ほどの微高地上に位置している。

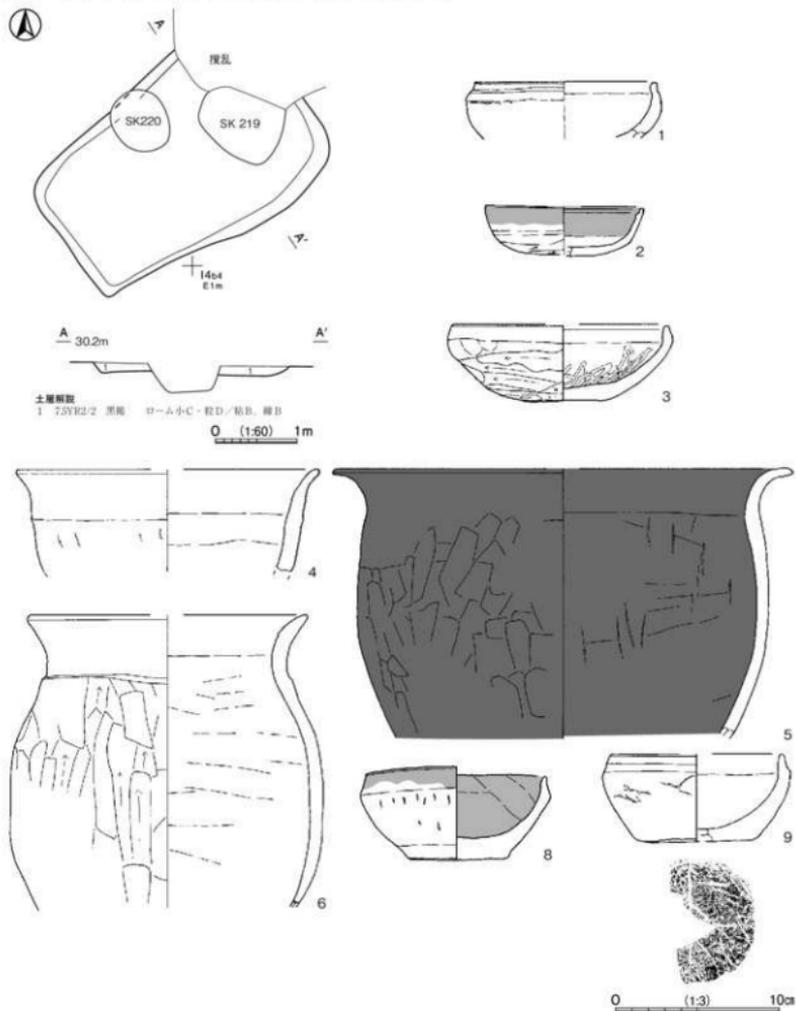
重複関係 第 219・220 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.40 m、短軸 2.30 m の長方形で、長軸方向は N-57°-E である。深さは 12 cm で、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

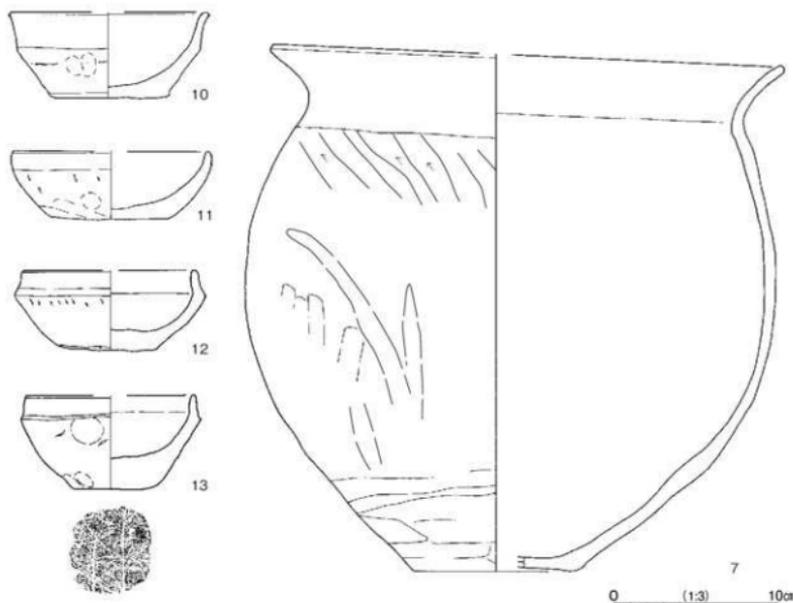
覆土 単一層である。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器片 257 点（坏 53, 鉢 2, 甕 122, 手捏土器 80）, 土製品 2 点（支脚）が出土している。1 は覆土中と第 219 号土坑の覆土下層から出土した遺物が接合している。遺構の新旧関係から、本跡に伴う遺物である。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 1 四半期に比定できる。



第 265 図 第 521 号土坑・出土遺物実測図



第 266 図 第 521 号土坑出土遺物実測図

第 142 表 第 521 号土坑出土遺物一覧 (第 265・266 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	109	(3.5)	-	長石・石英	明赤褐	普通	内面ナデ	SK219 覆土下層 覆土中	50% PL91
2	土師器	坏	[9.5]	3.0	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口唇部内面沈澱 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	30%
3	土師器	坏	[130]	4.7	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	内面雑な放射状ヘラ磨き	覆土中	70% PL91
4	土師器	鉢	[182]	(6.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ナデ	覆土中	10%
5	土師器	甕	[281]	(16.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外・内面塚付着	覆土中	20%
6	土師器	甕	[168]	(18.0)	-	長石・石英・磁礫	にぶい赤褐	普通	内面ナデ	覆土中	20%
7	土師器	甕	31.0	32.3	[100]	長石・石英・雲母・磁礫	橙	普通	体部外面黄熱・塚付着 体部内面著しく摩滅	覆土中	60% PL91
8	土師器	手捏土器	109	5.7	5.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	底部外面ヘラ磨り 内面瘤状に剥落 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	90% PL91
9	土師器	手捏土器	[104]	5.5	[7.0]	長石・石英・黒色粒子	明赤褐	普通	底部外面木炭灰	覆土中	50%
10	土師器	手捏土器	[120]	5.3	[7.3]	長石・石英	橙	普通	底部外面ヘラ磨り	覆土中	20%
11	土師器	手捏土器	[120]	4.2	[7.2]	長石・石英・雲母・磁礫	にぶい赤褐	普通	底部外面ヘラ磨り	覆土中	50%
12	土師器	手捏土器	[105]	4.9	6.0	長石・石英	明赤褐	普通	底部ヘラ磨り	覆土中	50% PL91
13	土師器	手捏土器	[102]	5.7	4.8	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	底部外面木炭灰	覆土中	70% PL91

第143表 古墳時代土坑一覽

番号	位置	長径(軸) 方向	平面形	縦 横		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径(軸) (m)	短径(軸) (m)					
1	H618	N-28°-W	隅丸長方形	0.78 × 0.62	(45)	外傾	-	人為	土師器	SK 2と新旧不明
6	H6g8	N-57°-E	楕円形	0.76 × 0.62	17	外傾	平坦	自然	土師器	
38	H6e7	N-14°-W	[楕円形]	(0.48) × 0.72	20	外傾	U字状	人為	土師器	
44	H5b6	N-38°-W	隅丸長方形	1.21 × 1.16	12	外傾	平坦	不明	土師器	SI 38 → 本跡
110	I 6e7	-	円形	0.54 × 0.50	(110)	直立	-	人為	土師器、須恵器	
115	H5g8	N-54°-W	[長方形]	(2.32) × 2.58	44	外傾	平坦	人為	土師器、磨石、磁石	
134	J 6f3	N-20°-E	隅丸長方形	0.46 × 0.36	(100)	直立	-	-	土師器	
153	I 617	N-33°-E	楕円形	0.77 × 0.64	(80)	直立	-	人為	土師器、須恵器、焼成粘土塊	
157	I 6j5	-	円形	0.46 × 0.46	(80)	直立	-	人為	土師器	
161	J 317	N-62°-W	楕円形	0.52 × 0.40	33	外傾	皿状	自然	土師器	
162	K4b3	-	円形	0.50 × 0.47	(112)	直立	-	人為	土師器	
167	K4b3	-	円形	1.06 × 1.00	56	直立	平坦	人為	土師器、焼成粘土塊	
175	I 4c2	N-72°-E	楕円形	0.83 × 0.66	32	ほぼ直立	平坦	人為	土師器	本跡→SK320
209	J 4c8	N-33°-E	楕円形	0.80 × 0.72	22	直立	平坦	人為	土師器	
214	H4g6	-	円形	0.60 × 0.60	(74)	直立	-	自然	土師器	
219	I 4a1	N-51°-W	[楕円形]	1.08 × (0.80)	38	外傾	平坦	人為	土師器	SK521 → 本跡
220	I 4a1	N-36°-W	楕円形	0.80 × 0.70	40	外傾	皿状	人為	土師器	SK521 → 本跡
223	H5f4	-	円形	0.48 × 0.48	(94)	直立	-	人為	土師器	
282	I 4d9	-	不整円形	0.52 × 0.52	(96)	直立	-	人為	土師器、土製勾玉	
285	I 4g5	N-13°-E	楕円形	0.82 × 0.61	11	緩斜	平坦	人為	土師器	
350	I 6c9	N-30°-W	楕円形	0.45 × 0.40	(71)	直立	-	人為	土師器、須恵器	
365	I 5c1	-	円形	0.44 × 0.42	(63)	直立	-	自然 人為	土師器	本跡→ PG 2 (P 46)
444	K4c1	N-39°-E	不整楕円形	0.60 × 0.52	(108)	直立	-	自然	土師器	
475	I 3b9	N-17°-W	楕円形	0.46 × 0.41	(135)	直立	-	人為	土師器	
477	J 5e4	-	円形	0.38 × [0.38]	(50)	直立	-	-	土師器	本跡→SD 3
483	I 6b0	-	円形	1.17 × 1.13	(145)	直立	-	自然 人為	土師器	
487	J 6d8	N-70°-W	楕円形	0.56 × 0.50	(98)	外傾	-	人為	土師器	
489	J 6j3	-	円形	0.58 × 0.52	(80)	外傾	-	人為	土師器	
516	K4c5	-	円形	0.76 × 0.70	(108)	直立	-	人為	土師器	
517	K4b6	-	円形	0.42 × 0.40	22	直立	平坦	-	-	SK516に付設。
518	K4c5	N-69°-E	楕円形	0.50 × 0.43	23	直立	平坦	人為	-	SK516に付設。
519	J 4d3	N-13°-E	長方形	(3.52) × 3.04	41	ほぼ 直立	平坦	人為	土師器、須恵器、土製結縄車、 焼成粘土塊	SI86 → 本跡→ SD 6
520	I 4b2	N-10°-W	[不整楕円形]	3.67 × (2.10)	30	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、焼成粘土塊	SI115・SK175 → 本跡→SK169・177
521	I 4a1	N-57°-E	長方形	3.40 × 2.30	12	緩斜	平坦	不明	土師器、支脚	本跡→SK219・220

(4) 井戸跡

古墳時代の井戸跡については、近隣地域の類例から井戸跡と判断した。以下、解説、実測図及び一覧表を記載する。

第 35 号井戸跡 (第 267 ~ 269 図 PL34)

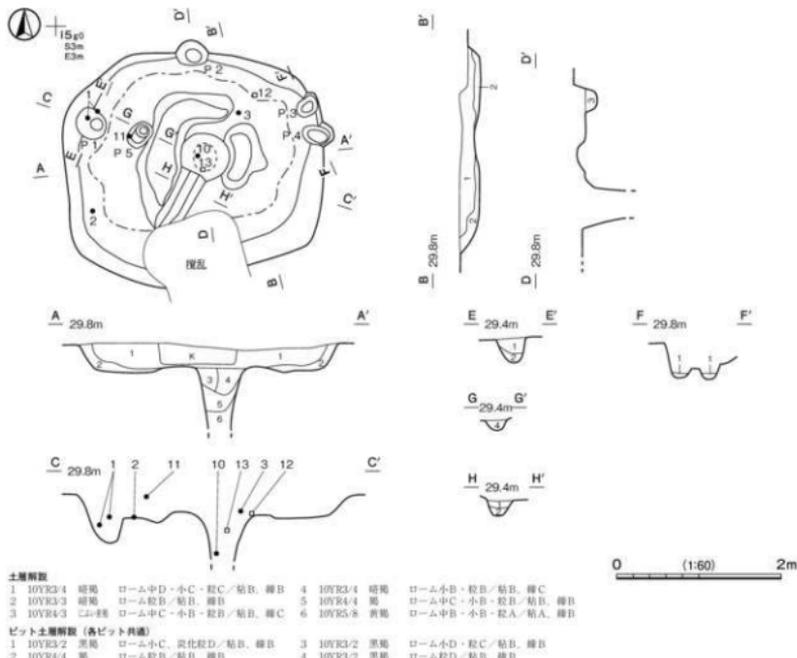
位置 調査区中央部の I 6 h 区、標高 30 m の微高地上に位置している。

規模と形状 長径 3.11 m、短径 2.88 m の不整形円形で、確認面から 36 cm の深さまで掘り込み、底部は硬化した平坦面を形成している。平坦面の中央部を長径 0.60 m、短径 0.58 m の円筒状に掘り下げている。深さ 110 cm の所で湧水のため下部の調査を断念した。円筒状の掘り込み付近には、溝状の浅い掘り込みを有しているが、性格は不明である。

ピット 5 か所。P 1 ~ P 5 は深さ 6 ~ 30 cm で、性格不明である。

覆土 6 層に分層できる。第 1・2 層は暗褐色土主体で、含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。第 3 ~ 6 層はロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である

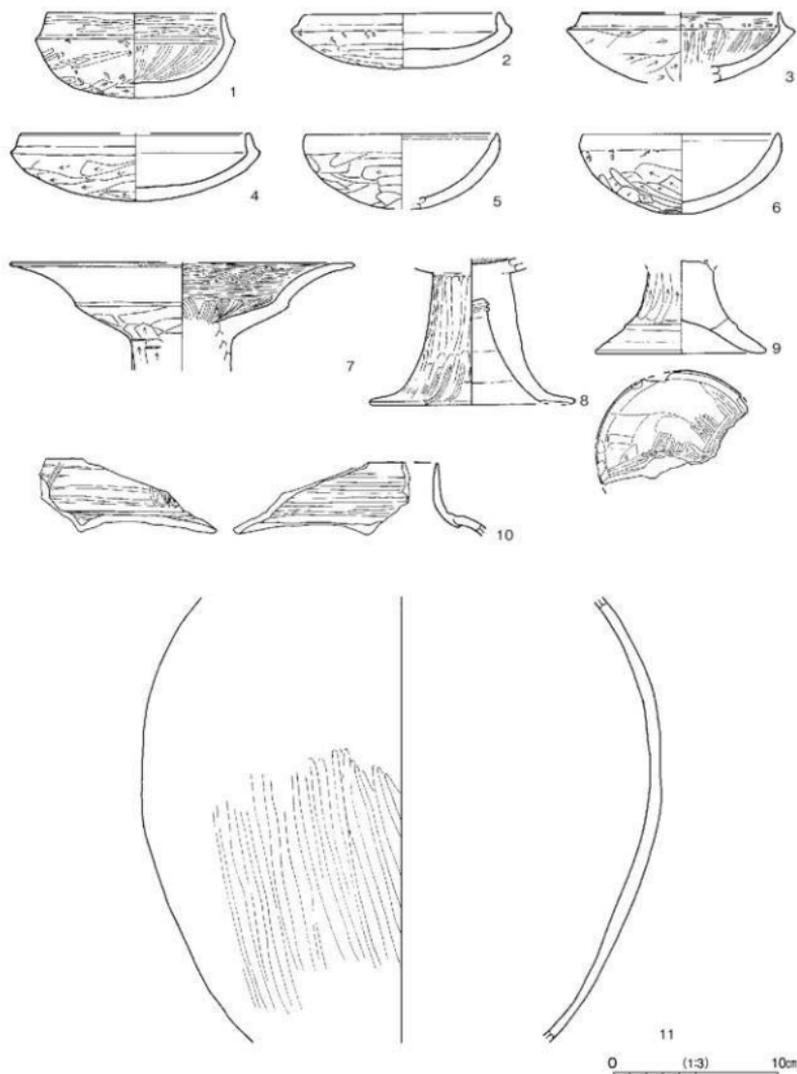
遺物出土状況 土師器片 549 点 (坏 277、椀 4、高坏 18、壺 2、甕 247、手捏土器 1)、須恵器片 3 点 (甕)、土製品 1 点 (支脚)、石器 2 点 (磨石)、焼成粘土塊 3 点 (16.43g) が出土している。人為堆積の覆土からは 6 世紀第 4 四半期、自然堆積の覆土からは 7 世紀第 1 四半期の土器が出土している。10・13 は中央部の覆土中



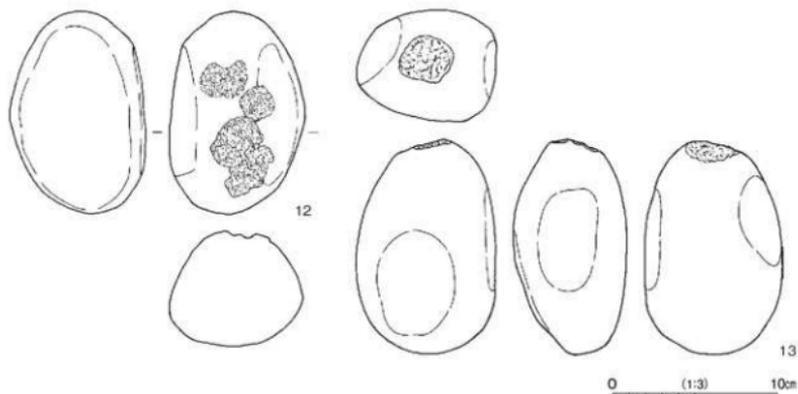
第 267 図 第 35 号井戸跡実測図

層から出土している。3・12は北東部の覆土上層から出土している。2は西部の底面から斜位で、1はP1の覆土上層から出土している。11は覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀第4四半期に廃絶されたと考えられる。



第268図 第35号井戸跡出土遺物実測図(1)



第 269 図 第 35 号井戸跡出土遺物実測図(2)

第 144 表 第 35 号井戸跡出土遺物一覧 (第 268・269 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	環	10.9	5.2	-	長石・石英	橙	普通	口縁部内面横位ヘラ磨き 内面放射状ヘラ磨き	P1 覆土上層	90%
2	土師器	環	11.7	3.3	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内面摩滅により調整不明瞭	覆土上層	100% PL92
3	土師器	環	[120]	(4.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部内面横位ヘラ磨き 内面放射状ヘラ磨き	覆土上層	50%
4	土師器	環	[138]	4.1	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ナデ	覆土中	50%
5	土師器	環	11.5	(4.6)	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇部内面弱い沈線	覆土中	90% PL92
6	土師器	環	11.7	4.9	-	長石・石英	にぶい褐	良好	内面ナデ	覆土中	100% PL92
7	土師器	高環	[207]	06.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	環部内面放射状ヘラ磨き	覆土中	20%
8	土師器	高環	-	(9.0)	[120]	長石・石英	明赤褐	普通	脚部外面ヘラ磨き	覆土中	30%
9	土師器	高環	-	(5.7)	[101]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	脚部内面ヘラ磨き	覆土中	30%
10	土師器	壺	-	(4.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	良好	外・内面ヘラ磨き	覆土中層	5%
11	土師器	壺	-	(27.2)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部下平ヘラ磨き 内面激しく摩滅	覆土上層	30%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
12	磨石	12.4	8.3	8.1	937	礫岩	銀打痕あり		覆土上層	PL101	
13	磨石	13.2	8.5	6.9	1,065	礫岩	銀打痕あり		覆土中層	PL101	

第 36 号井戸跡 (第 270・271 図 PL34)

位置 調査区北東部の H 6 区, 標高 30 m の微高地上に位置している。

重複関係 第 492 号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

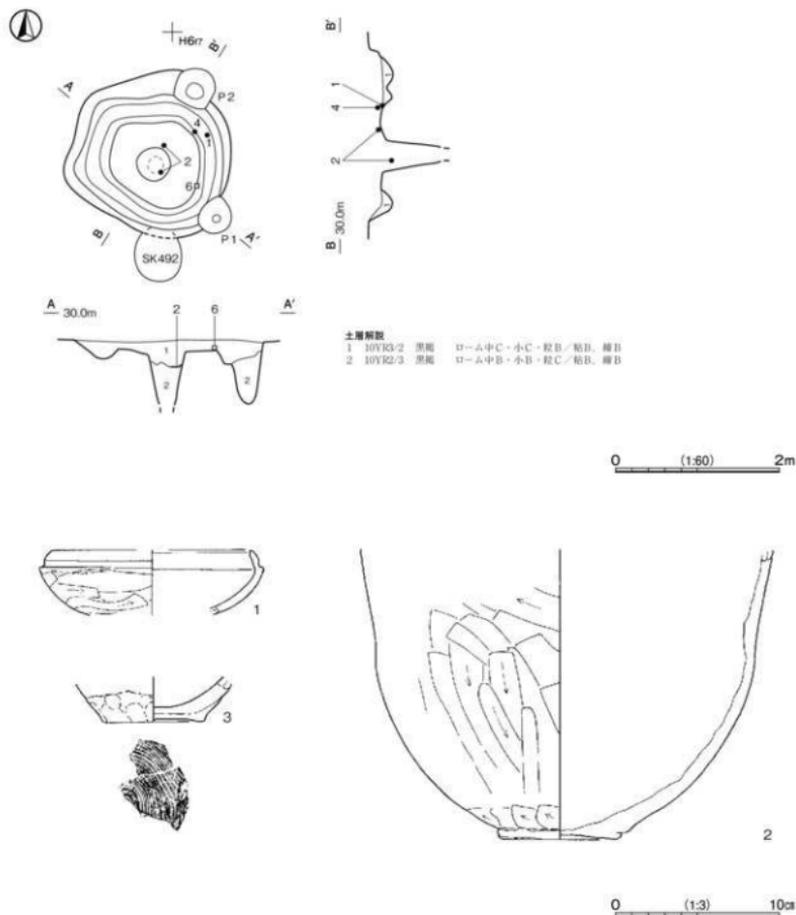
規模と形状 長径 2.02 m, 短径 2.00 m の不整形円形である。開口部を確認面から 22 ~ 28 cm まで掘り込み, 周縁部は周溝状で, 断面形は U 字状である。中央部を長径 0.42 m, 短径 0.40 m の円筒状に掘り下げている。深さ 85 cm まで掘り下げたが, 湧水のため下部の調査を断念した。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 30・78 cm で, 性格不明である。P 2 と周縁部の堆積が同様であることから, P 2 は遺構廃絶時に同時に埋め戻されている。

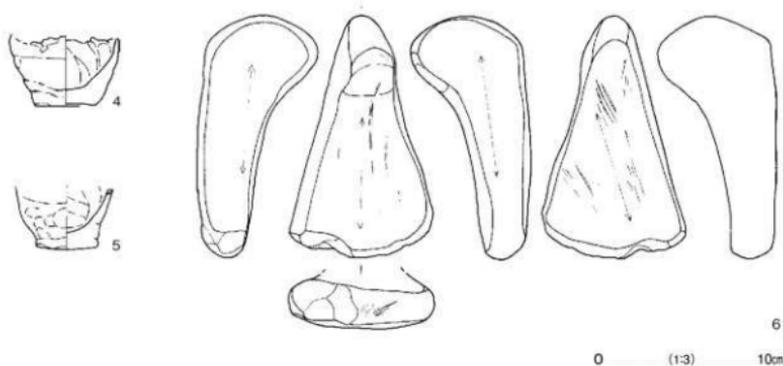
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片31点(坏6, 壺12, 甕8, 手捏土器5) 石器1点(砥石)が出土している。2は中央部の覆土上層から出土している。1・4は北東部の覆土上層から出土している。6は南東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀第1四半期に比定できる。



第270図 第36号井戸跡・出土遺物実測図



第271図 第36号井戸跡出土遺物実測図

第145表 第36号井戸跡出土遺物一覧(第270・271図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[120]	(4.0)	-	長石・石英・赤色粒子・紫色粒子	浅黄褐色	普通	内面ナデ	覆土上層	20%
2	土師器	甕	-	(178)	6.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	底部外面へウ張り 内面著しく摩滅し調整不明	覆土上層	50%
3	土師器	手捏土器	-	(28)	[6.2]	長石	明赤褐色	普通	底部外面赤切り痕	覆土中	30%
4	土師器	手捏土器	6.5	4.4	3.7-4.0	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	良好	底部外面ナデ	覆土上層	90% PL92
5	土師器	手捏土器	-	(3.9)	3.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	良好	底部外面ナデ	覆土中	60% PL92
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
6	砥石	14.9	8.8	7.4	7.29	砂岩	砥面4面			覆土上層	PL101

第37号井戸跡(第272図 PL35)

位置 調査区北部のH5g7区、標高30mの微高地上に位置している。

重複関係 第38号竪穴建物跡を掘り込み、第4号井戸に掘り込まれている。

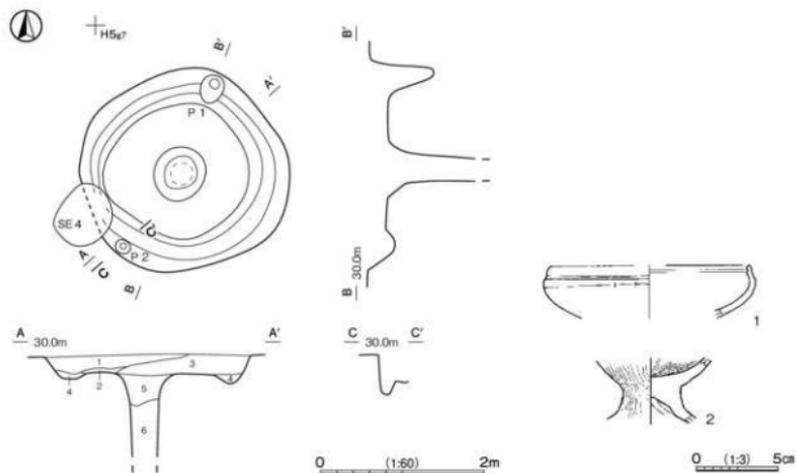
規模と形状 長径2.58m、短径2.48mの円形である。開口部を確認面から20～32cmまで掘り込み、周縁部は周溝状で、断面形はU字状である。中央部を長径0.68m、短径0.62mの円筒状に掘り下げている。深さ128cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

ピット 2か所。P1・P2は深さ80・50cmで、性格不明である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれ、不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片106点(坏81, 椀1, 高坏1, 甕23)が出土している。1は覆土中から、2はP1の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第3四半期に比定できる。



土層解説

- 1 10YK3/2 黒褐色 ローム大D・中C・小C・粒B/粘B、雜砂
 2 10YK3/3 暗褐色 ローム大D・中B・小B・粒A/粘A、雜砂
 3 10YK3/2 黒褐色 ローム中C・小B・粒B/粘B、雜砂
 4 10YK3/3 暗褐色 ローム中C・粒B、雜砂
 5 10YK2/3 黒褐色 ローム小D・粒C/粘B、雜砂
 6 10YK2/3 黒褐色 ローム小C・粒D/粘B、雜砂

第 272 図 第 37 号井戸跡・出土遺物実測図

第 146 表 第 37 号井戸跡出土遺物一覧 (第 272 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[120]	(32)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口径部内面弱い沈線	覆土中	20%
2	土師器	高坏	-	(40)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	外・内面ヘラ磨き	P.1 覆土中	20%

第 38 号井戸跡 (第 273 図 PL35)

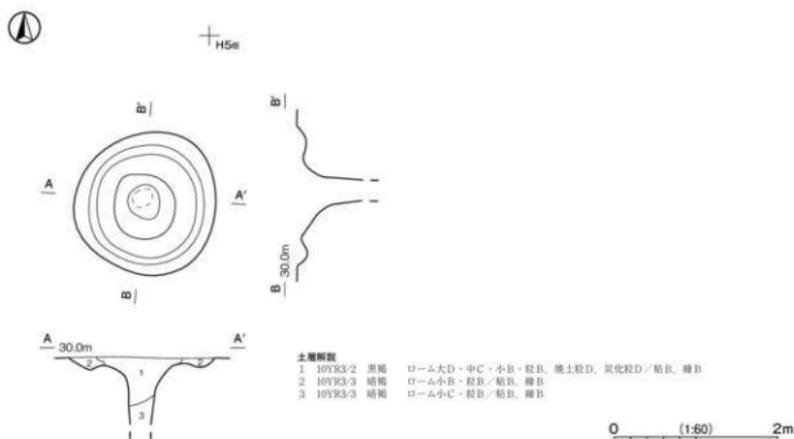
位置 調査区北部の H 5 7 区、標高 30 m の微高地に位置している。

規模と形状 長径 1.76 m、短径 1.74 m の円形である。開口部を確認面から 10 ~ 16 cm まで掘り込み、周縁部は周溝状で、断面形は U 字状である。中央部を長径 0.80 m、短径 0.72 m の円筒状に掘り下げている。深さ 80 cm まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 3 層に分层できる。ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 37 点 (坏 33、甕 4) が出土している。遺物は細片で図示できなかったが、口径部内面に沈線を持つ坏が出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀代に比定できる。



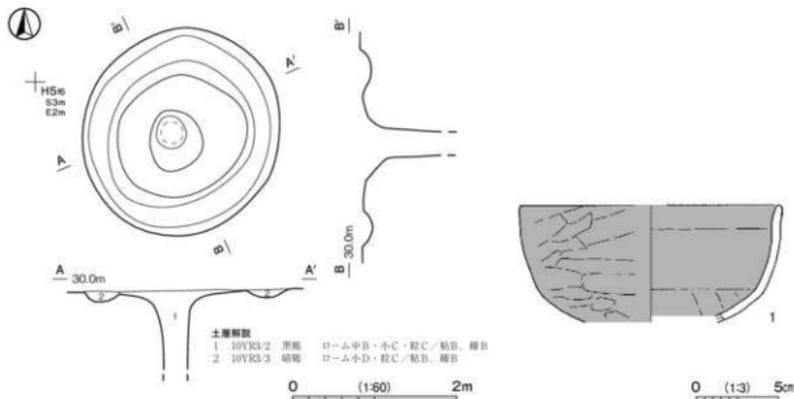
第273図 第38号井戸跡実測図

第39号井戸跡（第274図 PL35）

位置 調査区北部のH5g7区、標高30mの微高地上に位置している。

規模と形状 長径2.57m、短径2.38mの円形である。開口部を確認面から2～12cmまで掘り込み、周縁部は周溝状で、断面形はU字状である。中央部を長径0.76m、短径0.60mの円筒状に掘り下げている。深さ97cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 2層に分層できる。第1層はロームブロックが含まれていることから人為堆積である。第2層は暗褐色土主体で、含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。



第274図 第39号井戸跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片44点(坏37, 椀1, 甕6)が出土している。1は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から7世紀代に比定できる。

第147表 第39号井戸跡出土遺物一覧(第274図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	椀	[159]	[72]	-	長石・石英	にふい 赤黒	普通	外・内面黒色処理	覆土中	10%

第40号井戸跡 (第275・276図 PL35)

位置 調査区北部のH5f3区, 標高30mの微高地上に位置している。

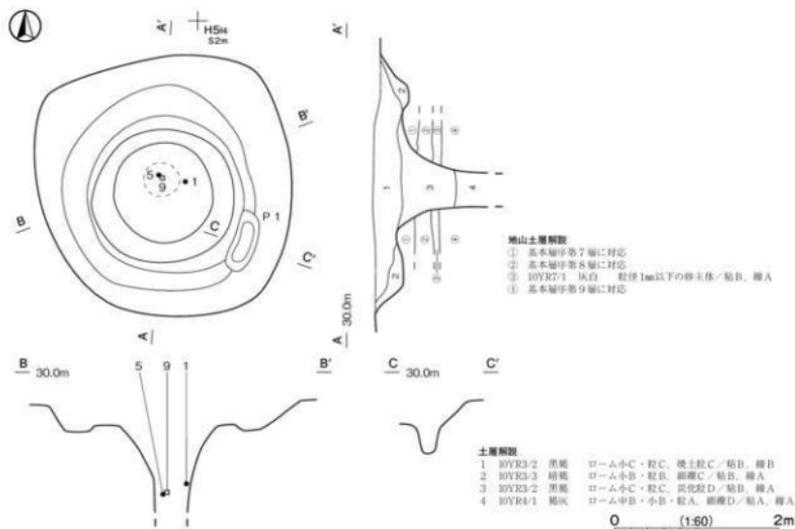
規模と形状 長径3.18m, 短径3.08mの円形である。開口部を確認面から27~36cmまで掘り込み, 周縁部は周溝状で, 断面形は皿状である。中央部を長径1.22m, 短径1.20mの漏斗状に掘り下げている。深さ140cmまで掘り下げたが, 湧水のため下部の調査を断念した。

ピット P1は深さ66cmで, 性格不明である。

覆土 4層に分層できる。第1~3層は黒褐色土と暗褐色土主体で, 含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。第4層はロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

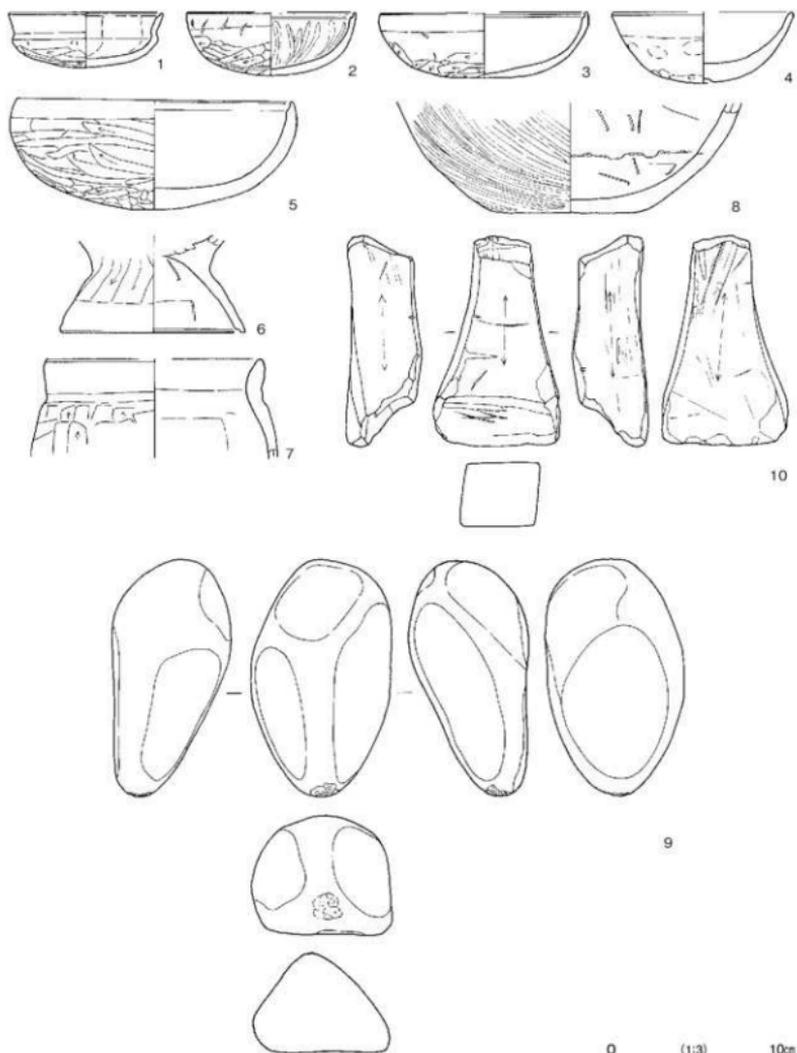
断割状況 手掘りでの調査後, 遺構確認面からバックホーで掘削して断割調査を行った。深さ140cmまで掘り下げたところで, 湧水により土層の確認が困難になったため, 下部の調査を断念した。

遺物出土状況 土師器片136点(坏100, 椀1, 甕34, 手捏土器1), 土製品7点(支脚), 石器2点(磨石, 砥石)が出土している。1・5・9は中央部の覆土中層から出土している。1は斜位, 5は正位で出土している。



第275図 第40号井戸跡実測図

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。



第 276 図 第 40 号井戸跡出土遺物実測図

第148表 第40号井戸跡出土遺物一覧(第276図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	94	3.4	-	長石・石英・燧石	明赤褐色	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	90% PL92
2	土師器	坏	[102]	3.9	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 内面放射状ヘラ磨き	覆土中	50%
3	土師器	坏	[124]	4.0	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口唇部内面沈線	覆土中	40%
4	土師器	坏	[110]	4.3	-	長石・石英	明赤褐色	普通	内面ナナ	覆土中	40%
5	土師器	椀	168	6.7	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	100% PL92
6	土師器	台付甕	-	(60)	11.2	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	全面被熱	覆土中	30%
7	土師器	甕	[131]	(60)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	内面痕状に割溝	覆土中	10%
8	土師器	甕	-	(6.7)	8.9	長石・石英・雲母・燧石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ磨き 底部外面被熱	覆土中	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	磨石	14.5	8.6	7.4	1.063	礫岩	縦打痕あり	覆土中層	PL101
10	砥石	12.8	7.7	4.5	5.21	礫岩	紙面4面	覆土中	PL101

第41号井戸跡(第277・278図 PL35)

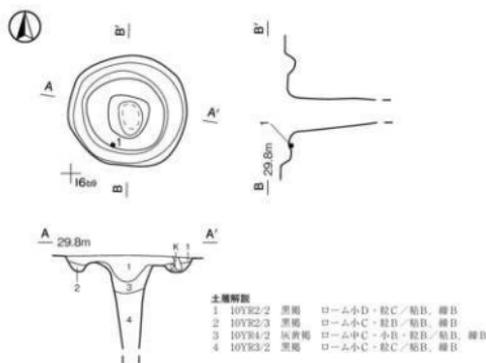
位置 調査区北東部の16a9区、標高30mの微高地上に位置している。

規模と形状 長径1.42m、短径1.35mの円形である。開口部を確認面から12～18cmまで掘り込み、周縁部は周溝状で、断面形はU字状である。中央部を長径0.65m、短径0.52mの円筒状に掘り下げている。深さ105cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

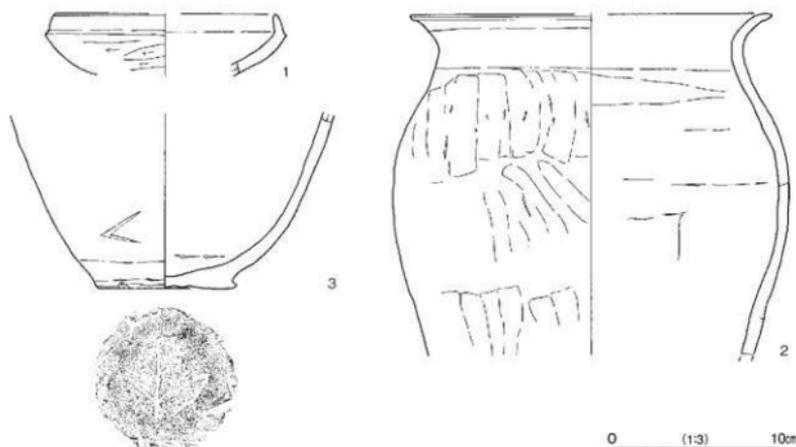
覆土 4層に分層できる。黒褐色土主体の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片24点(坏3、甕21)が出土している。1は南部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀第4四半期に比定できる。



第277図 第41号井戸跡実測図



第 278 図 第 41 号井戸跡出土遺物実測図

第 149 表 第 41 号井戸跡出土遺物一覧 (第 278 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	新土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[136]	(3.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ナデ	覆土上層	5%
2	土師器	甕	[218]	(20.9)	-	長石・石英・緑礫	にぶい黒	普通	口唇部外面ナデ	覆土中	30% PL102
3	土師器	甕	-	(10.8)	8.5	長石・石英	にぶい橙	普通	底部外面木葉痕	覆土中	20%

第 42 号井戸跡 (第 279・280 図 PL35・36)

位置 調査区南西部の J 4 il 区、標高 30 m の微高地上に位置している。

規模と形状 長径 2.04 m、短径 1.93 m の円形である。開口部を確認面から 10～24 cm まで掘り込み、周縁部は周溝状で、断面形は U 字状である。中央部を長径 0.86 m、短径 0.78 m の漏斗状に掘り下げている。深さ 130 cm まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

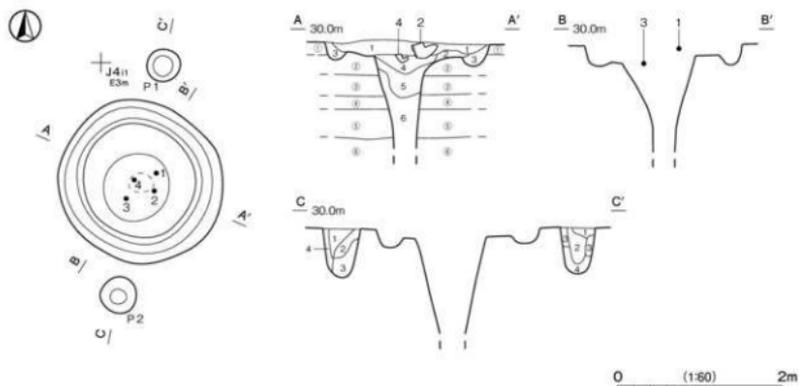
ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 57・58 cm で、主軸方向は N-11°-E で、性格は不明である。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが含まれている不規則な堆積状況から人為堆積である。

断割状況 手掘りでの調査後、遺構確認面からバックホーで掘削して断割調査を行った。深さ 130 cm まで掘り下げたところで、湧水により土層の確認が困難になったため、下部の調査を断念した。

遺物出土状況 土師器片 56 点 (坏 15、甕 38、瓶 3) が出土している。1～4 は中央部の覆土上層から出土している。2・3 は横位で出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀代に比定できる。



土層解説

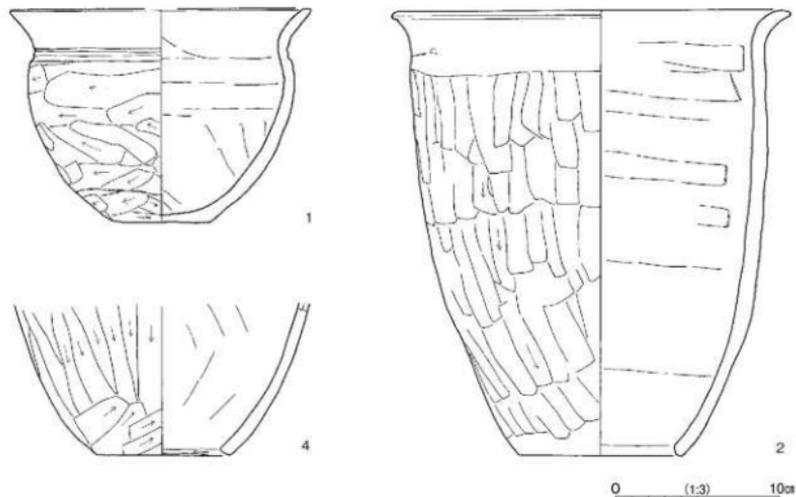
- | | | | |
|---------------|----------------|----------------|--------------------------|
| 1 10YR2/2 黒褐色 | ローム粒D・粘B、雜B | 4 10YR3/2 黒褐色 | ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒D・粘B、雜B |
| 2 10YR4/4 黒 | ローム小B・粒A・粘B、雜B | 5 10YR4/3 灰青褐色 | ローム小C・粒C・粘B、雜B |
| 3 10YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粒B・粘B、雜B | 6 10YR4/4 黒 | ローム中D・小B・粒B・粘B、雜B |

堆山土層解説

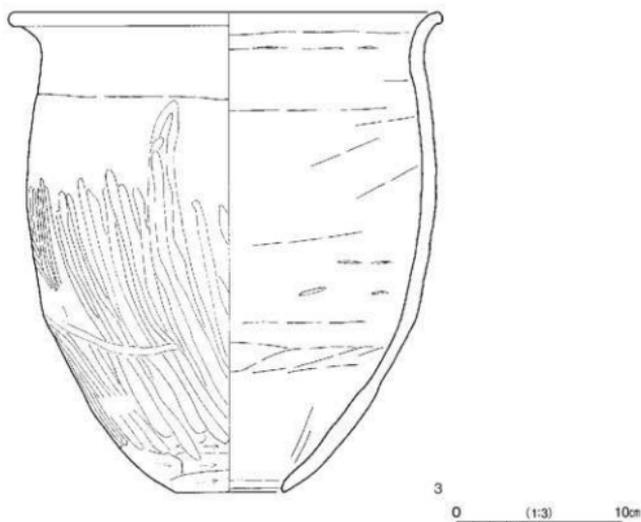
- ① 基本層序第5層に対応
- ② 基本層序第6層に対応
- ③ 基本層序第7層に対応
- ④ 基本層序第8層に対応
- ⑤ 10YR5-1 暗灰 粒径1mm以下の砂土係/粘A、雜A
- ⑥ 基本層序第9層に対応

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | |
|----------------|-------------|-----------------|----------------|
| 1 7.5YR2/2 赤褐色 | ローム粒C・粘C、雜B | 3 7.5YR2/1 黒 | ローム小C・粒C・粘B、雜A |
| 2 7.5YR2/3 暗褐色 | ローム粒B・粘B、雜B | 4 7.5YR5/4 濃い褐色 | ローム中D・小B・粘A、雜A |



第 279 図 第 42 号井戸跡・出土遺物実測図



第280図 第42号井戸跡出土遺物実測図

第150表 第42号井戸跡出土遺物一覧(第279・280図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[182]	131	6.0	長石・石英・雲母 赤色粒子	にぶい相	普通	底部外面へう張り	覆土上層	60% PL92
2	土師器	甕	236	27.4	10.0	長石・石英・雲母 赤色粒子	明赤相	普通	無底式	覆土上層	80% PL92
3	土師器	甕	260	29.5	[6.6]	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい相	普通	体部外面下半へう張り	無底式	覆土上層 60% PL93
4	土師器	甕	-	(9.4)	8.2	長石・石英	にぶい 黄相	普通	内面ナデ	無底式	覆土上層 30%

第43号井戸跡(第281図 PL36)

位置 調査区南東部のJ 6h5区、標高30mの微高地上に位置している。

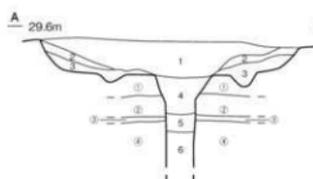
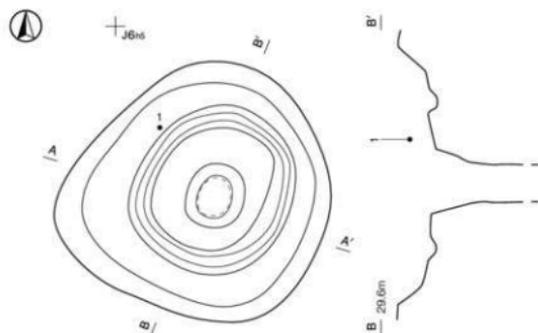
規模と形状 長径3.12m、短径3.10mの不整形である。開口部を確認面から28～54cmまで掘り込み、周縁部は周溝状で、断面形はU字状である。中央部を長径0.80m、短径0.70mの円筒状に掘り下げている。深さ150cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 6層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

断割状況 手掘りでの調査後、中央部をバックホーで掘削して断割調査を行った。深さ150cmまで掘り下げたところで、湧水により土層の確認が困難になったため、下部の調査を断念した。

遺物出土状況 土師器片46点(坏36, 甕9, 手捏土器1), 須恵器片1点(坏)が出土している。1は北西部の覆土上層から出土している。

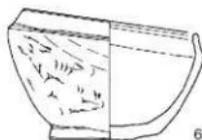
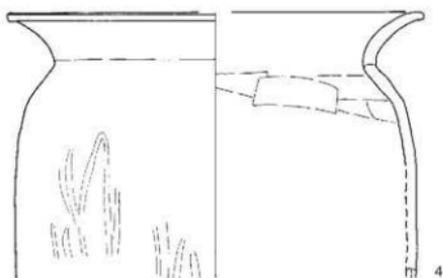
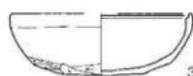
所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。



- A'**
- 土層解説**
- | | | | |
|---|---------|-----|----------------------------------|
| 1 | 10YK2/2 | 黒層 | ローム小D・粒B、焼土粒D' / 粘B、雜土 |
| 2 | 10YR4/2 | 灰黄層 | ローム中C・小C・粒B / 粘B、雜土 |
| 3 | 10YR4/3 | 二色層 | ローム大D・中C・小C・粒B、炭化粒D、薪糠D' / 粘B、雜土 |
| 4 | 10YK2/2 | 黒層 | ローム中D・小C・粒A / 粘B、雜土 |
| 5 | 10YK2/2 | 黒層 | ローム粒D' / 粘A、雜土 |
| 6 | 10YK2/2 | 黒層 | ローム粒D、砂質粒A' / 粘A、雜土 |

- 地山土層解説**
- ① 基本層序第6層に対応
 - ② 基本層序第7層に対応
 - ③ 基本層序第8層に対応
 - ④ 基本層序第9層に対応

0 (1:60) 2m



0 (1:3) 10cm

第 281 図 第 43 号井戸跡・出土遺物実測図

第151表 第43号井戸跡出土遺物一覧(第281図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	113	35	-	長石・石英・赤色粘土	明赤褐色	普通	口唇部内面沈線 内面縦痕状に酒罎 口縁部外面・内面黒色沈線	覆土上層	100% PL93
2	土師器	坏	119	37	-	長石・石英	褐色	普通	口唇部内面沈線	覆土中	20%
3	土師器	坏	109	38	-	長石・石英	にぶい褐色	普通	口唇部内面沈線	覆土中	60%
4	土師器	甕	254	163	-	長石・石英・赤色粘土・粗糠	にぶい褐色	普通	体部外面半減により調整不明瞭	覆土中	20%
5	土師器	甕	-	41	54	長石・石英・粗糠	にぶい褐色	普通	体部外面半減により調整不明瞭 底部外面木炭痕	覆土中	10%
6	土師器	手捏土器	105	8.0	5.0	長石・石英・赤色粘土	褐色	普通	口唇部内面沈線 底部外面木炭痕	覆土中	70% PL93

第44号井戸跡(第282・283図 PL36)

位置 調査区北西部のH46区、標高30mの微高地上に位置している。

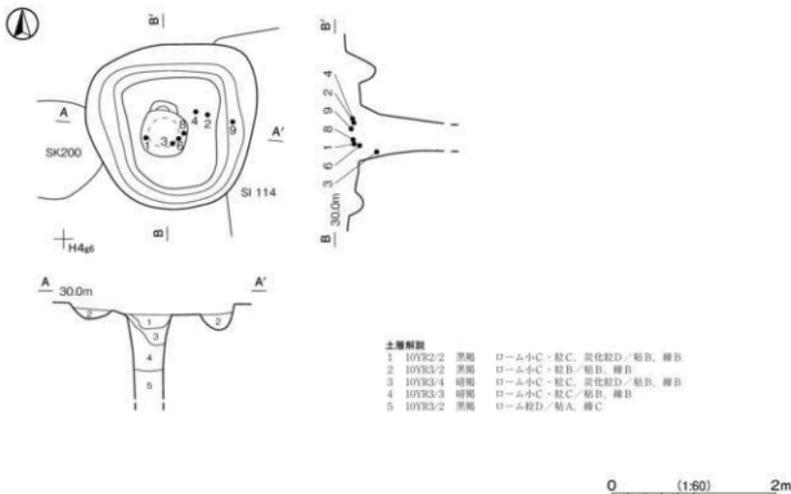
重複関係 第114号竪穴建物跡、第200号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.05m、短軸2.00mの隅丸方形で、長軸方向はN-79°-Eである。開口部を確認面から14~35cmまで掘り込み、周縁部は周溝状で、断面形はU字状である。中央部は径0.55mの円筒状に掘り下げている。深さ118cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

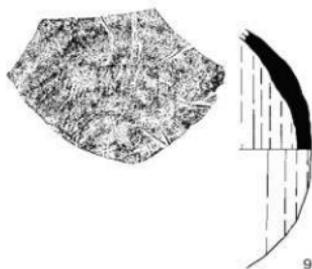
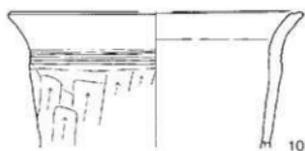
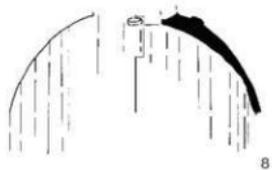
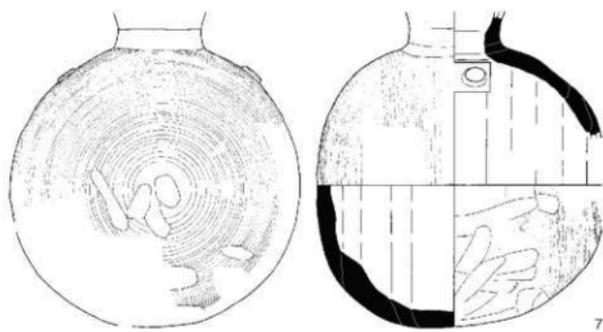
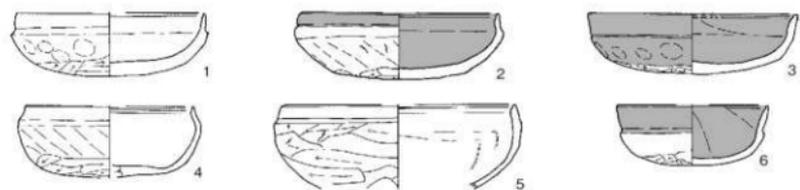
覆土 5層に分層できる。黒褐色土と暗褐色土主体で、含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片133点(坏101、高坏1、甕31)、須恵器片5点(瓶1、甕4)が出土している。3は中央部の覆土中層、1・6・8は覆土上層から出土している。2・4・9は東部の覆土上層から出土している。遺物は上層部を中心に出土しており、遺構廃絶後の窪地に投棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2-4半期以前に比定できる。



第282図 第44号井戸跡実測図



0 (1:3) 10cm

第 283 图 第 44 号井戸跡出土遺物実測図

第152表 第44号井戸跡出土遺物一覧(第283図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[118]	3.8	-	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面刷毛沈線	覆土上層	50%
2	土師器	坏	[124]	4.1	-	長石・石英	浅黄橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土上層	30%
3	土師器	坏	126	3.8	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口唇部内面沈線 外・内面黒色処理	覆土中層	90% PL53
4	土師器	坏	[103]	(4.4)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	覆土上層	40%
5	土師器	坏	[140]	(5.1)	-	長石・石英	橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	30%
6	土師器	坏	[92]	3.7	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	覆土上層	40%
7	須恵器	提瓶	-	(19.4)	-	長石・石英・赤色粒子	黄褐	良好	ロクロ整形 粘土胎用窯	覆土中層	60% PL53
8	須恵器	提瓶	-	(5.9)	-	長石・石英	灰	良好	ロクロ整形 鉄分湧出	覆土上層	20% PL102
9	須恵器	瓶	-	(14.8)	-	長石	黄褐	良好	ロクロ整形 外面平行叩き 鉄分湧出	覆土上層	20% PL102
10	土師器	甕	[180]	(8.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土中層	5%
11	須恵器	甕	-	(15.4)	-	長石・石英	黄灰	良好	外面平行叩き	覆土中層	5%

第45号井戸跡(第284・285図 PL37)

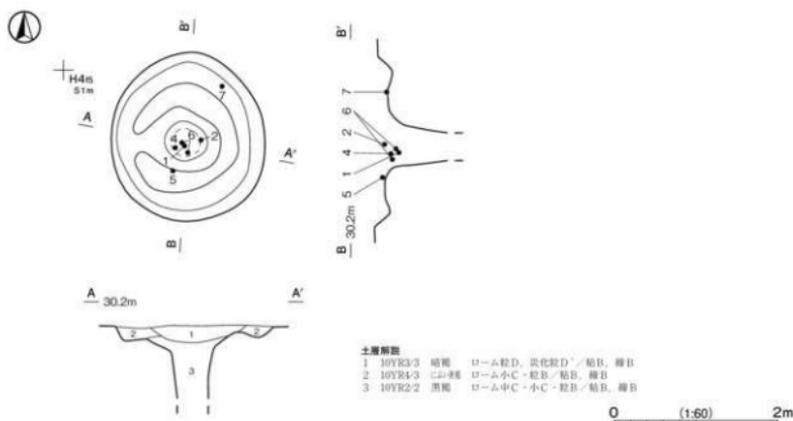
位置 調査区北西部のH4区、標高30mの微高地上に位置している。

規模と形状 長径2.06m、短径1.88mの円形である。開口部を確認面から8~20cmまで掘り込み、周縁部は馬蹄形で、断面形はU字状である。中央部を長径0.53m、短径0.47mの円筒状に掘り下げている。深さ90cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

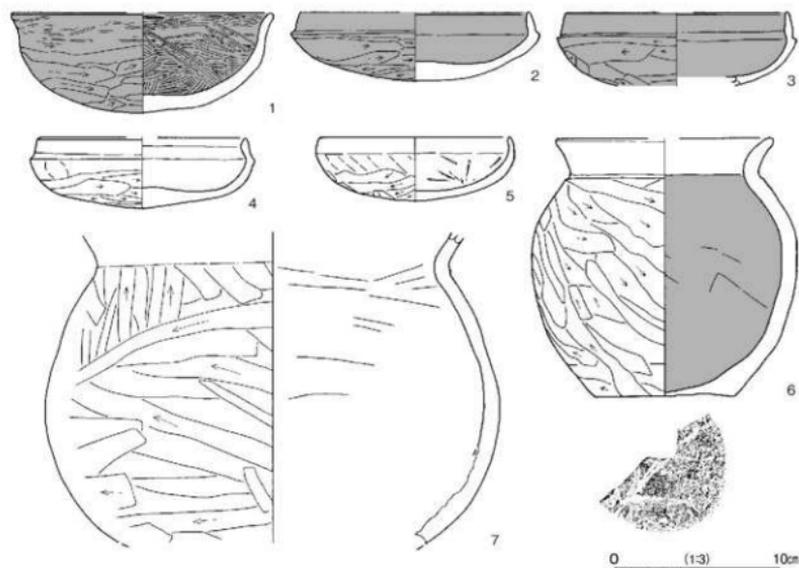
覆土 3層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片55点(坏36, 甕19)が出土している。1・2・4・6は中央部の覆土上層から出土している。4は横位で出土している。7は北東部の覆土上層から出土している。5は南東部の覆土上層から正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀第4四半期に比定できる。



第284図 第45号井戸跡実測図



第285図 第45号井戸跡出土遺物実測図

第153表 第45号井戸跡出土遺物一覧(第285図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[158]	6.1	-	長石・石英	褐灰	普通	口縁部外面・内面雑なヘラ跡あり 外・内面黒色	覆土上層	70% PL93
2	土師器	坏	[138]	4.2	-	長石・石英	灰褐色	普通	外・内面黒色処理	覆土上層	80%
3	土師器	坏	[134]	(4.5)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外・内面黒色処理	覆土中	40%
4	土師器	坏	[126]	4.3	-	長石・石英	にぶい橙	普通	内面ナゲ	覆土上層	40%
5	土師器	坏	11.5	3.9	-	長石・石英	橙	普通	内面ナゲ	覆土上層	90% PL93
6	土師器	甕	[129]	15.8	[83]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	内面黒色処理 体部内面縦痕状に剥落 底部外面木葉痕	覆土上層	50%
7	土師器	甕	-	(19.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部内面下半部縦痕状に剥落	覆土上層	20%

第46号井戸跡(第286・287図 PL37)

位置 調査区北部のH59区、標高30mの微高地上に位置している。

重複関係 第281号土坑に掘り込まれている。第278・280号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

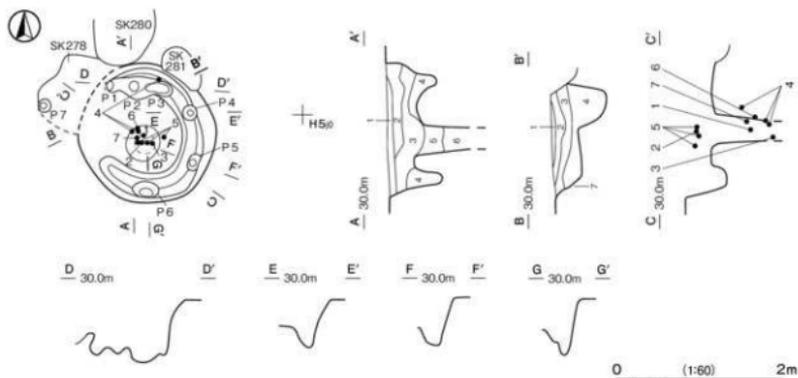
規模と形状 長径1.71m、短径1.68mの円形である。開口部を確認面から30～65cmまで凹凸に掘り込み、周縁部は馬蹄形で、断面形はU字状である。中央部を長径0.44m、短径0.42mの円筒状に掘り下げている。深さ98cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

ピット 7か所。P1～P7は深さ60～80cmで、性格不明である。

覆土 6層に分層できる。第1・2層は、含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。第3～6層はロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

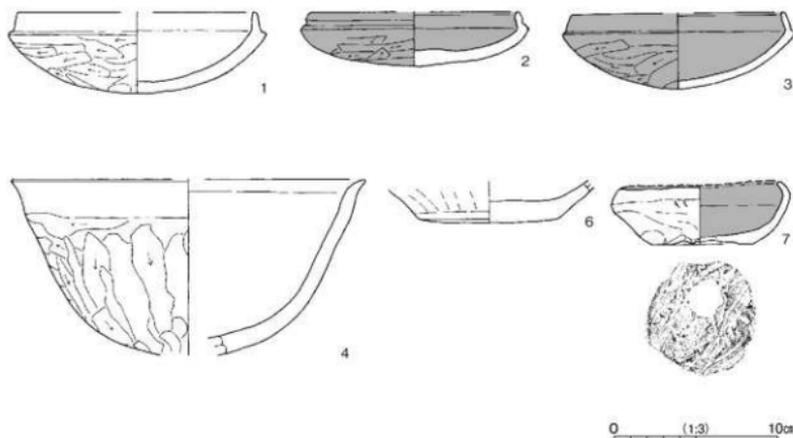
遺物出土状況 土師器片 98点（坏32，鉢1，甕64，手握土器1）が出土している。2・5は中央部の覆土上層から、1・6・7は覆土中層より上から7・1・6の順に入れ子状に重なって、4は覆土下層と北部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀第4四半期に比定できる。

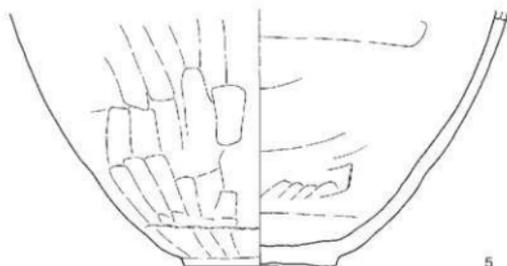


土層解説

- | | | | |
|---|---------|----|-----------------------|
| 1 | 10YR2-4 | 硬砂 | ローム小C・粒C/粘B, 締B |
| 2 | 10YR3-2 | 黒砂 | ローム小C・粒C/粘B, 締B |
| 3 | 10YR2-3 | 赤砂 | ローム大B・中B・小B・粒A/粘B, 締B |
| 4 | 10YR2-2 | 赤砂 | ローム中B・小B・粒C/粘B, 締B |
| 5 | 10YR3-2 | 黒砂 | ローム大D・中D・小C・粒C/粘B, 締B |
| 6 | 10YR2-2 | 赤砂 | ローム小D・粒D/粘B, 締C |



第286図 第46号井戸跡・出土遺物実測図



5



0 (1:3) 10cm

第 287 図 第 46 号井戸跡出土遺物実測図

第 154 表 第 46 号井戸跡出土遺物一覧 (第 286・287 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[144]	4.9	-	長石・石英	にぶい肌	普通	外・内面黒色処理の痕跡	覆土中層	50%
2	土師器	坏	[126]	3.3	-	長石	橙	普通	外・内面黒色処理	覆土上層	50%
3	土師器	坏	[128]	4.6	-	長石・石英	にぶい肌	普通	外・内面黒色処理	覆土下層	40%
4	土師器	鉢	[214]	(10.8)	-	長石・石英	灰褐色	普通	内面ナメ	覆土下層・ 覆土中層	40%
5	土師器	甕	-	(15.7)	9.2	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい肌	普通	底部外面木炭灰	覆土上層	20%
6	土師器	甕	-	(2.5)	8.5	長石・石英・細礫	にぶい肌	普通	外面へう磨き 内面半減	覆土中層	5%
7	土師器	手捏土器	9.7	3.9	6.1	長石・石英	にぶい肌	普通	底部打ち欠き 底部外面糸切り痕 内面黒色処理	覆土中層	60% PL34

第 47 号井戸跡 (第 288 図 PL37)

位置 調査区南東部の J 6c8 区、標高 30 m の微高地上に位置している。

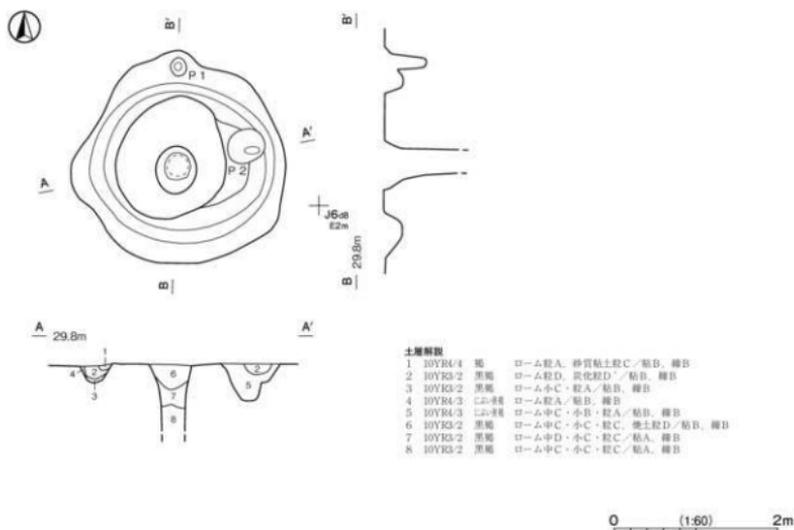
規模と形状 長径 2.62 m、短径 2.60 m の不整形円形である。開口部を確認面から 21 ~ 23cm まで掘り込み、周縁部は馬蹄形で、断面形は U 字状である。中央部を長径 0.60 m、短径 0.50 m の円筒状に掘り下げていて、深さ 90cm まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 50・45cm で、性格不明である。

覆土 8 層に分類できる。ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 6 点 (坏 4、甕 2) が出土している。遺物は細片で図示できなかったが、常総型甕の口縁部や、口唇部内面に沈線を有する坏が出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀代に比定できる。

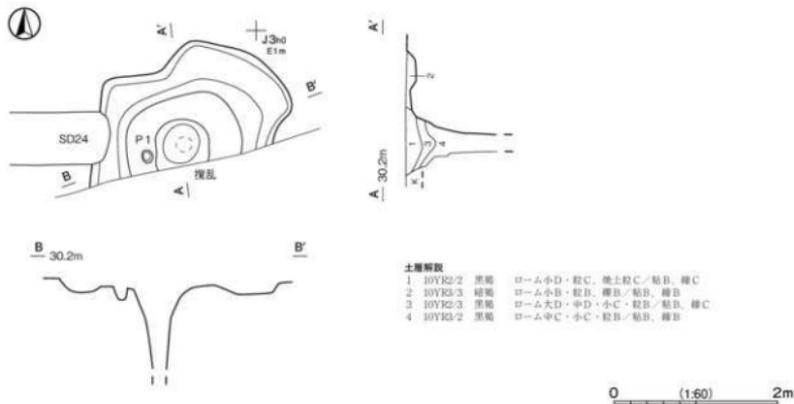


第 288 図 第 47 号井戸跡実測図

第 48 号井戸跡 (第 289 図 PL37)

位置 調査区南西部の J 3 h0 区、標高 30 m の微高地上に位置している。

重複関係 第 24 号溝に掘り込まれている。



第 289 図 第 48 号井戸跡実測図

規模と形状 南部が攪乱を受けているため、確認できた南北径1.50 m、東西径2.56 mの不整形円形と推測される。開口部を確認面から6～14cmまで掘り込み、周縁部は確認できた範囲では周溝状で、断面形はU字状である。中央部は確認できた範囲で南北径0.56 m、東西径0.64 mの漏斗状に掘り下げている。深さ108cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

ピット 1か所。P1は深さ20cmで、性格不明である。

覆土 4層に分層できる。第1・2層は黒褐色土と暗褐色土主体で、含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。第3・4層はロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片24点(坏10、甕14)が出土している。遺物は細片で図示できなかったが、内面に沈線有する坏が出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀代に比定できる。

第49号井戸跡 (第290・291図 PL37)

位置 調査区北東部のH67区、標高30 mの微高地上に位置している。

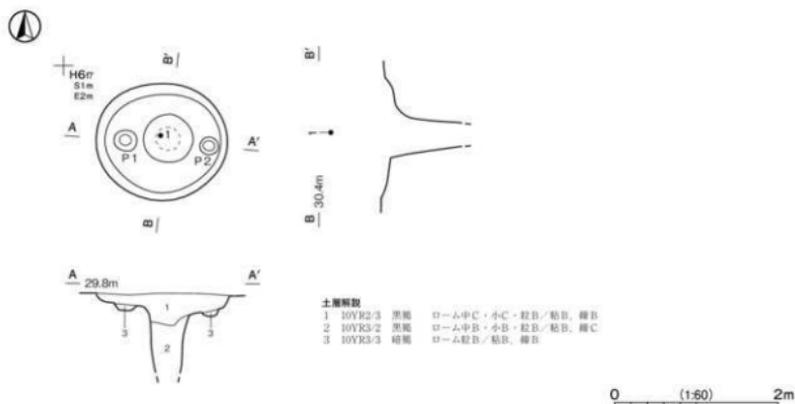
規模と形状 長径1.59 m、短径1.45 mの円形である。開口部を確認面から10～26cmまで掘り込み、周縁部にテラス面を持つ。中央部を長径0.60 m、短径0.56 mの円筒状に掘り下げている。深さ90cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

ピット 2か所。P1・P2は深さ20・26cmで、性格不明である。

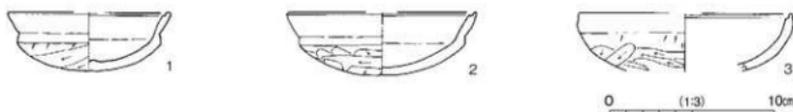
覆土 3層に分層できる。第1・2層はロームブロックなどが含まれている堆積状況から人為堆積である。第3層は暗褐色土主体で、含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片45点(坏23、甕22)が出土している。1は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀第2四半期に比定できる。



第290図 第49号井戸跡実測図



第 291 図 第 49 号井戸跡出土遺物実測図

第 155 表 第 49 号井戸跡出土遺物一覧 (第 291 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他記	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[100]	3.5	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土上層	40%
2	土師器	坏	[116]	3.8	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口唇部内面沈線 系跡	覆土中	30%
3	土師器	坏	[130]	(3.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線 系跡	覆土中	30%

第 50 号井戸跡 (第 292・293 図 PL38)

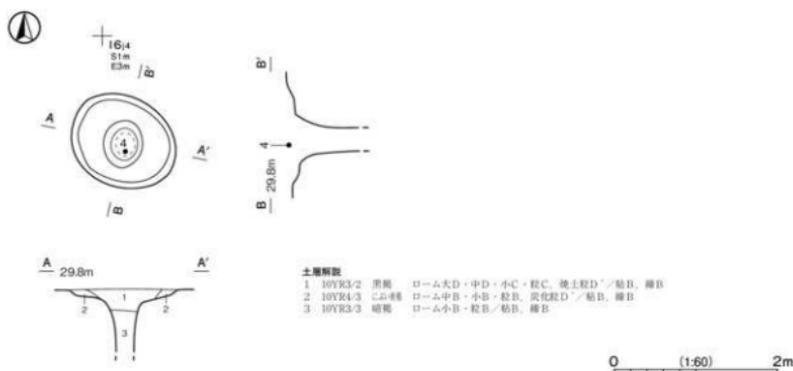
位置 調査区東部の I 6j4 区、標高 30 m の微高地上に位置している。

規模と形状 長径 1.35 m、短径 1.13 m の楕円形で、長径方向は $N-62^{\circ}-W$ である。開口部を確認面から 8 ~ 15 cm まで掘り込んでおり、周縁部にテラス面を持つ。中央部を長径 0.60 m、短径 0.50 m の漏斗状に掘り下げている。深さ 85 cm まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

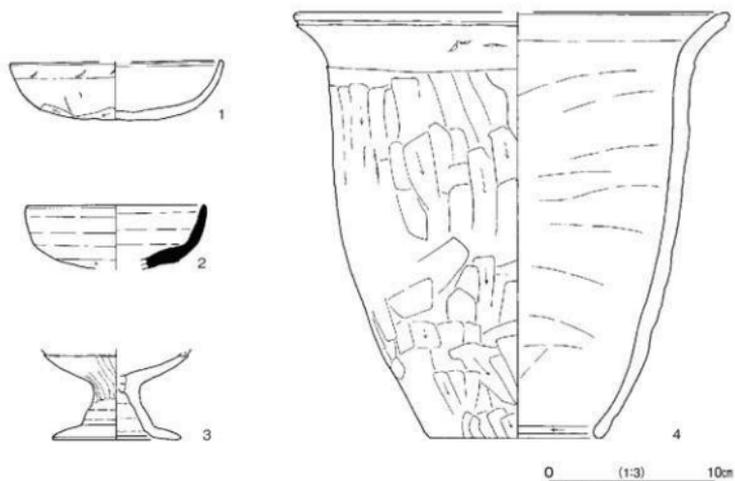
覆土 3層に分層できる。ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片 10 点 (坏 8、高坏 1、瓶 1)、須恵器片 1 点 (坏) が出土している。4 は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀第 3 四半期に比定できる。



第 292 図 第 50 号井戸跡実測図



第293図 第50号井戸跡出土遺物実測図

第156表 第50号井戸跡出土遺物一覧(第293図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	杯	[130]	3.5	-	長石・石英	灰黄	普通	口径部内面沈線	覆土中	30%
2	須恵器	杯	108	(39)	-	長石	灰	普通	ロクロ整形 底部回転ヘラ削り	覆土中	60% PL94
3	土師器	高杯	-	(55)	[7]	長石・石英	橙	普通	坏部外面ヘラ削き	覆土中	20%
4	土師器	甕	[260]	26.1	10.3	長石・石英・細砂	橙	普通	体部外面覆付着 口径部内面沈線 無底式	覆土上層	70% PL94

第51号井戸跡(第294図 PL38)

位置 調査区北西部のH4j4区、標高30mの微高地上に位置している。

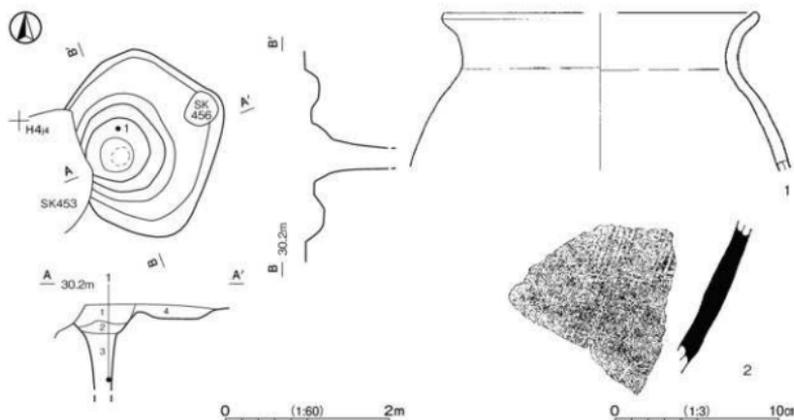
重複関係 第453・456号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.01m、短軸1.94mの隅丸方形で、長軸方向はN-37°-Eである。開口部を確認面から20cmまで掘り込んでおり、周縁部は周溝状で、断面形は皿状である。中央部を長径0.70m、短径0.67mの円筒状に掘り下げている。深さ90cmまで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 4層に分层できる。ロームブロックなどが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片6点(杯3、碗1、甕2)、須恵器片1点(甕)が出土している。1は中央部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から6・7世紀代に比定できる。



土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐色 ローム小D・粒D、焼土粒D/粘B、雜B
 2 10YR3/3 暗褐色 ローム中D・小C・粒B、細粒D/粘B、雜B
 3 10YR3/3 暗褐色 ローム中C・小C・粒B、細粒C/粘B、雜B
 4 10YR3/3 暗褐色 ローム小D・粒D、細粒D/粘B、雜B

第294図 第51号井戸跡・出土遺物実測図

第157表 第51号井戸跡出土遺物一覧(第294図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	[190]	(97)	-	長石・石英・ 赤鉄・磁礫	にぶい橙	普通	外・内面準減により調整不明瞭	覆土下層	5%
2	須恵器	甕	-	(94)	-	長石・石英	灰	良好	外面格子目印迹	覆土中	5%

第158表 古墳時代井戸跡一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
35	H6h1	-	不整形円形	3.11 × 2.88 0.00 × 0.58	(110)	円筒状	-	自然 焼成粘土塊	土師器、須恵器、支脚、礫石、	
36	H6f6	-	不整形円形	2.02 × 2.00 0.42 × 0.40	(85)	円筒状	-	人為	土師器、砥石	SK62との新旧不明
37	H5g7	-	円形	2.58 × 2.48 0.08 × 0.62	(128)	円筒状	-	人為	土師器	SI 38 → 本跡 → SK 4
38	H5f7	-	円形	1.76 × 1.74 0.80 × 0.72	(80)	円筒状	-	人為	土師器	
39	H5g7	-	円形	2.53 × 2.38 0.76 × 0.60	(97)	円筒状	-	自然 人為	土師器	
40	H5f3	-	円形	3.18 × 3.08 1.22 × 1.20	(140)	漏斗状	-	自然 人為	土師器、支脚、礫石、砥石	
41	I6a9	-	円形	1.42 × 1.35 0.65 × 0.52	(105)	円筒状	-	自然	土師器	
42	J4i1	-	円形	2.04 × 1.93 0.86 × 0.78	(130)	漏斗状	-	人為	土師器	
43	J6h5	-	不整形円形	3.12 × 3.10 0.80 × 0.70	(150)	円筒状	-	自然	土師器、須恵器	
44	H4f6	N-79°-E	隅丸方形	2.05 × 2.00 0.55 × 0.55	(118)	円筒状	-	自然	土師器、須恵器	SI 114 SK200 → 本跡
45	H4f5	-	円形	2.06 × 1.88 0.53 × 0.47	(90)	円筒状	-	自然	土師器	
46	H5j9	-	円形	1.71 × 1.68 0.44 × 0.42	(98)	円筒状	-	人為	土師器	本跡 → SK281 SK28・20上の遺跡群
47	J6c8	-	不整形円形	2.62 × 2.60 0.60 × 0.50	(90)	円筒状	-	人為	土師器	
48	J3b0	-	[不整形円形]	2.46 × [1.50] [0.60] × 0.56	(108)	漏斗状	-	自然 人為	土師器	本跡 → SD18
49	H6f7	-	円形	1.59 × 1.45 0.60 × 0.56	(90)	円筒状	-	人為 自然	土師器	
50	I6j4	N-62°-W	隅円形	1.35 × 1.13 0.60 × 0.50	(85)	漏斗状	-	人為	土師器、須恵器	
51	H4j4	N-37°-E	隅丸方形	2.01 × 1.94 0.70 × 0.67	(90)	円筒状	-	人為	土師器、須恵器	本跡 → SK453・ 456

3 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡8棟、土坑1基、井戸跡1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴建物跡

第15 A号堅穴建物跡 (第295・296図 PL38)

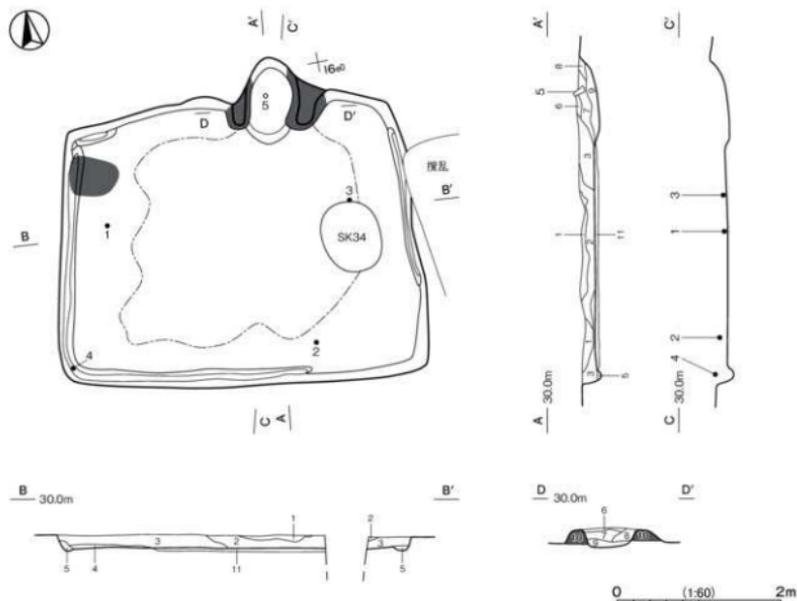
位置 調査区東部のI 6e9区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第15 B号堅穴建物跡の上部に構築し、第34号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.46m、短軸は3.56mの長方形で、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は10~14cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部から南部の壁際にかけて、踏み固められている。北部と南東コーナー部を除き壁溝が巡っている。貼床はロームブロックを含む第11層を埋土して構築されている。西壁際の床面近くに粘土塊を確認した。

竈 北壁のやや東よりに付設されている。規模は焚口から煙道部まで106cmで、燃焼部幅は52cmである。袖部



土層解説

- | | | | |
|----------------|------------------------------|-----------------|------------------------------------|
| 1 10YR3-2 黒褐色 | ローム小C・粒C、焼土中C・小C、炭化粒C/粘B、雜B | 7 7.5YR4/3 黄褐色 | 焼土大C・中B・小B・粒A、砂質粘土粒B/粘B、雜B |
| 2 10YR2-3 黒褐色 | ローム小C・粒B、焼土大C・中C・小C・粒C/粘B、雜B | 8 7.5YR4/4 黄褐色 | ローム粒C、焼土中B・小B・粒B/粘B、雜B |
| 3 10YR3-2 黒褐色 | ローム中B・小C・粒B、焼土小C・粒C/粘B、雜B | 9 7.5YR4/4 黄褐色 | ローム粒B、焼土粒D/粘B、雜B |
| 4 10YR4/4 黄褐色 | ローム小B・粒A/粘B、雜B | 10 7.5YR3/2 黄褐色 | ローム粒C、焼土中C・小C・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘B、雜B |
| 5 10YR7-2 暗褐色 | ローム粒A、粘B、雜B | 11 10YR2-3 黒褐色 | ローム小C・粒B/粘B、雜B |
| 6 7.5YR3-2 黒褐色 | 焼土小B・粒B/粘B、雜C | | |

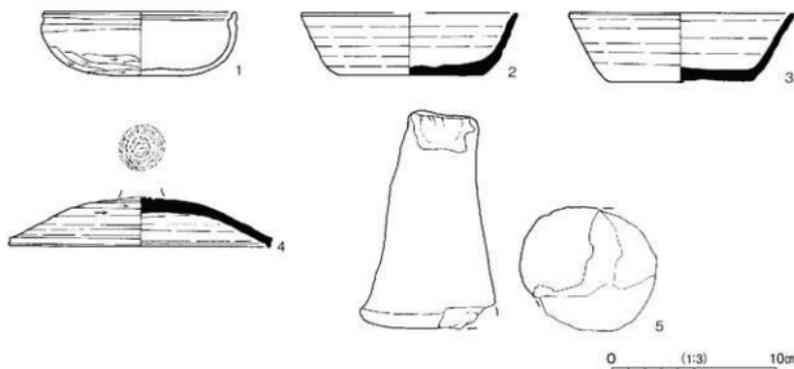
第295図 第15 A号堅穴建物跡実測図

は地山の上に焼土粒子やローム粒子を含む第10層を積み上げて構築されている。火床部は床面から5cmくぼんでおり、火床面は確認できなかった。煙道部は壁外に58cm掘り込まれ、火床部から外傾している。第7層は、天井部の崩落土と考えられる。支脚が覆土中層から出土しており、竈は破壊された後に埋め戻されていると考えられる。第6～9層は竈に関する堆積土である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片107点(坏75, 碗1, 甕31), 須恵器片7点(坏5, 蓋1, 甕1), 土製品1点(支脚), 焼成粘土塊3点(17.57g)が出土している。5は竈覆土中層から出土している。3は東部の覆土下層から逆位で出土している。4は南西コーナー部の覆土上層から正位で出土している。1は西部の覆土下層, 2は南部の覆土中層から正位で出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀第2四半期に比定できる。



第296図 第15A号竪穴建物跡出土遺物実測図

第159表 第15A号竪穴建物跡出土遺物一覧(第296図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	116	3.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部内面沈線	覆土下層	90% PL94
2	須恵器	坏	132	3.8	86	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形 底部回転ヘラ削り	覆土中層	40%
3	須恵器	坏	135	4.4	90	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形 底部回転ヘラ削り	覆土下層	70%
4	須恵器	蓋	160	(3.0)	-	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形	覆土上層	90% PL94
番号	器種	上径	下径	高さ	重量	胎土	特徴		出土位置	備考	
5	支脚	4.2	(7.9)	132	(470)	長石・石英	全面ナデ		竈覆土中層		

第15B号竪穴建物跡(第297図)

位置 調査区東部のI 6e9区, 標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第34号土坑に掘り込まれている。第15A号竪穴建物が上部に構築されている。

規模と形状 長軸2.94m, 短軸は2.83mの方形で, 主軸方向はN-9°-Eである。

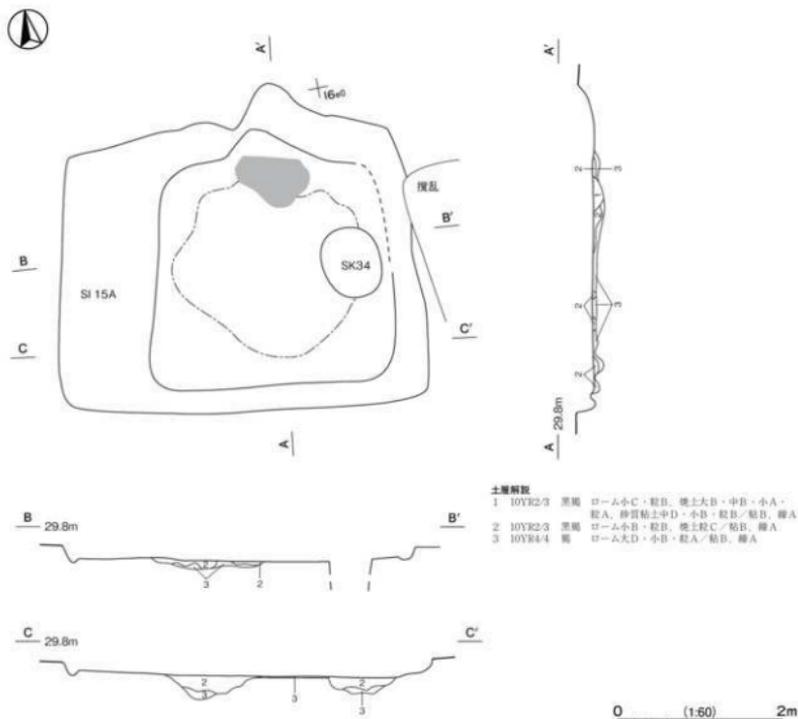
床 床面は削平されているが、中央部に硬化を確認した。

竈 第1層に砂質粘土や焼土が集中していることから、北壁中央部に付設されていたと考えられる。袖部や火床面は遺存しておらず、第15 A号竪穴建物構築時に整地されたと考えられる。

覆土 第1～3層はロームブロックを含む黒色土を踏み固めて構築された掘方である。

遺物出土状況 土師器片28点(坏22, 碗3, 甕3), 須恵器片1点(甕)が出土している。遺物は細片で図示できなかったが、新治窯産の須恵器甕や常総型甕の口縁部が出土している。

所見 時期は、重複関係から8世紀第2四半期以前に比定できる。本跡から第15 A号竪穴建物への拡張が行われたと考えられる。



第297図 第15 B号竪穴建物跡実測図

第26号竪穴建物跡 (第298・299図 PL38)

位置 調査区北東部のI7c1区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸360m, 短軸356mの方形で、主軸方向はN-6°-Eである。壁高は18cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。竈脇と南東コーナー部を除いて、溝溝が巡っている。

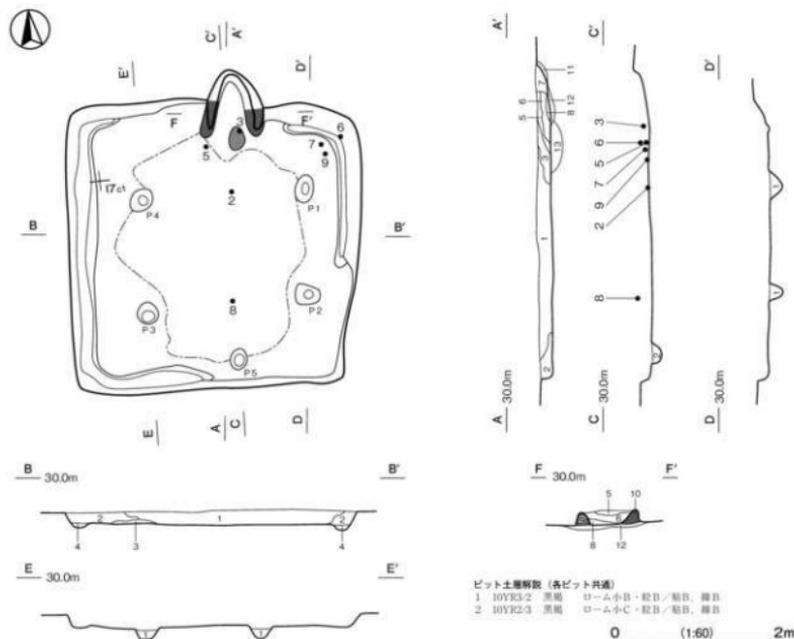
竈 北壁に付設されている。規模は焚口から煙道部まで115cmで、燃焼部幅は38cmである。竈は、地山を14cmほど皿状に掘りくぼめた部分にローム粒子などを含む第11～13層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、砂質粘土粒子を含む第9・10層を積み上げて構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に43cm掘り込まれ、火床部から外傾している。第5～8層は竈に関連する堆積土である。

ピット 5か所。P1～P4は深さ16～18cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ14cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片799点(坏629, 椀7, 高坏4, 甕158, 瓶1), 須恵器片15点(坏9, 蓋2, 甕4), 土製品2点(支脚)が出土している。3は竈火床部下層から逆位で出土している。5は竈左袖前部方の床面から逆位で出土している。2は中央部の床面から正位で、8は覆土上層から出土している。7・9は北東コーナー部の床面から横位で、6は覆土中層から出土している。

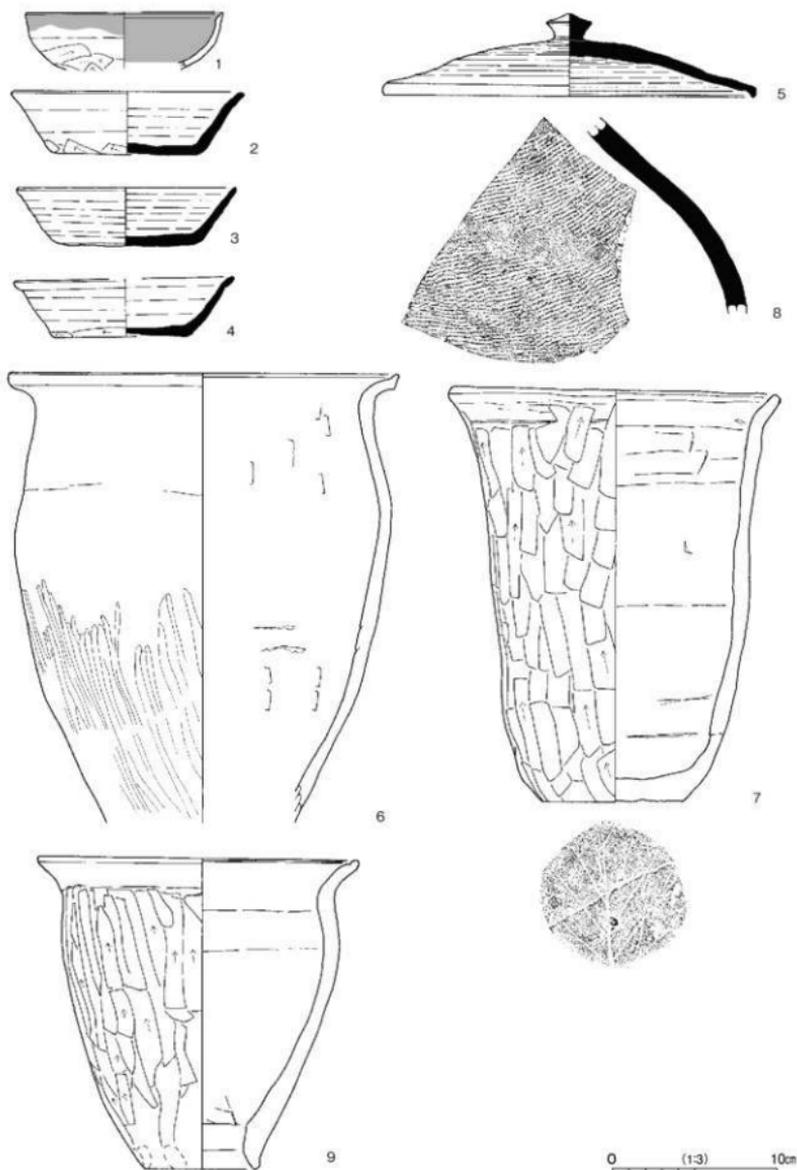
所見 時期は、出土土器から8世紀第2四半期に比定できる。



土層解説

1	10YK2-2	黒炭	ローム小-C・粒C/粘B、雜B	8	10YK2-4	黒炭	ローム大-C・中-C・小B-粒C、燒土粒C/粘B、雜B
2	10YK3-3	黒炭	ローム小-C・粒B/粘B、雜B	9	10YK3-4	黒炭	ローム大-C・中B・小B-粒C、燒土粒C、砂質粘土粒B/粘B、雜B
3	10YK2-2	黒炭	ローム小-C・粒B、燒土粒C/粘B、雜B	10	10YK4-3	コハコ	ローム小-D・粒B、燒土粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜B
4	10YK3-3	黒炭	ローム小-C・炭化粒D/粘B、雜B	11	10YK2-3	黒炭	ローム粒C、燒土粒D/粘B、雜B
5	75YK3-2	黒炭	ローム粒B、燒土粒B/粘B、雜C	12	10YK4-3	コハコ	ローム粒C/粘B、雜B
6	75YK4-6	黒炭	ローム小-C・粒B、燒土小-C・小C・粒B/粘B、雜B	13	10YK2-3	黒炭	ローム粒C、燒土粒C/粘B、雜B
7	75YK3-4	黒炭	ローム小-C・粒C、燒土小-C・粒C/粘B、雜B				

第298図 第26号竈穴建物跡実測図



第 299 图 第 26 号竖穴建物跡出土遺物実測図

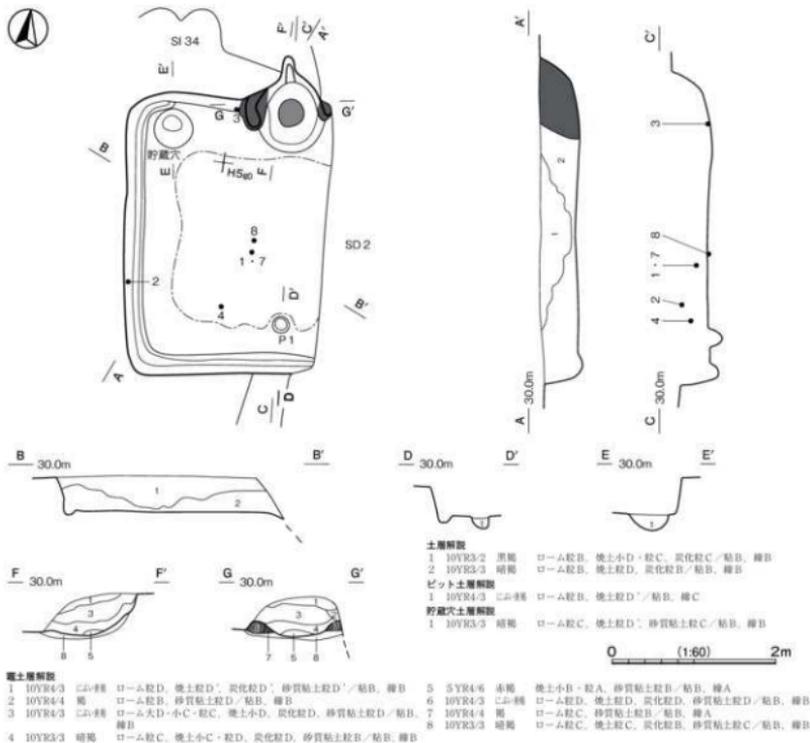
第160表 第26号竪穴建物跡出土遺物一覧 (第299図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[118]	(3.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面化粧 口縁部外面・内面黒色処理	覆土中	10%
2	須恵器	坏	138	39	9.1	長石・石英・雲母	灰白	普通	口クロ整形 体部下端手持ちへう削り 底部外面回転へう切後、手持ちへう削り	床面	90% PL94 新治産
3	須恵器	坏	133	3.6	8.2	長石	灰	普通	底部外面回転へう削り	竈火床部下層	90% PL94
4	須恵器	坏	[132]	3.6	8.1	長石・雲母	にぶい橙	不貞	体部下端手持ちへう削り 底部手持ちへう削り	覆土中	70% PL94 新治産
5	須恵器	甗	225	5.1	-	長石・石英・白色針状物質	灰	普通	口クロ整形	竈火床面	90% PL94 木葉下産
6	土師器	甗	235	(27.6)	-	長石・石英・繊維	橙	普通	体部外面やや摩滅	覆土中層	60%
7	土師器	甗	196	25.4	8.7	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	底部外面木葉産	床面	100% PL95
8	須恵器	甗	-	(11.7)	-	長石・石英	黄灰	良好	外面平行叩き	覆土上層	5%
9	土師器	甗	194	19.2	7.0	長石・石英・繊維・黑色粒子	浅黄橙	普通	内面ナデ 無底式	床面	90% PL95

第31号竪穴建物跡 (第300・301図 PL38・39)

位置 調査区北部のH5g0区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第34号竪穴建物跡を掘り込み、第2号堀に掘り込まれている。



第300図 第31号竪穴建物跡実測図

規模と形状 南北軸は335m、確認できた東西軸は244mで、方形または長方形と推定できる。主軸方向はN-5°-Wである。壁高は34~46cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認できた範囲で壁溝はほぼ全周している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口から煙道部まで116cmで、燃焼部幅は60cmである。竈は、地山を5cmほど掘りくぼめた部分にローム粒子と粘土粒子などを含む第8層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上面に、砂質粘土粒子を含む第6・7層を積み上げて構築されている。火床部は床面から4cmほどくぼんでおり、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に32cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

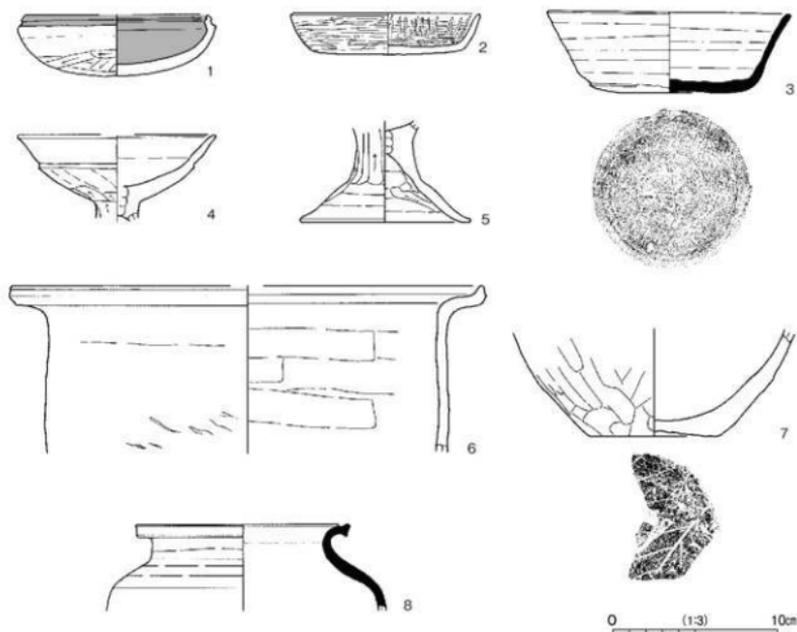
ピット P1は深さ10cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置しており、長径52cm、短径48cmの円形である。深さは20cm、底面はU字状で、壁は外傾している。単一層であり、人為堆積である。

覆土 2層に分層できる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片749点(坏563、碗5、高坏9、壺5、甕167)、須恵器片4点(坏3、甕1)、土製品2点(支脚)、焼成粘土塊2点(16.01g)が出土している。3は竈左袖脇の床面から、正位で出土している。8は中央部の床面から正位で、1・7は覆土下層から出土している。4は南部の覆土中層から出土している。2は西部の覆土上層から出土している。4・5は流れ込みの可能性がある。

所見 時期は、出土土器から8世紀第1四半期に比定できる。



第301図 第31号竪穴建物跡出土遺物実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝が北東コーナー部と南西コーナー部の一部に巡っている。炭化材、炭化物や焼土が西部から北東部にかけての床面直上から出土している。

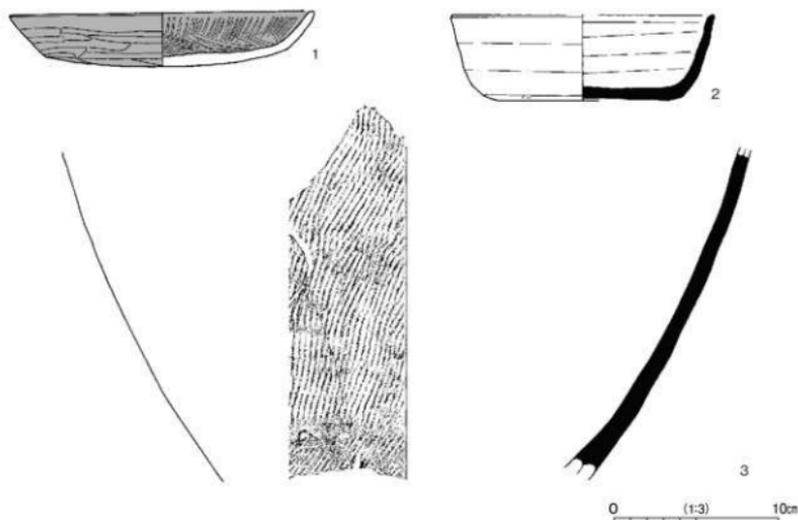
竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口から煙道部まで92cmで、燃燒部幅は40cmである。竈は、地山を12cmほど掘りくぼめ、ロームブロックなどを含む第13層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上面に、砂質粘土粒子を含む第11・12層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に28cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第7～10層は竈に関連する堆積土である。

ピット 2か所。P1・P2は深さ10・12cmで、性格不明である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片390点(坏234, 碗1, 高杯4, 甕148, 甗3), 須恵器片6点(坏2, 甕4), 焼成粘土塊7点(24.98g)が出土している。1は東部の床面から、正位で出土している。3は南部の床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀第1四半期に比定できる。炭化材、炭化物や焼土が床面から出土していることから、焼失家屋とみられる。



第303図 第36号竪穴建物跡出土遺物実測図

第162表 第36号竪穴建物跡出土遺物一覧(第303図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	18.2	3.4	14.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面黑色地埋 内面放射状へっ磨き	床面	90% PL95
2	須恵器	坏	[15.8]	5.2	10.5	長石・雲母	暗灰黄	不具	底部斜転へっ磨り	床面	70% PL95 新治遺
3	須恵器	甕	-	(20.5)	-	長石・石英・雲母	灰	普通	外面平行叩き 内面瘤状に磨滑	床面	10%

第46号竪穴建物跡 (第304・305図 PL39)

位置 調査区北部のH5h4区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第48号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.68m、短軸3.84mの長方形で、主軸方向はN-1'-Wである。壁高は6-26cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北西コーナー部の一部に壁溝が巡っている。

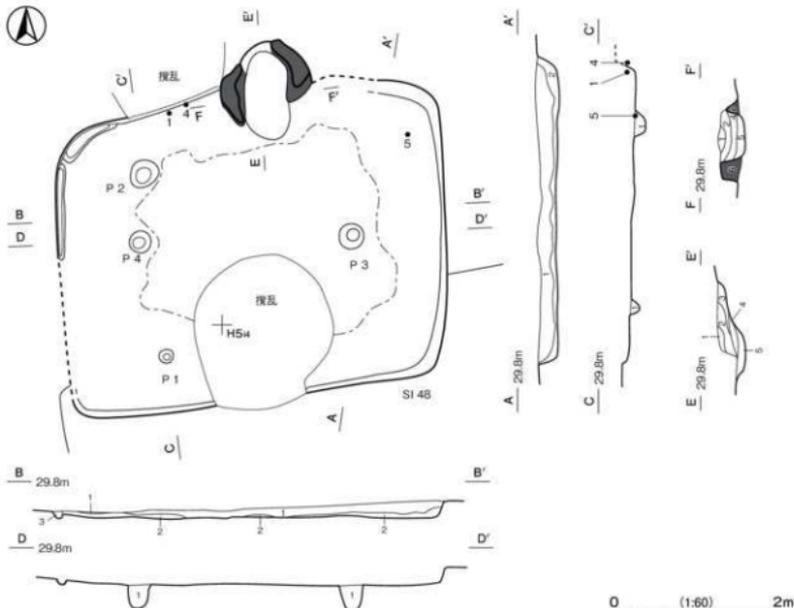
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで122cmで、燃焼部幅は54cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土粒子を含む第6層を積み上げて構築されている。火床部は床面から8cmくぼんでおり、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に50cm掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

ピット 4か所。P1~P4は深さ12~32cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。焼土ブロックやロームブロックなどが含まれる不規則な堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土器器片111点(坏57, 甕3, 高坏3, 甕48), 須恵器片9点(坏5, 鉢1, 甕3)が出土している。5は東部の床面から、1・4は北部の覆土下層から、正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀第2四半期に比定できる。



土層解説

1	10YR3/3	黄褐色	ローム小C・粒C、焼土中D・小C/粘B、雜B
2	10YR3/4	暗褐色	ローム小B・粒A/粘B、雜B
3	10YR4/3	赤み黄褐色	ローム小B・粒B/粘B、雜B

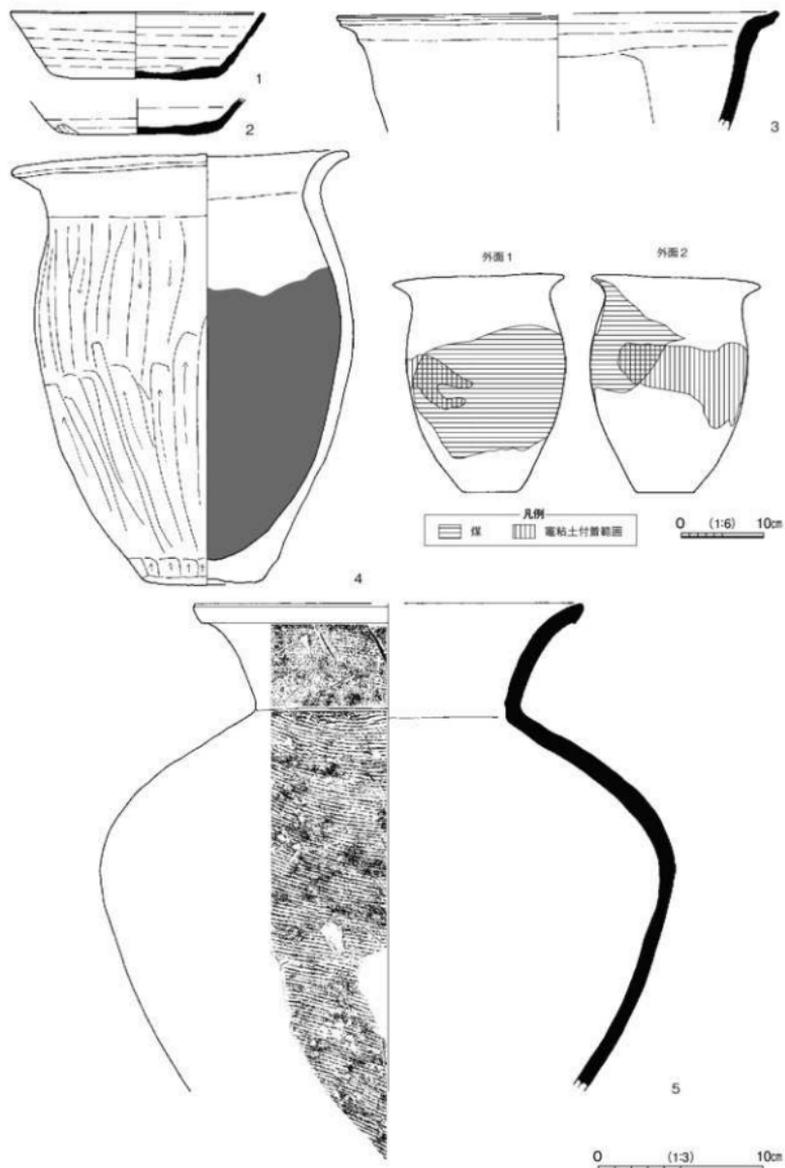
ピット土層解説 (各ピット共通)

1	10YR3/2	黄褐色	ローム中B・小B・粒B、粘B
---	---------	-----	----------------

覆土層解説

1	7.5YR4/3	黄褐色	ローム小C・粒B、焼土小B・粒B/粘B、雜B
2	10YR3/3	暗褐色	ローム小C・粒B、焼土中C・小C・粒C/粘B、雜B
3	10YR4/3	赤み黄褐色	ローム小B・粒B/粘B、雜B
4	10YR3/3	暗褐色	ローム粒B、焼土粒D/粘B、雜B
5	10YR3/4	暗褐色	ローム中B・小A・粒A/粘B、雜B
6	10YR4/4	黄褐色	ローム小A・粒A、砂質粘土粒A/粘B、雜A

第304図 第46号竪穴建物跡実測図



第 305 图 第 46 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第163表 第46号竪穴建物跡出土遺物一覧(第305図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	156	4.2	100	長石・石英・緑礫	灰白	不良	底部回転ヘラ切り 底部短棒手持ちヘラ削り	覆土下層	80%
2	須恵器	坏	-	(2.2)	9.6	長石・石英・緑礫	灰白	不良	底部回転ヘラ切り 底部短棒手持ちヘラ削り	覆土中	40%
3	須恵器	鉢 [268]	(7.2)	-	-	長石・石英・赤母	灰白	普通	外・内面摩滅により調整不明瞭	覆土中	10% 新治産
4	土師器	甕	197	26.6	7.0	長石・石英・緑礫	におい肌	普通	体部外面定規面に僅・粘土付着 底部外面ヘラ削り 体部内面下半部痕状に剥落	覆土下層	90% PL95
5	須恵器	甕 [236]	(30.0)	-	-	長石・石英・赤母・白色粒子	靑灰	普通	体部外面平行叩き 内面痕状面に剥落	床面	30%

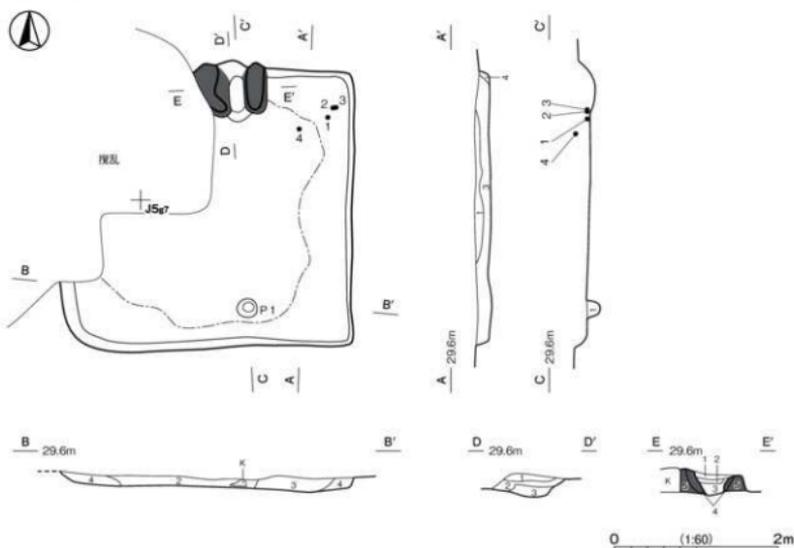
第61号竪穴建物跡(第306・307図 PL39・40)

位置 調査区南部のJ57区、標高30mほどの微高地上に位置している。

規模と形状 長軸3.54m、短軸3.38mの方形で、主軸方向はN-0°である。壁高は16cmで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで76cmで、燃焼部幅は20cmである。袖部は地山の上に、砂質粘土粒子を含む第4・5層を積み上げて構築されている。火床部は床面から6cmくぼんでおり、火床面の赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に10cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。



土層解説

- 1 10YR3-2 黒褐色 ローム小C・粒B/粘B、礫B
- 2 10YR4-4 黒色 ローム小A・粒A/粘B、礫B
- 3 10YR3-3 暗褐色 ローム小B・粒B/粘B、礫B
- 4 10YR4-3 黒褐色 ローム中C・小B・粒B/粘B、礫B

ピット土層解説

- 1 10YR2-2 黒褐色 ローム小C・粒B、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B

竈土層解説

- 1 10YR3-3 暗褐色 ローム小D・粒C/粘B、礫B
- 2 10YR3-2 黒褐色 ローム小D・粒D、焼土中C・小B・粒B、炭化粒D/粘B、礫B
- 3 10YR3-2 黒褐色 ローム小C・粒C、焼土粒D、炭化粒D/粘B、礫B
- 4 10YR4-4 黒褐色 ローム中D・小C・粒B、焼土粒C、砂質粘土粒C/粘B、礫B
- 5 10YR4-4 黒褐色 ローム粒C、焼土粒D、砂質粘土粒B・粘B、礫B

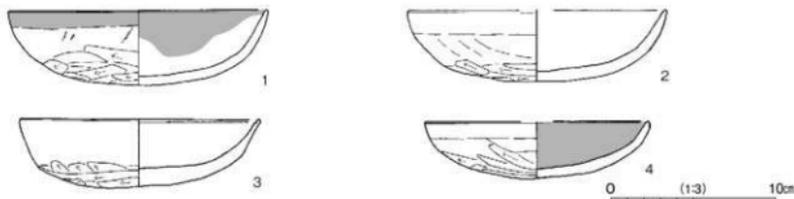
第306図 第61号竪穴建物跡実測図

ピット P1は深さ16cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから人為堆積である。

遺物出土状況 土師器片80点(坏49, 椀17, 甕14)、焼成粘土塊1点(2.73g)が出土している。1～3は北部の床面から、4は覆土上層からそれぞれ出土している。2は逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀第1四半期に比定できる。



第307図 第61号竪穴建物跡出土遺物実測図

第164表 第61号竪穴建物跡出土遺物一覧(第307図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	15.8	4.9	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外面・内面黒色処理	床面	100% PL95
2	土師器	坏	13.8	4.4	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	50%
3	土師器	坏	14.6	4.2	-	長石・石英	灰褐色	普通	口縁部内面弱い沈線 口縁部外面・内面黒色処理の痕跡	床面	60% PL96
4	土師器	坏	13.8	3.4	-	長石・石英	浅黄褐色	普通	内面黒色処理	覆土上層	30%

第112号竪穴建物跡(第308～310図 PL40)

位置 調査区北西部のH4g4区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第12号堀に掘り込まれている。

規模と形状 西部が第12号堀に掘り込まれているため、南北軸は4.76m、確認できた東西軸は4.50mの方形と推定され、主軸方向はN-4°-Eである。壁高は32cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈前から南部の壁際にかけて、踏み固められている。確認出来た範囲では、壁溝は全周している。

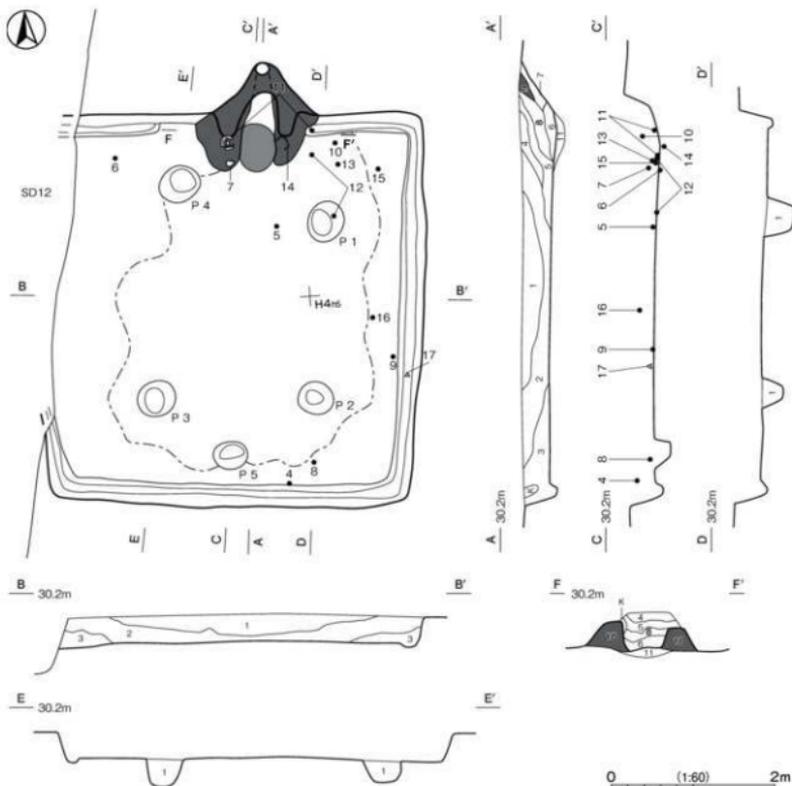
竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口から煙道部まで134cmで、燃焼部幅は42cmである。竈は、地山を12cmほど掘りくぼめた部分に炭化粒子などを含む第11層を埋土して整地されている。袖部は地山と整地地面の上に、砂質粘土粒子を含む第10層を積み上げて構築されている。両袖部では芯材として土師器の甕が倒置して使用されている。奥壁寄りに比べて袖前面の遺存状況は悪く、両袖とも芯材の上部は傾き露出した状態で出土した。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第9層は天井部で、一部が残存し、煙道部内壁は火熱を受け赤変している。第8層は砂質粘土などを含んでおり、天井部の崩落土と考えられる。第6・7層は煙道部からの流入土で、煙出部は径18cmほどである。

ピット 5か所。P1～P4は深さ25～38cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ20cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 851点 (坏501, 碗15, 高坏2, 鉢1, 甕330, 甕2), 須恵器片 29点 (坏19, 高台付坏1, 蓋3, 壺1, 甕2, 甕1, 甕2), 土製品1点 (支脚), 金属製品1点 (鎌), 焼成粘土塊1点 (2.99g) が出土している。11は竈左袖の芯材, 14は竈右袖の芯材である。11は, 竈左袖の芯材と, 竈右袖脇から出土した破片が接合している。7は竈左袖前方部の覆土下層から出土している。5は北部の覆土下層, 10は覆土中層から出土している。12・13・15は北東部の床面から出土している。13・15は横位で出土している。9は東部の床面から, 17は覆土下層から横位で, 16は覆土中層から出土している。8は南部の覆土下層, 4は覆土中層から出土している。6は北西部の床面から, 正位で出土している。

所見 時期は, 出土土器から8世紀第2四半期に比定できる。



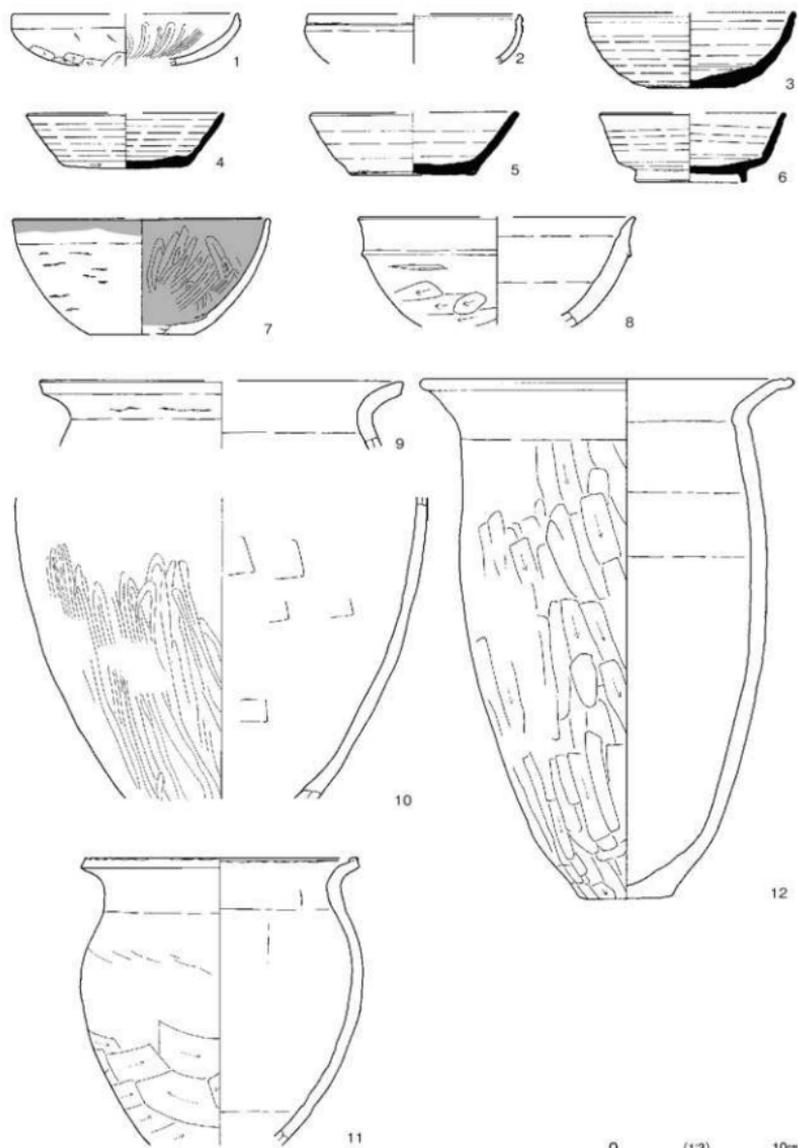
土層解説

- | | | | |
|----------------|----------------------------------|----------------|------------------------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐色 | ローム小C・粒C / 粘土, 雜B | 7 10YR3/3 暗褐色 | ローム小D・粒B, 焼土粒D / 粘土, 雜B |
| 2 10YR3/2 黒褐色 | ローム中C・小C・粒B / 粘土, 雜B | 8 10YR4/4 暗褐色 | ローム中D・小D・粒C, 焼土小B・粒B, 炭化粒D |
| 3 10YR4/4 黒 | ローム粒C, 焼土粒C, 炭化粒D / 粘土, 雜B | 9 10YR4/4 暗褐色 | 砂質粘土粒C / 粘土, 雜B |
| 4 10YR3/3 暗褐色 | ローム中粒C, 焼土粒D / 粘土, 雜B | 10 10YR5/6 黄褐色 | ローム中B・小C・粒B, 焼土粒D, 砂質粘土粒C / 粘土, 雜B |
| 5 10YR4/2 灰黄褐色 | ローム小D・粒D, 焼土粒D / 粘土, 雜B | 11 10YR2/3 黒褐色 | ローム小D・粒C, 焼土小D・粒D, 炭化粒B / 粘土, 雜B |
| 6 10YR4/3 褐色 | ローム小D・粒D, 焼土小D・粒C, 炭化粒D / 粘土, 雜B | | |

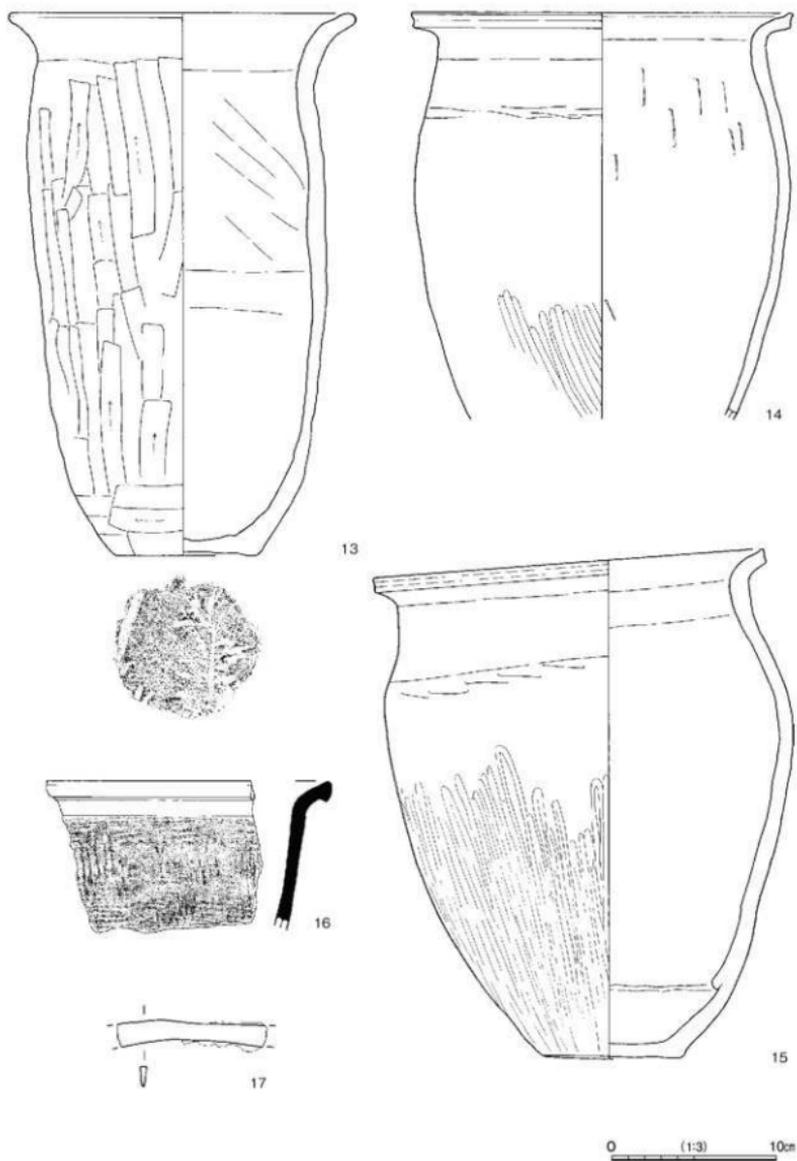
ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム小D・粒D, 焼土粒D / 粘土, 雜B

第308図 第112号竈穴建物跡実測図



第 309 图 第 112 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 310 图 第 112 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

第165表 第112号竪穴建物跡出土遺物一覧(第309・310図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	[136]	(32)	-	長石・石英	橙	普通	内面へう磨き 口縁部外・内面黒色処理の痕跡	覆土中	10%
2	土師器	坏	[128]	(31)	-	長石・石英・ 黒色粒子	橙	普通	口唇部内面沈積	覆土中	5%
3	須恵器	坏	[125]	4.6	[54]	長石・石英	黄灰	良好	ロクロ整形	覆土中	20%
4	須恵器	坏	[120]	3.4	7.4	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形 底部全面手持ちへう削り	覆土中層	30%
5	須恵器	坏	[123]	3.9	7.4	長石・石英	黄灰	普通	ロクロ整形 底部全面手持ちへう削り	覆土下層	50%
6	須恵器	高台付坏	[111]	4.2	6.6	長石・石英・雲母	灰白	普通	ロクロ整形	床面	60% 新治産
7	土師器	碗	[155]	7.1	[64]	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	内面へう磨き 口縁部外側・内面黒色処理	竈左袖 覆土下層	20%
8	土師器	鉢	[168]	(67)	-	長石・石英・ 赤色粒子	に赤い 黄斑	良好	内面ナゲ	覆土下層	2%
9	土師器	甕	[219]	(42)	-	長石・石英・細礫	に赤い 赤斑	普通	内面やや摩滅	床面	50%
10	土師器	甕	-	(196)	-	長石・石英・細礫	に赤い 赤斑	普通	体部外面へう磨き	覆土中層	30%
11	土師器	甕	162	(175)	-	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面下半部痕状に剥落	竈左袖・右袖脇 覆土下層	90% PL96
12	土師器	甕	222	320	58	長石・石英	明赤褐	普通	体部外・内面焼熟 底部外面へう削り	床面	70% PL96
13	土師器	甕	203	333	85	長石・石英・ 黒色粒子	明赤褐	普通	底部外面本裏直	床面	80% PL96
14	土師器	甕	229	(248)	-	長石・石英	橙	普通	体部内面下半部減により調整不明瞭	竈左袖	30%
15	土師器	甕	237	313	85	長石・石英	橙	普通	体部内面下半へう磨き 底部外面へう削り	床面	80% PL96
16	須恵器	瓶	-	(91)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	外面平行叩き	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
17	鎌	(92)	(17)	0.4	(8.80)	鉄	両端欠損	覆土下層	PL105

第128号竪穴建物跡(第311・312図 PL40)

位置 調査区北西部のI4b6区、標高30mほどの微高地上に位置している。

重複関係 第135号竪穴建物、第15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部が重複しているため、南北軸は390m、確認できた東西軸は3.32mである。方形または長方形と推定され、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は14~32cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。確認された部分で壁溝がほぼ全周している。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口から煙道部まで104cmで、燃焼部幅は32cmである。竈は、地山を8cmほど掘りくぼめた部分にロームブロックなどを含む第7層を埋土して整地されている。袖部は整地面の上に、砂質粘土粒子を含む第6層を積み上げて構築されている。左袖部では芯材として土師器の甕が倒置して使用されている。右袖の一部は掘削によって壊されている。火床部は床面とほぼ同じ高さで、火床面は亦変硬化している。煙道部は壁外に34cmほど掘り込まれ、火床部から緩やかに立ち上がっている。

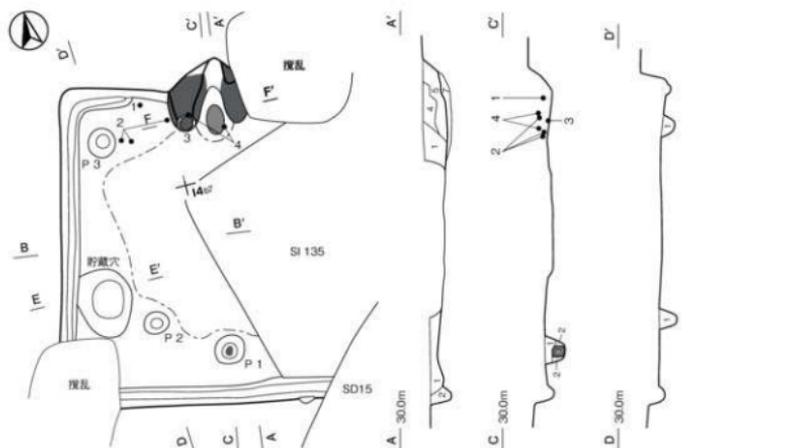
ピット 3か所。P1は深さ22cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。覆土中に粘土塊を確認した。P2・P3は深さ16~22cmで、性格不明である。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置しており、長径82cm、短径68cmの楕円形である。深さは47cmほど、底面は皿状で、壁は外傾している。単一層で、含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

覆土 2層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

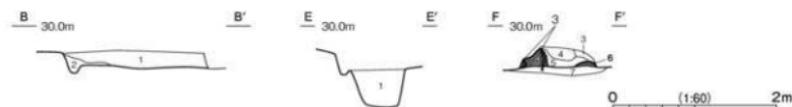
遺物出土状況 土師器片238点(坏145, 碗6, 高坏1, 甕83, 瓶3), 土製品1点(支脚)が出土している。3は竈左袖の芯材で、逆位で出土している。2は竈左袖脇の覆土下層から出土している。4は竈前方部の覆土下層から、横位で出土している。1は北西部の床面から、正位で出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀第3四半期に比定できる。



土層解説

- | | | | |
|---------------|------------------------------|--------------|------------------------------------|
| 1 10YK3-4 明瓦 | ローム中D・小C・粒C、焼土粒D/粘B、雜B | 5 10YK3-3 明瓦 | ローム粒C、焼土中粒・小B・粒C、炭化粒D、砂質粘土粒C/粘B、雜B |
| 2 10YK4-2 灰青瓦 | ローム小C・粒C、焼土粒D/粘B、雜B | 6 10YK5-3 土間 | 焼土粒B、砂質粘土粒A・粘B、雜A |
| 3 10YK3-2 赤瓦 | ローム粒D、焼土粒D/粘B、雜B | 7 10YK3-3 明瓦 | ローム小C・粒C、焼土粒D、炭化粒C/粘B、雜B |
| 4 10YK4-3 土間 | ローム粒D、焼土粒C、炭化粒D、砂質粘土粒B/粘B、雜A | | |



ピット土層解説 (兼ピット構造)

- | | |
|--------------|----------------------------|
| 1 10YK3-3 明瓦 | ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D/粘B、雜B |
| 2 10YK3-2 赤瓦 | ローム粒D、炭化粒D、粘土中C/粘B、雜B |
| 3 10YK2-2 灰瓦 | ローム粒D、焼土粒D、炭化粒D、粘土大C/粘A、雜B |

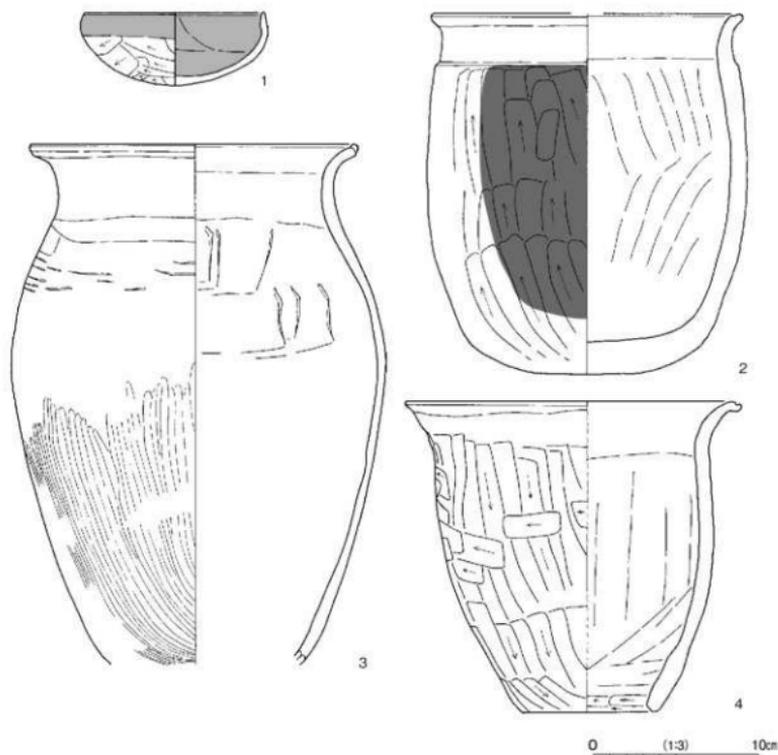
貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1 10YK3-3 明瓦 | ローム小C・粒C、炭化粒D/粘B、雜B |
|--------------|---------------------|

第311図 第128号堅穴建物跡実測図

第166表 第128号堅穴建物跡出土遺物一覧 (第312図)

番号	種別	形種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	108	4.4	-	長石・石英	に濃い黄橙	普通	口唇部内面沈線 口縁部外面・内面黒色処理	床面	100% PL96
2	土師器	甕	[18.7]	22.0	8.5	長石・石英・細砂	に濃い橙	普通	口唇部内面沈線 体部内面下半部痕状に剥落	龍左輪蓋 甕土下層	30%
3	土師器	甕	19.7	(31.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	外面面一部腐付着 体部内面下半部痕状に剥落	龍左軸芯材	60% PL96
4	土師器	瓶	19.8	19.1	8.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部内面沈線 無底式	甕面下部 甕土下層	70% PL97



第 312 図 第 128 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 167 表 奈良時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形状	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面 構造	内部施設				土質	主な出土遺物	時期	備考		
							竪穴	基入口	ピット	中・量					貯蔵穴	
15A	16e9	N-10°-E	長方形	4.06 × 3.56	10-14	平坦	[11] 全周	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器, 支脚, 焼成粘土塊	8世紀第2四半期	SI 1541 → 本跡 → SKM	
15B	16e9	N-9°-E	方形	2.94 × 2.83	-	平坦	-	-	-	-	-	-	土師器, 須恵器	8世紀	本跡 → SI 15A, SKM	
26	17c1	N-6°-E	方形	3.00 × 3.56	18	平坦	[11] 全周	4	1	-	竪	1	自然	土師器, 須恵器, 支脚	8世紀第2四半期	本跡 → SI 15A, SKM
31	H5g0	N-5°-W	[方形, 長方形]	3.35 × (2.44)	34-46	平坦	[11] 全周	-	1	-	竪	1	人為	土師器, 須恵器, 支脚, 焼成粘土塊	8世紀第1四半期	SI 34 → 本跡 → SI02
36	17f1	N-15°-W	[方形, 長方形]	3.70 × 3.50	20	平坦	一部	-	-	2	竪	1	人為	土師器, 須恵器, 焼成粘土塊	8世紀第1四半期	
46	H5b4	N-1°-W	長方形	4.08 × 3.84	6-26	平坦	一部	-	-	4	竪	1	人為	土師器, 須恵器	8世紀第2四半期	SI 48 → 本跡
61	J5f7	N-0°	方形	3.54 × 3.38	16	平坦	-	-	1	-	竪	1	人為	土師器, 焼成粘土塊	8世紀第1四半期	
112	H4g4	N-4°-E	[方形]	4.76 × (4.50)	32	平坦	[全周]	4	1	-	竪	1	自然	土師器, 須恵器, 支脚, 瓦片, 焼成粘土塊	8世紀第2四半期	本跡 → SD12
128	I4b6	N-10°-E	[方形, 長方形]	3.90 × (3.32)	14-32	平坦	[11] 全周	-	1	2	竪	1	自然	土師器, 支脚	8世紀第3四半期	本跡 → SI 135, SD15

(2) 土坑

第 501 号土坑 (第 313 図 PL40)

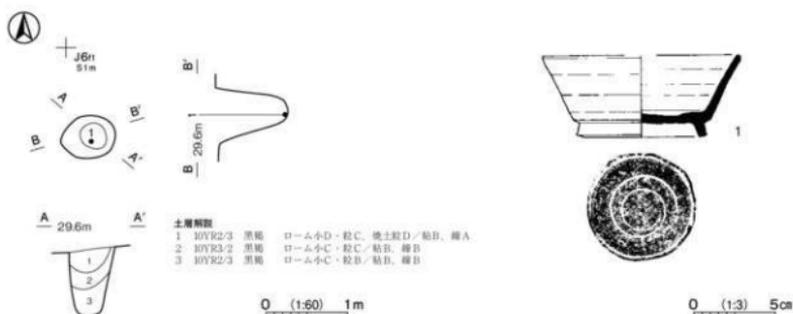
位置 調査区南東部の J 61 区、標高 30 m ほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.71 m、短径 0.54 m の楕円形で、長径方向は N-73°-E である。確認面からの深さは 85 cm で、壁は直立している。底面は U 字状である。

覆土 3 層に分層できる。含有物が少なく均質に含まれる堆積状況から自然堆積である。

遺物出土状況 土師器片 4 点 (坏 3、甕 1)、須恵器片 1 点 (高台付坏) が出土している。1 は底面から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀第 3 四半期に比定できる。



第 313 図 第 501 号土坑・出土遺物実測図

第 168 表 第 501 号土坑出土遺物一覧 (第 313 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	須恵器	高台付坏	[120]	5.0	7.8	長石・黒色粒子	褐色	良好	ボクロ型、底部回転へら磨り	鉄分混出	底面 60% 裏海産

(3) 井戸跡

第 52 号井戸跡 (第 314 図 PL41)

位置 調査区中央部の I 5 a 8 区、標高 30 m の微高地上に位置している。

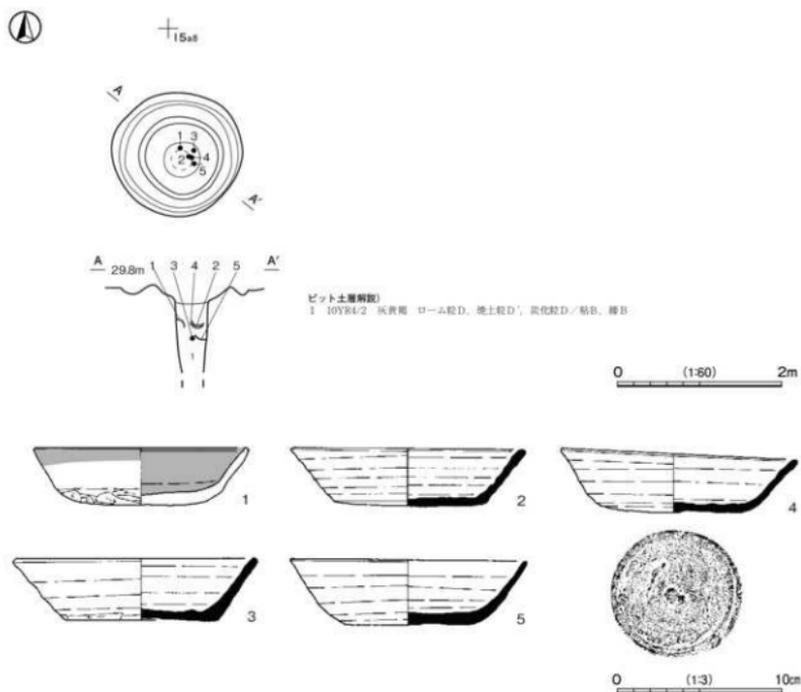
重複関係 第 3 号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.58 m、短径 1.52 m の円形である。開口部は確認面から 10 ~ 12 cm ほど掘り込み、掘方の平面形は周溝状である。中央部は長径 0.45 m、短径 0.40 m の円筒状に掘り下げている。深さ 106 cm まで掘り下げたが、湧水のため下部の調査を断念した。

覆土 単一層である。遺物の出土状況から人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器 1 点 (坏)、須恵器 4 点 (坏) が出土している。1 ~ 5 は覆土中層から完形で、1 は逆位、2・4・5 は正位、3 は斜位で出土している。4 の上に 2 が入れ子状に重なって出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀第1四半期に比定できる。土師器と須恵器の坏が覆土中層から完形で廃棄されており、遺構廃絶時の儀礼行為と考えられる。



第314図 第52号井戸跡・出土遺物実測図

第169表 第52号井戸跡出土遺物一覧(第314図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	130	3.5	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部内面弱い沈線 口縁部外面・内面黒色炭	覆土中層	100% PL97
2	須恵器	坏	140	3.5	90	長石・石英	灰	普通	ロクロ整形 底部回転ヘラ削り	覆土中層	100% PL97
3	須恵器	坏	14.7	3.8	9.3	長石・石英・雲母	灰	普通	ロクロ整形 体部下端・底部手持ちヘラ削り	覆土中層	100% PL97 新治産
4	須恵器	坏	14.2	3.9	8.0	長石・石英・赤色粒子	灰白	普通	ロクロ整形 底部回転ヘラ削り 外面厚減により調整不明瞭	覆土中層	100% PL97
5	須恵器	坏	14.2	4.1	7.8	長石・赤色粒子	灰黄	普通	ロクロ整形 底部回転ヘラ削り 外面厚減により調整不明瞭	覆土中層	100% PL97

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign 2020
	図版作成	Adobe Illustrator 2020
	写真調整	Adobe Photoshop 2020
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL, 太ゴB101 Pro Bold 見出ミンMA31 Pro, 太ミンA101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー-210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign 2020 でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第462集

筑西市

塔ノ内南遺跡

つくば明野北部工業団地(拡張②)造成
整備事業地内埋蔵文化財調査報告書

上巻

令和4(2022)年 3月18日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社 あけぼの印刷社
〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号
TEL 029-227-5505